

7 溝と居館

本遺跡からは、16条の溝が確認された。

このうち溝9～溝16は、調査区の西半部に位置し、居館を構成する。居館は溝により方形に区画されたもので、居館1、居館2、居館3の3基が確認されている。これらは居館周辺の建物群と併せ集落を形成するもので、居館群自体も2段階に変遷する。

溝1～溝8については、これらが明らかな区画施設となり、居館1～3にみたような居館などを構成するものではない。しかし、集落に密接に係わるものであろうことが想像される。

(1) 溝1

溝1（付図5、第577図）は、調査区中央の南寄りに位置する。溝4からT字状に分かれ、南北方向に走る。溝4との関係については、土層観察を行いながら掘り下げを行い、切り合い関係にないことが明らかになった。溝4は本来溝5や溝3と一連の溝で、調査区中央を東西方向に走るものと思われる。溝1は、これから直交気味に分かれるものである。



第577図 八坂中遺跡溝1位置図

溝1は当初プランが明確ではなく、溝上層に大量に包含される遺物が帯状に確認されるという状況であった。そのため何度となく遺構検出を試みるとともに、遺物の実測・取り上げの後に全体をわずかに掘り下げた。その結果、幅0.6～2.1mの遺構プランを確認することができた。溝の断面は逆台形を呈し、底面は南から北に向かい傾斜する。その高低差は、確認できるだけで約0.4mを測る。調査区内の微地形をみると、溝4が走る中央部分が周囲より若干低く、地形に沿うように低い部分を溝4がみられる。溝1は南からこれに直交するように接続するものである。しかし、溝1や溝4などこのあたり全体の状況をみた時に、調査区西半にみられる居館遺構などのような整然さはない。また、溝1と溝4により画された一角についても、遺構の密度は低く、これらの溝すべてが屋敷区画に直接かわるものであるかは疑問である。

溝1は土壙162を切ったあたりで、確認できなくなる。しかし、土壙162の南側に位置する土壙176が溝1の痕跡である可能性が高く、溝1は本来さらに南までのびていたものと思われる。居館2の南東側である調査区南端は調査区中央に比べやや高く、遺構が密集する。地形からみて、遺構の密集地はさらに調査区外まで及ぶものと思われる。

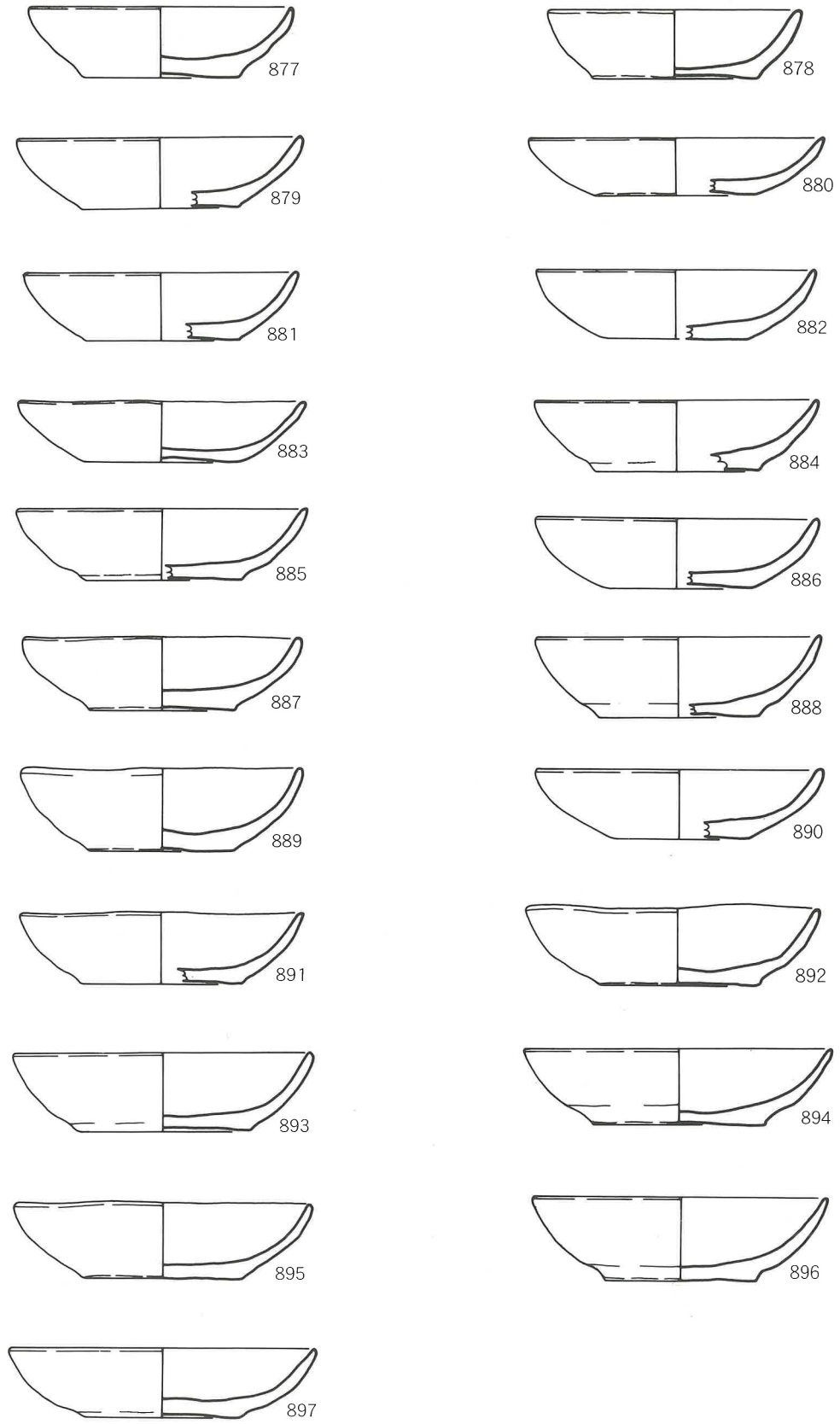
溝1からは、多数の完形品を含めて大量の土器が確認された。これらは大部分が上層から検出されており、埋没がなかば進行した段階に一括廃棄された状況がみてとれる。土器のなかで、底部平底を呈する東国東瓦器碗が、調査においてまとめて検出されたのは初めてで、瓦器碗の年代的位置付けが明らかになった点は大きな収穫である。時期は13世紀後半～14世紀初に比定できる。

・出土遺物

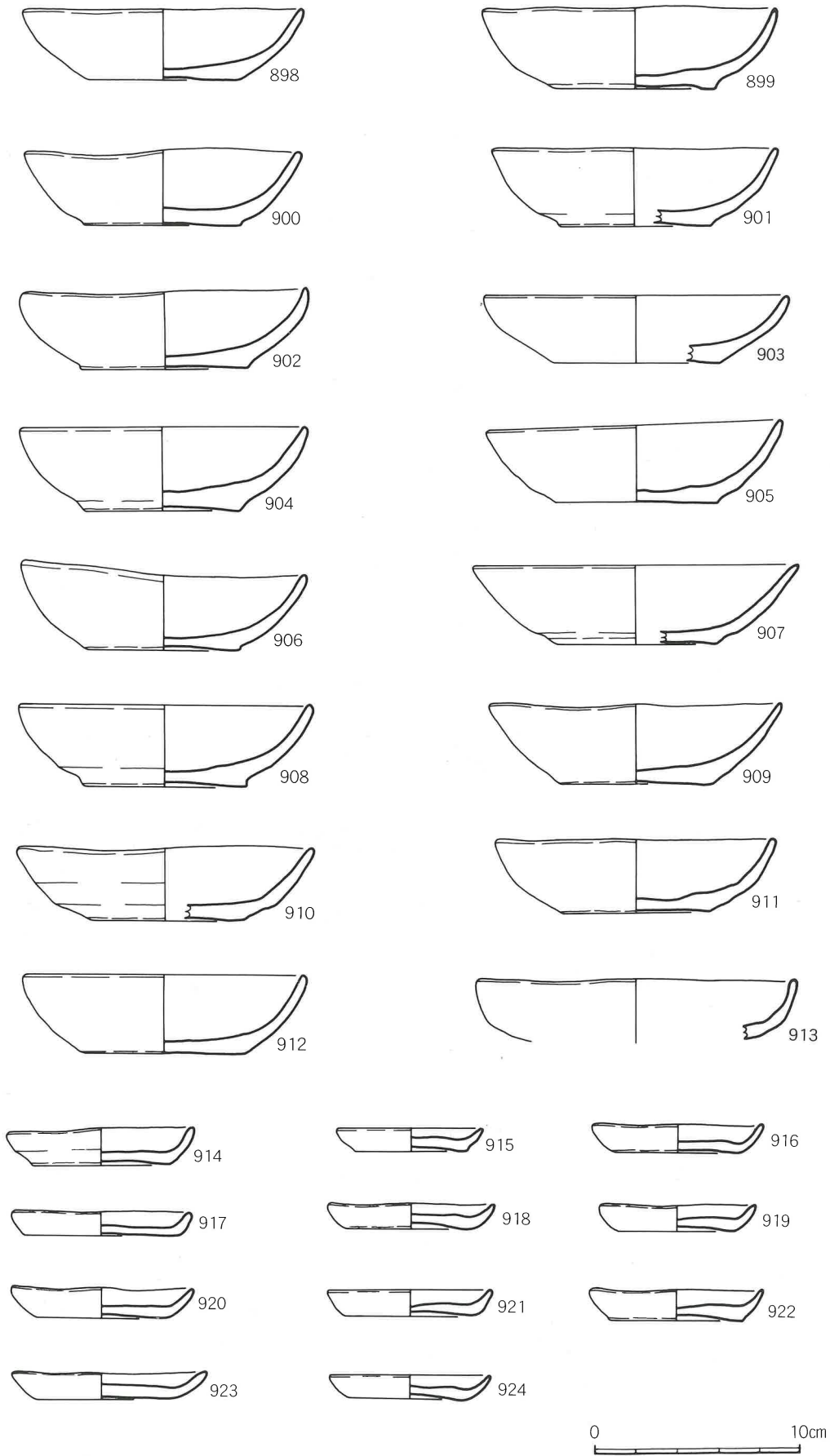
出土遺物には、多くの土器（第578図～第590図）のほかに石製品（第591図）や鉄製品（第592図）がある。

土器のうち、877～913は土師質土器坏である。これらのうち、913を除く土器の共通する特徴として、まず底部があげられる。底部はすべて糸切りの平底底部であるが、底部からの立ち上がり部が、体部に移行する前に数mmほど直立気味に立つ。よって、器形的には円盤高台を思わせるものとなる。また、内面については体部下がほとんど屈曲せずに、内底面から体部にかけて緩やかに続く。そのため、体部立ち上がり部付近は器壁が厚くなる。一方で、外面の底部からの立ち上がりがそれほど顕著ではないのみみられるが、内面は同様な形態を示すことから、結果として体部立ち上がり付近が厚くなる。次に体部は、緩やかに内湾しながら口縁にいたるもので、総じて口径に比し器高が高い。口縁端部は丸く仕上げられており、体部内外面は回転ナデにより調整され、内底面には指ナデがみられる。内底面の指ナデにはいくつかのパターンが確認されるが、そのなかで渦巻き状のものが目立つ。口径は11.8～15.8cmのものがみられるが、14cm前後のものが主体を占める。これら土器群のもつ特徴のうち、底部形態が後段で詳述する平底を呈する瓦器碗（979～1012, 1050～1060）の底部に酷似する。底径もほぼ同様であることから、瓦器碗の底部だけをみた場合、焼きが悪く土師質にちかひものは土師質土器坏と判別しにくい。また、瓦器碗の体部も内湾気味に口縁にいたるもので、土師質土器坏と同様な特徴をもつが、器高については瓦器碗に及ばない。しかし、形態的、製作技法的に全体としては類似した点が多いことから、土師質土器と平底を呈する瓦器碗は同一工人集団の手による可能性が高い。これらは13世紀後半～14世紀初に比定できる。913については、体部が緩やかに立ち上がり器高の低いもので、12世紀代のものか。

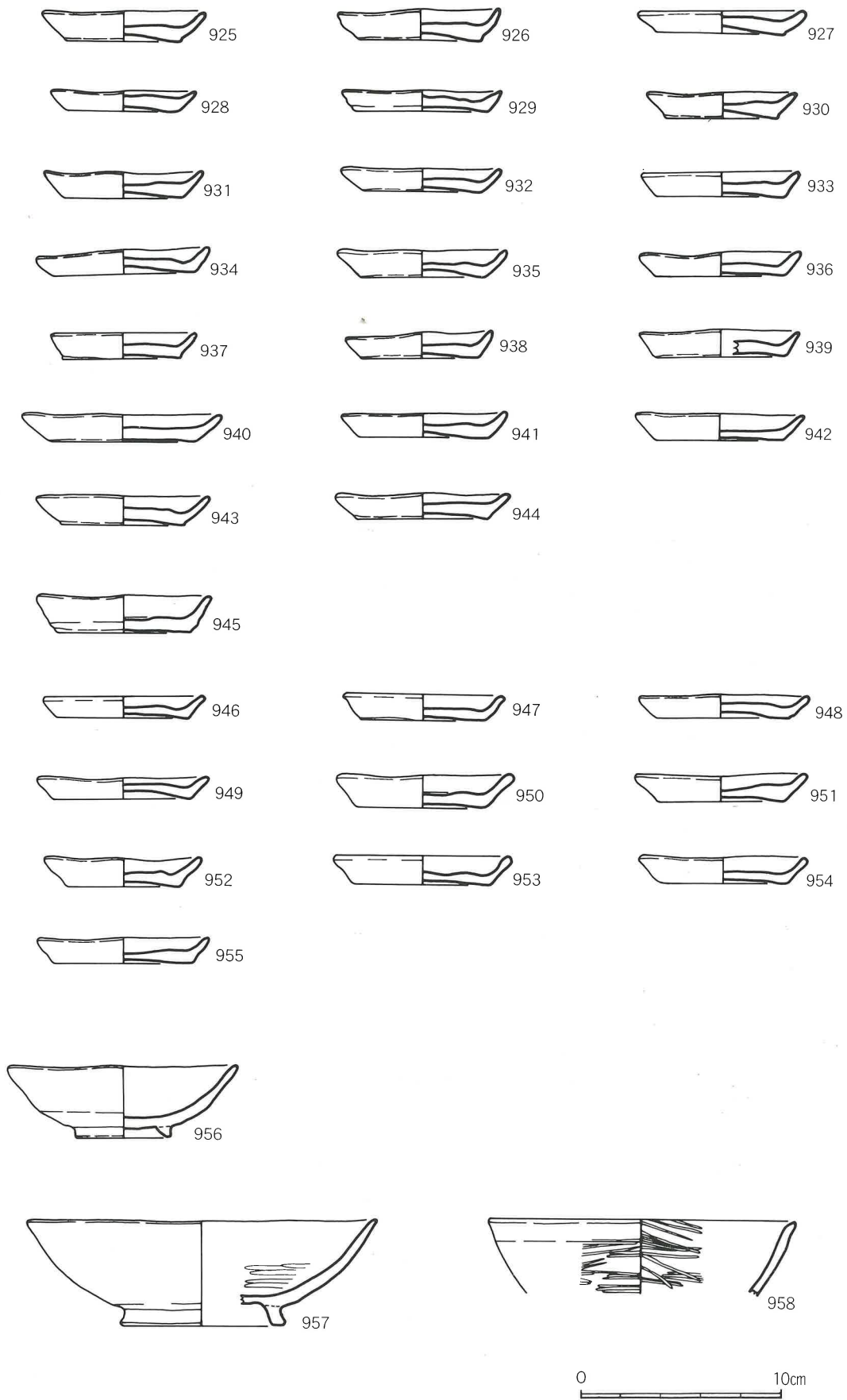
914～955は土師質土器小皿である。これらは形態などから、①体部が内湾気味のもの（914～927）、②体部が直線的なもの（928～945）、③体部がやや外反気味のもの（946～955）に大きく分けられる。①のなかには、体部の立ち上がり部が緩やかなものと比較的シャープに立ち上がるものがある。前者は口径が8cmをこえるものであるのに対し、後者は8cm以下である。また、914のように器高が2cmに達するような器高の高いものについては、13世紀後半以降のものであろう。②については、体部をシャープに立ち上げるものが大半を占める。また、口径も一部を除いて8cm以下のものが多い。しかし、形態的には口縁端部が尖り気味のものや、丸くおさめるものなどいくつかみられる。以上のうち、口径が8cmを大きく越えるものについては、12世紀代に遡るものと思われる。また、945のように器高の高いものもあり、これについては13世紀後半以降のものであろう。



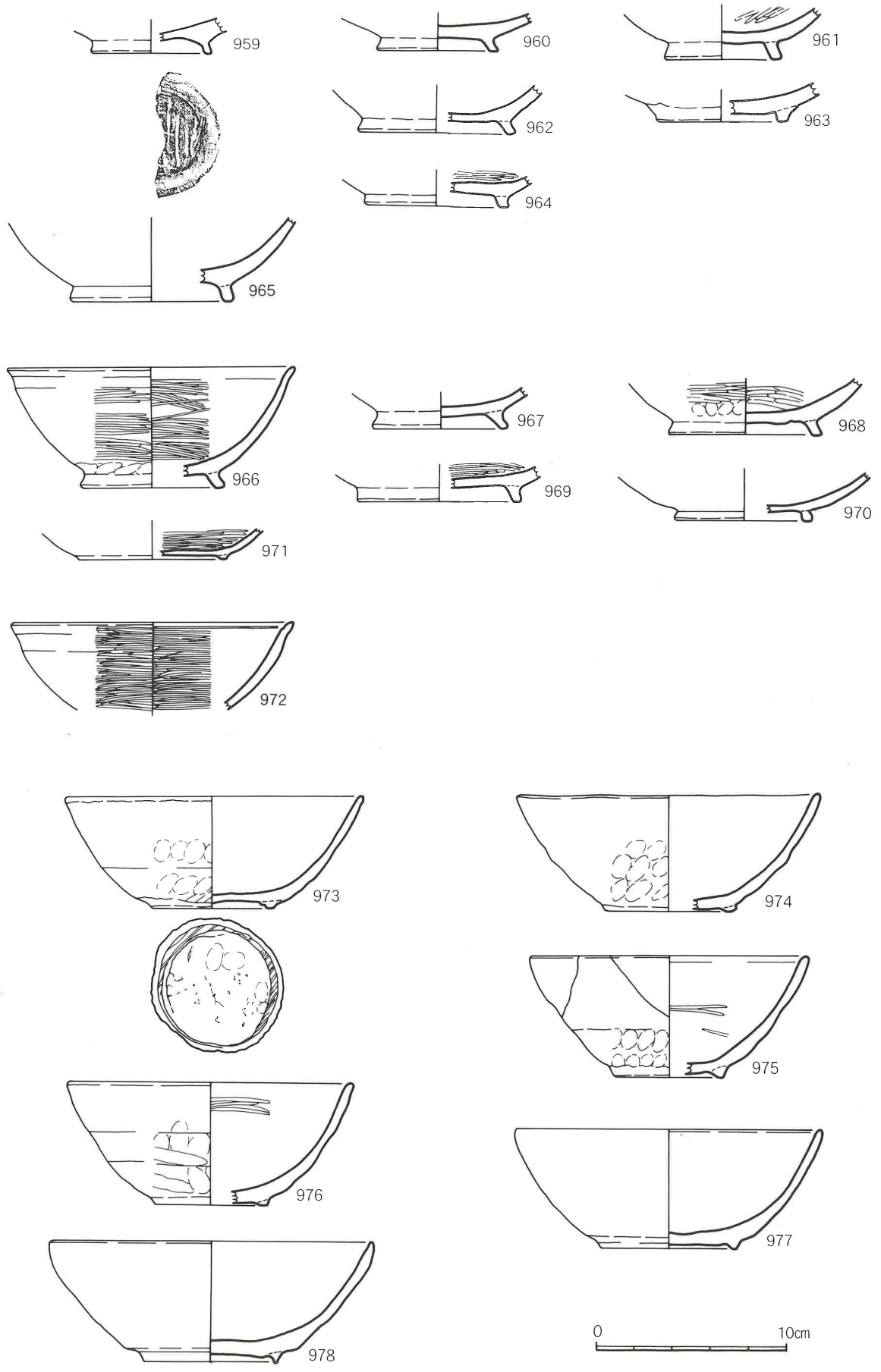
第578図 八坂中遺跡溝1出土土器(1)



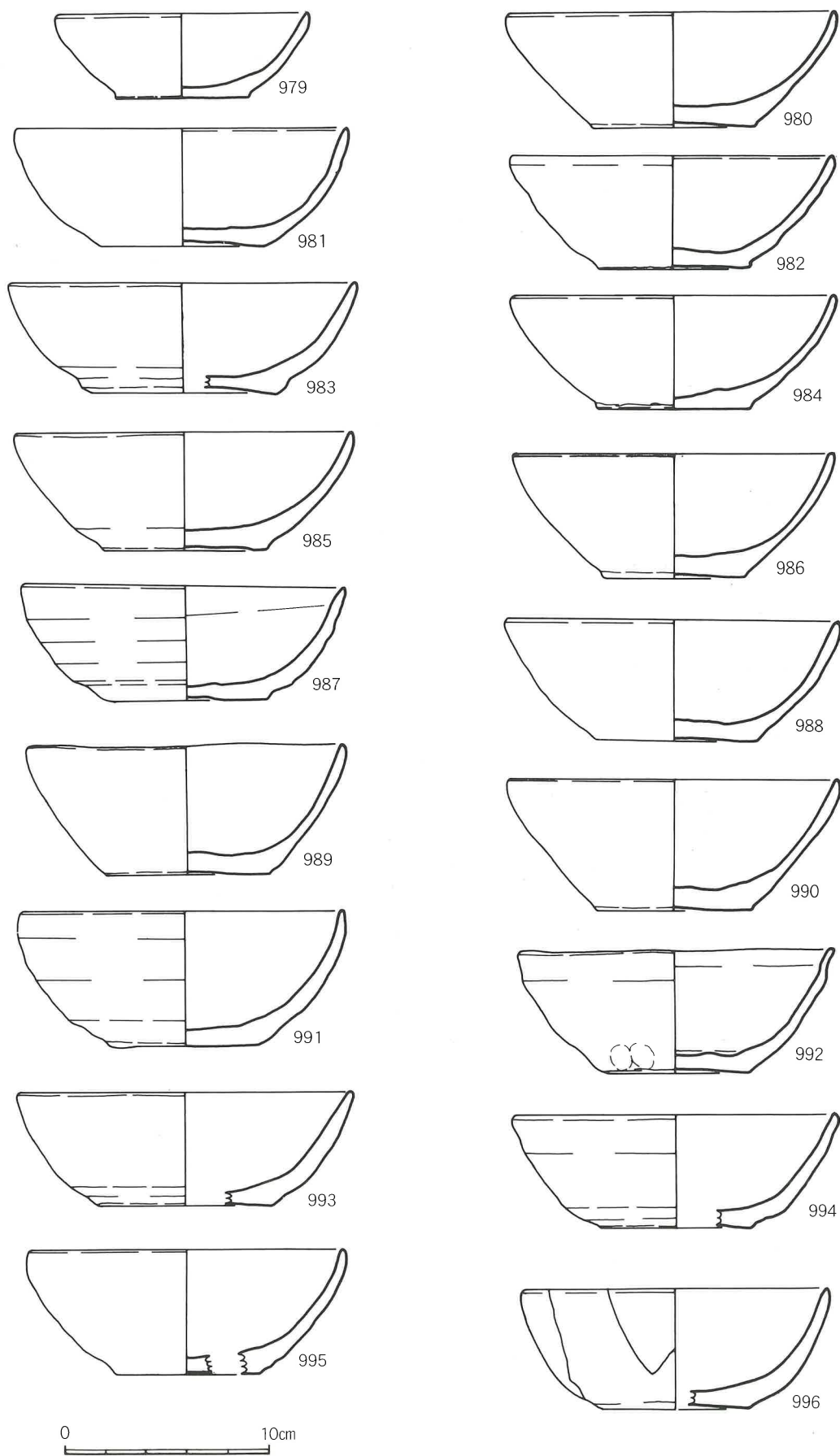
第579図 八坂中遺跡溝1出土土器(2)



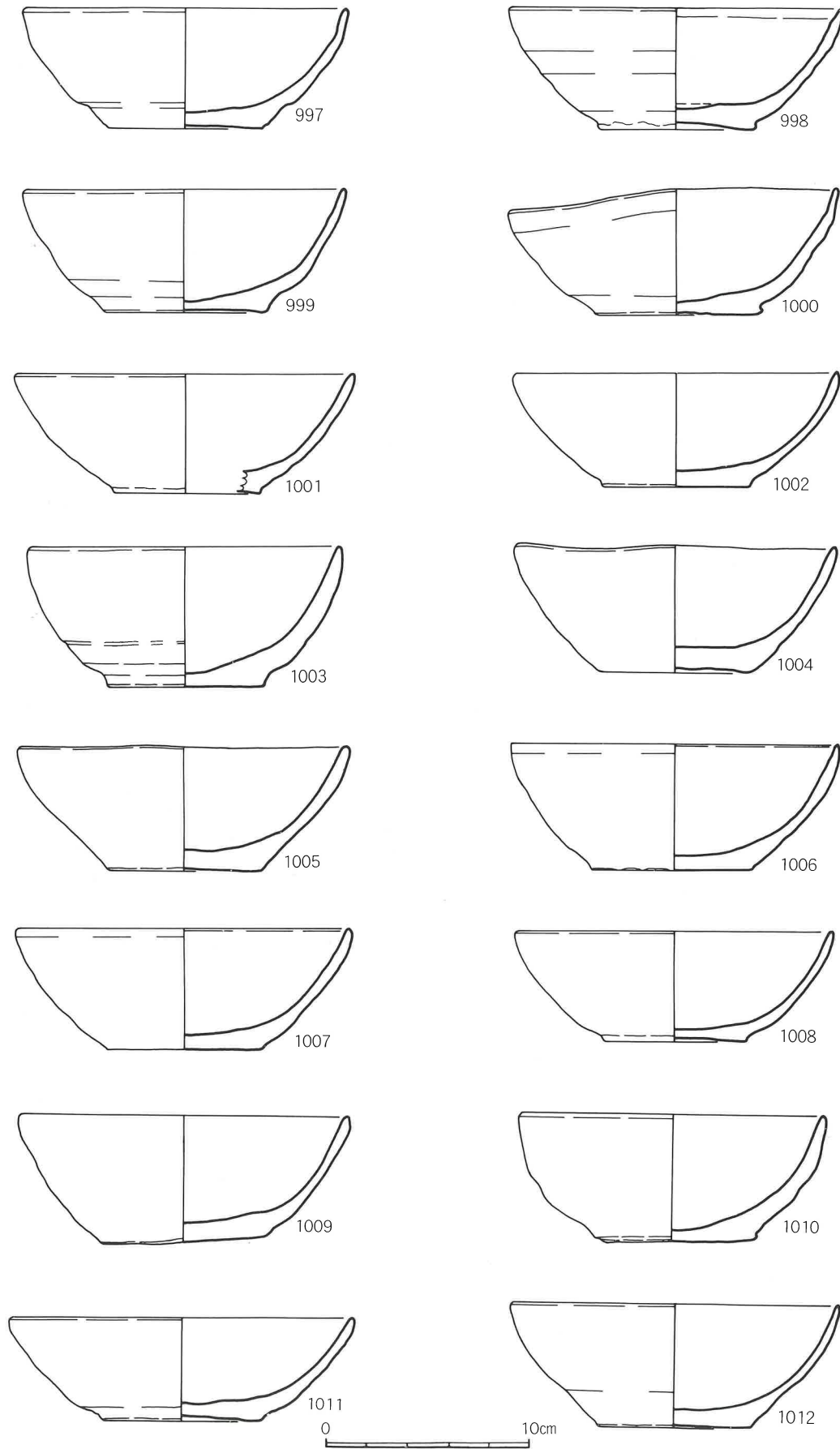
第580図 八坂中遺跡溝1出土土器(3)



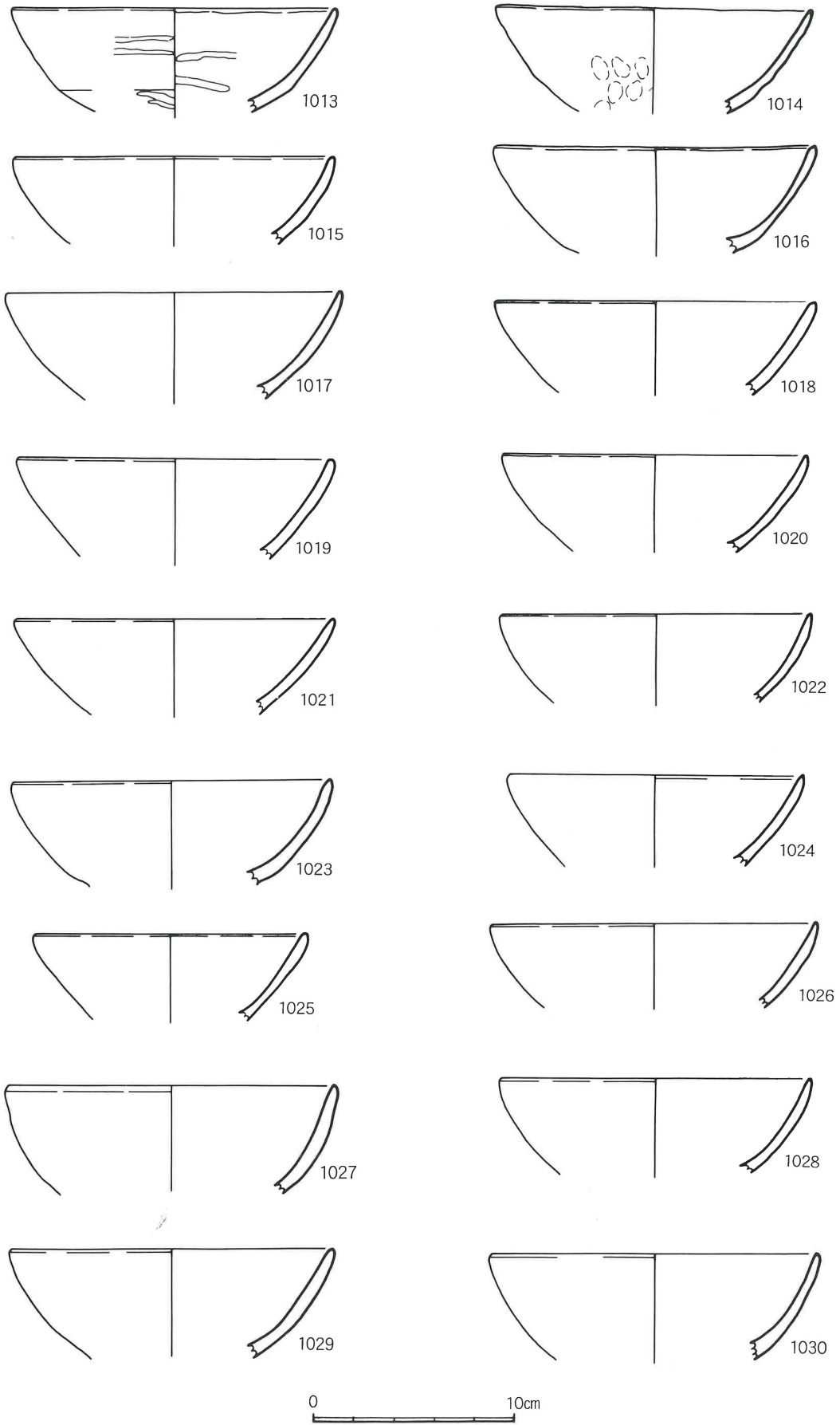
第581図 八坂中遺跡溝1出土土器(4)



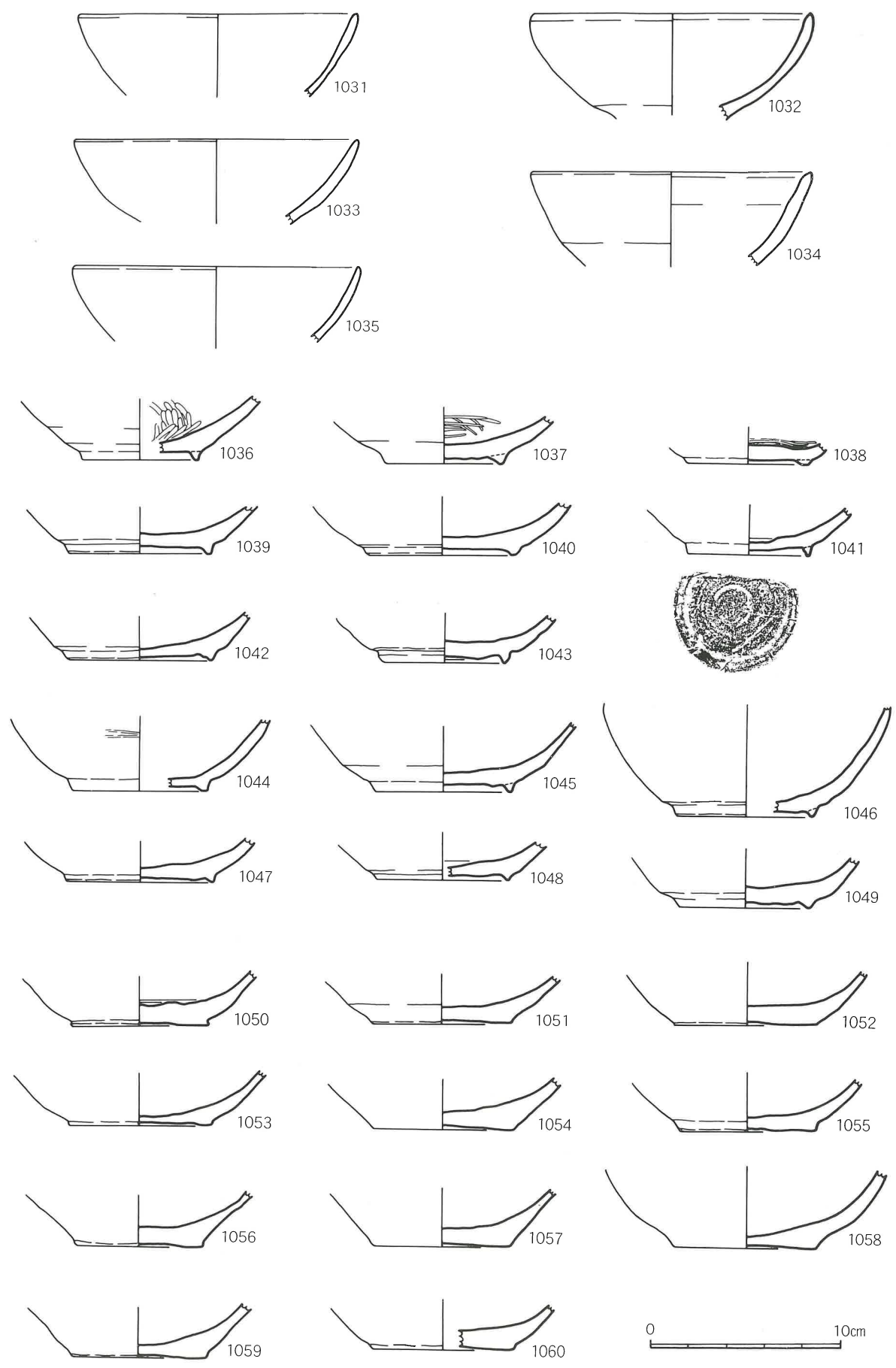
第582図 八坂中遺跡溝1出土土器(5)



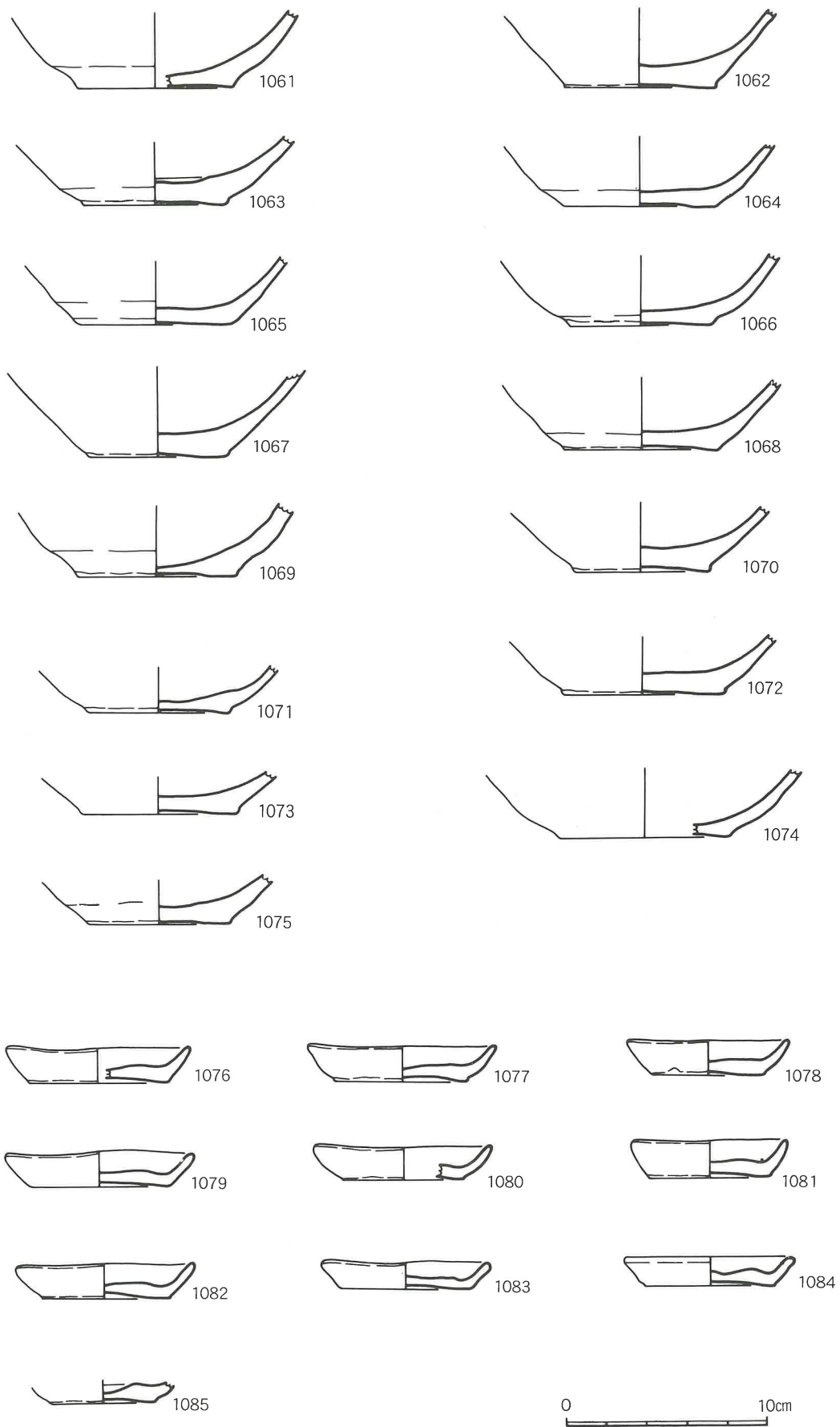
第583図 八坂中遺跡溝1出土土器(6)



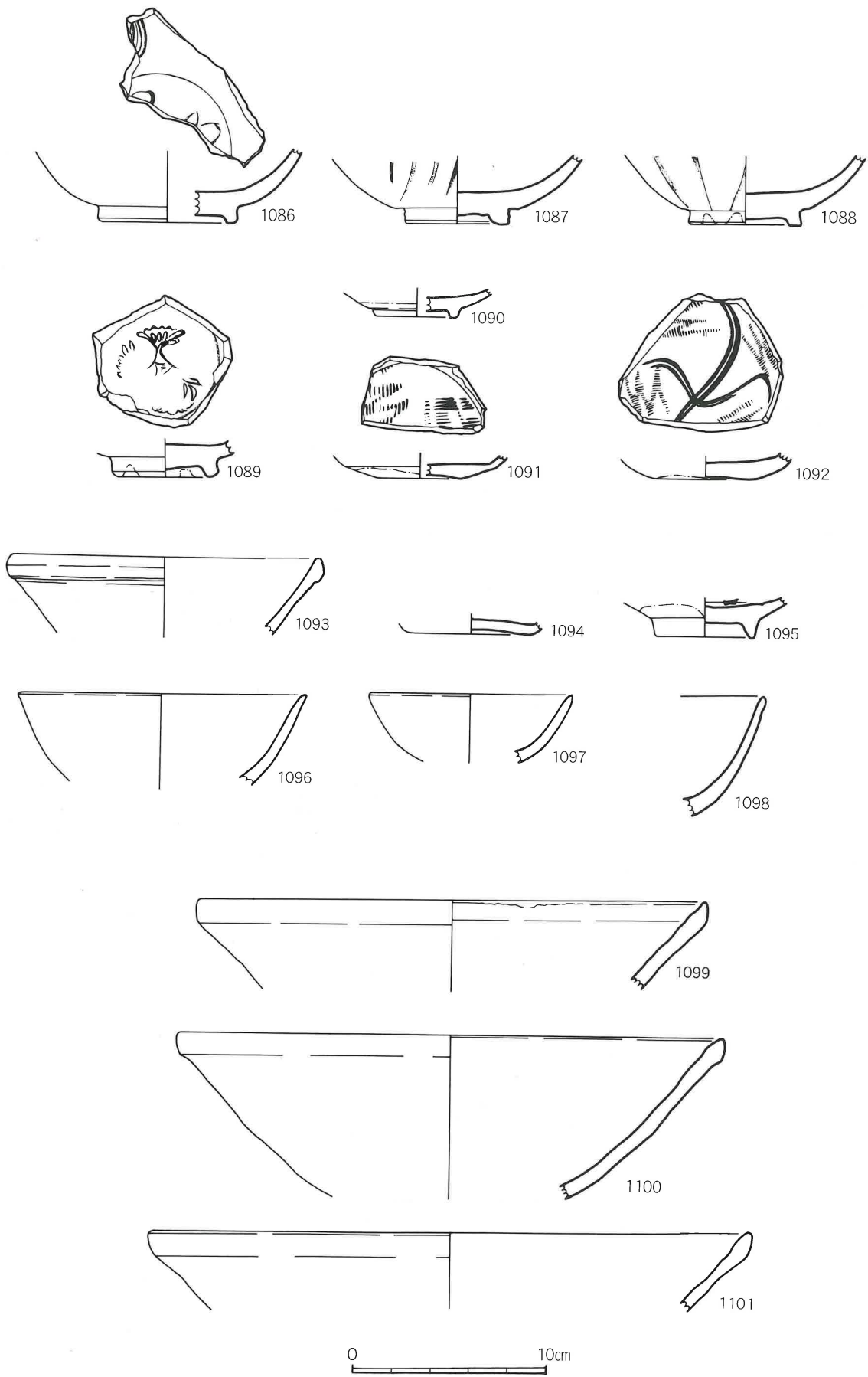
第584図 八坂中遺跡溝1出土土器(7)



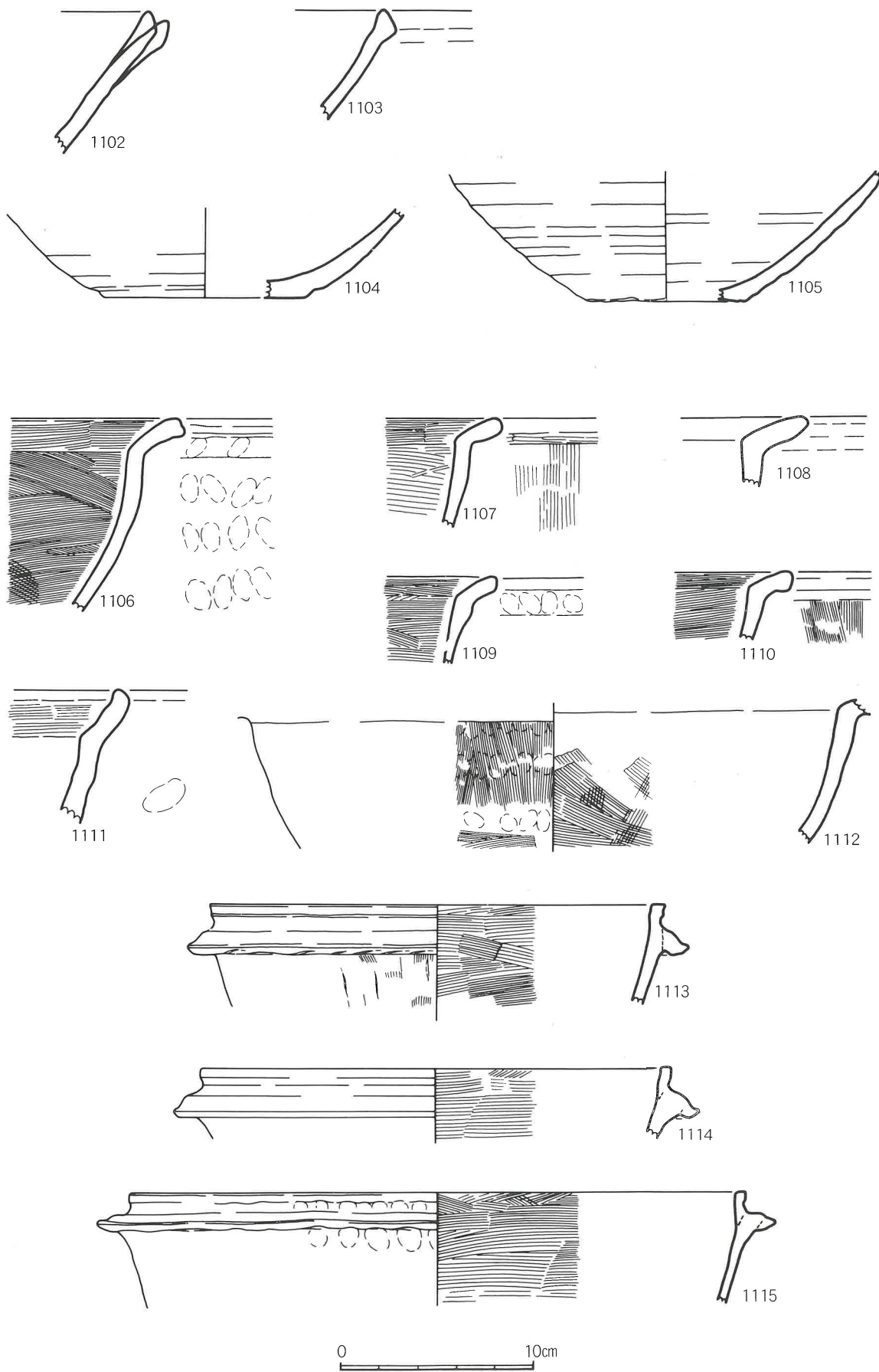
第585図 八坂中遺跡溝1出土土器(8)



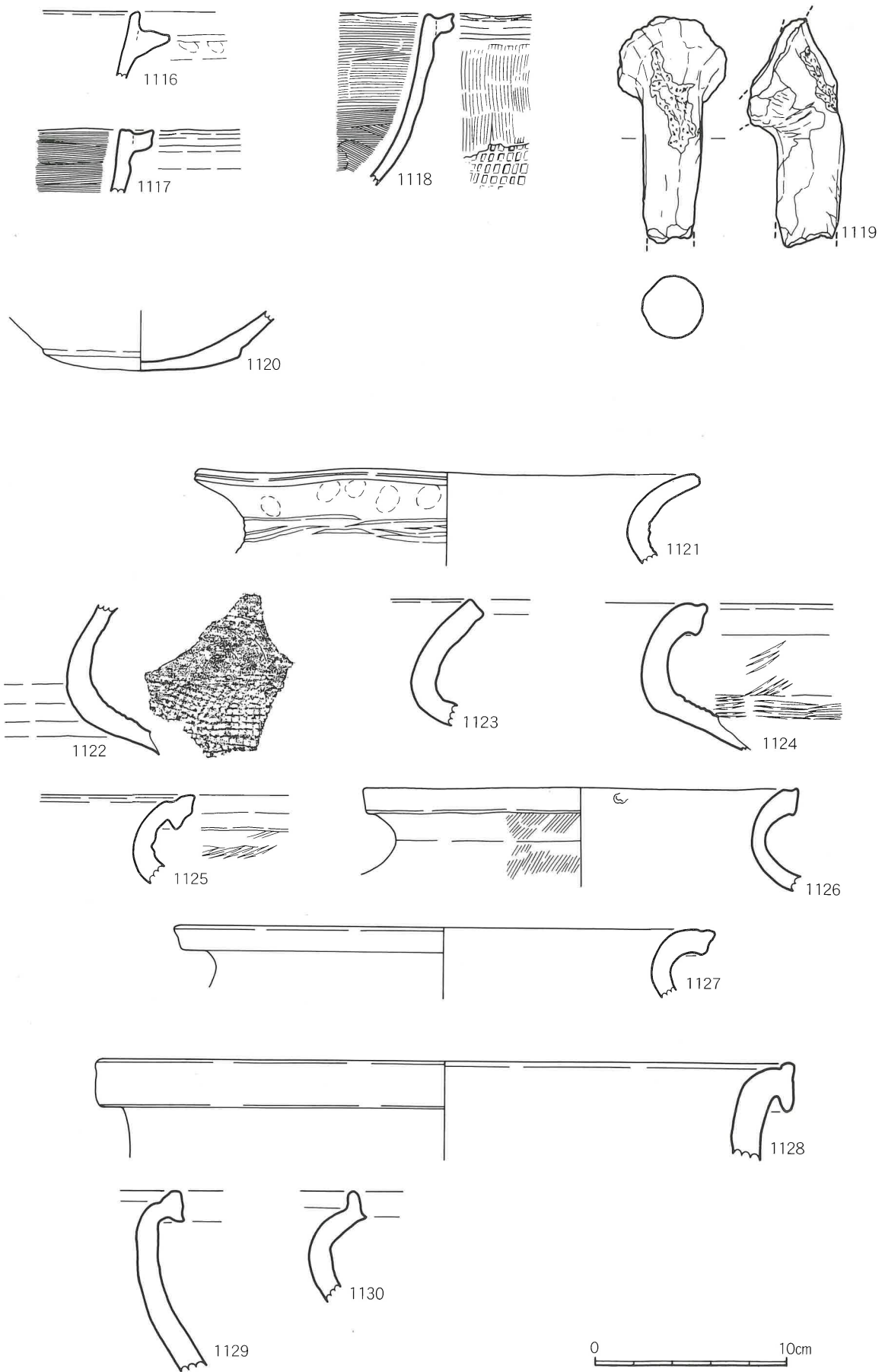
第586図 八坂中遺跡溝1出土土器(9)



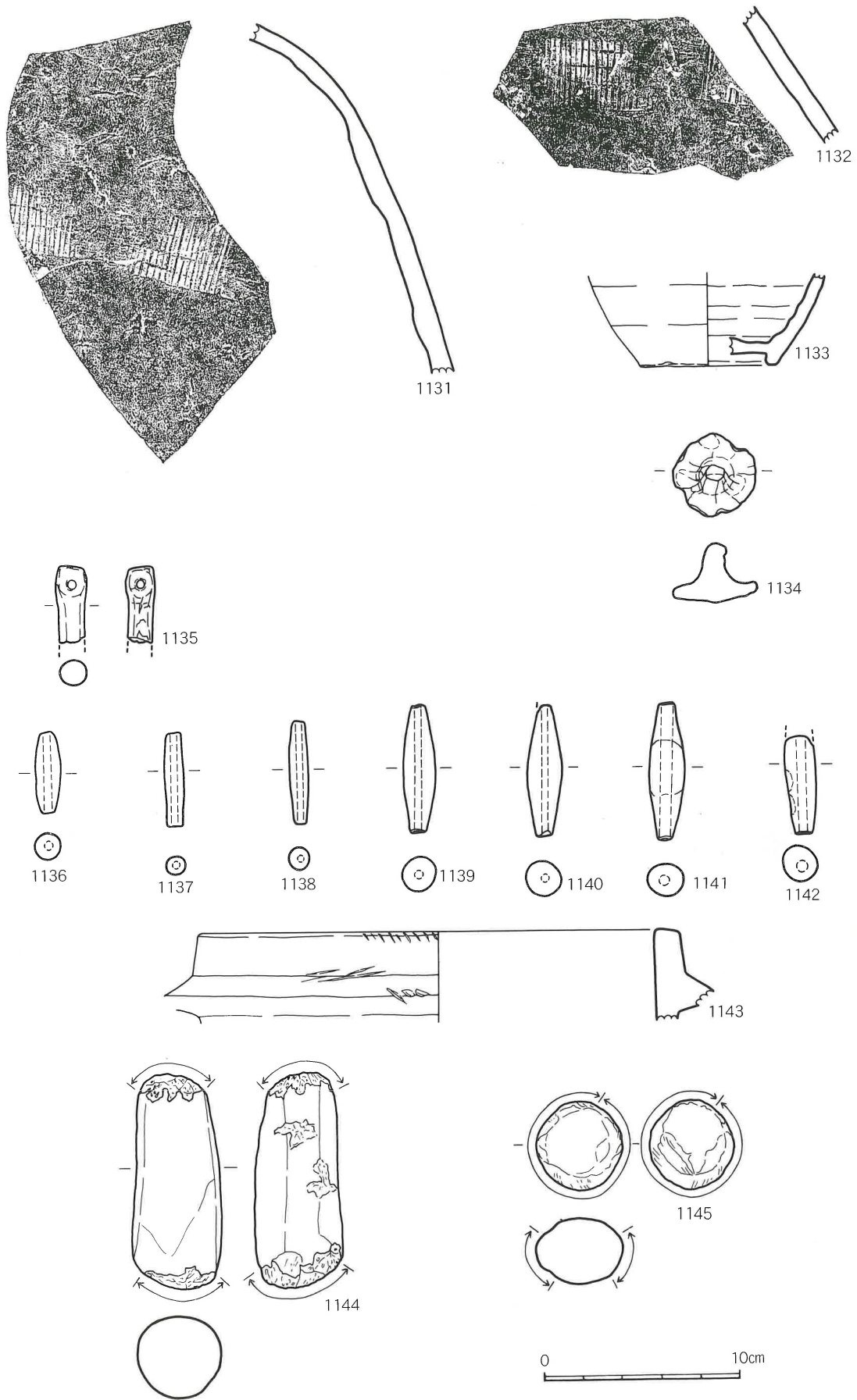
第587図 八坂中遺跡溝1出土土器(10)



第588図 八坂中遺跡溝1出土土器(11)



第589図 八坂中遺跡溝1出土土器(12)



第590図 八坂中遺跡溝1出土土器(13)と石製品(1)

③については、いずれも体部の立ち上がりはシャープであるが、器形に若干のバリエーションがみられる。口径は8 cm前後である。

956は吉備系土師器碗で、灰白色を呈する。復元口径11.4cm、器高3.5cmを測るものである。体部下半に緩やかな稜をもち、上半にはやや強いヨコナデが施される。そのため、上半は下半に比べやや器壁が薄くなり、直線的に口縁にいたる。体部下半から外底面にかけては指によるナデやオサエが顕著で、断面三角形の高台が付される。しかし、高台のはり付けはかなり雑である。本土器は、胎土や色調からみても吉備地域のものの搬入品と思われる、13世紀後半～14世紀前半のものであろう。

957～965は土師器碗である。全体として少量で、全形に分かるものでは、浅いもの(957)と深めのもの(958)がみられる。高台の形態にもバリエーションがみられ、時期差を有するものが含まれていると理解される。また、959の外底面にはヘラ記号と思われるものが確認できる。全体として12世紀初頭前後から後半にかけてのものか。

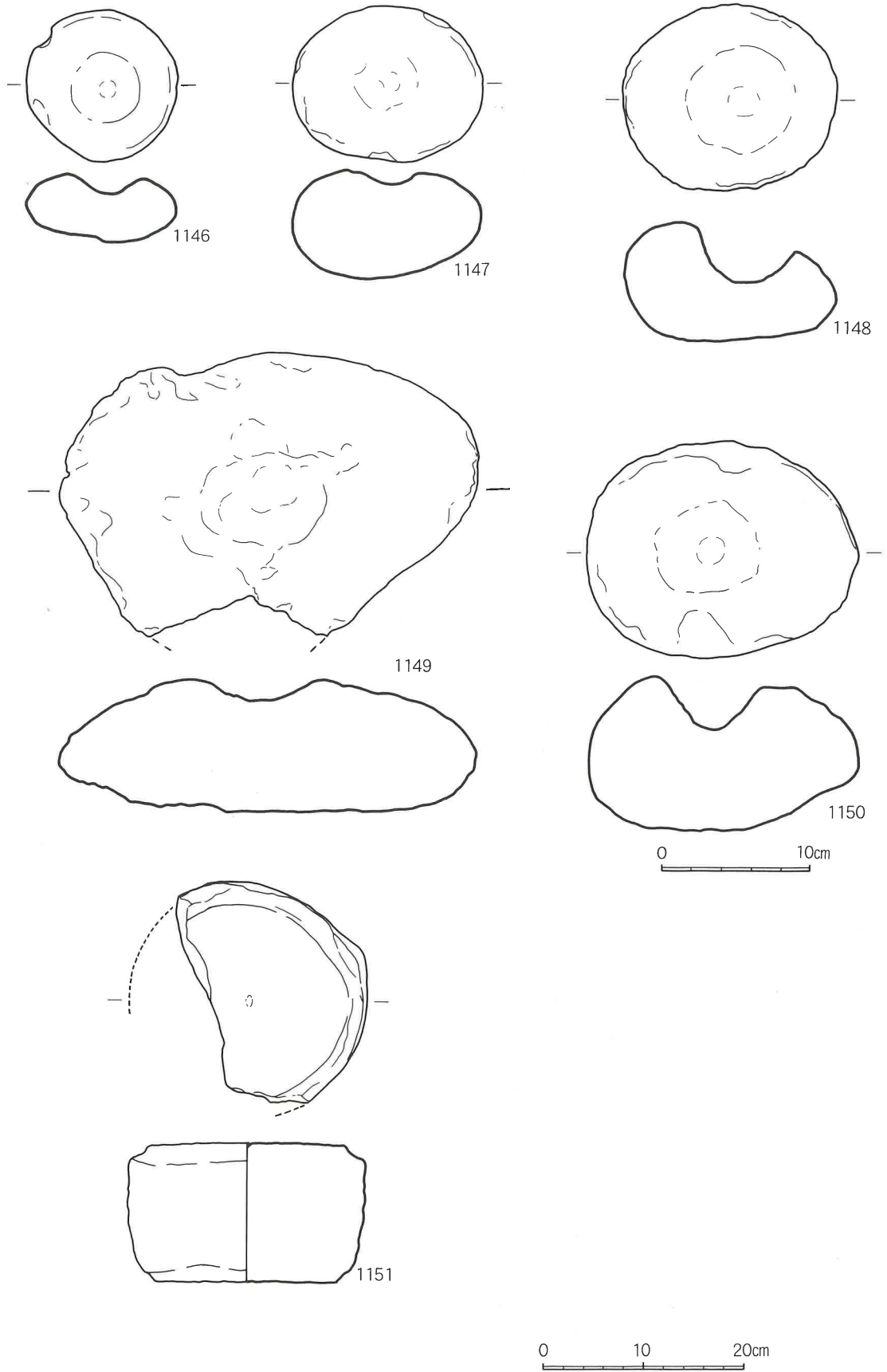
966～971は内黒土器であるが、いずれも破片資料で、量も少ない。このうち、971は他に比べ器壁がきわめて薄手のものである。内面にはヘラミガキがみられるが、比較的ヘラの幅は細い。高台は断面三角形の低いものが付される。全体として端正な作りで、在地の製品ではないと推定される。このほかについては、高台の形態に若干の差異が認められるものの、おおむね12世紀初前後する時期に比定される。

972は黒色土器碗で、畿内の楠葉産である。口縁部はヨコナデによりわずかに外反する。また、口縁部内面には1条の沈線がみられる。体部内外面にはヘラミガキがいねいに施されるが、ヘラミガキの幅は1、2 mmと比較的細いものである。本黒色土器は、楠葉型瓦器碗の前身で、11世紀前半以前のものであるが、底部を欠くため明確な時期比定ができず、10世紀後半から11世紀前半の幅のなかでとらえておく。

973～1075が瓦器碗である。このうち、973～976、1013、1014は豊前型の瓦器碗である。これらは量的には少量で、図示したものがほぼすべてである。いずれも外面体部下半に指オサエが残り、雑で低い高台が付される。ヘラミガキについては、体部内面にみられるものもあるが、外面についてはまったく確認されない。以上は、13世紀後半から14世紀にかけてのものであろう。

977～1075は、非押し出し技法の底部をもち、外底面に糸切り痕が明瞭に残る一群である。これらは、12世紀後半以降に押し出し技法を採用する豊前型瓦器碗と区別されるものである。このような非押し出し技法の瓦器碗は、国東町、武蔵町、安岐町、杵築市などの国東半島東部地域においてのみ確認されており、そのため東国東型瓦器碗と称されている(後藤一重 「東国東型瓦器碗の系譜と編年」 大分県考古学会第24回例会発表 1999)。東国東型瓦器碗には、高台が付くもの(977、978、1036～1049)と付かないもの(979～1012、1050～1075)がある。全体として、前者の占める割合は少なく、後者が圧倒的に多い。前者については、高台の形態や体部ヘラミガキの有無から、①群(1036、1037)、②群(1039～1041、1043、1044)、③群(977、978、1042、1045～1049)に分けられる。これらは①群→②群→③群のように型式変化するものと考えられ、ヘラミガキのあるものからないものへ、高台の高いものから低いものへという変化が読み取れる。③群では、ヘラミガキはまったくみられず、高台も形骸化した低いものが糸切り底部の端に付されるのみである。この場合、高台を付ける際に、高台に沿って強いナデを施すために、高台の周囲が凹み気味となる。時期的には①群が12世紀後半、②群が13世紀前半、③群が13世中頃～後半に比定できるであろう。

本遺構出土瓦器碗の主体を占めるものは、高台が付かない平底底部のものである(979～1012、1050～1075)。これらは、口径は16cm前後、器高6 cm前後にそのほとんどがおさまる。底部は完全な平底で、糸切りによる切り離しのままである。底部は体部に比べると厚めで、底部からの立ち上がり部が、体部に移行する前に数mmほど直立気味あるいは斜方向に立つ。あたかも円盤高台状を呈するものもある。内面は内底面から体部にかけて緩やかに続くもので、体部と内底面の境が明瞭でない。よって、外面底部の立ち上がりがみられず、直接体部に移行するものでも、体部立ち上がり部周辺は厚みをもつ。体部は内湾しながら口縁にいたり、口縁端部はやや尖り気味におさめる。口縁外面には重ね焼きの痕跡と思われる、暗灰色の色調の変化が帯状にみられる。体部の調整



第591図 八坂中遺跡溝1出土石製品(2)

は内外面とも回転ナデで、ヘラミガキや指オサエなどは基本的にみられない。焼きについては明らかに瓦器と言えるものから、須恵質にちかいものや、土師質土器と区別しがたいものまでバリエーションにとむ。瓦質のものも灰色のものが多く、色調と調整から豊前型とは容易に区別がつく。土師質土器杯の項でも触れたが、底部形態が土師質土器杯と酷似する。また、体部を内湾気味にする特徴も同様であるが、その立ち上がりやや急な方が瓦器碗である。以上は14世紀初～前半に比定できる。1015～1035についても東国東型瓦器碗体部であるが、底部を欠くため厳密な位置付けができない。しかし、その大部分は高台をもたない時期のものであろう。

1076～1085は瓦器小皿である。このうち1076～1082は器高が1.5cmを越えるものである。土師質土器小皿では、器高1.5cmを越えるものは少ないが、914、945などの形態にちかい。1083、1084は土師質土器小皿③としたものに形態的に類似する。

1086～1098は輸入陶磁器である。1093～1095は白磁で、1093、1095が12世紀代の碗、1094が13世紀後半～14世紀の口禿皿である。これら以外は青磁で、1086が龍泉窯系の碗、1091、1092が同安窯系皿で、12世紀後半を主体とするもの。1087、1088は蓮弁文をもつもので、13世紀代。1096～1098は無文のものである。

1099～1105は東播系こね鉢である。口縁部は1103を除き外面があまり肥厚せず、古相の形態を有する。

1106～1119は土鍋である。このうち1106～1112は口縁が短く体部から折れるものである。1111は古相の特長を残すが、他については12世紀後半から13世紀初のものであろう。1113～1118は口縁下に鏝が付されるもので、型的には鏝が口縁に近づくほど新しい。このなかで最も新しいもので、13世紀後半に比定される1118には体部下半に格子目タタキがみられる。

1120は土師質の器種不明品で、底部は糸切りの後ナデ。内面は平滑に仕上げられている。

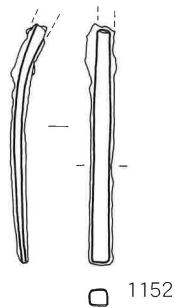
1121～1131は甕である。1121は須恵質で口縁部が緩やかに外反する。体部外面には平行タタキがみられ、香川県の十瓶山窯の可能性をもつ。1122はやはり口縁が緩やかに外反するもので、体部外面に格子目タタキをもつ。岡山県の亀山焼か。1123は産地不明。1124～1127は頸部が外湾気味に立ち、端部近くで強く屈曲するもので、口縁内面が口縁に沿い凹む。1124、1125は外面に細かな平行タタキがみられるが、焼きが瓦質にちかく東播系のもものは判断がつかかねる。また、1127は土師質にちかく、外面にハケメがみられる。東播系甕を模倣したものであろう。1128～1132は常滑焼である。1128～1130は口縁部で、13世紀中頃から後半にかけての時期に比定される。

1133は須恵質で、内外面に薄い自然釉がみられる。器種、産地とも不明。

1134はきのご型を呈する土製品で、用途不明。1135～1142は土錘である。1135は棒状を呈し、端部に孔をもつ。1136～1142は紡錘形をなすもので、主軸部に孔を施す。1143は滑石製石鍋で12世紀代に比定されよう。

1144～1151は石製品である。1144、1145はタタキ石である。前者は円柱状を呈し両端にタタキの痕跡が、また後者は円盤状を呈し、縁辺部にタタキの痕跡が各々みられる。1146～1150は凹石で、片面の中央部に凹み部がみられる。1151は円柱状を呈するものである。石造品の一部であろう。

1152は鉄製品である。欠損品であるが、断面方形の棒状を呈する。器種は不明である。



第592図 八坂中遺跡溝1出土鉄製品

(2) 溝2

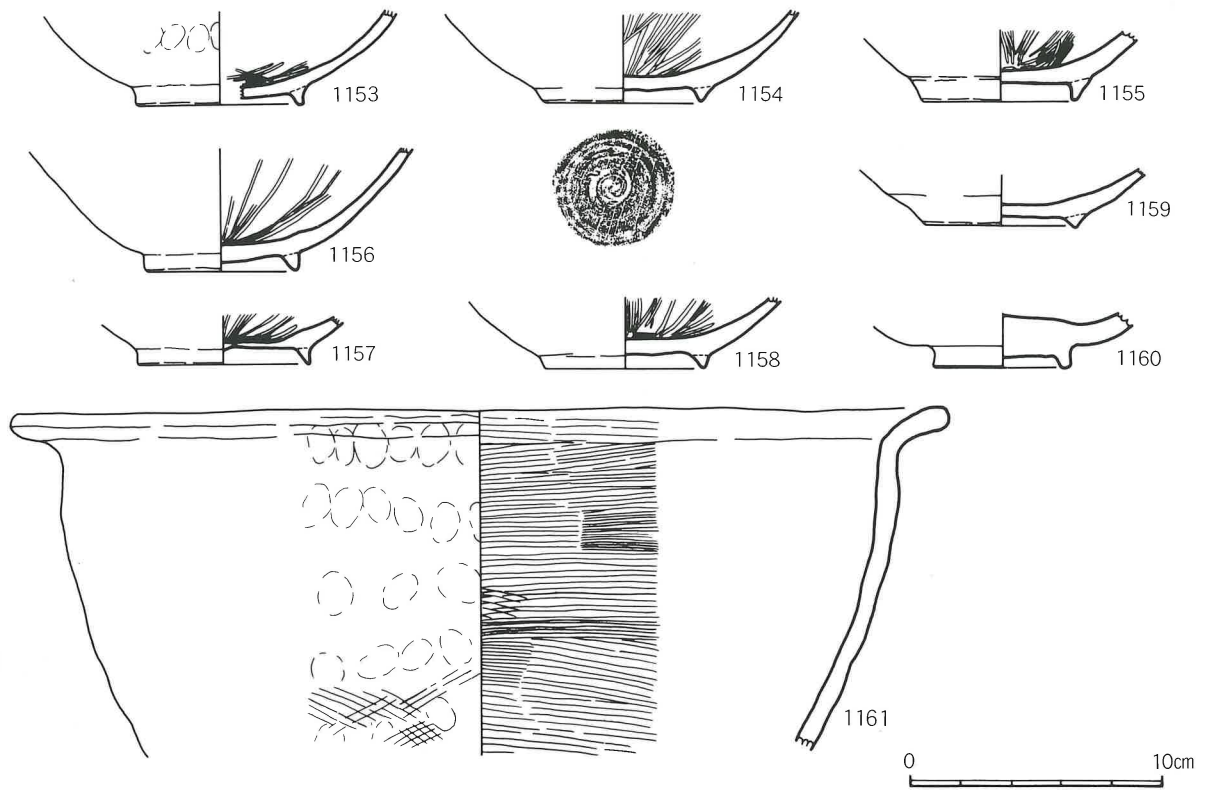
溝2(第593図)は、溝1の東側に位置する。溝は南西-北東方向に走るもので、溝1とは大きく方位を異にする。溝は南側の調査区外に及び、北東方向に約〇mのびた後に消滅する。本来はさらに続いていたものと思われる。溝の幅は0.2~0.45mで、本遺跡のなかでは規模の小さな溝である。深さは、最大で検出面から0.3mを測り、床面は南西から北東のむけ傾斜する。溝が消滅するあたりで、建物22と建物23と位置的に重複するが、前後関係は明らかではない。溝の時期は12世紀後半に比定される。

・出土遺物

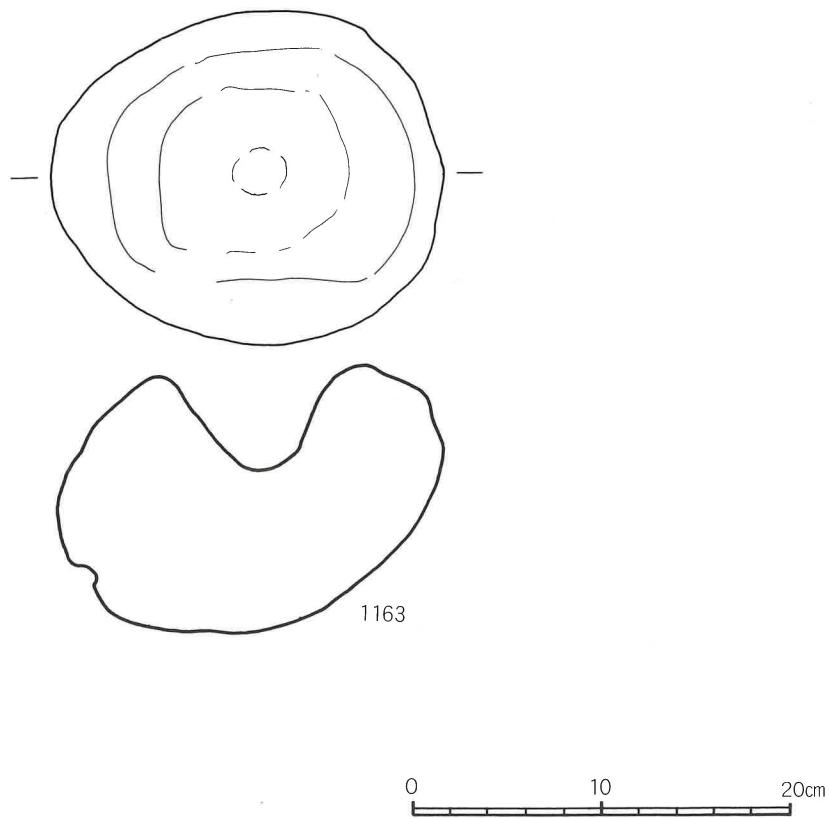
出土遺物には、土器(第594図)、石製品(第595図)がある。1153は土師器碗である。外底面は平坦にならず、わずかに下方に張り出す。切り離しの後、押し出されたものと思われる。体部は下半に指オサエの痕跡が若干残るが、ナデにより丁寧に仕上げられる。ヘラミガキは内面で確認されるが、外面にはみられない。1154~1158は瓦器碗で、色調はいずれも明るい灰色である。底部はいずれもほぼ水平で、体部から屈曲して底部に移行する。高台は断面三角形を呈するもので、平坦な底部の端に付される。外底面は、回転ナデが施され切り離しの状況は不明であるが、形態的にみてあまり顕著な押し出しは為されていないものと思われる。体部外面にはミガキが施されず、回転ナデにより丁寧に仕上げられる。内面はミガキがみられ、見込み部に雑な同心円のものがあり、加えて見込みから体部にかけて放射状に施される。1154には外底面にヘラ記号がみられる。1160は青磁碗底部。1161は、口縁が短く折れる土鍋で、体部はやや深めである。1163は凹石。以上は、12世紀後半に比定される。



第593図 八坂中遺跡溝2位置図



第594図 八坂中遺跡溝2出土土器



第595図 八坂中遺跡溝2出土石製品

(3) 溝 3

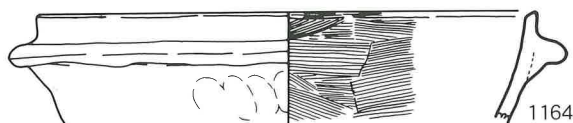
溝 3 (第596図) は、溝 4 の東方に位置する。北西から南東方向に走るもので、約 8 m にわたり確認される。溝 4 とは 16 m の間隔を有するが、本来は同一の溝で、溝 4 及び溝 5 とつながるものであろう。溝は幅 0.3~0.5 m で、柱穴の重複がみられる。全体として整然さに欠ける感がある。時期は溝 1 や溝 4 と同じ 13 世紀後半~14 世紀初である。

・出土遺物

1164 (第597図) は土鍋である。口縁下にやや幅広の鏝を付すもので、内面にはハケメがみられる。13 世紀前半~中頃のもののか。



第596図 八坂中遺跡溝 3 位置図



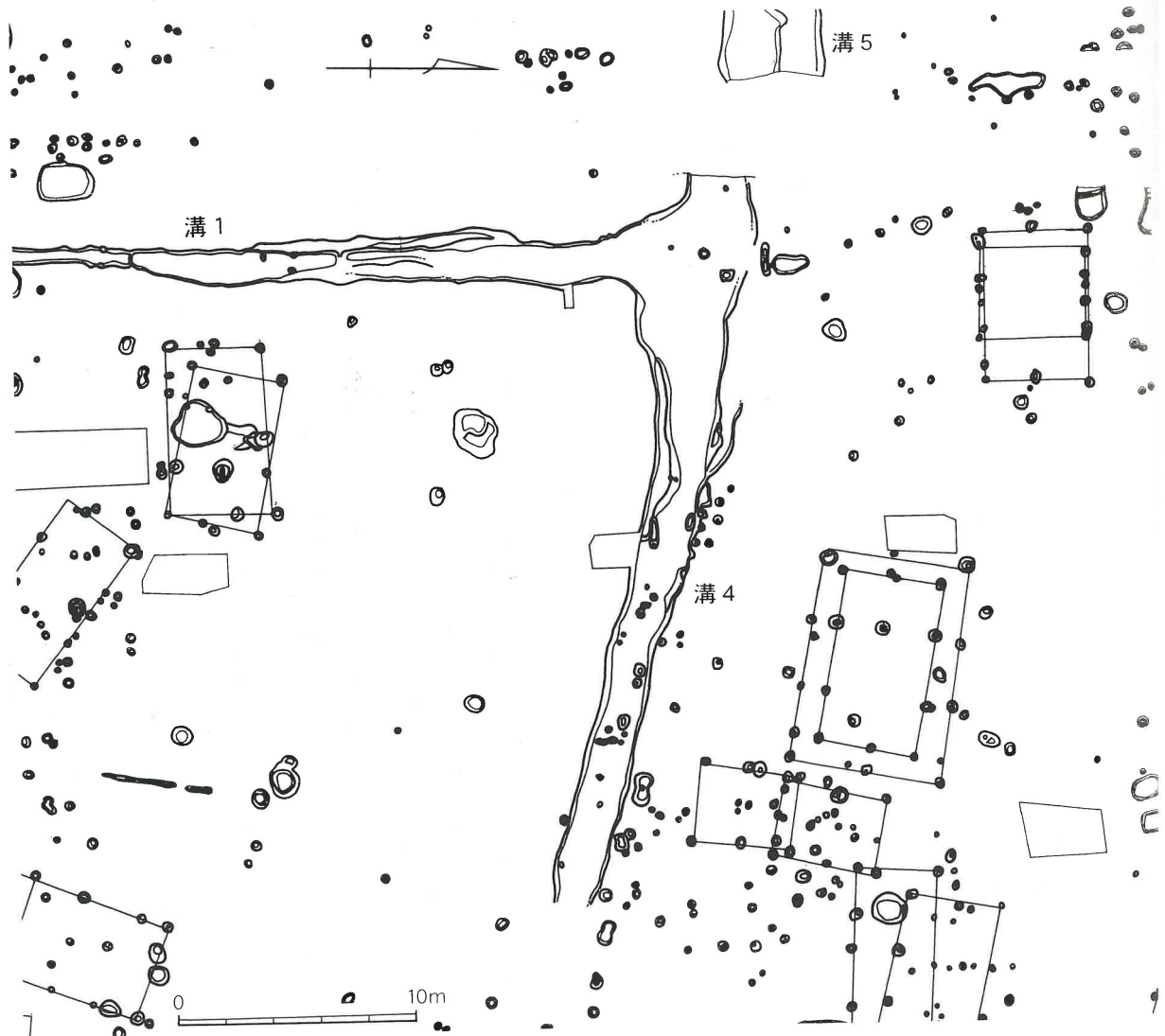
第597図 八坂中遺跡溝 3 出土土器

(4) 溝4

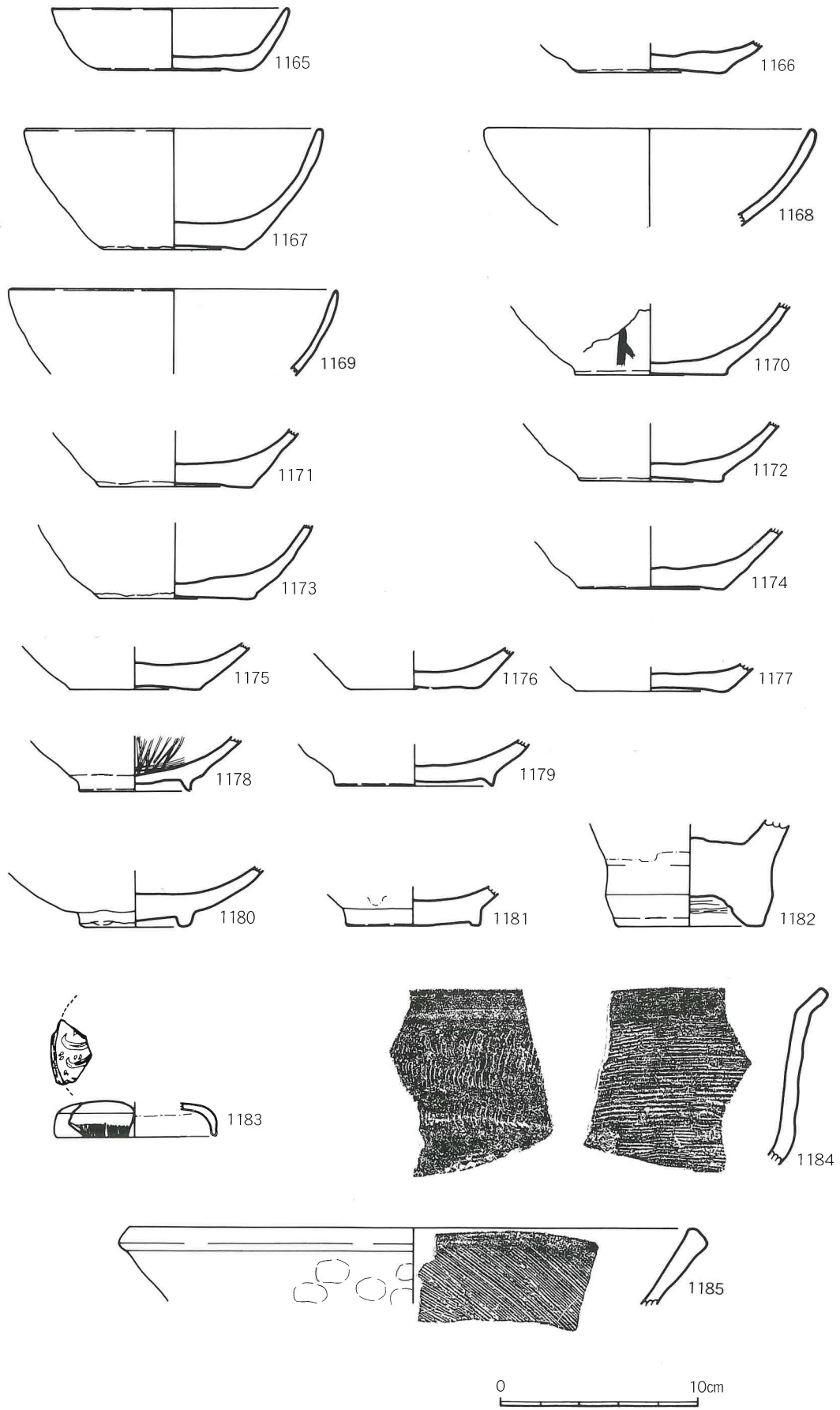
溝4（第598図）は、溝1とT字状につながり、おおむね東西方向にのびる。溝は溝1とつながった部分から東方に10mほどいったところから、方向を南東方向に変え溝3の方向に走る。本来、溝4は西側と東側にある溝5及び溝3とつながっていたものと思われ、T字状につながる溝1と併せ同時存在していた。溝は幅1.6～4.0mで、深さは最深部で検出面から0.5mを測る。床面レベルをみると、西から東へ傾斜する。時期は14世紀前半である。

・出土遺物

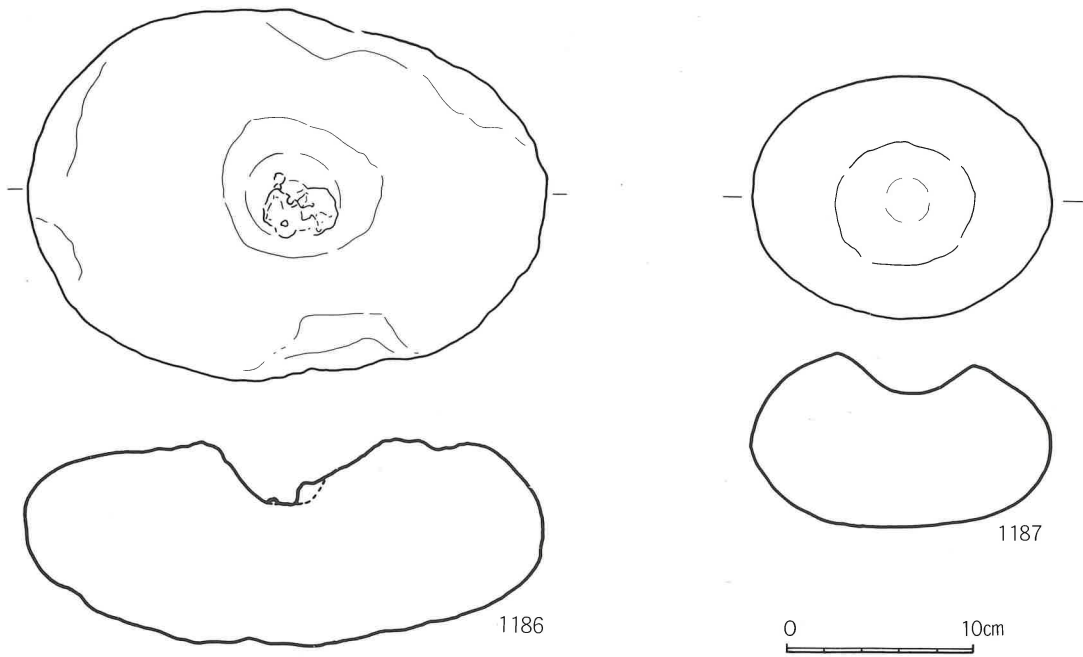
出土遺物には、土器（第599図）と石製品（第600図）がある。1165、1166は土師質土器坏である。1165は、底部から緩やかに立ち上がった体部が直立気味に立つ。1166は底部資料である。底部からいったん垂直気味に立ち、その後体部が緩やかに立ち上がる。溝1において主体的にみられたものと同形態である。1167～1179は瓦器碗である。このうち、1167～1177は平底を呈するもので、14世紀初から前半のものである。底部は糸切りのままで、体部にはヘラミガキがみられない。1170の体部外面には墨書がみられる。1178は底部が水平で、あまり押し出しが行われていない。内面にはヘラミガキがあり、見込みは同心円状に、見込みから体部にかけては放射状に施される。12世紀後半のもの。1179は、糸切り痕の残る非押し出しの外底面に高台が付される。13世紀中頃か。1180は鎬蓮弁文をもつ青磁碗で、13世紀代。1181は12世紀の白磁底部。1182は中国製四耳壺底部で、13世紀後半から14世紀前半のもの。1183は中国製青白磁合子。1184は土鍋。1185は瓦質土器こね鉢である。1186、1187は凹石である。



第598図 八坂中遺跡溝4位置図



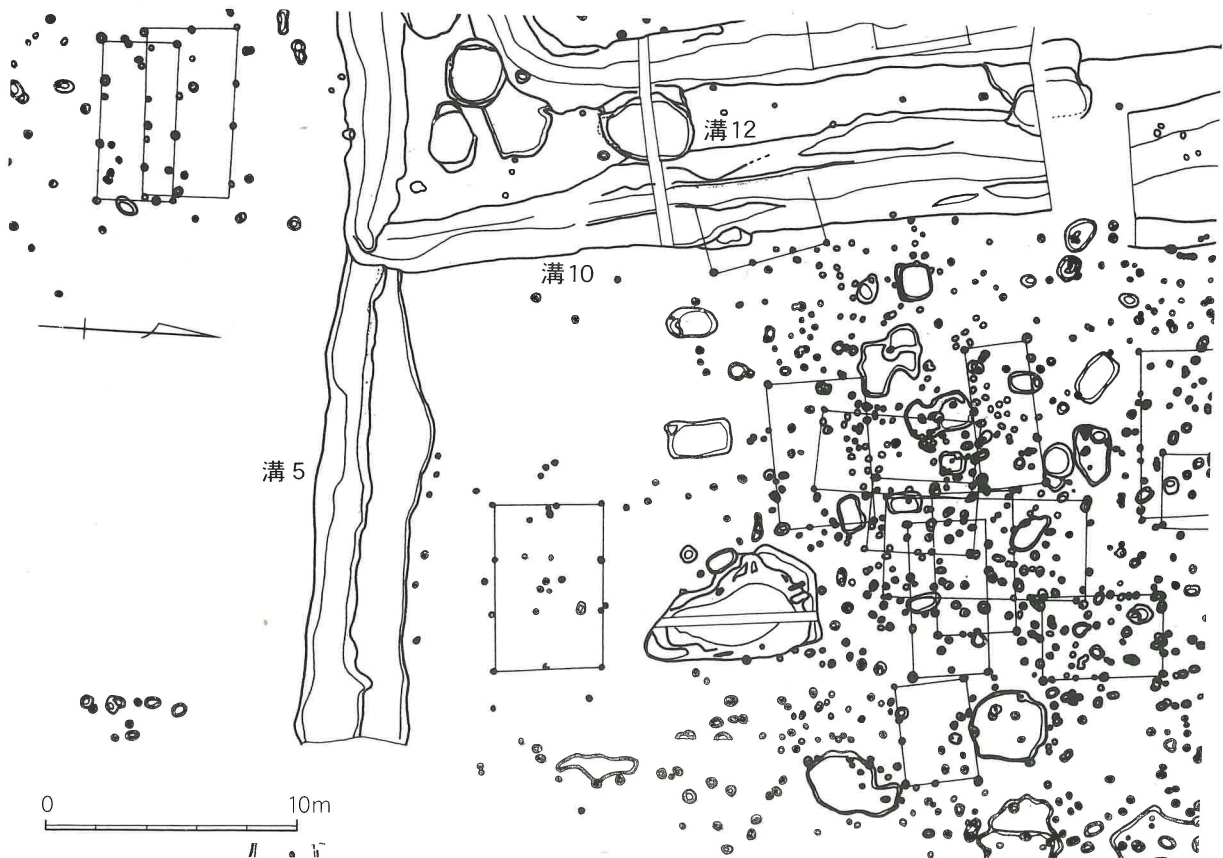
第599図 八坂中遺跡溝4出土土器



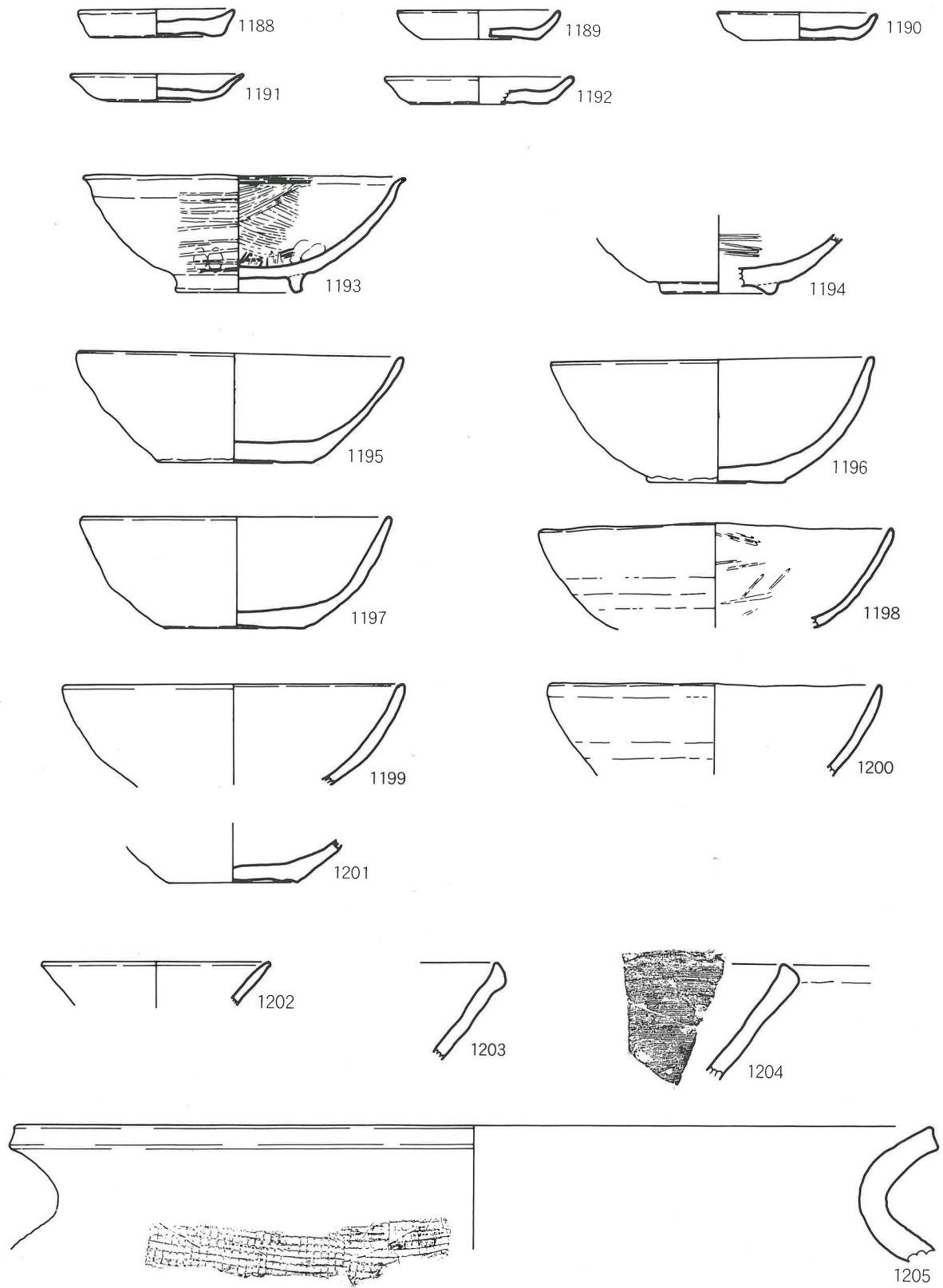
第600図 八坂中遺跡溝4出土石製品

(5) 溝5

溝5（第601図）は、居館3を二重に囲む溝のうち、外側にある溝10の東南コーナーの位置から東へのびる。溝は溝10に切られており、溝10から西の状況は不明である。溝5のある位置は調査区の中央であるが、南北の



第601図 八坂中遺跡溝5位置図



第602図 八坂中遺跡溝5出土土器(1)

断面をとった時にこの部分が最も低く、南側と北側から緩やかに下ってくる。溝10より西ではこの地形的な特徴が明確ではないが、これより東ではこの状況が明らかで、溝は本来溝4及び溝3とつながり微地形の最も低い位置を東南方向へ走る。幅は1.6～2.6mで、西から東へ傾斜する。13世紀後半～14世紀初のもの。

・出土遺物

出土遺物には、土器（第602、603図）、鉄製品（第604図）、石製品（第605図）がある。

1188～1192は土師質土器小皿である。このうち1188は復元口径7.6cmで、体部が短く直立気味に立ち、端部が尖り気味である。1189は体部がシャープに立ち上がり、内湾気味に口縁にいたる。復元口径8.0cm。以上は13、14世紀代のものか。1190～1192は体部の立ち上がりが緩やかで、口径も9cmを越すものもある。12世紀代まで遡るものか。

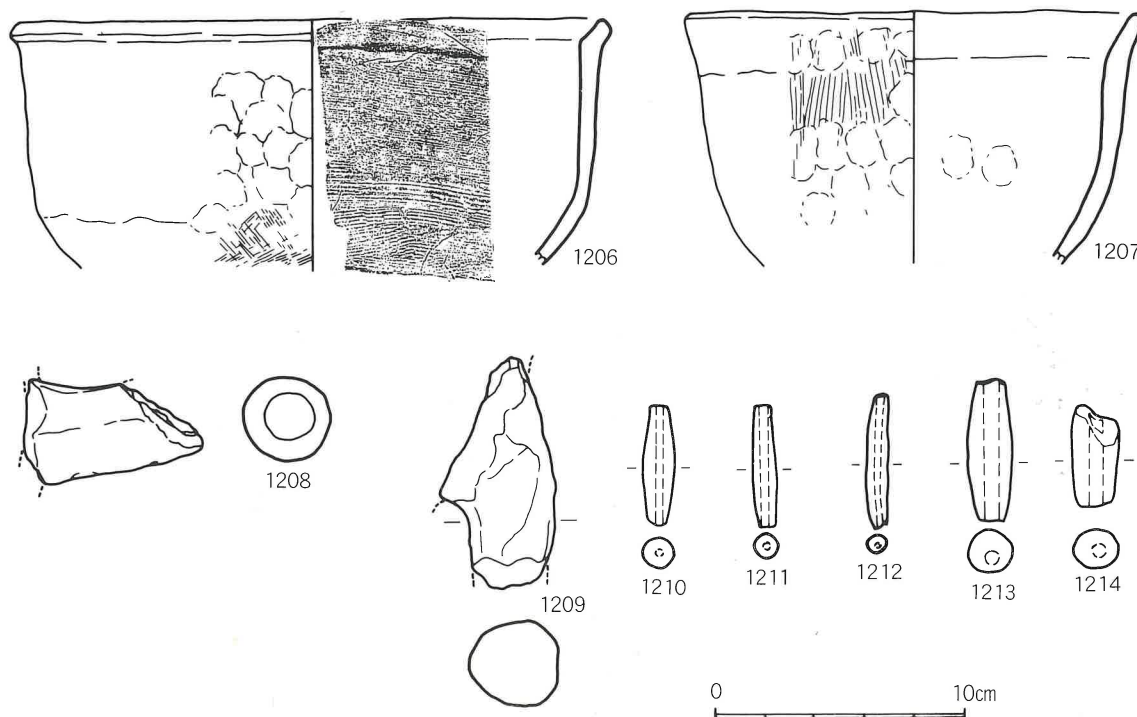
1193は土師器碗である。口縁部には強いヨコナデが施され、端部が外反する。外底面には糸切り痕がわずかに残り、断面方形の高台が付く。内外面にヘラミガキが施されるが、内面見込み部には同一方向の間隔のあいたミガキがみられ、体部には斜方向の分割ミガキが施される。12世紀代のものか。1194は内黒土器碗で、低い高台が付される。12世紀中～後半に下るものか。

1195～1201は、いずれも東国東型瓦器碗である。このうち1195～1197は平底を呈するもので、13世紀後半～14世紀初の時期。1201は底部の端につまみ出したような低い高台がみられる。13世紀中頃～後半か。

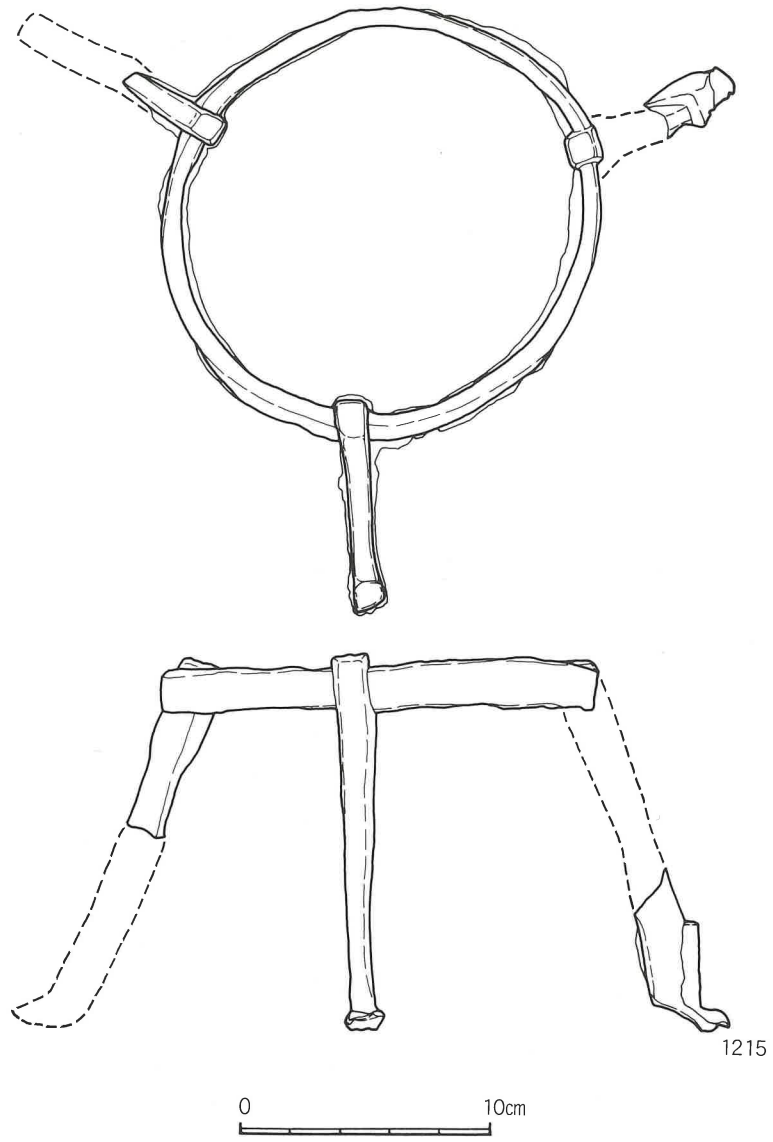
1202は白磁口禿皿で、13世紀後半から14世紀にかけてのもの。1203は東播系こね鉢。1204は須恵質のこね鉢で、内面にハケメがみられる。1205は亀山焼の甕で、外面に格子目タタキが施される。13～14世紀のもの。1206、1207、1209は土鍋である。1206は黄白色を呈し、口縁が短く折れる。内面と体部下半にハケメがみられる。14世紀初前後のものか。1207は口縁がわずかに折れる鉢状のもの。1209は脚である。1208は中空の円筒状をなす。1210～1214は土錘である。

1215は鉄製金輪で、鉄輪の口径約17cmを測る。脚が3本付けられ、接地部で短く外反する。鉄輪と脚の接合は、脚部の鉄板を鉄輪に巻く。形態が酷似する例として、三光村深水邸埋納遺跡のものが知られている。

1216は凹石である。



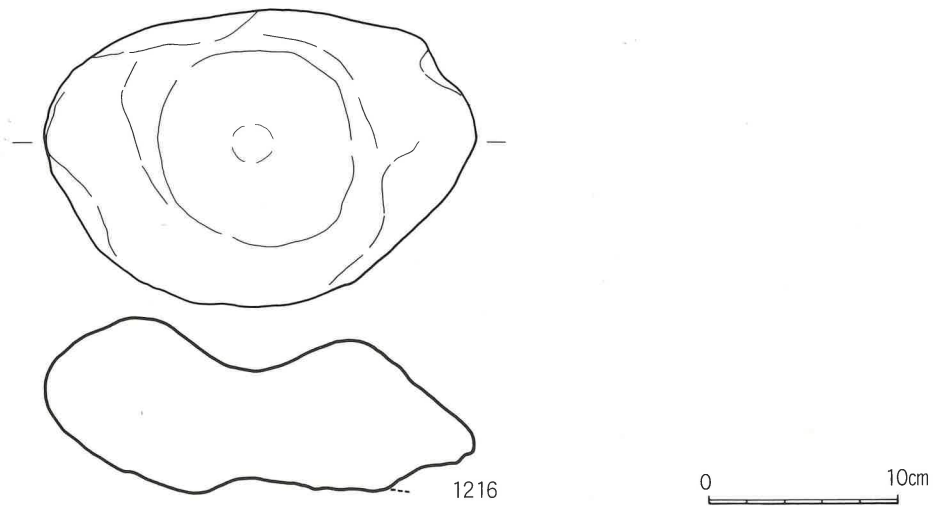
第603図 八坂中遺跡溝5出土土器(2)



1215

0 10cm

第604図 八坂中遺跡溝5出土鉄製品



1216

0 10cm

第605図 八坂中遺跡溝5出土石製品

(6) 溝6

溝6（第606図）は、居館3を二重に囲む溝のうち、外側にある溝10の北東コーナー付近の位置から東へ伸びる。溝は溝10により切られており、溝10より西での状況は不明であるが、溝10と溝12の間の部分において、すでに認められないことから、溝10の部分で終わっていたか、溝10と重複するように折れて南北方向に走っていたと考えられる。溝は溝10の位置から14mほど東にのび途切れており、幅0.4~1.6mを測る。時期は16世紀に比定される。

・出土遺物

溝からの出土遺物として、土器（第607図）、石製品（第607、608図）がある。

1217は土師質土器小皿である。体部の立ち上がりは緩やかで、斜方向にのび口縁にいたる。復元口径は8.0cmであるが、形態的には12世紀以前に位置付けたい。

1218は東国東型瓦器椀である。体部内外面には、ヘラミガキがみられず、回転ナデにより仕上げられている。底部を欠くので明確な時期は決めがたいが、ヘラミガキの消滅などから13世紀後半以降のものと同判断される。

1219は須恵質のこね鉢である。東播系のもと思われる、口縁端部がまったく発達してないことから、12世紀以前のものであろう。

1220は鉢で、復元口径38.8cmを測る大型品である。体部は底部から緩やかに立ち上がり、体部は斜方向にの



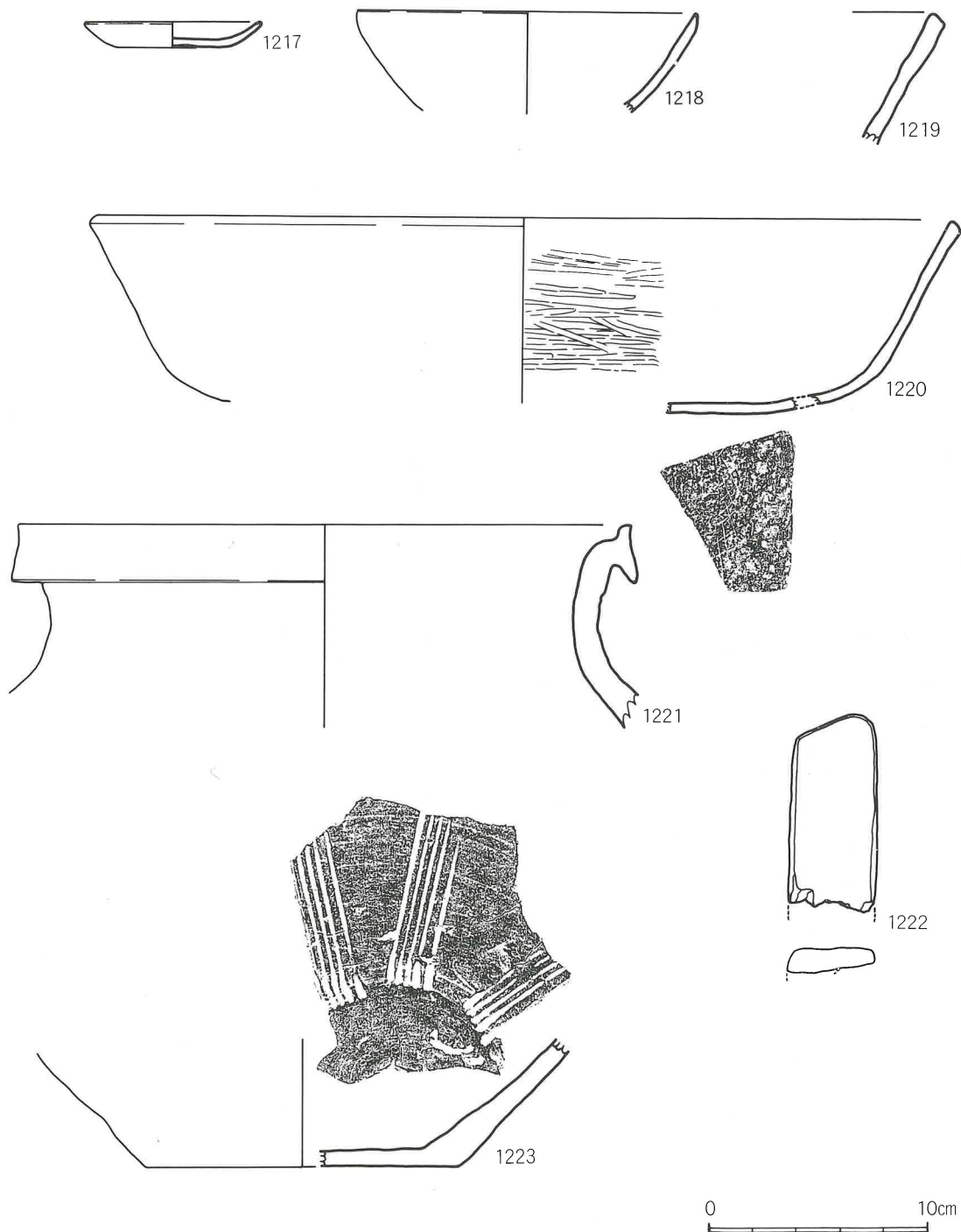
第606図 八坂中遺跡溝6、溝7、溝8位置図

びそのまま口縁にいたる。口縁端部はほとんど肥厚せず、やや角張る。外面はナデにより仕上げられ、内面にはミガキがみられる。また、底部には高台が剥がれたと思われる痕跡があり、接合部には斜格子状の細い沈線が連続してみられる。16世紀のものか。

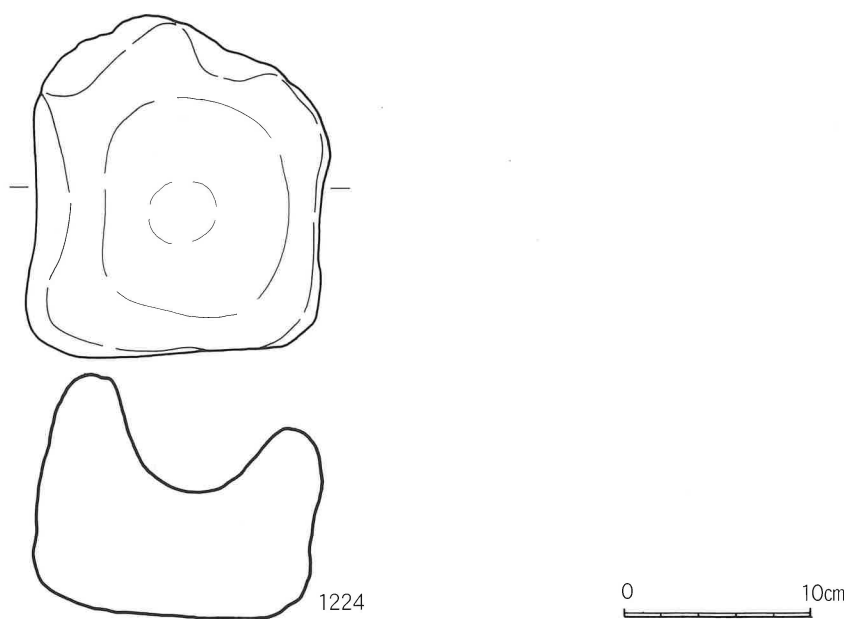
1221は常滑焼の甕である。口縁部は上下に拡張され、口縁帯を形成する。口縁の形態から、13世紀後半のものと考えられる。

1222は備前焼播鉢である。内面の摺目は5本単位で施されている。口縁部を欠くため、時期は明確にできないが、古相のものである。

1223は砥石、1224は凹石である。



第607図 八坂中遺跡溝6出土土器と石製品(1)



第608図 八坂中遺跡溝6出土石製品

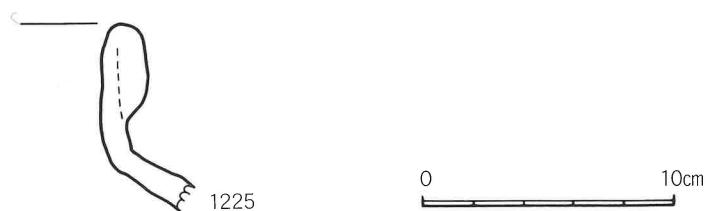
(7) 溝7

溝7 (第606図) は、溝6と溝8に挟まれた位置にあり、東西方向に走る。やはり、居館3を囲む溝10により切られている。溝は東方に5m程行って途切れる。幅は0.6~1.8mである。溝10から西については、溝10と溝12の間や居館3内で確認されておらず、その状況はまったく不明である。可能性として、溝10に重複するような位置に折れ曲がっていたことも考えられる。

時期的には15、16世紀に比定される。

・出土遺物

溝から検出された遺物のなかで、図示できるものは少ない。1225 (第609図) は備前焼甕である。口縁部の玉縁は下方に長く垂下される。15、16世紀のものか。



第609図 八坂中遺跡溝7出土土器

(8) 溝8

溝8 (第606図) は、溝6、溝7、溝8と3本並ぶ溝の最も北側に位置する。溝は居館3を囲む溝のうち、外側の溝である溝10により切られる。溝は幅0.4~0.8mと比較的細いもので、溝10の位置から東方へ15mほど走ったところで途切れる。この溝についても、溝6や溝7と同様に、溝10から西の状況が明確でない。すなわち、

溝10とその西側を数mの間隔をあけ平行して走る溝12の間で溝8の延長は検出されず、溝8は溝10の位置で終わるか、あるいは溝10に重複するように折れ曲がっていたものと思われる。土壌内からは瓦器椀片や土鍋片が少量出土したのみで、図示できるものはなかった。時期的には14世紀以降に位置付けられる。

(9) 溝9

溝9（第610図）は、居館3東北コーナーの北方に位置し、南北方向に走る。北側については調査区外に及ぶ。本溝は、居館3を二重に囲む溝のうち内側の溝である溝12のコーナー部から、約5.5mの間隔をあけて始まる。



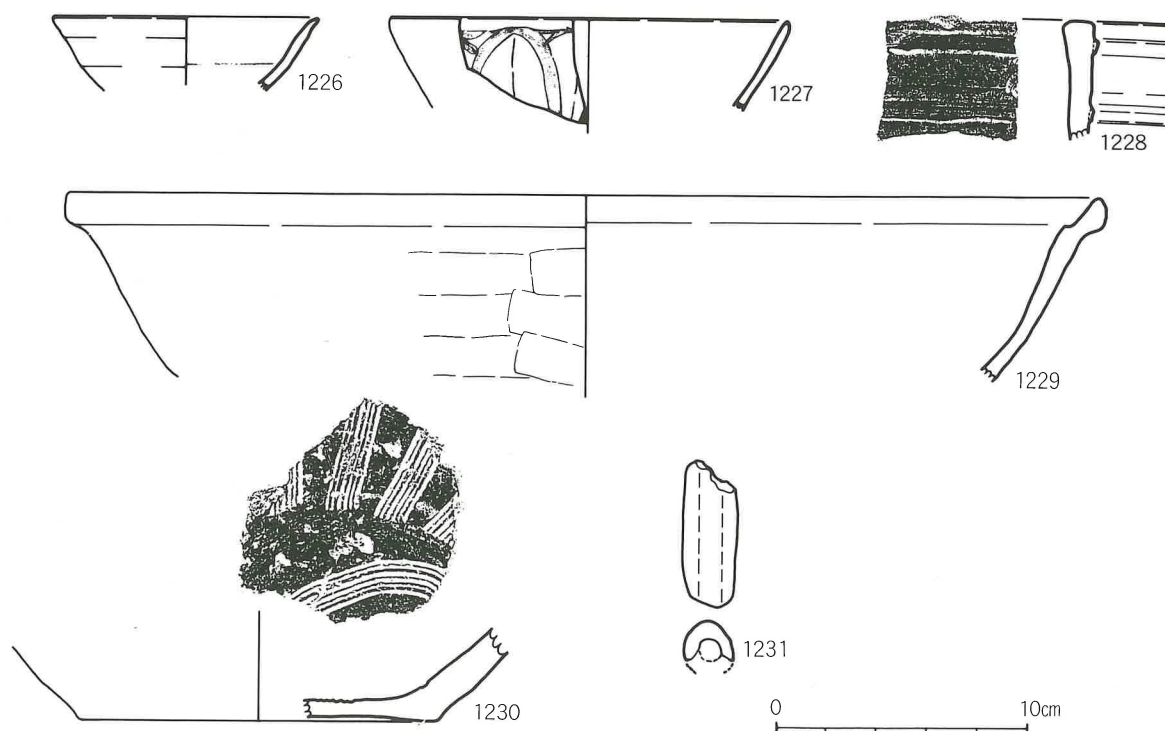
第610図 八坂中遺跡溝9位置図

溝は溝12の延長上をほぼ直線的に北へむかい延びる。居館1と居館3の北側については、各々の居館を画する溝の北辺がほぼ同じライン上の上のっており、計画的な築造を思わせる。居館の北側には、溝に近い位置に大型の土壇がいくつか並ぶようにみられるが、溝から3～10mの間は土壇や建物などの遺構がほとんどみられない。遺跡自体が12世紀前後からの重複遺跡であるため、この遺構空白部は必ずしも明確なものではないが、その状況から道と思われる。側溝や道路面といった明らかな道遺構は確認されていないが、意識的に遺構を配していないことから、居館を含む集落全体の配置計画の際に当初から道として意識されていたものと考えられる。この道状の遺構空白部は居館1、居館3の北側に沿い続き、居館3東北コーナーと溝9が途切れた幅約5.5mの部分にとりつく。また、道の北側については建物が梁間を道に面するかたちで配されている。建物の北は、廃棄土壇と推定される大型の土壇がみられ、それより北には遺構が広がらないことを試掘調査で確認している。

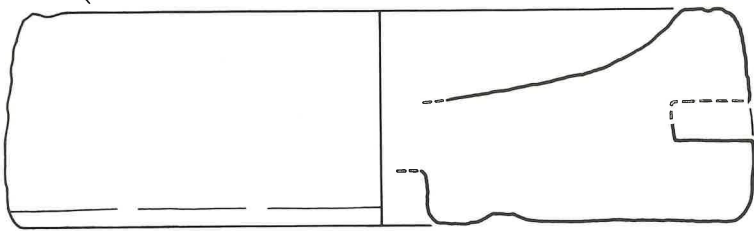
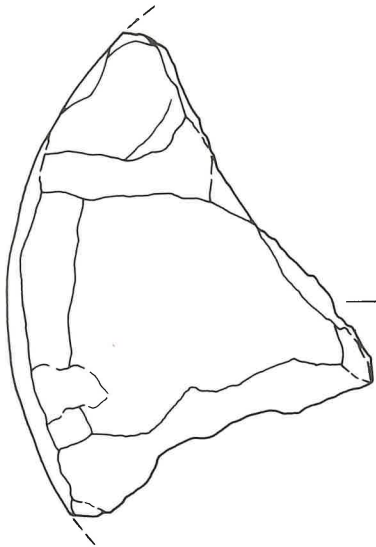
溝は幅1.2～1.8mで、土壇45を切る。この溝9に対し道を挟む位置にある溝12は掘り直しが認められ、現状で幅4m程の溝部分のうち、最も東よりに掘り直しの溝である溝12bがある。位置的、規模的に溝9と極めてバランスが良いことから、溝9は当初より掘られていたのではなく、溝12bが掘り直された時に併せて掘られた可能性が高い。時期は16世紀代である。

・出土遺物

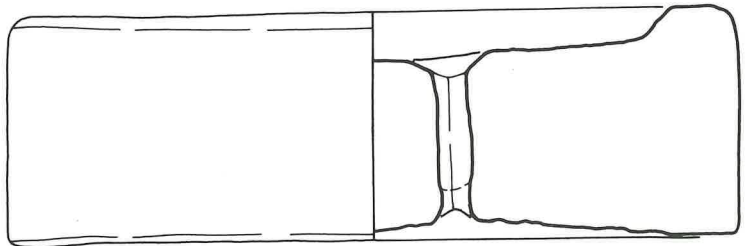
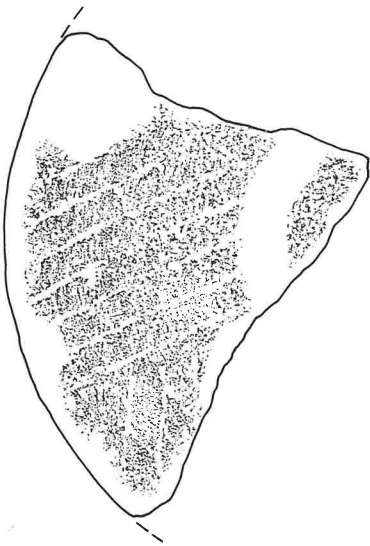
出土遺物には、土器（第611図）と石製品（第612、613図）がある。1226は白磁坏で、内外面とも施釉される。1227は青磁碗で、外面に鎬蓮弁文がみられる。13世紀代のもの。1228は瓦質土器火鉢である。口縁内面がわずかに肥厚しており、外面には2条の沈線がみられる。沈線間にはスタンプ文が施されるが、これまで大分県内では確認されていない文様である。溝15から同じスタンプ文をもつものが検出されており、同一個体の可能性もある。16世紀前～中頃。1229は土鍋で、外面には横方向のヘラズリが施される。16世紀代か。1230は瓦質土器搗鉢で灰白色を呈する。摺目は6本単位で、見込み部にも摺目がみられる。16世紀代か。1231は土鍾である。1232と1233は挽白の上白である。1232は下面中央に芯棒受けがあり、角穴の挽手穴がある。1233の天場のくぼみは約2cmで、供給口にむかい深くなる。下面のふくみは約1cmで、目は6分割であると思われる。1234は茶白の下白で、目はやや雑である。1235は五輪塔地輪である。上面中央にくぼみがみられる。



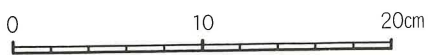
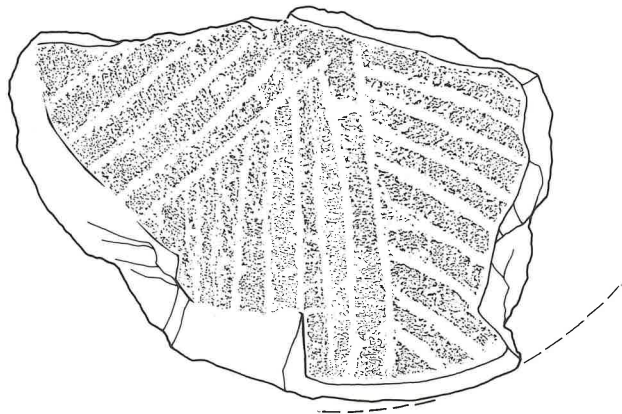
第611図 八坂中遺跡溝9出土土器



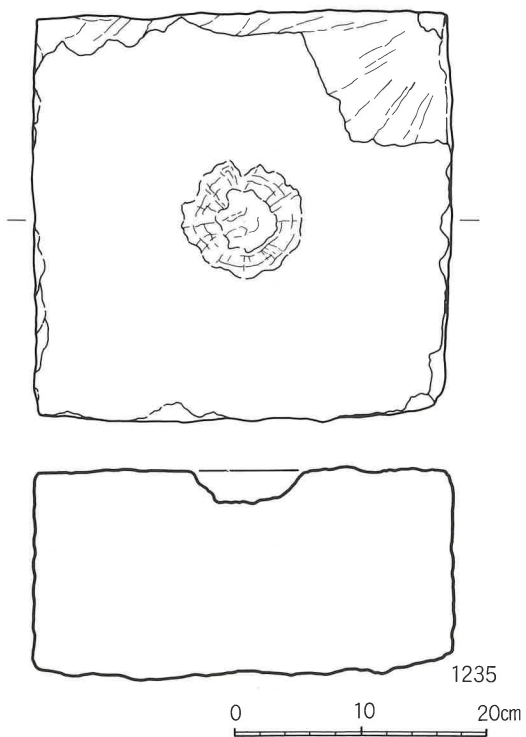
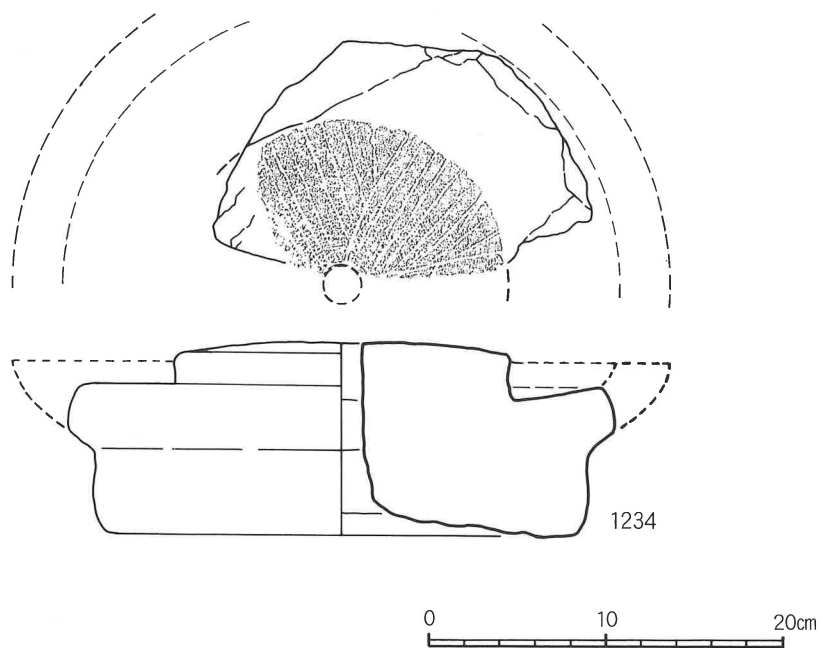
1232



1233



第612図 八坂中遺跡溝9出土石製品(1)



第613図 八坂中遺跡溝9出土石製品(2)

(10) 居館1

居館1（第614図）は、調査区西端に位置する。しかし、居館の西側から北西隅にかけての一部が調査区外に及ぶ。居館は基本的に溝13に画される長方形を呈し、さらに南側の外側を溝10により、西側の外側を溝16により画される。また、東側には居館2と居館3が隣接しており、居館2を囲む溝11と居館3を囲む溝12が溝13と平行して走る。居館の規模は、溝13の内側で南北約60m、東西約22mを測る。規模からみると、隣接する居館2と居館3に比べ、居館内面積が約1.3倍である。また、平面形についても、方形を呈する居館2や居館3と大きく異なる。後述するように、居館を囲む溝については掘り直しが認められ、居館1を含む居館群も何段階かの変遷が想定される。居館内の建物等を含めた居館群の変遷については、後段で詳述する。

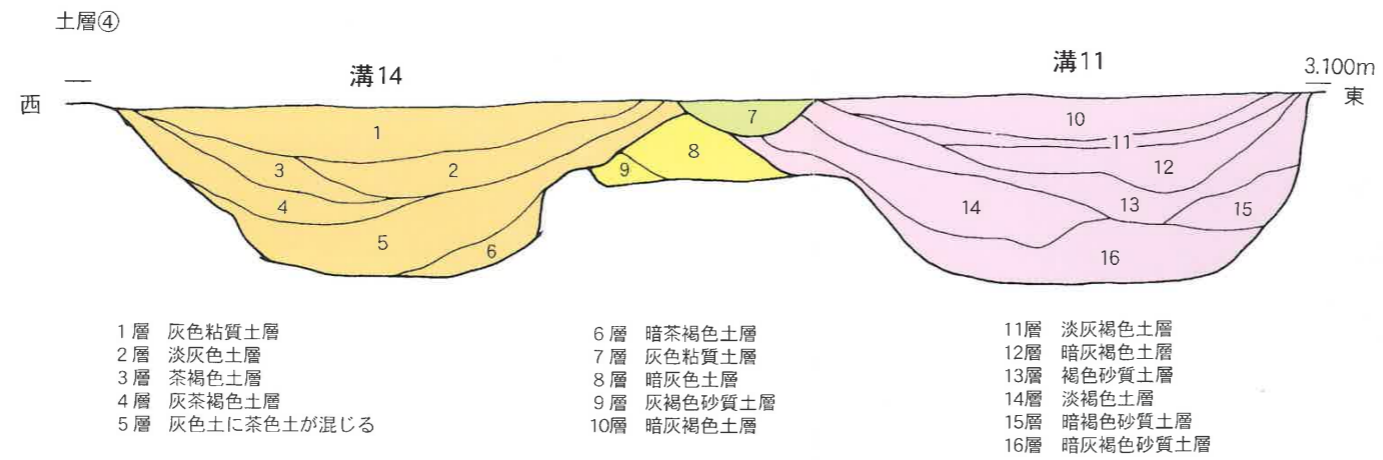
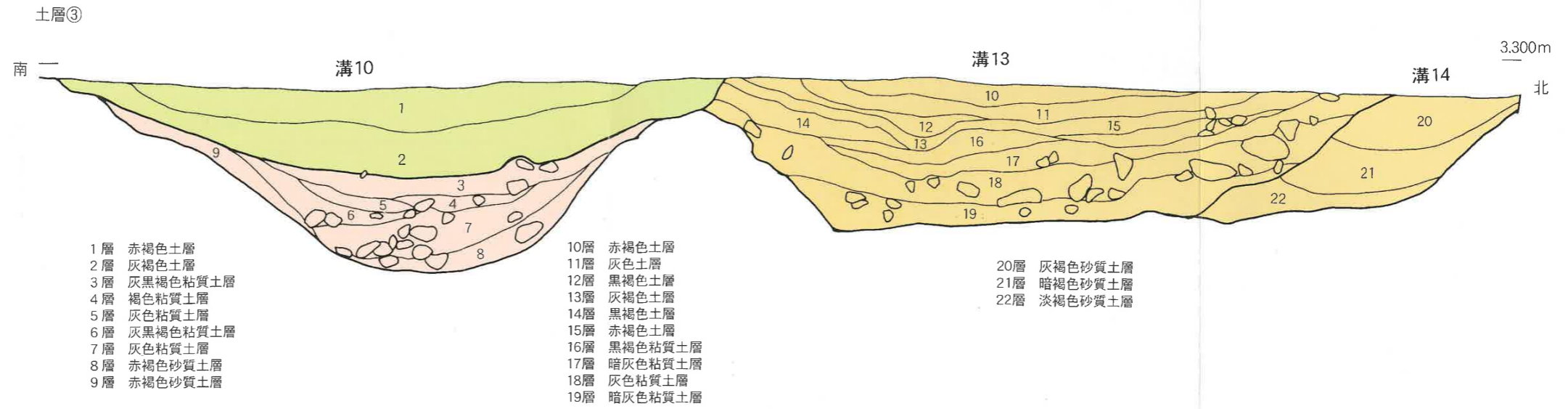
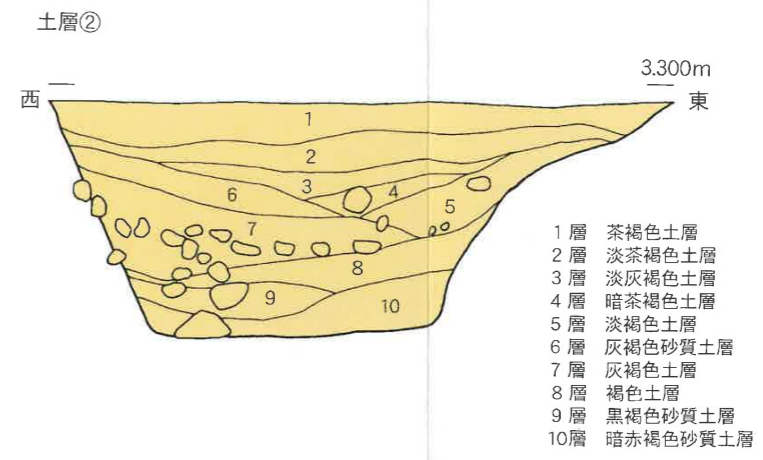
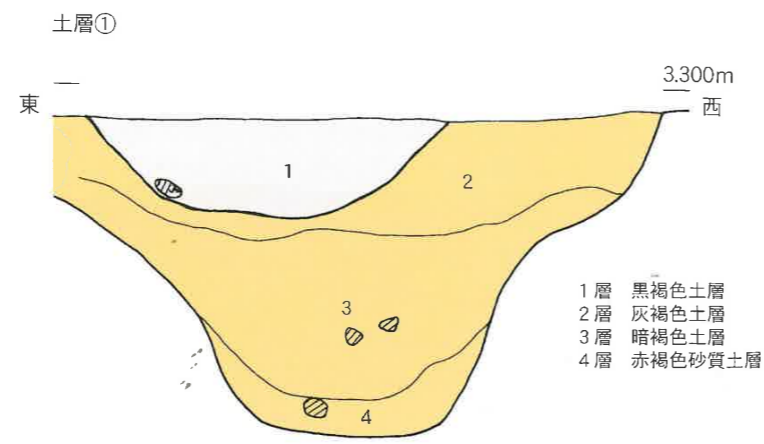
・溝13、溝14

現状で居館1を長方形に画するのは溝13であるが、溝13より古い段階で居館1を区画していたと思われるものが溝14である。溝14が明瞭に認められるのは、居館の南辺から東南コーナーにかけてである。底面の幅は1.2～1.5mを測り、規模的には溝13の南辺とほとんど遜色がなかったものと思われる。また、深さは検出面から0.5～0.8mである。土層③（第615図）にみるように、溝14の大半が埋没した段階で溝13に切られている。南辺に関して、溝14の底面はほとんど溝13に切られておらず、上面でみれば溝14の南半を切りながら、やや南に移動し掘り直されたようである。土層③の溝14の埋没状況をみる限りでは、溝の南側（居館の外側）からの流れ込みが著しいようで、溝14の南側に土壘があった可能性が高い。しかし、1ヶ所の土層観察のみであるため、溝14段階の居館全体にわたる状況は不明とせざるをえない。この溝14は、現状で居館1を区画する溝13と同じ位置に東南のコーナーをもち、北へ延びるところまでは確認できるが、居館の東辺、北辺、西辺ではまったく確認できない。掘り直しの溝13の掘削により、その痕跡をまったく留めないものと思われるが、換言すればまったく同位置に溝があったことを示すものと理解される。溝14内の遺構として、土層③のすぐ東において石組みが検出された（第617図）。石組みは、溝14を仕切るようなかたちで2列確認された。0.15～0.25mの礫を使用し南北に並べられるが、1段のみで、ある程度埋没がすすんだ段階で行われている。南側は溝13により切られる。溝からの遺物は少なく、小破片がばかりである（第620図）。よって、時期の細かな特定は困難な面もあるが、15～16世紀段階のものと思われる。

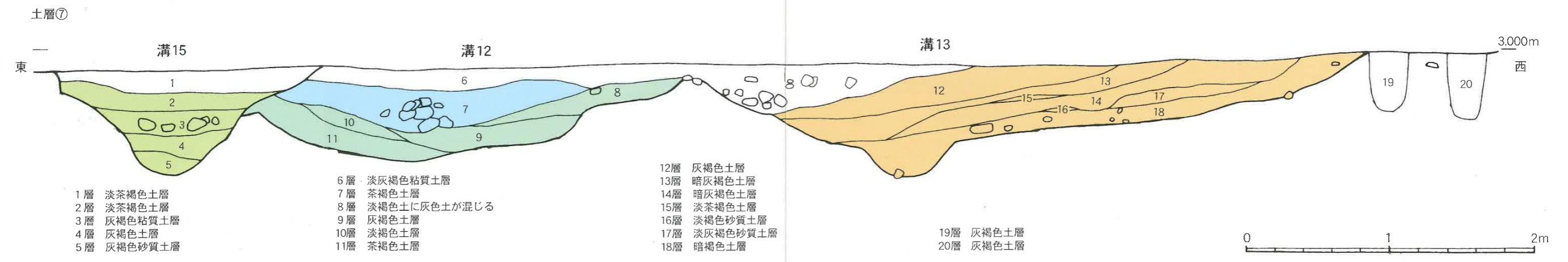
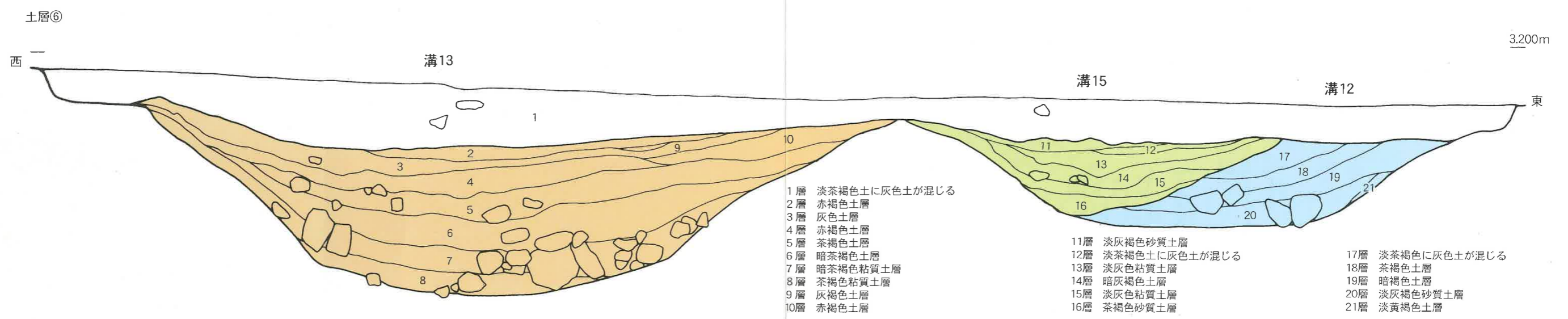
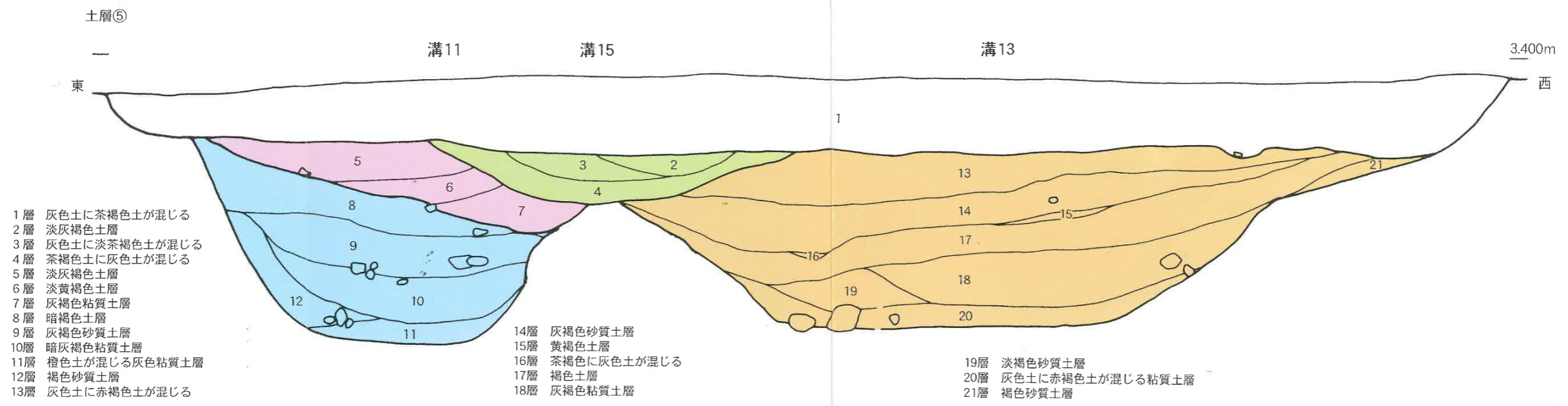
溝13は、溝14を掘り直すかたちで掘られたものと思われる。西辺、南辺、そして東辺の南東コーナーから約15mまでは、幅2.0～3.5m、深さ0.7～0.9mである。しかし、東辺の中程から急激に規模が拡大し、幅3.0～4.6m、深さ1.3～1.5mを測るようになる。削りだしの土橋と思われるものが、東辺のほぼ中程にあたる南東コーナーから約32mの位置にある。その後溝は、北東コーナーに近づくにつれ幅及び深さの規模を急激に減じ、北東コーナー部では幅1.0～1.6m、深さ0.3～0.5mほどとなる。北辺については、若干幅が広がるが深さは浅いままである。一部が調査区外に及ぶため、出入口についての結論を出しにくいだが、北東コーナー付近は溝の状況を考えると出入口の可能性は高い。居館1の東側にある居館3では、居館の北西コーナー部で溝が切れており、この部分が出入口であったと思われる。居館1の北東コーナー部は、居館3北西コーナーと相対する位置にあり、出入口があっても不思議ではない。居館1東辺中央の土橋については、削り出されたものであるが、検出面よりもかなり低い。そのため、溝内部にいったんやや下り、また上るといった動きをとらざるをえず、メインの出入口としては利用しにくい。また、南西コーナー部については、わずかに屈曲する。これは、前段階の溝14の時も同じ状況がみてとれ、ここで屈曲せざるをえない何らかの理由があったものと推定される。溝13については、土層③の部分では掘り直しの可能性をもつ土層が認められるが、他の場所の土層（土層②、土層④、土層⑤、土層⑥、土層⑦）では確認できず、全面的な掘り直しは行われなかったと理解される。さらに土層を観察すると、土層②、土層③、土層⑤、土層⑥、土層⑦では、居館内側からの土砂流入が顕著で、溝の内側に土壘が築造されていたものと思われる。しかし、溝の浅い北東コーナーから北辺にかけては、それほど顕著な土壘は築かれなかった可能性はある。溝13からは土器や石製品が検出された。土器は破片資料で、いずれも流れ込みと考えられる。そのなかで、溝東辺の土橋北側から、五輪塔の部品が比較的集中して確認された。投棄されたものの可能性が高いが、



第614図 八坂中遺跡居館 1



第615図 八坂中遺跡居館1周辺の溝土層図(1)

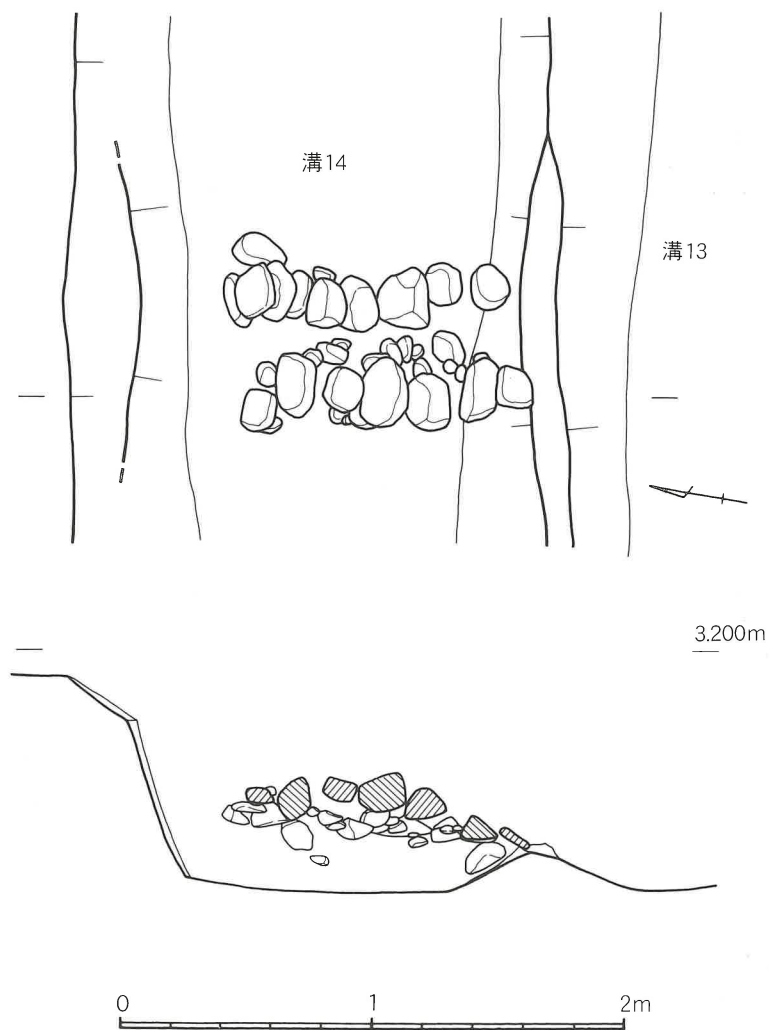


第616図 八坂中遺跡居館1周辺の溝土層図(2)

居館内部の近接する場所に五輪塔などが並んでいたことも考えられる。土器などから（第621～629図）、溝13は16世紀後半にはほぼ埋没したものと思われる。なお、溝13を切る溝15については後段で詳述する。溝13内部の遺構については、溝14でみられたような石組みが南東コーナー部で確認された（第618図）。石組みは一部崩壊している部分もあるが、南東コーナーを曲がり東辺に入った所に3列、さらに約2.5mあけて2列がみられる。石組みの石は0.1～0.45m程のものが使用されており、溝14の石組み遺構に比べると大型の石材が目立つ。石組みは溝14と同様に溝を仕切るようなかたちでみられ、現状で最大3段の積み上げが確認できる。積み上げは基本的に底面からなされるが、全体として整然さに欠ける。

・溝16

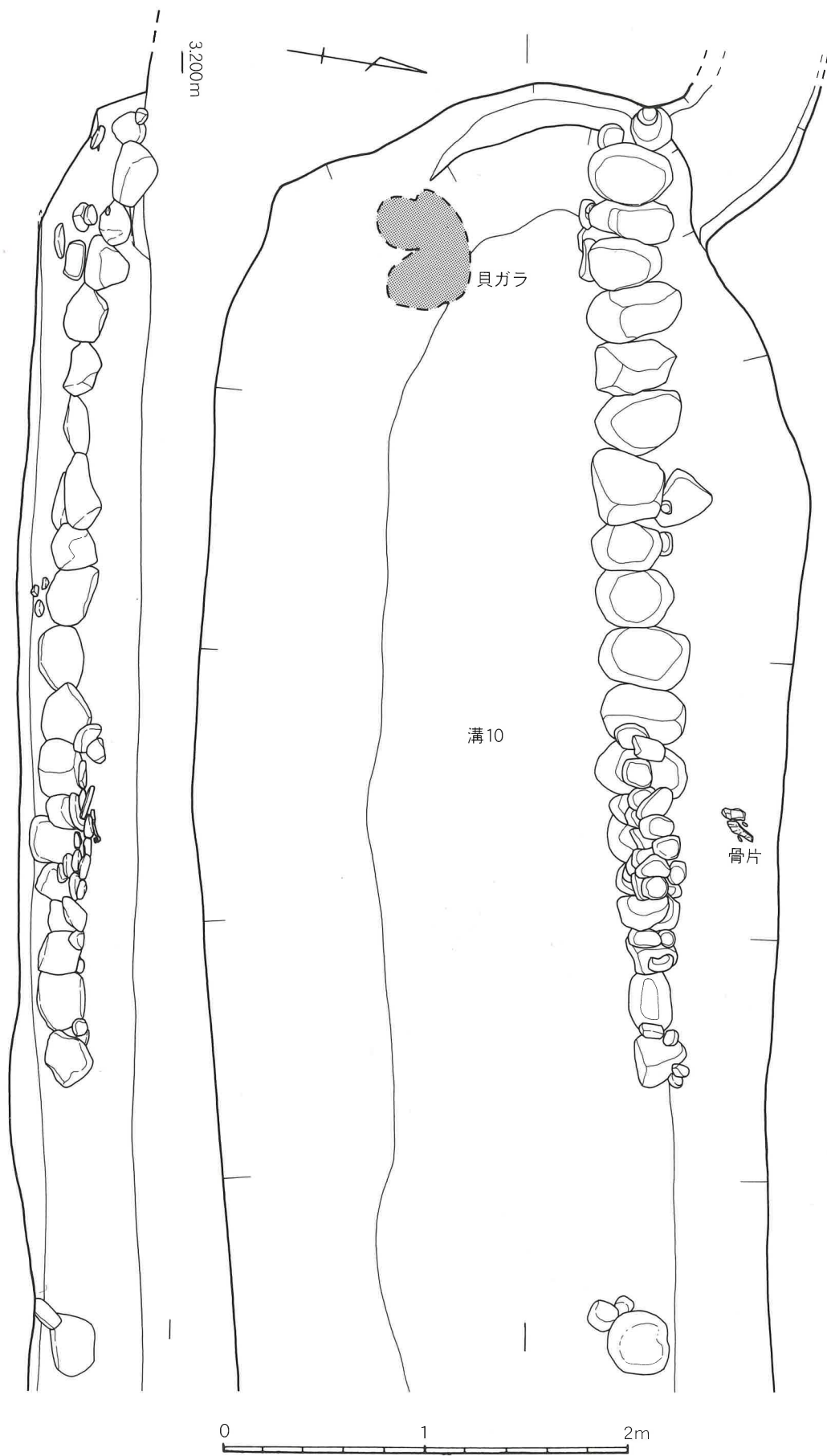
溝16は、長方形に巡り居館1を形成する溝13の西外側にみられる。溝13と平行して走るものであるが、大部分は調査区外に及び、南西コーナーに近い部分のみが検出された。溝の幅は0.8～2.0mで、南西コーナーに近づくほど細くなる。溝は掘り直しが一度確認され、当初の溝（溝16b）がほぼ埋没した段階で、規模を縮小した溝（溝16c）が掘られる。溝16cは幅1.4mで、幅、深さとも当初の溝16bに比べると圧倒的に劣る。居館1の南側には、溝13の外側に平行して走る溝10がみられる。溝16と溝10は直交する位置関係にあり、溝10にも明らかな掘り直しが一度認められる。溝16bが溝10bに、また溝16cが溝10cに各々対応するものと思われる。溝16と溝10が接するコーナー部の状況は、溝16bと溝10bの段階はわずかに離れており、通路としての機能をもっていたものと推定されるが、溝16cと溝10cの段階には両方の溝をつなぐ感じで小溝が設けられる。し



第617図 八坂中遺跡溝14内石組み遺構



第618図 八坂中遺跡溝13内石組み遺構



第619図 八坂中遺跡溝10内石組み遺構

かし、浅いものであるため、この場所を通路としても差し支えないと思われる。また、土層①（第615図）により溝16の埋没状況を観察したが、溝16b及び溝16cの段階とも土塁の位置を推定するまでにはいたらなかった。溝16からの出土遺物は小破片で量的にも少ない、そのため溝の時期を細かく特定することはむづかしく、15、16世紀以降の築造であることを確認できるのみである。

・溝10

溝10は、居館1の南西コーナー部から始まり、居館1の南辺、居館2の南辺と東辺、さらに居館3の南東コーナーから東辺まで続く長大なもので、その長さは100mを越す。ここでは、溝10のうち居館1の隣接部分についてのみ紹介する。溝10は、居館1を囲む溝13とは0.5～1.0mの間隔をもち平行に走る。居館1の南西コーナー部では、溝13が内側に屈曲するため、溝10と溝13の間隔は最大5mとなる。また、溝13より古い溝14の段階では、溝10と溝14の間の長さは、約2mである。土層③（第615図）をみると、確実に掘り直しが一度認められる。上層の溝10cは、土層③の地点で幅3.6m、深さ0.5mの規模をもつ。溝10cは、居館1を囲む溝13を切っており、溝13がほぼ埋没した段階で掘られていることが分かる。溝10cは居館2方向に直線的にのび、加えて居館1と居館2の間方向にT字状に分かれる。溝に沿う土塁の有無については、土砂の流入状況を観察しても確定しがたい状況であるが、可能性として溝の北側にあったとも読み取れる。下層の溝10bは、北側に隣接する溝13、溝14と並存するものと考えられる。土層③では確認できないが、居館2南辺から南東コーナーにかけて設定した土層⑨（第638図）や土層⑩（第639図）では、溝10bの下層に溝10aを認めることができる。居館1の南側部分でも、当初は溝10aがのび、溝14などと並存したものであろうが、溝10bの掘削によりその存在は確認できないものとなった。溝10内の遺構としては、溝10の西端から約4.5mにわたり石列がみられる。石列は溝10bに伴うもので、0.25～0.5mの石材を用いている。北側の下端に沿うように並べられたもので、基本的に一段のみである。護岸施設に係わるものであろう。溝からは土器片や石製品が検出された。それらから、溝10bの埋没が16世紀後半～末に、また溝10cの埋没が唐津系の出現する16世紀末に比定できる。

・出土遺物

溝14

出土遺物（第620図）のうち1236、1237は瓦器碗である。1236は東国東型瓦器碗で、13世紀後半～14世紀初のもの。1237は口縁部で、内外面にミガキがない。1238は瓦質のこね鉢か。15、16世紀のものであろう。



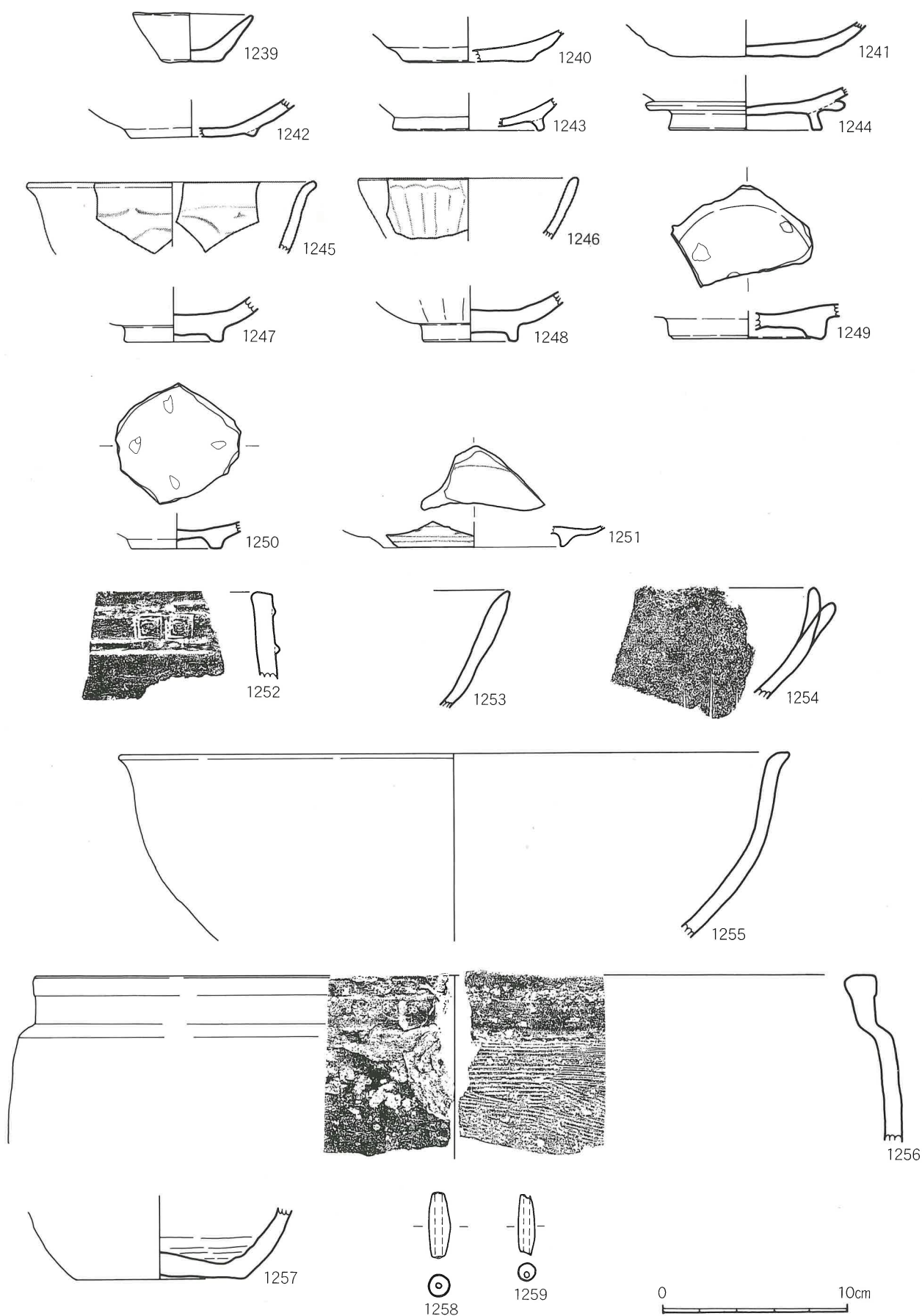
第620図 八坂中遺跡溝14出土土器

溝13南辺

土器（第621図）のうち1239～1241は土師質土器である。1239は小皿で口径に比し器高が高く、体部を斜方向に立ち上げる。国東半島地域では、15世紀後半以降器高の高い杯が出現する。中世大友府内町跡や臼杵などでも同様な時期から、器高の高い杯がみられるようになる。これらの地域では、国東半島地域とは異なり内外面にロクロ痕を残す。国東半島地域ではロクロ痕がみられず、杯に伴い別形態の小皿が伴出する。本品から法量分化の可能性が考えられる。時期的には16世紀前半か。1240、1241は杯の底部であるが、形態や底径から1240は14世紀代、1241は11、12世紀代に比定されよう。

1242は、豊前型の瓦器碗である。底部に断面三角形の高台が付される。

1243、1244は内黒土器碗である。1243は断面方形のやや低い高台が外開きに付される。1244は体部下に鉦が付くものである。高台は細く、高めである。1243が12世紀代、1244が11世紀代か。

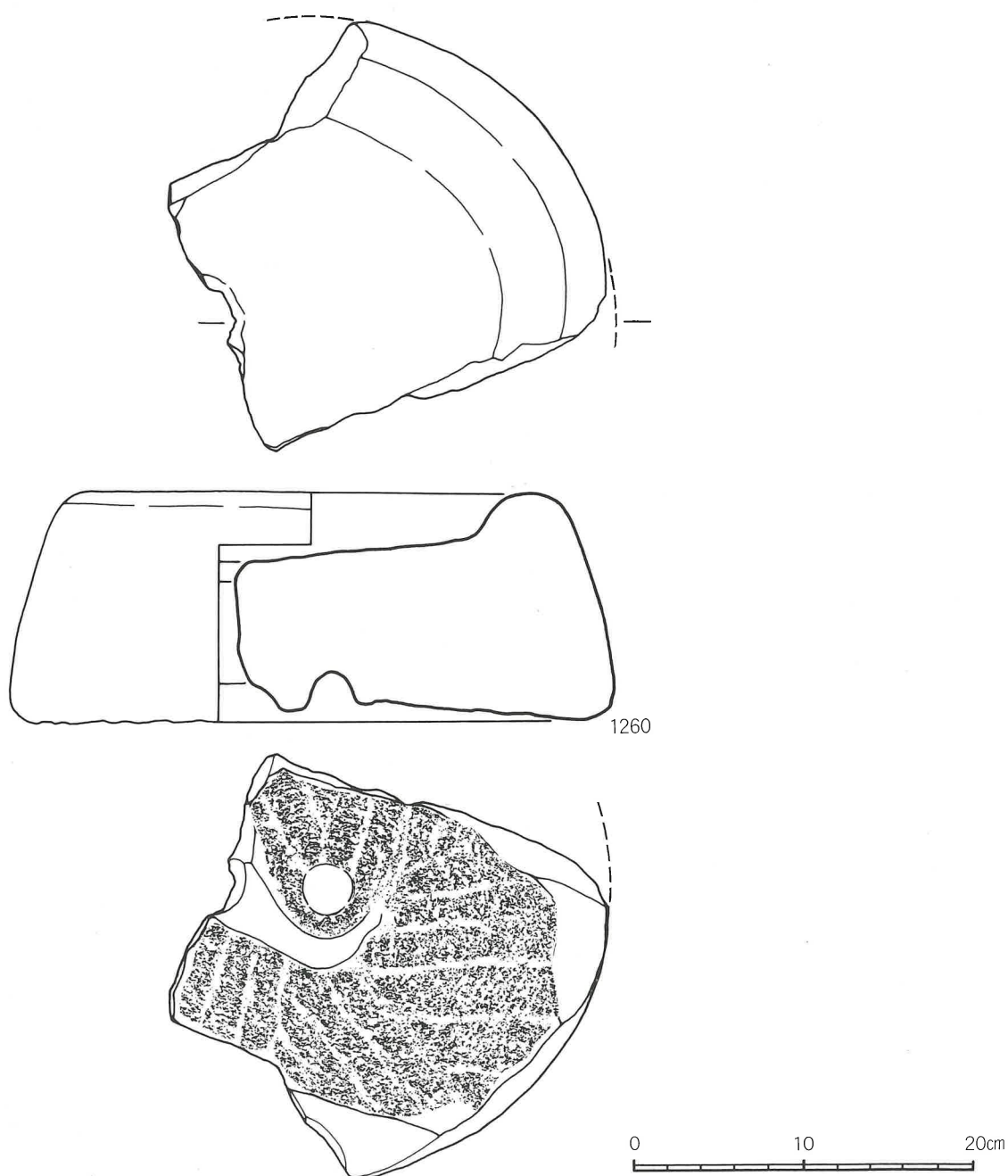


第621图 八坂中遺跡溝13南边出土土器

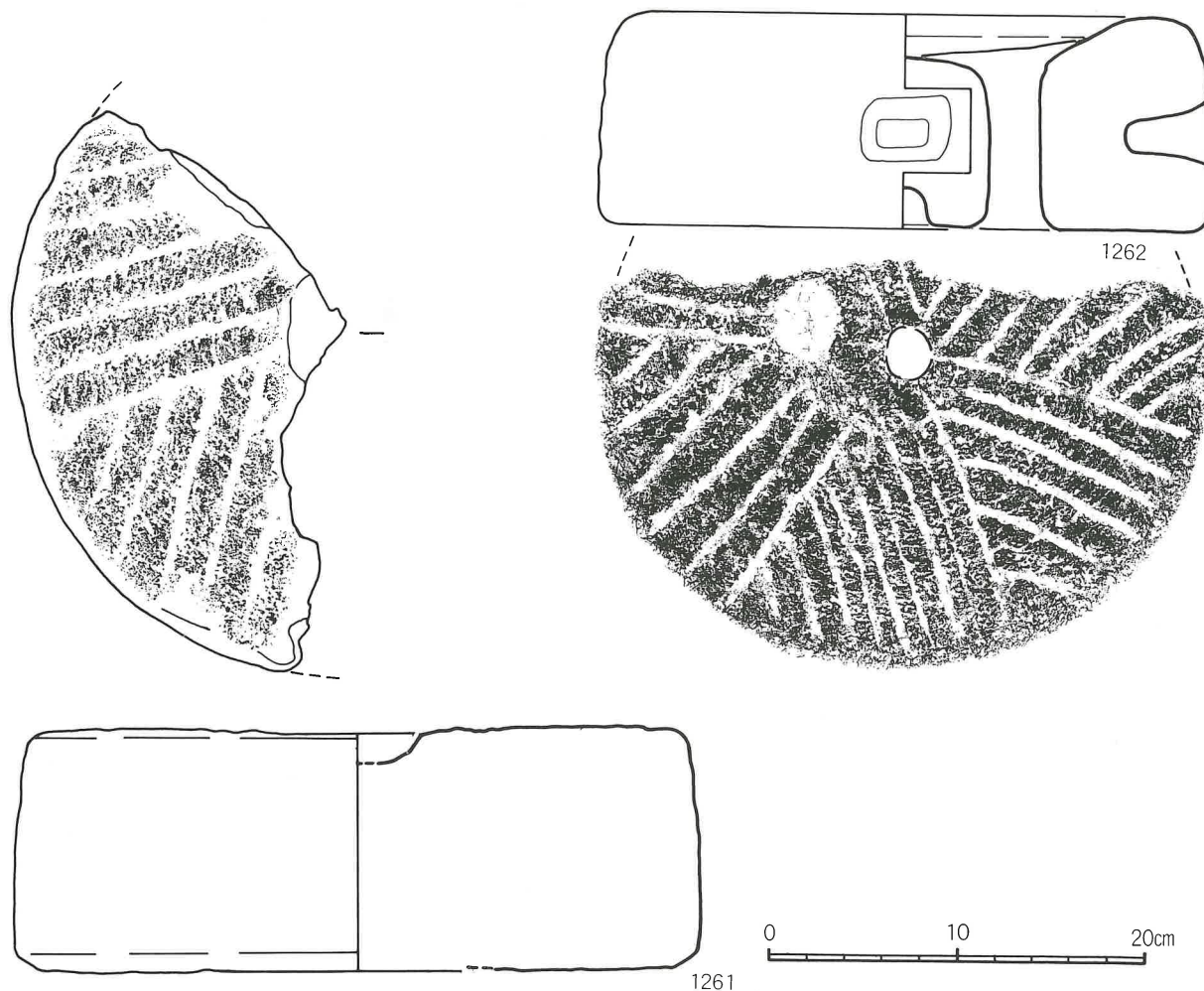
1245～1251は輸入陶磁器である。1245～1249は青磁碗で、このうち1245は口縁部が緩やかな端反りである。1246は、外面にヘラ描きによる剣先蓮弁文をもつもので、剣頭はやや乱れ気味である。1249は底部で、見込み部に胎土目の目積み痕が残る。1250は白磁碗で、やはり目積み痕が見込みに残る。1249、1250は朝鮮産と思われる。1251は青花皿で、口縁直口するものであろう。以上のうち、1245、1246、1249、1250は15、16世紀代に、また1251は16世紀後半に位置付けられる。

1252は瓦質土器火鉢である。口縁内側はわずかに肥厚し、外面には口縁下に2条の突帯が付される。突帯間には雷文のスタンプが配される。16世紀中頃までに主体を置くものである。

1253は土鍋と思われるものである。1254は播鉢である。体部から大きく内湾して口縁にいたるもので、片口をもつ。内面にヘラ描きによる摺目が施されるが、間隔のあいたものである。1255は鉢である。口縁端部が外反



第622図 八坂中遺跡溝13南辺出土石製品(1)



第623図 八坂中遺跡溝13南辺出土石製品(2)

し、端部は尖り気味である。1253と1254の時期は不明であるが、1255は16世紀代のものである。

1256は瓦質土器甕である。直立気味の体部が頸部ちかくで短く内傾した後に、頸部が口縁にむかい直立するものである。口縁端部上面は平坦で、外面はわずかに口縁帯を形成する。体部内面にはハケメがみられる。16世紀後半のものか。1257は備前焼底部である。

1258、1259は土錘である。

石製品（第622、621図）は、いずれも挽白である。1260は上白である。天場のくぼみは供給口にむかい深くなっており、その深さは4.5cmである。下面中央には芯棒受けがあり、それを中心に目が配置されている。ふくみは1cm弱を測る。小破片のため明確ではないが、6分画か。1261は下白である。1262は上白である。下面はふくみをほとんどたず平坦である。中央に芯棒受があり、その横に供給口がみられる。目は6分画で、放射状に配された主溝から、右上がりの副溝が5本ないしは8本彫られる。また、側面には角穴の挽手穴がみられる。天場の深さは最大で2cm強を測り、供給口にむかい深くなる。

溝13東辺

土器（第624、625図）のうち、1263は土師質土器坏である。口縁部を欠くが、口径に比して器高の高いものである。内面に幅広のロクロ痕が残る。15世紀後半以降のものか。

1264～1269は輸入陶磁器である。1264は色絵の坏で、口縁部は端反りである。文様には赤色や緑色を用いる。1265は青花碗で、底部が饅頭心タイプのものであろう。16世紀中頃以降に主体を置くものである。1266は口縁端反りの青花皿で、16世紀前半までに主体を置く。1267は青花皿である。口縁直口するものと思われ、16世紀

後半のものである。1268は白磁の坏で、口縁部は端反りの形態をなす。1269は青磁稜花皿で、基本的には15世紀にその中心を置くものである。

1270は唐津系の碗である。底部の高台は、ケズリ出しで作りだされている。また、釉は外面下部には及ばない。時期的には、16世紀末のものである。これについては、溝13を切る溝15からの混ざり込みの可能性がある。

1271～1273は瓦質土器火鉢である。1271は口縁部で、口縁部外面を肥厚させない。口縁下には2条の突帯を付し、その間にスタンプ文を配する。16世紀中頃までに主体を置くものである。1272、1273は底部で、脚が付される。1272は板状の貼り付けを行い脚とするものである。また、1273は板状の貼り付けに加え、さらに長方形の粘土を付加することにより装飾性を高めている。形式的には1273→1272の順で変化するものと思われる。両者とも16世紀中頃までに主体を置くものである。

1274～1277は土鍋である。1274は直口口縁を呈するものである。外面には横方向のケズリがみられる。時期は明確にしがたいが、外面のケズリから15、16世紀のものと思われる。1275は口縁部付近に強いヨコナデが施されるため、わずかに外に折れ段が付く。端部は上方につまみ上げられる感じで、断面三角形気味を呈する。また、体部外面にはケズリがみられる。16世紀代に比定される。1276、1277は脚であるが、時期は断定しがたい。

1278～1283は備前焼播鉢である。1278は口縁部があまり発達しておらず、上方にやや引き上げた感じのものである。内面の摺目は8本単位である。14世紀後半から15世紀初の時期か。1279は小型品である。口縁は上方に長く引き上げられた感じである。内面の摺目は4本単位である。15世紀前半か。1280は厚みのある口縁部で、端部内側が内傾する。体部はわずかしが残存しないが、内面全体に摺目がみられるようである。16世紀末～17世紀初のものか。この1280は、溝13を切る溝15からの混ざり込みである可能性がある。1281～1283は底部資料である。内面の摺目は、1281が7本、1282が9本、1283が10本である。

1284、1285は瓦質の甕である。1284は、口縁端部を上方に引き上げ気味で、端部にむけ厚みを増す。体部内外面にはハケメが施される。1285は口縁端部を玉縁状にする。

1286～1288は備前焼の甕である。1286は口縁外面の玉縁が、わずかに下方に垂れる。1287、1288は底部である。

1289～1292は土錘である。欠損品を除き、長さは2.6～4.9cmである。

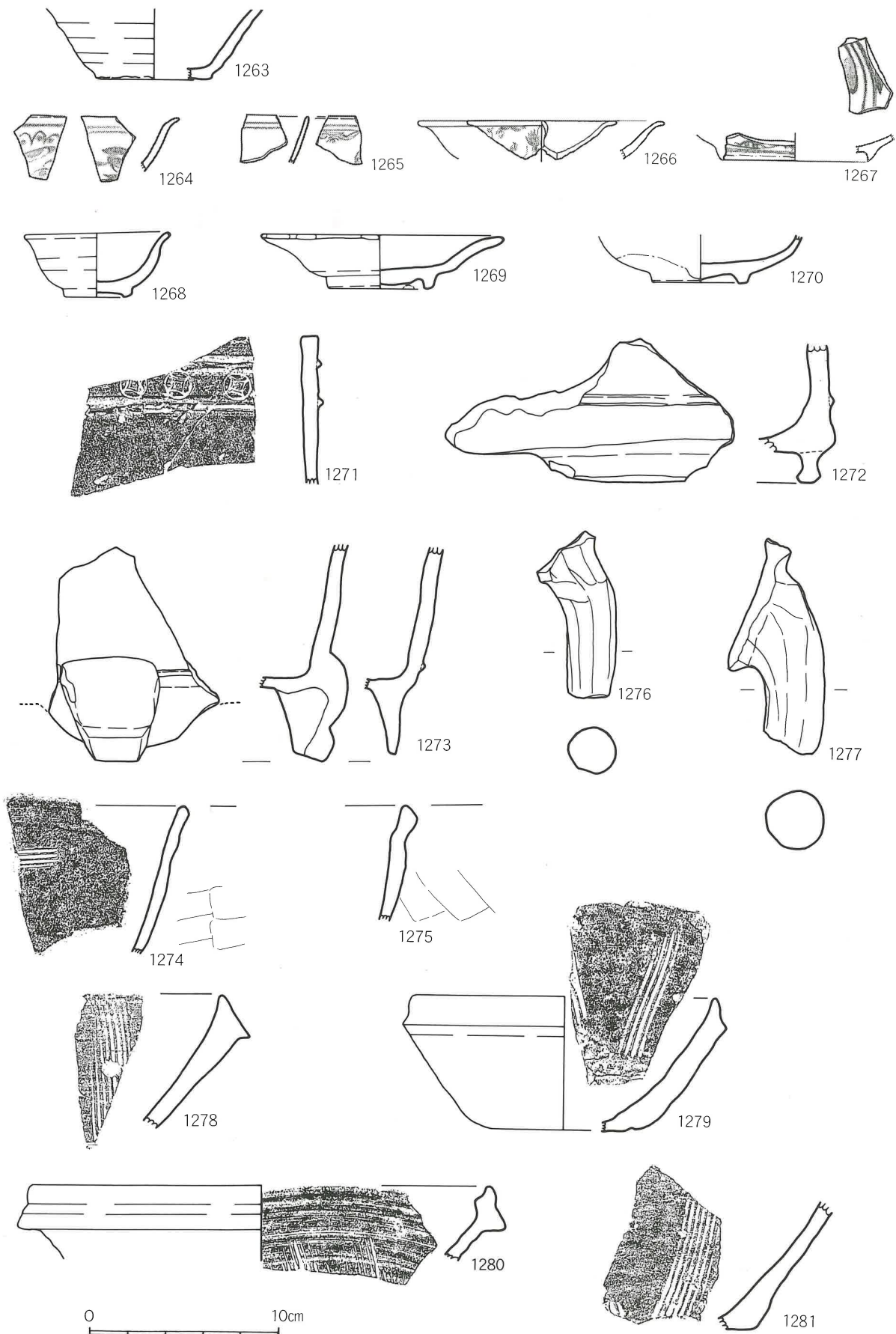
石製品（第625～629図）のうち、1293は砥石である。表裏面とも顕著な使用が認められる。

1294～1297は凹石である。長径17～28.5cmの円礫を使用したもので、いずれも片面をくぼませる。1297については、くぼんだ部分が2ヶ所認められる。

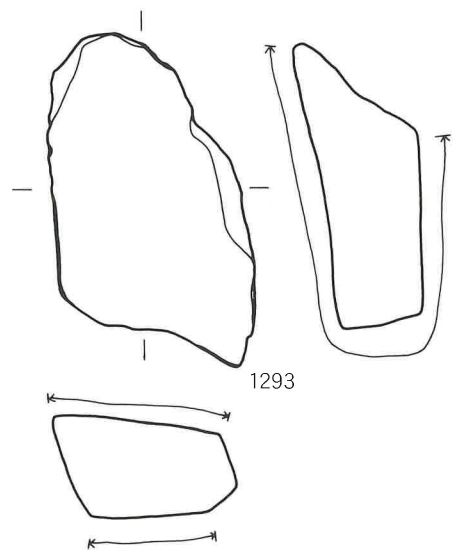
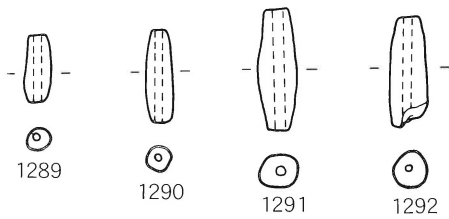
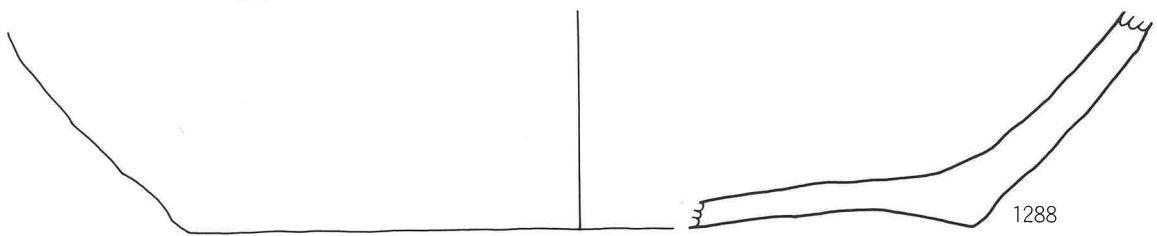
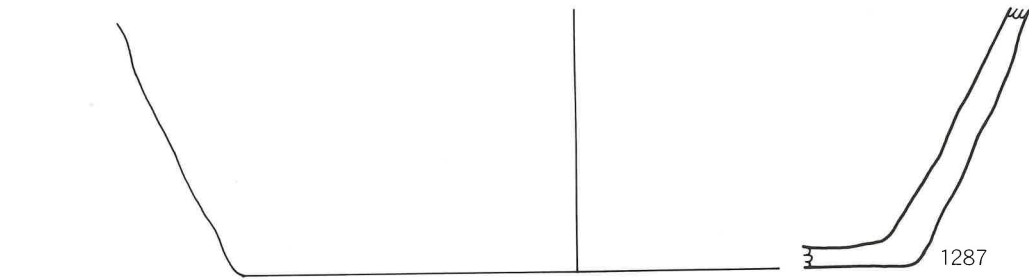
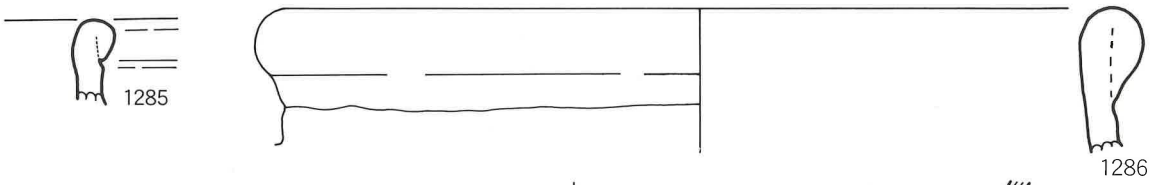
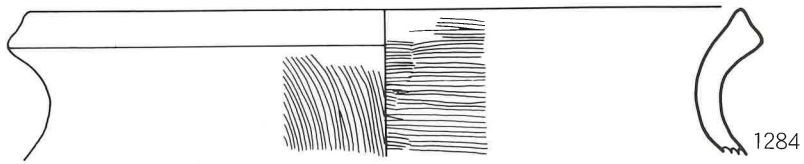
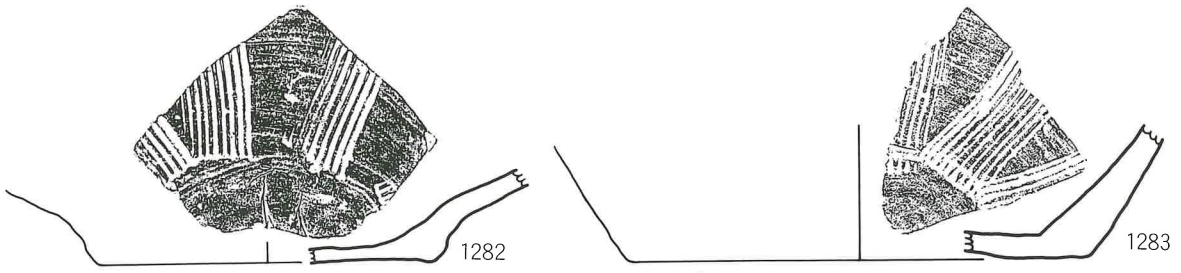
1298、1299は石臼で、両者とも挽臼の上臼である。1298の天場は供給口にむかい深くなっており、その深さは4.6cmを測る。下面はほとんどふくみをもたず、ほぼ平坦である。しかし、小破片のため目の分割数などは不明である。1299の天場は丸い供給口にむかい深くなっており、その深さは3cm弱である。側面には角穴の挽手穴が確認される。下面のふくみは0.6cmほどで、目は6分割であったと思われる。放射状に主溝を配し、主溝から右上がりの副溝を5本前後設ける。全体として目は雑な感がある。

1300～1306は五輪塔である。このうち1300、1301は宝珠で、五輪塔空・風輪と考えられる。1300は柄を欠損するもので、空輪部はかなり扁平である。空・風輪部の境界の表現もかなり雑なものとなっている。1301は空・風輪部の境界の表現も明瞭で、空輪部の高さも高い。1302、1303は火輪部である。1302は軒口がやや厚く、反りもやや急である。上面には、塔空・風輪を受ける柄穴がみられる。1303は、軒の下部に垂木状の造り出し、加えて上部に露盤をもつ。軒の反りは、直線的で急である。1304、1305は地輪部である。1304は無段のもので、柄穴などはみられない。1305は上面に段を有するもので、段には連弁文を彫りだす。剥落等が著しいが、連弁文は複弁八葉で間弁はもたないようである。中央に柄穴があり、下面からは大きく挟り込む。1306は火輪部で、上面に段を有する。四方に梵字を配していたようであるが、剥落が著しく2ヶ所しか読むことができない。

1307（第630図）は刀子で先端部を欠損する。刃幅は1.2cmと細身である。

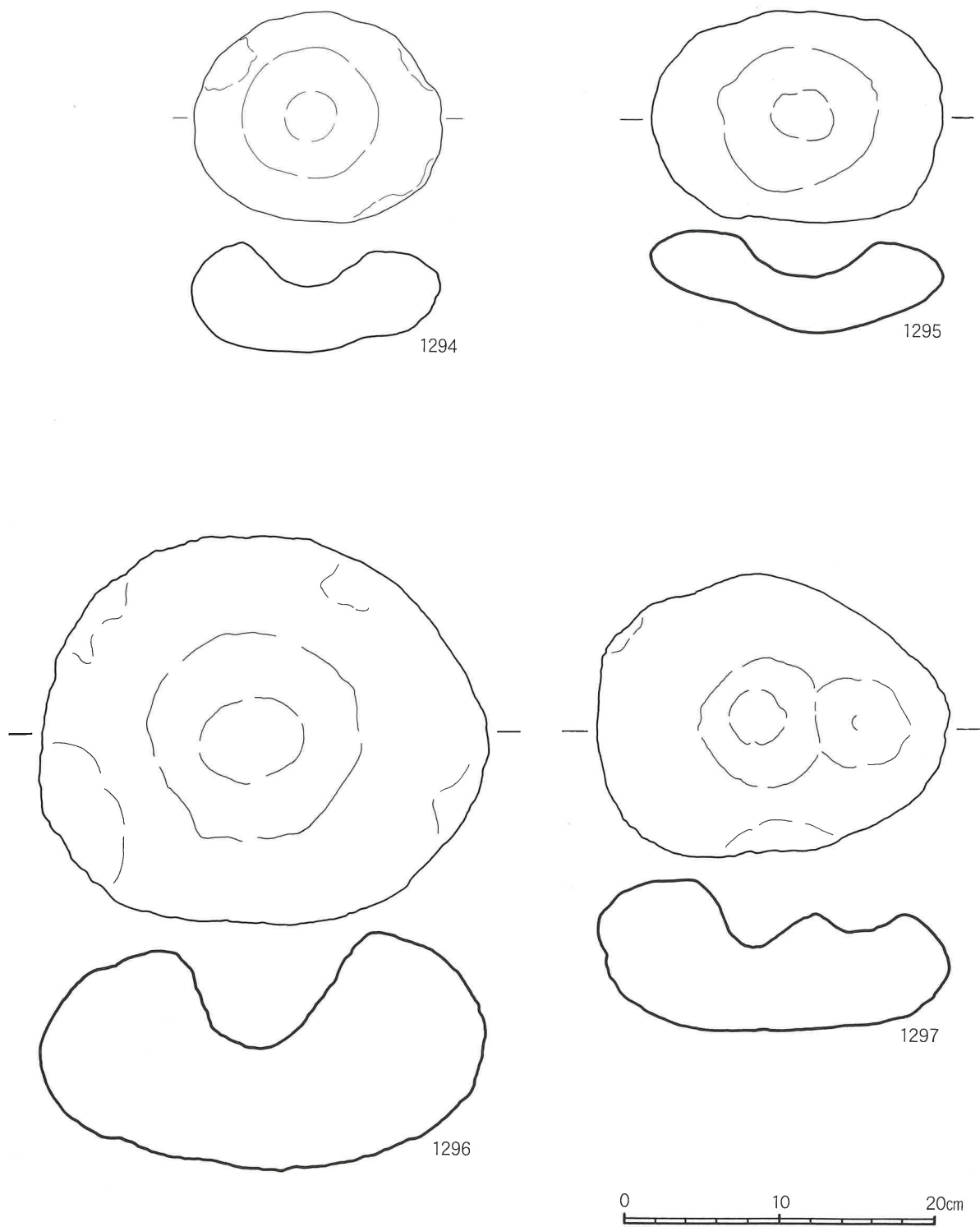


第624図 八坂中遺跡溝13東辺出土土器(1)

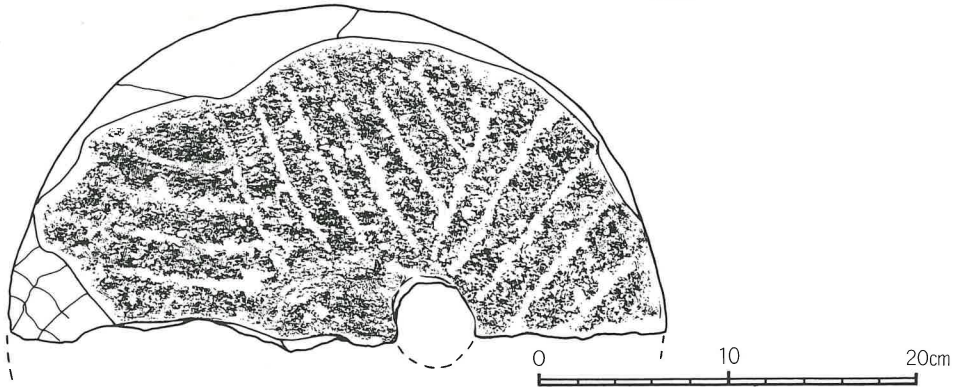
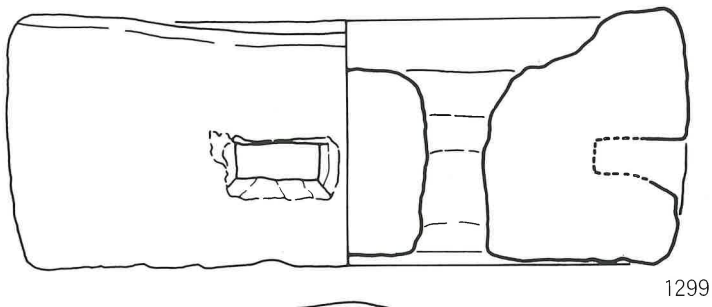
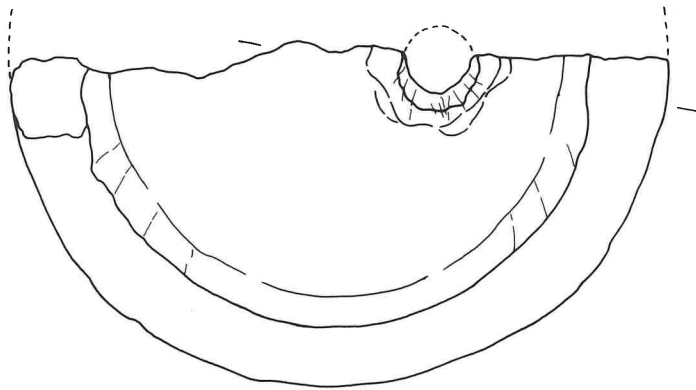
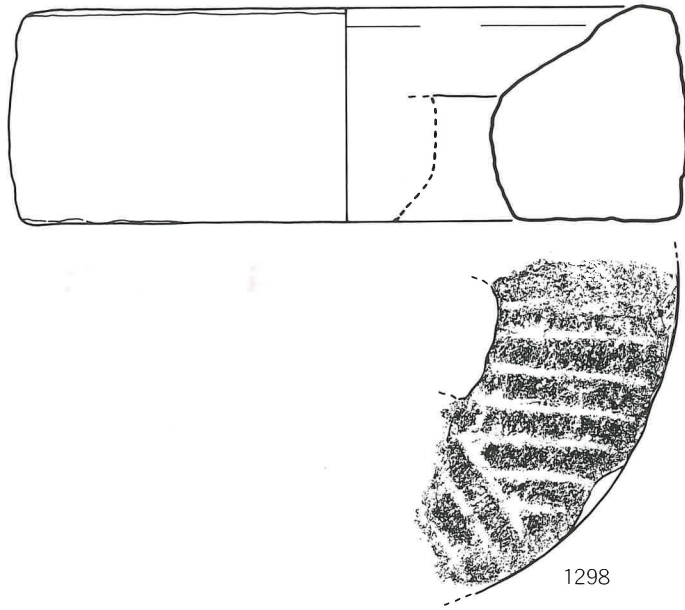


0 10cm

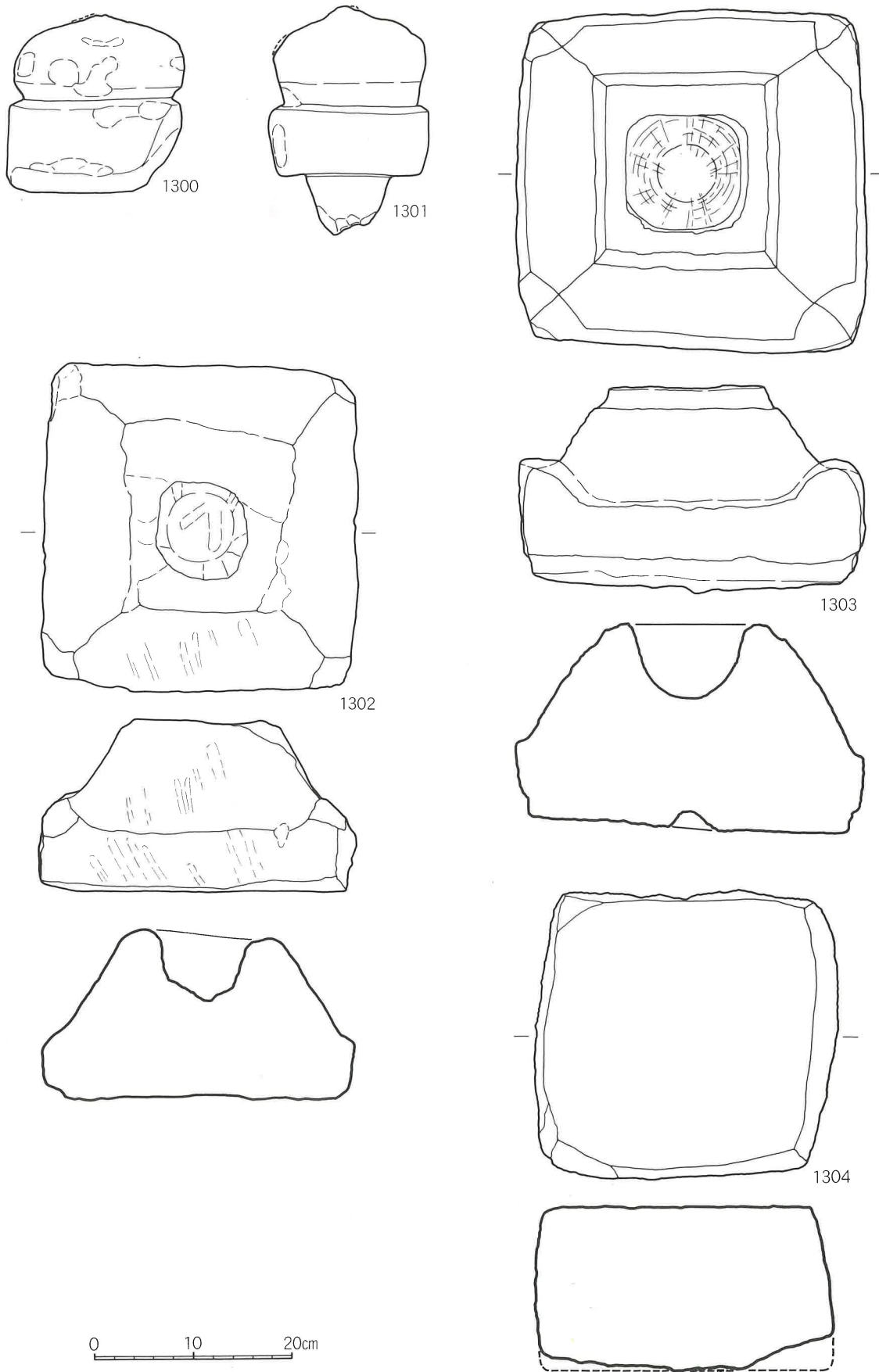
第625図 八坂中遺跡溝13東辺出土土器(2)、石製品(1)



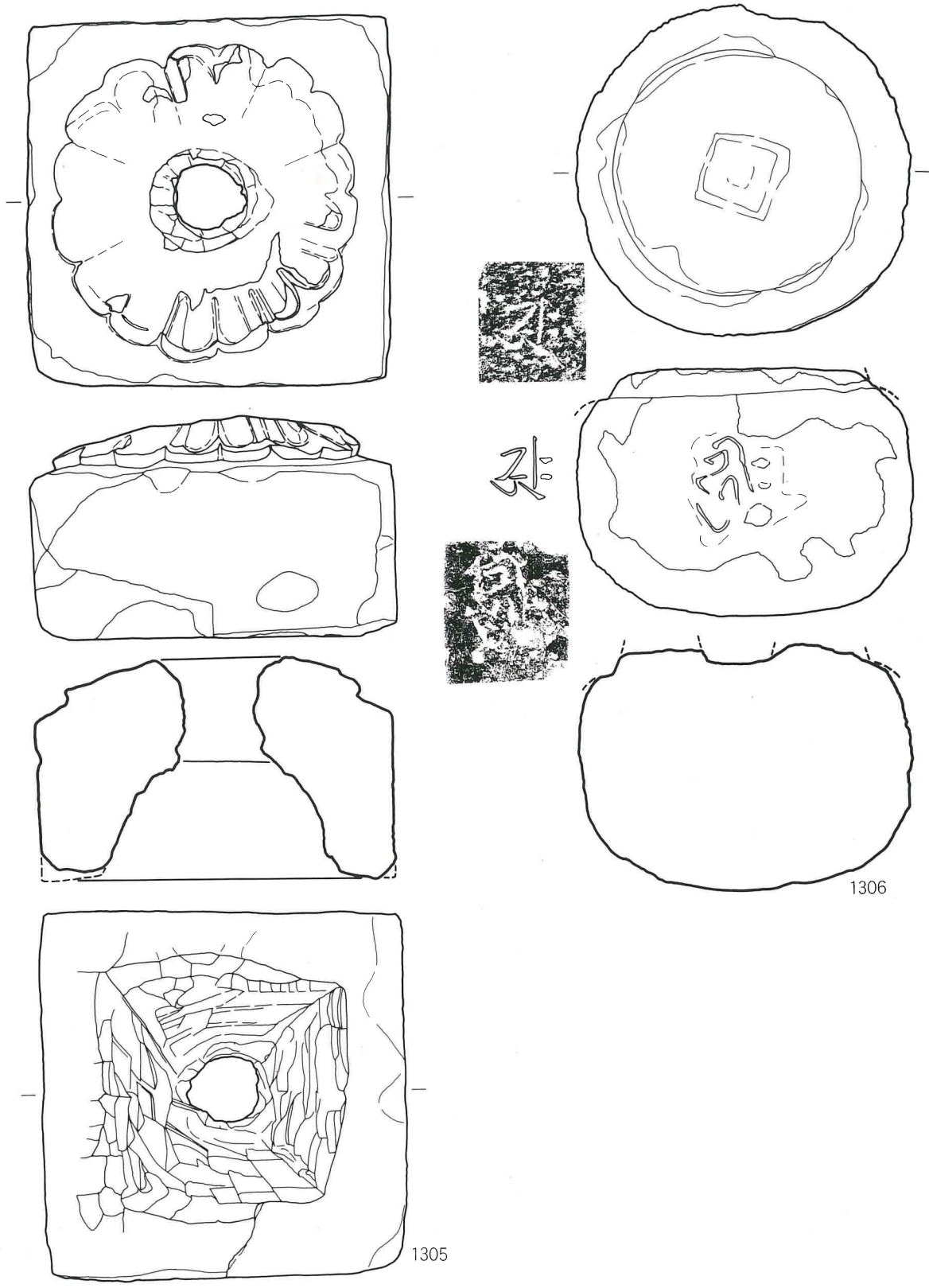
第626図 八坂中遺跡溝13東辺出土石製品(2)



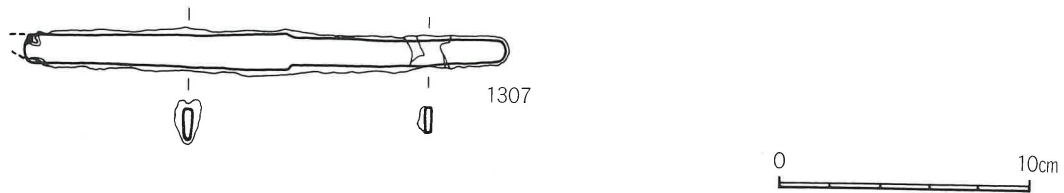
第627図 八坂中遺跡溝13東辺出土石製品(3)



第628図 八坂中遺跡溝13東辺出土石製品(4)



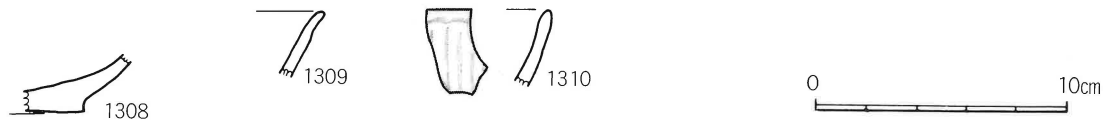
第629図 八坂中遺跡溝13東辺出土石製品(5)



第630図 八坂中遺跡溝13東辺出土鉄製品

溝16

溝16から検出された遺物は少ない（第631図）。1308は瓦器碗底部である。東国東型瓦器碗でも、明確な平底を呈する段階のものである。13世紀後半～14世紀初のもの。1309は白磁碗。1310はヘラ描きによる剣先連弁文で、15世紀から16世紀前半に主体を置くものである。



第631図 八坂中遺跡溝16出土土器

溝10（居館1～居館2南側）

土器（第632、633図）のうち、1311と1312は土師質土器小皿である。いずれも底部糸切りで、復元口径は8.6～8.8cmである。立ち上がりは比較的シャープで、13世紀代のものか。

1313と1314は土師器碗である。1313は高台が高く、11世紀代のものであろう。1314は小型品である。底部を丸く押し出し、高台を貼り付ける。12世紀代のものか。

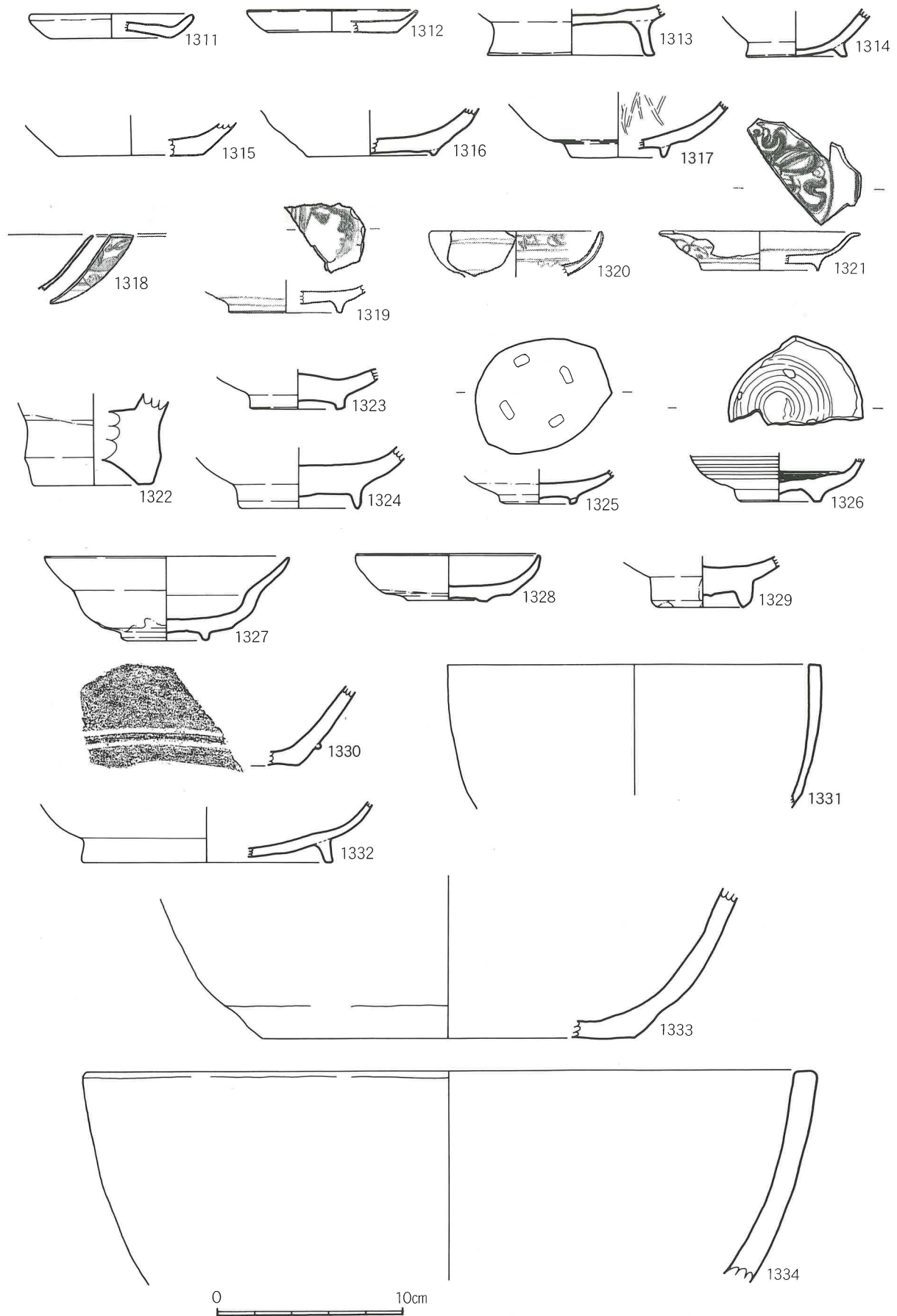
1315～1317は瓦器碗である。いずれも東国東型瓦器碗で、1315は完全な平底、1316は低い高台が付く。また、1317は内面にヘラミガキがあり断面三角の高台が付される。1317が12世紀後半、1316が13世紀中頃～後半、1315は13世紀後半～14世紀初のものである。

1318～1325は輸入陶磁器である。このうち1318～1321は中国明代の青花である。1318は碗で、鮮やかな発色である。1319は碗底部で、蓮子碗と饅頭心碗の中間形態をなす。文様の発色は悪い。1320は直口口縁の皿である。文様は緑色に発色する。1321は端反り口縁の皿である。1321が16世紀前半までを主体に、1318が16世紀中～後半を主体に、1319、1320が16世紀後半以降に主体を各々置くものである。1322は中国製白磁四耳壺の底部である。11世紀後半から12世紀前半のもの。1323、1324は中国製青磁碗底部である。1325は朝鮮製白磁皿底部で、見込みに目積み痕が残る。15世紀代のものか。1326は朝鮮製粉青沙器碗である。15、16世紀に比定される。

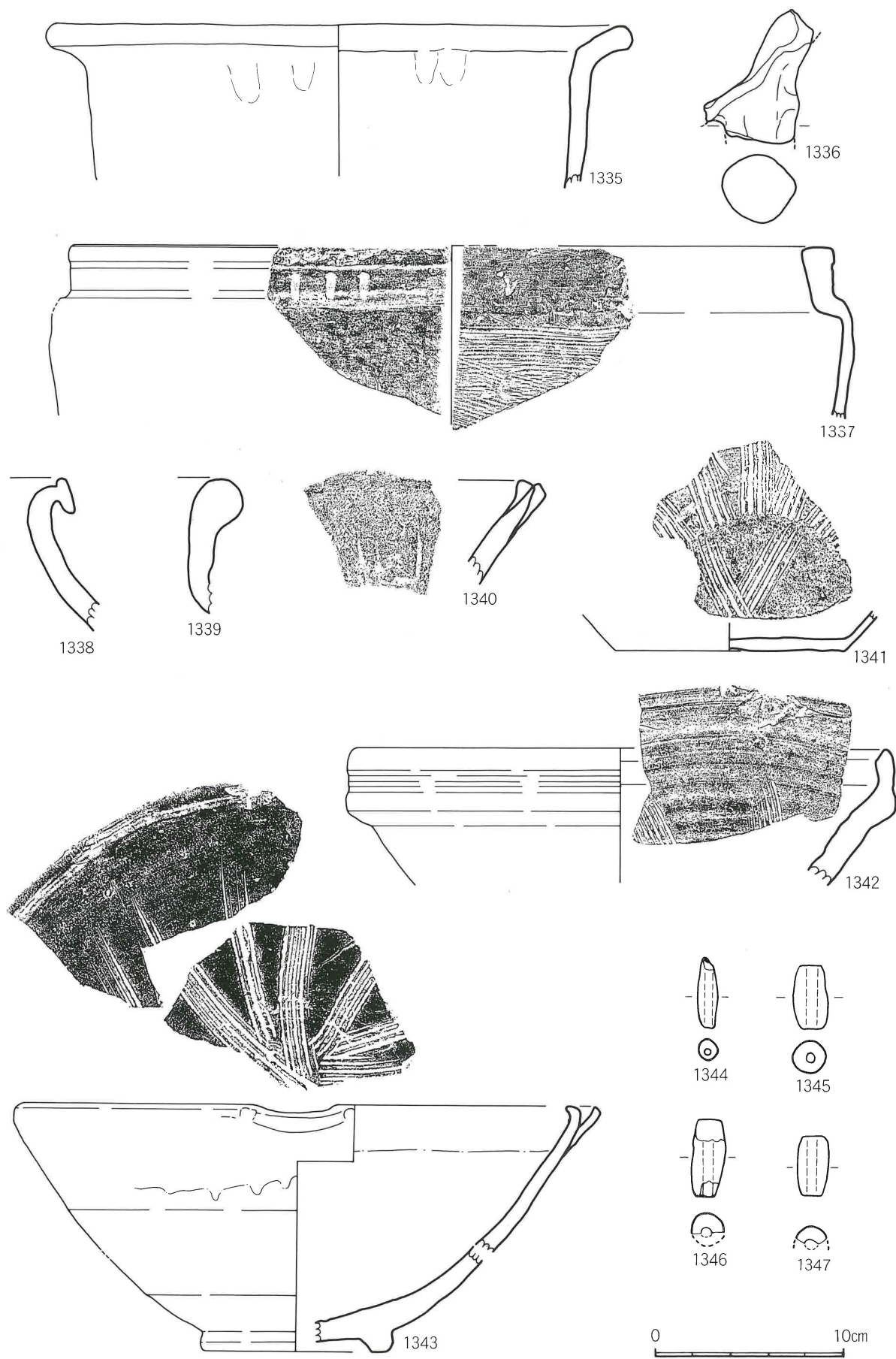
1327～1329は唐津系のものである。1327は岸岳系の製品と思われる。藁灰釉の発色は青白色で、加えて窯変でピンクがかった釉が流れる。1580～1590年代のものか。1328は皿である。外面高台部を除き緑色釉がかかる。16世紀末～17世紀初めのものか。1329は鉢あるいは皿の底部である。

1330～1334は瓦質土器鉢である。1330は火鉢と思われるもので、体部が斜方向に立ち上がる。器高の低いものと推定され、15世紀代にのぼる可能性をもつ。1331と1332は同一個体と思われる。比較的小振りのもので、体部が口縁にむけ直立気味に立つ。底部には高台が付される16世紀代のものであろう。1333はやや厚みをもつもので、高台などはもたない。1334は口縁部で、厚い器壁をもつ。

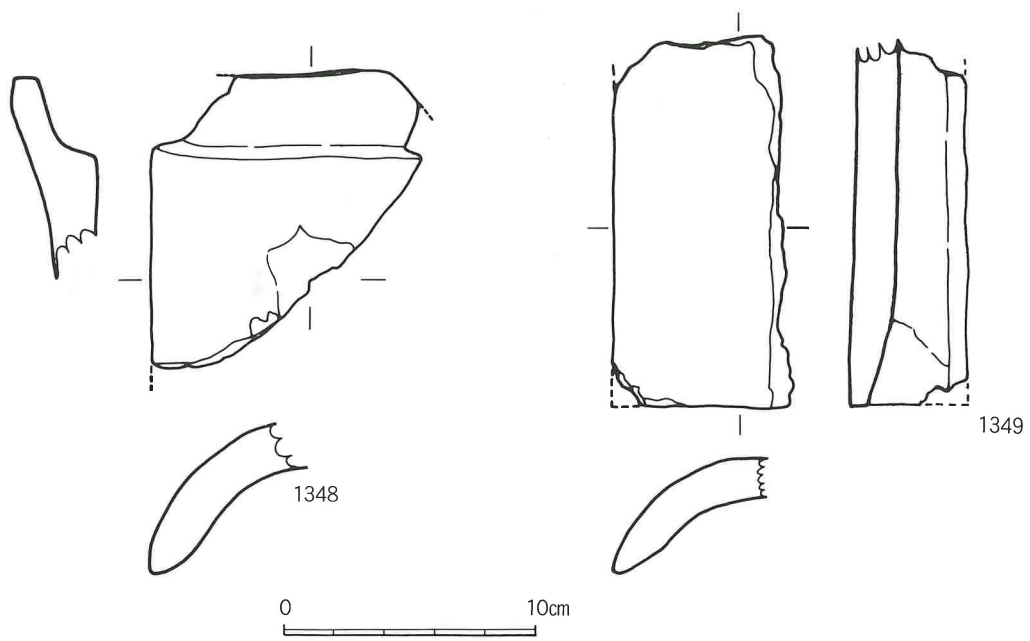
1335、1336は土鍋である。1335は体部が深めで、口縁は外に折れる。12世紀前半か。1336は脚である。



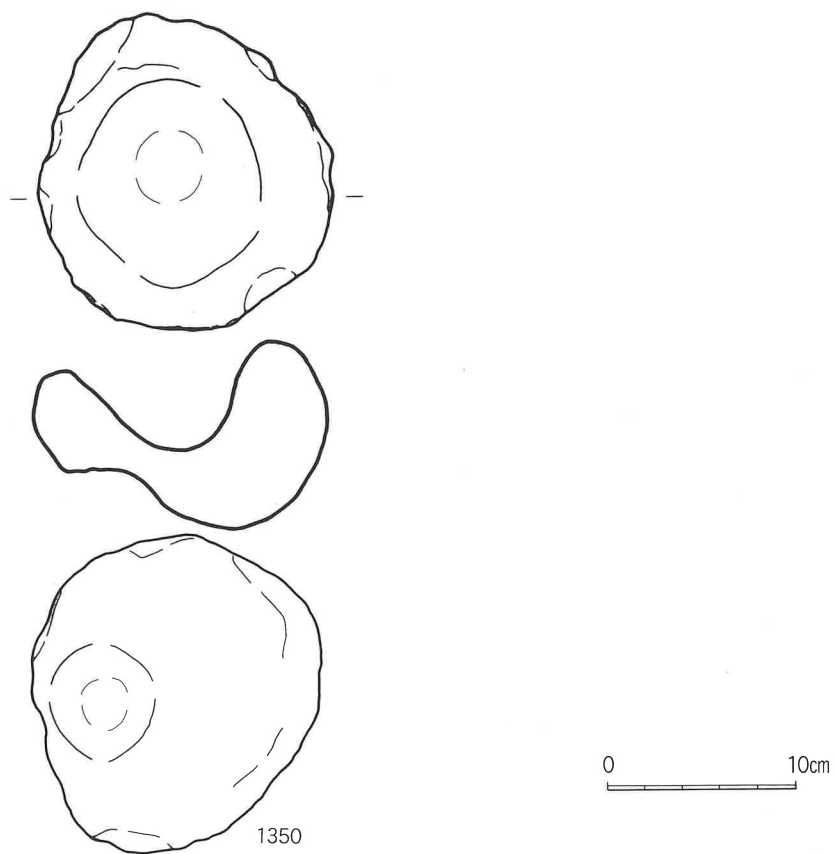
第632図 八坂中遺跡溝10(居館1~居館2南側)出土土器(1)



第633図 八坂中遺跡溝10(居館1~居館2南側)出土土器(2)



第634図 八坂中遺跡溝10(居館1～居館2南側)出土瓦



第635図 八坂中遺跡溝10(居館1～居館2南側)出土石製品

1337～1339は甕である。1337は瓦質で、直立する体部から短く内側に折れ頸部にいたる。頸部には列点文状の沈線が施され直立する。口縁部は若干肥厚し、口縁帯を形成する。体部内面にはハケメがみられる。16世紀代か。1338は常滑焼で13世紀後半から14世紀のもの。1339は備前焼で、14世紀代のものか。

1340～1343は播鉢である。1340は防長系の可能性をもつもので、口縁内面が三角形にわずかに肥厚する。1341は瓦質のもので、内底面にも摺目が施される。1342は備前焼である。口縁外面に凹線をもち、口縁端部は内傾する。16世紀代のもの。1343は唐津系のものである。底部には削りだしの高台が付き、口縁部は短く内湾する。口縁部内外面にのみ灰釉が施釉される。摺目は内底面から体部にかけて放射状にみられ、摺目の単位は3～5本である。

1344～1347は土鍾である。

1348、1349（第634図）は、ともに丸瓦である。

1350（第635図）は凹石である。円礫の両面にくぼみがみられ、深い方は深さ5cmを測る。

以上のうち、溝10cに伴うと思われるものは、1312～1314、1316、1325、1327～1332、1335、1340、1343、1350である。なかでも、唐津系の1327～1327、1343は、溝10cがT字状に分かれる位置から集中して検出されている。

（11） 居 館 2

居館2（第636図）は、居館1の東側に位置する。溝11により方形に画されるもので、その規模は溝の内側で、南北32～35m、東西26～29mを測り、南北方向がわずかに長い。さらに、居館2の北側には、居館3が1～2.5mの間隔をもち隣接しており、南側と東側は居館1の南側から続く溝10が溝11の外側を平行しながら走る。居館を画する溝には掘り直しも認められることから、居館自身も何段階かの変遷があったものと考えられる。

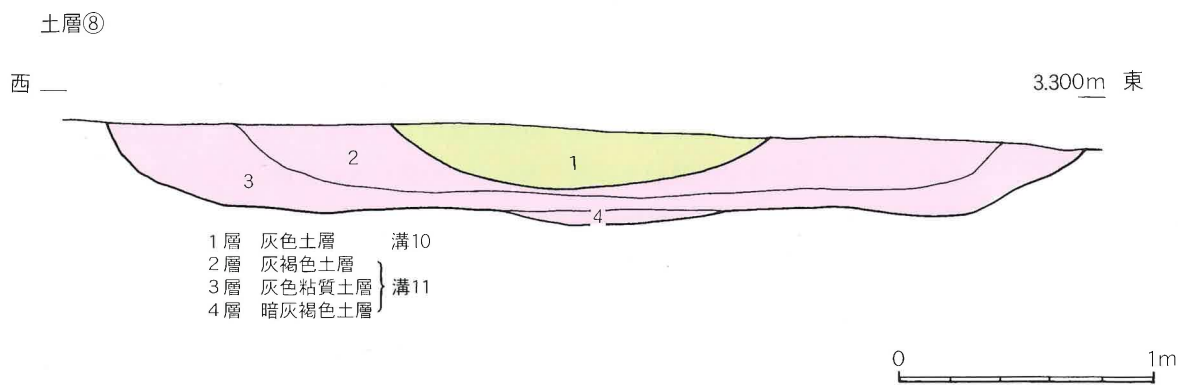
・溝11

溝11は各辺で幅が異なり、北辺で2.5～3.0m、西辺で2.0～2.5m、南辺で0.8～1.0m、東辺で0.8～1.5mである。深さについても南辺と東辺の南半分は0.2mほどと、他に比べると著しく浅い。溝は北辺の中央からやや西寄りの位置、及び北東コーナーで切れており、通路の役割を担ったものと考えられる。以下では、溝の掘り直しや切り合い関係をみていくが、西辺では土層⑤（第616図）で分かるように、溝11及び居館1を囲む溝13、さらにそれらを切る溝15（溝10c）が埋没した後に、溝11から溝13にわたる幅8m余にわたり、深さ0.5mの掘り込みがなされる。これは土層④（第615図）や土層⑧（第637図）ではみられず、西辺中程付近で終わっている。北側は土層⑥、土層⑦（第616図）でもみられることから、長さ40m余にわたっていたことが分かる。

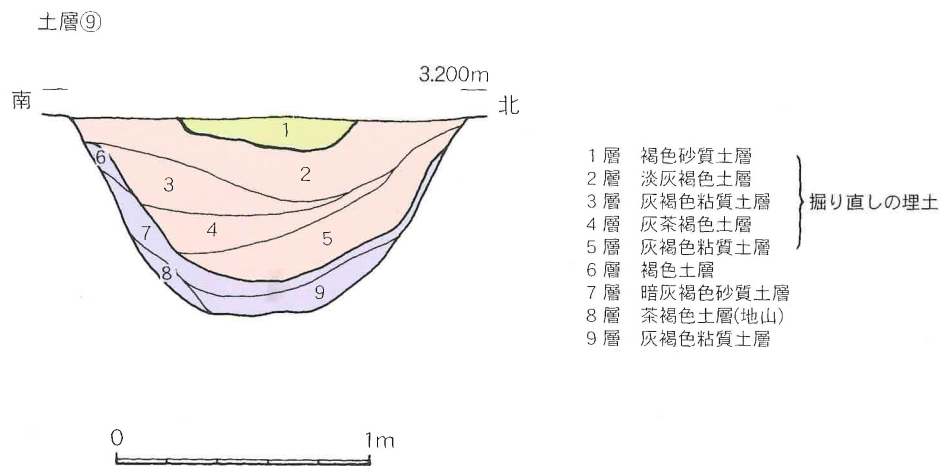
下部にマンガンの沈殿などもみられることから、水が溜まっていたことが想定され、水溜め的な性格を有するものであろうか。時期を決定できる遺物はないが、近世に入るものと思われる。同じような状況は東辺でもみられ、土層⑩（第639図）、土層⑪（第640図）で分かるように溝11と溝10にまたがる幅3.5～5.0mで、東辺全体にわたりみられる。しかし、東辺から曲がった南辺や北辺には及ばない。次に溝11自体をみてみると、土層⑤でみられるように確実に掘り直しがみられ、古相を溝11a、新相を溝11bとする。しかし、西辺の南端にある土層⑧では溝11aがみられず、このあたりでは溝11bの掘り直しのため溝11aの痕跡がのこらなかったものであろう。土層⑤では、溝11bと溝13を切り溝15が掘り込まれる。土層⑧では、溝11bと溝13を切り溝10cがみられる。溝15と溝10cは同一の溝と思われ、そのまま溝10にのび、T字状に分かれる。南辺から東辺にかけては、深さの高低はあるものの、溝11bのみが確認されることが土層⑩（第639図）や土層⑪（第640図）から分かる。北辺では土層⑫（第641図）、土層⑬（第642図）、土層⑭（第643図）で、溝11aののちに掘り直しの溝11bが掘られたことが分かる。土層⑭では、溝11bの後に溝15が掘られている。次に溝周囲の土塁であるが、溝11aの段階では、この層が残る北辺のみの状況ではあるが、溝の北側に土塁があったようである。溝11b段階では北辺の東半分は溝の北側に、また西辺は溝の西側に各々土塁が存在したものであろう。他の部分については不明である。溝の時期については厳密には確定しにくい、溝11bは少なくとも16世紀後半には埋没



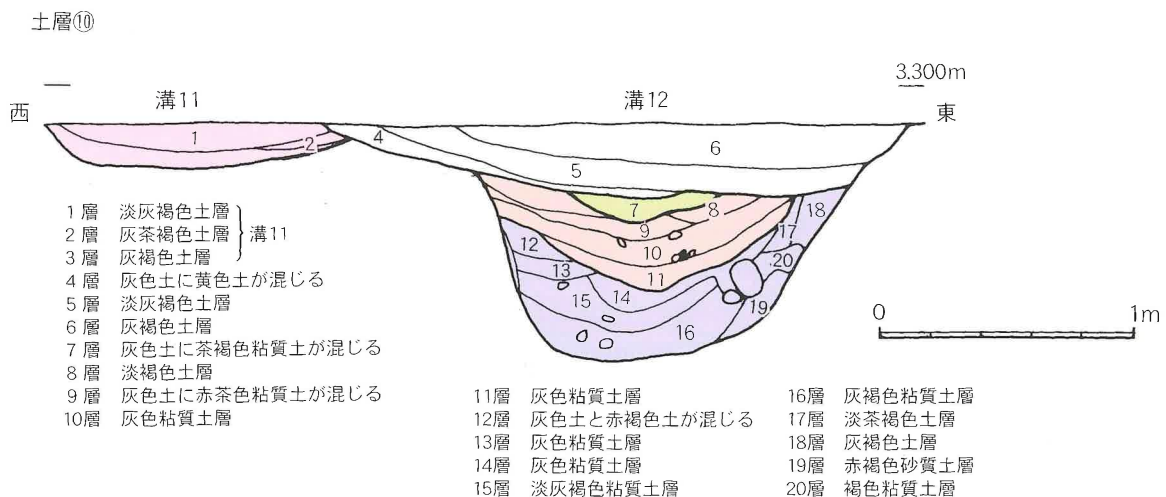
第636図 八坂中遺跡居館2



第637図 八坂中遺跡居館2周辺の溝土層図(1)



第638図 八坂中遺跡居館2周辺の溝土層図(2)

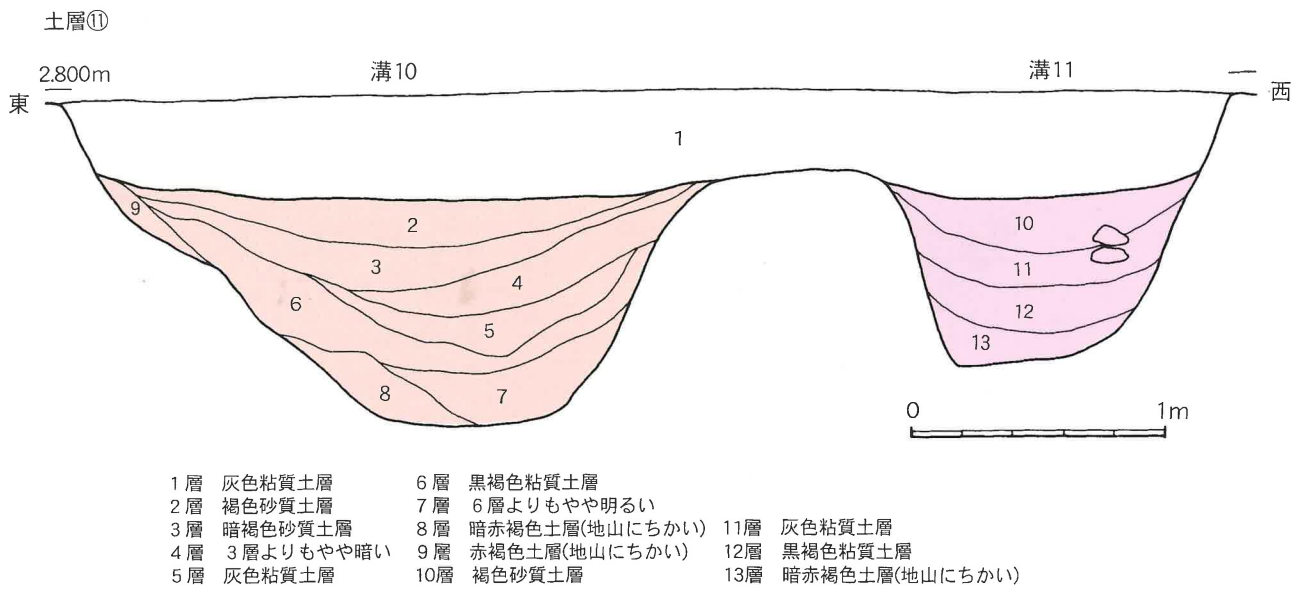


第639図 八坂中遺跡居館2周辺の溝土層図(3)

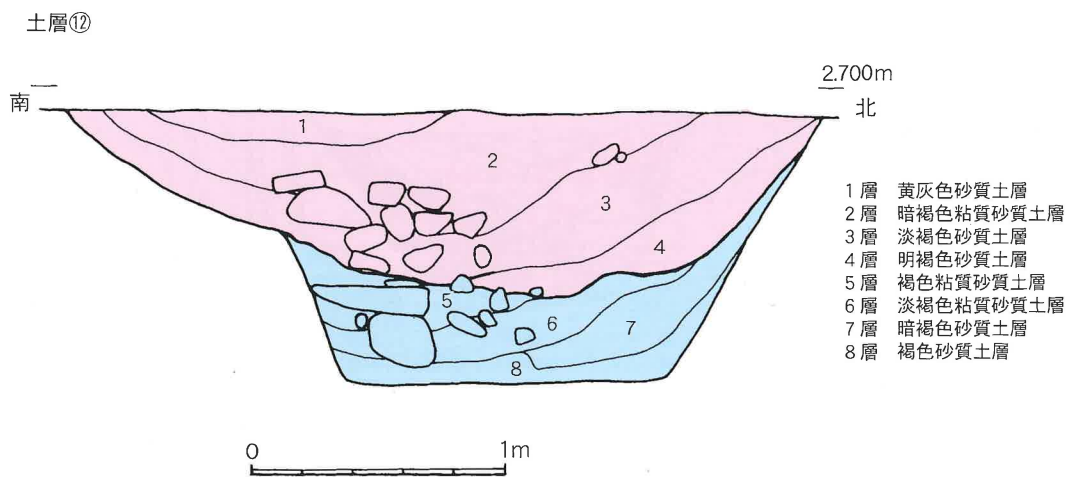
しているものと思われる。溝11 aについても16世紀代に埋没しているようで、その状況から掘削時期についてもそれほど遡らない時期であろうことが想定される。

・溝10

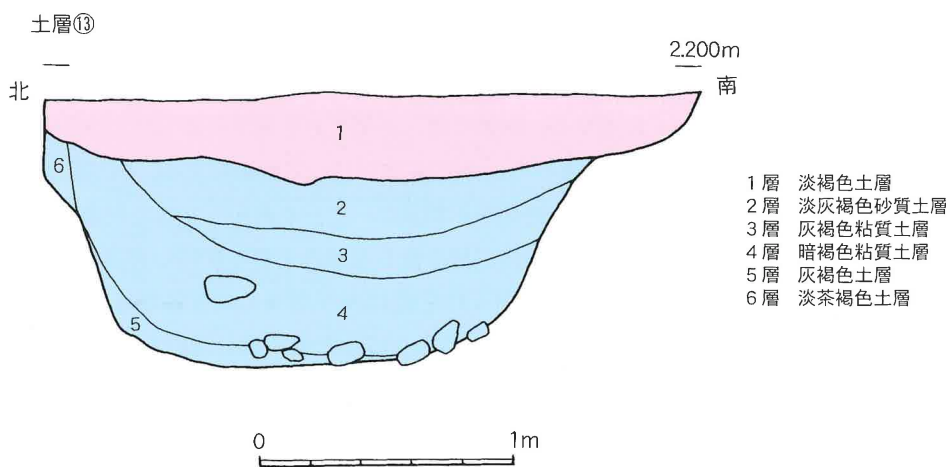
居館2の南側及び東側の溝10について説明する。南側では、居館2を形成する溝11とは0.5~1.0mの間隔をもち平行して走る。2本の溝は南東コーナーを曲がり、そのまま平行して東辺を走る。溝10の規模は、南辺で幅1.5~2.5m、東辺で2.0~2.5である。このうち、南辺から南東コーナーを曲がったあたりまでは、土層⑨(第638図)や土層⑩(第639図)にみるように確実に2度の掘り直しを確認できる。古い方から溝10 a、溝10 b、溝10 cである。溝10 cへは、溝11と溝13を切って掘られた溝15がT字状につきあたる。T字状につきあたる後、西へのびると幅を急激に広げるが、東方向には幅0.6~0.7mと幅を減じていく。東方向へは深さも0.2mしかなく、幅数m、深さ1m余を測る前代の溝とは隔絶の感がある。溝10 aに関しては、下層においてわずかに残るのみで、東辺ではその痕跡を留めない。溝に伴う土塁については、溝10 c段階では土層の観察からでは明らかにできない。溝の規模から考えて、土塁と呼べるようなものは築造されなかった可能性が高い。溝10 bの段階では、南辺は溝の北側、すなわち溝10と溝11の間に土塁があったものと思われる。しかし、東辺では溝10



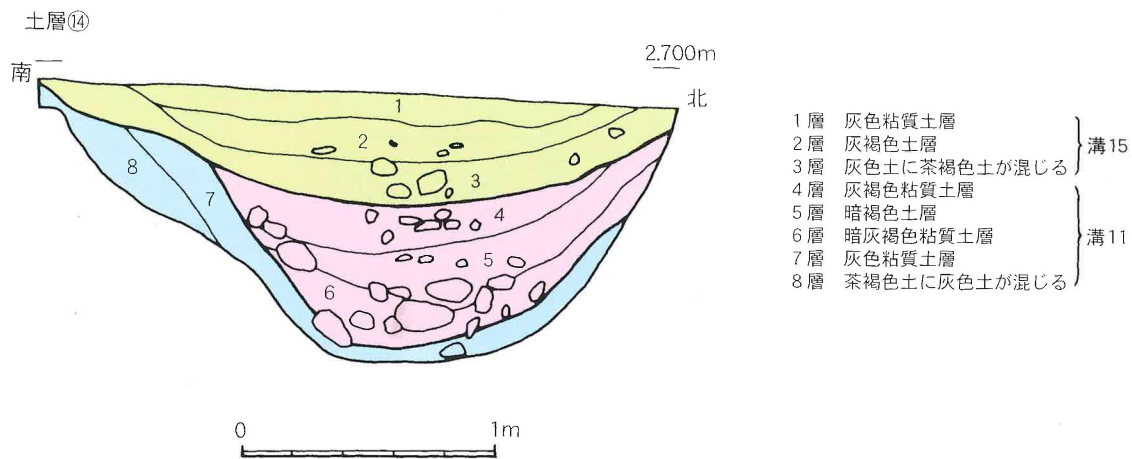
第640図 八坂中遺跡居館2周辺の溝土層図(4)



第641図 八坂中遺跡居館2周辺の溝土層図(5)



第642図 八坂中遺跡居館2周辺の溝土層図(6)



第643図 八坂中遺跡居館2周辺の溝土層図(7)

の東側にあった可能性が高い。溝の時期は明確にしがたい部分も多いが、溝10 cが16世紀末に、溝10 bが16世紀後半から末に各々埋没していると考えられる。溝10 aについても16世紀代に埋没していると考えられる。その状況から、掘削の時期も大きく遡らないものと理解される。

・出土遺物

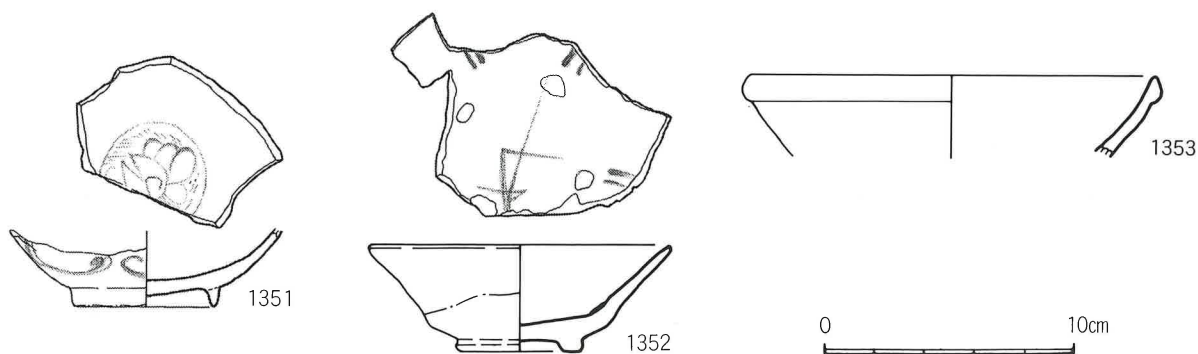
溝11南半

土器(第644図)は全体に少なく、図示できたものは3点のみである。1351は中国明代の青花碗である。文様は、輪郭を濃い細線で描き中をダミで塗りつぶす方法ではなく、一筆描きで描く。底部は蓮子碗と饅頭心碗の中間形態をなす。时期的には、16世紀前半までに主体を置くものである。

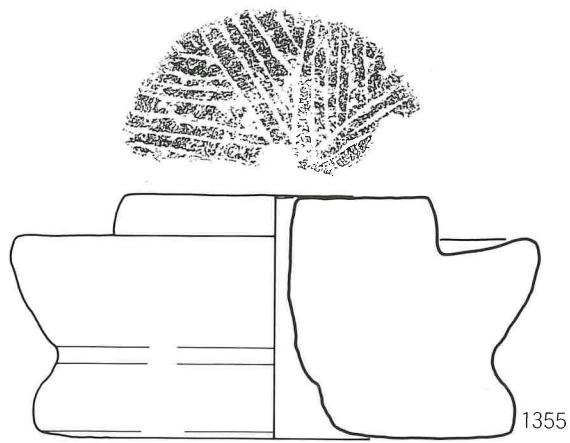
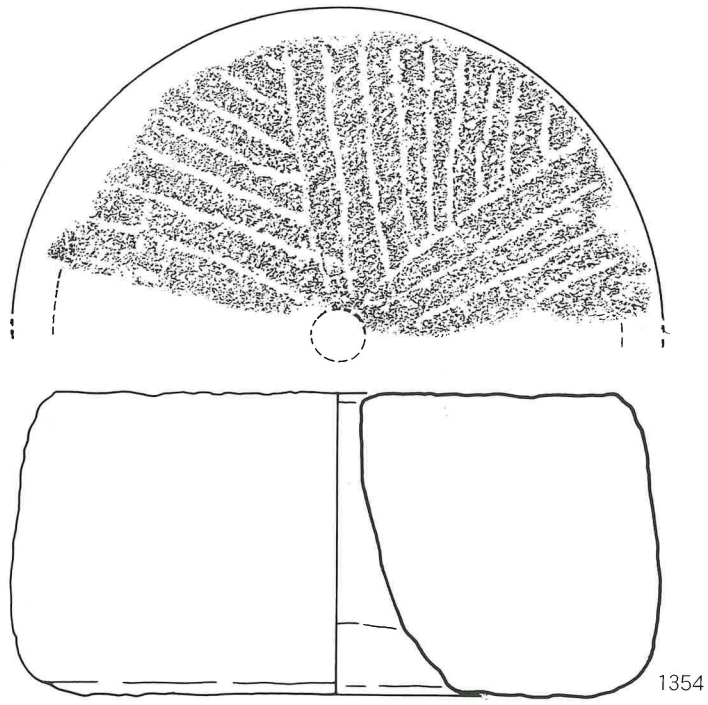
1352は唐津系の陶器碗である。内面には鉄絵による文様が描かれる。高台は削りだして、外面下半以外には灰緑色の釉がかかる。また、内底面には4ヶ所の目積み痕がみられる。16世紀末に比定される。本品は、溝11を切る溝15に属する可能性が高い。

1353は白磁碗である。口縁部が玉縁をなすもので、11世紀後半～12世紀前半に比定される。

石製品(第645、646図)はいずれも石臼である。1354は挽臼の下臼である。中央に芯棒穴があり、穴は下部にいくにつれ径が大きくなる。目は6分割と思われる。1355は茶臼の下臼である。中央に芯棒穴があり目は8分画か。全体として整然さを欠くものである。1356は扁平な感を呈する挽臼の上臼である。下面には中央に芯棒受けがあり、ふくみは1.2cmを測る。破片のため明確ではないが、目は4分画と思われる。1357も挽臼の上臼である。天場は供給口にむかい深くなり、底面には挽手穴がある。下面は中央に芯棒受けがあり、目は6分割と推定される。

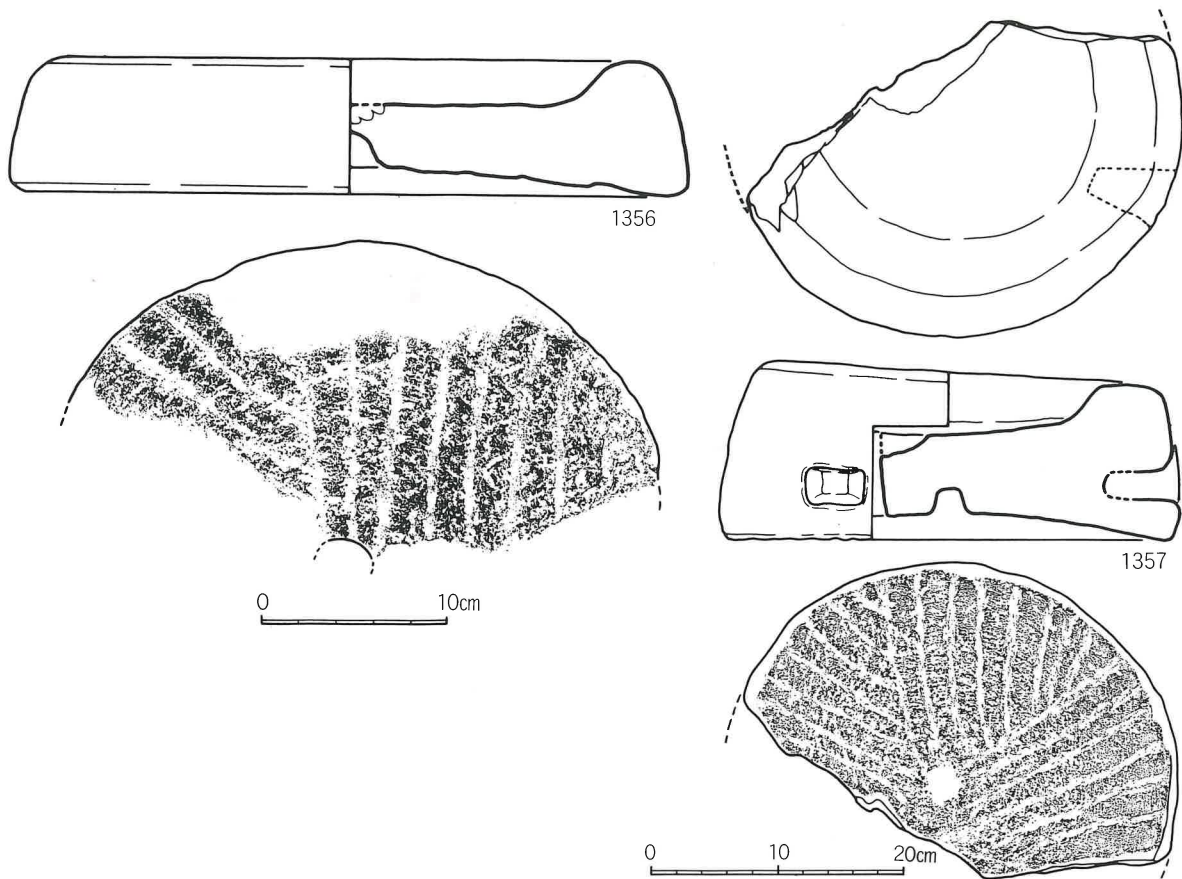


第644図 八坂中遺跡溝11南半出土土器



0 20cm

第645図 八坂中遺跡溝11南半出土石製品(1)

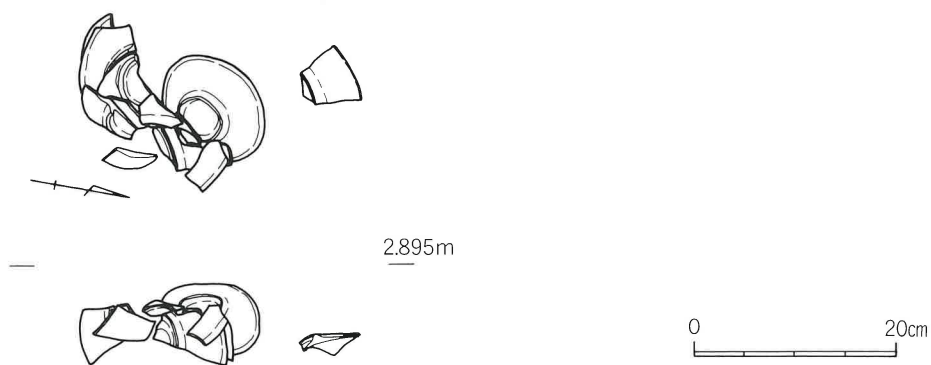


第646図 八坂中遺跡溝11南半出土石製品(2)

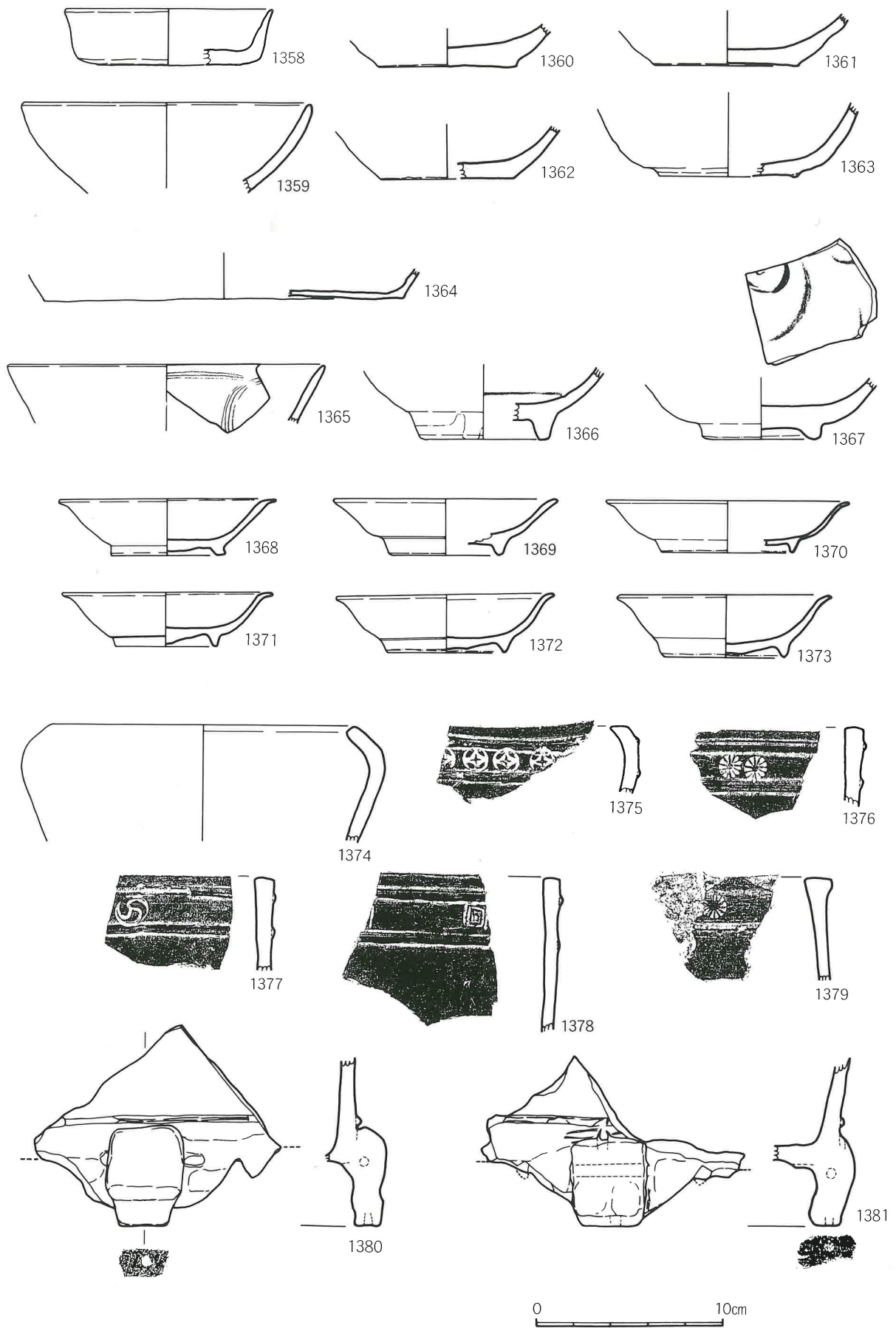
溝11北半

溝11北半の遺物については、土層観察の不備から、一部を除き溝の掘り直しに対応した取り上げができていない。土器（第648、649図）のうち、1358は土師質土器坏である。体部が直立気味に立つもので、15世紀前半のものか。

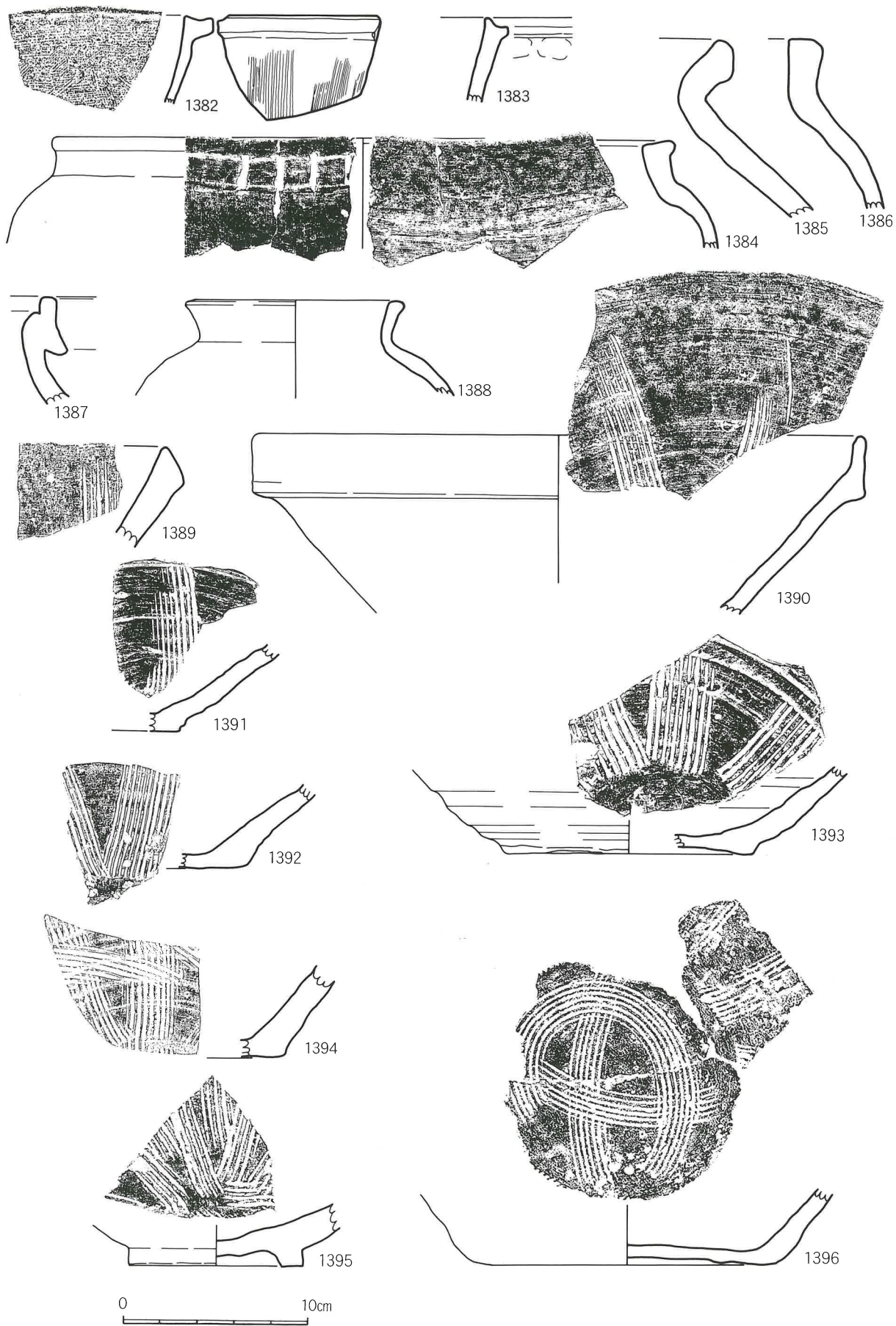
1360～1363は東国東型瓦器碗である。1360～1362は13世紀後半～14世紀初。1363は13世紀中頃であろう。1364～1373は輸入陶磁器である。1364は比較的薄手の陶器底部で、朝鮮製の可能性をもつ。1365～1367は



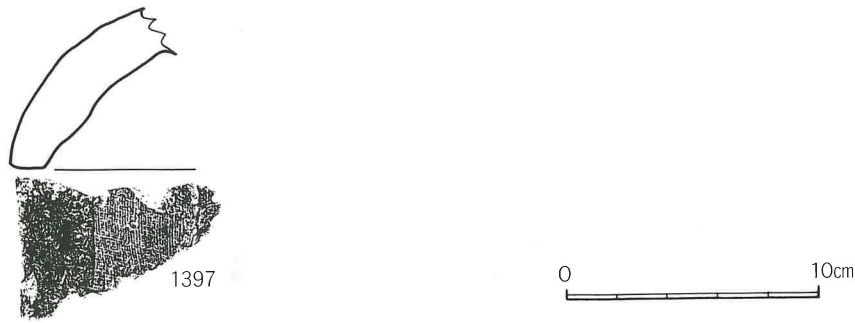
第647図 八坂中遺跡溝11内白磁皿出土状況



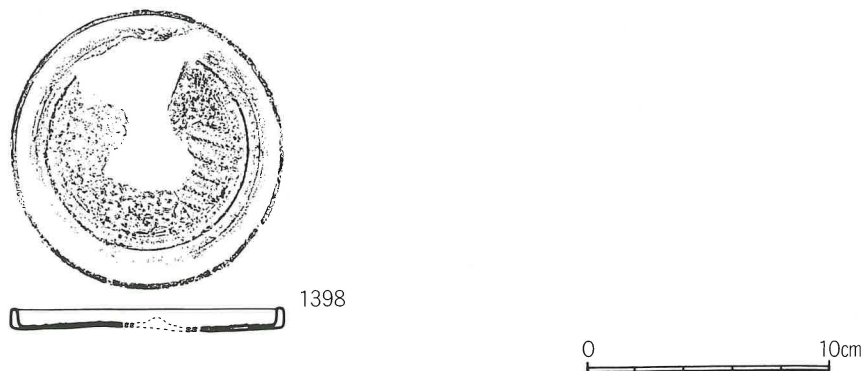
第648図 八坂中遺跡溝11北半出土土器(1)



第649図 八坂中遺跡溝11北半出土土器(2)



第650図 八坂中遺跡溝11北半出土瓦



第651図 八坂中遺跡溝11北半出土銅鏡

龍泉窯系青磁碗で、このうち1365は12世紀後半のものである。1368～1373は白磁皿である。これらは、溝11北辺中央付近にある土橋から西へ約6mの地点から検出された（第647図）。検出面付近に完形品が重なるような状態であったようだが、バックフォーにひっかけたため、旧状を大きく損なった。周囲を精査したが掘り方は確認できなかった。土器はいずれも口縁部端反りのもので、口径は11.1～11.8cmである。16世紀前半までに主体を置くものである。

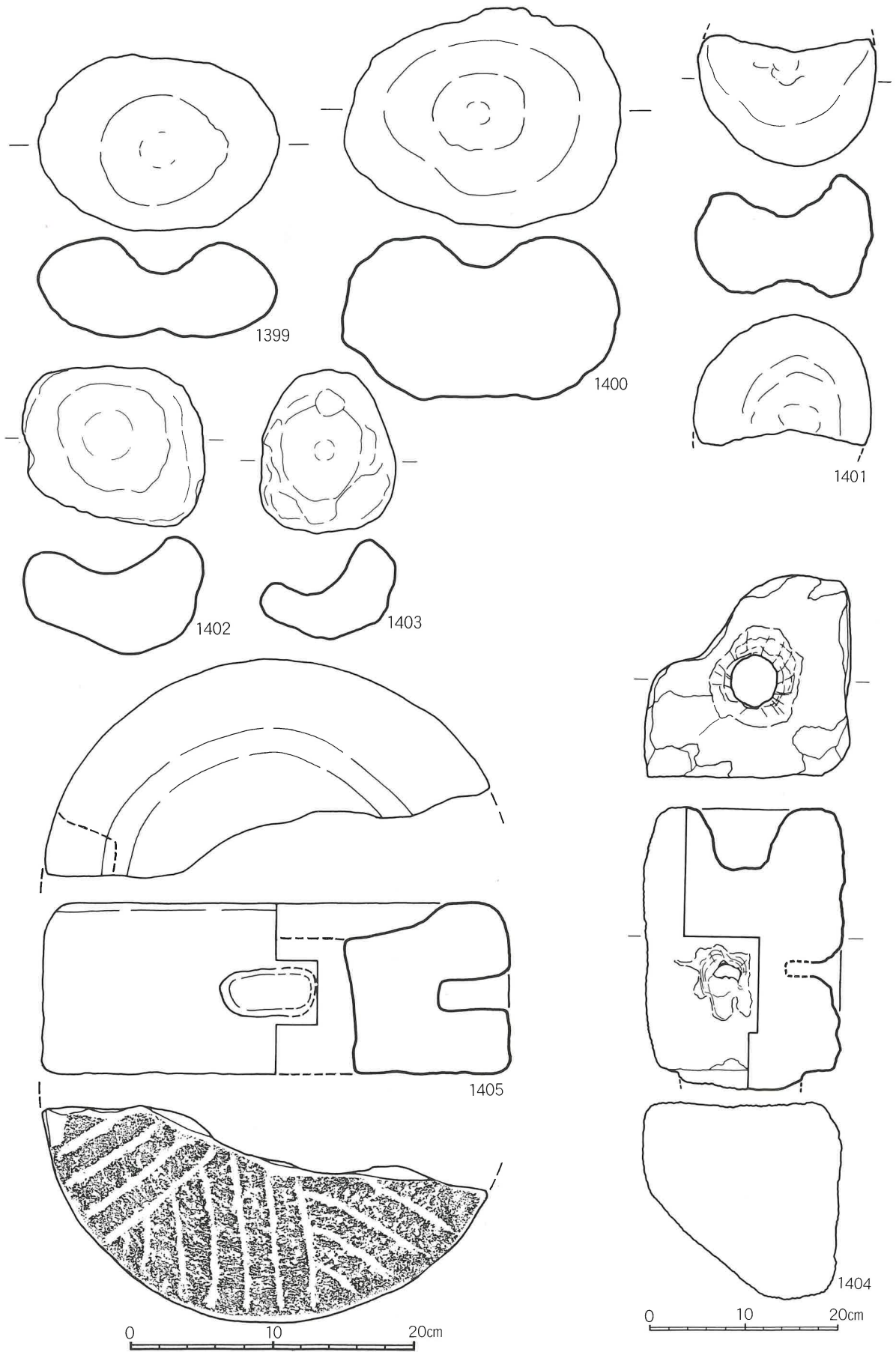
1374～1381は瓦質土器火鉢である。1374は口縁部が内湾するもので、類例は少ない。1375は緩やかに内湾し、外面の突帯間にスタンプ文を配する。1376～1379は深いもので、やはり口縁下の突帯間にスタンプ文を配する。以上のうち、1376～1378は口縁が肥厚せず、1379は口縁外面が肥厚する。時期的には前者が16世紀中頃までを主体にし、後者は16世紀後半以降に出現する。1380、1381はともに底部で脚が付く。脚は削り出して装飾をつけた板状の粘土の中央に、さらに方柱状の粘土を付加したもので、16世紀前半までに主体をおくものである。

1382、1383は土鍋で、両者とも銜が口縁端部付近にある。13世紀後半～末に比定されよう。

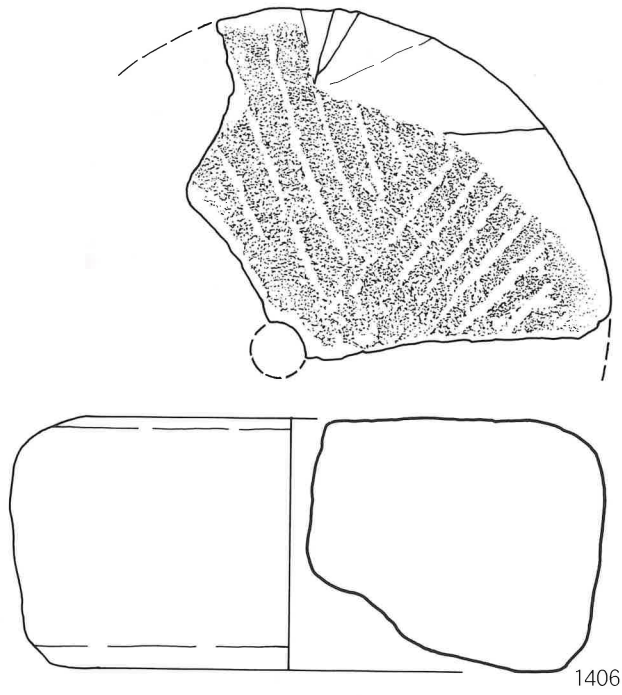
1384～1387は甕である。1384～1386は瓦質で、このうち1384は、直立する頸部に列点状の沈線が3本単位で見られる。16世紀後半か。1387は常滑焼で14世紀に入るものか。

1388は備前焼の壺か。

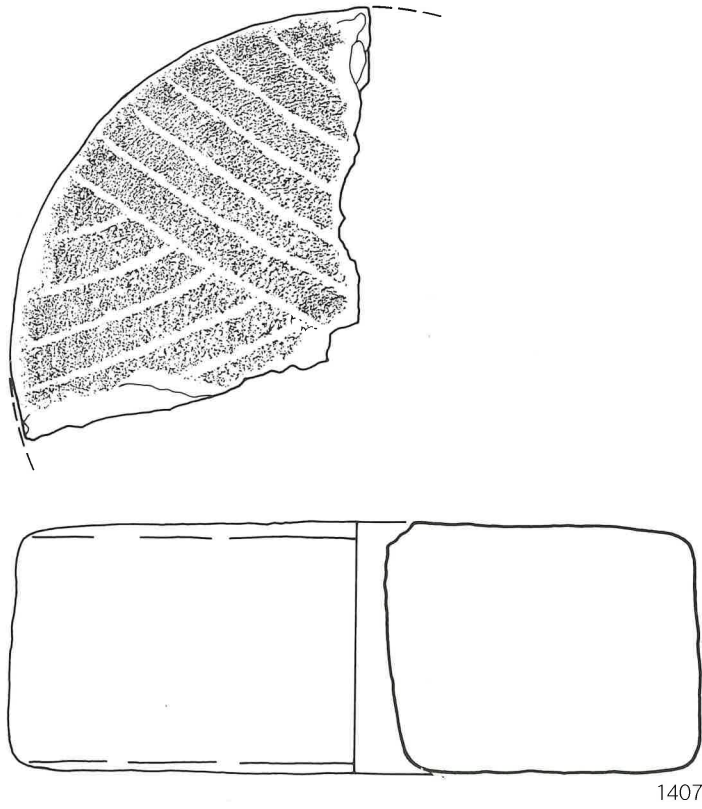
1389～1396は摺鉢である。このうち1389～1394は備前焼である。1389は14世紀代、1390は15世紀代、1391～1393は摺目の数から15、16世紀に各々位置付けられる。1394は斜行の摺目が入っており、16世紀後半に比定される。1395は溝11の北辺上層から出土しており、溝15にともなう可能性が大きい。唐津系のもので、



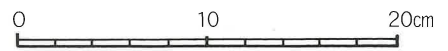
第652図 八坂中遺跡溝11北半出土石製品(1)



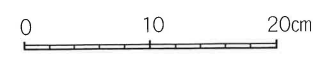
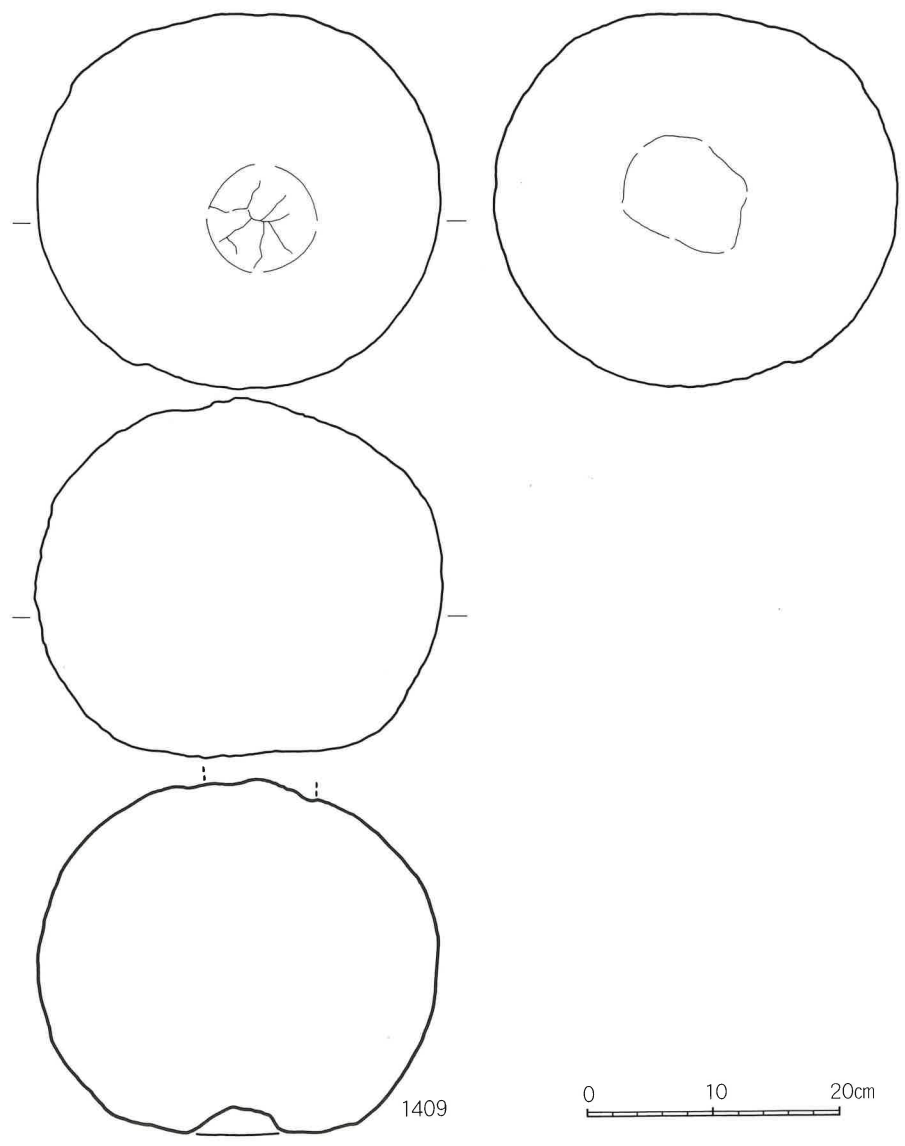
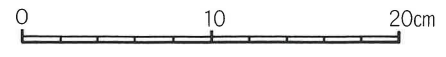
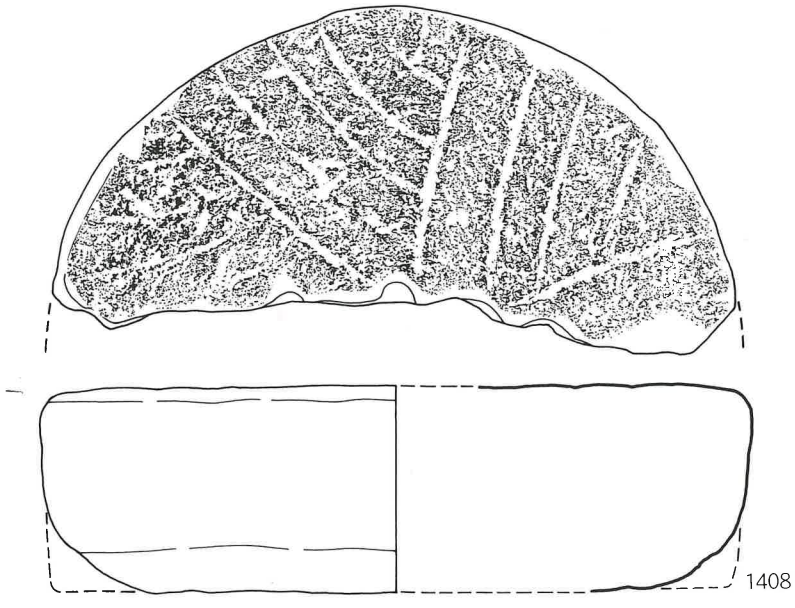
1406



1407



第653図 八坂中遺跡溝11北半出土石製品(2)



第654図 八坂中遺跡溝11北半出土石製品(3)

溝10の1343と同一固体化か。1396は暗灰白色を呈する瓦質のもので、防長系の可能性をもつ。

1397（第650図）は丸瓦片である。内面に布目が残る。

1398（第651図）は和鏡である。溝11の北東コーナー一部から廃棄された状態で検出された。紐の部分が打ち欠かれており、残存する鏡面はめくれあがる。文様の鑄出しは不鮮明である。12、13世紀代のものか。

石製品（第652～654図）のうち、1399～1403、1409は凹石である。いずれも円礫の片面あるいは両面にくぼみを作っている。

1404は石塔の部材と思われる。柱状を呈し、上面には上部の部材と接続用の穴が穿たれる。また、下面には段が付く。

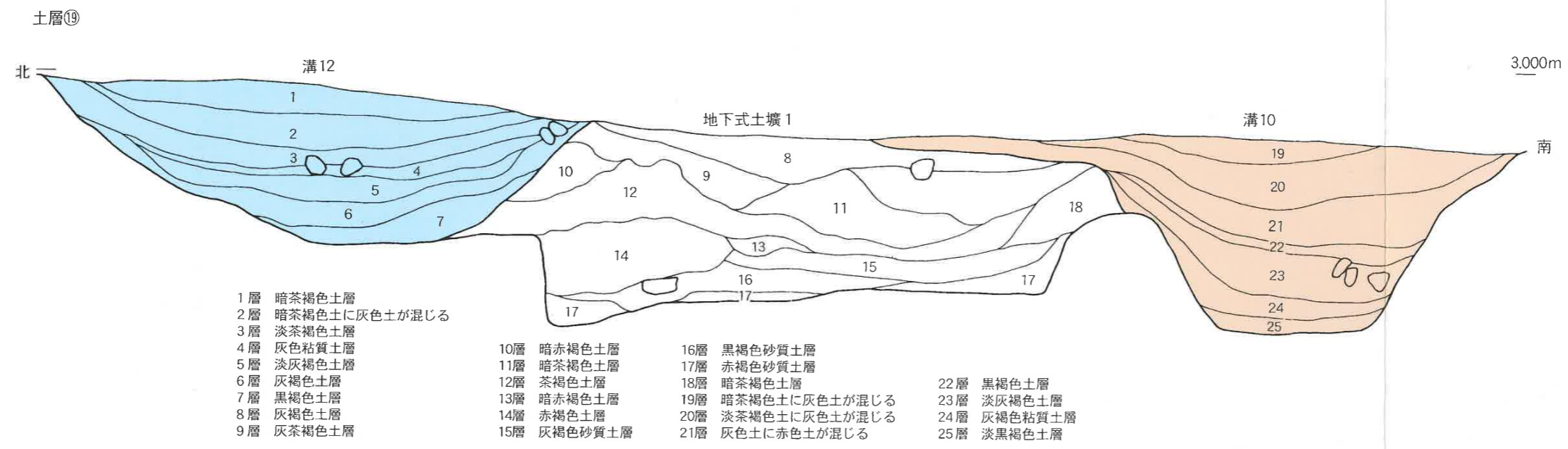
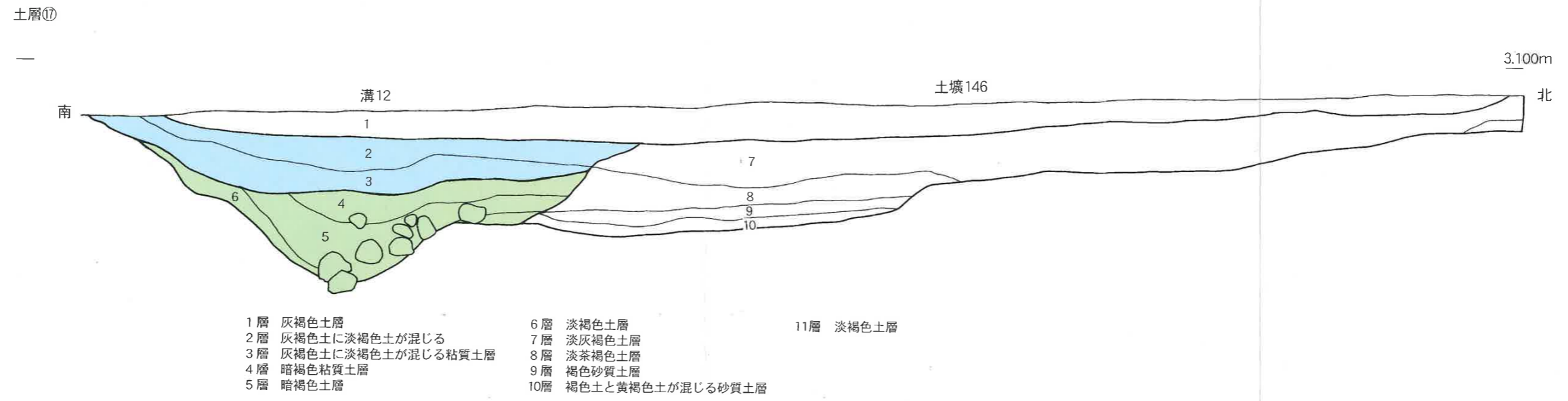
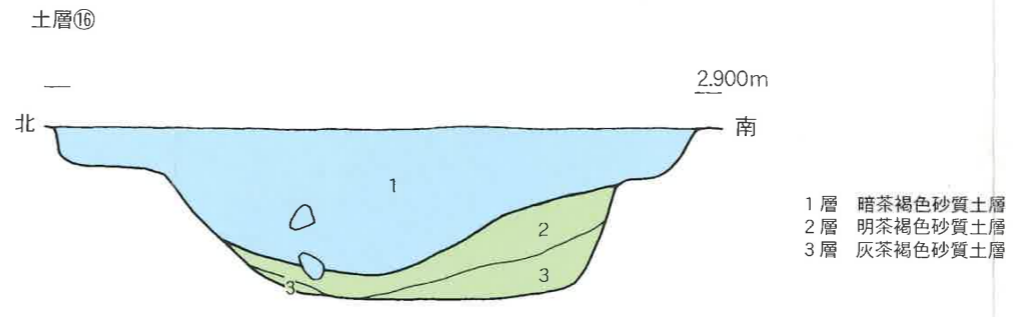
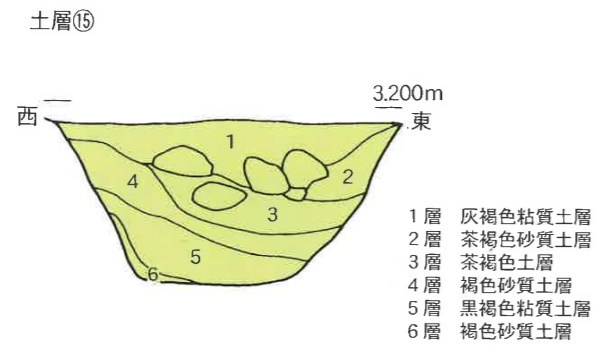
1405～1408は挽臼である。1405は上臼で、側面には挽手穴が穿たれる。目は6分画と思われる。1406～1408は下臼である。いずれも6分画と思われるが、1408は主溝から右上がりに施される副溝が3～4本と、他に比べ少ない。

（12） 居 館 3

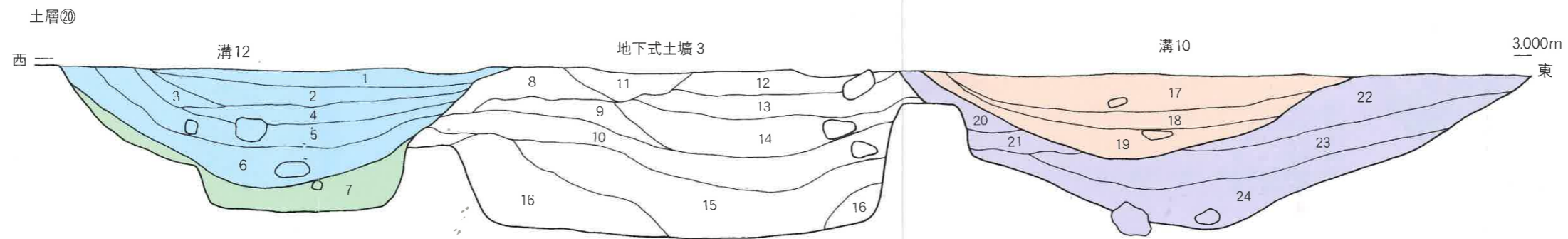
居館3（第657図）は、居館1の東側に居館2とともに南北に並ぶように位置する。居館は溝12により画されており、方形基調を呈する。その規模は溝の内側で、南北28～31m、東西32～35mを測る。規模的にはわずかに居館2よりも大きい。ほぼ同様な規模であることが分かる。居館の配置をみると、居館1の南辺延長上に居館2の南辺が、また居館1の北辺延長上に居館3の北辺が各々くるように築造され、されに3基の居館全体を溝10、溝16で囲うという極めて計画的な配置がうかがえる。しかし、居館2が南北方向に長く、居館3が東西方向に長い。居館2と居館3の東側ラインは直線にはならず折れが生じている。居館3については、北辺の西半に溝が及んでないことから、この部分が居館の出入り口機能を有するものと想定される。居館1と居館3の北側は、居館に沿って東西方向に遺構空白部があり、道であったと思われる。居館3は道に面して、大きく出入り口を開けている。

・ 溝12

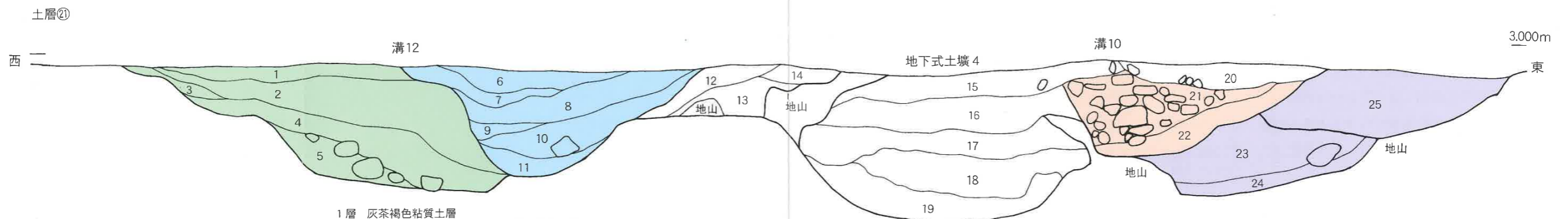
溝12についても、何度か掘り直しが認められる。最も新しいものは、土層23（第659図）の最上層にみられるものである。しかし、この層は土層21（第656図）や土層24（第659図）ではみられず、溝12東辺北半のみに限られたものであることが分かる。これは、居館1と居館2・居館3の間の溝上層などにみられたものと同様なものと思われ、居館廃絶後に水溜めの機能をもつものとして掘られたものであろう。時期的には、近世に下ると考えられる。溝12本体としては、掘り直しを1度確認できる。下層を溝12a、上層を溝12bとする。溝12aは、北辺から東辺にかけてと西辺の一部に残存する。北辺では、中程の土層100付近から始まる。溝12bは約7m西から始まっており、当初段階とは始まる位置が異なる。溝12aは、土層24、土層23、土層21（第656図）で確認され、幅約4m、深さ0.7～1.0mの規模をもつ。しかし、東辺の中程からは幅をすだいに減じていくようである。また、西辺の土層⑦（第616図）でも、わずかに確認される。下層部しか残存しないが、幅2m強を測る。南辺の大部分では、掘り直しの溝12bの掘削により、溝12aは痕跡を留めないが、幅2～3mの規模をもち全周していたものと推定される。土層24や土層23では溝12a自体に掘り直しの可能性をもつ層が認められ、一部ではさらなる掘り直しがあつたことも考えられる。また、各土層とも居館内側からの土砂の流れ込みが顕著で、溝12aに沿うように内側に土塁が築造されていたものであろう。溝12aの埋没は、遺物から16世紀後半であったと思われる。この溝12aの大半が埋没した段階で、溝12bが掘削される。北辺では溝12aのさらに西から始まる。土層100に切られるが、溝12aの北端を走るのが土層24で確認される。しかし、規模は幅1.4m、深さ0.3mで、当初の溝12aに比べると大きく縮小する。東辺にはいっても、溝12aの最も外寄りを幅1.5～2.5mとやや規模を広めながら走ることが、土層23や土層21で分かる。土層⑳では、溝12aとほぼ同じ幅となり、南辺の土層⑱（第658図）や、土層⑯、⑰、⑱（第655図）では、溝12aの痕跡が残らないほどに掘削し、幅2～3mの規模を有していたことが見て取れる。また、西辺の土層⑥、⑦（第616図）では、溝15



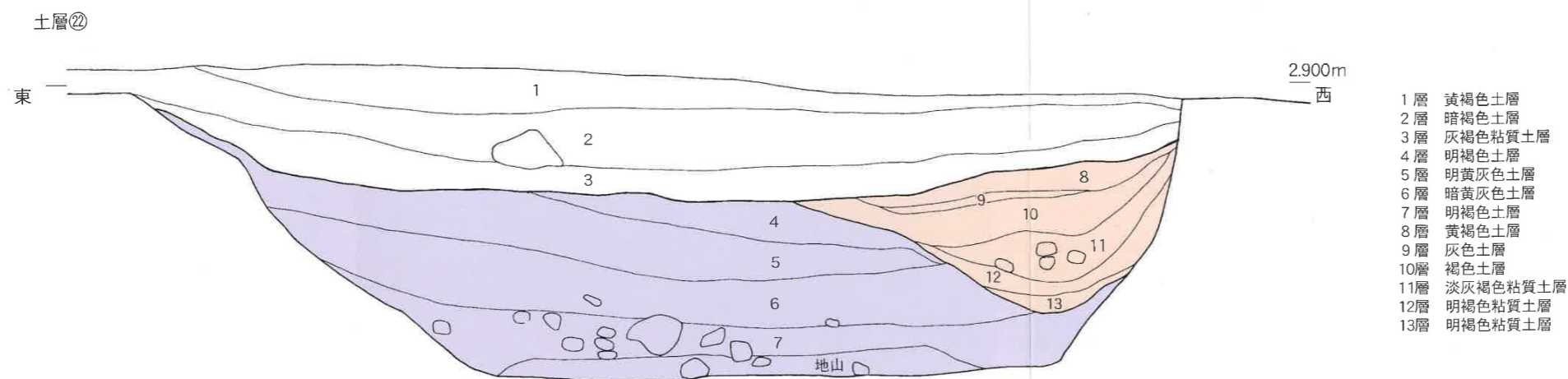
第655図 八坂中遺跡居館3周辺の溝土層図(1)



- | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|------------|
| 1層 灰色土に茶褐色土が混じる | 8層 暗灰褐色土層 | 15層 褐色土に暗灰色土が混じる | 22層 灰色土層 |
| 2層 淡灰褐色土層 | 9層 灰褐色土層 | 16層 淡茶褐色土層 | 23層 淡灰褐色土層 |
| 3層 灰褐色土層 | 10層 灰褐色土層 | 17層 灰色土に褐色土が混じる | 24層 淡灰褐色土層 |
| 4層 灰褐色土層 | 11層 淡灰褐色土層 | 18層 灰色土に褐色土が混じる | |
| 5層 灰褐色土層 | 12層 灰色土に茶褐色土が混じる | 19層 灰色土層 | |
| 6層 褐色土と灰色土が混じる | 13層 灰色土に赤褐色土が混じる | 20層 灰色土に褐色土が混じる粘質土 | |
| 7層 暗灰褐色砂質土層 | 14層 淡灰褐色粘質土層 | 21層 褐色土層 | |



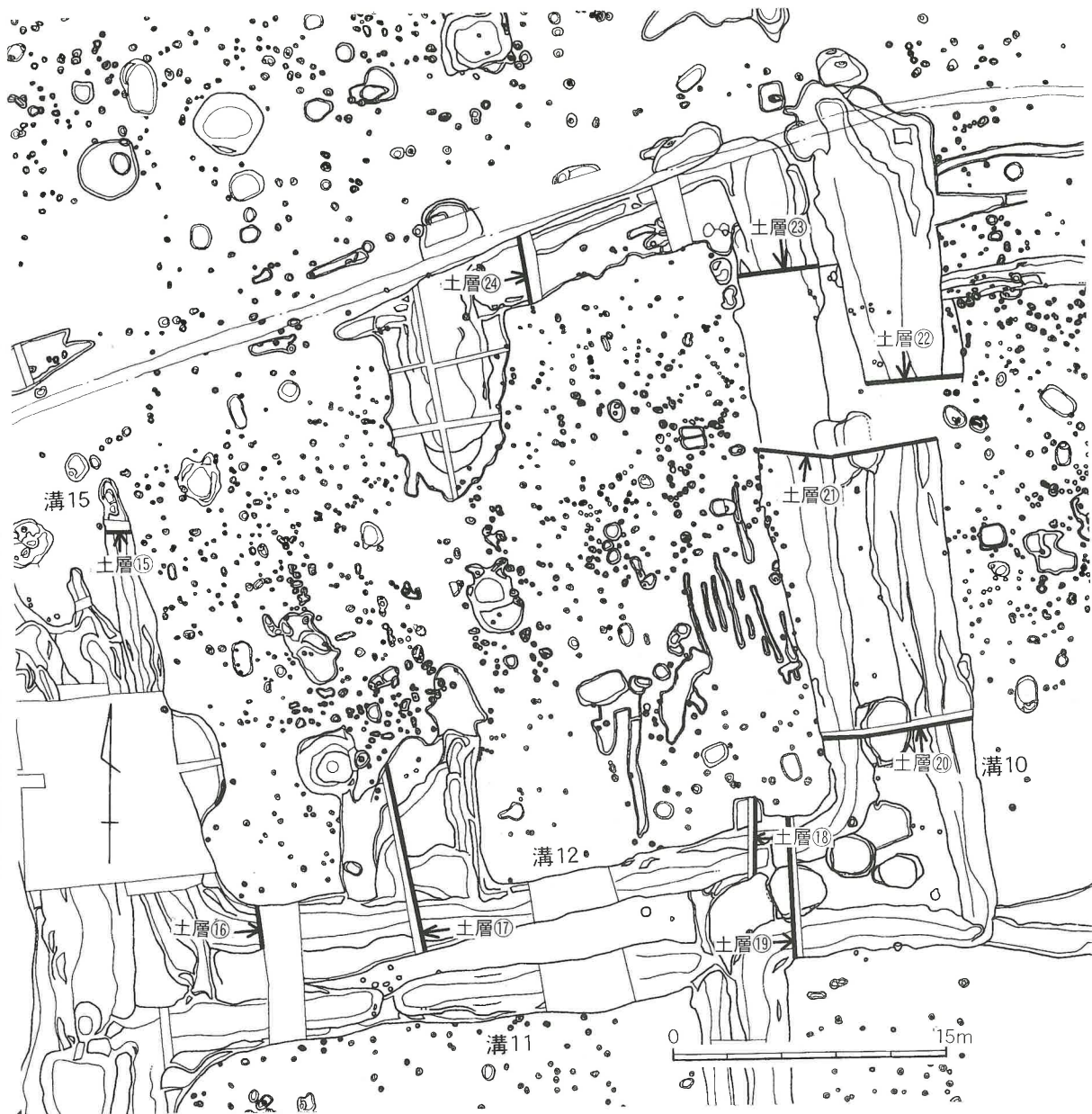
- | | | | |
|-------------|--------------------|-------------|------------|
| 1層 灰茶褐色粘質土層 | 9層 褐色土層 | 16層 暗褐色土層 | 21層 灰色粘質土層 |
| 2層 暗茶褐色土層 | 10層 灰色粘土層 | 17層 暗褐色土層 | 22層 灰褐色土層 |
| 3層 黒褐色土層 | 11層 黒灰褐色土に赤黒色土が混じる | 18層 暗褐色土層 | 23層 暗褐色土層 |
| 4層 暗茶褐色土層 | 12層 灰褐色土に黒色土が混じる | 19層 赤褐色砂質土層 | 24層 暗灰褐色土層 |
| 5層 黒褐色土層 | 13層 暗褐色土層 | 20層 灰色土層 | 25層 暗黒褐色土層 |
| 6層 灰茶褐色土層 | 14層 茶褐色砂質土層 | | |
| 7層 灰色粘質土層 | 15層 灰褐色土層 | | |
| 8層 暗灰褐色土層 | | | |



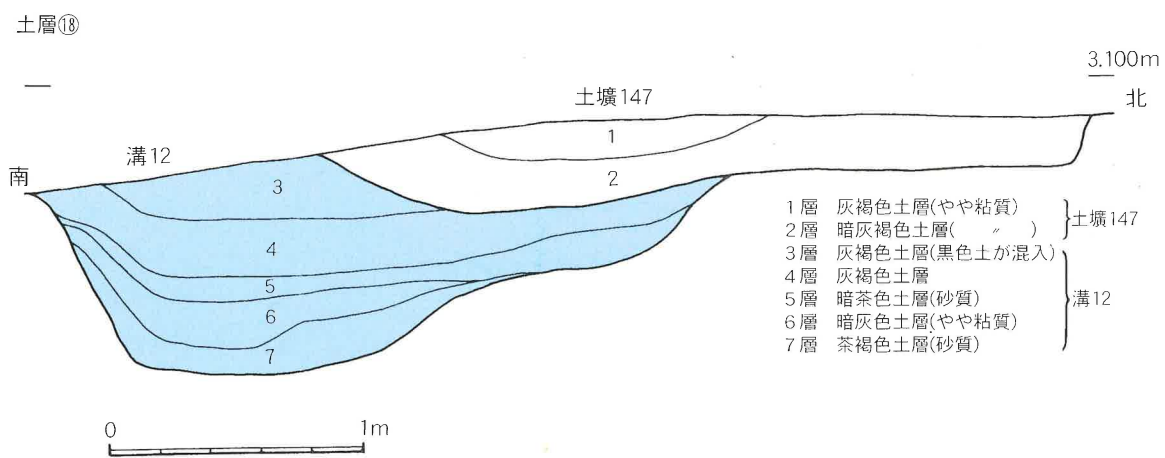
- | |
|--------------|
| 1層 黄褐色土層 |
| 2層 暗褐色土層 |
| 3層 灰褐色粘質土層 |
| 4層 明褐色土層 |
| 5層 明黄灰色土層 |
| 6層 暗黄灰色土層 |
| 7層 明褐色土層 |
| 8層 黄褐色土層 |
| 9層 灰色土層 |
| 10層 褐色土層 |
| 11層 淡灰褐色粘質土層 |
| 12層 明褐色粘質土層 |
| 13層 明褐色粘質土層 |



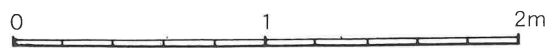
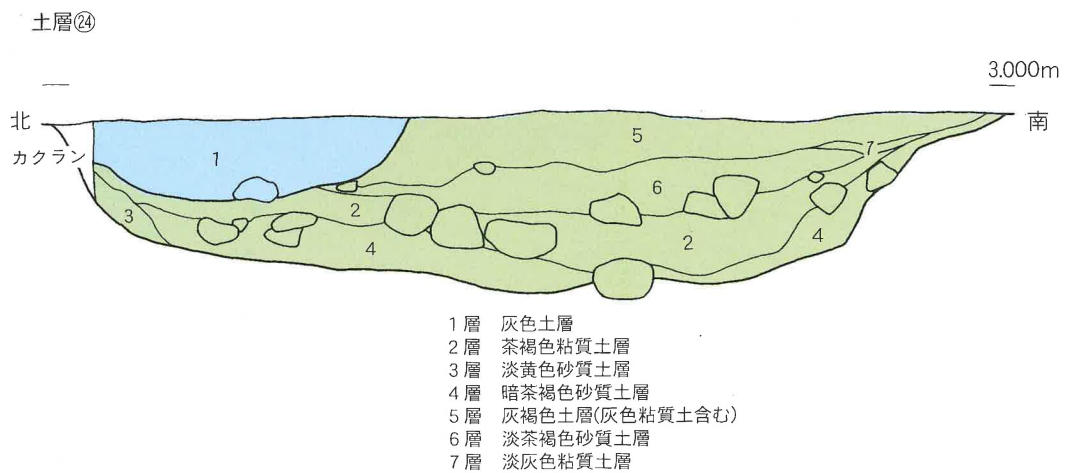
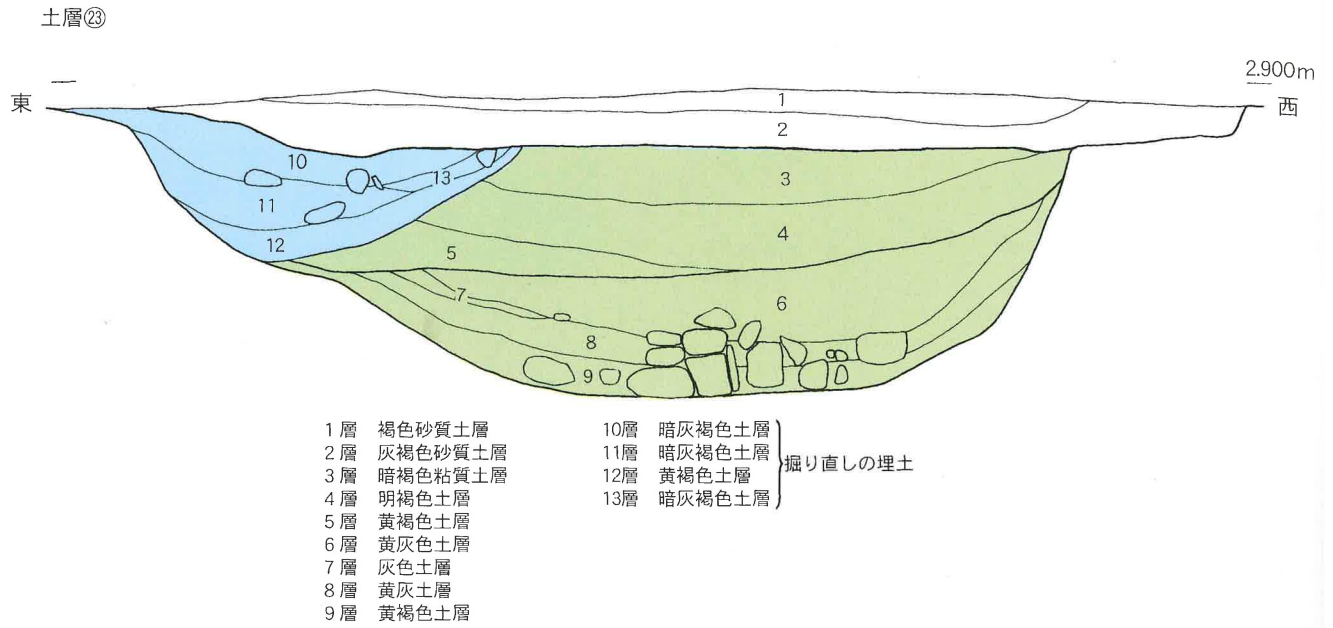
第656図 八坂中遺跡居館3周辺の溝土層図(2)



第657図 八坂中遺跡居館3



第658図 八坂中遺跡居館3周辺の溝土層図(3)



第659図 八坂中遺跡居館3周辺の溝土層図(4)

に切られるなどして全容は不明だが、幅3m前後の規模をもっていることが分かる。溝12b段階の土塁については、北辺では不明である。北辺に関しては、幅、深さとも小規模であることから顕著な土塁が築かれたかは不明である。東辺では外側からの流れ込みが顕著で、溝12と溝10の間に土塁があったものと推定される。南辺では明確にできない土層もあるが、外側にあった可能性が高い。溝12bの埋没時期は16世紀後半から末かけての時期であろう。なお、溝12と溝10に挟まれた位置に地下式土壇1、2、3、4があるが、すべて溝12bに切ら

れる。しかし、溝12aとの関係は不明である、

・溝10

居館3の東南コーナーから東側にかけての溝10について述べる。居館1の東側に、居館2と居館3が並ぶが、東側のラインが揃っていない。そのため、両居館を囲う溝10は、居館2と居館3の間で折れが生じている。この部分溝10で最も新しいのは、土層⑳(第656図)の上層でみられるものである。幅5m、深さ0.6mを測るが土層⑳(第656図)ではみられず、溝10の北端から約20mにわたり確認されるのみである。これは、溝と言うよりも水溜め機能をもつ大規模な土壇とも考えられ、居館廃絶後の近世に比定できる。隣接する溝12でも、同様なものが本溝と平行する位置で確認されている。溝自体に関しては、居館2の南側では古い順に溝10a、溝10b、溝10cが確認されていた。しかし、居館3の東側では溝10cはまったく確認されていない。居館2のあたりでも幅が狭く浅いものであったため、削平されたことも考えられ、本来溝10cが居館3の東側まで続いていたか否かについては即断できない。最も古い溝10aは、土層㉒、㉑、㉐(第656図)で確認でき、広い部分では幅5m以上、深さ1.5mを測る。南に行くにつれ規模を減じ、居館3の南東コーナー付近では、幅が半減する。この溝10aとしたうちでも、土層㉑などのように明らかな掘り直しが認められるものもあり、部分的には掘り直しがあつたようである。また、居館2と居館3の間の折れが生じている付近では、溝10bの掘削により、溝10aはまったく確認できない。溝に伴う土塁については、土層㉒、㉑、㉐の状況から溝の東側にあつたものと推定される。次に、溝10bは溝10a内の最も西寄りに掘られる。土層㉒の位置で幅1.8m、深さ0.7mであるが、土層㉑の位置では幅2.2m、深さ0.8mを測る。溝に伴う土塁については、溝10aの段階とは逆に、溝の西側にあつたものと思われる。溝10bの埋没年代は16世紀後半である。この溝10bの北側延長上には溝9が、南北に走る。溝10bと溝9の間は、居館1と居館3の北側にみられる道に対応するように3mほどの間隔がある。溝9は規模的にも溝10bにちかいことから、溝10bと同じ段階で掘削されたものと推定される。これ以前の溝10a段階での溝9については、溝9内に顕著な掘り直しが確認できないことから、同位置にあつた古い溝が溝9の掘削のためまったく残らなかったとも考えることもできるが、溝10a段階に相当する溝はなかった可能性が高いと思われる。最後に、溝10と溝12に挟まれた位置にある地下式土壇1、2、3、4のうち、地下式土壇1、4は溝10bに切られ、地下式土壇3は溝10aに切られる。地下式土壇2については、切り合い関係がない。

・溝15

溝15は、居館3の北西コーナー付近から始まる。当初、溝12の掘り直しの溝と予想していたが、居館3の南西コーナーで東に曲がらずそのまま少し直進し西に折れる。その後すぐに南に折れ、溝11と溝13の間を南進し、溝10cにつながるものと思われる。溝の規模は、居館3の北西コーナー付近で幅1.5~2.0m、深さ0.7mである。総じて、他の溝よりも小規模である。各溝との切り合い関係を土層で確認すると、土層⑥、⑦では溝12a、溝12bを切る。また、土層④で溝11a、溝11bを切り、土層④、⑤で溝13と溝11bを切る。溝15のつながる溝10cが、溝10の最終段階の溝であることから、居館周辺の溝のなかで最も新しいものと考えられる。すなわち、居館1、2、3という区画を行っていた溝がすべて埋没した後に、新たな区画を行ったものである。しかし、居館を区画した溝に比べ規模が大幅に減じ、感覚的には、掘だつたものが、ただの区画の溝になったという感じである。溝15及び溝10cの埋没年代は16世紀末であるが、掘削の年代もそれにちかいものと推定される。溝の規模と時代背景が微妙に関係しているのであろうか。

・出土遺物

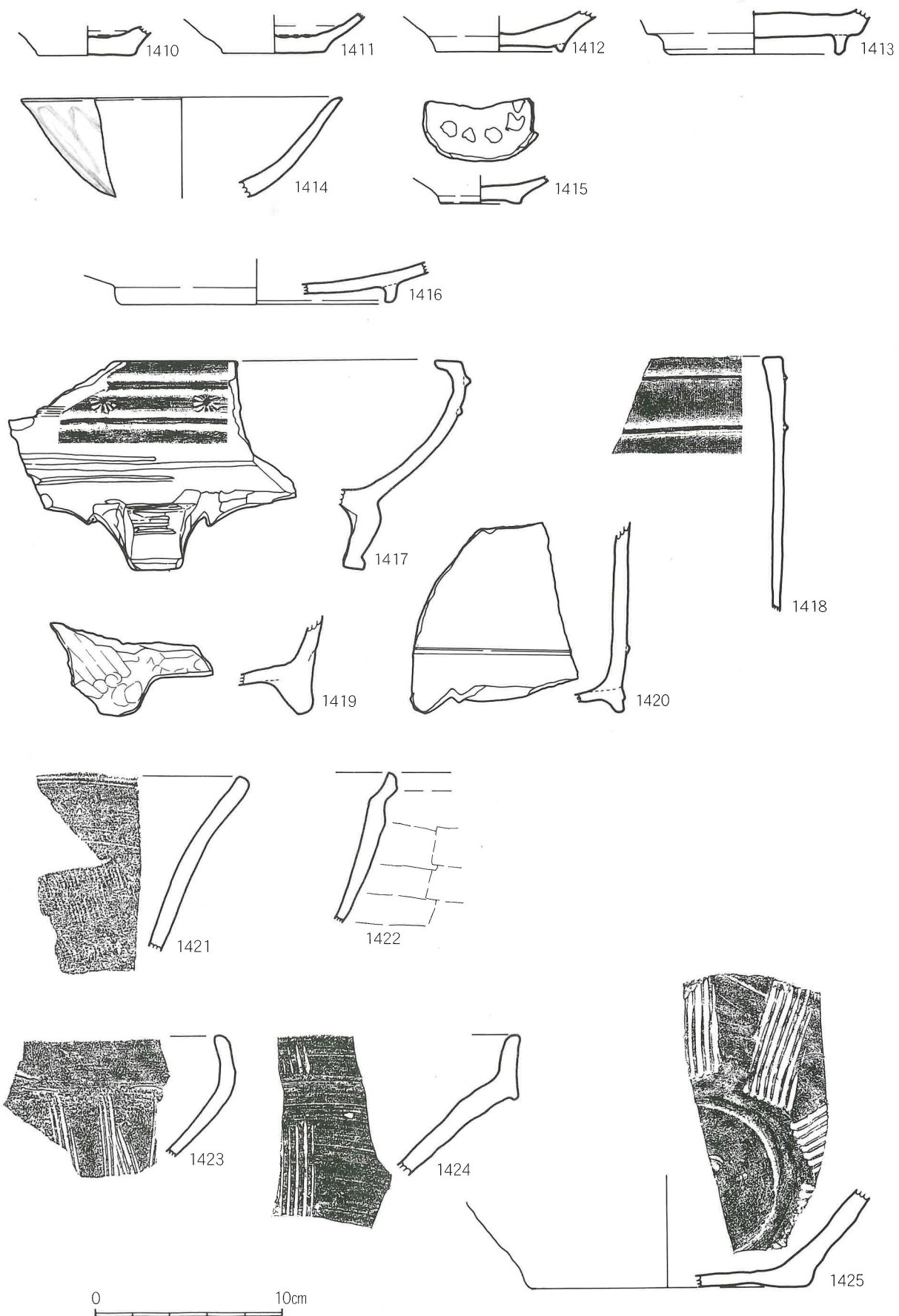
溝12南半

土器(第660、661図)、石製品(第662~664図)が検出されたが、その大部分は溝12bに伴うものである。

1410、1411は土師質土器杯である。底部は糸切りで、体部の立ち上がりから器高の高い器形であろう。内底面には、渦巻き状のナデがみられる。底径は5.2~5.4cmと小振りの感がある。16世紀のものか。

1412は東国東型瓦器碗で、底部の端に低い高台が付される。13世紀中頃から後半のもの。

1413は瓦質土器で、底部には高台が付く。体部は底部から垂直気味に立つ。



第660図 八坂中遺跡溝12南半出土土器(1)

1415、1413は輸入陶磁器である。1415は外面に鎬蓮弁文をもつ青磁碗で、13世紀代のもの。1415は朝鮮製緑釉陶器碗で、内底面には砂目痕がみられる。16世紀末に比定できる。

1416は瓦質土器鉢である。16世紀後半に比定できる。

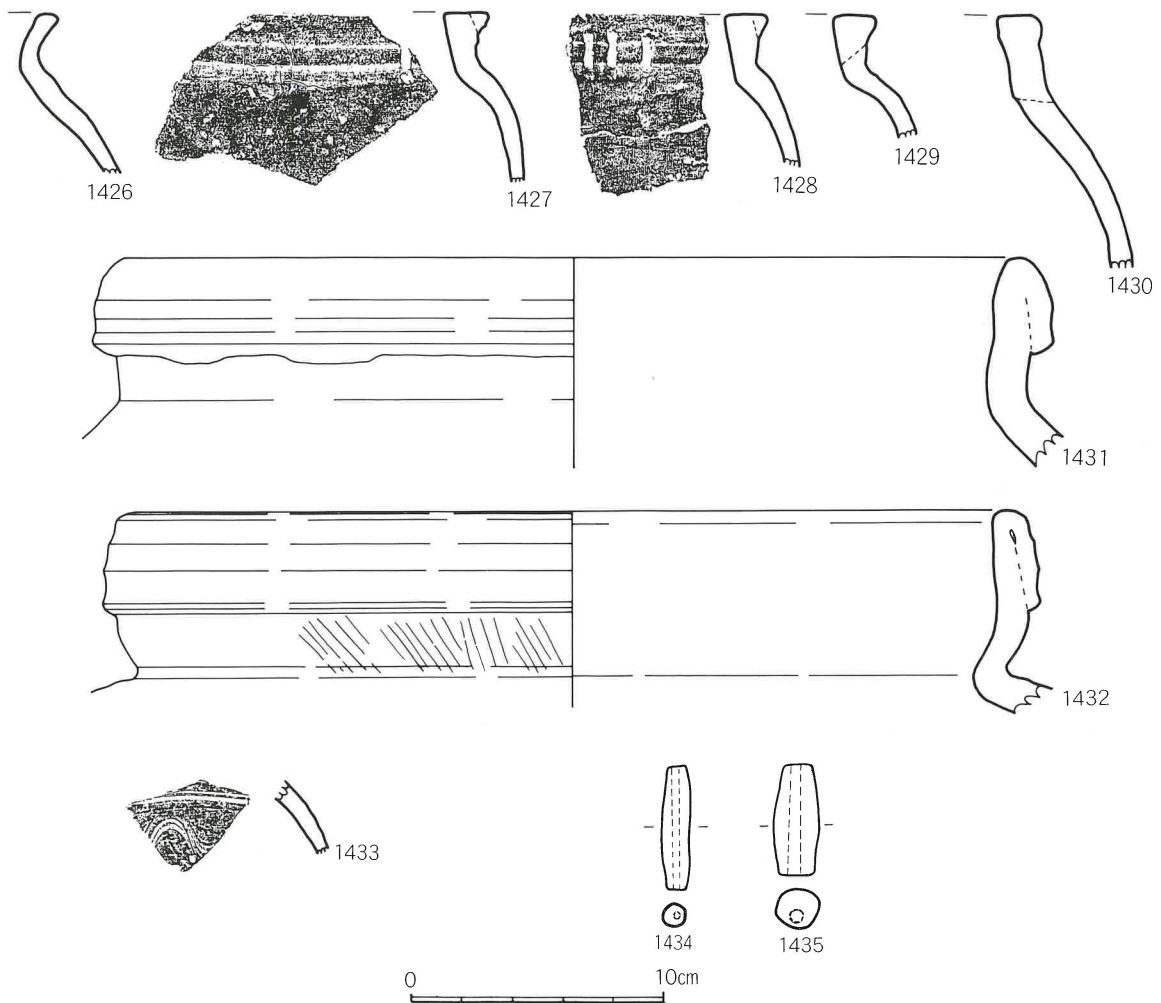
1417～1420は瓦質土器火鉢である。1417は器高の低いもので、口縁部は内側に折れ、底部には脚が付される。脚は削りだして装飾を加えた板状の粘土中央に方柱状の粘土を付加したものである。15世紀後半から16世紀前半までに主体を置くものである。1418は器高の高いもので、口縁端部外面は肥厚しない。16世紀中頃までに主体を置くものである。1419、1420は脚部である。1419は指オサエなどが残る脚を付しており、在地産か。また、1420は切り込みのはいった板状の粘土を貼り付ける。

1421～1423は土鍋である。1421は体部が口縁にむかい緩やかに外反するもので、外面にハケメがみられる。14世紀以降のもの。1422は口縁部周辺に強いナデがはいるため、口縁がやや屈曲し段が付く。外面にはケズリがみられる。16世紀代。

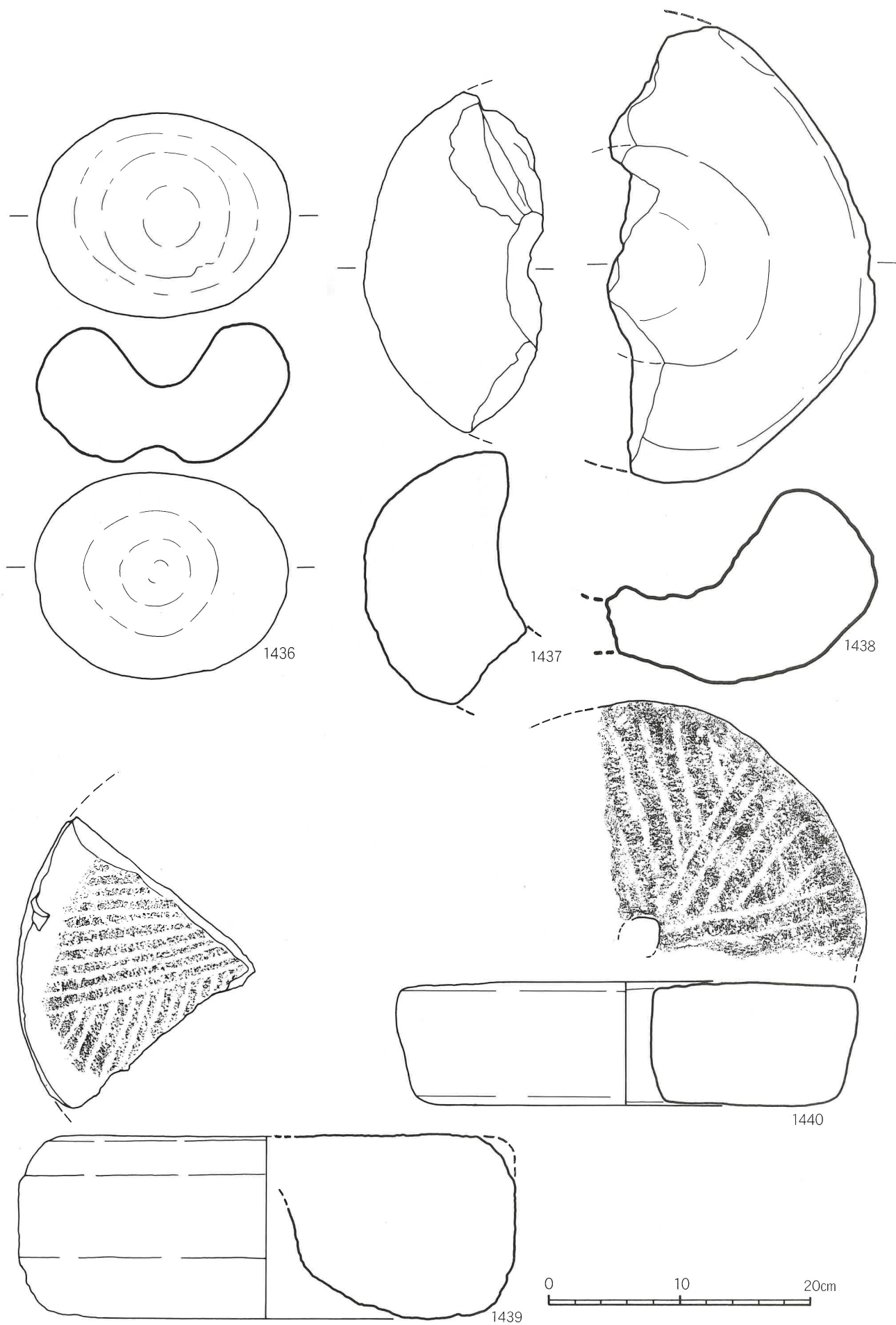
1423～1425は搦鉢である。1423が瓦質で、口縁内湾気味である。16世紀代か。1424、1425は備前焼で、15世紀代のものであろう。

1426～1430は瓦質の甕である。1426は口縁が短く折れる。1427～1430は短く立つ頸部に列点文状の沈線が3本単位で施される。16世紀後半か。

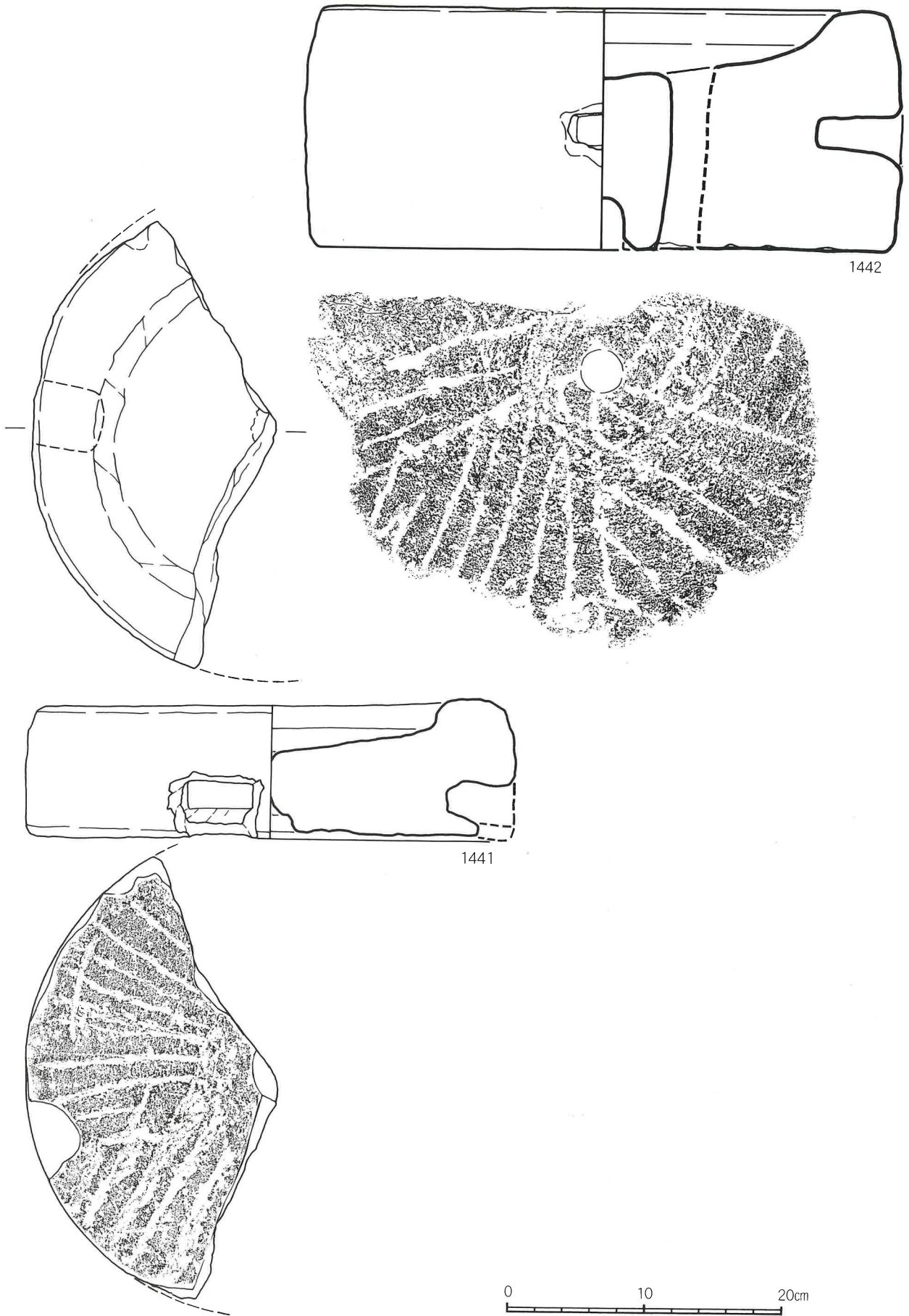
1431、1432は備前焼甕で、口縁部外面に凹線がみられる、16世紀後半～末に比定される。1433は備前焼の



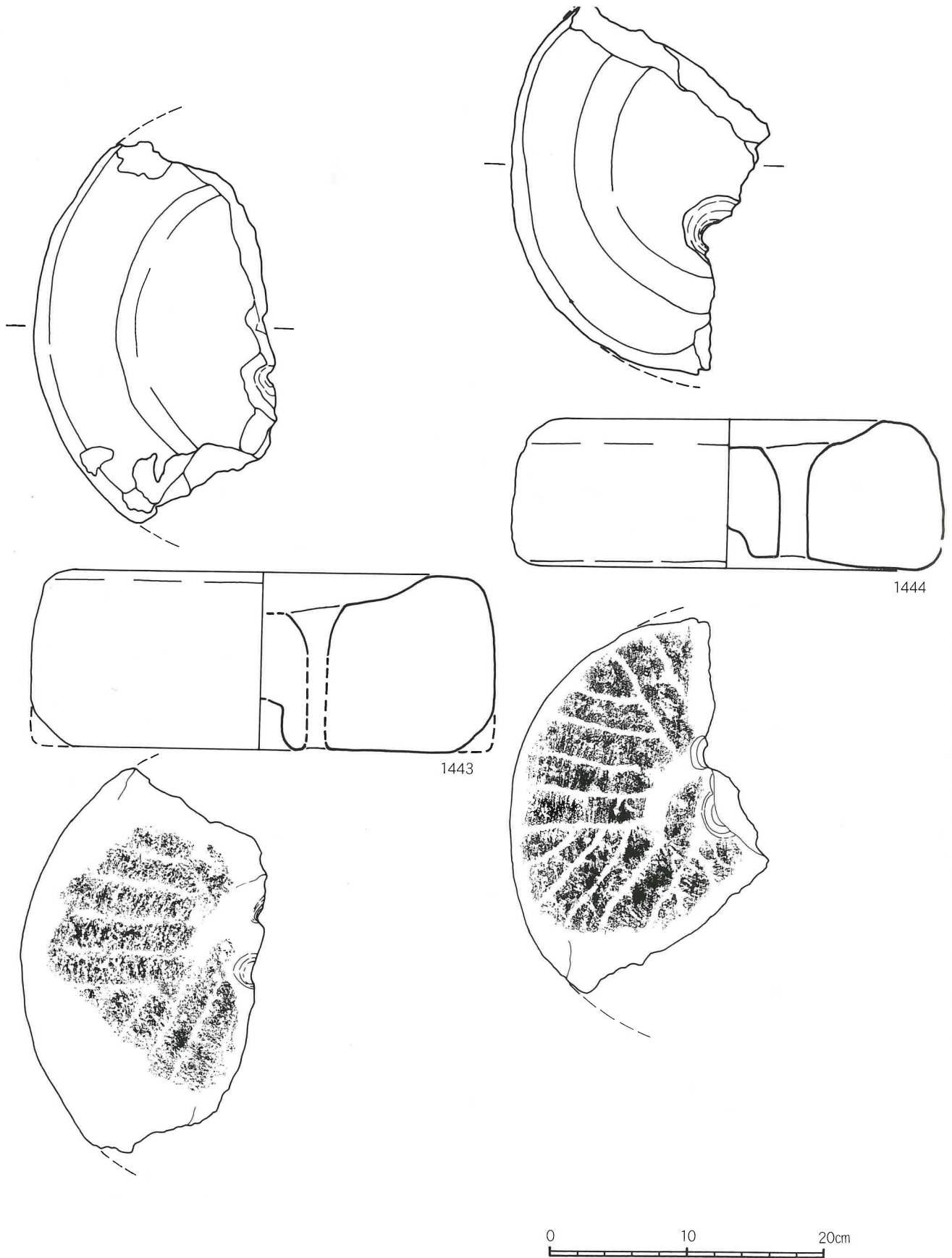
第661図 八坂中遺跡溝12南半出土土器(2)



第662図 八坂中遺跡溝12南半出土石製品(1)



第663図 八坂中遺跡溝12南半出土石製品(2)



第664図 八坂中遺跡溝12南半出土石製品(3)

肩部と思われ、櫛描波状文がみられる。

1434、1435は土錘である。

1436～1438は凹石である。円礫の片面あるいは両面にくぼみがみられる。

1439～1444は挽臼である。1439は下臼である。中央には芯棒受けがあるようで、下面にいくにつれ径が広がる。小破片のため目の分画数は不明だが、目自体は比較的密に彫られている。1440も下臼で、中央に芯棒受けがある。目の数は少なく、この破片のみから復元すると8分画になる可能性もある。1441は上臼である。天場は供給口にむかい深くなるが、その深さは約3cmである。側面の下部には挽手穴がみられる。下面の目は非常に雑で、明確な分画をなさず、一部では放射状に彫られている。1442は上臼で、天場の深さは約3cmである。側面中程には挽手穴がみられる。下面の目は中央の芯棒受けを中心に6分画されているが、やや雑である。1443も上臼である。下面の目は雑に彫られ、数も少ない。1444も上臼で、目は雑であるが6分画である。

溝12北半

土器（第665～667図）のうち、1445～1450、1465、1466は確実に溝12bに伴う。その他については、溝12aに伴出するものである。

1445は土師質土器小皿である。復元口径8.6cmを測り、体部は底部から比較的シャープに立ち上がる。器形と口径から13世紀代のものと考えられる。

1446は土師器椀である。口縁部がわずかに外反し、内外面にはヘラミガキが施される。12世紀前半前後の時期に位置付けられよう。

1447は瓦器椀である。非押し出し技法により底部が作られており、東国東型瓦器椀の範疇にはいる。外底面の切り離し痕はであるが、底部の端に比較的しっかりした高台が付される。体部は器面の荒れが著しく、ヘラミガキの有無は不明である。12世紀後半～13世紀前半のなかに比定できよう。

1448、1449は白磁碗である。1448は口縁端部が短く外側に折れるもので、12世紀中頃に比定される。また、1449は玉縁口縁を呈するもので、12世紀前半前後のものであろう。

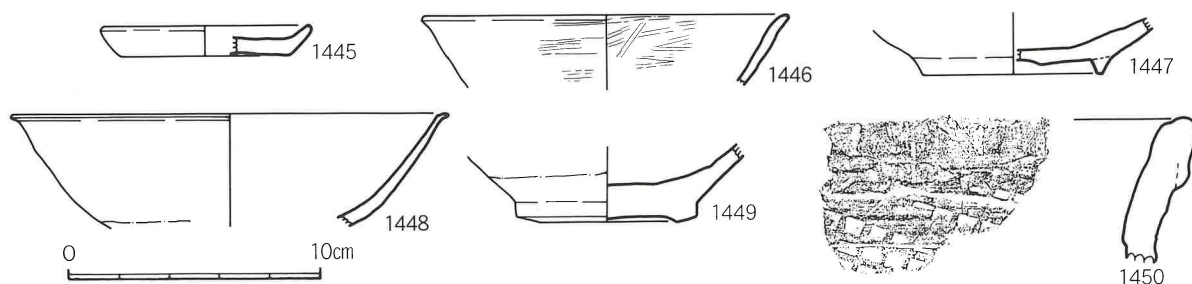
1450は瓦質土器甕である。頸部から口縁部にかけての資料と考えられ、口縁端部外面は玉縁状に肥厚する。しかし、作りはやや雑な感がある。外面には口縁の玉縁ちかくまで、格子目のタタキが施される。時期の決め手に欠くが、16世紀後半以降か。

1451、1452は土師質土器小皿である。1451がやや器高が高いが、両者とも体部を底部から直立気味に立ち上げる。端部は丸くおさめられる。口径は7.0～7.2cmで、14世紀初前後のものか。

1453、1454は土師質土器坏である。両者とも底部糸切りで、1453は体部の立ち上がりがシャープである。また、1454は体部が斜方向に立ち上がる。1454は13世紀後半～14世紀初のものであろう。また、1453はそれよりも時期が下るものか。

1456、1457は白磁碗である。1456は玉縁口縁を呈するもので、11世紀後半から12世紀前半に位置付けられる。1457は底部で、玉縁口縁をもつものか。

1458～1460は青磁碗である。1458と1459は外面に鎧蓮弁文をもつもので、13世紀代のものである。1460は口縁が緩やかに端反りになるもので、15、16世紀に比定される。



第665図 八坂中遺跡溝12北半出土土器(1)



第666図 八坂中遺跡溝12北半出土土器(2)

1461、1462は中国製青花である。1461は碗で、体部外面には線彫りの暗花文がみられる。また、口縁部内面には四方禪文が配される。16世紀後半のものか。1462は合子の蓋である。漳州窯系のもので、大胆な筆使いによる文様が描かれる。16世紀後半のもの。

1463は瓦質土器壺で、口縁部が短く立ち上がる。15、16世紀代のものであろう。

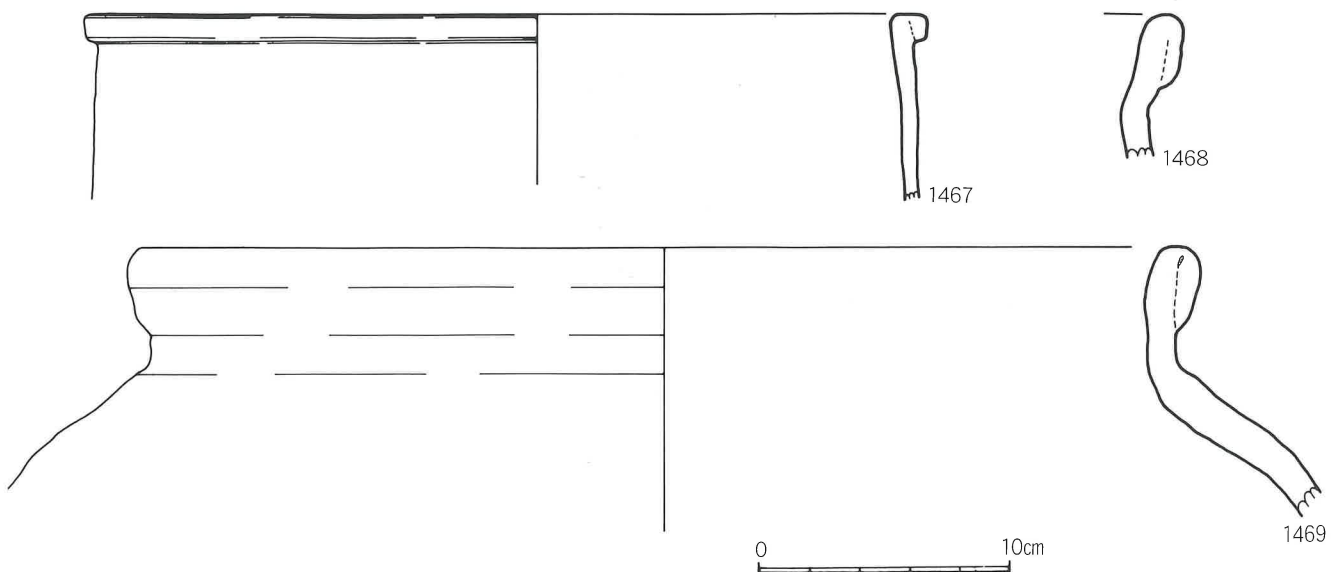
1464、1467は瓦質土器火鉢である。底部ちかくの資料で、1条の突帯が付される。体部が斜方向に立ち上がることから、器高の低いタイプであろう。15世紀後半から16世紀前半に主体を置くものか。1467は口縁部外面が肥厚するものである。16世紀後半に比定される。

1465、1466は備前焼播鉢である。1465は口縁部を欠くもので、摺目は10本単位である。1466は口縁端部上面が内傾し、口縁外面には沈線状のものがみられる。16世紀前半のものか。

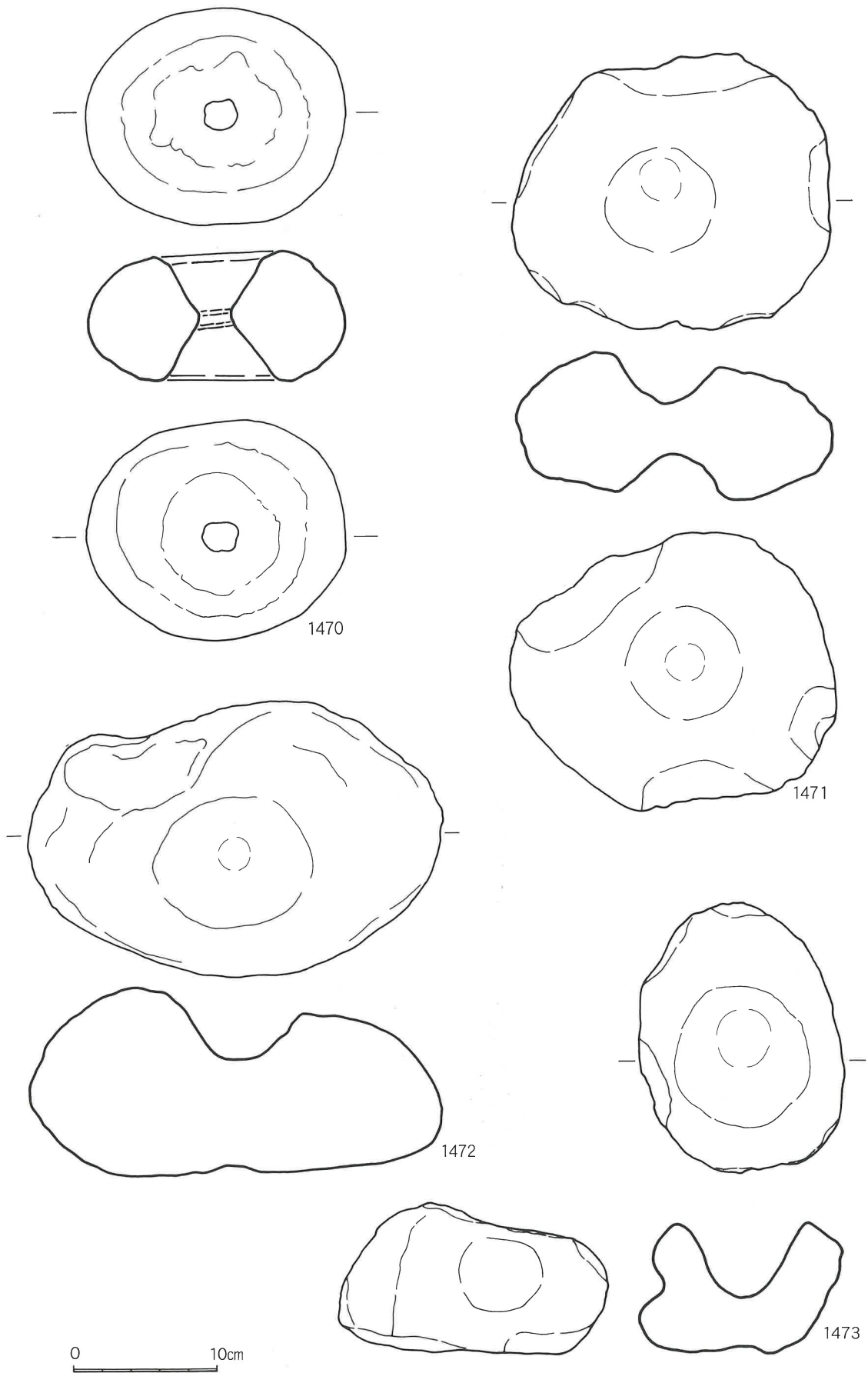
1468、1469は備前焼甕である。両者とも玉縁が下方に垂れる。15世紀代のものか。石製品（第668～672図）には、凹石、石臼、五輪塔などがある。このうち、1478は溝12bに伴うものである。

1470～1473、1478は凹石である。1470は扁平気味の円礫を用い、両面からくぼみを作り、それがつながった状況である。あたかも環状を呈する。本来的には環状をなすものではなく、あくまでも使用の結果このようななったものとする。1471も両面にくぼみを作る。両方のくぼみは、径、深さとも似たような状況である。1472は、主として片面にくぼみがみられる。1473は3面にくぼみが観察できるが、1面のくぼみが深い。1478は長径24.5cmを測るものである。くぼみは片面のみにみられるが、深さ7.5cmとかなり深い。

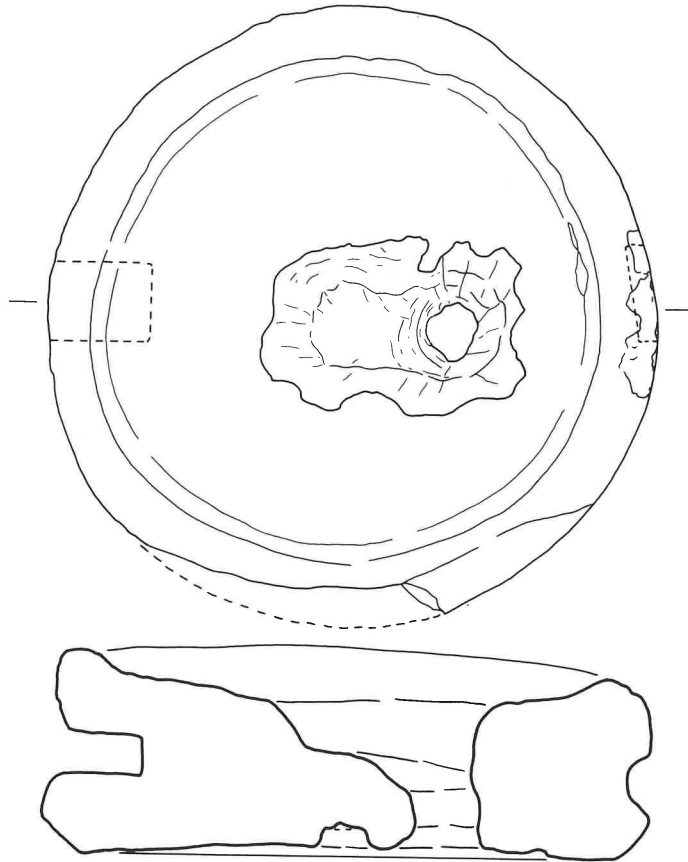
1474～1476は石臼である。1474は挽臼の上臼である。天場の中央からややはずれた位置に本来の供給口があるが、中央付近まで大きく拡大している。縁についても整然とした作りではなく、やや雑な感がある。側面中程には、挽き木を挿入する挽手穴が1ヶ所みられる。挽手穴の反対側には手かけ穴と思われるくぼみがある。下面は中央に芯棒受けがあり、それを中心に溝を彫っているが、使用による磨滅が著しい。かろうじて残った目を見ると、6分画であることが分かる。1475は茶臼の下臼である。受け部の下が台状に作り出されており、外面にはその製作痕が明瞭に残る。中央には芯棒穴がみられ、それを中心に目が彫られる。目は8分画と推定され、放射状に主溝を彫り、それから右上がりの副溝を9～10本彫りこんでいる。1476は挽臼の下臼である。全体に薄手で、加えて厚みが均等でない。中央に芯棒穴があり、それを中心に6分画の目を配する。目は使用により著しく磨滅した個所もみられる。



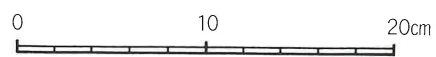
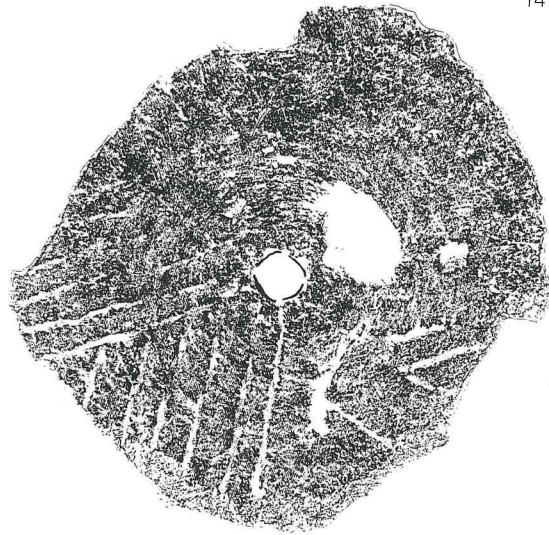
第667図 八坂中遺跡溝12北半出土土器(3)



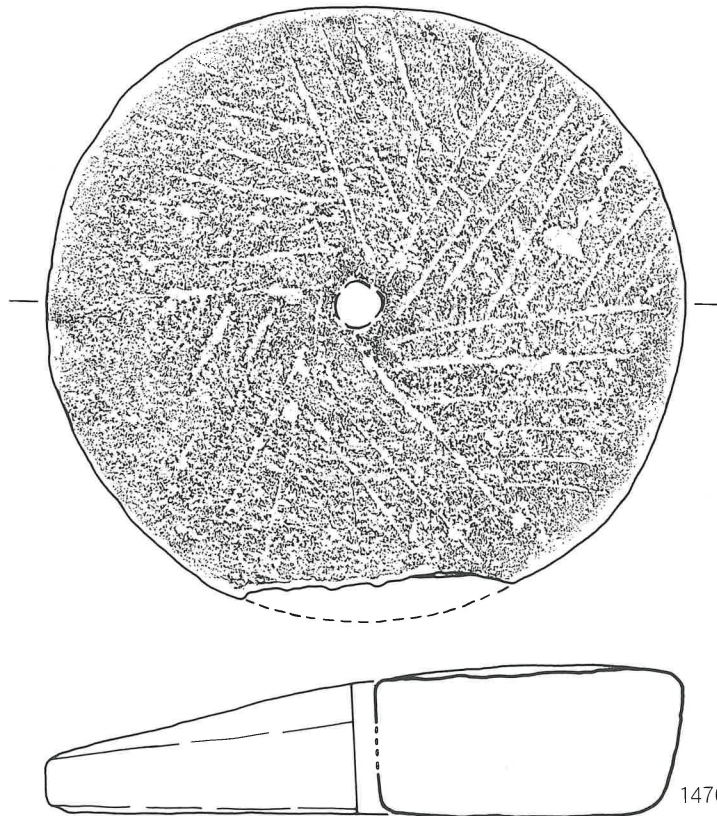
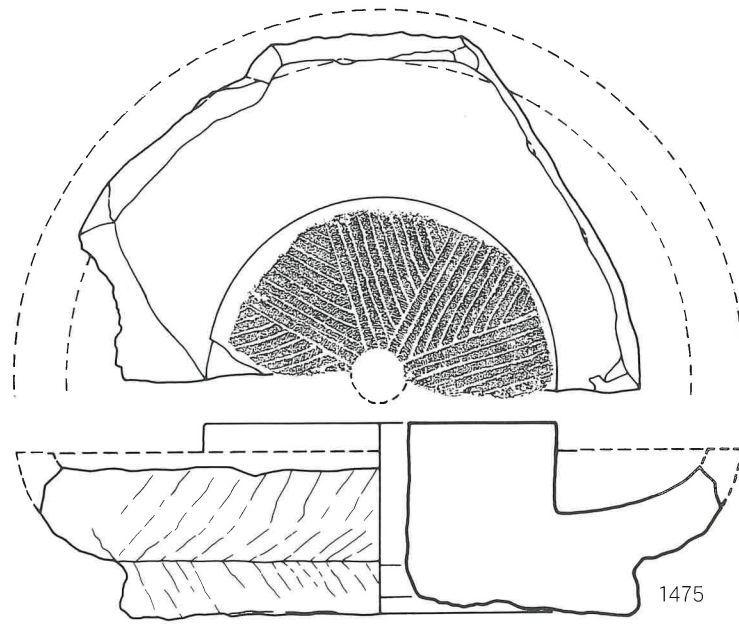
第668図 八坂中遺跡溝12北半出土石製品(1)



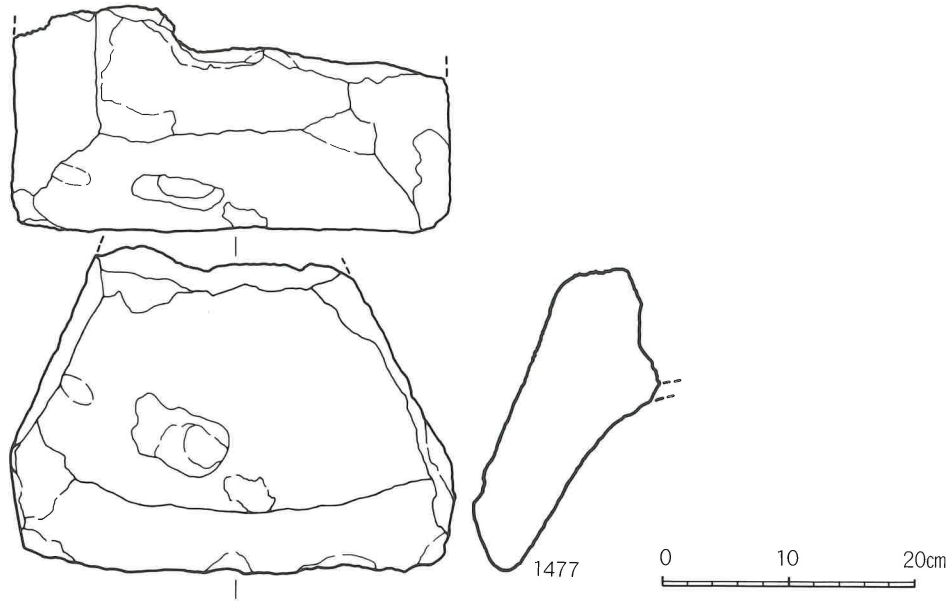
1474



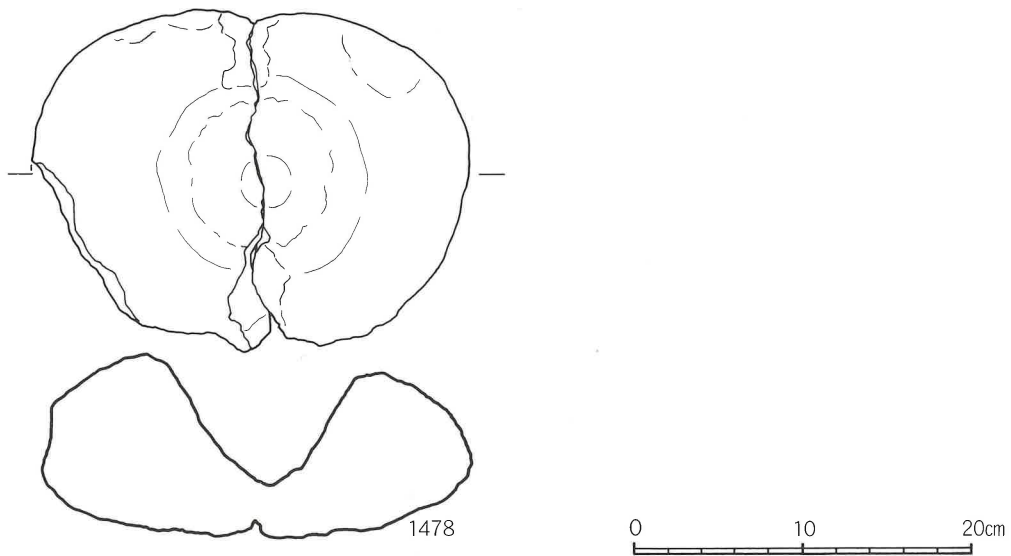
第669図 八坂中遺跡溝12北半出土石製品(2)



第670図 八坂中遺跡溝12北半出土石製品(3)



第671図 八坂中遺跡溝12北半出土石製品(4)



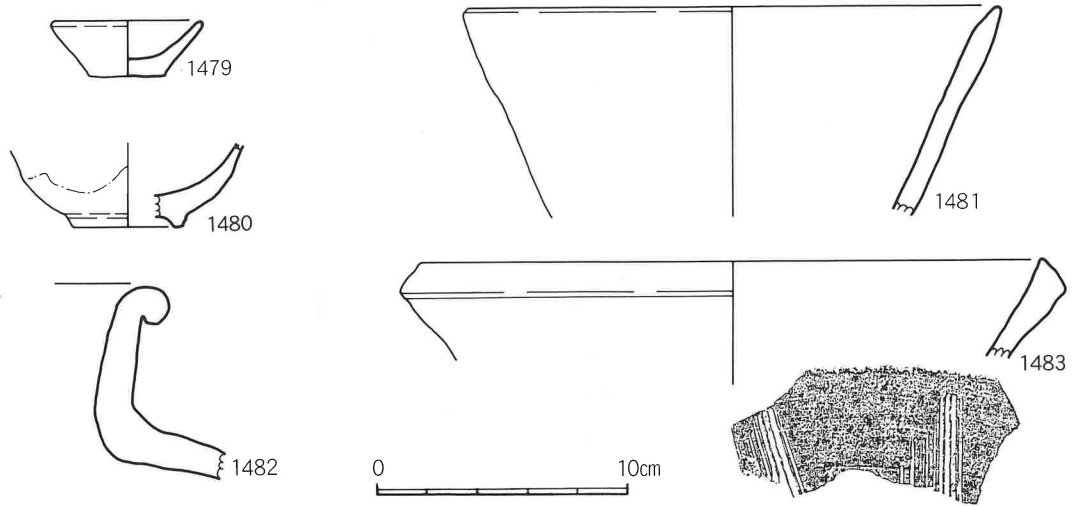
第672図 八坂中遺跡溝12北半出土石製品(5)

1477は五輪塔火輪部である。軒の反りは急で、上面には空・風輪部を接続するための穴がみられる。また、下面からは、軽量化のため内側を大きく抉っている。

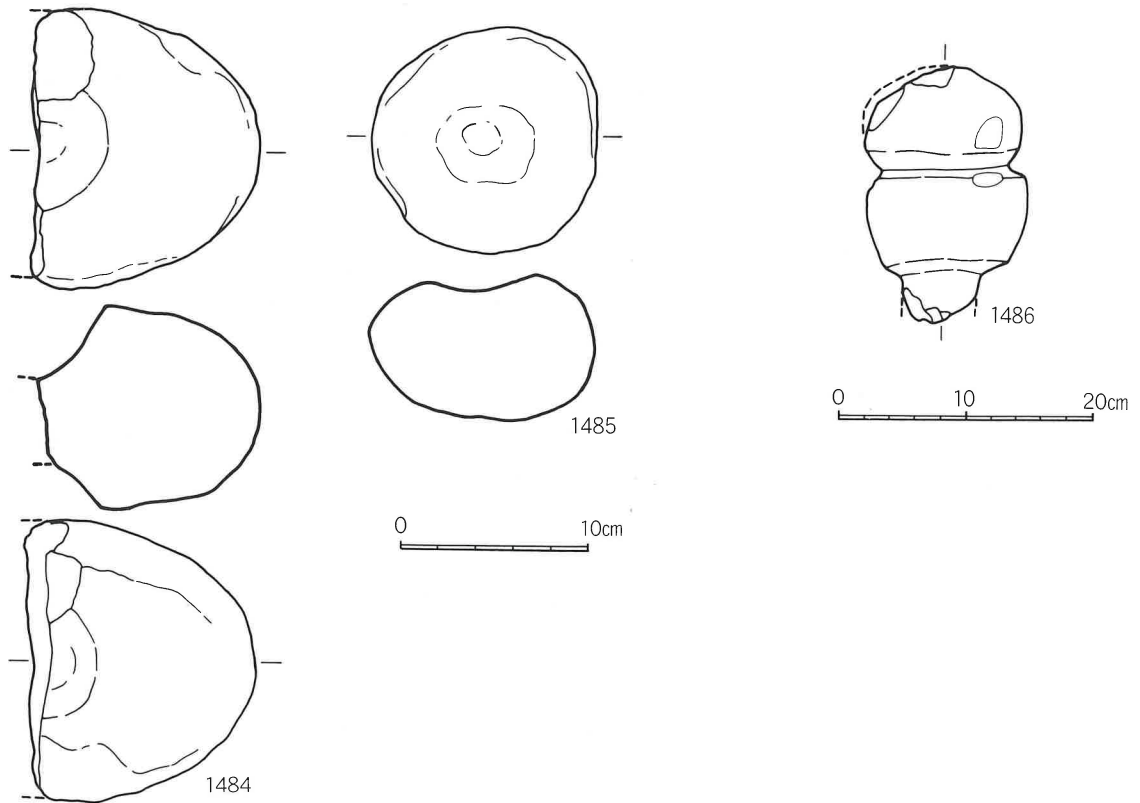
溝10 (居館3 東南側)

土器 (第673図) と石製品 (第674図) があるが、これらは溝10 bに伴うものである。

1479は土師質土器である。口径に比し器高の高い器形を呈する。復元口径は5.8cmである。国東半島地域では、16世紀になると口径に比し器高の高い坏がみられる。この時、小皿は別形態のものを作ることが知られている。同じ時期に中世大友府内町遺跡などでは、坏、小皿という形態を作り分けず、同一形態のものを法量分化さ



第673図 八坂中遺跡溝10(居館3 東南側)出土土器



第674図 八坂中遺跡溝10(居館3 東南側)出土石製品

せる。1479は国東半島地域の16世紀代にみられる坏を小型化した形態であることから、坏、小皿を作り分けな
い状況が八坂川流域地域にあった可能性を示唆するものである。

1480は唐津系陶器碗で、胎土は赤褐色を呈する。釉は褐色を呈し内面と、外面の底部付近をのぞく部分に施
釉される。16世紀後半から末か。

1481は土鍋と思われる。

1482は備前焼の壺である。口縁端部は外側に折り曲げて、小さな玉縁状をなす。14世紀代か。

1483は備前焼播鉢である。内面の摺目は9本単位である。14世紀代のものか。

1484、1485は凹石である。1484は半分に折れたもので、本来は長径25cmを測るものである。片面にくぼみをもつ。1485は径12cmほどのもので、やはり片面にくぼみをもつ。

1486は五輪塔空・風輪部である。空・風輪部の境界の表現はやや雑になる。

溝10 (居館3北東側)

石製品 (第675図) と土器 (第676、677図) があるが、このうち1492、1495、1496は溝10bに伴い、他は溝10aに伴出するものである。

1487は凹石である。径20cmほどの円礫を利用したもので、両面にくぼみをもつ。

1488は茶臼の上臼である。側面中程に現状で1ヶ所の挽手穴が確認できる。挽手穴周辺には方形の装飾を作り出す場合があるが、本品には認められない。目は8分画である。

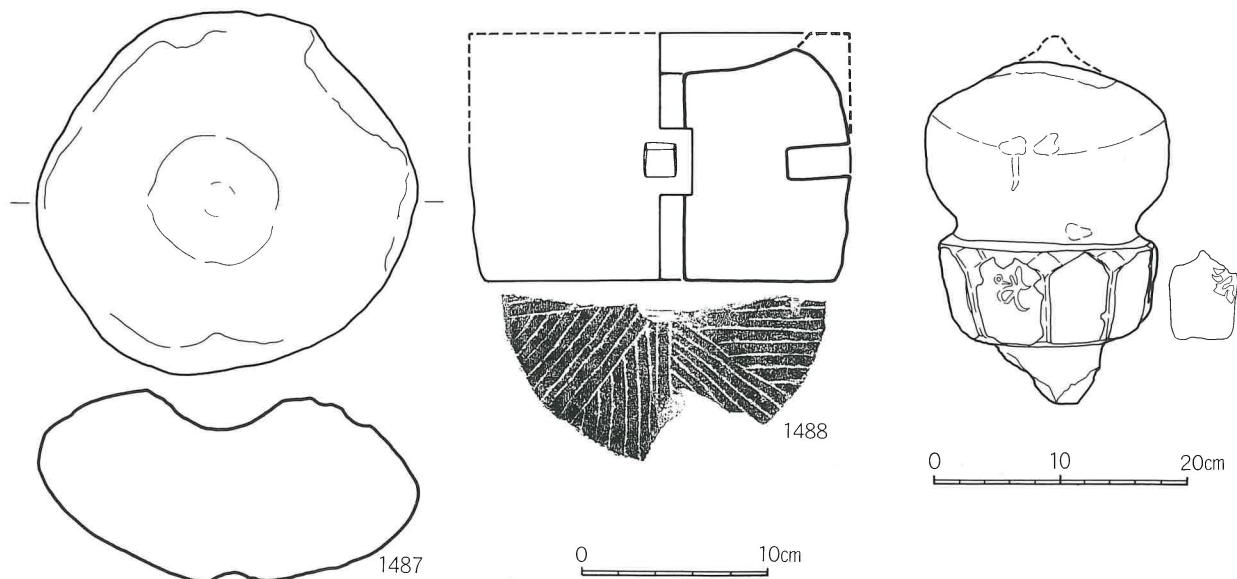
1489は五輪塔の空・風輪部である。風輪部に比して、空輪部が大きめである。風輪部は連弁状に作り出しており、四方に梵字を配するものと思われる。

1490、1491は東国東型瓦器碗である。1490は内面にミガキが施されていたようであるが、器面の状態が悪く明確ではない。外底面で切り離しの状況は確認できないが、押し出しはほとんどされていない。高台は比較的低いものが付く。13世紀前半のものか。1491は須恵質にちかい焼きである。底部には、糸切りの後に板状圧痕がみられる。高台が消失し、完全に平底になった段階のものと思われる。13世紀後半～14世紀初か。

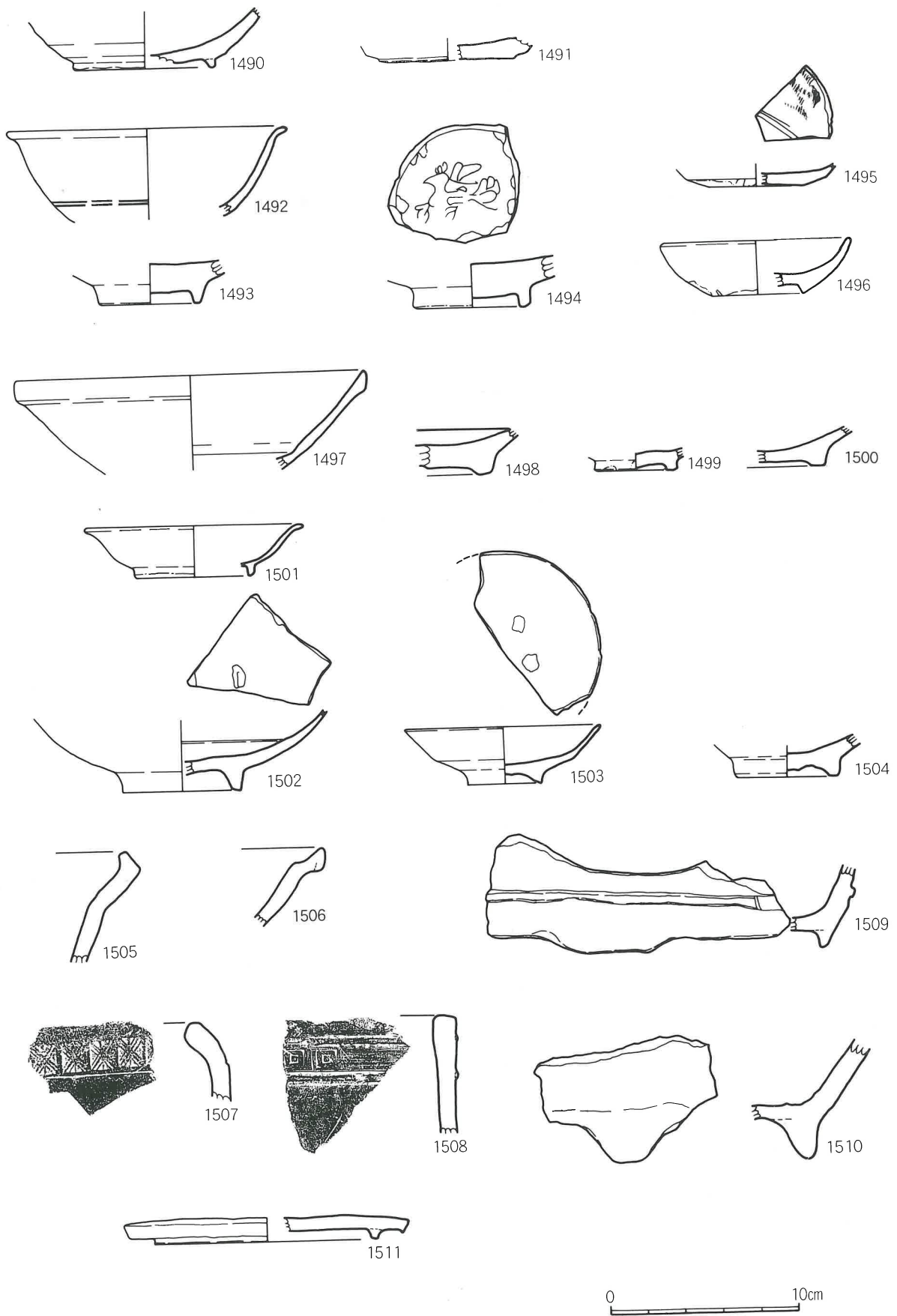
1492～1496は青磁である。1492は碗の口縁部で、口縁部が端反りである。14、15世紀代のものか。1493、1494は碗の底部で、いずれも底部が厚みをもつ。1494の内底面には印花文がみられる。15世紀前後のものであろう。1495は同安窯系の皿である。12世紀後半に比定される。1496は碁笥底を呈する皿である。外底面付近は露胎である。15世紀後半から16世紀前半に主体を置くものである。

1497～1501は白磁である。1497は碗で、口縁部が玉縁をなす。11世紀後半から12世紀前半に主体を置くものである。1498～1500は底部である。1498は玉縁口縁をもつ碗の底部と思われ、11世紀後半から12世紀前半に比定されるが、他については詳細な時期は不明である。1501は皿で口縁部が端反りになる。16世紀前半までに主体を置くものである。

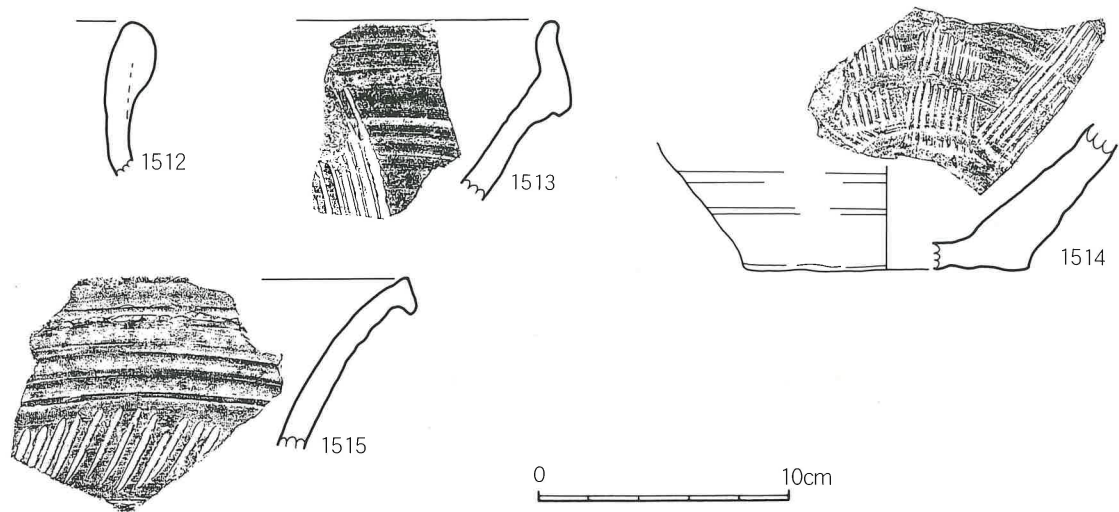
1502～1504は朝鮮製の陶磁器である。1502は白磁碗である。内面体部下に段を有し、見込み部には目積みの痕跡が残る。1503は皿で、体部下半で屈曲する。やはり見込みには目積みの痕が残る。1504は陶器碗で、内外面に白ないしは灰色の釉がかかる。以上のものは15、16世紀代のものか。



第675図 八坂中遺跡溝10(居館3北東側)出土石製品



第676図 八坂中遺跡溝10(居館3北東側)出土土器(1)



第677図 八坂中遺跡溝10(居館3北東側)出土土器(2)

1505、1506は土鍋である。前者は防長系のも、後者は在地のものである。

1507～1510は瓦質土器火鉢である。1507は器高の低いもので、口縁部が内湾する。15世紀後半から16世紀前半に主体を置くものである。1508は器高の高いもので、口縁部は肥厚しない。16世紀中頃までに主体を置くものであろう。1509、1510は脚部で、両者とも板状を呈するもので、比較的低い。16世紀中頃までに主体がある。

1511は瓦質土器の蓋である。

1512は備前焼甕で、玉縁の口縁が下方に垂れる。15世紀代のも。

1513、1514は備前焼播鉢である。1513は口縁端部がわずかに外反する感じである。外面には凹線などはみられない。15世紀代のものか。1514は底部で、内面の摺目は9本単位である。

1515は、中世以前の須恵器甕である。

溝15

土器(第678図)と石製品(第678、679図)が検出された。

1516は土師質土器小皿である。口径は3.9cmと小型なもので、糸切りの底部から体部を上方に引き上げる。16世紀代のものであろう。

1517、1518は瓦質土器火鉢である。1517は器高の低いもので、口縁はやや内湾気味で、端部を内側に大きく肥厚させるものである。外面口縁下には2条の突帯を付しており、突帯間にスタンプ文を配する。時期的には、15世紀後半から16世紀前半に主体を置くものである。1518は器高の高いものである。やはり口縁下に2条の突帯を付しており、その間にスタンプ文が施される。16世紀中頃までに主体を置くものであろう。

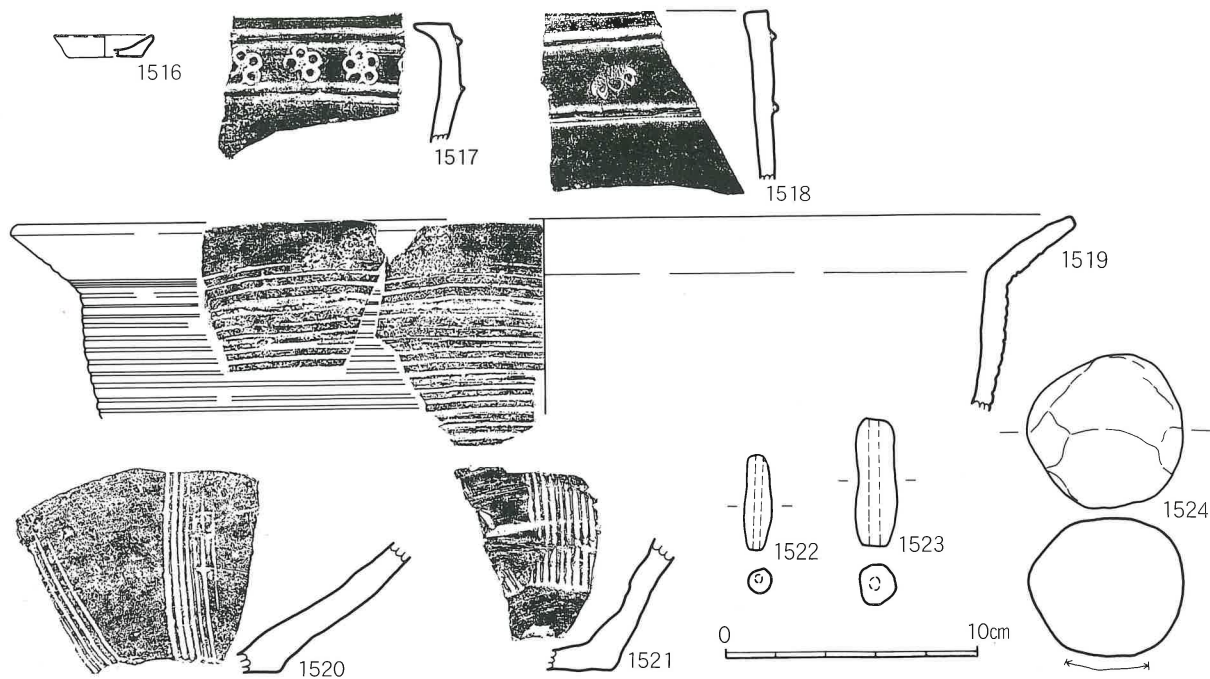
1519は瓦質土器鉢である。体部から口縁部が外側に折れるもので、体部外面には平行沈線が施される。16世紀代のものか。

1520、1521は備前焼播鉢である。1520は底部ちかくの資料で、内面の摺目は7本単位である。1521も底部ちかくのもので、内面の摺目の単位は9本以上である。時期的には、後者が16世紀代に位置付けられ、前者はそれよりも遡るものと思われる。

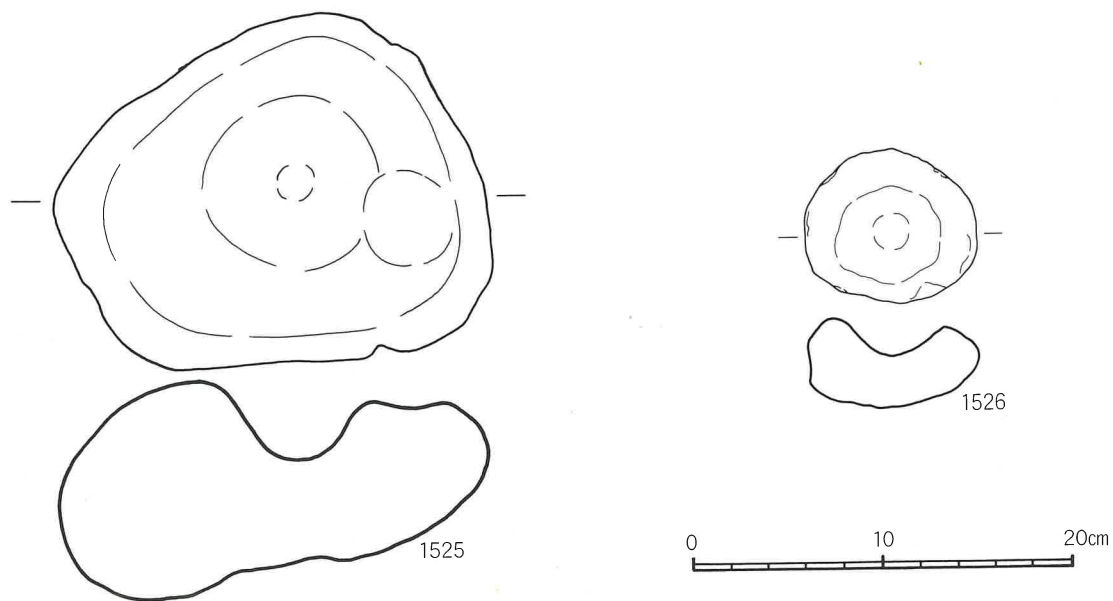
1522、1523は土錘である。

1524は磨石と思われるもので、径6cm強を測る。

1525、1526は凹石である。1525は長径22.5cmを測るもので、両面にくぼみをもつ。1526は径13.5cmで片面のみくぼみを有する。



第678図 八坂中遺跡溝15出土土器と石製品(1)



第679図 八坂中遺跡溝15出土石製品(2)

(13) 居館周辺の溝出土その他の遺物

居館1、居館2、居館3周辺の溝から検出された遺物のうち、特定の溝への帰属が決定できなかったものや、複数の溝の間で接合されたものなどについて紹介する。

溝10、溝11出土土器

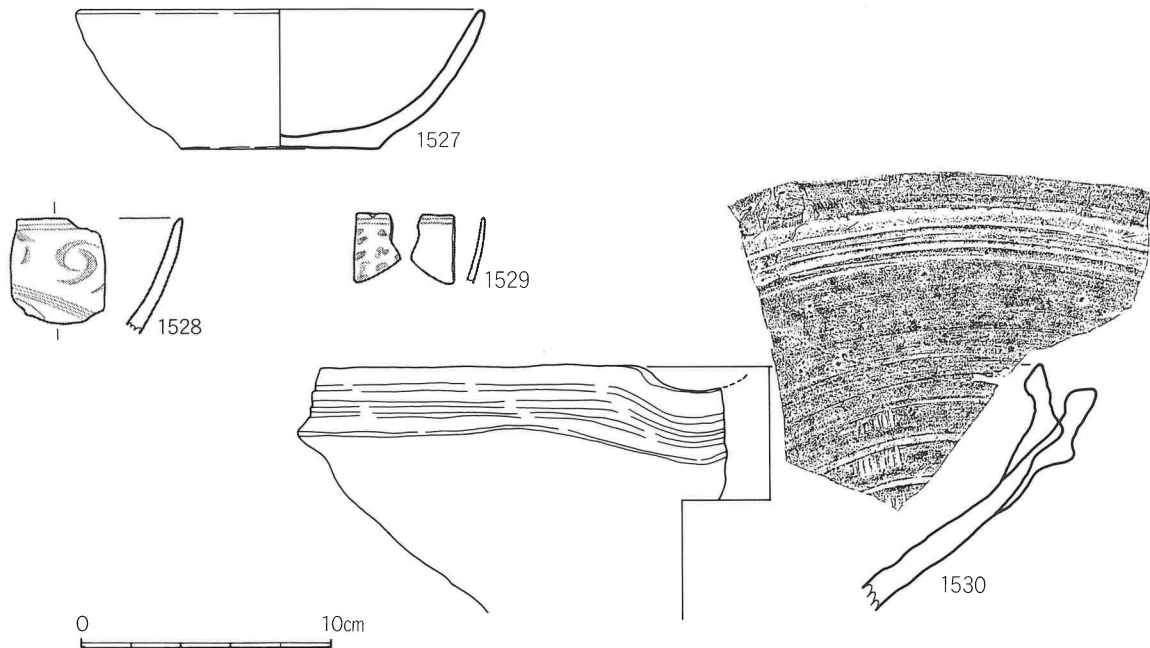
溝10、溝11のどちらに帰属するか明確にできなかった土器(第680図)である。

1527は東国東型瓦器碗であるが、焼成が悪く、生焼け気味のものである。底部は高台が付かない完全な平底で、糸切り後板状圧痕が残る。13世紀後半～14世紀初に比定される。

1528は中国龍泉窯系青磁碗である。体部内面に文様が描かれており、12世紀後半に位置付けられる。

1529は中国明代の青花碗である。口縁部のみの資料であるが、底部は蓮子碗と呼ばれる形態と思われる。15世紀後半から16世紀前半に主体を置くものである。

1530は備前焼播鉢である。口縁外面には凹線がみられ、口縁端部上面は内傾する。16世紀代に比定される。



第680図 八坂中遺跡溝10、11出土土器

溝12、13、15出土土器

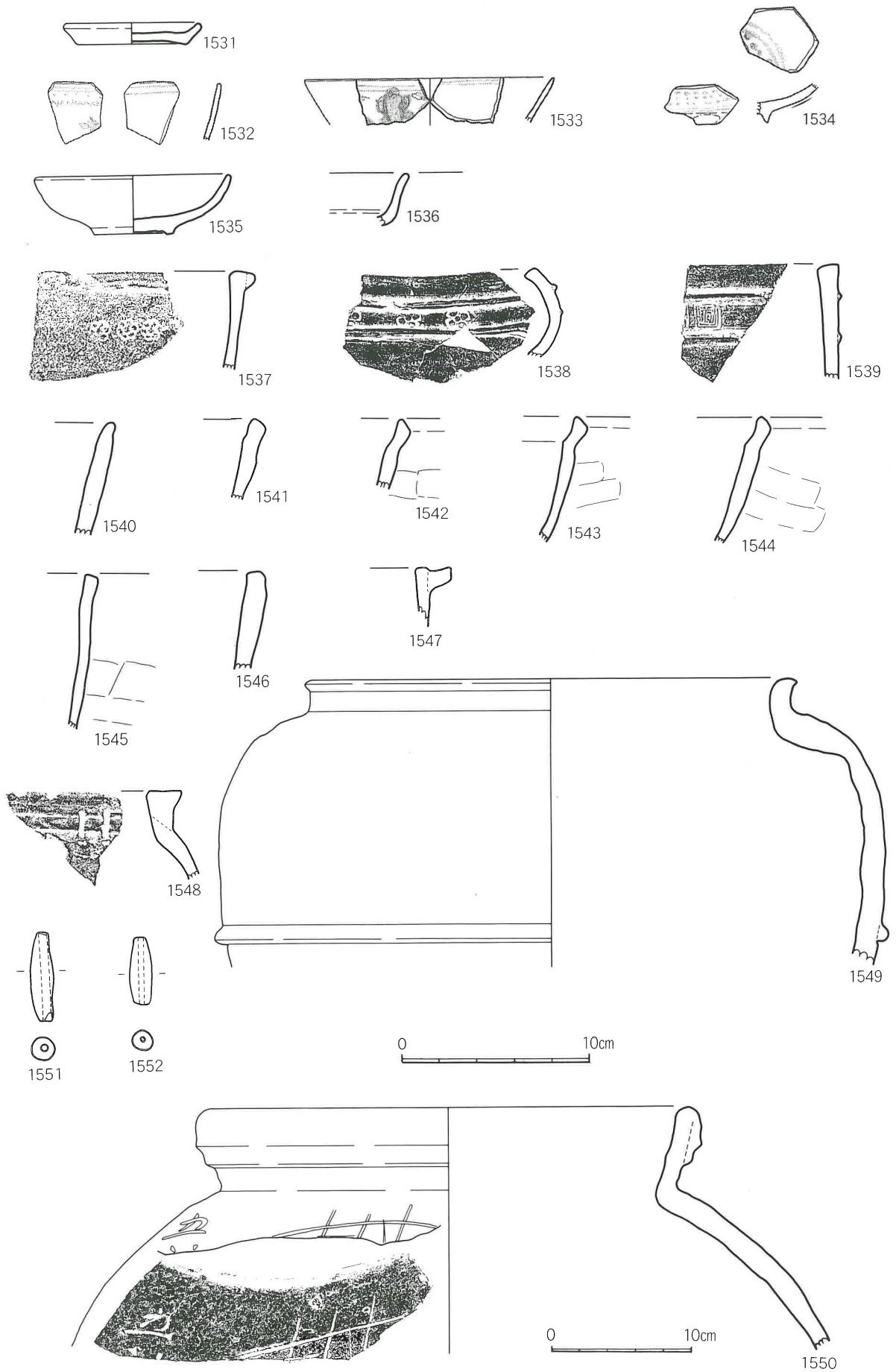
居館3の南西コーナー外側から検出されたもの（第681図）で、溝12、溝13、溝15のどれに帰属するかを明確にできなかった。

1531は土師質土器小皿である。体部の立ち上がりはシャープで、斜方向に引き上げる。口径は7.0cmで、13～14世紀のものか。

1532～1534は中国明代の青花である。1532は碗で、蓮子碗タイプのもと考えられる。16世紀前半までに主体を置くものである。1533も碗であるが、饅頭心タイプであろう。16世紀中頃以降に主体をもつものである。1534は碗で、文様は緑色気味に発色する。いわゆる漳州窯系のものか。

1535、1536は福岡県高取窯系の皿である。口径に比しやや底径が小さく感じるもので、高台もあまり高くない。体部は、口縁周辺に強いナデが施されるため、中程から口縁にむかい屈曲気味に立ち上がる。釉はわずかに青みがかった発色をみせる藁灰釉で、高台部を除き施釉される。17世紀初に比定される。1536も同様な器形を呈すると思われるが、強いヨコナデのため口縁部がやや外反気味である。やはり釉は青みがかった発色がみられる。

1537～1539は瓦質土器火鉢である。1537は口縁端部外面が肥厚するもので、口縁下にスタンプ文が配される。16世紀後半か。1538は器高の低いもので、口縁が大きく内湾する。口縁下には2条の突帯が付され、突帯間にスタンプ文が施される。15世紀後半から16世紀前半に主体をもつものである。1539は器高の高いもので、口縁



第681図 八坂中遺跡溝12、13、15出土土器

部は肥厚しない。やはり口縁下に2条の突帯があり、突帯間にスタンプ文がみられる。16世紀中頃までに主体を置くものである。

1540～1547は土鍋である。1540、1546は内外面ナデ調整で、端部周辺は強いナデがはいる。1541～1544は口縁部周辺に強いヨコナデがはいる、外側に屈曲する。口縁端部は上方に引き上げられる。また、体部外面にはヘラケズリが施される。これらは16世紀代のものである。1545は口縁部が屈曲しないが、外面にヘラケズリがみられる。16世紀代か。1547は外面に鏝が付くもので、鏝は口縁端部まで上がっている。13世紀後半～末か。

1548は瓦質土器甕である。短く直立する頸部に列点状の沈線がはいる。16世紀後半か。

1549、1550は備前焼である。1549は水屋甕である。1550は甕で口縁外面には凹線がみられる。肩部には、ヘラ記号と文字の一部がみられる。両者とも16世紀後半～末に比定される。

1551、1552は土鍾である。

居館周辺の溝間接合土器

居館周辺の溝間で接合した土器を紹介する(第682～684図)。

1553は、溝11、溝12、溝15の資料が接合した。備前焼の甕で、口縁部の玉縁は大きく垂下し、下部がやや角張る。16世紀にはいるものか。

1554は、溝12と溝15が接合した。備前焼甕で玉縁が垂下する。

1555は、溝11b、溝12b、土壙71が接合した。備前焼の甕で、垂下する口縁部の玉縁下部がやや角張る。15世紀から16世紀にかかるものか。

1556は、溝11と土壙146が接合したものである。備前焼の甕で、口縁部の玉縁はながく垂下する。15世紀代のものであろう。

1557は、溝10、溝11、土壙154の接合資料である。備前焼水屋甕である。

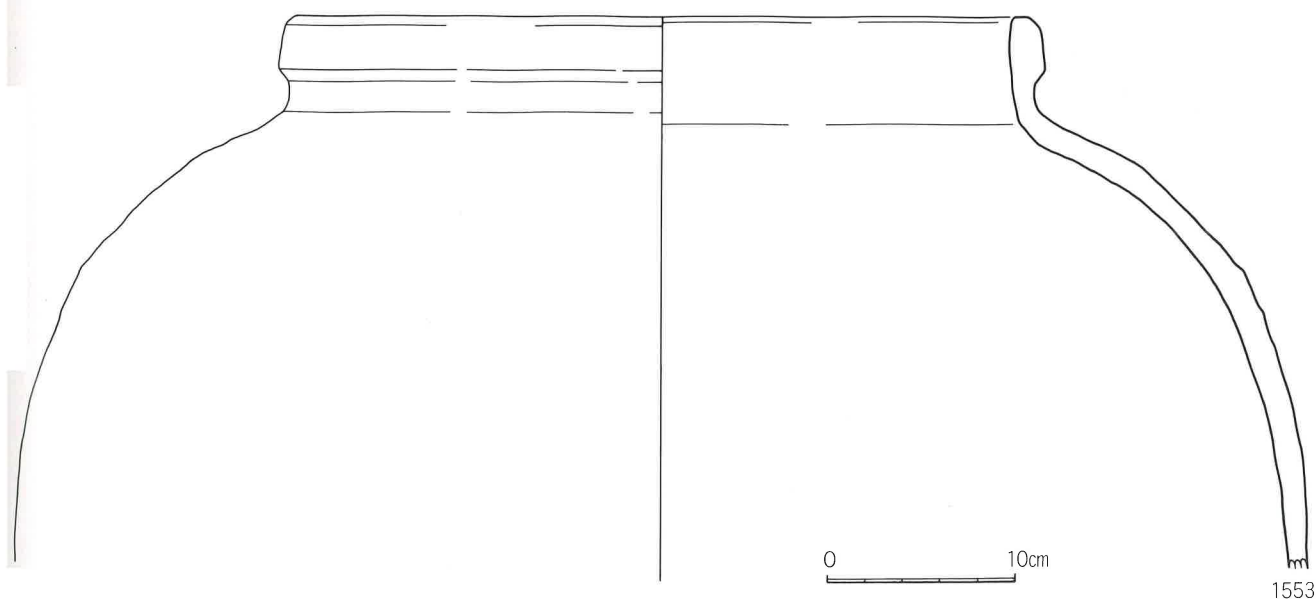
1558は、溝11と溝12bが接合したものである。備前焼鉢で、底部は平底である。体部は内湾気味に口縁にいたる。

1559は備前焼甕の底部で、溝11、溝12b、土壙71が接合した。

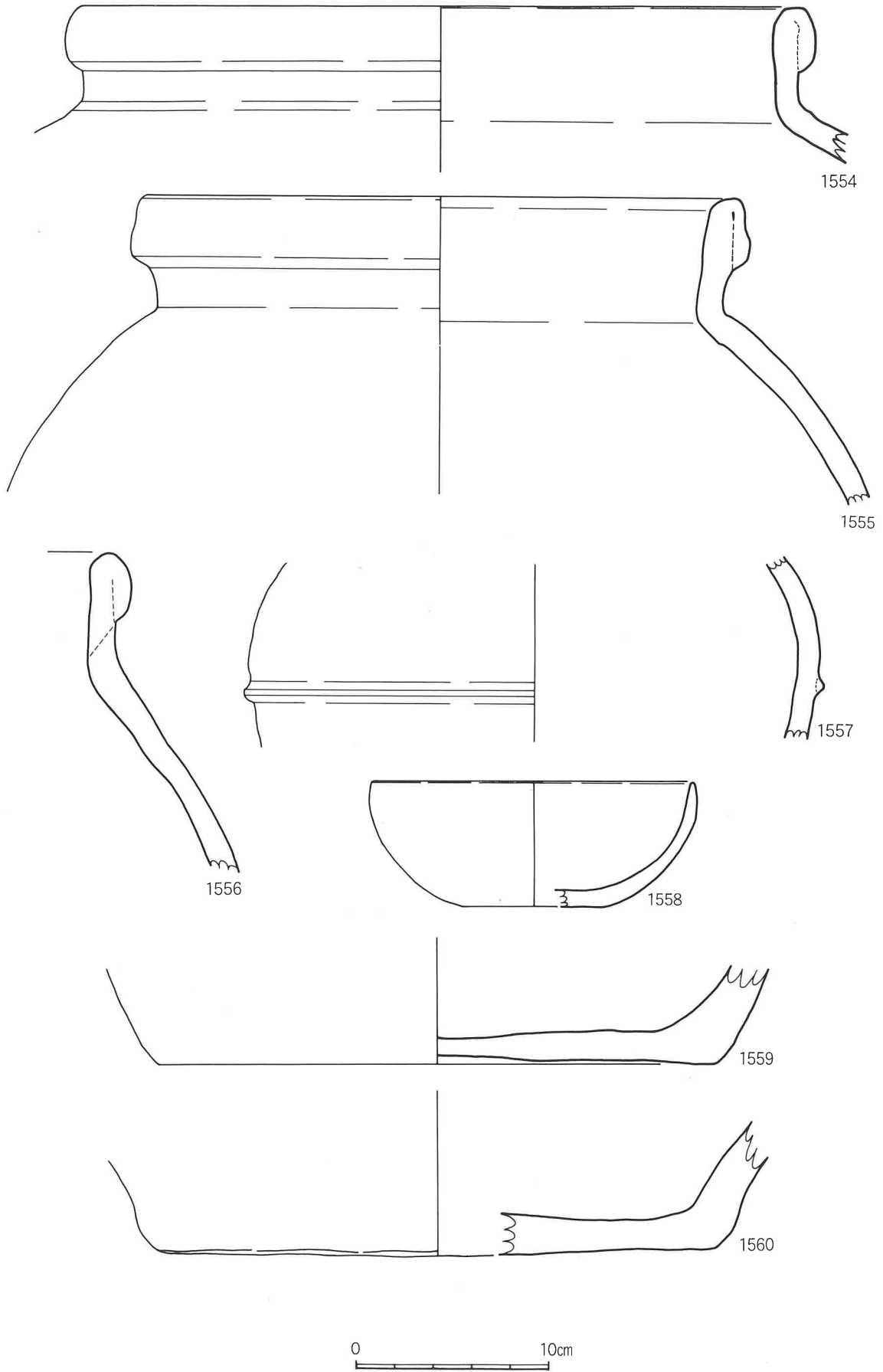
1560は、溝12、溝15、土壙70が接合した。備前焼甕底部である。

1561は、溝11、溝12、溝15の接合資料である。備前焼甕で、垂下する口縁外面の玉縁は下部がやや角張る。16世紀代のものか。

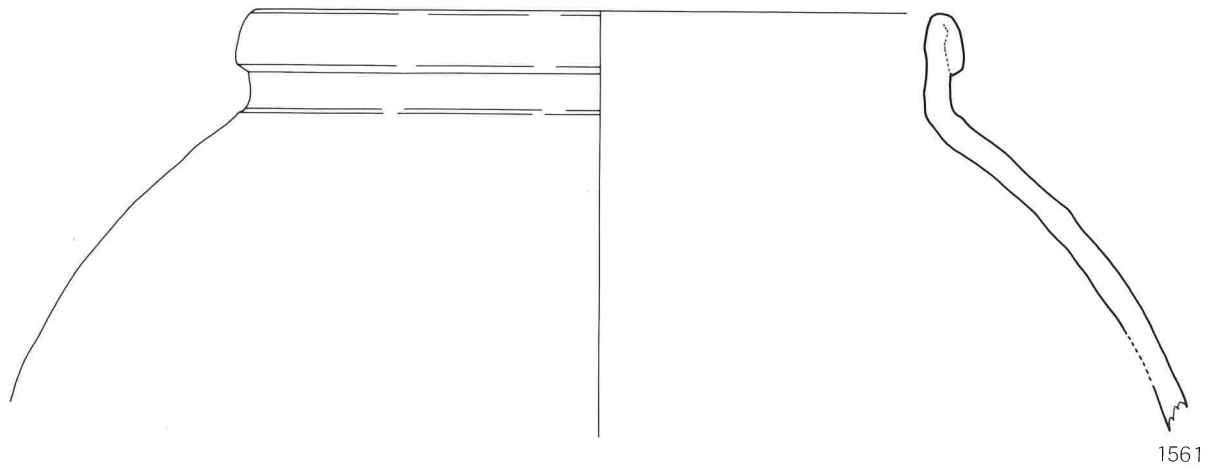
1562は溝12b、溝15、土壙72、土壙146が接合したものである。備前焼甕で口縁部外面には凹線が施され



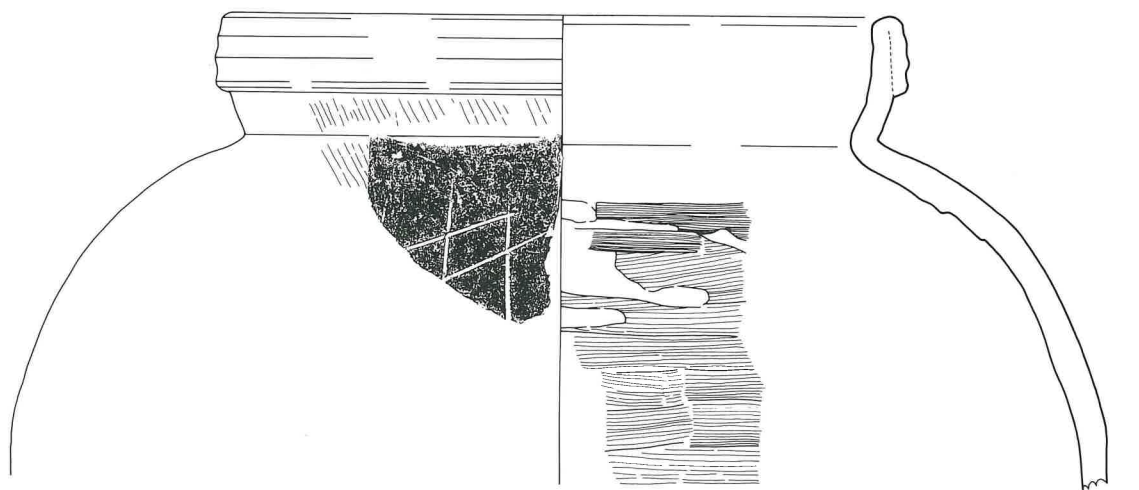
第682図 八坂中遺跡居館周辺の溝間接合土器(1)



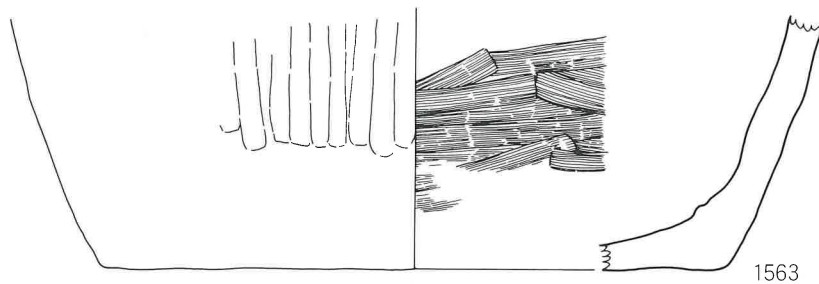
第683図 八坂中遺跡居館周辺の溝間接合土器(2)



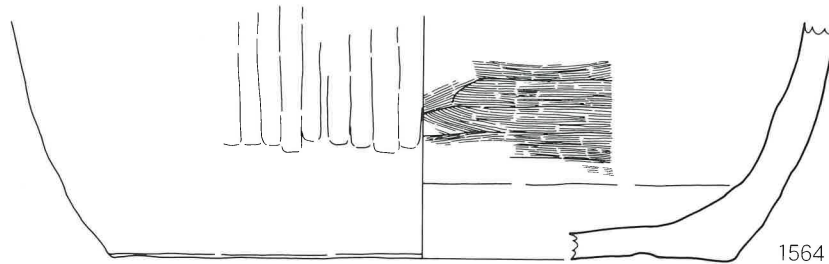
1561



1562



1563



1564

0 10cm

第684図 八坂中遺跡居館周辺の溝間接合土器(3)

る。また、頸部から肩部にかけてはハケメがみられる。肩部にはヘラ記号がみられる。16世紀後半～末のものである。

1563は備前焼甕で、溝12と溝13が接合した。内面にハケメ、外面にヘラナデがみられる。

1564は、溝11、溝12b、溝13の接合資料である。備前焼甕で、内面にハケメ、外面にヘラナデがみられる。

居館周辺の溝出土石製品

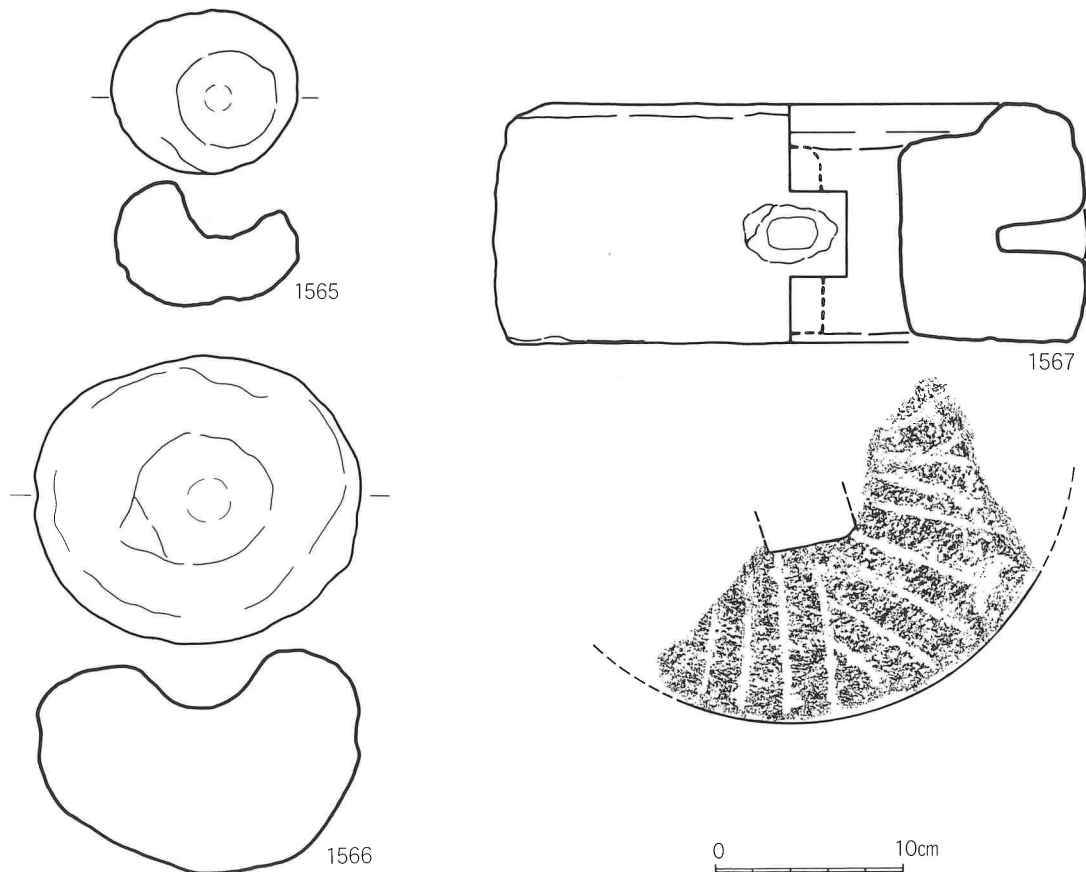
溝12および溝15のどちらとも特定できないもの（第685図1565～1567）や、調査ミスで居館周辺の溝出土としか分からないもの（第686図1568、1569）を紹介する。

1565、1566は凹石である。1565は長径9.8cm、短径4.6cm、厚さ6.4cmを測る円礫を利用している。片面の中央からやや寄った位置にくぼみを作る。くぼみは径5.3cmで、深さは2.2cmである。1566は1565より大型で、長径17.2cm、短径15.2cm、厚さ11.6cmを測る円礫を利用している。片面にくぼみがあり、くぼみの径は約7cmである。

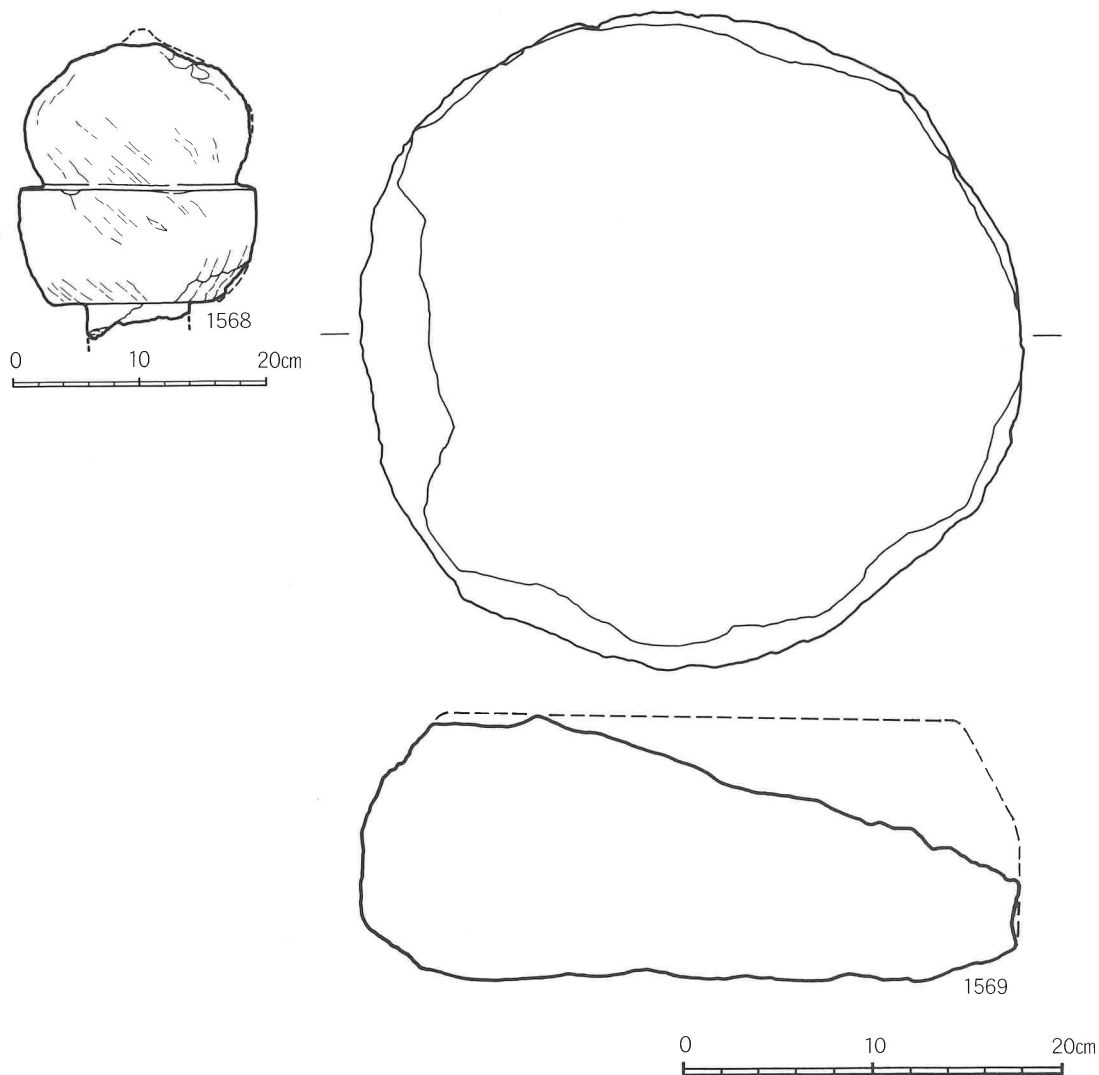
1567は挽臼の上臼である。天場は供給口にむかい深くなり、その深さは約2cmである。側面の中程には挽手穴がみられる。下面の目は、破片資料であるが6分画と推定される。中央から放射状にのびる主溝に、右上がりの副溝が6本ほど彫られる。

1568は五輪塔の空・風輪部である。空輪部は丸みをもつもので、上部の突起は欠損する。空輪と風輪の境界は明瞭で、しっかりした作りである。風輪部に下には、火輪部との接合の際に用いる柄があるが、その大部分は欠損する。

1569は厚さ13.5cmを測る円盤状のもので、上面を欠失する。全体に火熱を受けた痕跡がみられる。挽臼の下臼か。



第685図 八坂中遺跡居館周辺の溝出土石製品(1)



第686図 八坂中遺跡居館周辺の溝出土石製品(2)

(14) 居館1、居館2、居館3の変遷

ここでは、以上述べたうち、居館1、居館2、居館3及びその周辺の変遷について、簡単に確認しておく。

- ・ I期 (第687図) 居館1は溝14、居館2は溝11a、居館3は溝12aにより各々画される。そして居館群の南から東にかけ溝10aが、さらに居館1の西側を溝16がみられる。土塁について明確なものは居館3が溝12aの内側に、溝10aでは居館3部分が溝の東側に築かれる。掘削の時期は不明だが、16世紀中頃までか。
- ・ II期 (第687図) 居館1は溝13、居館2は溝11b、居館3は溝12bにより各々画される。居館群周囲は北側をのぞき溝10bと溝16により二重に囲まれる。加えて、溝10bの北側延長に道状の部分をはさみ溝9が掘られる。土塁は、居館1が溝13の内側に、居館3が溝12aの外側にある。居館2部分では溝10bの外側にみられる。16世紀後半から末にかけての時期か。
- ・ III期 (第688図) II期までの区画が大きく変わり、溝15、溝10c、溝16cにより構成される。しかし、溝の規模は大きく減じ、土塁も明確ではない。時期的には16世紀末から17世紀初と思われる。
- ・ IV期 (第688図) 屋敷を区画するものではなく、溝跡を利用した池状遺構となる。この段階では館は廃絶し、周囲は水田化されていたと思われる。17世紀初以降の時期である。

I 期



II 期



第687図 八坂中遺跡居館の変遷(1)

Ⅲ期



Ⅳ期



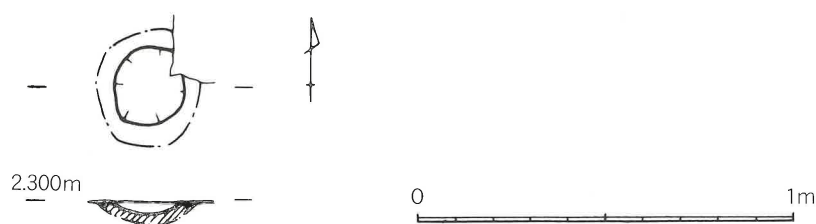
第688図 八坂中遺跡居館の変遷(2)

8 鍛冶関連遺構

本遺跡からは、SX1～10の鍛冶関連遺構が確認された（付図5）。遺構は、鍛冶炉跡、廃棄土壌などで、その大半は居館2内から検出された。

(1) SX1

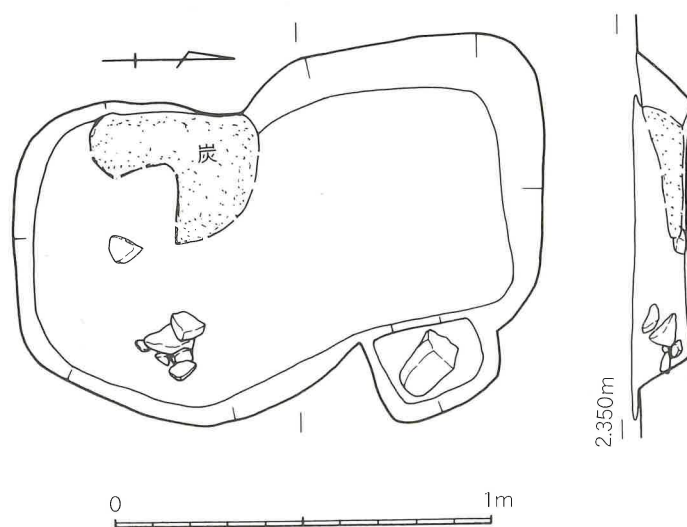
SX1（第689図）は調査区の東端に位置する。遺構は鍛冶炉跡の基底部がかろうじて残存したものと推定される。現状で浅い皿状を呈し、径20cm、深さ数cmの規模を測る。炉は地山を掘りくぼめた後、厚さ数～5cmほどの粘土を全面に貼り炉壁を形成する。炉壁は被熱のため、表面は黒褐色に、また炉の奥は赤褐色に変色している。本遺構は北西側0.75mに位置するSX2とセットをなすものと思われるが、両遺構を覆うような建物は確認されていない。時期については良好な遺物がなく決めがたいが、周辺の状況から14世紀以前のものであろう。



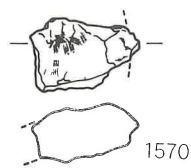
第689図 八坂中遺跡SX1

(2) SX2

SX2（第690図）は、SX1の北西0.75mに位置する。遺構の平面プランは長方形で、南北1.4m、東西0.8mの規模を有する。遺構内からは焼土、炭、鉄滓などが検出された。このうち鉄滓について、量はそれほどでもないが、その中には1570（第691図）のような鍛錬鍛冶滓のほか碗型滓もみられる。本遺構は、近接して位置する鍛冶炉（SX1）とセットをなすものと推定される。鍛造剥片なども検出されており、鍛冶作業に伴う廃棄土壌の役割を担っていたものであろう。時期については、SX1同様不明であるが、14世紀以前のものであろう。



第690図 八坂中遺跡SX2

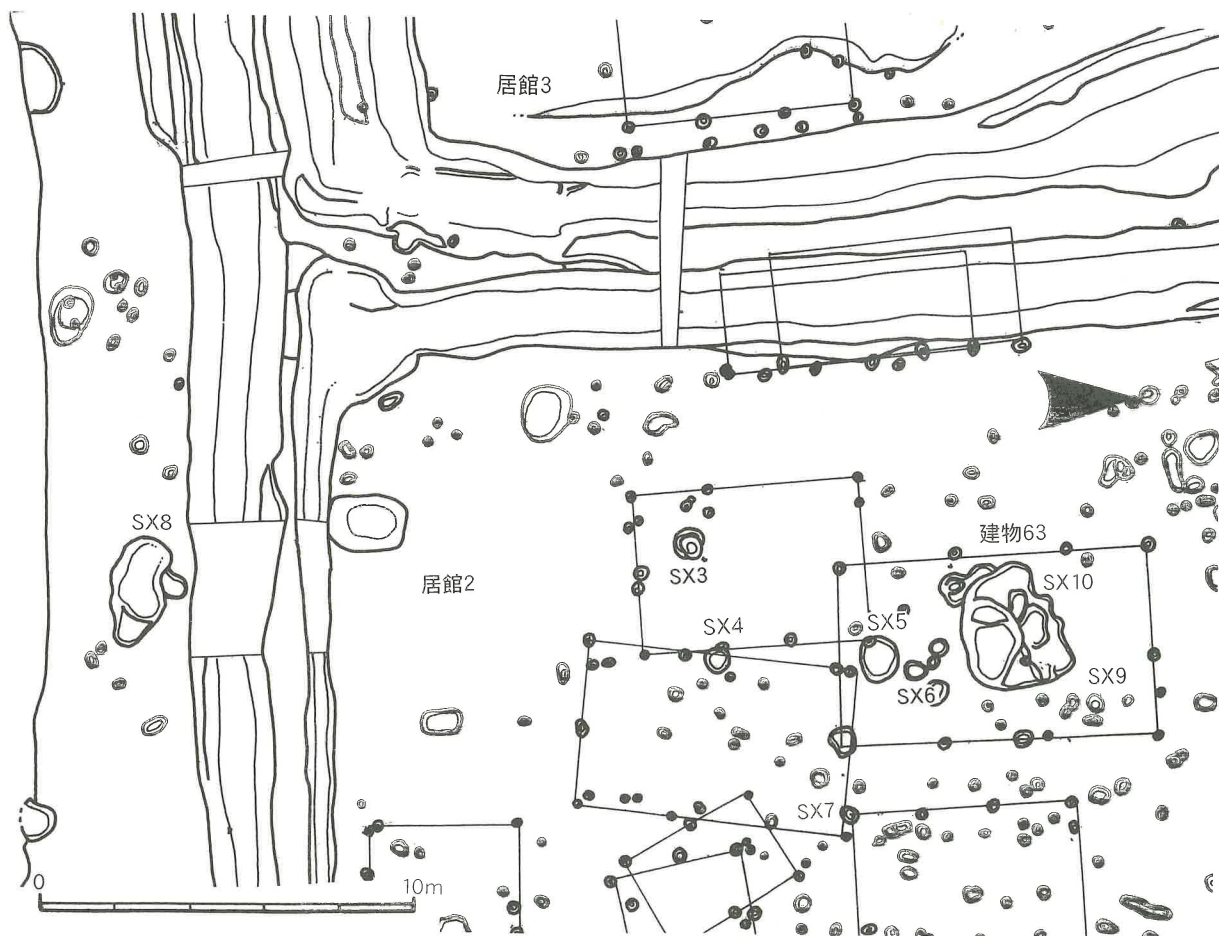


第691図 八坂中遺跡SX2出土鍛冶関連遺物

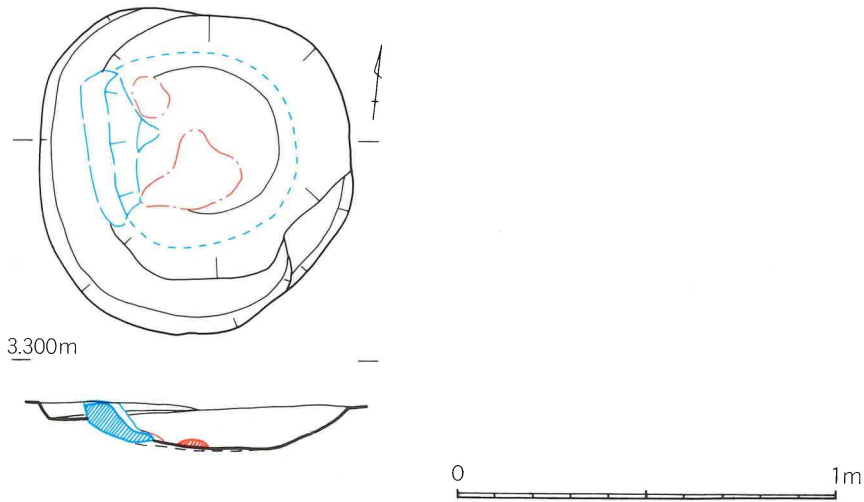
(3) SX3

居館2内部の南西部周辺には、鍛冶関連遺構が集中する(第692図)。SX8が居館2のすぐ外側にある以外は、すべて居館内部にみられる。鍛冶炉も数基確認することから、居館2内部で具体的な鍛冶作業が行われていたのは確実である。また、3基確認された居館のうち鍛冶関連遺構が検出されたのは居館2だけであることから、連続する居館群ではあるが性格的に差異を有するものと思われる。

SX3(第693図)は鍛冶炉と思われる。大半が破壊され、基底部がかろうじて残存するもので、炉壁も一部が旧状を保つのみである。現状で、掘り方は径0.7mの円形を呈し、深さは0.1mを測る。掘り方の西から南側にかけて、さらに浅い段落ちが確認されるが、残存する鍛冶炉とは直接かかわりがないものと考えられる。炉壁は西側に一部が残存する。厚さ数~5cmにわたり粘土を貼ったもので、粘土は被熱のため黒~灰色に変色している。残存する炉壁から、炉の内径は径約0.5mに復元されるが、SX9に比べるとやや大型である。基底部は粘土を貼った炉壁が残らず、地山が被熱のため赤褐色に変色している。時期は16世紀代と推定される。



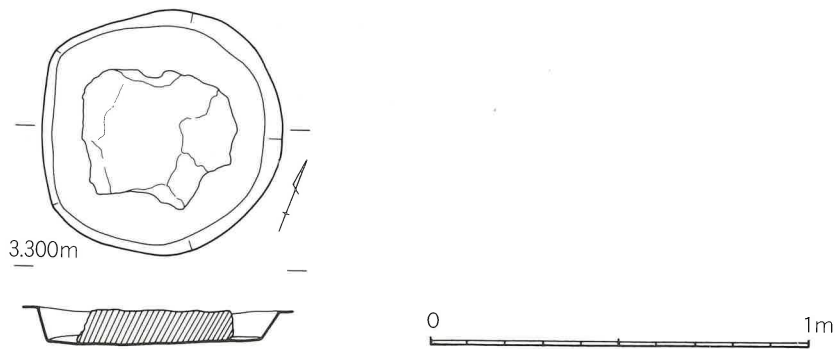
第692図 八坂中遺跡SX3~10位置図



第693図 八坂中遺跡SX3

(4) SX4

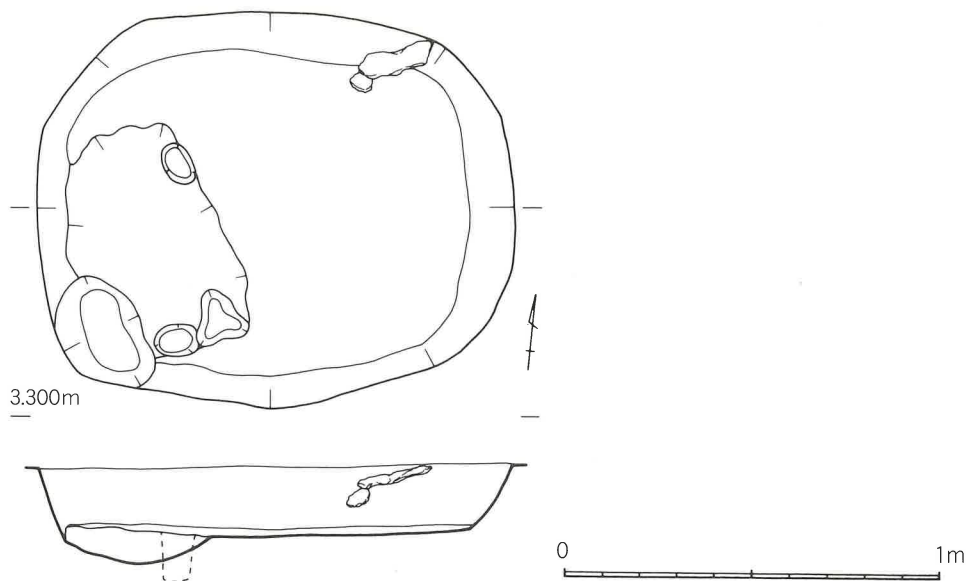
SX4 (第694図) は、SX3の東約4mに位置する。遺構は平面プラン円形を呈し、径約0.65mを測る。深さは検出面から0.1mほどで、床面は平坦である。遺構内の中央床面には、鉄滓がみられる。鉄滓は長さ0.4m、幅0.3m、厚さ0.1mを測る大型のものに見えるが、詳細に観察すると細かな鉄滓が再結合したものであることが分かる。鉄滓には鍛造剥片が付着しており、鍛冶作業にともなう鉄滓であると推定される。時期は、出土遺物がなく不明であるが、16世紀と思われる。



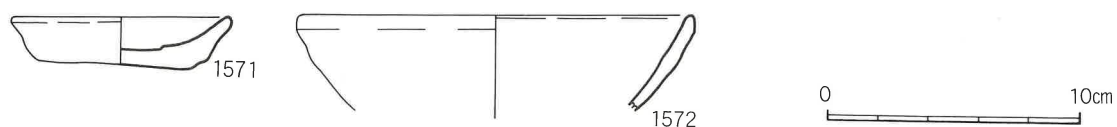
第694図 八坂中遺跡SX4

(5) SX5

SX5 (第694図) は、SX4の北約7mに位置する。遺構は平面プランが楕円形基調を呈するもので、長径1.25m、短径1.05mを測る。深さは検出面から約0.2mで、西壁にちかい部分はさらに深くなる。遺構内からは鉄滓や炭の小片が多数検出されたほか、鍛造剥片もみられた。本遺構は鍛冶炉とセットをなす廃棄土壇と考えられ、すぐ北側に接するようにみられるSX6が伴う鍛冶炉跡であろう。SX5からは1571、1572 (第696図) のような13、14世紀代の遺物が検出されているが、周辺状況から16世紀代のものと思われる。



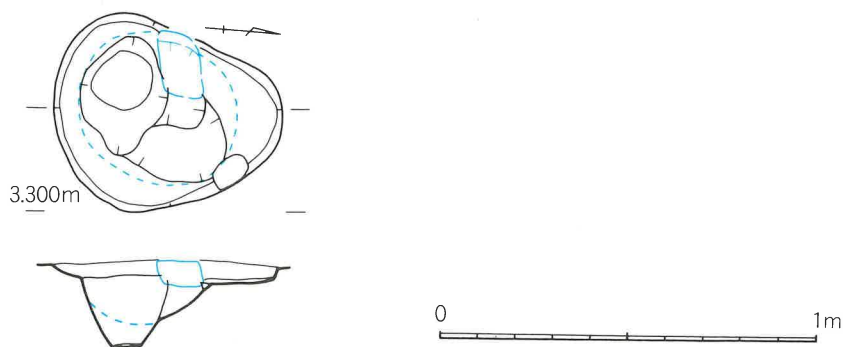
第695図 八坂中遺跡SX5



第696図 八坂中遺跡SX5出土土器

(6) SX6

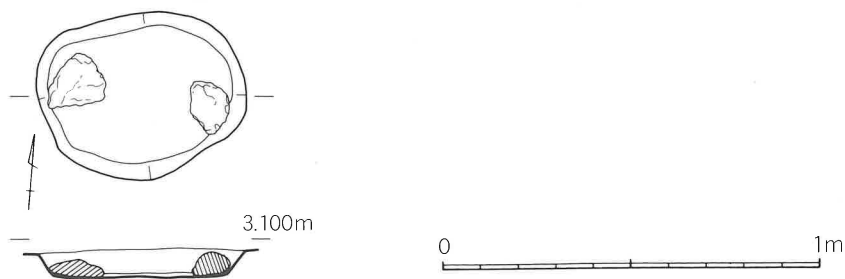
SX6 (第697図) は、SX5のすぐ北側に接するように位置する。柱穴に切られるなど大半は破壊されているが、かろうじて基底部分が残存する。炉の掘り方は径0.5mほどと推定され、深さは検出面から約0.15mである。炉壁は西側で一部が残るのみで、厚さ数cmの粘土が貼られている。残存する炉壁から鍛冶炉の径は約0.4mに復元される。位置的な状況から、本鍛冶炉は廃棄土壌であるSX5とセットをなすものと考えられる。時期は16世紀代と思われる。



第697図 八坂中遺跡SX6

(7) SX7

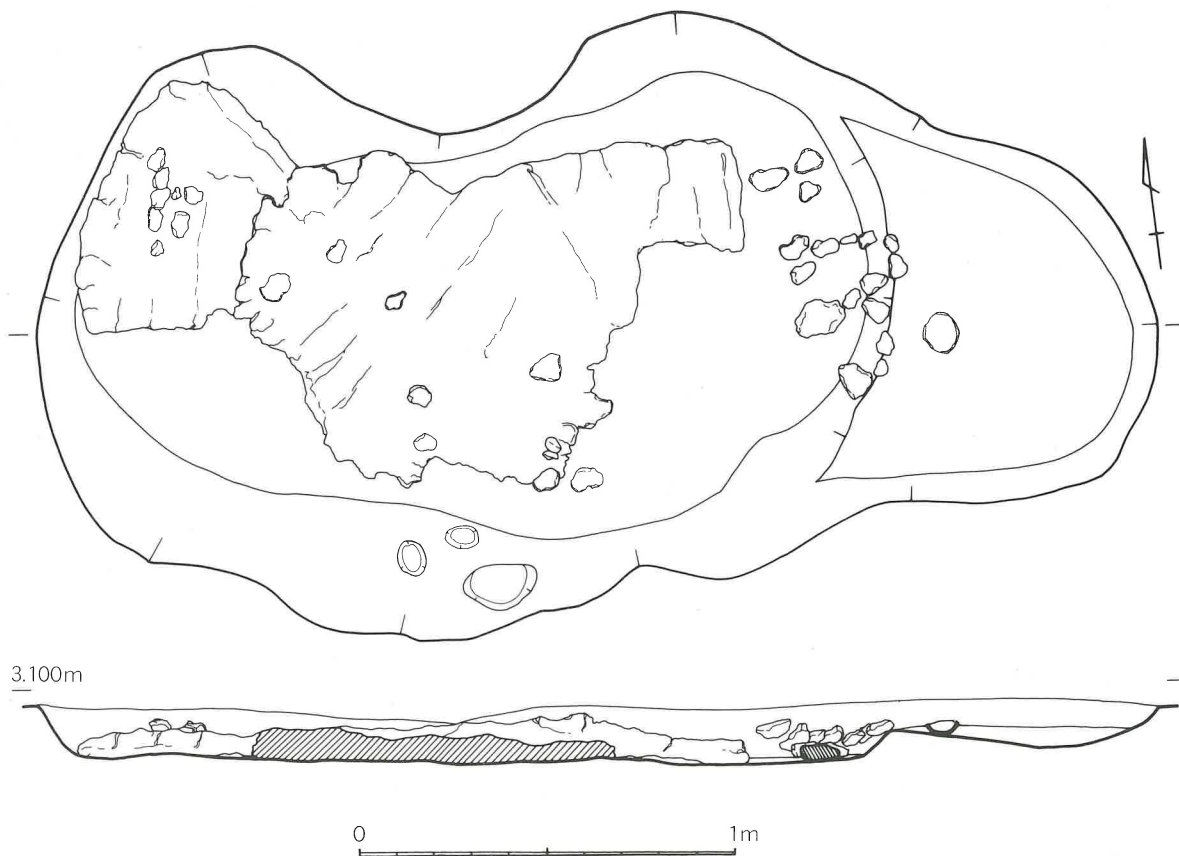
SX7 (第698図) は、SX5、SX6の南東約6mに位置する。遺構は楕円形を呈し、長径0.55m、短径0.45mを測る。深さは検出面から0.1m弱で、床面は平坦である。遺構内からは、鉄滓などが多数検出された。鉄滓は15cmを測る大型のものもある。鉄滓は椀型鍛冶滓などがみられ、なかには鍛造剥片が付着するものもある。本遺構は鍛冶炉に伴う廃棄土壌的な性格をもつものと思われるが、近接する周辺に鍛冶炉は存在しない。時期は良好な遺物がなく明確にしがたいが、16世紀代のものであろう。



第698図 八坂中遺跡SX7

(8) SX8

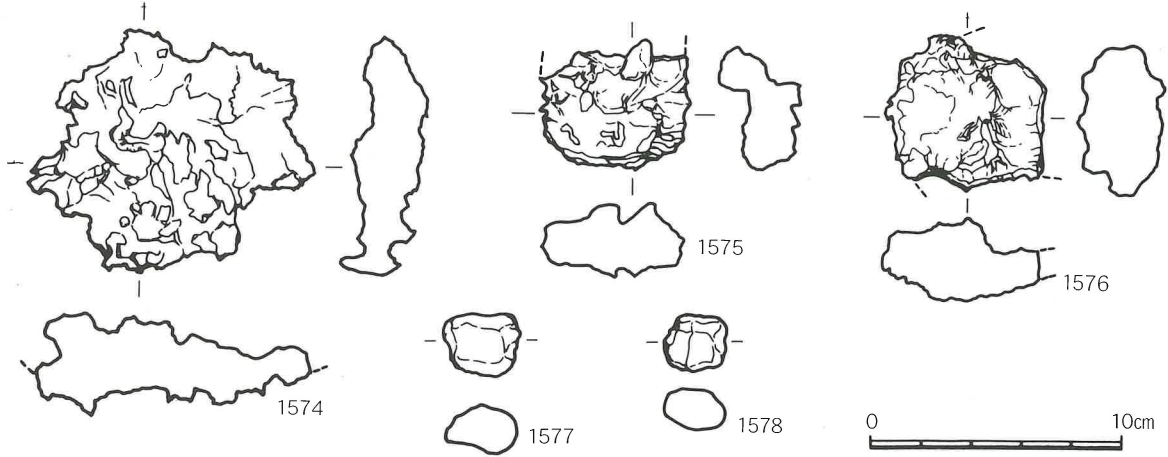
SX8 (第699図) は、居館2の南西部外側にみられる。居館2は溝11により画され、さらにその外側を溝10により囲まれるが、SX8は溝10から約1m離れ位置する。遺構は不定形を呈するもので、東西方向に長軸をもつ。現状で長径2.95m、短径1.45mの規模をもつ。これらは2基の遺構が重複しており、東側の一段高い部



第699図 八坂中遺跡SX8



第700図 八坂中遺跡 SX 8 出土土器



第701図 八坂中遺跡 SX 8 出土鍛冶関連遺物

分の土壌を、鉄滓が多量に廃棄された土壌が切る。切られた土壌からは1573（第700図）の土器が検出された。土器から土壌は13、14世紀代の所産と考えられる。

鉄滓が多量に廃棄された土壌は、検出面からの深さ約0.15mで、床面上のほぼ全面にわたり鉄滓がみられる。鉄滓は長さ1.4m、幅0.9m、厚さ数～0.1mにわたりみられる。これらは廃棄された鉄滓が再結合されたものと考えられ、これらの中には椀型鍛冶滓や鉄塊系遺物が含まれる。加えて、鍛造剥片や粒状滓なども多数検出された。以上から、本遺構は鍛冶炉に伴う廃棄土壌と考えられる。時期については、良好な遺物がなく不明とせざるをえないが、13、14世紀代以降の所産であることは確実で、16世紀代に比定される可能性が高い。

・出土遺物

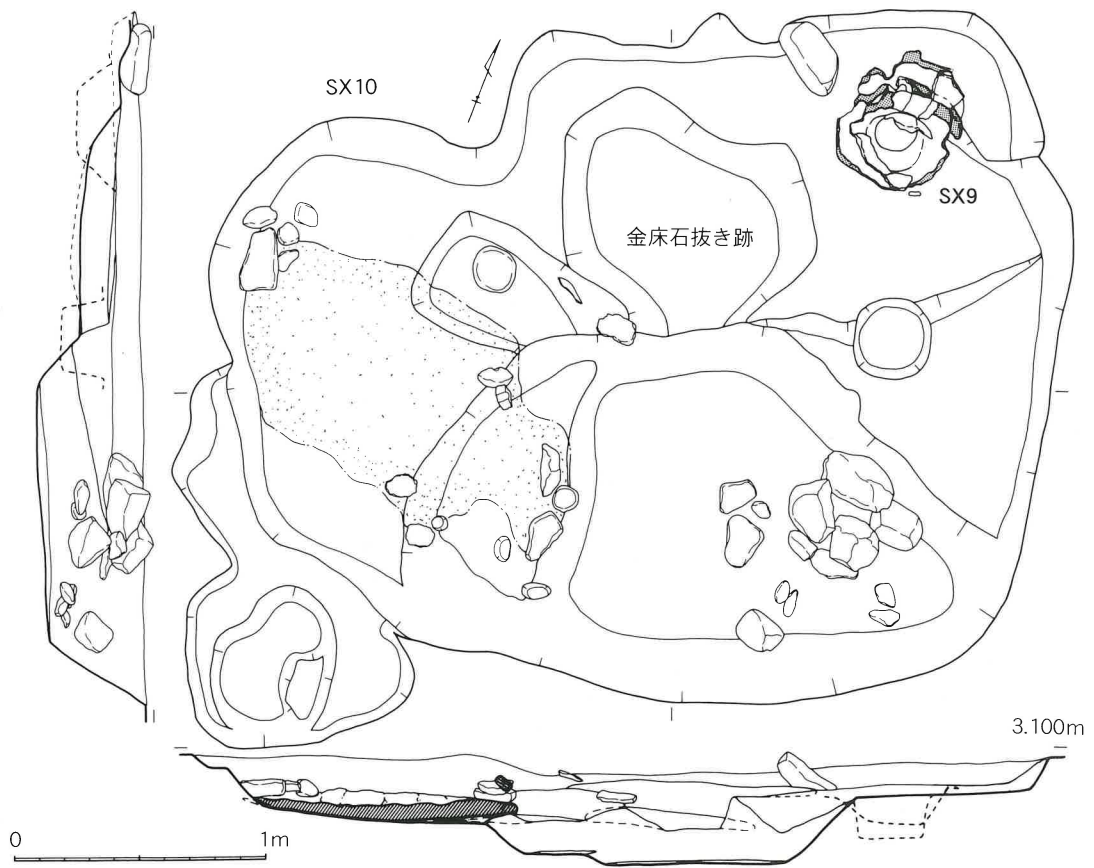
1573（第700図）は土師質土器坏で、底径6.8cmを測る。体部は斜方向に比較的シャープに立ち上がる。13、14世紀代のものか。

1574～1578（第701図）は鍛冶関連遺物である。このうち1574～1576は椀型鍛冶滓である。これらは、精錬生成鉄の不純物除去及び成分調整の精錬鍛冶工程で炉内において生じたものである。

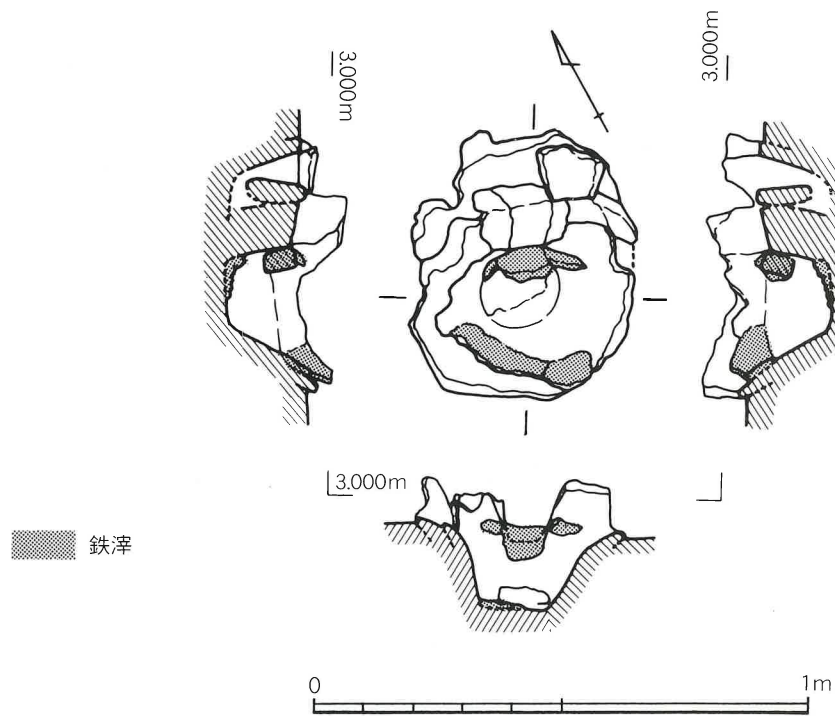
1577、1578は鉄塊系遺物である。本遺跡に精錬鍛冶の素材として持ち込まれた可能性をもつものである。これらはまだ鉄分が多く残り、鍛冶滓などに比べると小型でも重量感がある。

(8) SX 9、SX 10

SX 9、SX 10（第699図）は、居館2内部にみられる。居館2内の南西部には鍛冶関連遺構が集中しており、居館2内で鍛冶作業が行われたことを物語っている。SX 9及びSX 10は、SX 5、SX 6のすぐ北側に位置するが、これらは位置的に建物63の中に入る。建物に伴うものであるかの判断は難しいが、鍛冶炉であるSX 9は建物内部の中央やや北寄りにあり、この時同じく鍛冶炉であるSX 6はSX 9と対称的な位置である中央やや南寄りにあることから、建物63内にはSX 6とSX 9の2基の鍛冶炉が存在した可能性は高いと思われる。このように、2基の鍛冶炉（SX 6、SX 9）とそれに伴う廃棄土壌（SX 5、SX 10）を計画的に建物内に配していることから、建物63は鍛冶工房的性格をもつ建物であったことが分かる。

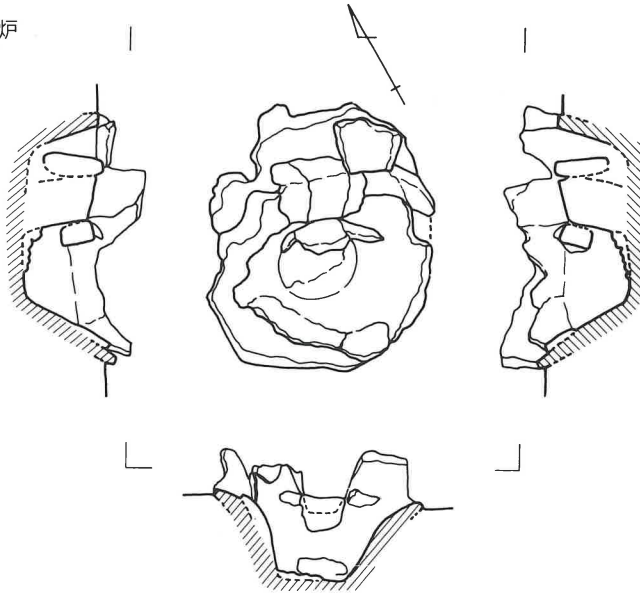


第702図 八坂中遺跡 SX9、SX10

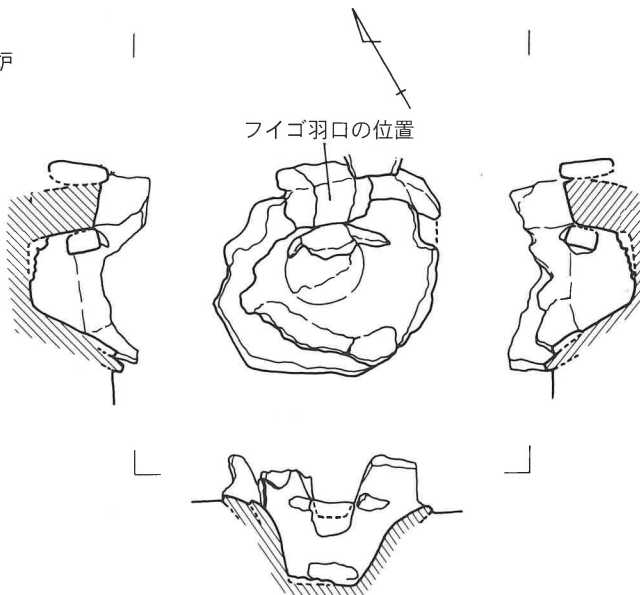


第703図 八坂中遺跡 SX9(1)

1 回目操業の炉



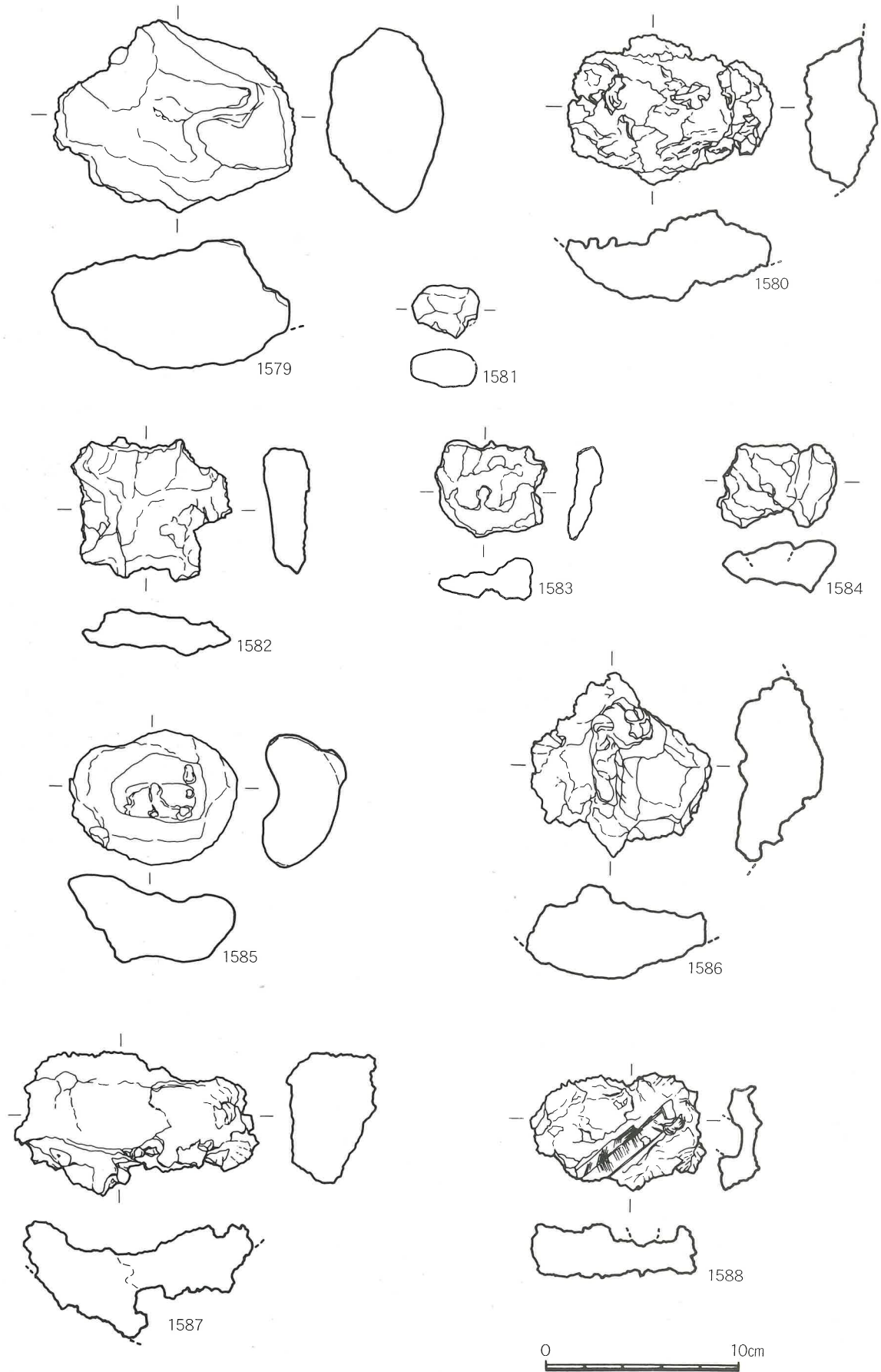
2 回目操業の炉



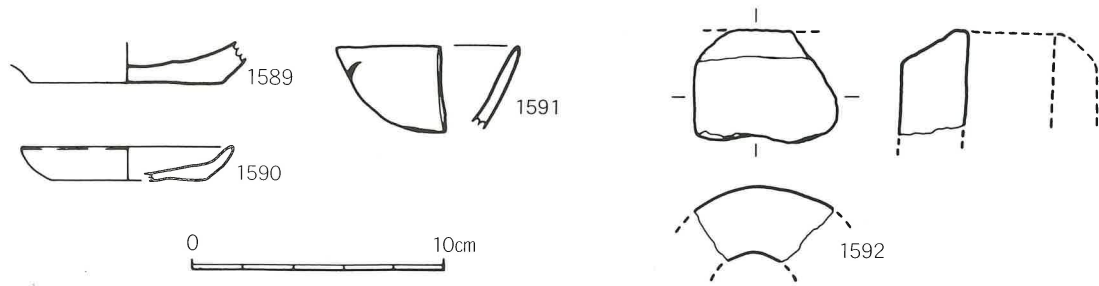
||||| 推定の炉壁



第704図 八坂中遺跡 SX9(2)



第705図 八坂中遺跡 S X10出土鍛冶関連遺物



第706図 八坂中遺跡 SX10出土遺物

SX10は不定形を呈するもので、東西3.4m、南北2.7mの規模をもつ。このなかで鍛冶炉であるSX9は、東北隅に築かれている。SX9についての詳細は後段で述べるが、炉の北側には送風施設が設置されていたものと推定される。炉の西側にある長さ30cmほどの礫は、これに係わるものであろうか。また、炉の周囲はわずかに平坦面が広がっており、炉まわりでの作業スペースと考えられる。炉の南西側には、平坦面から約15cmの掘り込みが認められる。この掘り込みは、炉との位置関係などから金床石の抜き跡と推定される。金床石は炉内から取り出した製品を鍛える台で、上面が平坦な石が据えられていたものであろう。金床石の北側には職人が位置したものと思われ、ファイゴを操作しながら炉内に製品をいれ、半身をかえし金床石にむかうという作業を繰り返したことが想像される。金床石抜き取り跡の南側には、炉周囲の平坦面から約30cmの深さをもつ掘り込みがみられる。掘り込みは、東西1.5m、南北1.0mの規模をもつもので、床面は平坦である。廃棄土壌的な性格をもつものとも考えられるが、鉄滓などは埋土中から散発的に検出されるのみで、操業時に鉄滓などが集中的に廃棄されたような状況は確認できなかった。この場所は、炉脇の職人に対向する位置に職人が立つスペースであると推定される。すなわち、炉脇の職人が金床石に向かい製品を鍛えあげる際に、対向する位置に別の職人も立ち交互に製品を鍛える作業を行ったものであろう。対向する位置の職人は、強く打ちおろせるよう立ったまま作業を行うため、自分の立ち位置を低くしたものと推測される。以上に対し、金床石の南西側には鉄滓が厚く堆積する。鉄滓は長さ1.5m、幅0.8mにわたりみられ、床面から厚さ数～10cmにわたりみられる。これらは鉄滓が再結合し板状になったもので、椀型鍛冶滓など含むものである。また、鍛打工程で派生する鍛造剥片や粒状滓なども多量に検出され、精錬～鍛錬鍛冶の一貫作業がなされたことが推測される。

SX9（第703、704図）は鍛冶炉で、ほぼ完全な状況で検出された。本来これらの鍛冶炉は、当時の生活面を浅く掘くばめ構築されているため残存状態がよくない。本遺跡でもSX1、SX3、SX6などの炉跡が確認されているが、いずれも基底部がかろうじて残ったものである。SX9は、一段掘り下げられたSX10内に構築されたため、削平をまぬがれほぼ完全なかたちで残ったものと推測される。炉は現状で（第703図）、長径50cm、短径40cmの規模をもつもので、深さは約15cmを測る。これらは、一部炉壁が欠落している個所もあるが、ほぼ完全なかたちで残存しており、1度補修された状況も確認される。よって、本炉跡には1回目、2回目と2度の操業面がある。以下、その状況を説明する（第704図）。1回目の炉の炉壁は、炉の東側ではそのまま残存しているが、それ以外の部分では補修作業が行われたため、2回目の炉壁に隠れた状況である。南側から西側にかけては、1回目の炉壁の上に直接粘土を数cm貼り2回目の炉壁を作っている。そのため、現状より一回り大きい、現状のラインとほぼ同じ形状であったことが分かる。北半分については当初の炉壁を覆うように礫などがいれられ補修作業が行われており、全容はつかみにくい。当初の炉壁が確認される。しかし、東北部については炉壁が完全に欠落しており、被熱のため赤褐色に変色した地山となっている。以上から、1回目の炉は上面で南北50cm、東西40cmの規模をもつ、円形にちかいものであったことが分かる。また、深さは約15cmで、底面の広さは20cm×15cmほどであったと思われる。2回目の炉は、1回目の炉の北半分を埋めるかたちで形成されており、規模は半減する。北半分には、1回目の炉壁を覆うように礫をいれた後に、改めて厚さ10cmほど

に厚く粘土を貼り炉壁を作る。1回目の炉壁のうち、北東側などの破損が著しいことから、北半分を覆うような改修を行ったものであろう。東側は当初の壁をそのまま使うが、南側から西側にかけては古い炉壁の上に直接粘土を貼り、新しい炉壁を作る。その際、1回目の炉壁上部に付着していた鉄滓は除去されず、そのまま埋め込むかたちで粘土が貼られている。その結果、長径45cm、短径30cmを測る長楕円形となり、炉の規模も大きく減じることとなる。また、フイゴの羽口を置かれたと思われる部分が北側にみられる。北側の炉壁は他に比べ約10cmほど高く立ち上がるが、そのなかの幅10cmほどは壁の立ち上がりが見られず、羽口の装着部分と推測される。

以上のSX9、SX10の時期は、これを覆う建物63が居館2の主軸方向とほぼ同じであることから、居館2と同じ16世紀代に比定される。

・出土遺物

1579～1588（第705図）は、鍛冶関連遺物である。以上のうち、1581は鉄塊系遺物である。径3cmほどの小型品であるが、本遺跡に精錬鍛冶の素材として持ち込まれた可能性をもつものである。これらはまだ鉄分が多く残り、鍛冶滓などに比べると小型でも重量感がある。

1584は再結合滓。その他は椀型滓である。椀型滓のうち、1585は重量感があり、鉄分を多く含むものである。

1589～1592（第706図）は土器である。1589は土師質土器坏で、13、14世紀代に比定できるものである。1590は土師質土器小皿である。復元口径8.4cmを測るもので、12～13世紀代のものか。1591は青磁碗で、内面に文様が見られる。12世紀後半のものである。1592はフイゴ羽口で、復元内径は3.6cmを測る。

八坂中遺跡鍛冶関連遺物計測表

鍛造剥片(単位 g)

| 類 | 大きさ | SX2 | 割合 | SX4 | 割合 | SX5 | 割合 | SX6 | 割合 | SX7 | 割合 | SX8 | 割合 | SX10 | 割合 |
|---|------------|------|--------|------|--------|------|--------|-----|--------|------|--------|-------|--------|-------|--------|
| 1 | ～0.7mm | 0.4 | 1.6 % | 0 | | 58.2 | 35.8 % | 0.5 | 5.3 % | 4.4 | 95.2 % | 216.0 | 50.9 % | 310.5 | 44.3 % |
| 2 | 0.71～1.4mm | 2.9 | 11.3 % | 0.2 | 90.9 % | 67.3 | 41.3 % | 3.6 | 37.9 % | 0.1 | 2.2 % | 158.1 | 37.2 % | 287.3 | 41.0 % |
| 3 | 1.41～2.0mm | 8.0 | 31.3 % | 0.02 | 9.1 % | 23.4 | 14.3 % | 5.2 | 54.7 % | 0.1 | 2.2 % | 33.7 | 7.9 % | 60.0 | 8.6 % |
| 4 | 2.1～4.0mm | 13.3 | 51.9 % | 0 | | 11.9 | 7.3 % | 0.2 | 2.1 % | 0.02 | 0.4 % | 15.2 | 3.6 % | 34.2 | 4.8 % |
| 5 | 4.1～5.6mm | 0.9 | 3.5 % | 0 | | 0.3 | 0.2 % | 0 | | 0 | | 0.2 | 0.05 % | 1.5 | 0.2 % |
| 6 | 5.61～ mm | 0.1 | 0.4 % | 0 | | 1.8 | 1.1 % | 0 | | 0 | | 1.4 | 0.3 % | 8.0 | 1.1 % |

粒状滓(単位 g)

| 類 | 大きさ | SX2 | 割合 | SX4 | 割合 | SX5 | 割合 | SX6 | 割合 | SX7 | 割合 | SX8 | 割合 | SX10 | 割合 |
|---|------------|-----|--------|-----|----|-----|----|-----|--------|-----|----|-----|--------|------|--------|
| 1 | ～0.7mm | 0 | | 0 | | 0 | | 0.2 | 25.0 % | 0 | | 0 | | 0 | |
| 2 | 0.71～1.4mm | 0 | | 0 | | 0 | | 0.3 | 37.5 % | 0 | | 3.3 | 17.7 % | 0.8 | 1.6 % |
| 3 | 1.41～2.0mm | 0 | | 0 | | 0 | | 0.2 | 25.0 % | 0 | | 7.8 | 41.9 % | 11.7 | 23.8 % |
| 4 | 2.1～4.0mm | 0.4 | 50.0 % | 0 | | 0 | | 0.1 | 12.5 % | 0 | | 3.0 | 16.1 % | 21.8 | 44.3 % |
| 5 | 4.1～5.6mm | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 6 | 5.61～ mm | 0.4 | 50.0 % | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 4.5 | 24.2 % | 14.9 | 30.3 % |

9 埋納遺構

(1) 柱 穴 1

柱穴1（付図5）は、調査区西端に位置する建物8（第9図）を構成する柱穴である。建物8は居館1内にあり、東西方向に主軸を有し梁行1間、桁行3間の規模をもつ。柱穴1は北側桁行の西から2番目の柱穴で、柱穴内から銭貨が1枚検出された。しかし、銭貨の出土状況は明確には確認されておらず、検出されたのが柱穴埋土からか、あるいは柱穴抜き跡かは定かではない。

検出された銭貨は「永楽通寶」が1枚である（第707図1593）。「永楽通寶」は中国明代のもので、初鑄は1408年である。



1593



第707図 八坂中遺跡柱穴1出土銭貨

(2) 柱 穴 2

柱穴2（付図5）は、調査区西端に位置する。柱穴1同様居館1内にあるが、本柱穴は建物を構成するものではない。しかし、柱穴2のすぐ北側には建物12がみられることから、建物12に関連する柱穴である可能性もある。柱穴内からは銭貨が1枚確認されたが、その出土状況は明確には確認されておらず、検出されたのが柱穴埋土からか、あるいは柱穴抜き跡かは定かではない。検出された銭貨は「天禧通寶」で（第708図1594）、1017年初鑄の中国北宋銭である。



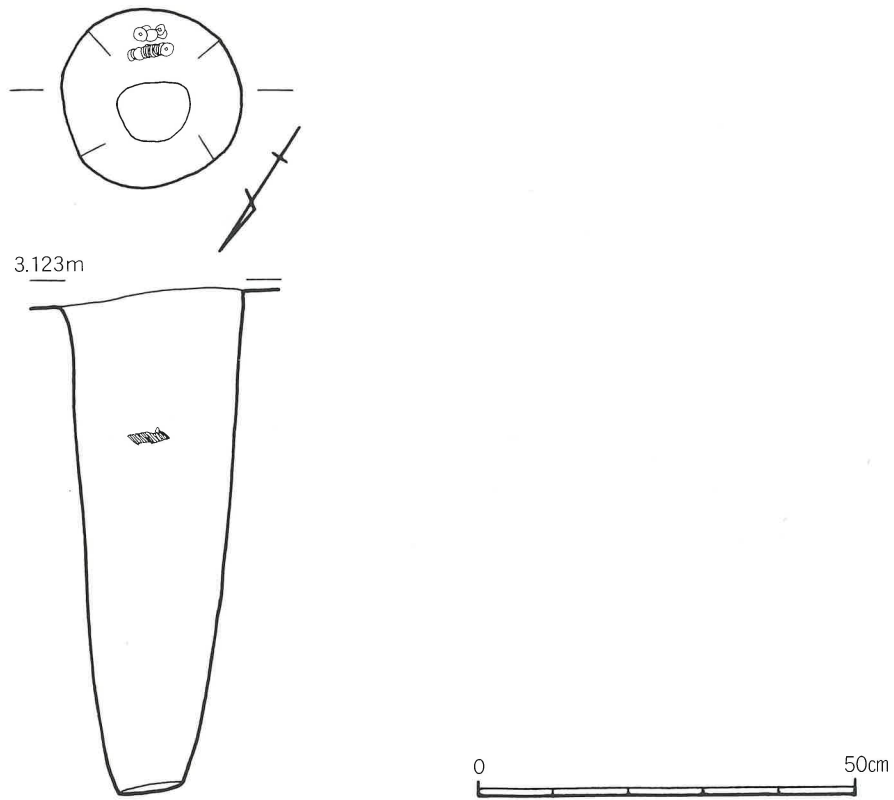
1594



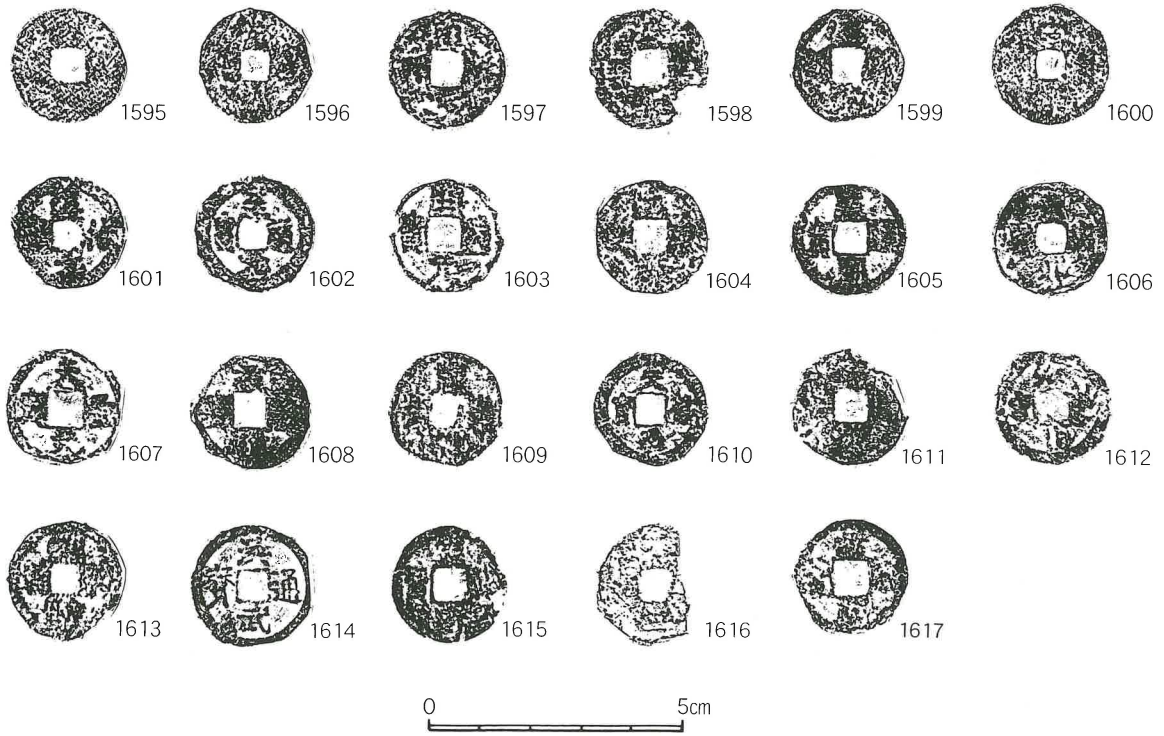
第708図 八坂中遺跡柱穴2出土銭貨

(3) 柱 穴 3

柱穴3（付図5）は、居館1内の東端に位置する。建物を構成する柱穴ではないが、付近には建物15、建物16、建物17などがみられる。柱穴（第709図）は径25cm、深さ65cmを測る。銭は検出面から深さ20cm弱のところから検出され、その位置から柱穴埋土部分であると考えられる。銭は1ヶ所から大きくふたつのまとまりとして検出された。ひとつのまとまりは、完全なさし銭状態で16枚が確認された。もうひとつかたまりは、3枚ずつなどに分かれていたが本来はさし銭状態であったと思われる、先の16枚とあわせ全てが一連のさし銭であったものと考えられる。銭の総数は24枚である。検出された銭（第710図）のうち、破損のため図示できなかったものを除き23枚を図示した。このうち銭種は明確に読めるものが6枚で、他は部分的に読めるものもある



第709図 八坂中遺跡柱穴3



第710図 八坂中遺跡柱穴3 出土銭貨

が錢種は判読できない。錢種の判読できたものは、1601が「淳化元寶」（北宋 初鑄990年）、1602が「至道通寶」（北宋 初鑄995年）、1603が「開元通寶」（唐 初鑄621年）、1607「天聖元寶」（北宋 1023年）、1610が「天禧通寶」（北宋 初鑄1017年）、1614が「洪武通寶」（明 初鑄1368年）である。

（4） 柱 穴 4

柱穴4（付図5）は、居館3の東側の外に位置する。居館を二重に囲む溝のうち、外側の溝である溝10に近い位置にあるが、建物を構成する柱穴ではない。ただ、周囲には建物に復元されない柱穴が多数あり、本来は建物を構成する柱穴であった可能性もある。柱穴からは1枚の錢貨が検出されたのみであるが、その出土状況は明確に確認されておらず、検出されたのが柱穴埋土からか、あるいは柱穴抜き跡かは定かではない。

錢貨（第711図1618）は、「元豐通寶」の篆書体である。北宋錢で、その初鑄は1078年である。



第711図 八坂中遺跡柱穴4出土錢貨

（5） 柱 穴 5

柱穴5（付図5）は、居館3の東側の外に位置する。居館を二重に囲む溝のうち、外側の溝である溝10から約16m東にある。本柱穴は、現状では建物を構成するものとして復元されていないが、周辺には柱穴が多数あることから、本来は建物を構成するものであった可能性もある。柱穴からは錢貨が1枚確認されたが、出土状況が明確ではなく、柱穴埋土に伴うものか柱穴抜き跡に伴うものかは定かではない。

錢貨（第712図1619）は、「元豐通寶」の草書体である。北宋錢で、その初鑄は1078年である。

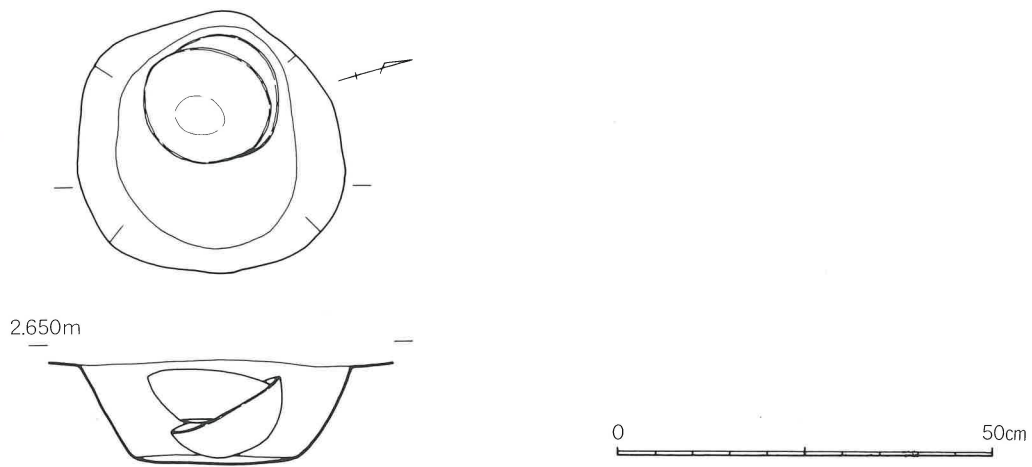


第712図 八坂中遺跡柱穴5出土錢貨

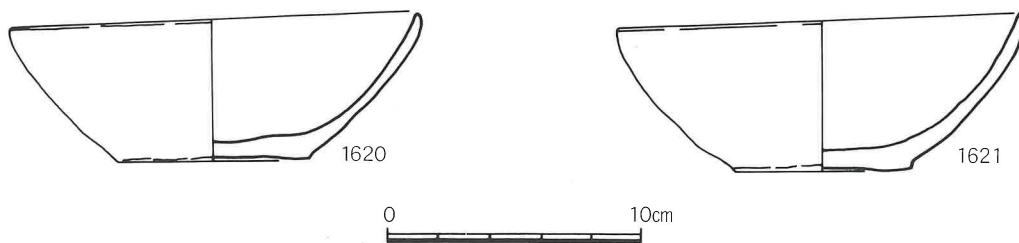
（6） 柱 穴 6

柱穴6（付図5）は、居館2の東の外側に位置する。居館2の北東コーナー部の外側にあたるが、この付近は比較的遺構が希薄な部分で、建物が2棟確認されるのみである。柱穴6は建物を構成するものではなく、位置的には建物85と重なる。柱穴（第713図）は、径35cm、深さ15cmを測るものである。あまり深くないことから、柱穴と言うよりも土壇と呼ぶ方が適当かもしれない。遺構内からは、瓦器碗完形品が2個体重なって確認された。

検出された瓦器椀（第714図1620、1621）は、いずれも東国東型瓦器椀である。両者とも底部は糸切りのままで、完全な平底を呈し、体部にはヘラ研磨がみられない。時期は13世紀後半～14世紀初である。



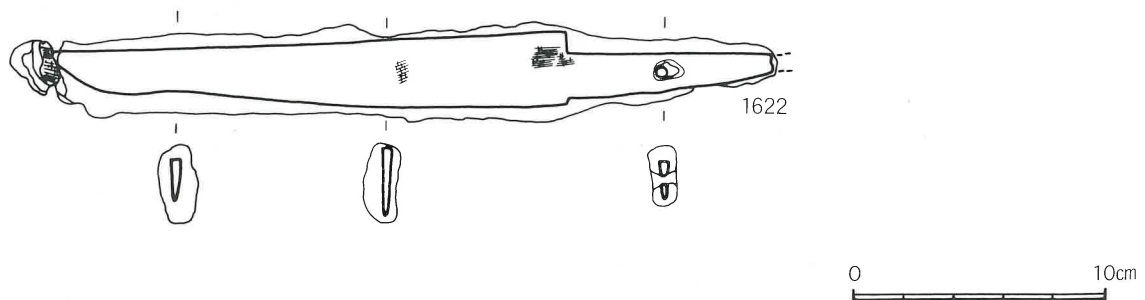
第713図 八坂中遺跡柱穴6



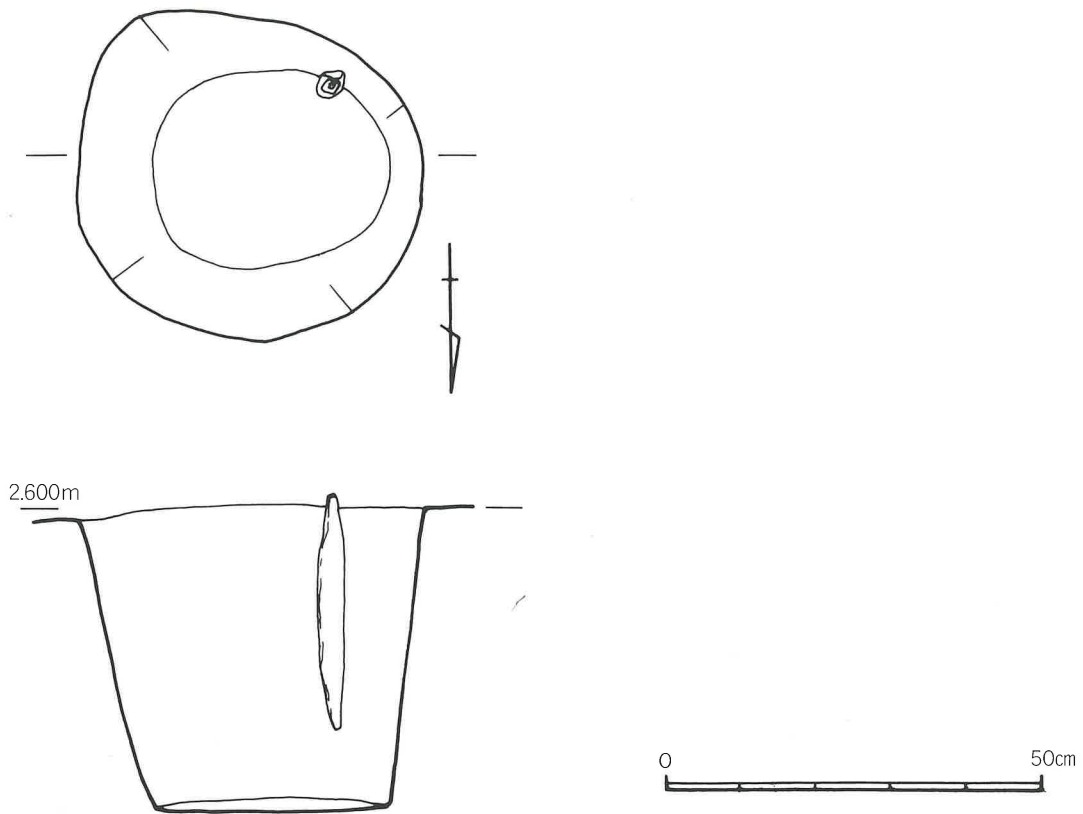
第714図 八坂中遺跡柱穴6 出土土器

(7) 柱穴7

柱穴7（付図5）は、調査区の中央からやや東に寄った位置にある。中央を東西に走る溝4から、東へ約20mを測り、建物153（第103図）を構成する柱穴としてみられる。建物153は方形にちかい平面プランで、東西方向がやや長い。梁行2間、桁行2間の規模をもつもので、柱穴7は南側桁行の中央の柱穴にあたる。柱穴は現



第715図 八坂中遺跡柱穴7 出土鉄製品



第716図 八坂中遺跡柱穴7

状で、東西50cm、南北40cm余を測り、深さは検出面から約40cmである。この柱穴の南西隅から、先端を下にして垂直に立てた状態で鉄刀が検出された。柱痕の位置を厳密には確認していないので不安は残るが、位置からみて柱穴埋土に埋納された可能性が高い。建物153を建てる時に、建物に対する何らかの祭祀として意識的に埋納されたものであろう。

1622 (第715図) は検出された鉄刀である。全長28.4cmを測るもので、木質が残ることから、鞘に入った状態であったことが分かる。刃部は20.4cmで、刃部幅は1.6~3.0cmである。中程から先端部にかけてが、かなり幅が狭くなっていることから、長期間の使用によりかなり研ぎ減りしているものと推定される。時期的には土器もなく決め手に欠くが、16世紀代の遺構が調査区の西半分にしかりられないことを考慮にいれば、14世紀以前と考えられる。

(8) その他

以上のほかに、埋納に係わると思われるものを再度まとめる。いずれも、掘立柱建物を構成する柱穴から完形の土器が検出されたものである。詳細は「1 建物」の項に譲り、ここでは簡単に紹介だけをしておく。建物118からは土師質土器小皿が1個体柱穴から確認された。13世紀後半のものである。建物142からは土師質土器杯が1個体検出された。13世紀後半~14世紀初めに比定される。建物158からは、12世紀代と思われる土師質土器小皿1個体検出された。

これらについては、地鎮や建物に対する祭祀的な性格をもつものと考えられる。

10 その他の出土遺物

(1) 弥生・古墳時代の遺物

本遺跡で検出された弥生・古墳時代の遺物を紹介する。これらは、中世遺構への流れ込み遺物などとして検出されたもので、これらの遺物が確実に伴う遺構は確認されていない。遺跡が立地する場所は八坂川の河川活動により形成されたものであるが、遺物の多くは顕著なローリングは受けておらず、比較的近接した場所にこれらの時期の遺構が存在したものと推定される。

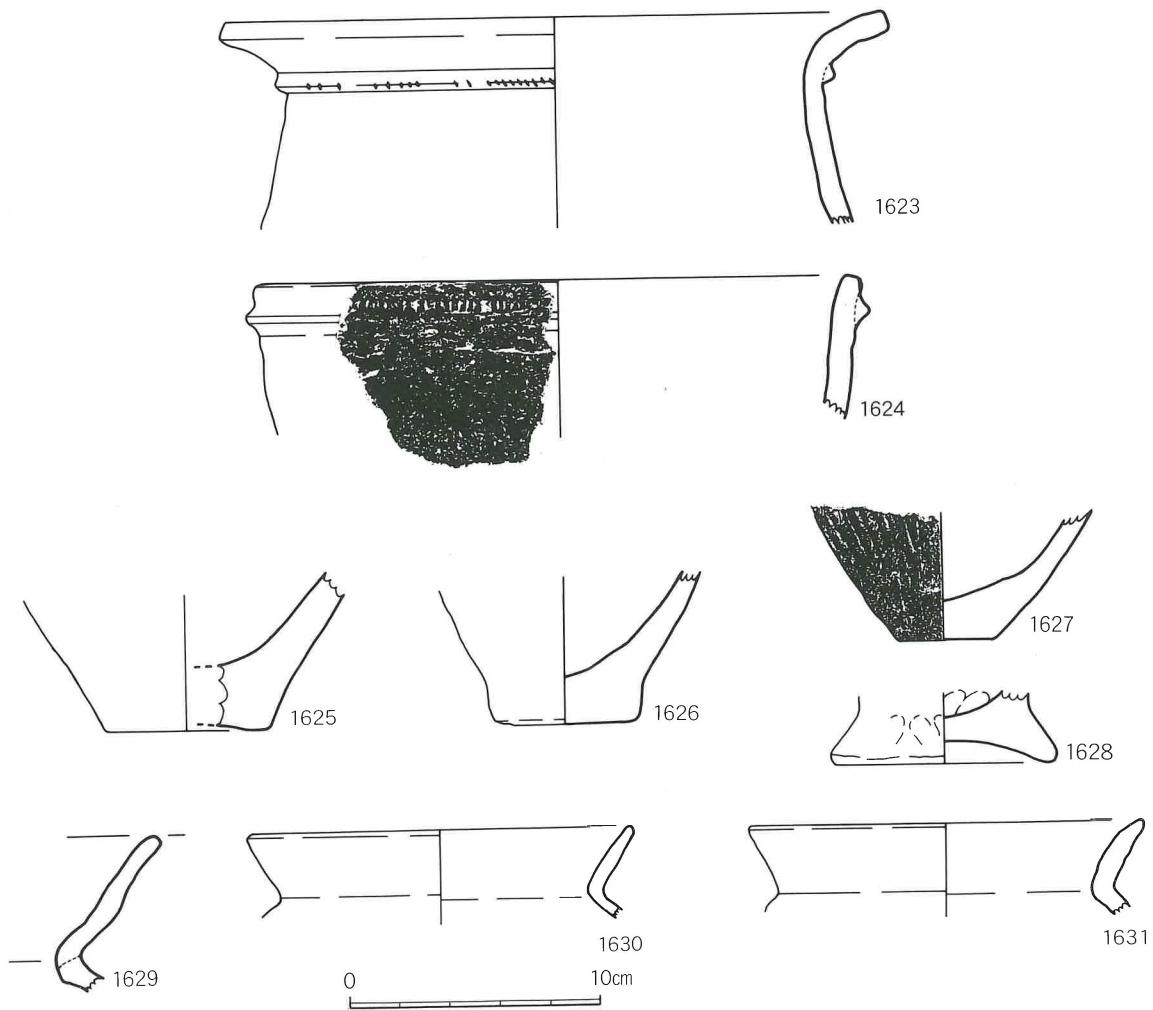
遺物（第717図）のうち、1623は壺である。内傾し長くのびる頸部から、口縁が強く外方に屈曲する。口縁端部は角張り、端正に仕上げられている。また、口縁の屈曲がはじまる部分には、断面三角形の刻目突帯が付される。弥生時代前期のものである。

1624は下城式の甕である。外面口縁下に断面三角形の突帯が付されるが、刻みは施されない。しかし、口縁端部外面には刻みが認められる。弥生時代中期に比定される。

1625～1628は底部である。いずれも平底で、弥生時代中期のものか。

1629は二重口縁壺である。古墳時代前期に位置付けられる。

1630、1631は甕で口縁部がくの字状に折れる。弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものである。



第717図 八坂中遺跡出土弥生・古墳時代遺物

(2) 古代前半の遺物

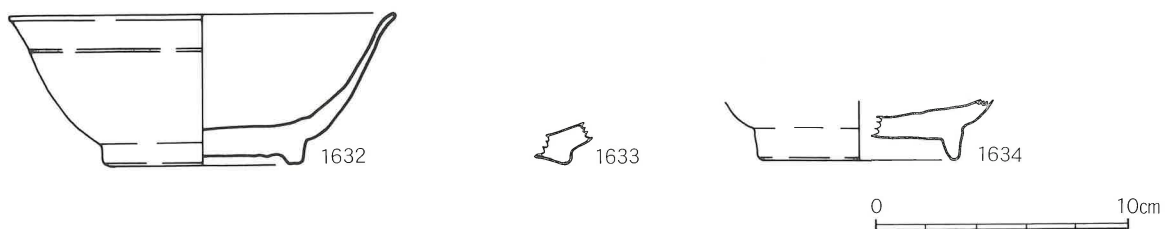
古代前半に位置付けられる遺物が中世遺構などから検出された。

なかでも、注目されるのは瓦である。いずれも平瓦の破片であるが、20数点が確認されている。出土場所は調査区の西半に集中しており、西に行くほど多くなる傾向が読み取れる。検出された瓦は顕著なローリングも認められず、比較的大きな破片もあることから至近距離にこれら瓦を伴う遺構が存在するものと考えられる。寺院などに係わるものである可能性が高いが、調査区内では瓦を確実に伴う遺構はもちろんのこと、古代寺院を連想するようなものはまったく確認されていない。調査区は八坂川の河川活動により形成された自然堤防上に位置している。自然堤防は東西方向にのびるもので、北側には八坂川、南側には旧河道がある。寺院遺構があるとすれば、調査区西側の自然堤防上以外考えられず、このことは調査区内の瓦の検出状況とも符合する。調査区西側の自然堤防上に寺院遺構が存在した可能性は高いが、地形的あるいは遺物散布状況からみて複数の伽藍を配置するような大規模な寺院は考えにくい。寺院であれば、一堂形式のような小規模なものであったであろう。また、可能性として有力首長の館、あるいは館に付随する仏教施設であることも考えられる。いずれの可能性を考えるにしても、一般集落とは異なるある種の特別な遺構がこの地区に存在したことは確実である。古代前半において、自然堤防の形成が、ある程度の集落を構えうような状況まで進行していたにせよ、相対的には不安定な場所であったことは現在以上であろう。このことを考えると、瓦を使用するような施設の場所があえてここに選ばれた理由も、八坂地区全体の政治や開発の動きと深く係わるものであろうことが想像される。

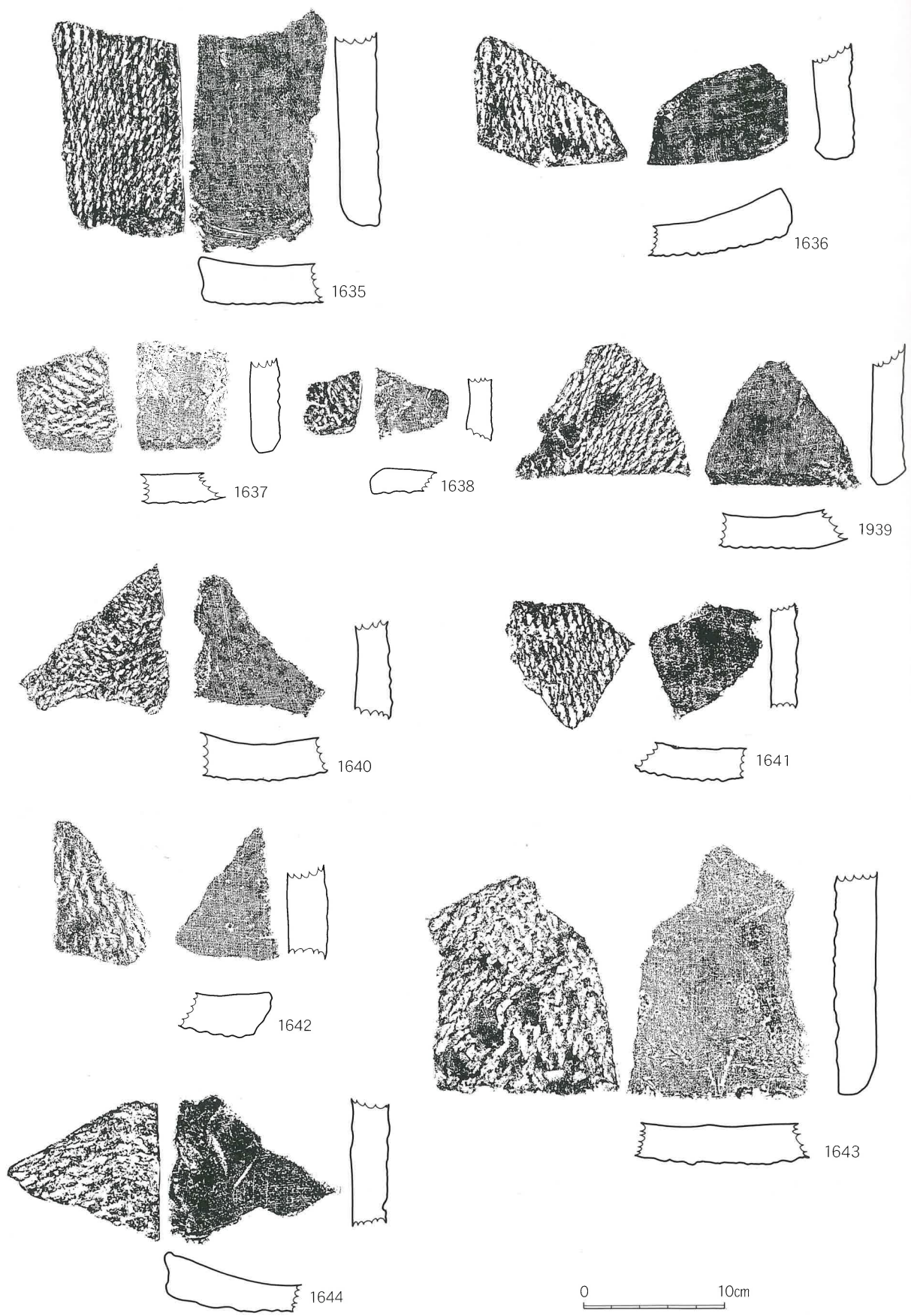
1632～1634（第718図）は土器である。このうち1632、1633は越州窯系青磁碗である。1632は全体の器形が分かる資料である。輪高台をもつもので、高台は削りだしである。削りだしは明瞭で、体部と高台の境が明らかである。体部下半はやや丸みを有し、口縁端部がわずかに外反する。内面見込み部に目跡が残るが、目跡は線状に細く長いものである。加えて、畳付けにも目跡がみられる。釉は淡緑色を呈し、全面施釉の後畳付けのみ掻き取る。1633も越州窯系の青磁碗であるが、小破片のため全形は不明である。高台は1632に比べ低い。時期は、1632が8世紀中頃～9世紀中頃に、1633が9世紀後半に比定できる。

1634は緑釉陶器皿で、高台は高く、見込み部中央付近に凹線がある。外底面には糸切り痕がある。胎土は白色を呈する軟質なもので、緑色釉が全面に施釉される。本品は防長産と推定され、時期は10世紀中頃か。以上のほか、後段で紹介する坏や椀、小皿（第723図1681、1683、第724図1712、1713、第729図1810）もある。

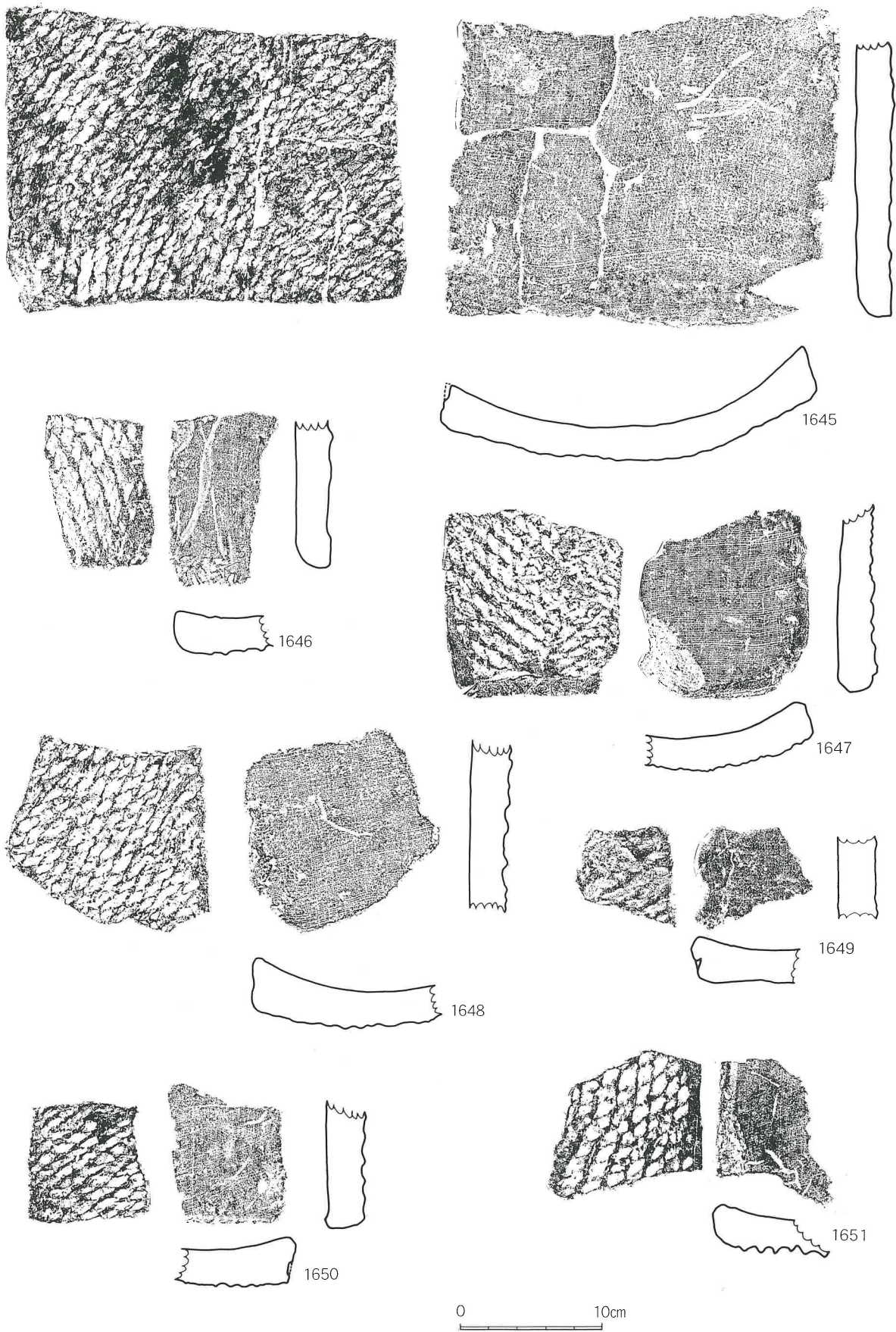
1635～1656（第719～721図）は瓦である。いずれも平瓦で、軒先瓦はみられない。これらは、凸面に縄目タタキがあり、凹面に布目痕を残すことは共通するが、縄目タタキにより以下の2種類に分けることができる。Ⅰ類（1635～1644）は縄目タタキの縄目が小さなものである。タタキの方向は、側縁に平行方向と垂直方向のものがある。Ⅱ類（1645～1656）は縄目タタキの縄目が大きいものである。タタキの方向は、側縁に斜方向のものと垂直方向のものがある。側縁の仕上げは、垂直に切り落とすもの（1635、1642、1644、1645、1646、1648、1650）と二段に面取りするもの（1636、1638、1647、1649、1651、1652、1653）がある。また、長側ないしは短側が残るものの中では、切り落として面取りするもの（1637、1639、1647、1650）と布目痕が側面までのびるもの（1635、1643、1645、1646）があり、後者は一枚造りの可能性が高い。以上の瓦の時期は9～10世紀に比定されるであろう。



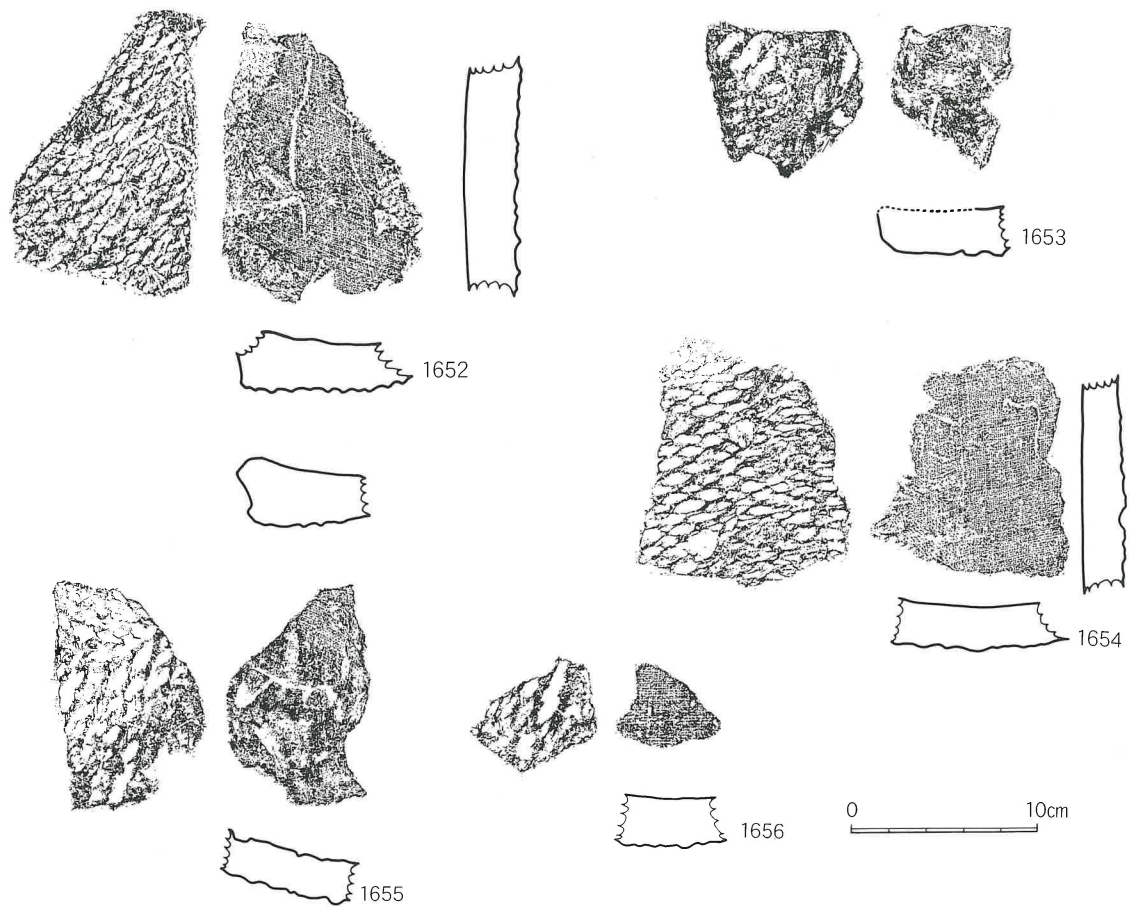
第718図 八坂中遺跡出土古代前半の土器



第719図 八坂中遺跡出土古代瓦(1)



第720図 八坂中遺跡出土古代瓦(2)



第721図 八坂中遺跡出土古代瓦(3)

(3) 古代後半以降の遺物

・土壙193北西側遺物集中地点

遺物の集中部が確認されたのは、土壙193の北西側である。遺物集中部は、バックフォーによる遺構検出作業中に、遺構検出面上部の暗褐色土中で検出された。完形品を含む土器が集中していたもので、何らかの遺構に係わるものと判断した。しかし、土器を取り上げた後に検出面までの掘り下げを行ったが、下部から遺構は検出されなかった。だが、その出土状況から一括性は極めて高いものと考えられる。

遺物(第722図)は、すべて土器である。

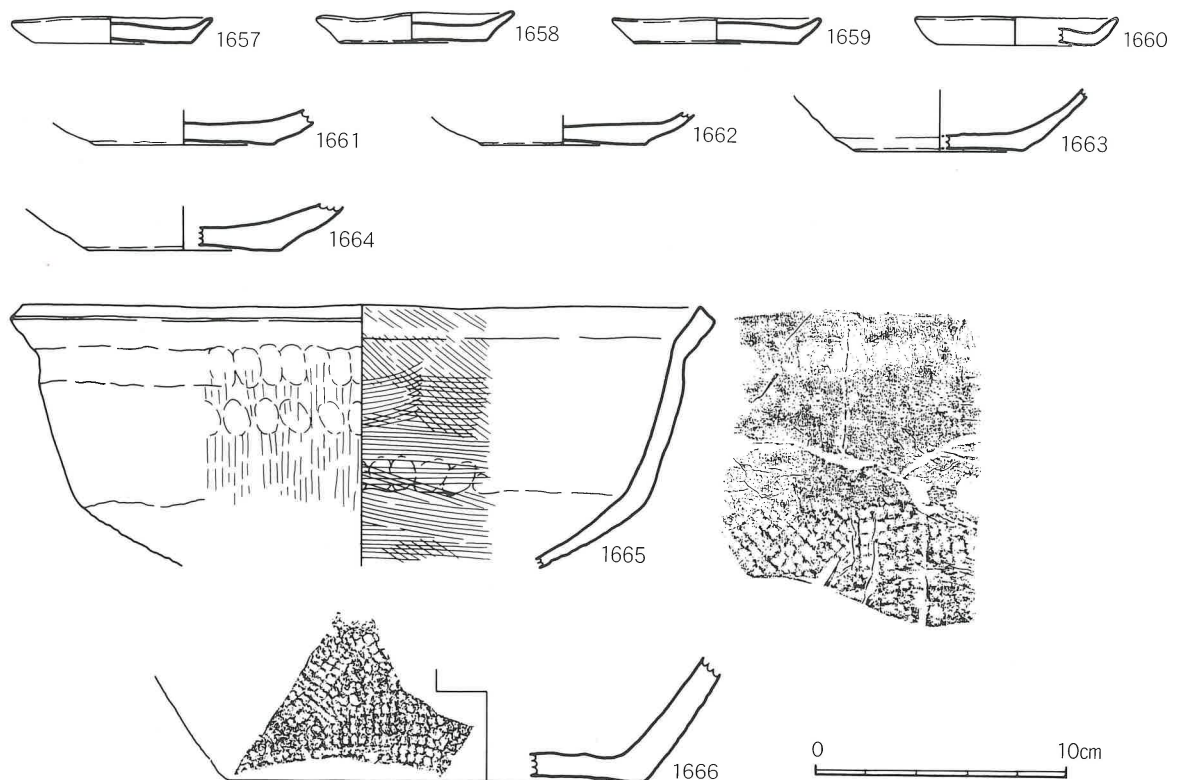
1657~1660は土師質土器小皿である。このうち、1657~1659は厚めの底部から斜方向に体部を短く引き上げるものである。体部は外反気味で、底部に比べ薄い。口径は7.8~8.2cmを測る。1660は、1657~1659に比べると体部の立ち上がり部に丸みがある。体部の厚みも底部とそれほど変わらず、斜方向に口縁へいたる。

1661~1663は土師質土器坏である。このうち1661と1662は、底部からいったんやや立ち上がった後に体部が始まる。体部下半は丸みをもつ。1663は、体部が底部から直線的に立ち上がり、内湾気味に口縁部にいたる。

1664は東国東型瓦器碗である。底部は糸切りのままで、押し出しがまったく行われていない。

1665は土鍋である。口縁部は外に折れるもので、端部は角張る。内外面にはハケメがみられ、体部下半には格子目タタキが施される。1666は須恵質の甕で、亀山焼と推定される。

以上の土器は13世紀後半~14世紀初に位置付けられる。



第722図 八坂中遺跡土壌193北西側遺物集中地点出土土器

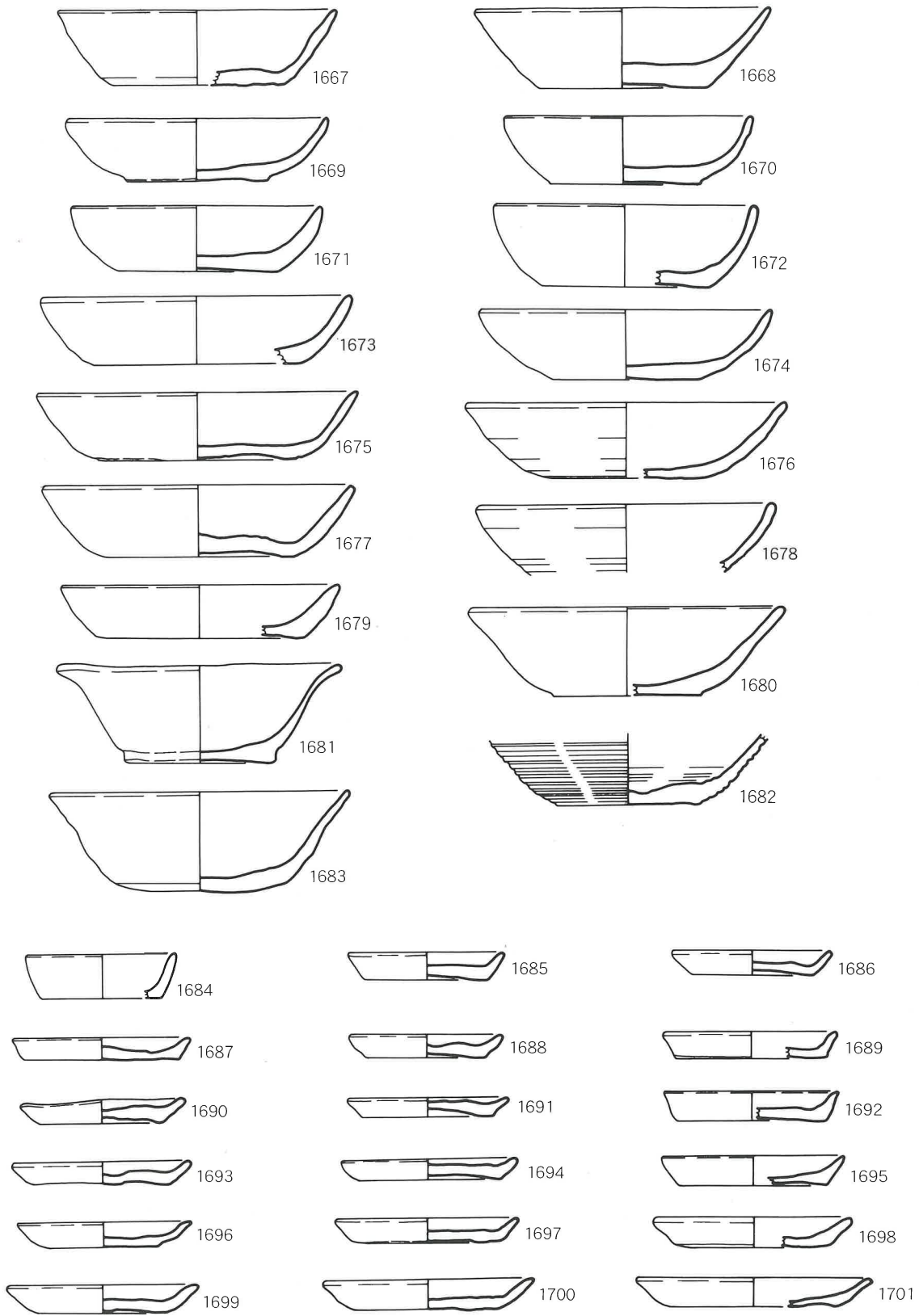
・建物以外の柱穴出土遺物

建物として復元された以外の柱穴から出土したもので、土器と石製品（第723～728図）がある。

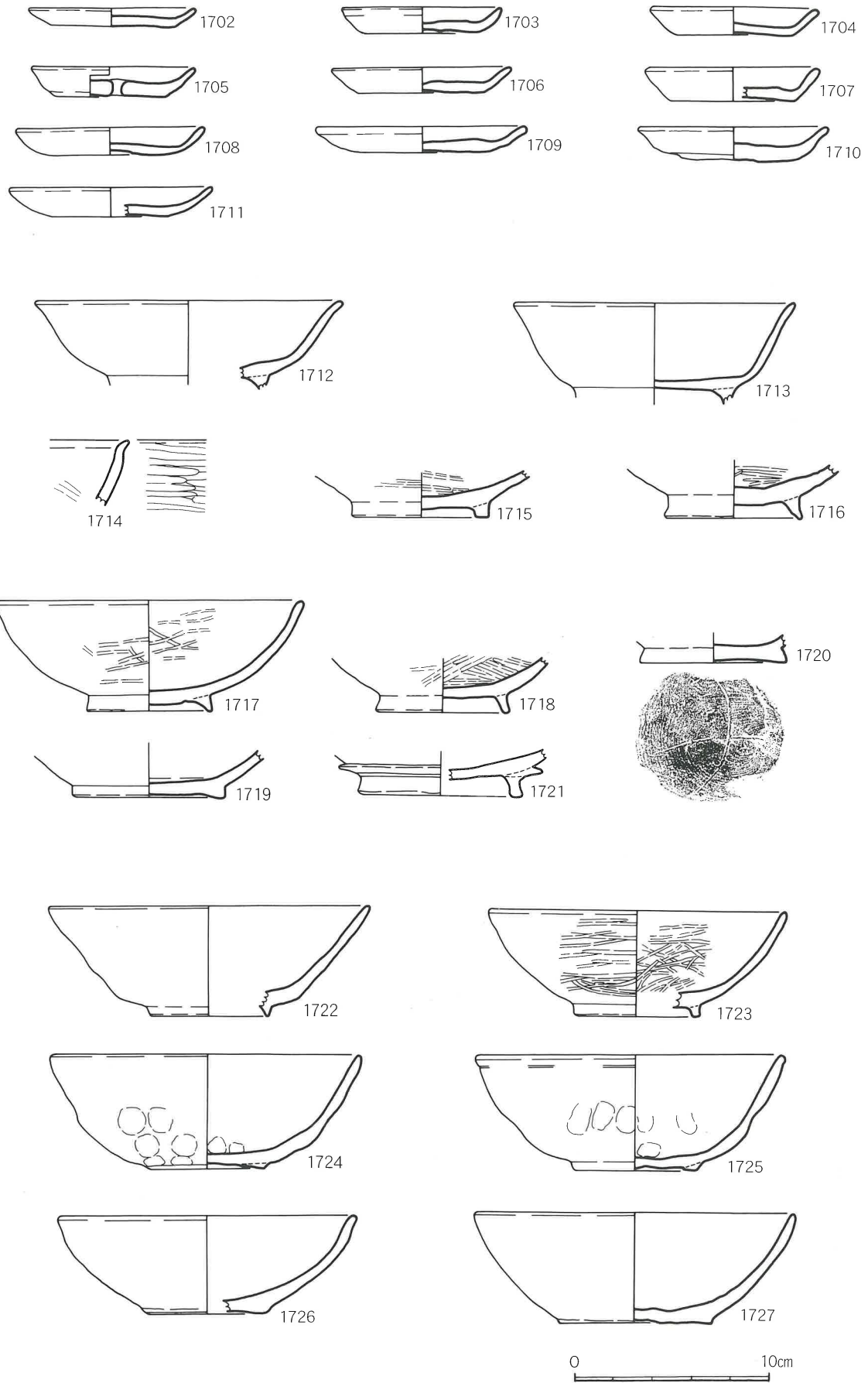
1667～1683は土師質土器坏である。以上のうち、1681と1683は外面の切り離しがヘラ切りである。1681の底部はやや厚めで、ヘラ切りの後ナデが施される。体部は下部でやや丸みをもつものの、直線的にのび口縁が大きく外反する。1683はヘラ切りの底部が平坦にならない。体部は大きく外反気味に口縁にいたる。両者とも9世紀中～後半に比定される。この他については、器形・口径などからおおきく2時期に分けられる。1667～1672、1679は13、14世紀代のもの。また、1673～1678、1680、1682は11、12世紀代のものであろう。

1664～1711は土師質土器小皿である。底部はいずれも糸切りである。これらは、①器高が2cmを越すもので、口径に比し器高の高いもの（1684）、②口径8cm前後で、体部の立ち上がりが急なもの（1685～1695）、③口径は8～9cm前後であるが、体部に立ち上がりが緩やかなもの（1696、1697、1702～1707）、④口径10cm前後以上で体部の立ち上がりもおおむね緩やかなもの（1698～1701、1708～1711）、以上のように大きく分類される。分類した各グループの中にも多少のバリエーションがあり、細かくはさらに議論が必要であるが、ここでは以下のような時期でとらえておく。①は14世紀前半、②は13、14世紀代、③は12世紀代、④は11、12世紀代である。また、1705については、底部中央に穿孔がみられる。このような形態のものが稀にみられるが、どのような用途に使用されるのか興味もたれる。

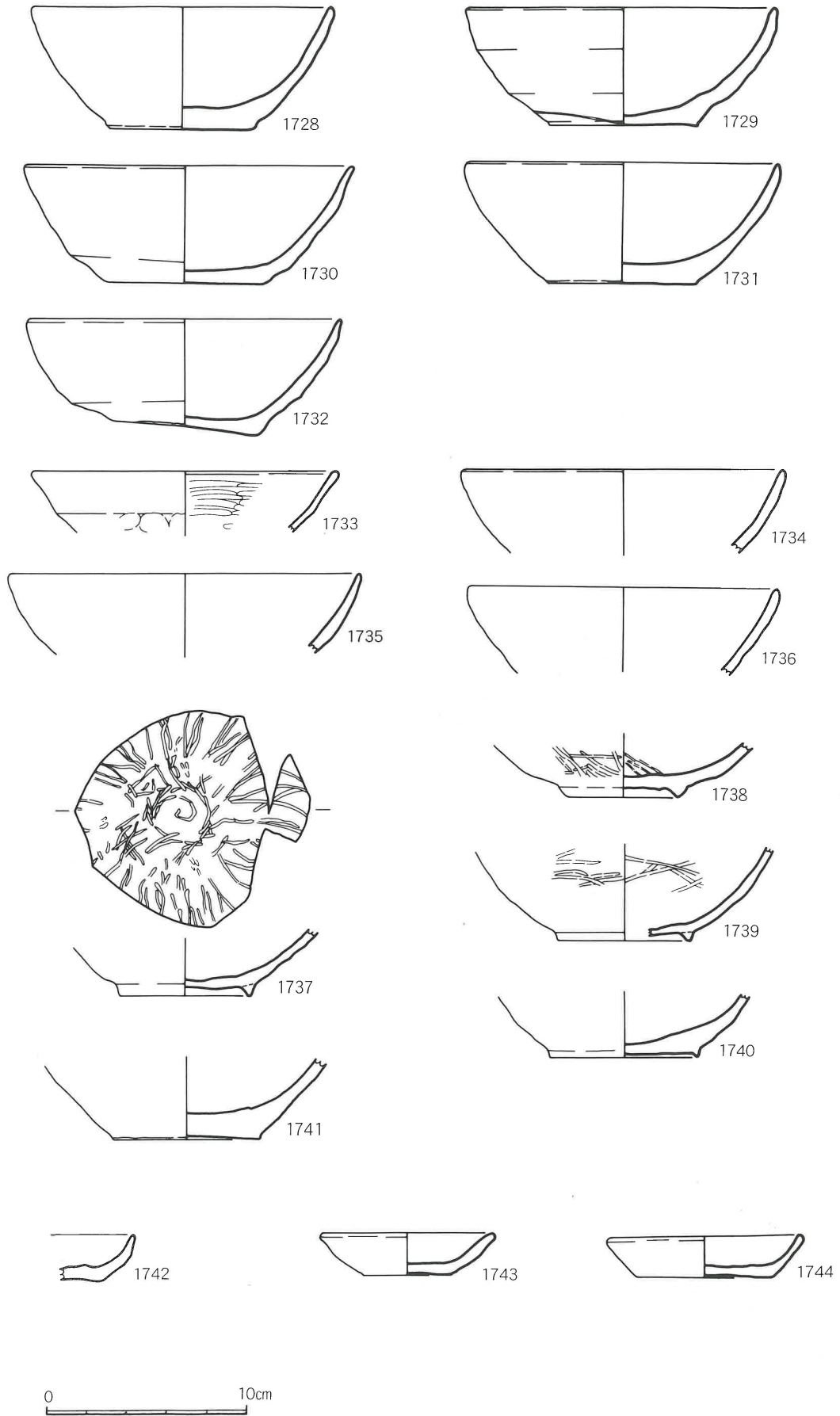
1712～1716は土師器碗である。1712は底部と高台の大部分を欠くものである。非常に浅いもので、体部は下部でいったん屈曲し、そのまま立ち上がった後に口縁部が緩やかに外反する。体部は内外面ともヘラミガキがみられず、ナデ仕上げである。1713もやはり浅い器形を呈し、体部下に高台を付す。外底面は板状圧痕があり、切り離しの状況は不明である。体部はやはり内外面ともヘラミガキが施されず、ナデのみである。両者は、その器形・調整などから9世紀代に比定できるものと思われる。1714～1716については、体部内外面にヘラミガキが



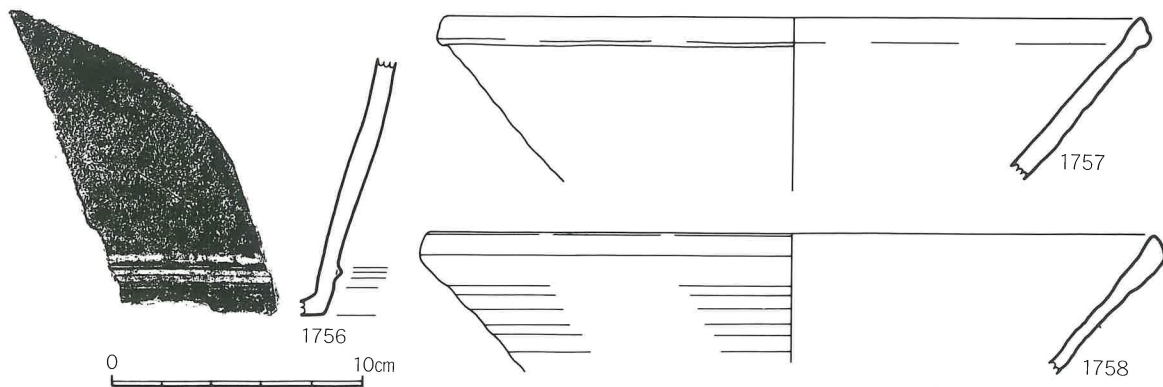
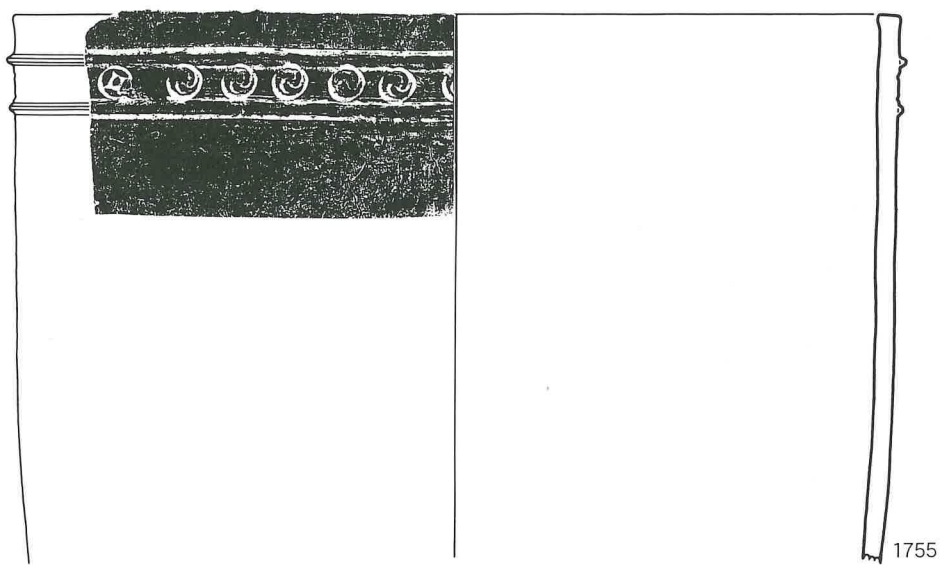
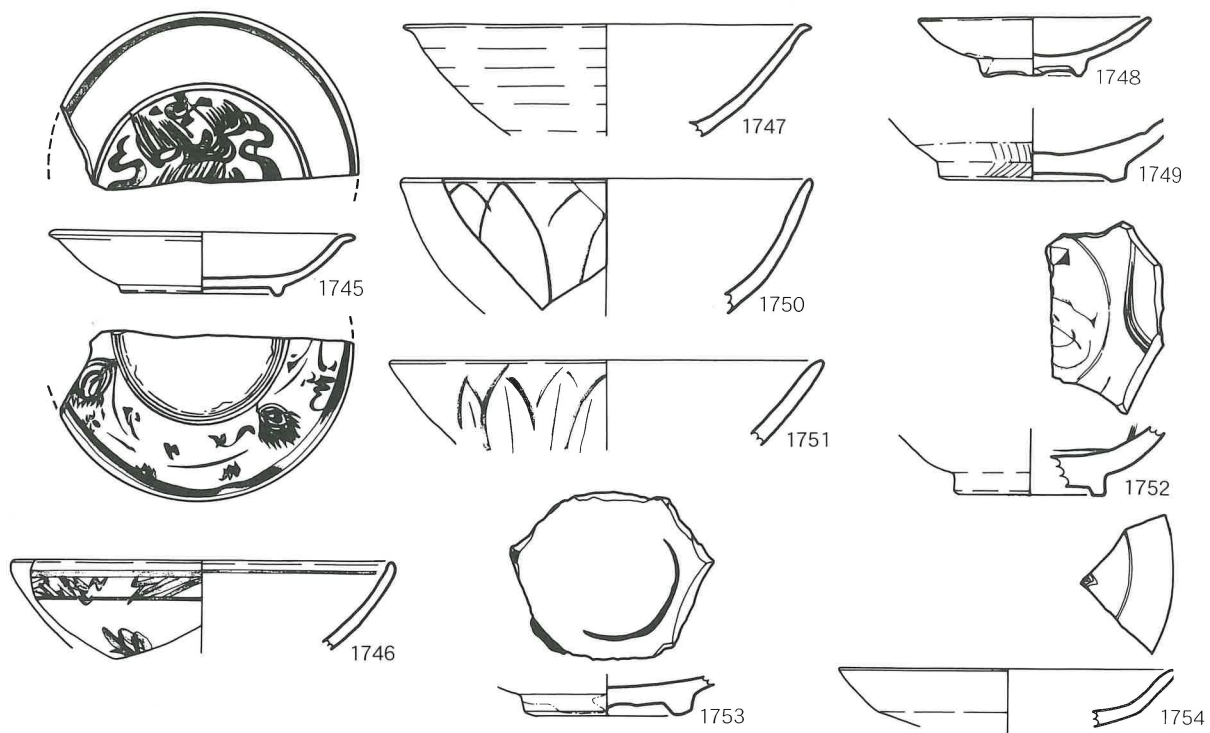
第723図 八坂中遺跡建物以外の柱穴出土遺物(1)



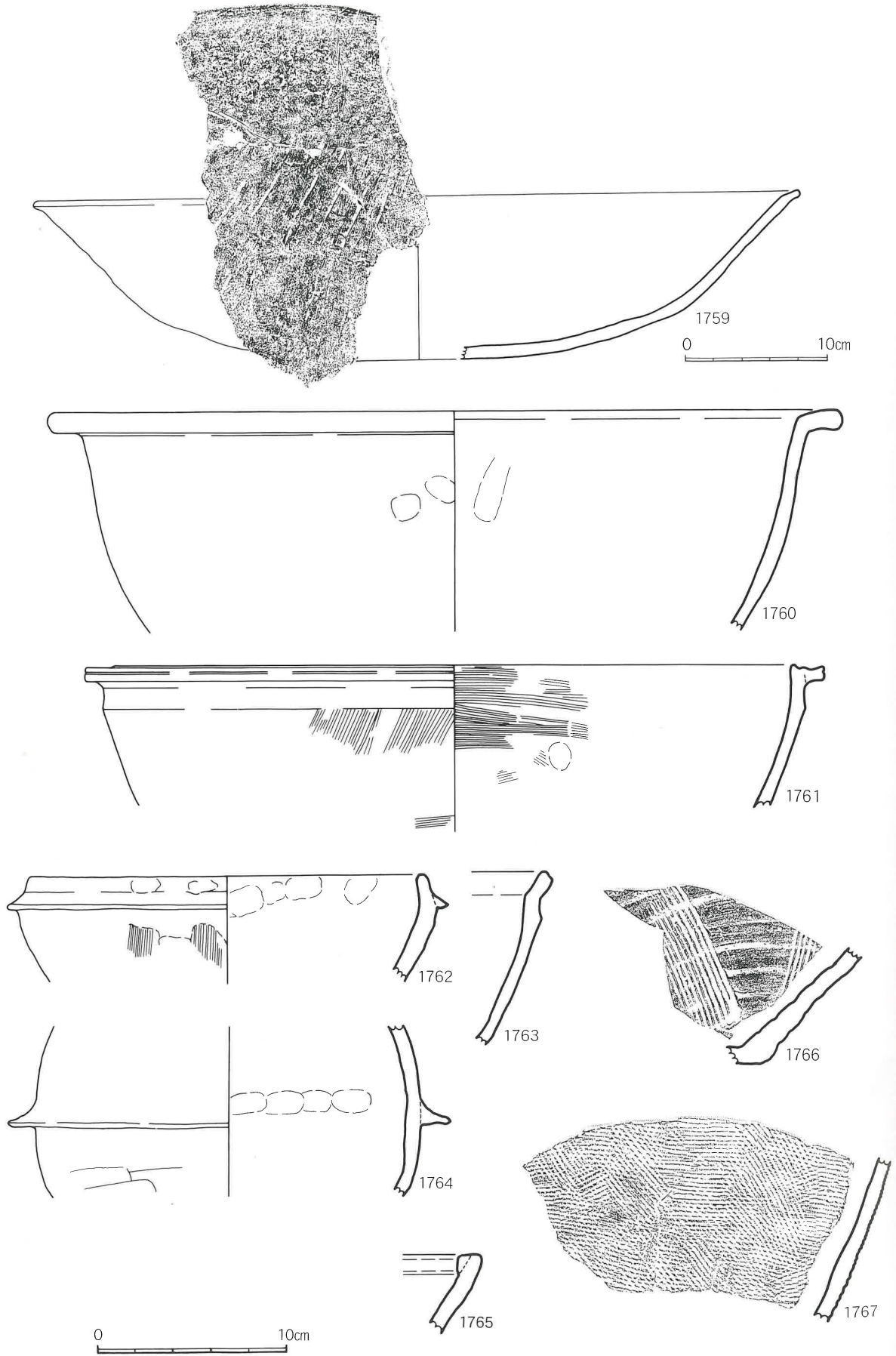
第724図 八坂中遺跡建物以外の柱穴出土遺物(2)



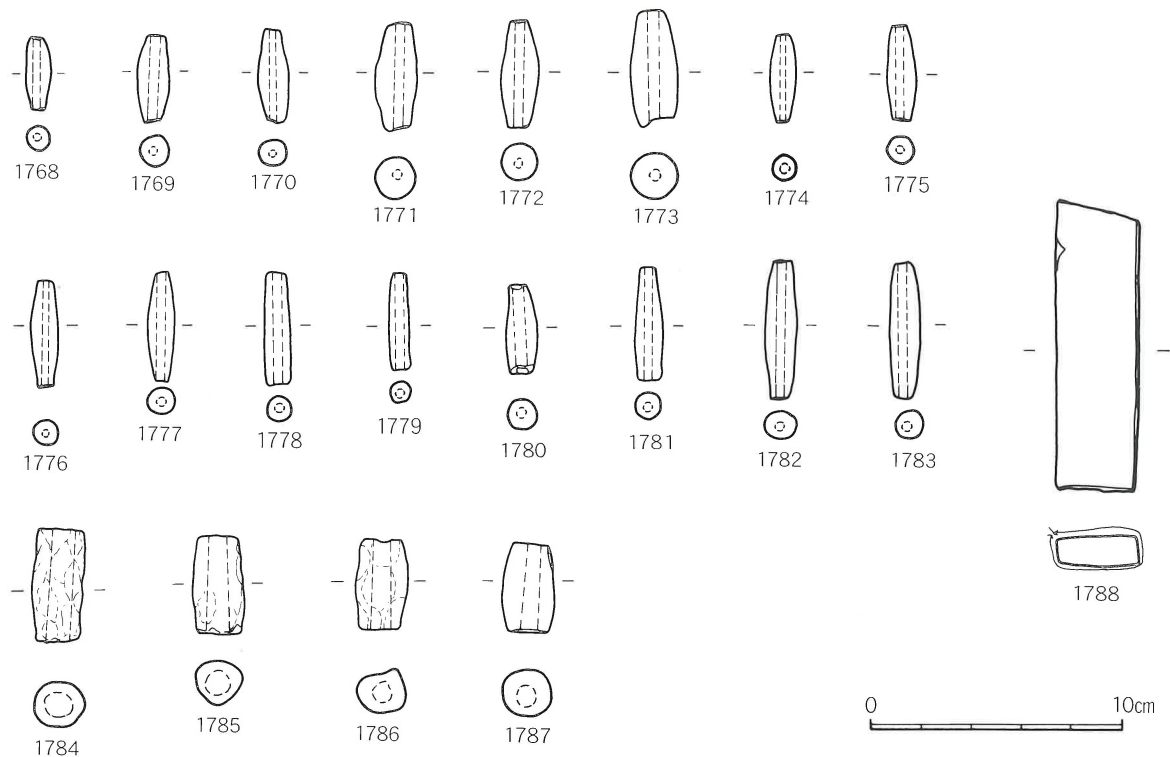
第725図 八坂中遺跡建物以外の柱穴出土遺物(3)



第726図 八坂中遺跡建物以外の柱穴出土遺物(4)



第727図 八坂中遺跡建物以外の柱穴出土遺物(5)



第728図 八坂中遺跡建物以外の柱穴出土遺物(6)

みられ、外底面に糸切り痕が残るなど、12世紀初め前後のものであろう。

1717～1721は内黒土器碗である。このうち1717と1718は、輪高台をもつものである。体部は内外面ともヘラミガキがみられる。1720、1719は円盤状高台をもつもので、底部には糸切り痕が残る。1720の底部には、×印状のヘラ描きが確認できる。1721は輪高台を有し、高台と体部の境に鏝が付される。以上は11～12世紀に比定されよう。

1722～1741は瓦器碗である。このうち1722～1732は全形に分かる資料である。1723は体部内外面にヘラミガキが施され、高台も断面方形のものが付される。12世紀後半に比定される。1722はやはりしっかりした高台が付くが、断面三角形である。磨滅のため体部のミガキは不明だが、13世紀前半に位置付けられよう。1724、1725は低い高台が付されるもので、体部にはヘラミガキがみられない。13世紀後半のものであろう。1726～1732は底部平底の一群である。いずれも底部糸切りで、非押し出しで技法により成形されている。東国東型瓦器碗の13世紀後半～14世紀初のものである。1733～1736は口縁部資料である。このうち1733は畿内の和泉型瓦器碗で、12世紀代のものであろう。他は東国東型瓦器碗で、13、14世紀のものであろう。1737～1741が底部である。1737は雑であるが、ヘラミガキを内底部に渦巻き状にいた後、体部へむけ放射状に施す。1737～1739は12世紀後半。1740は13世紀中頃～後半。1741は13世紀後半～14世紀初である。

1742～1744は瓦器小皿で、14世紀代のものか。

1745～1754は輸入陶磁器である。1745、1746は青花で、1745は16世紀前半までを主体とするもの。1746は漳州窯系で、16世紀後半以降。1747、1749は白磁碗で、前者が12世紀中頃以降、後者が11世紀後半から12世紀前半。1748は高台に挟りのはいった白磁皿で、15世紀代。1750～1753は青磁碗で、1752、1753が12世紀後半、1751が13世紀代、1750が14世紀に下る可能性をもつ。1754は同安窯系青磁皿で12世紀後半。

1755、1756は瓦質土器火鉢で16世紀代。1757、1758は東播系こね鉢。

1759～1763は土鍋である。各時期のものがあり、多様な器形がみられる。1759は14世紀以降、1760は12世紀、1761と1762は13世紀に各々比定できる。1763は外面にケズリがあり、16世紀代。

1764は茶釜、1765は防長系播鉢、1766は備前焼播鉢、1767は東播系の甕胴部である。

1768～1787は土鍾である。大きく分類すると、①孔の径が小さく紡錘形のもの（1768～1773）、②孔の径は小さく紡錘形を呈するが、①に比べスリムなもの（1774～1783）、③円筒形を呈し孔の径も大きいもの（1784～1787）、以上に分けられる。

1788は砥石である。

・その他の出土遺物

遺構検出作業中に検出されたもの、どの遺構に属するか不明なもの、調査区内表採資料などを紹介する。資料には、土器（第729～734図）、石製品（第735～738図）、金属製品（第739、740図）がある。

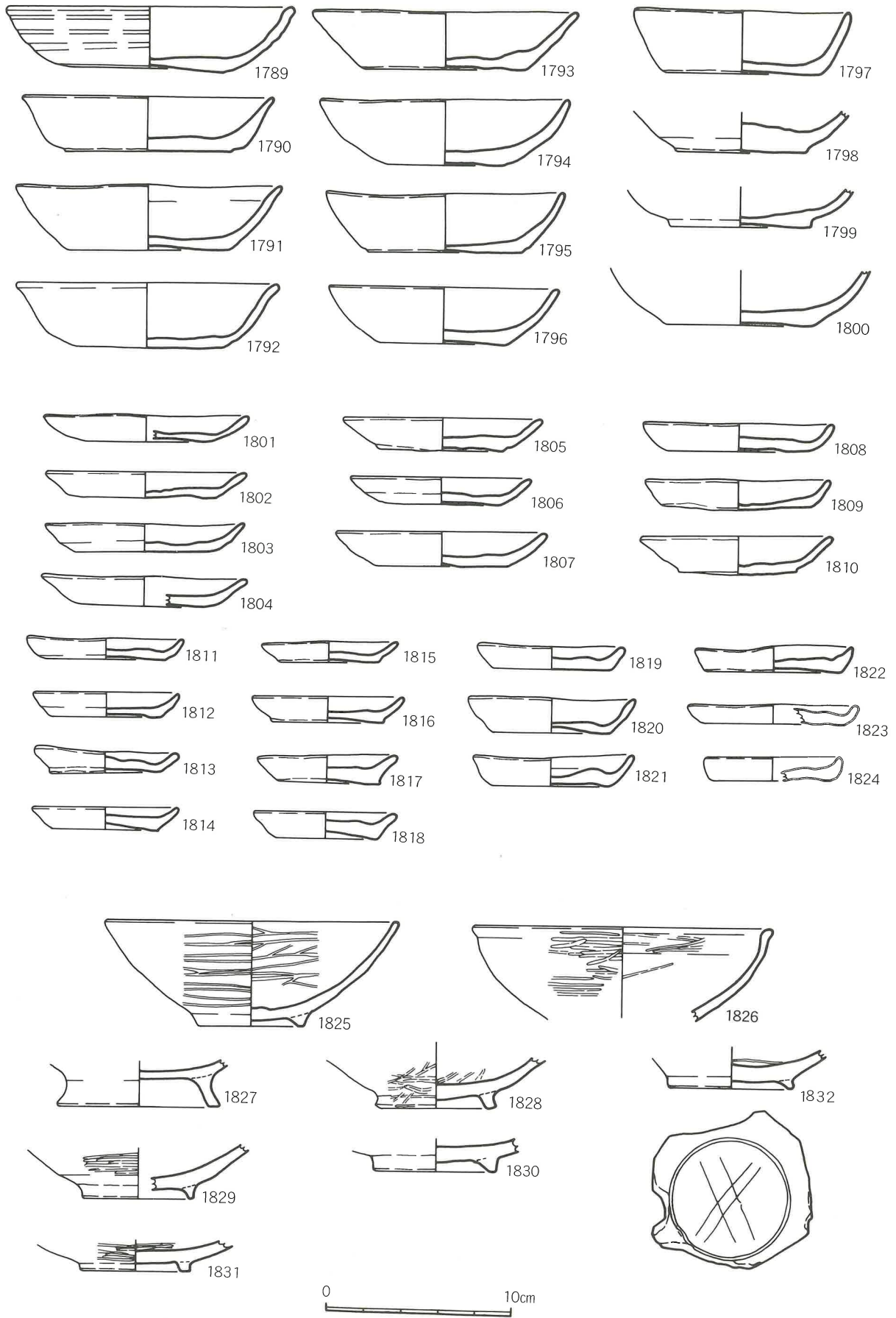
1789～1800は土師質土器坏である。1789～1797は全形の分かる資料で、すべて底部糸切りである。これらは、①器高が14cm以上と大型で、体部の立ち上がりが緩やかで、内湾気味に口縁にいたるもの（1789～1792）、②口径が12～14cmとやや小型になり、体部の立ち上がりが比較的シャープなもの（1793～1797）におおまかに分けられる。各グループの中にもバリエーションがみられるため、細かな議論は必要だが、ここでは①を11、12世紀代、②を13、14世紀代ととらえておく。1798～1800は底部資料である。1798と1799は②の時期に、また1800は①の時期に相当するものと思われる。

1801～1824は土師質土器小皿である。このうち1810は底部ヘラ切りである。体部は、底部から斜方向に立ち上げ、直線的に口縁にいたる。口縁端部は丸くおさめられる。口径は9.9～10.4cm、器高1.9～2.4cmである。大分県内における出現期の小皿としては、10世紀前半に比定されている中津市三口遺跡S K 3の資料があげられる。10世紀後半に位置付けられる宇佐市弥勒寺S K 5では、糸切りのものが混じり、分量も三口遺跡に比べ小さくなる。1810は法量的に弥勒寺S K 5にちかいことから、10世紀中頃から後半とと考えておく。他については、すべて底部糸切りであるが、①口径が10～11cmで、体部が斜方向に立ちあがるもの（1801～1809）、②口径が8cm前後で、体部が短く立ち上がるもの（1811～1819、1822～1824）、③器高が1.5～2.0cmとやや高いもの（1820、1821）、以上のように分類される。①は11、12世紀代のものと考えられるが、口径が大きいことを考慮に入れると、古い方に主体があるものと推定される。②は13、14世紀に比定されるものであるが、一部については12世紀まで遡る可能性をもつ。③は13世紀後半～14世紀の所産であろう。

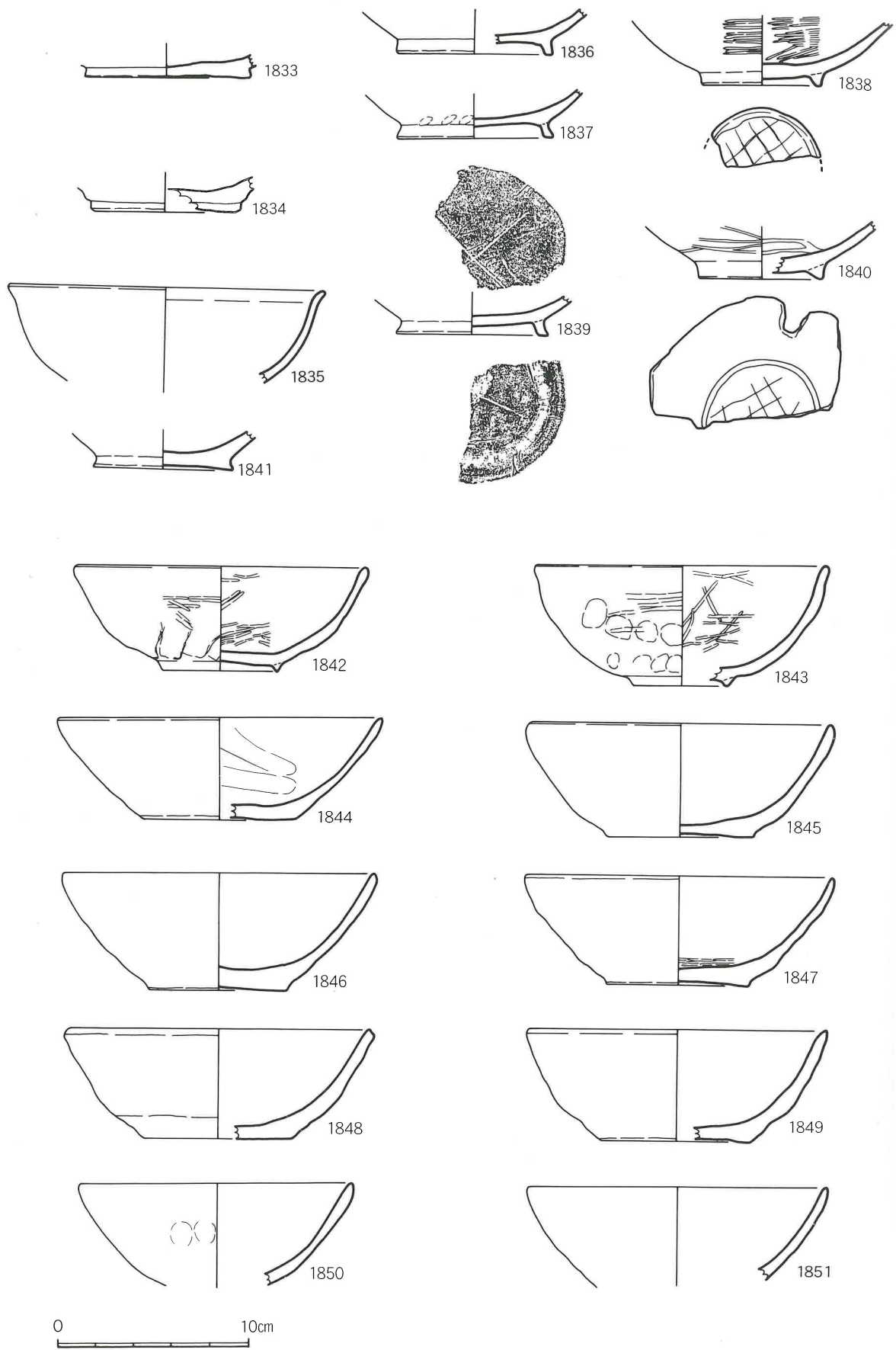
1825～1832、1852は土師器碗である。1825は体部下半が張らず、高台部から直線的に口縁にいたる。内外面には間隔のあいたヘラミガキがみられる。これに対し1826は、体部が内湾気味に口縁にいたるもので、口縁端部がわずかに外反する。体部内外面にはヘラミガキが施される。いずれも12世紀代と思われるが、後者から前者へ新しくなる。1827～1832は底部資料で、高台の高いものから低いものまでである。このうち1827は11世紀代まで遡る可能性をもつが、他は12世紀代に比定できるものであろう。また、1832の外底面には、×印状のヘラ描きがみられる。この他、1852の口縁外面には墨書がみられる。

1833～1841は内黒土器碗である。以上のうち、1835は口縁部資料で、口縁部がわずかに外反する。調整は、器面が荒れているため明確ではない。他は底部資料である。このなかで、1833と1841は円盤状高台を呈するものである。1833の底部には、糸切り後板状圧痕が明瞭に残る。輪高台を有するもののうち、1837と1839は高台がやや高く、外開き気味である。これらについては、1833と1841とともに11世紀代に位置づけられよう。また、1839は内底面と外底面に×印状のヘラ描きが、1838と1840の外底面には格子状のヘラ描きがみられる。

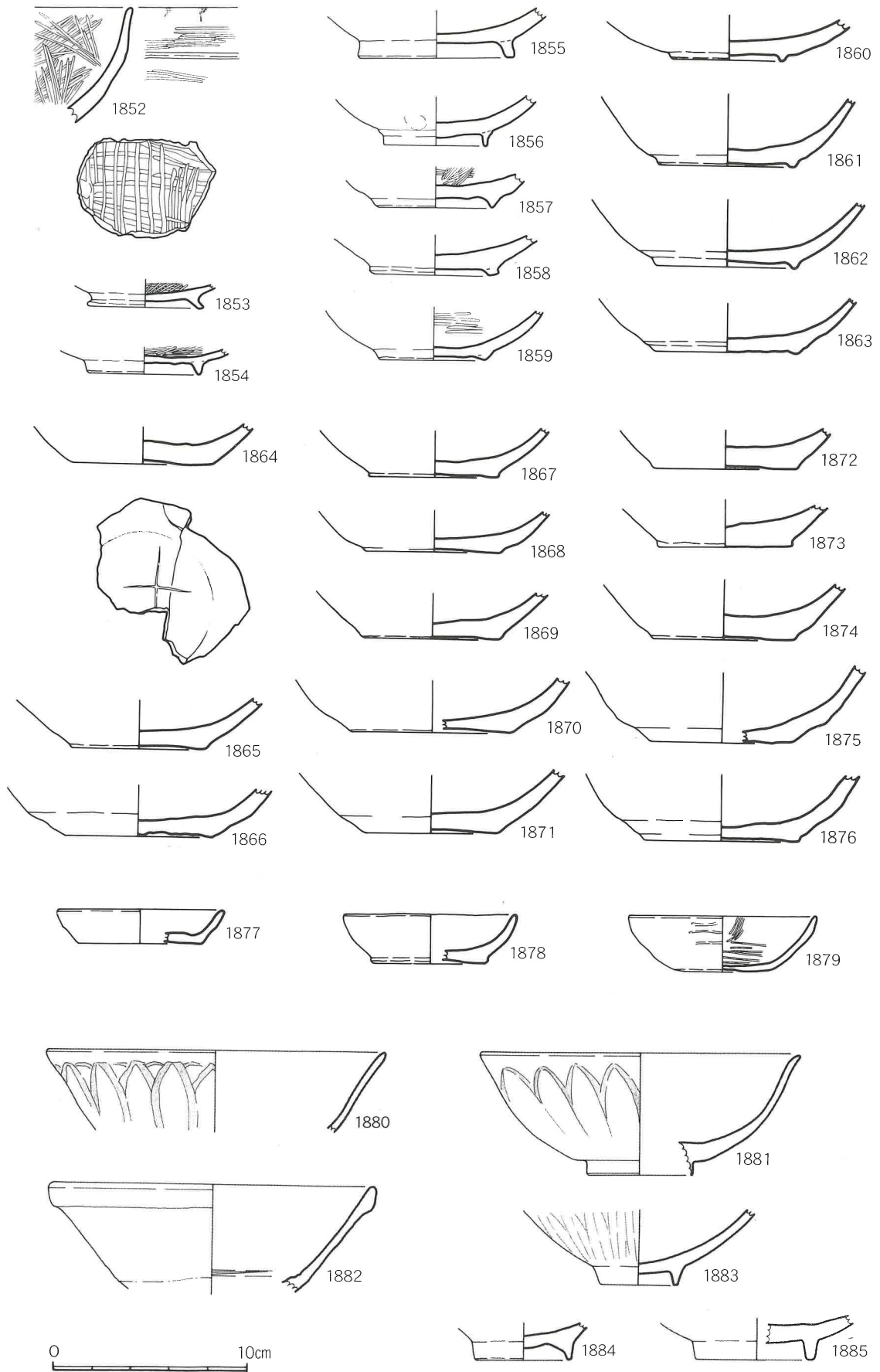
1842～1851、1853～1876は瓦器碗で、このうち全形の分かるものは1842～1849である。1842と1843は豊前型の瓦器碗で、器高の低下傾向がみられる。そのため、体部下半が丸みをもつ。外面体部下半にはユビオサエなどが顕著で、内外面に雑なヘラミガキがみられる。高台は断面三角形の低いものが付される。これらは13世紀後半に比定される。1844～1849は、底部が非押し出し技法の東国東型瓦器碗である。これらはいずれも完全な平底で、底部には糸切り痕が残る。13世紀後半～14世紀初に比定される。1850、1851も底部を欠くが、13、14世紀代の東国東型瓦器碗である。1853～1876は底部資料で、このうち1853は畿内の楠葉型瓦器碗であ



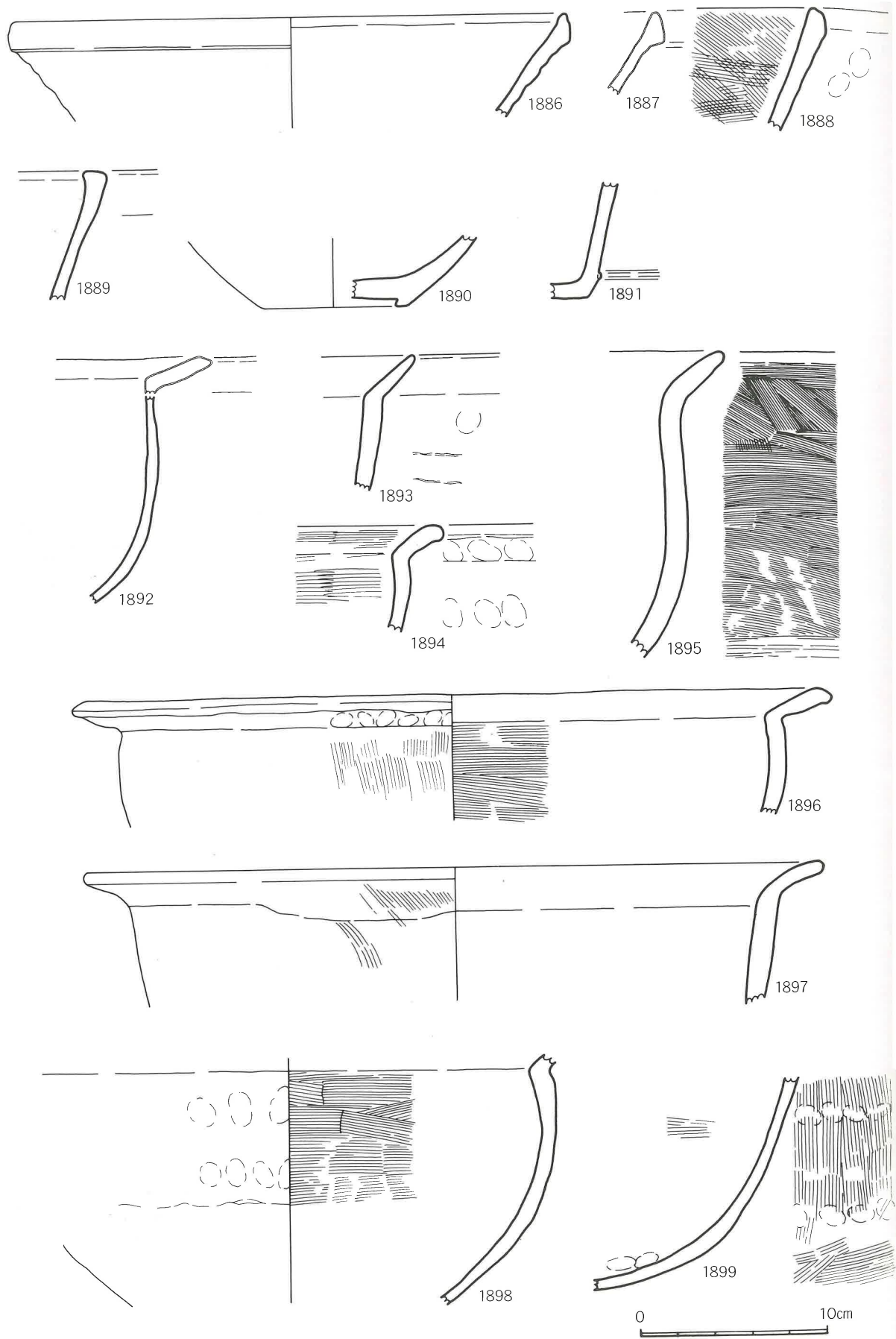
第729図 八坂中遺跡その他の出土遺物(1)



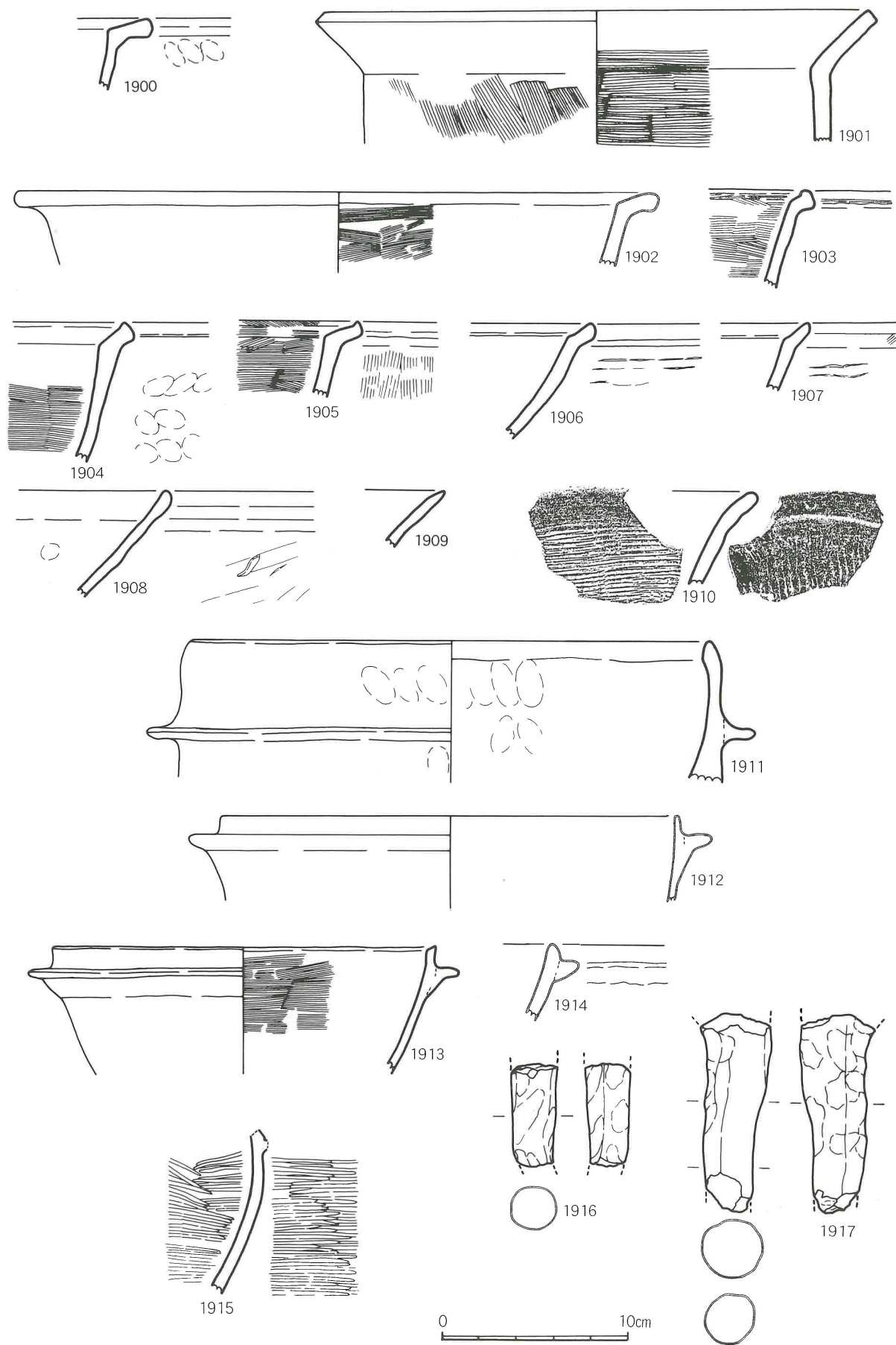
第730図 八坂中遺跡その他の出土遺物(2)



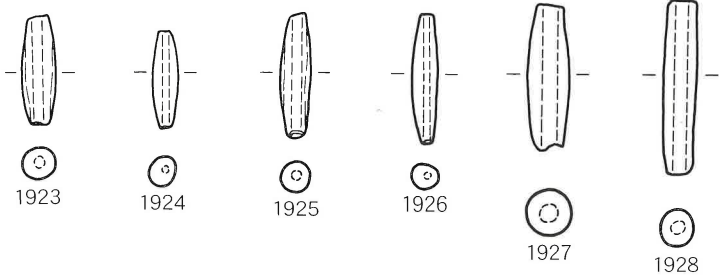
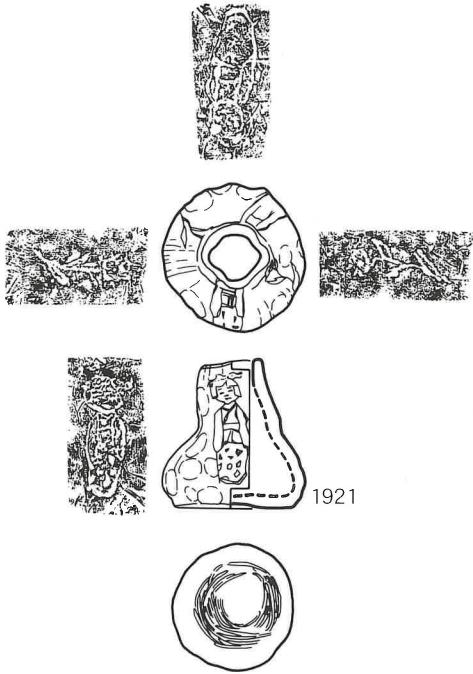
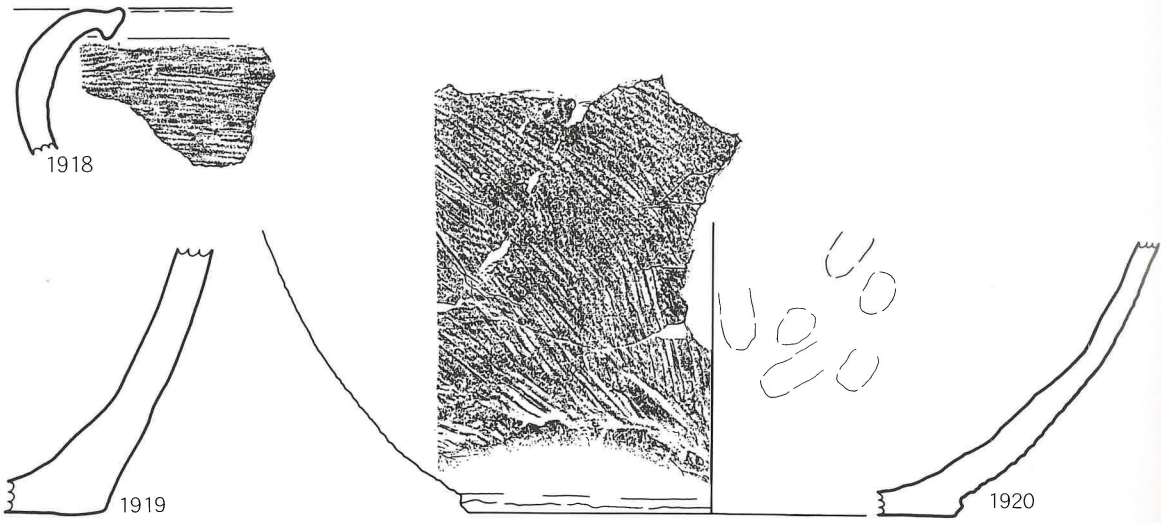
第731図 八坂中遺跡その他の出土遺物(3)



第732図 八坂中遺跡その他の出土遺物(4)



第733図 八坂中遺跡その他の出土遺物(5)



第734図 八坂中遺跡その他の出土遺物(6)

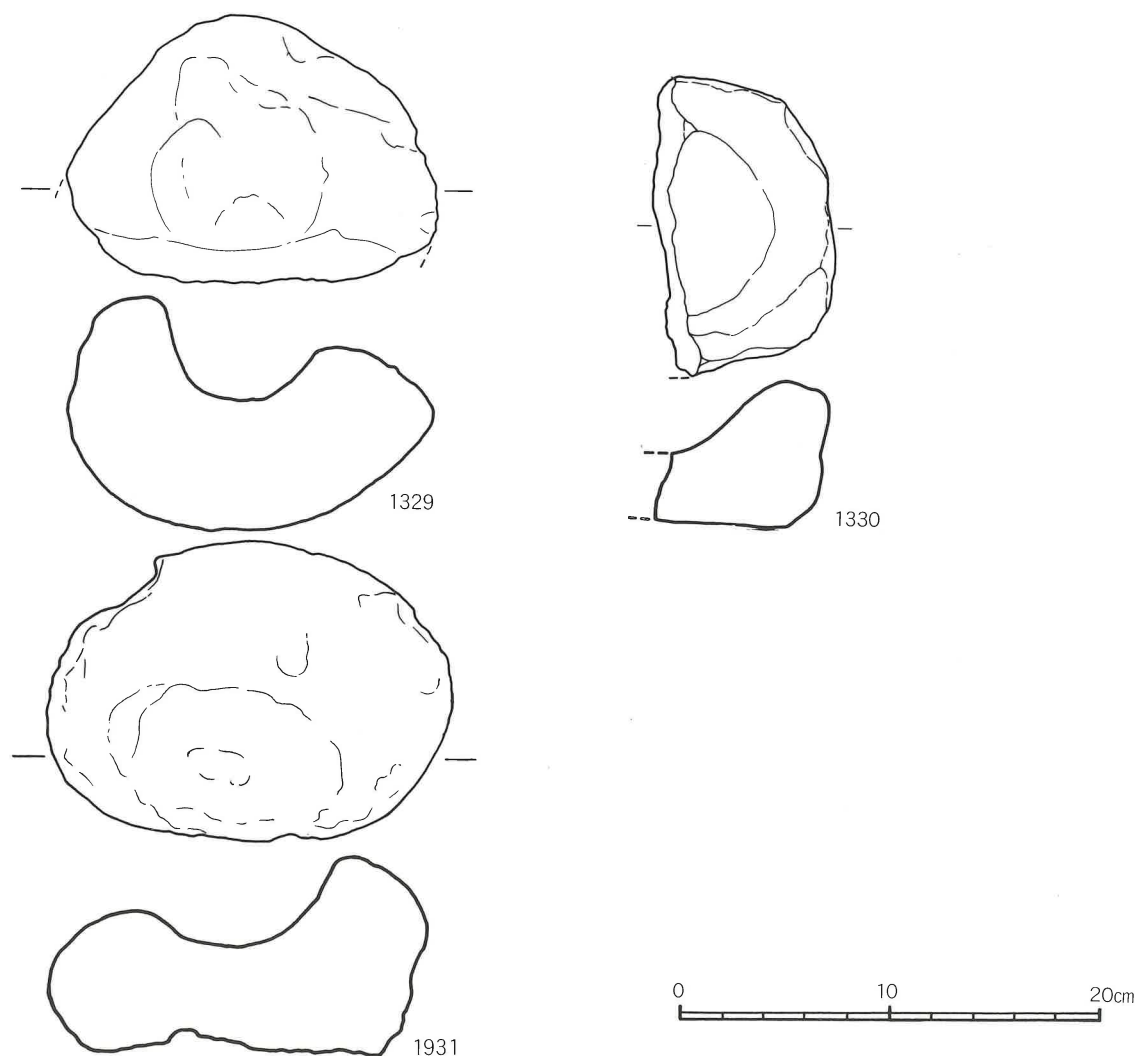
る。高台は外開きに付されており、内底面には格子状のヘラミガキがみられる。12世紀前半のものか。1854は和泉型瓦器椀で、12世紀後半に比定される。1856、1859は押し出しがなされ、残りは非押し出しである。前者は豊前型、後者は東国東型と理解され、12世紀代と思われる1855と1856をのぞき、他は13世紀代に比定される。1864～1876は完全に平底化する東国東型瓦器椀で、13世紀後半以降である。このうち、1864の底部には十字状のヘラ描きがある。

1877、1878は在地の瓦器小皿で、13世紀後半から14世紀にかけてのもの。1879は畿内の楠葉産小椀である。楠葉でも類例の少ないもので、主として京都周辺など限られた地域に分布をもつ。13世紀後半に比定される。

1880～1885は輸入陶磁器である。このうち1880、1881、1883は青磁碗で、13世紀に位置付けられる。1882は玉縁の白磁で、11世紀後半～12世紀前半のものである。

1886、1887は東播系のこね鉢で、12～13世紀のものか。1888は鉢で、内面にハケメがみられる。13世紀前後の所産か。1889も鉢と思われるが、土鍋の可能性もある。1890は鉢底部。1891は瓦質土器火鉢である。

1892～1914、1916、1917は土鍋である。このうち、1892～1902は口縁がくの字状に折れる点が共通する。全形が明らかなものは少ないが、丸底を呈するものである。体部は、長胴気味のものから半球形のものへと変化すると考えられ、全体として12～13世紀に位置付けられる。調整については、体部内外面のハケメの有無などにバリエーションがみられる。1903～1905は口縁部が短く外傾し、端部が上方に引き上げられるものである。内面にはハケメがみられ、一部については外面にもハケメが施される。13～14世紀にかけてのものか。1906～1908は大型で底部丸底を呈するものである。体部外面にはヘラケズリが施されており、16世紀代に比定される。

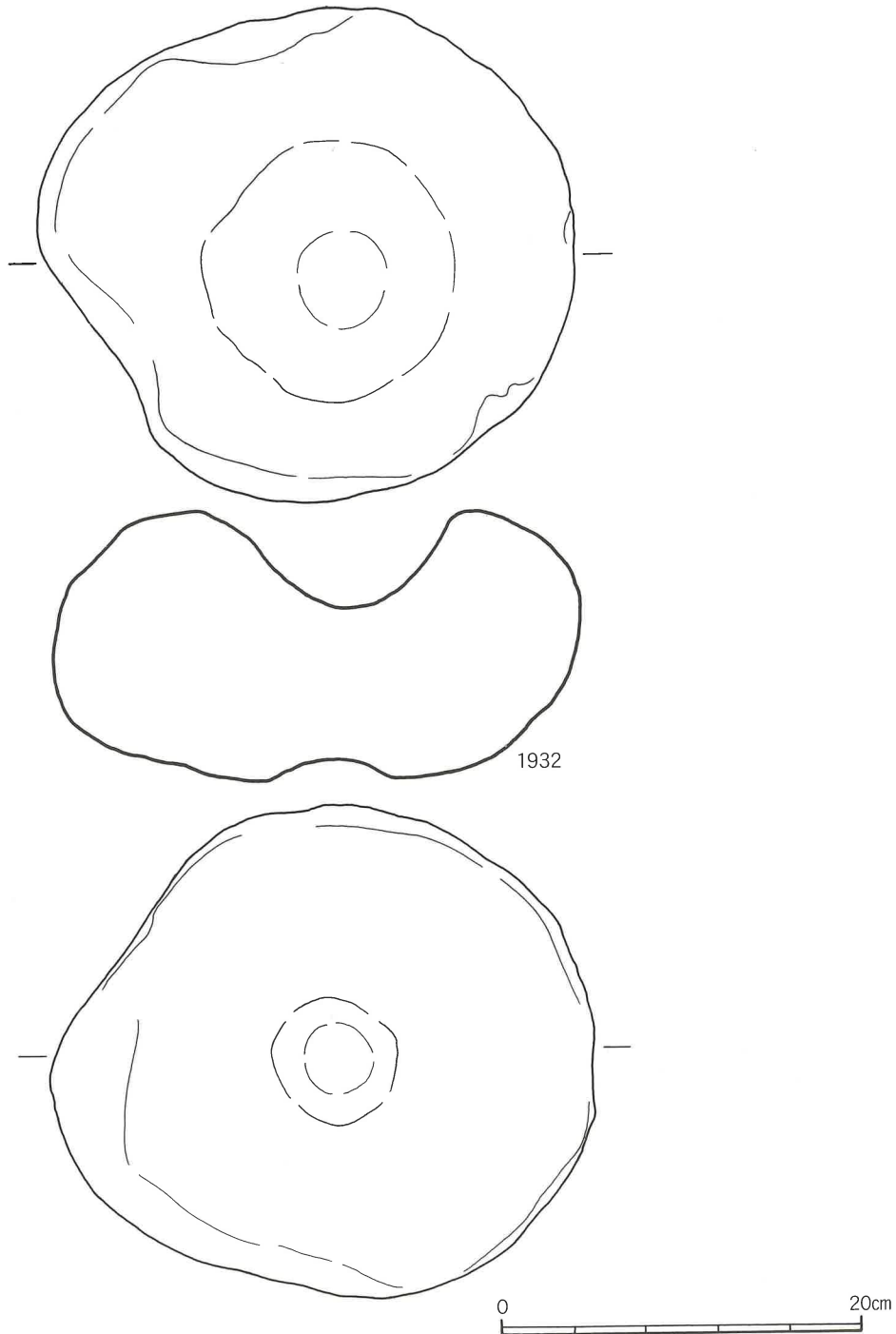


第735図 八坂中遺跡その他の出土遺物(7)

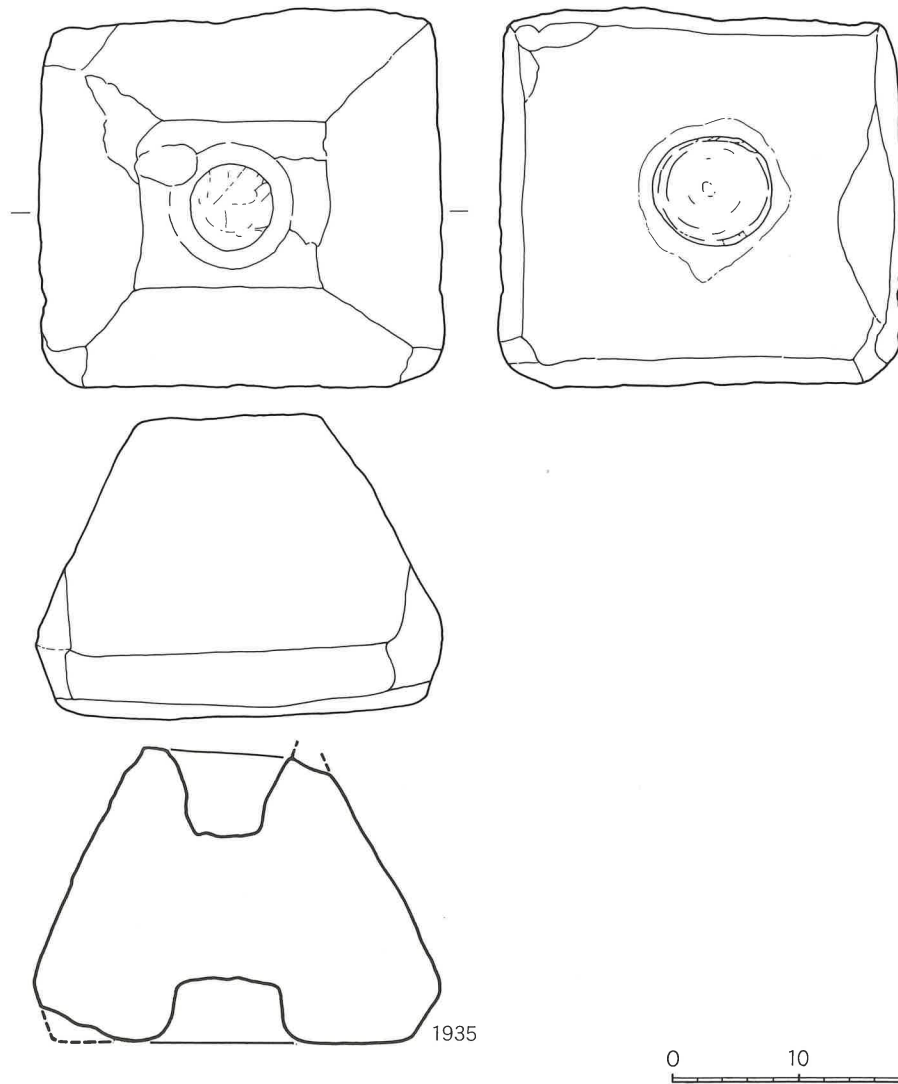
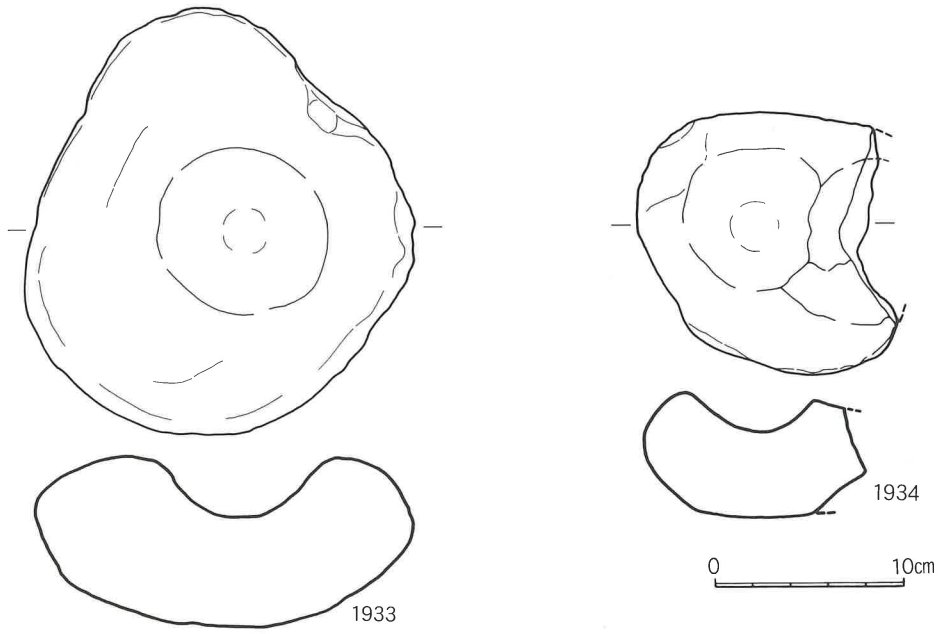
1909、1910は、体部が口縁にむかい緩やかに外反するものである。1911～1914は口縁下に鏝が付されるものである。1911は鏝が口縁よりもかなり下に付されるもので、12世紀代である。他は13世紀に比定される。1916、1917は土鍋の脚である。

1918～1920は甕である。1918、1920は須恵質である。1920は平行タタキが施される。1919は備前焼である。1921は手捏ねの製品で、体部の四方向にヘラにより絵が描かれる。絵は、和服姿の女性と草花を各々対向する位置に描く。

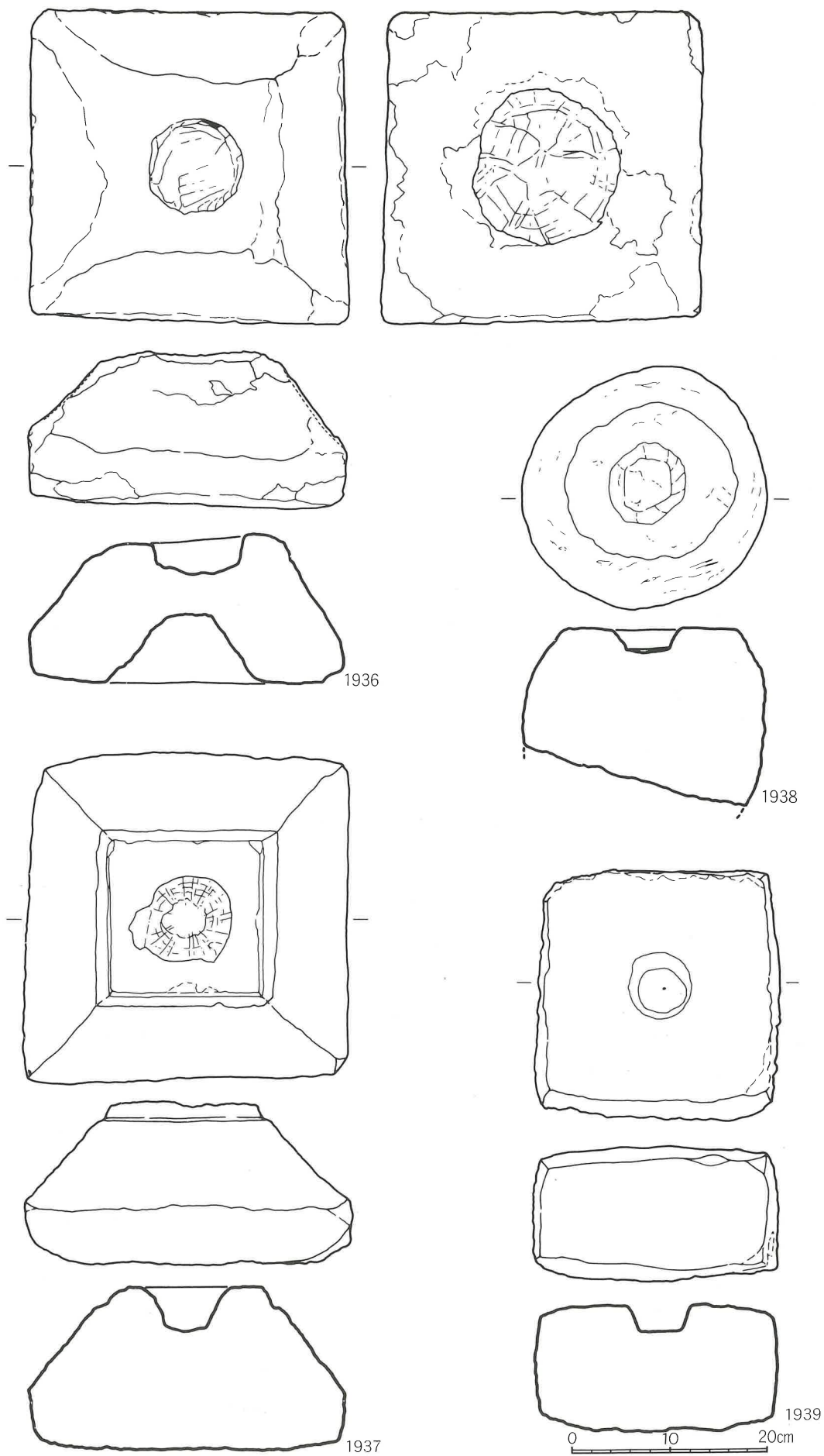
1922はフィゴの羽口である。内傾は3 cm余を測る。



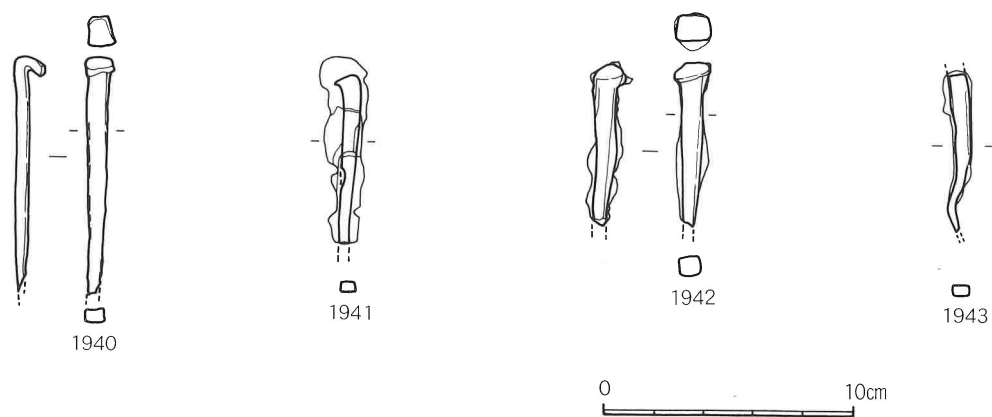
第736図 八坂中遺跡その他の出土遺物(8)



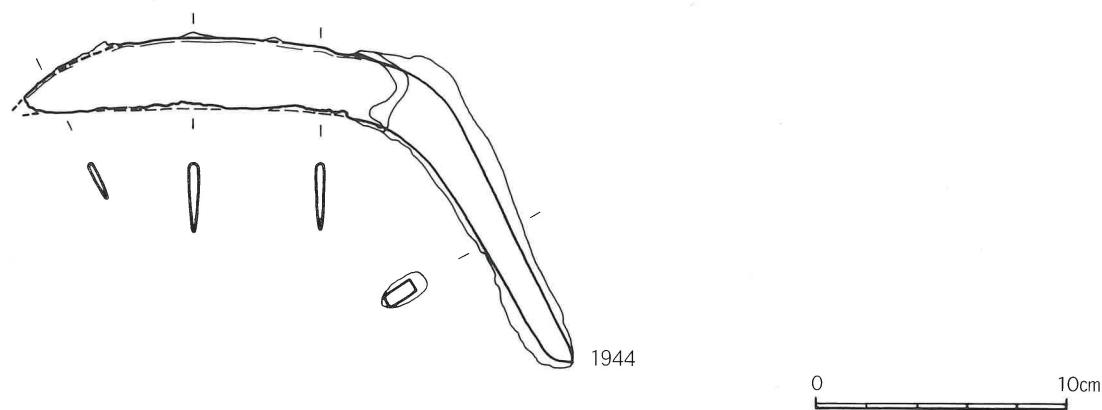
第737図 八坂中遺跡その他の出土遺物(9)



第738図 八坂中遺跡その他の出土遺物(10)



第739図 八坂中遺跡その他の出土遺物(11)



第740図 八坂中遺跡その他の出土遺物(12)

1923～1928は土錘である。

1929～1934は凹石である。円礫を利用しており、片面にくぼみを作るもの（1929～1931、1934）、及び両面にくぼみを作るもの（1932）がある。欠損品があるが、大きさは径10cm余～30cm余までのものがみられる。いずれも古代後半から中世にかけての所産である。

1935～1937は五輪塔の火輪部である。1935は高さが高く、軒の反りも急である。軒口の厚みは、他とほぼ同じである。上面に風・空輪部の柄を装着する孔が、また下面にも水輪部と装着するための孔がみられる。1936は、1935に比べると高さがかかなり低い。やはり上面と下面に穴がみられるが、下面の穴は水輪部との装着用も兼ねるものかもしれないが、深く抉っており、軽量化のためとも考えられる。1937は上部に露盤を作り出し、上面のみに風・空輪部の柄を装着する孔がみられる。

1938は水輪部である。下部を欠損するが、上面には火輪部との装着用の孔を有する。1939は地輪部である。

1940～1943は鉄釘である。いずれも先端部や頭部を欠損しているが、断面方形で、頭部を折り曲げたものである。

1944は鉄製の鎌である。刃部はわずかに湾曲するものの、ほぼ直線を呈する。刃部から基部へ大きく屈曲し、基部は直線的にのびる。刃部は先端部を若干欠くが、現状での長さは約14cmを測る。また、刃部の幅は最大で2.8cmである。基部は長く12.5cmを測る。

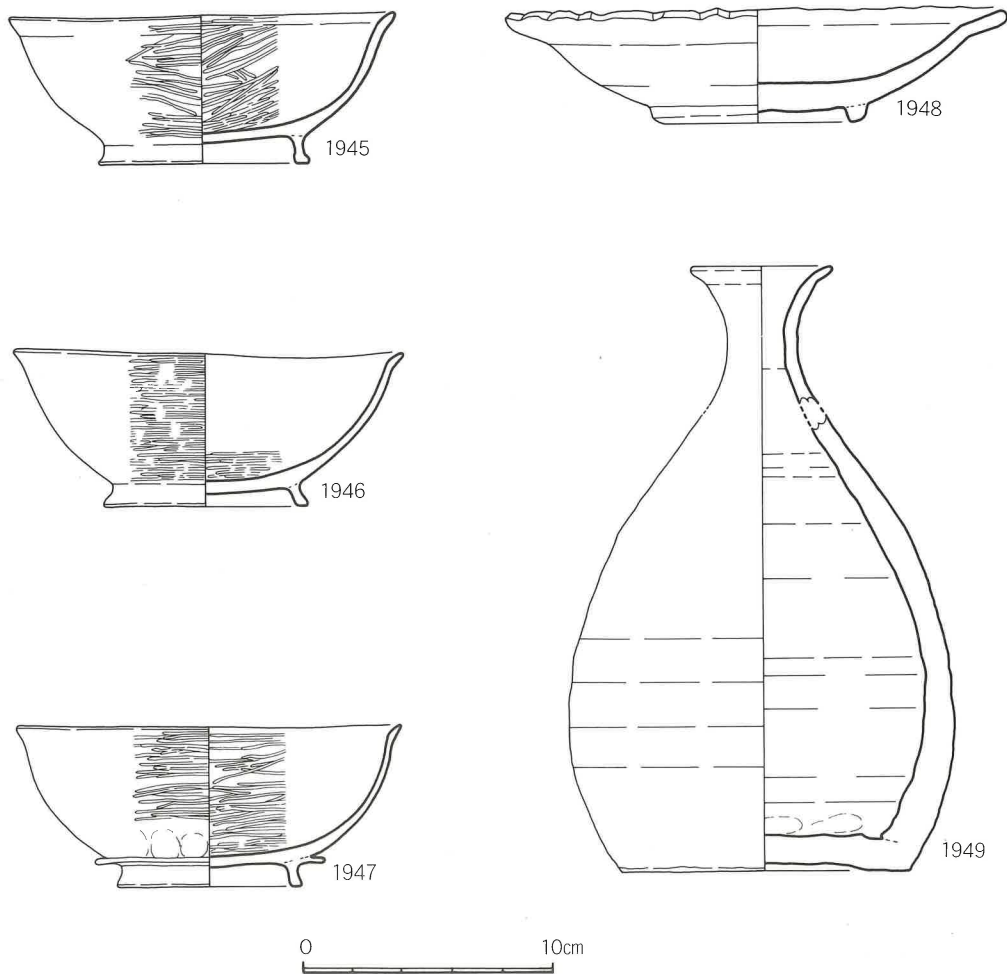
・ 試掘調査出土遺物

試掘調査の際に検出された遺物のうち、完形品または完形にちかいものを紹介する。

1945、1946は内黒土器碗である。1945は体部はわずかに丸みをもつもので、口縁部にいたり緩やかに外反する。口縁端部は尖り気味である。高台は比較的高く、やや外開き気味である。体部内外面にはヘラミガキが施される。内面のヘラミガキについては、体部下半まで内底面と一連のミガキがおよび、体部上半のみ改めて横なしいしは斜方向のミガキを施す。1946も同様な器形を呈する。ミガキについては磨滅が著しいため、詳細は不明である。1947は内黒土器碗で、体部と底部の境に罫が付く。全体の器形は、前二者とほぼ同じである。内面にミガキは、内底面が不定方向気味に、そして体部が横方向に施される。以上は11世紀後半のものか。

1948は中国製青磁皿の完形品である。口縁部は外方に折れるもので、端部は稜花状を呈する。釉は発色も悪く、釉切れも目立つ。1949と同じ場所より検出されており、一括埋納品であったと思われる。

1949は備前焼徳利で、本来は完形品であった。16世紀代のものである。



第741図 八坂中遺跡試掘調査出土土器

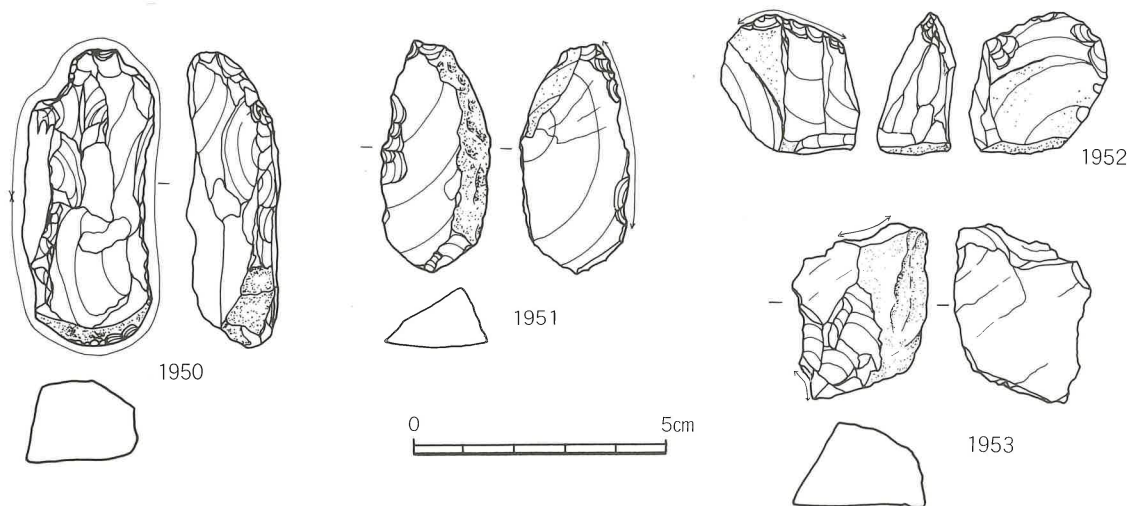
(4) 燧石

燧石（火打ち）石とみられる石器が数点出土している（第742図）。

1950は、黄土色をした硅質岩の細長い剥片の全周に磨滅した剥離面がみられるものである。一部に素材時の自然面がのこっており、明らかに加工されたものであることがわかる。磨滅は手擦れによるものか、火打ち作業によるものかは判明しないが、両者によるものであろう。長さ5.8cm、幅2.5cm、厚さ1.9cm、重さ32.8g。1951は、半透明のアメ色をした硅質岩の剥片である。自然礫から剥離されたもので、縁辺部に細かい剥離面がのこされており、火打ち作業によるものとみられる。長さ4.5cm、幅2.1cm、厚さ1.2cm、重さ11.6g。1952は1951に近い石材で、小さな角礫にいくらかの剥離面を加えて稜を形成し、その一辺（稜）で火打ち作業を行っている。長さ2.7cm、幅2.7cm、厚さ1.4cm、重さ11.6g。1953は石英の礫の一部を利用したものとみられる。一部に火打ち作業によるとみられる剥離痕が観察される。産地は、佐賀関半島と推定される。長さ3.4cm、幅2.7cm、厚さ1.7cm、重さ17.0g。

以上4点については、時代が不明であるが、1953を除いては近世のものと推定される。とくに1950は、使用頻度が高い燧石とみられ、また石材も隣接する山香町の江戸時代の特産品であった火打ち石「六太郎角」である可能性が高い。その色調は、当時の通称みそと呼ばれる良品とみられる。1951、1952はともに半透明のアメ色をなすもので、「六太郎角」とは別の河床産の硅化木系とみられる。1953は、中世大友府内町跡においても石英製の火打ち石とみられるものが出土しており、むしろ中世に属するものと考えられる。

速見郡山香町の山中六太郎に産する「六太郎角」は、本邦屈指の良質の燧石として西日本一帯に広く流通していたことが知られている。「六太郎角」の角とは、燧石すなわち火打ち石のことで、『豊後国志』の国々の土産というところに「燧石 山香郷六太郎村出」記されており、「六太郎角」の名は遠く京阪地方まで聞こえていたという。このことから、山香郷の燧石採掘は、少なくとも今から200年以上も昔のことと推定される。その「六太郎角」は、「みそ」と呼ばれるものと、「浅黄」と呼ばれるものの二種類があり、「みそ」は黄味を帯びていて火花は大きい欠けやすいので長持ちはしない。「浅黄」は火花は小さいが長持ちするということが、『豊後立石史談』の中に述べられている。



第742図 八坂中遺跡出土燧石

第3章 まとめ

遺跡からは、多くの遺構・遺物が確認された。これらの変遷を段階ごとに整理し、まとめにかえる。

第Ⅰ段階

具体的な遺構は確認されていないが、瓦や越州窯青磁、緑釉陶器などの遺物が一定量認められる9、10世紀の段階である。これより以前については、弥生式土器や須恵器がごくわずかに確認されるのみである。本遺跡の立地する場所は、八坂川右岸の氾濫原に形成された自然堤防上であるが、古代以前においては自然堤防形成途上で、集落地には不適な土地であったと考えられる。古代前半の遺物は調査区の西半に集中しており、この段階の遺構は、調査区西隣自然堤防最高所にあった可能性が高い。遺跡の性格としては、瓦などから寺院の可能性を考えることができる。しかし、地形的に大規模な伽藍の展開は難しく、一堂形式の小規模なものであったと思われる。このほか、可能性として有力首長の館、あるいは館に付随する仏教施設であることも考えられる。いずれの可能性を考えるにしても、一般の農業集落とは異なる特別な遺跡がこの地区に存在したことになる。これは、遺跡の立地する場所そのものの地理学的な環境や成立状況とも深く係わることで、第Ⅱ段階以降の状況にも大きく影響する。

第Ⅱ段階

集落が自然堤防全体に展開する段階で、11、12世紀に比定される。掘立柱建物や墓がみられ、自然堤防全体に展開する。建物の配置などに明確な企画性はみられず、屋敷地を画する明瞭な施設もたない。また、建物規模についても際だって大型のものではなく、きわめて平均的な規模である。しかし、屋敷周辺には特定個人墓と思われる墓がみられることから、階層的にはやや上位に位置付けられるものと思われる。墓は土壇墓で、一部に木棺を利用したものや、周溝を巡らすものがみられる。また、墓壇内における頭位をみると、西にもつものが多い傾向にある。

一般的な農業集落が早い段階から居を構えた場所でない本地区に、唐突に集落が出現することについてはそれなりの要因があると思われる。その第一は、自然堤防の形成が集落地として使用可能なまでに進行したこと。第二は、周囲に可耕地の少ないこの場所の価値が高く評価されたためである。本段階は宇佐宮弥勒寺領八坂荘の成立時期にあたり、荘園体制の整備の中で八坂中遺跡の地は、一般の農業集落とは異なる役割を担うものとして位置付けられるようになったものであろう。すなわち、本遺跡は八坂川の右岸に位置しているが、川が大きく蛇行することから、遺跡の西側と東側で川に面する。北側は氾濫原の川原が広がり、現在でも畑地と雑種地が混じり広がっている。遺跡の南側は古い旧河道に起源をもつ低地で、早い段階で水田化されていたものと考えられる。このような状況のなかでみた場合、本遺跡の持つ性格として、八坂地区における物資集積ステーション的役割を担っていたことが推定される。遺跡は大字中に所在し、その名称からも遺跡を含む本地区が、古代の八坂郷から宇佐宮弥勒寺領荘園の八坂荘に引き継がれるなかで、その中核であったことを窺い知ることができる。よって、この周辺に地域支配の様々な機能が集中していたことが想像される。遺跡西側の現八坂橋まで満潮時には潮が上がることを考えれば、船輸送を利用した八坂地区の中核的物資集積拠点、すなわち八坂地区の表玄関的役割を担う場所であった可能性が高い。さらに、遺跡の西側に小字市の地名がみられることから、小字市に限らず遺跡の周辺に市が開かれていた可能性も考えられる。前述したように遺跡の北側には広大な川原が広がっており、地域の土地利用の観点からみても、市が立つとすればこの周辺であろう。

第Ⅲ段階

第Ⅱ段階以後やや空白期間があった後、再び自然堤防上全域に集落が展開する。時期的には、13世紀後半以降である。この段階には、自然堤防中央を東西に走る溝（溝3、溝4、溝5は一連のものである）と直角方向に分かれる溝1などがある。これら自身が個別の屋敷地を画するものではないようであるが、集落に深く係わるもの

であったと理解できる。また、土壙墓などの墓も屋敷地周辺にみることができる。これらから、一部の屋敷については階層的に上位に位置付けられるものもあったことが分かる。土壙墓における頭位をみると、第Ⅱ段階とは異なり方位を北にとる。本遺跡においては、頭位方向が時期により明確に変化する。

遺物については、溝1から多量の瓦器碗や土師質土器が出土した。それらには完形品が多く含まれるとともに、吉備系土師器碗などの遠隔地土器も含まれていた。その量と質から、本遺跡が八坂地区中枢部の一角を担うものであることが推定できる。また、大量にみられる底部糸切りで平底をなす瓦器碗は、これまで東国東の地域のみで確認されているものである。これは東国東型瓦器碗（詳細は「八坂の遺跡」3 考察・付論篇参照）と称されるもので、12世紀後半に底部非押し出し技法による土師器碗製作から転換し成立したもので、その後型式変化を遂げたものである。東国東型瓦器碗がこのように多量に検出されたのは初めてで、土器の製作・流通の面でも、本遺跡が地域の拠点的作用をもつものであったと考えられる。八坂地域における物資の物流センター的性格は、本段階にいたっても第Ⅱ段階同様維持されていたであろう。

ひとつ気になりな点は、第Ⅱ段階の後や第Ⅲ段階の後に、遺構・遺物からみて空白がみられることである。しかし、自然堤防上を全面的に調査したわけではないので、調査区外に遺構が存在することが十分に考えられる。自然堤防上での遺構の展開は時代によって大きく変化したものと考えられるが、立地条件などからみて本遺跡のもつ役割は基本的に各時代を通して大きな変化はなかったものと理解される。ただ、洪水などの自然災害の面からみればその脅威は常に存在し、発掘調査中の平成9年と10年にも自然堤防が全面的に冠水する被害にあった。調査区北側の畑地では、近世の耕作面から1m以上の堆積が認められるなど、時代が遡るほど本自然堤防周辺の不安定さは増すものと思われる。自然堤防上における遺跡の収縮・拡大についても、このような自然災害とあながち無関係ではないかもしれない。

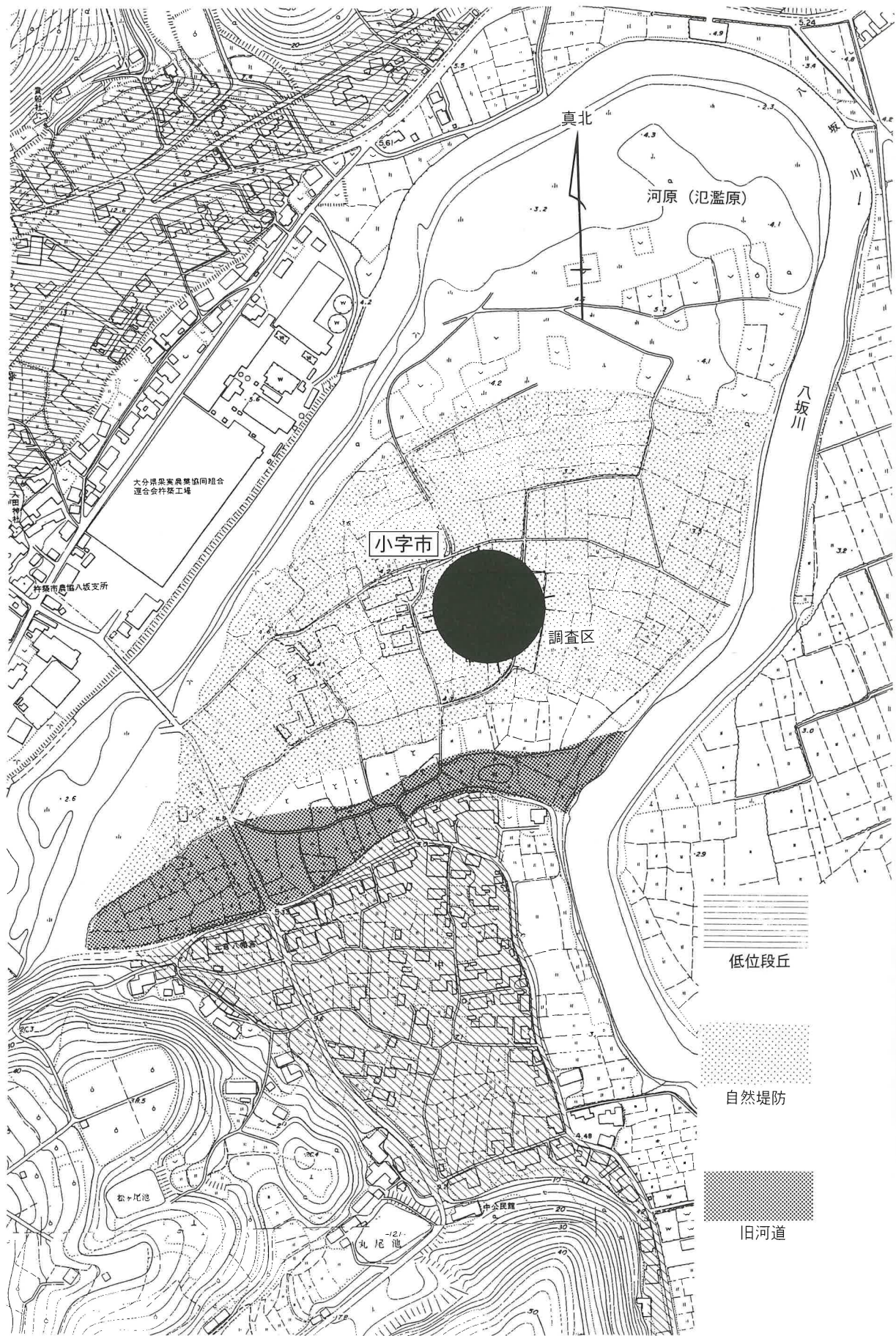
第Ⅳ段階

遺跡西半に、溝により囲まれた居館1、居館2、居館3が出現する。時期的には16世紀代である。この時、遺跡東半にはこの段階の遺構がまったく確認されず、東半については水田化されたものと理解される。現在、調査区中央付近に、幹線水路が自然堤防を横断するように南北に走っている。16世紀代の遺構の広がり、この水路を境にしており、少なくとも居館の成立した16世紀には、この水路があり東半は水田化されたものであろう。

居館群の変遷はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期の変遷が想定され（第687、688図）、最終的には17世紀初まで存続する。各居館の規模は居館1が60m×22m、居館2が32～35m×26～29m、居館3が28～31m×32～35mで、半町四方にも遠く及ばない。居館規模そのものが単純に館の主の力量を示すとすれば、各居館の主は当地方の領主である木付氏を支える在地の小領主層あたりと理解できる。しかし、連続して築かれる居館をまとめて囲む溝がみられるため、これ全体をひとつの居館とし、各居館は館内での機能・役割の差を示すと考えれば、先の評価を大きく上方修正する必要も生じてくる。居館群を囲む溝について、Ⅱ期では居館1と居館3のすぐ北側を東西に走る道路状の空間を挟みさらに北方に延び、道路に面して並ぶ建物群まで取り込んでしまう。このように考えれば、居館群全体を囲む溝は惣構え的な役割を担うもので、内部に複数の屋敷区画や屋敷に隷属する階層の建物まで含んでいたとも理解できる。この場合、全体は一族郎党と呼ばれる単位であった可能性が高い。いずれにしても、溝と土塁に囲まれた状況は防御性が高く、時代の社会情勢を強く反映したものであろう。

第Ⅴ段階

館が廃絶し調査区全体が水田化される段階で、17世紀以降である。館跡地では、館の変遷Ⅳ期で示したように、かつての館の溝を利用した長大な池が掘られている。用水の補完機能をもつものとして利用されたものであろう。その後、池も埋められ現在にいたるが、その間に水争いの犠牲者を埋葬したと伝承される甕棺墓が水田中の畔に形成される。調査区の西隣には、近世に庄屋を務めた屋敷がみられるが、これは16世紀段階における居館群の勢力がそのまま移ったとも考えられる。



第743図 八坂中遺跡周辺地形図

八坂中遺跡出土土器観察表

第7図 建物7

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------------|---------|-------|-----|----------------|---------------|--------------------------------------|--------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | 土師質土器 小皿 | (9.0) | (6.6) | 1.7 | 角閃石・長石、 金雲母 | 体部の立ちあがりは急である | 内面 回転ナデ、不定方向のナ デ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 E-10 P-10 |

第8図 建物9

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|----|----|--------------------------|---------------|----------|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 2 | 陶質鉢 | — | — | — | (内)白っぽい灰色の釉 (外)緑・暗緑の釉 | 片口部あり 穿孔あり | 外面に自然釉 | A区 E-10 P-9 |

第11図 建物10

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------------|---------|-----|-----|----------------|--------------------------|-------------------|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 4 | 土師質土器 小皿 | 7.5 | 6.0 | 1.1 | 角閃石・長石、 茶褐色 | 底部中央に短い体部がシャープに立 ち上がる | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 E-10 P-8 |

第15図 建物21

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|-------|-----|---------------------------|--------------------|------------------------|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 5 | 瓦器椀 | (15.8) | (7.6) | 6.5 | 石英・金雲母、 灰白色 外面口縁部灰色 | 重ね焼きの痕跡あり 底部は平底 | 内外面 回転ナデ 底部糸切り、板状圧痕 | A区 G-10 P-8 |

第19図 建物23

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------------|---------|-----|---------|---------------------|-------|-----------------------------|--------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 6 | 土師質土器 小皿 | 7.7 | 6.0 | 1.0~1.3 | 長石・白色粒子・砂粒、 淡明橙色 | 体部は短い | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ | A区 J-11 P-13 |

第26図 建物35

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|-------|-----|---------------------|--------------|--|--------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 7 | 瓦器椀 | (14.0) | (4.4) | 5.8 | 白色粒子・黒色粒子・長石、 灰色 | 断面方形の高台は貼り付け | 内面 不定方向の板ナデ、ナデ 外面 横方向のミガキ、ヨコナデ、 ユビオサエ、高台貼り付け、底部 板状工具によるナデ | A区 J-6 P-2・3 |

第48図 建物78

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------------|---------|----|----|---------------------------|--------------|--|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 11 | 瓦質土器 仏花器 | — | — | — | 砂粒・角閃石・長石・石英、 明淡褐色・明橙色 | 欠損するが下部に脚がつく | 内面 回転ヨコナデ 外面 タテヘラミガキ後彩色？ 胴部に2条沈線間に23個のスタ ンプ文が並ぶ | A区 K-3 P-8 |

第58図 建物95

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------------|---------|-------|-----|-------------|-----------|--------------------------------------|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 15 | 土師質土器 小皿 | (7.7) | (6.2) | 1.3 | 角閃石、 黄褐色 | 体部は短く外反気味 | 内面 不定方向のナデ、回転ナ デ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 B-2 P-17 |

第64図 建物105

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|------------|---------|----|----|---------------------------------|---------------|---|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 16 | 須恵器 こね鉢 | (29.0) | — | — | 大粒の砂粒 (内)灰色 (外)灰色・口縁部は青灰色 | 口縁端部外面がわずかに肥厚 | 内面 回転ヨコナデ、ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ヨコナデ、口 クロ痕残る | A区 H-1 P-22 |

第67図 建物109

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------------|---------|-----|---------|-------------|----------------------|----------------|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 18 | 土師質土器 小皿 | 8.3 | 7.5 | 0.9~1.1 | 長石、 暗橙褐色 | 体部が短く直立 口縁端部は尖り気味 | 内外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 H-1 P-23 |

第71図 建物117

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|----|----|---------------------|---------------|----------|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 19 | 瓦器椀 | (16.1) | — | — | 角閃石・長石、 淡橙褐色 | 器高は低く、体部の腰が張る | 内外面 回転ナデ | B区 J-4 P-6 |
| 20 | 瓦器椀 | (15.2) | — | — | 角閃石・石英、 黄色っぽい灰白色 | — | 内外面 回転ナデ | B区 E-9 P-6 |

第75図 建物118

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------------|---------|-----|-----|---------------|---------------|---------------------|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 21 | 土師質土器 小皿 | 8.5 | 6.3 | 1.6 | 角閃石・長石、 褐色 | 体部の立ちあがりはシャープ | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | B区 E-9 P-1 |

第76図 建物121

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|-------|-----|---|-----------------------|---|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 22 | 瓦器椀 | (15.8) | 7.0 | 5.8 | 長石・角閃石・石英、 (口縁部)灰色 (胴部)灰白色 | 口縁外面に重ね焼き痕あり 底部は平底 | 内面 回転ナデ、底面回転ナデと 不定方向のナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 D-8 P-2 |
| 23 | 瓦器椀 | (16.2) | (8.2) | 6.1 | 長石・角閃石・石英、 (口縁部)暗灰色 (胴部)灰白色 | 口縁外面に重ね焼き痕あり 底部は平底 | 内面 回転ナデ、ユビナデ 外面 回転ナデ底部糸切り後板 状圧痕 | B区 D-8 P-2 |
| 24 | 瓦器椀 | (15.6) | (8.2) | 5.8 | 角閃石・長石・石英、 (口縁部)灰色 (胴部)灰白色 (底部)暗灰色 | 口縁外面に重ね焼き痕あり 底部は平底 | 内面 回転ナデ・縦方向のナデ、 底面ユビオサエと不定方向のナ デ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 D-8 P-2 |

第79図 建物124

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|-------|-----|-------------|-------|----------|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 25 | 瓦器椀 | (14.0) | (6.8) | 6.3 | 石英・角閃石、暗橙褐色 | 底部は平底 | 内外面 回転ナデ | B区 A-5 P-20 |

第81図 建物125

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-------|-----|--------------------------|--------------|----------------------------------|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 26 | 土師質土器小皿 | (10.6) | (6.6) | 1.3 | 長石・角閃石、(内)黄褐色 (外)暗赤褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ナデ、底面不定方向ナデ 外面 回転ナデ底部糸切り | B区 A-4 P-7 |

第84図 建物133

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|-----|-----|---------------------------|--------------------|--|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 27 | 瓦器椀 | 16.0 | 7.3 | 5.9 | 長石・角閃石、(口縁部)灰色 (胴部)灰白色 | 口縁外面に重ね焼き痕 底部平底 | 内面 回転ナデ、底面回転ナデ 後一定方向のユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区 D-2 P-1 |

第87図 建物136

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-----|-----|-------------|------------------------------|---|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 28 | 土師質土器小皿 | (7.4) | 4.7 | 1.7 | 石英・長石、黄～橙褐色 | 体部に比し底部が厚い 体部は斜方向に直線的にのびる | 内面 回転ナデ、底面回転ナデ 後不定方向のユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 G-1 P-7 |

第91図 建物139

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-----|---------|-------------|-----------------|------------------------------------|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 29 | 土師質土器小皿 | 7.4 | 5.5 | 1.2~1.3 | 角閃石、灰白色～灰褐色 | 体部は立ちあがりは急で短い | 内面 回転ナデ、底面一方ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ | B区 F-4 P-5 |
| 30 | 白磁皿 | (11.1) | — | — | 乳白色の釉 | 口縁端部がわずかに外方に折れる | 内外面に施釉 | B区 F-3 P-2 |
| 31 | 白磁碗 | (17.3) | — | — | 灰色つばい白の釉 | 口縁部玉縁状 | 内外面に施釉 | B区 F-3 P-2 |

第95図 建物142

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|--------|-----------|-----|---------|-------------|--------|---|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 33 | 土師質土器杯 | 12.4~12.9 | 6.3 | 3.3~3.7 | 角閃石、やや暗い赤褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、底面一定方向のナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、ユビナデ | B区 F-5 P-51 |

第98図 建物149

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-------|-----|---------|--------------|-------------------------------|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 34 | 土師質土器小皿 | (19.4) | (6.2) | 1.5 | 長石、淡黄褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区 H-7 P-7 |

第99図 建物151

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----|---------|----|----|-------------|------------|--------------------------|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 35 | 青磁碗 | (15.8) | — | — | 黄色かかった薄い緑の釉 | 口縁端部が短く折れる | 外面 ロウ口痕残り 内外面施釉され貫入あり | B区 H-6 P-9 |

第102図 建物156

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-------|-----|-----------|-----------|--------------------------------------|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 36 | 土師質土器小皿 | (9.2) | (7.0) | 1.4 | 角閃石・石英、橙色 | 体部は緩やかに外反 | 内面 回転ナデ、底面不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ | B区 I-4 P-13 |

第106図 建物158

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-----|-----|-------------|--------------------|---|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 37 | 土師質土器小皿 | 8.8 | 5.6 | 1.9 | 角閃石・長石、淡黄褐色 | 体部の立ちあがりは緩やかで丸みを持つ | 内面 回転ナデ、底面回転ナデ 後ユビナデ 外面 回転ナデ、底面糸切り後ナデ | B区 I-7 P-16 |
| 38 | 土鍋 | (30.6) | — | — | 角閃石・長石、赤褐色 | 口縁端部は短く外反 | 内外面 ヨコナデ後ユビオサエ | B区 I-7 P-16 |

第107図 建物159

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|------|---------|----|----|--------|--------------|--------------------------------------|------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 39 | 土師器椀 | (13.6) | — | — | 石英、黄白色 | 口縁部は短く外方に折れる | 内面 縦・横二方向のミガキ 外面 回転ナデ後ミガキ、横方向のミガキ | B区 I-6 P-8 |

第110図 建物160

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|------|---------|-------|-----|---------|------------|-------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 40 | 土師器椀 | (16.2) | (6.1) | 5.2 | 暗褐色～黒褐色 | 断面方形の高台を付す | 内外面 ミガキ 外底部糸切り | |

第111図 建物162

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-----|---------|-----------|---------|--|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 41 | 土師質土器小皿 | 10.3 | 7.4 | 1.2~1.3 | 角閃石・長石、褐色 | 底部中央に穿孔 | 内面 回転ナデ、底面不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、板状圧痕 | B区 J-4 P-11 |

第114図 井戸1

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|--------|---------|-------|-----|---------------------------------|----------|---|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 42 | 土師質土器坏 | (14.4) | (8.2) | 3.2 | 金雲母・角閃石・長石・赤色粒子、赤褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、底面横方向ナデ 外面 回転ナデ、底面糸切り | A区 井戸1 |
| 43 | 白磁皿 | — | (2.9) | — | 淡青灰色 白色釉 | 高台量付部は無釉 | 内面 回転ナデ、底面不定方向ナデ 外面 回転ナデ、口縁面取り、底面糸切り | A区 井戸1 |
| 44 | 瓦質土器 | — | — | — | 金雲母・角閃石・長石、 (内)暗灰色 (外)淡褐色 | 高台部はり付け | 内面 ミガキ？ 外面 ヨコナデ、高台貼り付け | A区 井戸1 |

第117図 井戸2

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|--------|---------|----|----|------------------------|---------------|---------------------------|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 45 | 瓦器椀 | — | — | — | 金雲母・長石、 暗灰色 | — | 内外面 ヨコナデ | A区 井戸2 |
| 46 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石・長石・赤色粒子、 黄褐色 | — | 外面 ヨコナデ、粘土帯貼り付け、 スタンプ文 | A区 井戸2 |
| 47 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・赤色粒子・長石・雲母、 淡褐色 | 口縁端部を外方につまみ出す | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、オサエ、ナデ | A区 井戸2 |

第121図 地下式土壇1

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-------|------|------------------------------|-----------------|-----------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 49 | 土師器土器小皿 | (7.0) | (5.4) | 1.25 | 角閃石・赤色粒子・金雲母、 橙～ピンク(二次焼成) | 体部の立ちあがりには丸みをもつ | 内外面 回転ナデ？ 底部糸切り | 地下式 土壇1 |
| 50 | 瓦器椀 | — | (5.6) | — | 角閃石、 灰色 | 低い高台が付される | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | 地下式 土壇1 |
| 51 | 瓦器椀 | — | — | — | 角閃石・長石・金雲母、 灰色 | — | 外面 回転ナデ 重ね積み焼成痕あり。口縁内外 部黒色。 | 地下式 土壇1 |
| 52 | 青磁碗 | — | — | — | くすんだ緑色 | — | 片切彫り縞連弁文 | 地下式 土壇1 |

第123図 地下式土壇2

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-----------|---------|-------|---------------|------------------------------------|-----------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 53 | 土師質土器小皿 | (10.0) | (6.6) | 1.7 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色 | 体部の立ちあがり緩やか | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底面糸切り | 地下式 土壇2 |
| 54 | 土師器椀 | — | — | — | 角閃石・石英、 白っぽい褐色 | 口縁部わずかに外反 | 内外面 ヨコナデ | 地下式 土壇2 |
| 55 | 瓦器椀 | — | (6.8) | — | 砂粒・角閃石・金雲母・長石、 (内)黒灰色 (外)灰褐色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底面糸切り | 地下式 土壇2 |
| 56 | 瓦器小皿(桶葉型) | (9.8) | (7.0) | 1.6 | 砂粒・長石・角閃石、 灰白色、暗灰色 | 体部の立ちあがり部は丸みを持つ | 内面 回転ヨコナデ、ナメ、ヨコ のヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、ヨコヘラミガ キ | 地下式 土壇2 |
| 57 | 土鍋 | — | — | — | 砂粒・角閃石・長石、 明褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 ヨコハケメ 外面 ナデ | 地下式 土壇2 |
| 58 | 土鍋 | — | — | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 暗灰色・灰白色 | 体部下半に格子目タタキ | 内面 ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、格子目タ タキ | 地下式 土壇2 |
| 59 | 備前焼擂鉢 | 27.5 | 15.0 | 11.7～ 12.9 | 赤褐色 | 口縁端部上面は内傾する | 内面 ヨコナデ、 摺目9本単位×10カ所 外面 ヨコナデ、底部ナデ | 地下式 土壇2 |

第126図 地下式土壇3

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-----|-----|--|---------------|-----------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 60 | 土師質土器小皿 | 8.5 | 5.2 | 1.6 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 金雲母・白色粒子・石英、 明褐色 | 体部上半はわずかに外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底面糸切り | 地下式 土壇3 |
| 61 | 土師器椀 | — | — | — | 角閃石・赤色粒子、 黄白色 | 口縁部外反 | 内面 ミガキ、ヨコナデ 外面 ミガキ、ヨコナデ | 地下式 土壇3 |
| 62 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 濃いオレンジ色(二次焼成) | 口縁端部内側が三角形に肥厚 | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ | 地下式 土壇3 |

第129図 地下式土壇4

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------|---------|--------|----|-----------------------------------|-----------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 63 | 土師器椀 | — | — | — | 黄白色、 | 口縁部緩やかに外反 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ | 地下式 土壇4 |
| 64 | 土師器椀 | — | — | — | 石英・金雲母・長石、 黄白色 | 口縁部緩やかに外反 | 内面 横方向ミガキ 外面 横方向ミガキ、ヨコナデ | 地下式 土壇4 |
| 65 | 瓦器椀 | — | (5.9) | — | 石英、 淡褐色 | 断面方形の高台が付される | 内面 ミガキ？ 外面 ミガキ、ナデ、高台貼り付 け・面取り | 地下式 土壇4 |
| 66 | 瓦質土器鉢 | — | (12.6) | — | 石英・角閃石、 黄褐色 | 断面長方形の高台が付される | 内面 ナデ 外面 ナデ、高台貼り付け・面取 り | 地下式 土壇4 |
| 67 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | — | 口縁は直立し、端部は丸みを持つ | 摺目単位4本以上 内外面 ヨコナデ | 地下式 土壇4 |
| 68 | 備前焼擂鉢 | — | (13.4) | — | — | — | 摺目単位8本以上 内外面 ヨコナデ 底部ナデ | 地下式 土壇4 |
| 69 | 常滑焼甕 | (38.4) | — | — | 砂粒、 赤褐色の上から灰色がかかった 緑の釉がかかる。 | 口縁部大きく外反 | 内面 ヨコナデ、ユビナデ 外面 ヨコナデ、ナデ 外面から内面口縁部に緑色の 自然釉がかかる | 地下式 土壇4 |

第132図 土壇墓1

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|--------|---------|-----|-----|-----------------------------|---------------|--------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 70 | 土師質土器坏 | 14.7 | 8.5 | 4.1 | 角閃石・長石、 淡黄褐色 | 体部は内湾気味 | 内面 回転指ナデ 外面 指ナデ、底部糸切り | A区 1号土壇墓 |
| 71 | 内黒土器椀 | 16.9 | 6.8 | 6.0 | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)淡黄褐色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内外面 ミガキ | A区 1号土壇墓 |

第138図 土壙墓5

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|--------|---------|-------|-----|-------------------------------------|-------------------|-----------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 73 | 土師質土器杯 | (15.7) | (6.2) | 2.8 | 茶色粒子・長石・角閃石、 (内)薄い灰色 (外)薄い赤褐色 | 体部内湾気味で、口縁部わずかに外反 | 内面 回転指ナデ 外面 回転指ナデ、底部糸切り? | A区 5号土壙墓 |
| 74 | 瓦質土器鉢 | — | — | — | 長石、 黒色 | 外面口縁下に沈線とスタンプ文 | 内面 回転指ナデ 外面 ミガキ | A区 5号土壙墓 |

第140図 土壙墓6

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|-------|---------|----|----|--------------------------|----------|-------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 75 | 瓦質土器鉢 | — | — | — | 長石・石英、 灰褐色 | 口縁部外面が肥厚 | 内面 細かいヨコナデ 外面 ヨコナデ、へうでヨコナデ | A区 6号土壙墓 |
| 76 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | (内)黒褐色 (外)暗褐色 | — | 内面 回転指ナデ 外面 ミガキ | A区 6号土壙墓 |
| 77 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | 長石、 (内)赤褐色 (外)暗灰褐色 | — | 内外面 回転ナデ | A区 6号土壙墓 |

第142図 土壙墓7

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|--------|---------|-------|-----|----------------|-------------------|-----------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 78 | 土師質土器杯 | (12.9) | (7.2) | 2.6 | 長石・石英、 淡黄褐色 | 体部下半が丸みをもち、口縁やや外反 | 内外面 回転状ナデ | A区 7号土壙墓 |

第144図 土壙墓8

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|----|---------|---------|-------|-----|----------------------------------|--------------|-----------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 79 | 土師質土器小皿 | 10.0 | 6.8 | 2.0 | 角閃石・長石・黒色石粒、 淡褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 回転指ナデ 底部回転へう切り | A区 8号土壙墓 |
| 80 | 土師質土器小皿 | 10.1 | 7.4 | 2.2 | 長石・石英・赤色粒子、 黄褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 指ナデ 底面回転へう切り | A区 8号土壙墓 |
| 81 | 土師質土器小皿 | 9.4 | 6.7 | 1.8 | 長石・角閃石・砂粒、 淡黄褐色 (外側が一部橙褐色) | 体部内湾気味 | 内外面 指ナデ 底面回転へう切り | A区 8号土壙墓 |
| 82 | 土師質土器小皿 | 10.1 | 8.0 | 1.8 | 角閃石・長石・石英、 暗黄褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 指ナデ 底面回転へう切り | A区 8号土壙墓 |
| 83 | 土師質土器小皿 | (10.4) | (7.5) | 1.6 | 長石・石英、 (内)黄灰色 (外)黒灰色 | 体部内湾気味 | 内外面 ヨコナデ 底面回転へう切り | A区 8号土壙墓 |
| 84 | 土師質土器椀 | 16.2 | 7.1 | 5.7 | 長石・砂粒・赤色粒子、 白色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、回転ユビナデ、 底部糸切り | A区 8号土壙墓 |

第154図 土壙墓12

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|---------|---------|-----|-----|------------------------|-----------------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 122 | 土師質土器杯 | 16.8 | 8.4 | 4.5 | 角閃石・長石・石英・赤色粒子、 黄褐色 | 体部の立ちあがりは緩やかで、斜方向にのびる | 内面 回転ナデの後不定方向の ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 12号墓 |
| 123 | 土師質土器小皿 | (9.3) | 6.7 | 1.8 | 角閃石・赤色粒子、 黄褐色 | 体部の立ちあがりは丸みをもち緩やか | 内外面 回転ナデ 底面回転へう切り | A区 12号墓 |
| 124 | 土師器椀 | 15.4 | 7.4 | 5.4 | 角閃石・長石・赤色粒子、 灰色・灰白色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内外面 ナデ(摩滅のためミガキ 不明) 高台貼り付け後ヨコナデ、底面 切離し後ユビナデ | A区 12号墓 |

第156図 土壙墓13

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|-----|---------|----------------------------|--------------------|---|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 129 | 内黒土器椀 | 14.8 | 6.5 | 6.0~6.1 | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)黄褐色 | 断面長方形の高台を外開きにはり付ける | 内面 ナデ後タテナデ、ミガキ 外面 回転ナデ後横方向のミガキ、 高台貼り付け後ヨコナデ、 底部糸切り | A区 13号墓 |

第159図 土壙墓14

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-----|---------|------------|-------|---------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 130 | 青磁碗 | 16.2 | 5.5 | 6.6~6.9 | 緑色の釉 | — | 内面 片切りの蓮華文、貫入あり 外面 施釉、底部削り出し、露胎 | A区 14号墓 |
| 131 | 青白磁合子蓋 | 6.6 | — | 2.0 | 緑がかかった乳白色釉 | — | 内面 露胎、一部施釉 外面 施釉、貫入あり | A区 14号墓 |
| | 青白磁合子身 | 5.5 | 4.4 | 2.5 | 緑がかかった乳白色釉 | — | 内面 露胎、 外面 上部施釉、下半露胎、胴部 タテに細かい線刻 | A区 14号墓 |

第164図 土壙墓16

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|-------------|-----------|-----------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 142 | 内黒土器椀 | — | — | — | 角閃石、 黄褐色 | 口縁部わずかに外反 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ナメ方向のナデ、 ヨコナデ | A区 16号墓 |

第166図 土壙墓17

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|---------|---------|-------|-----|--------------|--------------------|-----------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 143 | 土師質土器小皿 | (7.8) | (5.8) | 1.3 | 角閃石、 暗赤褐色 | 体部の立ちあがりは急で、体部内湾気味 | 内面 ナデ、回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 17号墓 |

第168図 土壙墓18

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|---------|---------|-------|-----|------------|-----------------|-------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 144 | 土師質土器小皿 | (8.4) | (7.4) | 1.5 | 長石、 黄褐色 | 体部は直立気味に立ち上がる | 内外面 ヨコナデ 底部糸切り | A区 18号墓 |
| 145 | 土師質土器小皿 | — | — | — | 角閃石 黄褐色 | 体部の立ちあがり部は丸みをもち | 内外面 ヨコナデ 底部糸切り | A区 18号墓 |

第173図 土壙墓20

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-----|-----|---------------------|--------|-------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 150 | 土師質土器杯 | 13.7 | 7.5 | 3.9 | 角閃石・長石・金雲母、 淡黄褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 20号墓 |

| | | | | | | | | |
|-----|-------------|------|-------|---------|-----------------|-----------------|--|------------|
| 151 | 土師質土器杯 | 14.2 | 7.5 | 3.8~4.3 | 角閃石・長石 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 20号墓 |
| 152 | 土師質土器 小皿 | 8.0 | 6.4 | 1.6 | 長石、 橙褐色 | 体部は急な立ちあがり | 内面 回転ナデ後ユビナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 20号墓 |
| 153 | 土師質土器 小皿 | 7.8 | 6.3 | 1.0 | 長石、 橙褐色 | 体部は急な立ちあがり | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 20号墓 |
| 154 | 土師質土器 小皿 | 8.2 | 6.2 | 1.3 | 長石、 橙褐色 | 体部は急な立ちあがり | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 20号墓 |
| 155 | 土師質土器 小皿 | 8.2 | 6.6 | 1.1 | 長石・石英、 橙褐色 | 体部は急な立ちあがり | 内面 回転ナデ後ユビナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 20号墓 |
| 156 | 土師質土器 小皿 | 9.1 | 6.8 | 1.5~1.7 | 角閃石・長石、 淡黄褐色 | 体部は急な立ちあがり | 内外面 ヨコナデ 底部糸切り | A区 20号墓 |
| 157 | 瓦器椀 | - | (7.6) | - | 石英、 灰白色 | 断面三角形の低い高台が付される | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、高台貼り付け、底 部糸切り、ロクロ痕 | A区 20号墓 |

第177図 土壙墓21

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|-------------------|-----------|-----------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 199 | 土師質土器杯 | (15.4) | - | - | 長石、 暗橙褐色 | - | 内外面 回転ナデ | A区 21号墓 |
| 200 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (6.0) | 1.1 | 角閃石・長石、 暗橙褐色 | 体部は直立気味 | 内外面 ナデ 底部糸切り | A区 21号墓 |
| 201 | 瓦器椀 | (15.4) | - | - | 角閃石・長石、 灰色・灰白色 | 口縁部に重ね焼き痕 | 内外面 ヨコナデ | A区 21号墓 |

第181図 土壙墓23

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|--------|-----|-----------------------------|--------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 203 | 土師質土器杯 | (18.0) | (10.7) | 3.0 | 石英・赤色粒子・金雲母、 淡橙褐色 | 体部の立ちあがりは緩やかで体部は 内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部回転糸 切り | B区 1号土壙墓 |
| 204 | 土師質土器杯 | (17.4) | (8.0) | 3.4 | 長石・赤色粒子・角閃石・金雲 母、 橙褐色 | 203と同様な器形を呈する | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、板状圧痕、 底部回転糸切り | B区 1号土壙墓 |
| 205 | 土師質土器 小皿 | (9.6) | (6.2) | 1.2 | 長石・赤色粒子・角閃石・金雲 母、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後一部板状圧痕 | B区 1号土壙墓 |
| 206 | 内黒土器椀 | (16.2) | - | - | 赤色粒子、 (内)黒色 (外)薄い橙褐色 | 口縁部やや外反気味 | 内面 ミガキ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | B区 1号土壙墓 |

第185図 土壙墓25

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------------|---------|---------|-------------------------------|---------------|----------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 208 | 土師質土器杯 | 12.2~ 12.8 | 6.6 | 3.4 | 角閃石・石英・金雲母・赤色粒 子、 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | B区 3号土壙墓 |
| 209 | 土師質土器杯 | 12.5~ 12.7 | 6.0~6.2 | 3.6~4.0 | 角閃石・石英・赤色粒子、 淡橙褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | B区 3号土壙墓 |
| 210 | 土師質土器 小皿 | 7.5~8.0 | 5.2 | 1.2~1.5 | 角閃石・石英・白色粒子・赤色 粒子、 淡橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | B区 3号土壙墓 |
| 211 | 土師質土器 小皿 | 7.4~7.6 | 1.4~1.6 | 5.5 | 角閃石・石英・金雲母、 淡橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | B区 3号土壙墓 |
| 212 | 土師質土器 小皿 | 7.5~7.8 | 1.3~1.6 | 5.6 | 角閃石・金雲母・石英・白色粒 子、 淡橙褐色 | 体部は直立気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 3号土壙墓 |
| 213 | 土師質土器 小皿 | 7.2~7.8 | 1.0~1.2 | 5.5 | 角閃石・石英・金雲母・白色粒 子、 淡橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | B区 3号土壙墓 |
| 214 | 瓦器椀 | - | (5.4) | - | 金雲母・角閃石、 灰色かかった白 | 断面三角形の高台が付される | 内面 ミガキ 底部糸切り | B区 3号土壙墓 |

第188図 土壙墓26

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-----|---------|----------------------|------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 216 | 土師質土器杯 | 13.2 | 8.6 | 3.4 | 角閃石・長石・赤色粒子、 淡橙褐色 | 体部は直線的にのびる | 内外面 回転ナデ 底部糸切り、ロクロ成形 | B区 4号土壙墓 |
| 217 | 土師質土器杯 | 13.4 | 9.3 | 3.6~4.0 | 角閃石・長石・石英、 淡黄褐色 | 体部の立ちあがりは丸みをもつ | 内外面 回転ナデ 底部糸切り、板状圧痕 | B区 4号土壙墓 |
| 218 | 土師質土器 小皿 | 7.6 | 6.4 | 0.9 | 角閃石・長石・赤色粒子、 橙褐色 | 短い体部が緩やかに立ちあがる | 内面 回転ナデ後一方向のユビ ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後へ ラ状のものでナデ | B区 4号土壙墓 |
| 219 | 土師質土器 小皿 | 8.4 | 6.3 | 1.6 | 角閃石、 橙褐色 | 器高がやや高く、体部は直線的にの びる | 内面 回転ナデ後一方向のユビ ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 4号土壙墓 |
| 220 | 土師質土器 小皿 | 8.4 | 5.7 | 1.7 | 角閃石、 淡橙褐色 | 底部切り離しを失敗した痕跡あり | 内面 回転ナデ後ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、板 状圧痕 | B区 4号土壙墓 |

第192図 周溝墓1

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|--------|---------|------------------------------|--------------------------|------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 222 | 土師質土器杯 | 16.2 | 3.7 | 3.7~4.1 | 角閃石・石英、 淡黄褐色 | 体部は内湾気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底面糸切り | B区 5号土壙墓 |
| 223 | 土師質土器杯 | (16.6) | 9.1 | 3.8 | 角閃石、 淡橙褐色 | 体部は内湾気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底面糸切り | B区 5号土壙墓 |
| 224 | 土師質土器杯 | (17.0) | (10.2) | 3.3 | 角閃石、 (内)橙褐色 (外)薄い黄褐色 | 器高がやや低く、体部は緩やかに立 ち上がる | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ナデ、底面糸切り | B区 5号土壙墓 |
| 225 | 土師質土器杯 | (15.8) | - | - | 角閃石・赤色粒子、 橙褐色 | - | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ナデ | B区 5号土壙墓 |
| 226 | 土師質土器 小皿 | (8.8) | (6.4) | 1.6 | 角閃石・長石、 (内)濃い橙褐色 (外)黄色 | 体部の立ちあがりは緩やかで直立気 味 | 内外面 回転ユビナデ 底部へラ切り後ナデ | B区 5号土壙墓 |
| 227 | 土師質土器 小皿 | 8.0 | 5.9 | 1.4 | 角閃石、 赤褐色 | 226と同様な器形 | 内外面 ヨコナデ 底部へラ切り後ナデ | B区 5号土壙墓 |
| 228 | 土師質土器 小皿 | 7.9 | 5.8 | 1.4 | 角閃石、 薄い黄褐色 | 226と同様な器形 | 内外面 回転ユビナデ 底部へラ切り | B区 5号土壙墓 |
| 229 | 土師質土器 小皿 | 2.4 | 6.2 | 1.3 | 角閃石・赤色粒子・石英、 橙褐色 | 226と同様な器形 | 内外面 回転ユビナデ 底部へラ切り | B区 5号土壙墓 |

| | | | | | | | | |
|-----|-------------|-------|------|---------|------------------------------------|---------------------|---|-------------|
| 230 | 土師質土器 小皿 | 8.6 | 6.4 | 1.6~1.9 | 角閃石・赤色粒子・石英、 (内)薄い橙褐色 (外)橙褐色 | 他に比べやや器高が高い | 内外面 回転ユビナデ 底部へう切り | B区 5号土壌墓 |
| 231 | 土師質土器 小皿 | 8.9 | 6.4 | 1.7 | 赤色粒子・角閃石、 橙褐色 | 226と同様な器形 | 内外面 回転ユビナデ 底部へう切り | B区 5号土壌墓 |
| 232 | 土師質土器 小皿 | 8.3 | 6.3 | 1.7 | 赤色粒子・角閃石・石英、 橙褐色 | 226と同様な器形 | 内外面 回転ユビナデ 底部へう切り | B区 5号土壌墓 |
| 233 | 土師質土器 小皿 | 8.5 | 5.9 | 1.6 | 赤色粒子・角閃石、 橙褐色 | 226と同様な器形 | 内外面 回転ユビナデ 底部へう切り | B区 5号土壌墓 |
| 234 | 土師質土器 小皿 | 2.4 | 6.2 | 1.5 | 角閃石・赤色粒子、 橙褐色 | 226と同様な器形 | 内外面 回転ユビナデ 底部へう切り | B区 5号土壌墓 |
| 235 | 土師質土器 小皿 | 8.8 | 5.9 | 1.5 | 角閃石・金雲母、 赤褐色 (底部)黒色 | 体部の立ちあがりは緩やかで内湾気味 | 内外面 回転ユビナデ 底部へう切り | B区 5号土壌墓 |
| 236 | 土師器壺 | (9.8) | 10.6 | 18.0 | 角閃石・石英、 (内)薄い赤褐色 (外)橙褐色 | 口縁部は頸部から緩やかに開き、尖り気味 | 内面 回転ユビナデ、底部は不定方向のナデ 外面 回転ユビナデ、底部へう切り後ナデ | B区 5号土壌墓 |

第197図 壺棺1

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|---------------------------------|------------------------------|--|--------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 238 | 土師器甕 | 47.0 | — | — | 角閃石・長石・石英・砂粒・赤色粒子・白色粒子・黒色粒子、黄褐色 | 口縁外面が肥厚し口縁帯を形成、長胴気味で、底部を打ち欠く | 内面 口縁部は横方向のユビナデ、胴部上部ユビナデ、中部・横方向のナデ、下部ナデ 外面 ナデ、口縁部ココナデ積み上げ | A区 9・10号墓 |

第198図 壺棺1出土

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|----|-----------------------------|--------------|-----------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 239 | 土師質土器 小皿 | — | (4.8) | — | 角閃石・長石、 暗黄褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 ナデ 外面 ナデ、板状圧痕、底部糸切り | A区 9号土壌墓 |
| 240 | 内黒土器椀 | — | — | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)淡黄褐色 | 口縁部わずかに外反 | 内面 ミガキ、ココナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | A区 9号土壌墓 |
| 241 | 製塩土器 | — | — | — | 角閃石・長石・石英、 淡橙褐色 | — | 内面 布目 外面 ナデ | A区 9号土壌墓 |

第200図 壺棺1・壺棺2周辺出土

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|-----------|------------|-------------|----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 243 | 白磁 | (6.8) | — | — | 黄色っぽい乳白色釉 | 口縁部緩やかに外反 | 内外面 施釉、貫入あり | 9・10号墓周辺 |
| 244 | 備前焼甕 | — | — | — | 赤褐色 | 口縁部玉縁状を呈する | 内外面 ヨコナデ | 9・10号墓一括 |

第201図 壺棺2

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|------|------|--------------------------|----------------|-----------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 245 | 土師器甕 | 55.5 | 28.5 | 75.0 | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 鈍い黄褐色 | 口縁外面が肥厚し口縁帯を形成 | ナデ、ユビオサエ 輪積み | 9・10号墓 |

第204図 壺棺3周辺出土

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|------------|------------------------|------------------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 247 | 瓦質土器甕 | (41.0) | — | — | 石英、 淡灰色 | 口縁部くの字状に折れ、端部を上方に引きあげる | 内面 ハケ目をナデ消し、細かい横方向のナデ 外面 細かいハケ目 | 11号墓周辺 |

第205図 壺棺3

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|------|------|-----------------------------|-----------------------|----------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 248 | 土師器甕 | 67.0 | 25.5 | 73.8 | 砂粒・角閃石・長石・石英・白色粒子、 鈍い橙褐色 | 口縁部肥厚、胴下半に屈曲部、肩部にへう描き | ナデ、板ナデ | 11号墓 |

第208図 竪穴1

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|----------------------------------|----------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 250 | 土師質土器 小皿 | (9.2) | (6.8) | 1.3 | 金雲母・長石、 淡橙褐色 | 体部は緩やかに立ち上がる | 内面 不定方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底面糸切り 後板状圧痕 | A区 1号竪穴 |
| 251 | 内黒土器椀 | — | (6.0) | — | 角閃石・長石、 (内)黒 (外)かなり白っぽい橙褐色 | 断面三角形の高台を貼り付ける | 内面 ミガキ 外面 回転ナデ、ユビナデ | A区 1号竪穴 |
| 252 | 瓦器椀 | — | (6.6) | — | 長石 灰白色 | 低い高台を貼り付ける | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、ココナデ、ナデ | A区 1号竪穴 |
| 253 | 白磁碗 | — | (6.0) | — | 灰色っぽい釉 | — | 内面 施釉 外面 胴部施釉(一部かからないところがある)、底部~高台露胎、 高台削り出し | A区 1号竪穴 |
| 254 | 備前焼播鉢 | — | — | — | 長石 赤褐色 | 摺目は7本単位 | 外面 ナデ、ココナデ | A区 1号竪穴 |

第210図 竪穴2

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|--------|-----|------------------------|--------------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 255 | 土師質土器杯 | (13.2) | (8.0) | 3.2 | 長石・石英、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは緩やかで内湾気味 | 内外面 回転ナデ 底面糸切り | B区 1号竪穴 |
| 256 | 土師質土器杯 | 14.8 | 9.0 | 3.2 | 角閃石・長石・石英、 橙褐色 | 体部は斜方向にのび、口縁外反気味 | 内外面 回転ナデ 底面糸切り | B区 1号竪穴 |
| 257 | 土師質土器杯 | (14.6) | (11.0) | 3.3 | 角閃石・長石・石英・赤色粒子、 橙褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ナデ 底面糸切り | B区 1号竪穴 |
| 258 | 土師質土器 小皿 | (8.4) | (6.5) | 1.3 | 角閃石・長石・石英、 淡橙褐色 | 体部の立ちあがりは急で斜方向にのびる | 内外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 1号竪穴 |
| 259 | 瓦器椀 | (15.4) | 7.2 | 5.1 | 長石、 黒色 | 口縁外面に重ね焼き痕 底部平底 | 内面 回転ナデ、回転ナデ後一方 方向のユビナデ 外面 回転ナデ 底面糸切り | B区 1号竪穴 |

| | | | | | | | | |
|-----|-----|--------|-------|-----|--|--------------------|---|------------|
| 260 | 瓦器椀 | (15.6) | 7.0 | 5.9 | 長石・石英、 淡灰白色 | 口縁外面に重ね焼き痕 底部平底 | 内面 回転ナデ、回転ナデ後一 方向のユビナデ 外面 回転ナデ 底面糸切り | B区 1号竪穴 |
| 261 | 瓦器椀 | (16.6) | — | — | 角閃石・石英・長石、 (内)灰色・灰白色・暗灰色 (外)暗灰色・灰白色・灰色 | 口縁外面に重ね焼き痕 | 内外面 回転ナデ | B区 1号竪穴 |
| 262 | 瓦器椀 | (15.2) | — | — | (内)暗灰色・灰白色 (外)灰白色・暗灰色・淡灰白色 | 口縁外面に重ね焼き痕 | 内外面 回転ナデ | B区 1号竪穴 |
| 263 | 瓦器椀 | — | 7.4 | — | 角閃石、 灰白色 | 底部平底 | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | B区 1号竪穴 |
| 264 | 瓦器椀 | — | 7.6 | — | 角閃石、 灰色 | 底部平底 | 内面 回転ナデ後一方向のナ デ、回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 1号竪穴 |
| 265 | 青磁碗 | (16.2) | (7.5) | — | うすい緑灰色 非常に薄い1mmないくらいの釉 | — | 内面に文様 内外面 施釉 | B区 1号竪穴 |
| 266 | 青磁碗 | — | 4.6 | — | 淡緑灰色 | — | 底部除き内外面施釉 蓮弁文 | B区 1号竪穴 |
| 267 | 青磁碗 | — | — | — | 黄緑色 非常に薄い1mmないくらいの釉 | — | 外面 蓮弁文 | B区 1号竪穴 |
| 268 | 土鍋 | (8.0) | — | — | 長石・角閃石・石英、 赤褐色 | 外面口縁下に突帯 | 内面 ナデ 外面 回転ナデ、ナデ、一部オサ エ、貼付け突帯 | B区 1号竪穴 |
| 269 | 土鍋 | — | — | — | 長石、 黒色 | 口縁はL字状に折れる | 内面 横方向のナデ、回転ナデ 外面 回転ナデ、ナデ | B区 1号竪穴 |

第212図 土壙1

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|-------------|----------------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 270 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (5.8) | 1.0 | 角閃石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは直立気味 底部中央に穿孔あり | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、底 部に穴が開いている。穴の径0.6 cm | A区 土壙1 |

第215図 土壙3

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|-------------|----------------|-------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 271 | 土師質土器 小皿 | (9.5) | (6.8) | 1.5 | 角閃石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは丸みをもつ | 内面 回転ナデ、底面ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙3 |
| 272 | 白磁鉢 | — | (5.4) | — | 黄色味をおびた白 | 高台が付く筒状の器形 | 外面 施釉、底部露胎 | A区 土壙3 |

第217図 土壙4

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|------------|---------|-------|-------|-----------------------------------|-----------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 273 | 瓦器椀 | (15.8) | (8.4) | 5.6 | 長石・金雲母、 (内)灰白色、灰色 (外)灰白色、灰色 | 低い高台が付される | 内面 回転ナデ、底面不定方向 のナデ 外面 回転ナデ | A区 土壙4 |
| 274 | 瓦器椀 | — | — | (5.6) | 長石・石英、 黄灰色 | 断面三角形の高台がはり付け | 内面 不定方向のミガキ 外面 回転ナデ、横方向のミガ キ、高台貼り付け後オサエ、底部 糸切り | A区 土壙4 |
| 275 | 瓦質土器 火鉢 | — | — | — | 角閃石・金雲母、 淡橙褐色 | 底部ちかくに突帯を1条貼り付け | 外面 突帯貼付け後ヨコナデ、ケ ズリ状の板ナデ | A区 土壙4 |
| 276 | 土鍋 | — | — | — | 長石・角閃石、 (内)黄褐色 (外)黒色 | 口縁にむかい直線的にのびる | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | A区 土壙4 |

第219図 土壙5

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|--------------------------|------------------------------|------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 277 | 火鉢 | — | — | — | 長石、 (内)橙褐色 (外)明橙褐色 | 口縁内側にわずかに肥厚 突帯間のスタンプ文は2種類 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、スタ ンプ文 | A区 土壙5 |

第221図 土壙6

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|-------|---------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 278 | 青花皿 | — | — | — | 青白色の釉 | 口縁は体部から外方へ折れる | 文様 青色で一筆描き、 釉薬0.5mm、貫入なし、 内面 界線4条、施釉 外面 界線3条、施釉 | A区 土壙6 |
| 279 | 瓦質土器壺 | (18.0) | — | — | 暗褐色 | 口縁部は短く直立 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙6 |

第224図 土壙8

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|------------|---------|----|----|--------------------------------|-------------|------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 280 | 青磁 | — | — | — | ややうすい緑色 | 上面観は多角形状をなす | 口縁部内面に沈線 | A区 土壙8 |
| 281 | 瓦質土器 擂鉢 | — | — | — | 石英、 黄色味をおびた灰白色 | — | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | A区 土壙8 |
| 282 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石、 (内)橙褐色 (外)黒褐色(すず付着) | 口縁部L字状に折れる | ヨコナデ | A区 土壙8 |

第228図 土壙10

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|----|----|-------|---------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 284 | 青磁椀花皿 | (11.4) | — | — | うすい緑色 | 体部下で屈曲し、大きく外反 | 内外面 施釉 貫入なし | A区 土壙10 |
| 285 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 灰白色 | — | 内面 回転ナデ 外面 ナデ、ユビオサエ、脚部板 状のものを貼り付け | A区 土壙10 |

第230図 土壙11

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|----|----|-----------------|-------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 291 | 青磁碗 | — | — | — | やや灰色をおびたうすい緑色 | 高台を欠く | 内外面 施釉 貫入あり | A区 土壙11 |
| 292 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 長石・角閃石、 暗橙褐色 | — | 内面 回転ナデ 外面 突帯貼付け、ヨコナデ、脚 部板状のものを貼り付け | A区 土壙11 |

| | | | | | | | | |
|-----|----|---|---|---|----------------------------------|-----------------------|-----------------------------|------------|
| 293 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石、 (内)黄灰色 (外)褐色(すず付着) | 口縁下にヨコナデが施され、口縁わずかに外反 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ナメ方向のケズリ | A区 土壌11 |
|-----|----|---|---|---|----------------------------------|-----------------------|-----------------------------|------------|

第232図 土壌12(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|--------|----|--|-----------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 294 | 青磁碗 | - | - | - | うすい緑色の釉 | 口縁部わずかに外反 | 貫入なし、軸厚0.5mm | A区 土壌12 |
| 295 | 土師質土器 擂鉢 | - | (14.2) | - | 角閃石・長石、 黄褐色 赤色(二次焼成)、すず付着 | 摺目は細かいへうにより施される | 内面 ナデ、摺目の単位4本 外面 ヨコナデ、ユビナデ、ユビオサエ、底部板状圧痕 | A区 土壌12 |
| 296 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石、 (内)暗黄褐色・暗褐色 (外)黒色(すず付着)・暗赤褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 ナデ 外面 板状工具によるナデ | A区 土壌12 |
| 297 | 土鍋 | (48.2) | - | - | 角閃石・長石 すず付着 | 体部から直線的に口縁部へのびる | 内面 ナデ 外面 オサエ、ナデ、横方向のケズリ、ヨコナデ | A区 土壌12 |

第233図 土壌12(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|--------|----|--------------|---------|------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 298 | 備前焼壺 | (33.0) | - | - | 長石・砂粒 赤褐色 | 口縁部は玉縁状 | 内面 横方向のユビナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ | A区 土壌12 |
| 299 | 備前焼壺 | (44.6) | - | - | 白っぽい赤褐色 | 口縁部は玉縁状 | 内面 ヨコナデ、横方向のユビナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、自然釉 | A区 土壌12 |
| 300 | 備前焼壺 | - | (31.0) | - | 赤褐色 | - | 内面 へら状工具痕 外面 縦方向のナデ | A区 土壌12 |

第237図 土壌13

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|-----|------------------------------|---------------|--------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 303 | 土師器椀 | - | (7.7) | - | 角閃石・長石、 黄褐色 | 高い高台が外開きに付される | 内面 回転ナデ 外面 ナデ、高台貼付け後回転ナデ | A区 土壌13 |
| 304 | 青磁碗 | - | - | - | うすい緑色 | - | 貫入あり 外面 蓮弁文 | A区 土壌13 |
| 305 | 瓦質土器土鍋 | - | - | 6.7 | 白色粒子・金雲母、 (内)灰白色 (外)黒色 | 口縁端部内側に肥厚 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ヨコナデ後縦方向のナデ | A区 土壌13 |

第240図 土壌14

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|------------|---------------|--------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 307 | 土師質土器杯 | - | (5.8) | - | 角閃石、 長石 | 体部の立ちあがりは急である | 内外面 回転ナデ 底部 糸切り | A区 土壌14 |

第242図 土壌15

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|-------------------------|----------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 308 | 土鍋 | - | - | - | (内)暗黄褐色 (外)黒褐色(すず付着) | 体部から直線的に口縁へいたる | 内面 ヨコナデ、横方向のハケ目 (1.5cm) 外面 縦方向のハケ目 | A区 土壌15 |
| 309 | 備前焼擂鉢 | - | - | - | 灰白色 | - | 内面 ヨコナデ、摺目単位7本以上 外面 ヨコナデ、一部縦方向のナデ | A区 土壌15 |

第247図 土壌16

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|------------------------------|-----------------------|---|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 315 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (6.0) | 2.8 | 長石、 赤褐色 | 体部直立気味 | 内面 不定方向ナデ、回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ? | A区 土壌16 |
| 316 | 須恵器 こね鉢 | - | - | - | 長石、 (内)灰色 (外)灰色、口縁に青灰色 | - | 内面 ユビナデ 外面 回転ナデ | A区 土壌16 |
| 317 | 須恵器 | - | - | - | 石英・金雲母、 (内)灰色 (外)暗灰～灰色 | 外面に突帯あり | 内面 当て具痕 外面 平行タタキ目、ヨコナデ | A区 土壌16 |
| 318 | 備前焼壺 | (14.8) | - | - | (内)橙色 (外)赤褐色、自然釉 | 口縁部短く立ちあがり、わずかに外方に折れる | 内面 回転ナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ、横描文、回転ナデの上から不定方向のナデ | A区 土壌16 |
| 319 | 備前焼 擂鉢 | - | - | - | - | - | 内面 ヨコナデ、摺目単位9本 外面 ヨコナデ、底部ナデ | A区 土壌16 |

第250図 土壌18

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-----|-----|------------------------------------|---------------------|--------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 320 | 土師質土器杯 | (12.2) | 5.8 | 4.0 | 長石・赤色粒子・角閃石、 淡橙褐色 | 器高が高く、体部の立ちあがりは急である | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壌18 |
| 321 | 青磁皿 | (13.8) | - | - | うす緑色 | 外面に蓮弁文、口縁は外方に折れる | 内外面 施釉、厚さ0.5mm | A区 土壌18 |
| 322 | 青磁碗 | (15.0) | - | - | 灰色をおびた緑色 | - | 外面に横描き | A区 土壌18 |
| 323 | 土師器こね鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 (内)淡黄褐色 (外)赤褐色(二次焼成) | - | 内外面 横方向のユビナデ、ユビオサエあり | A区 土壌18 |
| 324 | 瓦質土器壺 | - | - | - | 石英・赤色粒子・長石、 黒色 | - | 内面 ハケ目、板ナデ? 外面 ヨコナデ | A区 土壌18 |

第252図 土壌19

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|-----|----------------------------------|---------------------|----------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 325 | 土師質土器杯 | (12.4) | (5.4) | 3.9 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・ 白色粒子、 淡赤褐色 | 器高が高く、体部の立ちあがりは急である | 内面 ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壌19 |
| 326 | 須恵器こね鉢 | - | - | - | 砂粒、 灰色 | - | 内面 ヨコナデ、回転ユビナデ 外面 ヨコナデ、回転ユビナデ | A区 土壌19 |
| 327 | 白磁碗 | (13.6) | - | - | 白色の透明釉、光沢あり | 口縁部玉縁状 | 内外面 施釉 | A区 土壌19 |
| 328 | 白磁碗 | (13.6) | - | - | 灰白色の透明釉、光沢あり | 口縁部玉縁状 | 内外面 施釉 | A区 土壌19 |

第254図 土壙20

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------------|---------|-------|-----|-------------------------------------|--------------|---|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 329 | 土師質土器杯 | — | 5.1 | — | 角閃石・長石、 (内)橙褐色(被熱) (外)橙褐色(被熱) | 体部の立ちあがりは急 | 内外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 土壙20 |
| 330 | 土師器椀 | (15.0) | — | — | 長石、 橙褐色 | — | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、ミガキ | A区 土壙20 |
| 331 | 土師器椀 | — | — | — | 石英・金雲母・赤色粒子、 淡橙褐色 | 底部中央に穿孔あり | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ヨコナデ 底部に穿孔(焼成後?) | A区 土壙20 |
| 332 | 内黒土器椀 | — | (7.8) | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)黄褐色 | 断面方形の高台が付される | 内面 ユビオサエ 外面 ミガキ、ヨコナデ、板状圧痕 | A区 土壙20 |
| 333 | 青花皿 | (10.0) | (3.2) | 2.6 | 青色をおびた白色釉 | 底部は基筒底 | 内面 花鳥文 外面 波濤文帯、芭蕉葉帯 貫入あり 文様は全て紺色で一筆描 | A区 土壙20 |
| 334 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 石英 (内)黒色 (外)黄褐色をおびた灰白色 | 脚が付される | 内面 ハケ状 外面 横方向のナデ、ナデ | A区 土壙20 |
| 335 | 須恵器 こね鉢 | (29.0) | — | — | 長石、 灰色、口縁部は青灰色 | 口縁外面が肥厚 | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、不定方向のナデ | A区 土壙20 |

第257図 土壙22

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|----------------------------------|-----------|---------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 336 | 土師質土器 小皿 | (9.8) | (7.5) | 1.3 | 長石・角閃石・赤色粒子、 (内)黒褐色 (外)暗褐色 | 体部は短く直立気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部不定方向のナデ 外面 回転横ナデ、底部糸切り | A区 土壙22 |
| 337 | 白磁碗 | — | (7.2) | — | 黄色っぽい灰白色の釉 | — | 内面 施釉 外面 施釉、底部露胎、高台ケズリ出し | A区 土壙22 |

第259図 土壙23

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|-----------------------------|-----------|--------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 338 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 (内)黄褐色 (外)黒褐色 | 口縁部外方に折れる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 土壙23 |

第261図 土壙24

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|----|----|----------------------------|------------|-------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 339 | 瓦質土器土鍋 | (26.4) | — | — | 長石・金雲母、 (内)灰色 (外)暗灰色 | 口縁部内側がやや肥厚 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙24 |
| 340 | 土師器土鍋 | (34.0) | — | — | — | 口縁部やや内傾気味 | 内面 横方向のナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ミガキ | A区 土壙24 |

第264図 土壙26

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------------|---------|----|----|--------------------|-------------|-------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 341 | 青花皿 | (10.0) | — | — | やや黄色味がかかった釉 | 底部は基筒底と思われる | 外面 波濤文帯、芭蕉葉文やや 薄い青色で一筆描き 貫入あり | A区 土壙26 |
| 342 | 瓦質土器 搦鉢 | — | — | — | 石英、 黄色味がかかった灰白色 | — | 外面 タタキ目 摺目の単位は7本 | A区 土壙26 |
| 343 | 備前焼搦鉢 | — | — | — | — | — | 外面 ヨコナデ、底部ナデ 摺目の単位は10本~10本以上 | A区 土壙26 |
| 344 | 須恵器甕 | — | — | — | — | — | 内面 タタキ 外面 平行タタキ | A区 土壙26 |

第267図 土壙27

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|----|----|------------|-------|-----------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 346 | 白磁碗 | — | — | — | 灰色がかかった白の釉 | — | 内面 施釉 外面 施釉、下半露胎 貫入あり | A区 土壙27 |

第271図 土壙29

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|------------------------|------------|--------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 348 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 暗褐色(外面すず付着) | 口縁部は外方に折れる | 内面 横方向のナデ 外面 ナデ | A区 土壙29 |

第272図 土壙30

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|----|-------|----------|--------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 349 | 青花碗 | — | (4.5) | — | 透明の釉 | 底部蓮子碗タイプ | 内面 文様不明 外面 蕉風葉文、界線2条 濃い青色で一筆描き | A区 土壙30 |

第274図 土壙31

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|--------|-----|----------------------------|---------------|------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 350 | 土師質土器杯 | (10.0) | (7.8) | — | 淡橙褐色 | 体部の立ちあがり緩やか | 内面 ナデ、ヨコナデ後へラミガキ 外面 ヨコナデ、底部板状圧痕 | A区 土壙31 |
| 351 | 土師質土器 小皿 | (9.4) | (5.6) | 1.8 | 金雲母、 橙褐色 | 体部は直立気味 | 内外面 回転ナデ | A区 土壙31 |
| 352 | 土師器 | — | (13.4) | — | 角閃石・斜長石、 暗橙褐色 | 体部は直立気味 | 内面 回転ナデ、底面ロウ痕残る 外面 ヨコナデ、底面糸切り | A区 土壙31 |
| 353 | 茶釜 | — | (13.6) | — | 角閃石・斜長石、 暗褐色 | 口縁部は短く直立 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙31 |
| 354 | 茶釜 | — | — | — | 灰色粒子・茶色粒子、 黒灰色、灰色、鈍い橙褐色 | 肩部に把手、体部中程に突帯 | 内面 ユビオサエ、ナデ 外面 ヨコナデ、一糸三角突帯 | A区 土壙31 |

第277図 土壙32

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|--------------|-----------|-------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 356 | 土師質土器 小皿 | (6.8) | (6.2) | 1.1 | 角閃石、 暗黄褐色 | 体部は短く直立する | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 土壙33 |

| | | | | | | | | |
|-----|------|----------|-----------|---------------|----------------------|---|------------------------------|------------|
| 357 | 瓦質土器 | 幅 8.8 | 長さ 8.8 | 厚み 0.8~1.0 | 白色粒子・赤色粒子・長石、 暗灰色 | — | 土器として焼成後打ち欠いてメ ンコ状にしたものか？ | A区 土壙33 |
|-----|------|----------|-----------|---------------|----------------------|---|------------------------------|------------|

第280図 土壙34

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|----------------|------------|-------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 358 | 土師質土器杯 | — | (6.4) | — | 長石・石英、 淡赤褐色 | 体部の立ちあがりは急 | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 土壙34 |

第282図 土壙35

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|----|-------|-------|-------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 359 | 瓦器椀 | (11.6) | — | — | 明黄灰色 | — | 内外面 回転ナデ | A区 土壙35 |
| 360 | 瓦器椀 | — | (7.6) | — | 暗灰白色 | 底部平底 | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 土壙35 |

第283図 土壙36

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|-----------------|---------------|----------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 361 | 土師器椀 | — | — | — | 角閃石・金雲母、 橙褐色 | 口縁端部は短く外方に折れる | 内外面 回転ナデ | A区 土壙36 |

第288図 土壙39

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|----|----------------------------|-----------------|-------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 362 | 土師質土器 小皿 | — | (7.6) | — | 角閃石、 黄~橙褐色 | 体部の立ちあがりは急 | 内外面 回転ナデ 底部 へら切り？ | A区 土壙39 |
| 363 | 内黒土器椀 | — | (8.0) | — | 長石・角閃石、 (内)黒色 (外)橙褐色 | 断面長方形の高い高台が付される | 内面 不鮮明なミガキ 外面 ナデ、高台貼り付け後ナデ | A区 土壙39 |

第290図 土壙40

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|------------------------|-------|---------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 364 | 瓦器椀 | — | (7.4) | — | 角閃石、 灰白色 | 底部平底 | 内外面 ナデ | A区 土壙40 |
| 365 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石、 (内)灰色 (外)黒色 | — | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼り付け | A区 土壙40 |

第291図 土壙41

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|---------------------|---------|-------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 366 | 土師器椀 | (14.8) | — | — | 角閃石・斜長石・金雲母、 黄褐色 | — | 内外面 ナデ | A区 土壙41 |
| 367 | 土師器椀 | — | (8.2) | — | 長石、 橙褐色 | 高い高台が付く | 内面 ナデ 外面 高台貼り付け、回転ナデ | A区 土壙41 |
| 368 | 須恵器こね鉢 | — | — | — | 灰色、 白色粒子、金雲母 | — | 内外面 回転ヨコナデ | A区 土壙41 |

第297図 土壙45

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|-------------------------------|--------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 369 | 瓦器椀 | — | (5.8) | — | 長石・石英、 (内)灰白色 (外)灰色・灰白色 | 断面三角形の高台貼り付け | 内面 縦方向のミガキ 外面 回転ナデ、高台貼り付け後 回転ナデ | A区 土壙45 |
| 370 | 瓦器椀 | — | (7.6) | — | 黒色 | 低い高台が付される | 内面 ヨコナデ 外面 ナデ、高台貼り付け後ナ デ、底部ナデ、ユビオサエ | A区 土壙45 |
| 371 | 瓦器椀 | — | (6.2) | — | 石英、 灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ナデ、底面一方向の ナデ 外面 ナデ、回転ナデ、底部糸切 り、板状圧痕 | A区 土壙45 |
| 372 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 灰色 | 外面口縁下に2条の突帯 | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ、突帯貼り付け | A区 土壙45 |
| 373 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石、 暗橙褐色 | 口縁外面が肥厚 口縁下の突帯間にへら描き | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼り付け、 口縁折曲げ | A区 土壙45 |
| 374 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石・長石、 (内)灰色 (外)灰白色 | はり付けの脚部には削り出して装飾 を付ける | 内面 ヨコナデ、不定方向のナデ 外面 ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ | A区 土壙45 |
| 375 | 備前焼壺 | — | — | — | 長石、 灰白色 | 口縁玉縁状 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙45 |

第299図 土壙46

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|-----------------------|---------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 376 | 青磁碗 | (13.4) | — | — | 暗褐色、 釉厚1mm | — | 貫入なし | A区 土壙46 |
| 377 | 土師器搦鉢 | — | — | — | 角閃石・長石、 橙褐色 | — | 内面 ナデ、摺目の単位4本以上 外面 ユビナデ | A区 土壙46 |
| 378 | 土鍋 | (30.2) | — | — | 角閃石・長石、 褐色(外面すず付着) | 体部は直立気味 | 内面 横方向のハケ、ヨコナデ、ヨ コナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、軽いユビオ サエ | A区 土壙46 |

第301図 土壙47

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|----------------|------------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 384 | 土師質土器杯 | — | 6.4 | — | 石英、 暗黄褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | A区 土壙47 |
| 385 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | (6.4) | 1.5 | 長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙47 |
| 386 | 土鍋 | (35.6) | — | — | 角閃石・長石、 黄褐色 | 体部下で屈曲し、下半には格子目タ タキ | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、格子 目タタキ | A区 土壙47 |

第303図 土壙48

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|-----------------|-------|----------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 389 | 瓦質土器椀 | (14.8) | — | — | 角閃石・長石、 暗黄褐色 | — | 内外面 回転ナデ | A区 土壙48 |

第305図 土壙49

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----------------|---------|-----|----|---------------------------------|-----------------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 390 | 土師質土器杯 | (16.2) | — | — | 角閃石・長石・金雲母、 橙褐色 | — | 内面 横方向のハケ目、ナデ、ヨ コナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ | A区 土壙49 |
| 391 | 土師質土器椀 | — | 8.6 | — | 長石、 橙褐色 | 断面長方形の高台が付される | 内面 回転ナデ、底面口クロ痕あ り 外面 回転ナデ、高台貼り付け後 | A区 土壙49 |
| 392 | 瓦質火鉢 | — | — | — | 角閃石・長石、 暗橙褐色 | 口縁下に突帯2条 突帯下にスタンプ文 | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、ケズリ、貼り付け 突帯、スタンプ文 | A区 土壙49 |
| 393 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 (内)灰褐色 (外)すす付着黒褐色 | 口縁外面に強いヨコナデ | 内面 ナデ 外面 ナデ、ケズリ | A区 土壙49 |
| 394 | 瓦質土器擂鉢 | (28.0) | — | — | 角閃石、 黒褐色 | 口縁端部内側を上方に引き上げる | 内面 ナメ方向のナデ、ヨコナ デ、摺目単位3本以上 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 土壙49 |
| 395 | 瓦質土器土鍋 | (28.6) | — | — | 角閃石・斜長石、 暗灰色 | 口縁端部内側を上方に引き上げる | 内面 横方向のハケ目 外面 ヨコナデ | A区 土壙49 |
| 396 | 土師質土器 土鍋(脚) | — | — | — | 角閃石・斜長石、 暗黄褐色 | — | 指オサエ、ナデ | A区 土壙49 |
| 397 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石、 灰褐色 | — | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナメ方向のケ ズリ | A区 土壙49 |
| 398 | 備前焼擂鉢 | (31.4) | — | — | (内)暗赤褐色 (外)灰褐色 | 口縁外面に凹線状のもの | 内外目 ヨコナデ 摺目単位5本以上 | A区 土壙49 |
| 399 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | 赤褐色 | 口縁外面に凹線状のもの | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙49 |

第307図 土壙50

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|---------------------|------------|------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 403 | 土鍋 | (20.8) | — | — | 長石・角閃石、 白っぽい淡橙褐色 | 口縁端部を外方に拡張 | 内面 回転ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | A区 土壙50 |

第310図 土壙52

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|----|----------------|-------|------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 404 | 瓦器椀 | — | (6.5) | — | 角閃石・長石、 灰白色 | 底部平底 | 内面 ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙52 |

第313図 土壙54

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|-------------------------|----------|--------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 405 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・赤色粒子・石英、 暗赤褐色 | 外面口縁下に突帯 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | A区 土壙54 |

第318図 土壙58

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|-----------------|-----------|----------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 406 | 土師質土器 小皿 | (7.0) | (5.4) | 1.2 | 長石・斜長石、 橙褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙58 |
| 407 | 土鍋 | (35.4) | — | — | 斜長石・角閃石、 黒褐色 | 口縁部わずかに外傾 | 内面 回転ナデ、横方向のナデ 外面 すす付着により調整不明 | A区 土壙58 |

第329図 土壙67

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|--------|-----|-----------------|---------------|--------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 409 | 土師質土器杯 | (15.0) | (11.0) | 3.6 | 角閃石・長石、 橙黄褐色 | 体部直立気味 | 内面 ナデ、ナメ方向のナデ 外面 横方向のナデ、底部糸切 り | A区 土壙67 |
| 410 | 土師質土器 小皿 | (7.0) | (6.2) | 0.8 | 角閃石、 黄褐色 | 体部は短く、立ちあがりは急 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙67 |
| 411 | 瓦器椀 | — | 7.0 | — | 石英・長石、 灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙67 |

第332図 土壙69

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|-----|----|--------------------------|-------|-------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 413 | 内黒土器椀 | — | 7.0 | — | 石英、 (内)黒色 (外)黄～橙褐色 | 円盤状高台 | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壙69 |

第334図 土壙70

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|--------------------------------|--------------------|---|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 414 | 土師質土器杯 | (15.8) | — | — | 長石、 橙褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ナデ | A区 土壙70 |
| 415 | 瓦器椀 | (16.0) | 7.6 | 5.8 | 金雲母・角閃石・長石、 灰色・灰白色 | 口縁部外面重ね焼き痕 底部平底 | 内面 回転ナデ、ユビナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り後ナ デ | A区 土壙70 |
| 416 | 瓦器椀 | (16.4) | — | — | 角閃石、 暗灰色・灰白色 | — | 内面 横方向のミガキ 外面 横方向のミガキ、縦方向の ナデ、指オサエ | A区 土壙70 |
| 417 | 瓦器椀 | (15.7) | (7.7) | 6.5 | 長石、 灰色・灰白色 | 口縁部外面重ね焼き痕 底部平底 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙70 |
| 418 | 青磁稜花皿 | (11.6) | — | — | — | 体部下で屈曲 | 内外面 施釉 | A区 土壙70 |
| 419 | 白磁皿 | (11.6) | (6.0) | 2.9 | 灰色の釉 | 口縁端反り | 内外面 施釉、高台に砂付着 | A区 土壙70 |
| 420 | 焼締陶器 | — | — | — | 白色粒子、 (内)淡赤灰色 (外)淡赤灰色、灰色 | 外面に彩色あり | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ | A区 土壙70 |
| 421 | 土師質土器 擂鉢 | (30.0) | — | — | 角閃石・斜長石、 暗橙褐色 | 口縁内湾 | 内面 横方向のナデ、ユビナデ、 摺目の単位5～7本 外面 横方向のナデ、横方向の ケズリ、縦方向のケズリ | A区 土壙70 |

| | | | | | | | | |
|-----|------------|--------|--------|---|---------------------|-----------------------|--|------------|
| 422 | 瓦質土器櫛鉢 | — | (10.6) | — | 角閃石、 淡灰色 | — | 内面 横方向のハケ目 外面 ナデ、ヨコナデ | A区 土壙70 |
| 423 | 瓦質土器 火鉢 | — | — | — | 長石、 暗黄褐色 | — | 内面 ヨコナデ 外面 横方向のミガキ、突帯貼り 付け、ヌタンブ文 | A区 土壙70 |
| 424 | 土鍋 | (43.2) | — | — | 角閃石、 暗褐色(外面すす付着) | 体部は斜方向に口縁へいたる | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ | A区 土壙70 |
| 425 | 土鍋 | — | — | — | 黒褐色(外面すす付着) | 口縁部周辺に強いヨコナデが施され、やや屈曲 | 内面 ナメ方向のナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、横方向のミガキ | A区 土壙70 |
| 426 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石、 暗褐色～黄褐色 | — | 内面 ヨコナデ 外面 ナデ、底部格子目タキ | A区 土壙70 |

第337図 土壙71

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|---------------------------|---------------------------|-----------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 429 | 土師質土器 小皿 | (7.6) | (6.8) | 1.1 | 角閃石・石英・茶色粒子、 明棕色 | 体部直立気味 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壙71 |
| 430 | 青磁碗 | — | — | — | 白っぽい緑色 | 口縁部端反り | 内外面施釉、釉厚1mm、貫入あり 縞蓮弁文 | A区 土壙71 |
| 432 | 瓦質土器鉢 | (26.0) | — | — | 角閃石・長石 | 体部下で屈曲 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、横方向のケズリ、 ナデ | A区 土壙71 |
| 433 | 土鍋 | (39.2) | — | — | 石英・長石、 (内)黄褐色 (外)褐色 | 口縁が短く折れる 端部は上方に引き上げられる | 内面 横方向のハケ目 外面 ヨコナデ | A区 土壙71 |
| 434 | 備前焼甗 | (34.8) | — | — | 長石、 赤褐色 | 口縁玉縁状 | 内外面 ヨコナデ 口縁折り曲げ | A区 土壙71 |

第339図 土壙72(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|------|---------|--------|----|-------------------------|-------|--------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 435 | 備前焼甗 | — | (29.4) | — | 黒色粒子・赤色粒子・白色粒子、 明灰白色 | — | 内面 ハケ、ハケナデ、ケズリ 外面 ヘラナデ、タテハケ | A区 土壙72 |

第340図 土壙72(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|--------|------|---------------------------------|--------------------|-------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 436 | 土師質土器杯 | (12.2) | (9.0) | 2.2 | 角閃石・長石、 褐色(内外面にすす付着) | 体部は直立気味 | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壙72 |
| 437 | 土師質土器杯 | — | 5.5 | — | 角閃石・長石・赤色粒子、 (内)灰白色 (外)棕色 | 体部の立ちあがりは急である | 内面 回転板ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壙72 |
| 438 | 瓦質土器鉢 | (32.0) | (18.6) | 11.7 | 長石、 暗黄褐色 | 口縁部内外に拡張 体部内湾気味 | 内面 横方向のミガキ 外面 ヨコナデ、横方向のミガキ | A区 土壙72 |

第343図 土壙73

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------|---------|-------|----|--------------------------|---------------|-------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 441 | 内黒土器椀 | — | (7.4) | — | 斜長石、 (内)黒色 (外)淡黄褐色 | 断面長方形の高台がはり付け | 内面 ナデ、ミガキ 外面 ナデ、ヨコナデ | A区 土壙73 |

第345図 土壙74

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|--------------------------------------|------------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 442 | 土師質土器杯 | — | (5.4) | — | 角閃石・斜長石、 黄褐色 | — | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙74 |
| 443 | 土師質土器杯 | — | (7.4) | — | 長石、 暗棕色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙74 |
| 444 | 土師質土器 小皿 | (6.5) | (5.4) | 1.2 | 暗棕色 | 体部は直立気味で、端部は丸くおさ める | 内面 回転ナデ、ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙74 |
| 445 | 内黒土器椀 | — | (6.6) | — | (内)黒色 (外)暗黄褐色 | 円盤状高台 | 内面 ミガキ 外面 ナデ、底部糸切り | A区 土壙74 |
| 446 | 瓦器椀 | — | (5.4) | — | 長石・角閃石、 暗灰色 | 断面三角形の高台がはり付け | 内面 ミガキ、ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り後ヨ コナデ | A区 土壙74 |
| 447 | 瓦器椀 | — | (7.0) | — | 斜長石、 灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙74 |
| 448 | 青磁碗 | (12.2) | — | — | 暗緑色 | 口縁部端反り | 釉厚0.5mm、細かい貫入あり、 縞蓮弁 | A区 土壙74 |
| 449 | 青磁皿 | (11.2) | — | — | 黄色味がかった緑色 釉厚0.5mm | 体部大きく外反 | — | A区 土壙74 |
| 450 | 備前焼壺 | — | — | — | 石英・長石、 (内)淡赤褐色 (外)灰色 | — | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、波状文 | A区 土壙74 |
| 451 | 軒丸瓦 | — | — | — | 角閃石、 暗灰色 | — | 板状のものでナデ、ナデ、ハケ目 らしきものあり | A区 土壙74 |
| 452 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・斜長石・金雲母・長石、 (内)暗黄褐色 (外)黒褐色 | 体部は斜方向に口縁へいたる | 内面 横方向のナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナ デ、格子目タキ | A区 土壙74 |
| 453 | 土鍋 | (49.8) | — | — | 角閃石・斜長石、 (内)暗黄褐色 (外)黒褐色 | 口縁部わずかに外傾 | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナ デ(すす付着のため不鮮明) | A区 土壙74 |

第348図 土壙77

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|----------------------------|---------------|-------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 475 | 土師器椀 | (18.6) | — | — | 長石、 暗棕色 | 口縁部わずかに外反 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙77 |
| 476 | 土師質土器 小皿 | (8.8) | (7.0) | 1.2 | 長石、 淡棕色 | 体部は直立気味 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙77 |
| 477 | 内黒土器椀 | — | (7.0) | — | 斜長石・長石、 (内)黒色 (外)暗棕色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ | A区 土壙77 |

第350図 土壙78

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-----|----|---------------|-------|----------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 478 | 土師質土器 小皿 | — | 4.8 | — | 斜長石・長石、 棕色 | — | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | A区 土壙78 |

| | | | | | | | | |
|-----|-------|--------|-------|---|----------------------------|-------------|---------------------------|------------|
| 479 | 内黒土器椀 | — | (7.0) | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)黄褐色 | — | 内面 ミガキ 外面 ナデ、高台貼り付け後ナデ | A区 土壙78 |
| 480 | 瓦器椀 | (16.4) | — | — | 長石、 暗灰色・灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕 | 内外面 回転ナデ | A区 土壙78 |
| 481 | 青磁碗 | (13.6) | — | — | 暗緑色釉、 釉厚1mm、貫入なし | — | 鑄蓮弁文 | A区 土壙78 |
| 482 | 白磁壺 | (10.4) | — | — | 薄い緑色、 釉厚非常に薄い | 口縁部折り曲げ | — | A区 土壙78 |

第353図 土壙79

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------------|---------|----|----|----------------------|-----------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 483 | 瓦器椀 | (16.6) | — | — | 石英・長石、 暗灰色・灰白色 | 口縁部に重ね焼き痕あり | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ | A区 土壙79 |
| 484 | 土鍋 | — | — | — | 長石・白色粒子・赤色粒子 淡赤褐色 | 口縁外面肥厚、口縁上面に段あり | 内面 横方向のハケ 外面 口縁板ナデ、ヨコナデ | A区 土壙79 |
| 485 | 瓦質土器 播鉢 | (28.0) | — | — | 石英、 暗灰色・灰白色 | 口縁端部内側が肥厚 | 内面 ナデ、摺目の単位8本 外面 横方向ナデ、ユビオサエ、 斜め方向のナデ、縦方向のナデ | A区 土壙79 |

第355図 土壙80

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|-------|----|-------------------------------|---------------|-------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 486 | 内黒土器椀 | — | (6.8) | — | 長石・石英・角閃石、 (内)黒色 (外)橙褐色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、ヨコナデ | A区 土壙80 |

第357図 土壙81

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|------------|---------------|-------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 487 | 土鍋 | (31.8) | — | — | 長石、 淡褐色 | 口縁部短くくの字状に折れる | 内面 ハケ目、ハケ目の上からヨコナデ 外面 ユビナデ、ユビオサエ | A区 土壙81 |

第359図 土壙83

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|---------|-----|------------------------------------|----------|----------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 488 | 土師器椀 | (11.4) | 4.8~4.9 | 4.6 | 長石・角閃石、 (内)赤褐色~橙褐色、黒色 (外)橙褐色 | 断面三角形の高台 | 外面 ヘラミガキ | A区 土壙83 |

第361図 土壙84

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|-------|-------|----------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 489 | 備前焼播鉢 | — | — | — | 暗赤褐色 | — | 内外面 回転ナデ、ロクロ痕、摺目4本以上 | A区 土壙84 |

第365図 土壙85

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|----|----|--|-----------|---------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 491 | 内黒土器椀 | — | — | — | 長石・角閃石、 (内)黒色(口縁下) (外)橙色、黒色(口縁下) | 口縁部わずかに外反 | 内面 ヨコナデ、横方向のミガキ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | A区 土壙85 |
| 492 | 青磁碗 | — | — | — | 灰色がかつた緑色の釉、 釉厚0.5mm | — | 内外面 施釉 蓮弁文(不鮮明) | A区 土壙85 |

第367図 土壙86

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|-------------------------------|-----------------|--------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 493 | 土師質土器杯 | — | (7.2) | — | 白色粒子・長石、 淡橙褐色 | 体部直立気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、糸切り | A区 土壙86 |
| 494 | 土師器椀 | — | (6.4) | — | 角閃石・長石、 (内)灰~黒色 (外)淡黄褐色 | 高い高台をはり付ける | 内面 不定方向ナデ 外面 ヨコナデ、底部切り離し後ナデ | A区 土壙86 |
| 495 | 須恵器壺 | (15.0) | — | — | 長石、 灰色 | 短い口縁がわずかに外方に折れる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 土壙86 |

第368図 土壙87

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|-----|---------|-----------------|-------------|---------------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 496 | 土師器小皿 | 10.4 | 6.8 | 1.3~1.4 | 長石・角閃石、 淡黄褐色 | 体部緩やかに立ち上がる | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | A区 土壙87 |

第371図 土壙88

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-----|---------|------------------|--------------------|----------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 497 | 土師質土器 小皿 | 9.5~9.7 | 4.8 | 1.6~2.1 | 長石・赤色粒子、 淡橙褐色 | 手づくね、丸底底部から緩やかに口縁へ | 内面 不定方向ナデ 外面 ヨコナデ、底部ナデ | A区 土壙88 |
| 498 | 土師器椀 | (16.0) | — | — | 石英、 黄白色 | 口縁部外反 | 内面 ヨコナデ、ミガキ 外面 ヨコナデ、ミガキ | A区 土壙88 |

第373図 土壙89

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|----|----|------------------------------------|-------|---------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 499 | 土師質土器杯 | — | — | — | 赤色粒子・長石、 橙褐色 | — | 内外面 回転ナデ | A区 土壙89 |
| 500 | 土鍋 | — | — | — | 長石・角閃石・金雲母、 (内)黒褐色 (外)黒褐色~褐色 | — | 内面 ハケ目 外面 格子目タタキ | A区 土壙89 |

第375図 土壙90

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|---------------------------------------|---------------------|--|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 501 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (4.2) | 1.3 | 長石・赤色粒子、 (内部中央付近・外面)黒斑 (その他)橙褐色 | 体部の立ちあがり緩やか | 内面 不定方向ナデ、回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後ケズリ | A区 土壙90 |
| 502 | 土師質土器 小皿 | (8.8) | (6.6) | 1.6 | 角閃石・長石・砂粒、 橙褐色 | 体部は緩やかに立ちあがり斜方向に口縁へ | 内面 不定方向ナデ、回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | A区 土壙90 |

| | | | | | | | | |
|-----|--------|--------|-------|---|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|------------|
| 503 | 土師器碗 | (12.4) | — | — | 白っぽい橙色 | 口縁部外反 | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、回転ナデ? | A区 土壙90 |
| 504 | 土師器碗 | (18.0) | — | — | 長石、 白っぽい灰褐色 | 口縁部外反 | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、ミガキ? | A区 土壙90 |
| 505 | 土師質土器杯 | (17.6) | — | — | 角閃石・長石、 褐灰色 | — | 内外面 回転ユビナデ 外面 ロウロ痕 | A区 土壙90 |
| 506 | 内黒土器碗 | (6.8) | — | — | 長石、 (内)黒色 (外)褐色 | 高い高台が付される | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ | A区 土壙90 |
| 507 | 黒色土器碗 | — | (7.8) | — | 角閃石・長石、 黒色 | 断面三角形の高台が外開きにつさ れる | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、底部切り離し後 ナデ | A区 土壙90 |

第376図 土壙91

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|--------------------------|----------|----------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 508 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・赤色粒子、 橙褐色 | 外面口縁下に突帯 | 内面 横方向のハケ目 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 土壙91 |
| 509 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石、 (内)暗褐色 (外)橙褐色 | — | 内面 ユビナデ、ユビオサエ 外面 格子目タタキ | A区 土壙91 |
| 510 | 常滑焼壺 | — | — | — | 長石 | 二重口縁状 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙91 |

第380図 土壙93

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|-------------------------|------------------------|-------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 511 | 土鍋 | (40.8) | — | — | 金雲母、 (内)茶褐色 (外)黒色 | 体部下で屈曲、体部は外反気味に口 縁へ | 内面 ナデ、ハケ目 外面 ヨコナデ、ユビナデ(すず付 着) | A区 土壙93 |

第382図 土壙94

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|------|---------|-------|----|------------------------|-----------------|--------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 512 | 土師器碗 | — | (6.2) | — | 長石、 (内)褐色 (外)橙褐色 | 断面三角形の低い高台がはり付け | 内面 ミガキ 外面 回転ナデ、ヨコナデ、底部 切り離し後ナデ | A区 土壙94 |

第384図 土壙95

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|----|------------|-------|--------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 513 | 瓦器碗 | — | (7.0) | — | 長石、 黄白色 | 底部平底 | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、切り離し後ナデ | A区 土壙95 |

第386図 土壙96

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|----------------------------------|-----------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 514 | 土師器碗 | (13.0) | — | — | 長石・角閃石、 (内)白っぽい黄褐色 (外)黄～褐色 | 口縁部わずかに外反 | 内面 縦方向の上から横方向の ミガキ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | A区 土壙96 |

第390図 土壙99

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|-----------------|-------|------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 515 | 土師質土器杯 | — | (3.8) | — | 赤色粒子・角閃石、 棕色 | — | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壙99 |

第394図 土壙100(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|---------|-----|------------------------------------|----------------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 517 | 土師質土器 小皿 | (9.6) | (7.2) | 1.8 | 長石・角閃石、 白っぽい橙褐色、内側が黒く なっている | — | 内面 底面不定方向ナデ、回転 ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 土壙100 |
| 518 | 瓦器碗 | — | 6.7～6.8 | — | 長石・角閃石、 (内)灰色 (外)灰色(部分的に灰白色) | 底部平底 | 内面 不定方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 土壙100 |
| 519 | 白磁皿 | (10.2) | — | — | 灰色がかった白色 | 端反り口縁 | 内外面 施釉 | A区 土壙100 |
| 520 | 白磁皿 | (11.4) | — | — | 灰色がかった白色 | 端反り口縁 | 内外面 施釉 | A区 土壙100 |
| 521 | 青磁碗 | (16.0) | — | — | やや青みがかった緑色釉 釉厚1mm前後 | — | 内外面 施釉 外面 蓮弁文 | A区 土壙100 |
| 522 | 円盤状土製品 | — | — | — | 長石・角閃石・金雲母、 橙褐色 | — | ナデ | A区 土壙100 |
| 523 | 茶釜 | — | — | — | 角閃石・長石、 (内)淡い黒色 (外)灰黄褐色 | — | 内外面 ナデ | A区 土壙100 |
| 524 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・赤色粒子・石英、 橙褐色(脚部内側は黒色) | — | 内面 横方向ハケ目の上からナ デ 外面 縦方向のナデ、一部縦方 向のハケ目 | A区 土壙100 |
| 526 | 土師器擂鉢 | — | — | — | 角閃石・長石、 底部付近黒色、 その他褐色 | 摺目は細かいへら状工具による | 内外面 ナデ | A区 土壙100 |
| 527 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | — | 外面凹線状のもの | 内外面 ヨコナデ 凹線 | A区 土壙100 |
| 528 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | — | — | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙100 |
| 529 | 瓦質土器壺 | (31.2) | — | — | 長石、 暗灰色 | 頸部が短く直立し、口縁部肥厚 | 内面 ハケ 外面 ナデ、頸部にへら描き | A区 土壙100 |
| 530 | 火鉢 | (45.6) | — | — | 長石・角閃石、 黄褐色 | 口縁内湾 | 内面 横方向のナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 土壙100 |
| 531 | 瓦質土器壺 | (36.0) | — | — | 角閃石・長石・石英、 (内)灰～灰白色 (外)灰色 | 口縁外反 | 内面 ヨコナデ、ナデ、ハケ目 外面 ヨコナデ、ハケ目の上から ヨコナデ、ナデ | A区 土壙100 |
| 532 | 瓦質土器壺 | (45.0) | — | — | 石英 暗灰色 | 口縁は体部から直立気味につづき、 やや肥厚する | 内面 ヨコナデ、ハケ目状のもの 外面 ヨコナデ、ナデ、タタキ、口 縁に刻目らしきものあり | A区 土壙100 |
| 533 | 土師器壺 | — | (24.0) | — | 角閃石・長石 淡橙褐色 断面真ん中は灰色 | — | 内面 ハケ目をナデ消し、へらの 跡、底面ナデ 外面 ナデ | A区 土壙100 |

第398図 土壙101

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|-------------------------------|------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 538 | 土師質土器杯 | — | (6.8) | — | 長石・金雲母、 灰褐色 | 体部の立ちあがりは急 | 内面 回転ナデ、ロク口痕残る 外面 回転横ナデ、底部糸切り | A区 土壙101 |
| 539 | 瓦器擂鉢 | (29.2) | — | — | 角閃石・長石、 (内)暗灰色 (外)暗灰～灰色 | 摺目は5本単位 | 内面 横方向のナデ、ユビナデ、 ユビオサエ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ユビ オサエの上から斜めのケズリ | A区 土壙101 |

第403図 土壙106

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|-------------------------------|-----------------------|-------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 541 | 瓦器椀 | — | (3.2) | — | 角閃石・長石、 灰白色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 回転ヨコナデ、ヨコナデ | A区 土壙106 |
| 542 | 土鍋 | — | — | — | 長石、 (内)暗灰色 (外)灰褐色(すず付着) | 口縁部外方に折れる | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、横方向の雑なケ ズリ | A区 土壙106 |
| 543 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | — | — | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、口縁外面に凹線 | A区 土壙106 |
| 544 | 瓦質土器火鉢 | (39.8) | — | — | 角閃石・長石、 暗灰色～灰色 | 外面口縁下に2条の突帯とスタンプ 文 | 内面 ケズリ、横方向のナデ、ナ デ 外面 ナデ、貼付け突帯 | A区 土壙106 |
| 545 | 備前焼甕 | (29.6) | — | — | — | 口縁玉縁 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙106 |

第405図 土壙108

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|---------|-----|----------------|--------|----------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 546 | 土師質土器杯 | (12.4) | 8.6～8.7 | 3.3 | 長石・角閃石、 橙褐色 | 体部直立気味 | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | A区 土壙108 |
| 547 | 瓦器椀 | — | (7.0) | — | 長石、 灰色 | 底部平底 | 内面 ヨビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 土壙108 |

第408図 土壙109

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------------|-----|---------|------------|-----------------|---------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 549 | 土師質土器杯 | 13.2 | 9.1 | 3.5～3.9 | 長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは急で直立気味 | 内外面 ヨビナデ 底部糸切り | A区 土壙109 |
| 550 | 土師質土器杯 | 13.0～ 13.8 | 9.4 | 3.7 | 長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは急で直立気味 | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | A区 土壙109 |
| 551 | 土師質土器 小皿 | 7.7 | 6.5 | 1.3 | 長石、 黄褐色 | 体部は短く直立気味に立ち上がる | 内外面 ヨビナデ 底部糸切り | A区 土壙109 |

第410図 土壙110

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|---------|-----|-----------------------|-----------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 552 | 土師質土器杯 | 11.9 | 7.9～8.0 | 2.9 | 長石・茶色粒子・白色粒子、 明橙褐色 | 体部の立ちあがりは急で直立気味 | 内面 回転ヨコナデ、底面ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | A区 土壙110 |
| 553 | 瓦質土器土鍋 | (25.3) | — | — | 長石、 橙褐色 | 口縁は二重口縁状に立ち上がる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ユビ ナデ | A区 土壙110 |

第412図 土壙111

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|-----------------|-----------|------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 554 | 茶釜 | (13.8) | — | — | 長石・角閃石、 橙～褐色 | 口縁は短く直立する | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ | A区 土壙111 |

第414図 土壙112

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|----|----|-------|-----------|----------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 555 | 青磁碗 | (16.8) | — | — | 薄い緑の釉 | 口縁わずかに端反り | 内外面 施釉 | A区 土壙112 |

第416図 土壙113

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|----|----|----------------|-------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 556 | 須恵器 こね鉢 | — | — | — | 長石、 灰色 | — | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙113 |
| 557 | 瓦質土器 土鍋? | — | — | — | 角閃石・長石、 茶褐色 | 口縁端部肥厚 | 内外面 ヨコナデ、横方向のナデ | A区 土壙113 |
| 558 | 瓦質土器 土鍋? | — | — | — | 長石・角閃石、 暗灰色 | 体部は口縁にむかい直立 | 内面 ヨコナデ、回転ナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ、 斜めのナデ | A区 土壙113 |

第418図 土壙114

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|--------|----|----------------------------------|-------------|--------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 559 | 土鍋 | (30.2) | — | — | 角閃石・長石、 (内)橙褐色 (外)茶褐色 | 体部は口縁にむかい直立 | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、雑なナデ | A区 土壙114 |
| 560 | 瓦質土器擂鉢 | — | (18.4) | — | 長石・角閃石、 (内)灰色 (外)淡褐色(すず付着) | — | 内面 横方向のナデ、ナデ 外面 横方向のナデ、底部ナデ | A区 土壙114 |

第421図 土壙116(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|-----|------------------------|-------------|-----------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 561 | 土師質土器杯 | (13.6) | (9.6) | 3.4 | 長石・角閃石、 橙褐色 | 体部直立気味 | 内面 回転ユビナデ、底面ナデ 外面 回転ナデ | A区 土壙116 |
| 562 | 瓦器椀 | (16.0) | — | — | 長石・角閃石・砂粒、 (内)灰色～白色 | 口縁部の重ね焼き痕あり | 内外面 回転ユビナデ | A区 土壙116 |
| 563 | 青磁碗 | 14.3 | 6.0 | 6.7 | 内外に貫入 | — | 内外面 薄い釉の上から釉をかける。 変則的な(雑拙な)蓮弁文 | A区 土壙116 |

第422図 土壙116(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|------------------|--------|---------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 564 | 備前焼甕 | 27.2 | — | — | (内)暗赤色 (外)赤褐色 | 口縁部玉縁状 | 内面 ヨコナデ 外面 斜めヨコナデ、タテナデ | A区 土壙116 |

第423図 土壙117

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|----|--------------------------------------|------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 565 | 瓦器椀 | - | (7.6) | - | 長石、 灰白色 | 底部平底 | 内面 不定方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 土壙117 |
| 566 | 土鍋 | - | - | - | 長石・角閃石、 (内)橙褐色～褐色 (外)暗褐色(すず付着) | 口縁短く外方に折れる | 内面 ヨコナデ、不定方向ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、不定方向 ナデ後縦方向のケズリ | A区 土壙117 |

第426図 土壙118

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|--------------|-------|------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 567 | 須恵器甕 | - | - | - | 白色粒子、 暗灰色 | - | 内面 横方向のナデの上から同心円のタタキ 外面 格子目のタタキ | A区 土壙118 |

第428図 土壙119

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|----|----|------------------------------------|----------------|------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 568 | 瓦器椀 | (12.6) | - | - | 長石、 (内)灰色、灰白色、暗灰色 (外)暗灰色、灰白色 | 口縁部に重ね焼き痕あり | 内外面 回転ナデ? | A区 土壙119 |
| 569 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石、 暗褐色 | 口縁端部わずかに外方に折れる | 内面 ヨコナデ、ユビナデ 外面 ヨコナデ、ユビナデ | A区 土壙119 |

第430図 土壙120

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|----|-------------------------------------|-----------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 570 | 土鍋 | (41.2) | - | - | 長石・金雲母・角閃石、 (内)橙褐色～暗褐色 (外)暗褐色 | 体部下で屈曲、斜方向に口縁へいたり、口縁わずかに折れる | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ、 縦方向のナデ 外面 ナデ、ヨコナデ、タタキ | A区 土壙120 |
| 571 | 土鍋 | - | - | - | 長石・角閃石、 褐色～暗褐色 | - | 内面 ミガキ? 外面 格子目のタタキ | A区 土壙120 |
| 572 | 土鍋 | - | - | - | 長石・角閃石、 (内)黄褐色 (外)黒褐色 | 体部斜方向に口縁へ | 内面 横方向のナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ | A区 土壙120 |
| 573 | 青磁碗 | - | (5.0) | - | 胎土は灰色、釉は緑色 貫入あり | - | 内面 底部口クロ痕 外面 高台削り出し、底部露胎 | A区 土壙120 |

第432図 土壙121

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|--------|------|------------------------------|-----------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 574 | 襦鉢 | (30.6) | - | - | 角閃石・長石、 (内)橙褐色 (外)褐色 | 口縁端部内側にわずかに肥厚 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、斜め方向の削り 摺目単位4～7本 | A区 土壙121 |
| 575 | 茶釜 | (13.6) | (14.2) | 13.1 | 長石・角閃石、 (内)淡灰褐色 (外)灰褐色 | 口縁外面にスタンプ文 体部中程に突帯 | 内面 ヨコナデ、横方向のユビナデ、 底面にすずが付着 外面 ナデ、ヨコナデ、スタンプ文、 胴部～底部にかけすず付着 | A区 土壙121 |

第434図 土壙122

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|-----------------|-------|------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 576 | 土師質土器杯 | - | (8.2) | - | 長石・赤色粒子、 橙褐色 | - | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ | A区 土壙122 |

第436図 土壙123

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|----|----|-----------------------|-------|------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 586 | 瓦器椀 | (12.6) | - | - | 角閃石、 棕色 | - | 内外面 粗いミガキ? | A区 土壙123 |
| 587 | 青磁碗 | - | - | - | 青色がかった釉、釉厚1mm 貫入あり | - | 内外面 施釉 | A区 土壙123 |

第438図 土壙124

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|-------|----|--------------|-------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 588 | 瓦器椀 | - | (7.6) | - | 長石・砂粒、 灰色 | 底部平底 | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 土壙124 |
| 589 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 砂粒、 灰色 | - | 内面 ヨコナデ、ユビナデ 外面 雑なヨコナデ、格子目タ タキ | A区 土壙124 |

第440図 土壙125

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|---------------------|-------------|-------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 590 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | (7.2) | 1.3 | 長石・赤色粒子・金雲母、 淡棕色 | 体部の立ちあがり緩やか | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 土壙125 |

第444図 土壙128

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|------------------------------------|-------------|-------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 591 | 土鍋 | - | - | - | 石英・角閃石・長石・金雲母、 (内)灰褐色 (外)黒褐色 | 口縁部短く外方に折れる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、横方向のケズリ | A区 土壙128 |

第445図 土壙129

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|-----|----|-----------------------------|------------|---------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 592 | 土師器椀 | (15.8) | - | - | 赤色粒子、 淡褐色 | 口縁尖り気味 | 摩滅で調整不明 | A区 土壙129 |
| 593 | 土師器椀 | - | 6.4 | - | 金雲母・赤色粒子、 淡黄灰色 | 低い高台をはり付ける | 内面 ミガキ? 外面 調整不明瞭 | A区 土壙129 |
| 594 | 瓦器椀 | - | - | - | 長石・石英、 (内)灰～灰褐色 (外)灰色 | - | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ | A区 土壙129 |

第448図 土壙130

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-----|----|-----------------------------|-------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 595 | 土師質土器杯 | - | 7.4 | - | 赤色粒子・角閃石・石英・金雲 母、 淡棕色 | 体部斜方向に立ち上がる | 内面 回転ヨコナデ(摩滅著しい) 外面 板ナデの様な回転ヨコ ナデ | A区 土壙130 |

| 第451図 土壙132 | | | | | | | | |
|-------------|-------------|---------|-------|-----|--|------------------|---|-------------|
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 596 | 土師質土器 小皿 | (8.4) | (5.6) | 0.7 | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 土壙132 |
| 第455図 土壙135 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 597 | 内黒土器碗 | — | (8.0) | — | 長石・角閃石、 (内)黒色 (外)橙～黄褐色 | 断面長方形の高い高台をはり付け | 内面 ミガキ(摩滅して不鮮明) 外面 回転ナデ、ヨコナデ | A区 土壙135 |
| 第458図 土壙138 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 598 | 青磁碗 | (13.6) | — | — | 淡い緑の透明釉 | — | 内外面 施釉 | A区 土壙138 |
| 第462図 土壙139 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 600 | 土師器碗 | (16.0) | — | — | 黄白色 | 口縁部わずかに外反 | 内面 細かいミガキ 外面 粗いミガキ | A区 土壙139 |
| 601 | 内黒土器碗 | (15.8) | — | — | 長石・角閃石、 (内)黒色 (外)淡黄褐色 | — | 内面 ヨコナデ、回転ユビナデ 外面 ヨコナデ、横ミガキ(摩滅で不鮮明) | A区 土壙139 |
| 第464図 土壙140 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 602 | 土師質土器杯 | (13.2) | (7.6) | 2.7 | 赤色粒子・石英・角閃石、 黄褐色・褐色 | 体部斜方向にのびる | 内外面 回転ヨコナデ 底部糸切り | A区 土壙140 |
| 603 | 土師質土器杯 | (16.4) | (7.4) | 3.6 | 石英・赤色粒子、 淡赤褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ナデ 底部糸切り後ナデ | A区 土壙140 |
| 604 | 土師質土器杯 | — | (8.6) | — | 赤色粒子・角閃石、 (内)橙色 (外)淡黄褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 不定方向のナデ 外面 横方向のナデ | A区 土壙140 |
| 605 | 土師質土器 小皿 | (9.4) | (7.6) | 1.5 | 角閃石・赤色粒子・長石、 (底部内外面)淡黄褐色 その他橙褐色 | 体部外反 | 内面 回転ユビナデ 外面 ヨコナデ 底部切り離し不明後ナデ | A区 土壙140 |
| 606 | 土師質土器 小皿 | (9.4) | (7.0) | 1.2 | 濃い赤色粒子・角閃石、 (内)淡橙褐色 (外)橙～橙褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | A区 土壙140 |
| 607 | 土師質土器 小皿 | (10.6) | — | — | 赤色粒子、 明橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ユビナデ | A区 土壙140 |
| 608 | 土師器碗 | — | 11.9 | — | 角閃石・石英、 淡黄褐色 サーモンピンク(高台) | 高い高台をはり付け | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、高台貼り付け、底 部ユビオサエ | A区 土壙140 |
| 609 | 内黒土器碗 | (14.6) | — | — | 赤色粒子・角閃石・長石、 (内)黒(一部白っぽい) (外)口縁部黒、その他黄褐色 | 口縁部わずかに外反 | 内面 ミガキ(器面不鮮明) 外面 ヨコナデ、ミガキ | A区 土壙140 |
| 610 | 内黒土器碗 | (14.8) | — | — | 赤色粒子、 (内)黒 (外)黒、橙褐色 | 口縁部外反 | 内外面 ヨコナデ、ミガキ | A区 土壙140 |
| 611 | 内黒土器碗 | — | 5.8 | — | 赤色粒子・角閃石、 (内)黒 (外)淡黄褐色 | 高い高台が外開きにはり付けられる | 内面 回転ユビナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 土壙140 |
| 612 | 内黒土器碗 | — | (7.8) | — | 赤色粒子、 (内)黒 (外)赤褐色 | 断面方形の高台をはり付ける | 内面 ユビナデ 外面 回転ユビナデ、ヨコナデ | A区 土壙140 |
| 613 | 内黒土器碗 | — | (8.0) | — | 角閃石・長石・赤色粒子、 (内)黒 (外)橙褐色、黄褐色 | 断面長方形の高台をはり付ける | 内面 不定方向ナデ 外面 ヨコナデ、高台貼り付け後 ヨコナデ | A区 土壙140 |
| 614 | 内黒土器碗 | — | (7.6) | — | 角閃石・長石、 (内)黒色、淡褐色 (外)橙褐色 | 断面長方形の高台をはり付ける | 内面 ミガキ、ユビナデ 外面 回転ユビナデ、高台貼り付 け後ヨコナデ | A区 土壙140 |
| 第466図 土壙141 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 616 | 土師器碗 | (15.8) | — | — | — | — | 内外面 摩滅 | A区 土壙141 |
| 617 | 土鍋 | (21.4) | — | — | 角閃石・長石、 (内)淡橙褐色 (外)橙～黒褐色 | 口縁部短く外反 | 内面 ヨコナデ、へら状のもので 横方向にナデ 外面 ヨコナデ、縦方向のナデ | A区 土壙141 |
| 第469図 土壙143 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 619 | 土師器碗 | — | — | — | 金雲母・長石・石英、 橙褐色 | — | 内外面 回転ユビナデ 外面 ころろ痕あり | A区 土壙143 |
| 第472図 土壙144 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 620 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・石英・赤色粒子、 (内)赤褐色 (外)暗褐色 | — | 内面 横方向ナデ 外面 ヨコナデ、横方向ナデ | A区 土壙143 |
| 第475図 土壙146 | | | | | | | | |
| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 621 | 青磁碗 | (14.0) | — | — | 灰色がかった緑色の釉 釉厚0.5mm | — | 内外面 施釉 | A区 土壙146 |
| 622 | 白磁皿 | — | (5.8) | — | 白色釉 釉厚0.5mm | — | 内外面 施釉 高台露胎、砂付着 | A区 土壙146 |
| 623 | 瓦質土器鉢 | (23.6) | — | — | 角閃石・長石、 (内)灰色 (外)暗灰色 内外面とも口縁付近は黄白色 | 口縁部外面肥厚 浅い器形 | 内面 ミガキ 外面 ナデ、横方向のケズリ | A区 土壙146 |
| 624 | 土師器鉢 | (29.8) | — | — | 金雲母・長石、 黄褐色 内面一部黒褐色 | 口縁端部内外にやや肥厚 | 内面 横方向のミガキ 外面 ヨコナデ、回転ユビナデ、ナ デ | A区 土壙146 |

| | | | | | | | | |
|-----|---------------|---|---|---|----------------------------------|--------------|--|-------------|
| 626 | 土鍋 | - | - | - | 長石・角閃石・金雲母、 (内)淡黄褐色 (外)暗褐色 | 口縁端部を外方に引き出す | 内面 横方向のナデ 外面 ヨコナデ、ケズリ | A区 土壙146 |
| 627 | 瓦質土器土鍋 (23.2) | - | - | - | 石英・長石、 (内)灰～灰褐色 (外)灰色 | 口縁端部を上方に拡張 | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、ハケ目 | A区 土壙146 |
| 628 | 瓦質土器播鉢 (32.6) | - | - | - | 石英・砂粒、 (内)灰色 (外)淡灰褐色 | 口縁部内側が三角形に肥厚 | 内面 横方向のナデ 外面 ヨコナデ、タテハケ後ナデ | A区 土壙146 |
| 629 | 備前焼播鉢 (28.4) | - | - | - | - | 口縁端部は丸くおさめる | 内面 ヨコナデ、摺目7本単位 外面 ヨコナデ | A区 土壙146 |
| 630 | 備前焼甕 | - | - | - | 長石、 赤褐色 | - | 内面 コピオサエ、回転ナデ 外面 回転ナデの上に貼り付け、 ヨコナデ、回転ナデ後ナデ | A区 土壙146 |
| 631 | 備前焼徳利 | - | - | - | - | 外面にへう描き | 内外面 ナデ | A区 土壙146 |
| 632 | 備前焼徳利 | - | - | - | - | 外面にへう描き | 内外面 ナデ | A区 土壙146 |

第479図 土壙149

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|-----------------|-------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 636 | 須恵器甕 | (41.2) | - | - | 白色砂粒・長石、 暗灰色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ、 格子目タタキ | A区 土壙149 |
| 637 | 須恵器甕 | - | - | - | 長石、 暗灰色 | - | 内面 横方向に同心円状のタタキ | A区 土壙149 |
| 638 | 常滑焼甕 | - | - | - | - | 口縁帯上下に拡張 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙149 |

第481図 土壙150

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|---------|---------|-----|-----|-------------------------|-----------------|-----------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 639 | 土師質土器小皿 | 8.4 | 2.0 | 1.0 | 金雲母・角閃石・赤色粒子・石英、 橙褐色 | 低い体部が内湾気味に立ち上がる | 内面 回転ナデ、底面不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙150 |

第483図 土壙151(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|---------|---------|----|----|------------------------------|-------|---------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 640 | 土師質土器小皿 | - | - | - | 角閃石・長石、 (内)淡黄褐色 (外)黒褐色 | - | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ | A区 土壙151 |
| 641 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・赤色粒子、 淡褐色 | - | 内面 回転ナデ 外面 底部糸切り | A区 土壙151 |

第483図 土壙151(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|------|----|-------|------------|-----------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 642 | 備前焼甕 | - | - | - | 赤褐色 | 口縁部玉縁状 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙151 |
| 643 | 備前焼甕 (31.6) | - | - | - | 赤褐色 | 口縁玉縁が下に垂れる | 内外面 ヨコナデ、横方向ナデ | A区 土壙151 |
| 644 | 備前焼甕 | - | 34.4 | - | 赤褐色 | - | 内面 横方向ナデ、底面ナデ 外面 縦方向ナデ、ヨコナデ、ナデ | A区 土壙151 |

第484図 土壙151(3)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|------|----|-------------|-------|--------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 645 | 備前焼甕 | - | 30.8 | - | 砂粒 鈍い赤褐色 | - | 内面 ナデ 外面 タテハケメ、ナナメハケメ | A区 土壙151 |

第487図 土壙153

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-----|----|--|----------------|-------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 647 | 土師質土器椀 | - | 8.2 | - | 石英・長石・角閃石・金雲母、 (内)淡橙褐色 (外)赤っぽい橙色 | 高い高台を外開きにはり付ける | 内面 回転ナデ 外面 横方向ナデ、高台貼付け、 脚部面取り | A区 土壙153 |
| 648 | 青磁碗 | - | - | - | くすんだ緑色 | - | 内面に片切彫り | A区 土壙153 |
| 649 | 備前焼甕 | - | - | - | 赤褐色 | 口縁外面玉縁状 | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙153 |
| 650 | 備前焼壺 | - | - | - | 長石、 赤褐色 | 口縁部短く立ち上がる | 内外面 ヨコナデ | A区 土壙153 |

第491図 土壙154

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|-----|---|--------------|----------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 652 | 土師質土器杯 | (7.8) | (6.9) | 3.5 | 角閃石・金雲母・赤色粒子、 赤っぽい橙色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、底面指跡残る 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙154 |
| 653 | 土師質土器杯 | - | (7.6) | - | 赤色粒子・金雲母・長石・角閃石、 (内)淡橙褐色 (外)黒～淡褐色 | - | 内面 不定方向ナデ 外面 回転ナデ | A区 土壙154 |
| 654 | 瓦器椀 | - | (6.6) | - | 石英 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 ミガキ 外面 回転ナデ、ヨコナデ | A区 土壙154 |
| 655 | 瓦質土器播鉢 | - | - | - | 石英 | 口縁内面は三角形に肥厚 | 内面 ヨコナデ、ヨコハケ後摺目 外面 ヨコナデ、ケズリ調整 | A区 土壙154 |

第493図 土壙155

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|--|--------------|---------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 656 | 土師質土器杯 | - | (6.4) | - | 金雲母・角閃石・赤色粒子・石英、 (内)淡黄褐色 (外)淡橙褐色 | 体部は斜方向に立ち上がる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、ややロク口痕残る、 底部糸切り | A区 土壙155 |
| 657 | 瓦器椀 | - | (6.5) | - | 角閃石、 白っぽい灰色 | 底部平底 | 内面 不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 土壙155 |
| 658 | 唐津系陶器椀 | - | - | - | 灰色粒子・白色砂粒、 灰色の釉 | - | 外面 高台部露胎 | A区 土壙155 |
| 659 | 白磁皿 | - | - | - | 白色粒子、 透明釉(やや青みを帯びる) | 口禿口縁をもつものか | 外面 底部無釉 | A区 土壙155 |

| | | | | | | | | |
|-----|------------|--------|-------|-----|--|---------------------------------------|--|-------------|
| 660 | 青磁碗 | - | - | - | 灰褐色の胎土、青磁釉、釉厚0.5mm | 口縁端反り | 内外面 施釉 | A区 土壙155 |
| 661 | 瓦質土器香炉 | (9.2) | (7.2) | 6.5 | 赤色粒子・角閃石・石英、 (内)淡黄褐色、一部被熱して淡 (外)淡黄褐色 | 体部直立、小さな脚が付される | 内面 ヨコナデ、ヘラナデ、ヘラケ ズリ 外面 菊花スタンプ、ミガキ、脚貼 付け、底部ミガキ後ケズリ | A区 土壙155 |
| 662 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石・金雲母、 (内)灰～灰白色 (外)灰白色～暗灰色 | 口縁部内側をわずかに引き出す | 内面 ユビオサエ、ヘラ状の物で ナデ 外面 ヨコミガキ、ヨコナデ、突帯 貼付け | A区 土壙155 |
| 663 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 灰褐色 | - | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ミガキ、突帯貼付け、スタ ンプ文 | A区 土壙155 |
| 664 | 瓦器火鉢 | (34.2) | - | - | 長石・角閃石、 黒～暗灰色 | - | 内面 ミガキ、横方向ナデ後縦方 向ナデ 外面 ヨコナデ、ミガキ、突帯貼付 け、スタンプ文 | A区 土壙155 |
| 665 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 赤色粒子・長石 | 外面に平行沈線文 | 内面 横方向のミガキ 外面 ナデ | A区 土壙155 |
| 666 | 瓦質土器 火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 暗灰色 | 山形を削り出した三角板をはり付け、 さらに中央部に長方形粘土を重ねる | 内面 ユビオサエ、ナデ 外面 ミガキ、ナデ、突帯、脚部貼 り付け、穿孔 | A区 土壙155 |
| 667 | 備前焼播鉢 | - | - | - | - | 口縁はあまり発達せずやや上方に拡 張される | 内面 ヨコナデ、摺目5本以上 外面 ヨコナデ、ナメ方向のナ デ | A区 土壙155 |
| 668 | 丸瓦 | - | - | - | 長石、 暗灰色 | - | 内面 布目 外面 ナデ 端部切り離し | A区 土壙155 |

第495図 土壙156

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|-------------------------------|-------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 670 | 土師質土器 小皿 | (10.5) | (7.0) | 1.6 | 赤色粒子・角閃石・長石・金雲 母・石英、 褐色 | 体部斜方向にのびる | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | A区 土壙156 |
| 671 | 須恵器甕 | (21.9) | - | - | 白色粒子、 暗灰褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 ヨコナデ、底部に向かうナ デ、ユビナデ、ユビオサエ 外面 ロク口痕、平行タタキ | A区 土壙156 |
| 672 | 須恵器甕 | - | - | - | 砂粒、 灰色 | 口縁部大きく外反 | 内面 回転ナデ、ナデ、タタキ 外面 ヨコナデ、回転ナデ、ハケ 目 | A区 土壙156 |

第497図 土壙157

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|--------|----|-----------------------------|-----------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 673 | 土師器椀 | - | 8.4 | - | 金雲母・角閃石、 褐色 | 断面長方形のやや高い高台が付さ れる | 内面 ミガキ 外面 横方向のミガキ、ヨコナデ、 底部糸切り後板状圧痕 | A区 2号竪穴 |
| 674 | 内黒土器椀 | - | (7.8) | - | 長石・角閃石、 (内)黒色 (外)淡褐色 | 断面方形の高台を貼り付け | 内面 ミガキ、ユビオサエ 外面 ナデ、ヨコナデ | A区 2号竪穴 |
| 675 | 青磁碗 | - | (5.4) | - | 緑色の釉 釉厚1mm 大きめの貫入 | - | 外底を除き施釉 | A区 2号竪穴 |
| 676 | 白磁碗 | - | - | - | やや灰色がかった透明釉 | 口縁部玉縁 | - | A区 2号竪穴 |
| 677 | 青花碗 | - | (4.8) | - | 外面に大きめの貫入 | - | 内外面 施釉 文様は一筆描きタイプ | A区 2号竪穴 |
| 678 | 色絵環 | - | (4.2) | - | - | - | 高台部分露胎、 底部に界線の痕跡が残る、 暗赤色で絵の輪郭を、葉などは 薄い緑色で描く。 | A区 2号竪穴 |
| 679 | 瓦質土器鉢 | - | - | - | - | 口縁部外面が肥厚 | 内外面 ナデ、ヨコナデ | A区 2号竪穴 |
| 680 | 土師器鉢 | - | - | - | 長石・角閃石、 淡褐色 | 口縁部が内外に肥厚 | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | A区 2号竪穴 |
| 681 | 土鍋 | - | - | - | 長石・角閃石、 (内)橙褐色 (外)灰褐色 | 体部は斜方向に口縁へいたる | 内面 横方向のナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 2号竪穴 |
| 682 | 土鍋 | - | - | - | 長石、 (内)淡褐色 (外)灰褐色 | 口縁部が短くわずかに外反 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ケズリ | A区 2号竪穴 |
| 683 | 瓦質土器鉢 | - | (10.0) | - | 長石、 褐色 | 断面長方形の高台が付される | 内面 ミガキ 外面 回転ナデ、ヨコナデ | A区 2号竪穴 |
| 684 | 瓦質土器火鉢 | - | (24.6) | - | 角閃石、 灰色 | - | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 横向きケズリ状ナデ、ヨコ ナデ、ナデ | A区 2号竪穴 |
| 685 | 瓦質土器火鉢 | - | (21.4) | - | 角閃石・長石、 (内)淡褐色 (外)淡褐色 | - | 内面 縦方向のナデ、横方向の ナデ、ヨコナデ、ナデ 外面 ナデ、ヨコナデ | A区 2号竪穴 |
| 686 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 長石・角閃石、 褐色 | 底部に高台状の脚を付ける | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部ナデ | A区 2号竪穴 |
| 687 | 備前焼播鉢 | - | (10.6) | - | 長石・砂粒、 赤褐色 | 斜方向にも摺目が入る | 外面 回転ナデ、底部ナデ 摺目単位9本 | A区 2号竪穴 |

第503図 土壙158

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------|---------|---------|----|--------------------------------------|-------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 696 | 土師器椀 | - | 6.6~6.8 | - | 赤色粒子・長石、 淡褐色 | 円盤状高台 | 内面 回転ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り後ナ デ | A区 3号竪穴 |
| 697 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 長石・緻密な土、 灰色 | 口縁外面に凹線状のもの | 内面 ヨコナデ、ロク口痕あり 外面 ユビオサエ、ロク口痕あり、 自然釉 | A区 3号竪穴 |
| 698 | 土師器鉢 | (27.2) | - | - | 角閃石・長石、 黄褐色 | 口縁部が肥厚 | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 3号竪穴 |
| 699 | 瓦質土器甕 | (29.6) | - | - | 長石・角閃石、 暗灰色 | 口縁部は外方に肥厚 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ | A区 3号竪穴 |
| 700 | 火鉢 | (35.8) | - | - | 角閃石・長石、 (内)黄褐色 (外)褐色(被熱)、口縁部黒斑 | 口縁部内湾 | 内面 横方向のナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 3号竪穴 |

第505図 土壙159

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|----|----|-------|-------|----------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 701 | 土師質土器杯 | — | — | — | — | — | 内外面 ヨコナデ | A区 4号竪穴 |

第507図 土壙160

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-----------|---------|--|-----------------------------|--|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 702 | 土師質土器杯 | (15.4) | (9.5) | 3.0 | 角閃石・金雲母・長石、 (内)白っぽい黄褐色 (外)黄褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ユビナデ、ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙1 |
| 703 | 土師質土器杯 | 16.3 | 9.8 | 3.7~3.9 | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ユビナデ、不定方向ナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙1 |
| 704 | 土師質土器杯 | (15.2) | (8.0) | 3.2 | 角閃石・長石、 黄褐色 | 体部の立ちあがり緩やか、口縁尖り 気味 | 内面 回転ユビナデ、不定方向ナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙1 |
| 705 | 土師質土器 小皿 | (9.6) | 7.1~7.2 | 2.0 | 長石・石英、 赤褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ユビナデ、ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙1 |
| 706 | 土師質土器 小皿 | (10.2) | 7.0 | 1.5 | 角閃石、 黄褐色 | 体部の立ちあがり緩やかで内湾する | 内面 回転ナデ、不定方向のナ デ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 土壙1 |
| 707 | 土師質土器 小皿 | 9.0~9.1 | 7.8 | 1.1 | 角閃石・長石、 橙と褐色の斑 | 体部の立ちあがり緩やかで内湾する | 内面 回転ユビナデ、ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙1 |
| 708 | 土師質土器 小皿 | (1.0) | (6.5~7.5) | 1.3 | 角閃石、 淡黄褐色 | 体部は緩やかに立ちあがり内湾する | 内面 回転ユビナデ、不定方向 のナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状工具のナデ | B区 土壙1 |
| 709 | 土師質土器 小皿 | 10.5 | 7.0 | 1.5 | 角閃石・長石、 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかにのびる | 内面 回転ユビナデ、不定方向ナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後ナデ | B区 土壙1 |
| 710 | 土師器椀 | (16.2) | (6.4) | 5.5 | 白っぽい黄褐色 | 口縁部わずかに外反、断面長方形の 高台はり付ける | 内面 ユビナデ、ヨコナデ、ミガキ 外面 ユビナデ、ヨコナデ、ミガキ、 底部糸切り | B区 土壙1 |
| 711 | 土師器椀 | (16.5) | (6.7) | 5.2 | 角閃石、 白っぽい黄褐色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 回転ヨコナデ、ミガキ 外面 回転ヨコナデ、ヨコナデ、ミ ガキ、底部ナデ | B区 土壙1 |
| 712 | 土師器椀 | — | — | — | 赤色粒子・金雲母、 橙褐色 | — | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、ユビオサエ | B区 土壙1 |
| 713 | 土師器椀 | (16.8) | — | — | 赤色粒子・砂粒・土(緻密)、 (内)淡黄褐色 (外)黄白色 | 口縁部外反 | 内面 回転ナデ、ミガキ 外面 回転ナデ、ヨコナデ、ミガキ | B区 土壙1 |
| 714 | 土師器椀 | (15.6) | — | — | 金雲母・石英、 白っぽい黄褐色 | — | — | B区 土壙1 |
| 715 | 土師器椀 | — | 6.4 | — | 角閃石・長石、 白っぽい黄褐色 | 断面方形の高台はり付け | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ | B区 土壙1 |
| 716 | 土師器椀 | — | 6.0 | — | 角閃石・長石、 淡褐色 | 断面方形の高台はり付け | 内面 ミガキ、ヨコナデ、高台貼付 け後ヨコナデ | B区 土壙1 |
| 717 | 土鍋 | (39.8) | — | — | 角閃石・長石・金雲母、 (内)橙褐色 (外)橙褐色~黄褐色、黒斑あり | 口縁部くの字状に折れる | 内面 ヨコナデ、ユビナデ、ユビオ サエ 外面 ヨコナデ、ユビナデ(指圧痕 あり) | B区 土壙1 |

第508図 土壙160(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|---------------------------------|-------------------------|---|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 718 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲 母、 黒褐色・淡褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 回転ヨコナデ、ナデ 外面 回転ヨコナデ、ナデ | B区 土壙1 |
| 719 | 土鍋 | (40.0) | — | — | 角閃石・金雲母・長石、 褐色・橙色・淡黄褐色 | 口縁部くの字状に折れる 口縁端部は面取り | 内面 ヨコナデ、ユビナデ(指圧痕 残る) 外面 ヨコナデ、ユビナデ、ユビオ サエ | B区 土壙1 |

第510図 土壙161

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|-----------------------------|---------------|--|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 720 | 土師質土器 小皿 | (9.2) | (5.8) | 1.5 | 角閃石・長石・石英、 暗褐色 | 体部は丸みをもち立ち上がる | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ 後ユビナデ 外面 回転ナデ | B区 土壙2 |
| 721 | 土師器椀 | (15.4) | — | — | 角閃石・長石、 暗茶褐色 | — | 内面 ヨコミガキ、横方向のミガキ 外面 回転ナデ後横方向のミガ キ | B区 土壙2 |
| 722 | 土師器椀 | — | 6.3 | — | 角閃石・長石、 (内)黄褐色 (外)茶褐色 | 断面方形の高台をはり付ける | 内外面 摩滅して不明 高台貼付け後ナデ、 底部糸切り後へう状のものでナ デ | B区 土壙2 |

第512図 土壙162

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|---|--------|---|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 723 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (5.8) | 1.2 | 長石・角閃石、 橙色 | 体部直立気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙3 |
| 724 | 瓦器椀 | (15.6) | — | — | 角閃石・長石・石英・砂粒、 (内)暗灰色、灰白色 (外)暗灰色、灰白色 | — | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、回転ユビナデ、ロ ク口痕あり | B区 土壙3 |

第514図 土壙163

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|---------|--------------------------------|---------------------|---|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 725 | 土師質土器杯 | (13.8) | (8.2) | 3.5 | 角閃石・金雲母・長石・石英、 暗黄褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、不定方向ナ デ 外面 回転ナデ、ヨコナデ、底部 糸切り後板状圧痕 | B区 土壙4 |
| 726 | 土師質土器 小皿 | 8.3 | 6.2 | 1.2~1.3 | 角閃石・石英・斜長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがり急 | 内外面 回転ナデ 底部糸切り後ナデ | B区 土壙4 |
| 727 | 瓦器椀 | (15.8) | (8.2) | 3.5 | 長石・角閃石・金雲母、 灰白色 (外面口縁部 淡灰色) | 口縁部外面に重ね焼き痕 底部平底 | 内面 回転ナデ、不定方向ナ デ 外面 回転ナデ、横方向のユビナ デ、底部糸切り後板状圧痕状の もの | B区 土壙4 |

第516図 土壙164

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------|---------|-------|----|----------------------------|--------------|------------------------------------|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 728 | 土師器碗 | (13.5) | — | — | 角閃石・長石、 黄白色 | — | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | B区 土壙5 |
| 729 | 内黒土器碗 | — | (6.4) | — | 長石・角閃石、 (内)褐色 (外)暗褐色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壙5 |
| 730 | 瓦器碗 | — | (6.8) | — | 長石、 (内)黒色 (外)橙色 | 底部平底 | 内面 回転ユビナデ、ユビオサエ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙5 |

第518図 土壙165(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------------|---------|---------|--|--------------------------------|---|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 731 | 土師質土器杯 | 14.8~ 16.0 | 8.8~9.8 | 3.0~3.5 | — | 体部は内湾または外反気味 | 内面 回転ナデ、不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 732 | 土師質土器杯 | (16.2) | 7.9 | 3.8 | 石英・角閃石・長石、 赤褐色 | 体部内湾気味で口縁わずかに外反 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 733 | 土師質土器杯 | (16.4) | 8.5~8.8 | 3.0~3.5 | 砂粒・角閃石・長石、 (内)暗赤褐色 (外)赤褐色 | 体部内湾気味で口縁わずかに外反 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 734 | 土師質土器杯 | (17.0) | (10.0) | 3.0 | 角閃石・長石、 (内)黒褐色 (外)褐色 | 体部内湾気味で口縁わずかに外反 | 内面 回転ナデ、底面不定方向 ナデ 外面 回転ナデ、ロクロ痕、底部 糸切り後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 735 | 土師質土器杯 | (16.8) | — | — | 淡橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 ナデ | B区 土壙6 |
| 736 | 土師質土器杯 | (16.3) | — | — | 角閃石・長石・赤色粒子、 淡赤褐色 | 体部内湾気味に斜方向にのびる | 内外面 回転ユビナデ | B区 土壙6 |
| 737 | 土師質土器杯 | 14.1 | 8.5 | 2.7~3.0 | 角閃石・赤色粒子・石英、 赤褐色 | 体部は斜方向に直線的あるいは内 湾気味にのびる | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、斜めのナ デ、底部糸切り後板状圧痕後ナ デ | B区 土壙6 |
| 738 | 土師質土器杯 | — | (7.4) | — | 角閃石・赤色粒子、 赤褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ 外面 ヘラ状工具による回転ナ デ、ロクロ痕が顕著に残る、底部 糸切り | B区 土壙6 |
| 739 | 土師質土器 小皿 | 8.6 | 6.0 | 1.0~1.2 | 角閃石・長石、 白っぽい黄褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面ヨコナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切 り? | B区 土壙6 |
| 740 | 土師質土器 小皿 | 9.2 | 6.9 | 1.0 | 石英・赤色粒子・長石、 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 一部ナデ | B区 土壙6 |
| 741 | 土師質土器 小皿 | 9.2 | 6.1~6.4 | 1.2~1.4 | 長石・角閃石・赤色粒子、 (内)かなり白っぽい橙色 (外)淡黄褐色~橙色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面ユビナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 742 | 土師質土器 小皿 | (9.9) | (6.7) | 1.0 | 角閃石・石英・赤色粒子・長石、 淡黄褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 743 | 土師質土器 小皿 | 9.8 | 6.4 | 1.0 | 石英・角閃石・長石、 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 744 | 土師質土器 小皿 | 9.0~9.2 | 6.4 | 0.9~1.2 | 角閃石・長石・赤色粒子、 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、内面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 745 | 土師質土器 小皿 | 9.9 | 6.8 | 1.0~1.2 | 長石・石英・赤色粒子、 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 746 | 土師質土器 小皿 | 9.8 | 6.1 | 1.5 | 長石・赤色粒子・角閃石、 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 747 | 土師質土器 小皿 | 10.1 | 7.2 | 1.3 | 角閃石・赤色粒子・石英、 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 748 | 土師質土器 小皿 | 9.8 | 6.6 | 1.3 | 角閃石・長石、 淡橙色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 749 | 土師質土器 小皿 | 9.1 | 5.7~6.1 | 1.3~1.4 | 角閃石・長石・石英、 橙色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、ユビオサ エ、底部糸切り後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 750 | 土師質土器 小皿 | 10.0 | 6.1~6.3 | 1.6 | 長石・角閃石、 橙色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 751 | 土師質土器 小皿 | (9.6) | 6.4 | 1.4 | 石英・赤色粒子・角閃石・長石 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 752 | 土師質土器 小皿 | 9.2 | 7.1 | 1.1~1.3 | 角閃石・長石・赤色粒子、 (内面半分)褐色 (その他)淡赤褐色 | 体部の立ちあがりはシャープ | 内面 回転ユビナデ、不定方向ナ デ 外面 糸切り後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 753 | 土師質土器 小皿 | (10.2) | (6.7) | 1.4 | 赤褐色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内外面 回転ナデ | B区 土壙6 |
| 754 | 土師質土器 小皿 | 10.9 | 6.8 | 1.3~1.4 | 角閃石・長石、 橙色 | 体部は斜方向に緩やかに立ち上が る | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 755 | 土師質土器 小皿 | (10.6) | (7.4) | 1.4 | 角閃石、 赤みがあった橙色(二次焼成) | 体部の立ちあがりは比較的シャープ で斜方向に立ち上がる | 内面 不定方向ナデ、回転ユビナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 756 | 土師質土器 小皿 | 10.7 | 6.8 | 1.7 | 長石・角閃石、 橙黄褐色 | 体部の立ちあがりは比較的シャープ で斜方向に立ち上がる | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 一部ナデ | B区 土壙6 |

| | | | | | | | | |
|-----|-------------|--------|---------|---------|---------------------------------|---------------------------|--|-----------|
| 757 | 土師質土器 小皿 | 10.6 | 6.0~6.8 | 1.8~2.0 | 長石・角閃石、 淡黄褐色 | 体部は緩やかに立ち上がる 他に比べ器高が高い | 内面 回転ユビナデ、底面不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 758 | 土師器椀 | (14.8) | — | — | 角閃石・長石、 黄褐色 | 口縁端部を外方に引き出す | 内面 ヨコナデ、回転ユビナデ、ユ ビオサエ、ミガキの痕跡 外面 ヨコナデ、回転ユビナデ、ユ ビナデ | B区 土壙6 |
| 759 | 土師器椀 | (15.2) | — | — | 長石・砂粒、 黄白色 | 口縁部緩やかに外反 | 内外面 ミガキ | B区 土壙6 |
| 760 | 土師器椀 | (15.2) | — | — | 角閃石・長石、 (内)黒色~灰白色 (外)黄褐色 | — | 内面 ヨコナデ、ミガキ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | B区 土壙6 |
| 761 | 土師器椀 | — | (6.6) | — | 角閃石・長石・石英、 (内)淡黄褐色 (外)橙褐色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 不定方向ナデ 外面 ヨコナデ、底部切り離し後 板状圧痕 | B区 土壙6 |

第519図 土壙165(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------|---------|---------|-----|-------------------------------------|----------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 762 | 内黒土器椀 | (15.2) | 6.8 | 5.9 | 角閃石・長石・赤色粒子、 (口縁部)黒 (その他)淡赤褐色 | 口縁部わずかに外反 断面長方形の高台を外開きに | 内面 横方向ミガキ、底部にユビ オサエ 外面 横方向のミガキ(摩滅著し い)、底部糸切り後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 763 | 内黒土器椀 | (15.6) | 6.8 | 6.1 | 角閃石・長石、 (内)黒色~灰白色 (外)橙褐色 | 口縁部わずかに外反 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ヨコナデ、ミガキ 外面 ヨコナデ、ミガキ、ユビオサ エ、底部糸切り後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 764 | 内黒土器椀 | (15.8) | — | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)黄褐色、口縁部黒色 | — | 内面 ヨコナデ、横方向のミガキ 外面 ヨコナデ、ミガキ | B区 土壙6 |
| 765 | 内黒土器椀 | — | 7.6 | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)黄白色 | 円盤状高台 | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 766 | 内黒土器椀 | (15.4) | — | — | 角閃石・長石、 (内・外の一部)黒色 (外)灰白色 | 口縁部わずかに外反 | 内面 ヨコナデ、ミガキ 外面 ヨコナデ、摩滅のため不明 | B区 土壙6 |
| 767 | 内黒土器椀 | — | (6.8) | — | 長石・角閃石、 淡赤褐色 | 断面長方形の高台を外開きに | 内面 ミガキ 外面 ヨビオサエ、ヨコナデ | B区 土壙6 |
| 768 | 内黒土器椀 | — | 7.0 | — | 長石・赤色粒子・角閃石、 (内)黒色 (外)白っぽい橙色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ、底部糸切 り | B区 土壙6 |
| 769 | 内黒土器椀 | — | (6.4) | — | 長石・角閃石、 (内)黒色 (外)白っぽい黄褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ、底部糸切 り | B区 土壙6 |
| 770 | 内黒土器椀 | — | 6.6 | — | 角閃石・長石、 (内)灰色 (外)淡赤褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ユビオサエ、底部糸 切り | B区 土壙6 |
| 771 | 内黒土器椀 | — | (6.6) | — | 長石・角閃石、 (内)黒 (外)灰褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ | B区 土壙6 |
| 772 | 内黒土器椀 | — | (6.2) | — | 角閃石、 (内)黒 (外)黄褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 オサエ、ヨコナデ | B区 土壙6 |
| 773 | 内黒土器椀 | — | (6.2) | — | 角閃石・長石、 (内)淡い黒 (外)淡赤褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ、底部糸切 り | B区 土壙6 |
| 774 | 内黒土器椀 | — | 7.3~7.4 | — | 角閃石、 (内)白っぽい褐色~黒色 (外)淡黄褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ | B区 土壙6 |
| 775 | 内黒土器椀 | — | (7.4) | — | 長石、 (内)黒色 (外)淡橙褐色 | — | 内面 横方向のミガキ、斜め方向 のミガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ、底部糸切 り | B区 土壙6 |
| 776 | 内黒土器椀 | — | (7.0) | — | 長石・角閃石・金雲母、 (内)黒 (外)淡赤褐色 | 円盤状高台 | 内面 不定方向のナデ後ミガキ、 底部にユビオサエ 外面 ミガキ、ヨコナデ、底部糸切 り | B区 土壙6 |
| 777 | 内黒土器椀 | — | 7.4 | — | 長石・角閃石、 (内)黒色 (外)黄白色 | 円盤状高台 | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壙6 |
| 778 | 内黒土器椀 | — | (7.0) | — | 長石・角閃石、 (内)黒 (外)淡橙色 | 円盤状高台 | 内面 ミガキ、ユビナデ 外面 ミガキ、ヨコナデ、底部糸切 り | B区 土壙6 |
| 779 | 内黒土器椀 | — | (7.0) | — | 角閃石・長石、 (内)黒 (外)黄白色 | 円盤状高台 | 内面 横方向のミガキ、斜めのミ ガキ 外面 ミガキ、ヨコナデ、底部糸切 り | B区 土壙6 |
| 780 | 黒色土器椀 | — | 7.6 | — | 角閃石・長石、 黒色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 ミガキ、底面にユビナデ、ユ ビオサエ跡もあり 外面 回転ナデ、ヨコナデ、底部 糸切り後板状圧痕 | B区 土壙6 |
| 781 | 土師器鉢 | (20.4) | — | — | 角閃石・長石、 橙褐色 | 口縁部わずかに内湾 | 内面 ヨコナデ、斜めのナデ 外面 ヨコナデ、ユビナデ | B区 土壙6 |
| 782 | 土師器鉢 | (19.8) | — | — | 角閃石・長石、 橙褐色(外面一部すず付着) | 口縁部わずかに内湾 | 内面 ヨコナデ、回転ユビナデ 外面 ヨコナデ、回転ユビナデ | B区 土壙6 |
| 783 | 土師器甕 | (12.4) | — | — | 角閃石・石英、 橙褐色 | 口縁部くの字状に強く折れる | 内面 ヨコナデ、回転ナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | B区 土壙6 |

第520図 土壙165(3)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|-----------------------------------|---------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 784 | 土鍋 | (28.4) | — | — | 石英・角閃石・長石・金雲母、 (内)暗褐色 (外)褐色 | 口縁部は強く折れる 体部球形気味 | 内面 ヨコナデ、横方向のユビナ デ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ、ユビナデ、ユビオ サエ | B区 土壙6 |
| 785 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 赤褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 ヨコナデ、ユビナデ 外面 雑なヨコナデ、ユビナデ | B区 土壙6 |
| 786 | 土鍋 | — | — | — | — | 口縁部短く折れる | 内外面剥落のため調整 | B区 土壙6 |
| 787 | 土鍋 | (16.2) | — | — | 長石・角閃石、 (内)赤褐色 (外)茶褐色 | 口縁部短く折れる | 内面 ヨビオサエ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ | B区 土壙6 |
| 788 | 土鍋 | — | — | — | 白色粒子・石英・長石・角閃石、 橙褐色(一部黒斑あり) | — | 縦方向にヘラナデ | B区 土壙6 |
| 789 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 黄褐色、褐色(一部橙色) | — | 部分的にユビオサエあり | B区 土壙6 |

第521図 土壙165(4)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|-----------------------|-----------|------------------------------|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 790 | 製塩土器 | (56.6) | — | — | 長石・角閃石、 橙褐色、口縁部は橙色 | 口縁端部が短く内傾 | 内面 布目、ユビオサエ 外面 ユビナデ、ユビオサエ | B区 土壙6 |

第525図 土壙168

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|----------------------------------|-----------------|-----------------------------------|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 791 | 土師質土器杯 | — | — | — | 角閃石、 ピンクがかった淡褐色 二次焼成を受ける | — | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、ナデ | B区 土壙9 |
| 792 | 土師器椀 | — | (7.8) | — | 角閃石・長石・赤色粒子、 (内)薄い黒 (外)淡橙色 | 断面長方形の高台が外開き気味に | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、高台貼付け、底部ナデ | B区 土壙9 |

第527図 土壙169

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|--|-------|---------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 793 | 土鍋 | — | — | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子・ 茶色粒子、 (内)茶褐色 (外)暗褐色 | — | 内面 回転ココナデ 外面 回転ナデ、ユビナデ | B区 土壙10 |

第530図 土壙171

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|------------|-------|------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 794 | 土師器杯 | (12.2) | — | — | 金雲母、 橙色 | — | 内外面 回転ユビナデ | B区 土壙12 |

第534図 土壙174

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|-----------------------------------|----------------------|----------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 795 | 土鍋 | (43.8) | — | — | 角閃石・長石、 (内)橙褐色 (外)茶褐色(すず付着) | 口縁部くの字状に外傾 体部球形気味 | 内面 ココナデ、ハケ目、ナデ 外面 ココナデ、ナデ、ケズリ | B区 土壙15 |

第538図 土壙177

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|----------------|------------------|--------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 796 | 土師質土器 小皿 | (7.6) | (6.2) | 1.2 | 角閃石・長石、 黄褐色 | 体部の立ちあがりは比較的シャープ | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 土壙18 |

第540図 土壙178

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|----|----|------------|-------|------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 797 | 土師器椀 | (14.6) | — | — | 石英、 黄褐色 | — | 内外面 ココナデ後横方向のミガキ | B区 土壙19 |

第542図 土壙179

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|-----------------------------|-----------------------|---|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 798 | 土師質土器 小皿 | (10.2) | (6.0) | 1.5 | 長石、 暗黄褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ココナデ、底部糸切り | B区 土壙20 |
| 799 | 内黒土器杯 | — | (8.0) | — | 長石、 (内)黒色 (外)橙褐色 | — | 内面 ミガキ 外面 ナデ、底部切り離し後ナデ | B区 土壙20 |
| 800 | 内黒土器椀 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)暗橙褐色 | 断面長方形の高台が外開きにはり 付く | 内面 まばらなミガキ 外面 ナデ、高台貼付け後ナデ、 底部糸切り? | B区 土壙20 |

第543図 土壙180

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|--------------------------------|-----------------------------|---|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 801 | 土師質土器杯 | — | 8.4 | — | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部斜方向に立ち上がる | 内面 回転ココナデ 外面 回転ココナデ、底部糸切り、 板状圧痕 | B区 土壙21 |
| 802 | 土師器椀 | — | (8.0) | — | 角閃石・長石、 橙褐色 | 断面三角形の高台が付される | 内面 ナデ(調整粗い) 外面 ココナデ、高台貼付け後ナ デ、底部糸切り | B区 土壙21 |
| 803 | 内黒土器椀 | — | (7.4) | — | 長石・金雲母、 (内)黒色 (外)淡橙褐色 | 断面三角形の高台が付される 体部下にツバ状のもの | 内面 ナデ 外面 回転ナデ、高台貼付け | B区 土壙21 |
| 804 | 内黒土器椀 | — | (7.2) | — | 斜長石、 (内)黒色 (外)黄褐色 | 断面三角形の高台が付される | 内面 ミガキ、底面不定方向ナデ 外面 ココナデ、高台貼付け後ナ デ | B区 土壙21 |
| 805 | 土鍋 | (29.6) | — | — | 角閃石、 (内)暗褐色 (外)黒褐色(すず付着) | 口縁部外方に折れる | 内外面 ココナデ、オサエ、ナデ | B区 土壙21 |

第546図 土壙181

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|----|----------------------------|--------------|---------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 807 | 土師質土器杯 | (14.6) | — | — | 角閃石、 黄褐色 | — | 内外面 回転ナデ | B区 土壙22 |
| 808 | 土師質土器杯 | — | (7.6) | — | 角閃石・長石、 (内)淡橙色 (外)橙色 | 体部は斜方向に立ち上がる | 内外面 回転ナデ 底部糸切り | B区 土壙22 |
| 809 | 土師質土器杯 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石、 赤褐色 | 体部は斜方向に立ち上がる | 内外面 回転ナデ 底部糸切り後板状圧痕 | B区 土壙22 |
| 810 | 土師質土器杯 | — | (7.2) | — | 角閃石・金雲母、 橙褐色 | — | 内外面 回転ナデ 底部はへら切りの可能性あり | B区 土壙22 |
| 811 | 土師器椀 | — | (6.6) | — | 赤色粒子・角閃石・長石、 淡橙色 | 円盤状高台 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 土壙22 |
| 812 | 内黒土器椀 | — | (7.8) | — | 角閃石、 (内)黒色 (外)淡橙色 | 円盤状高台 | 内面 回転ナデ 外面 ナデ、底部糸切り後板状圧 痕 | B区 土壙22 |

第547図 土壙182

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|------|---------|-------|-----|-------------------------|--------|------------------------------|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 813 | 瓦器小皿 | (8.2) | (6.2) | 1.7 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡明橙色 | 体部直立気味 | 内面 回転ココナデ 外面 回転ココナデ、底部糸切り | B区 土壙25 |

| | | | | | | | | |
|-----|------|--------|-------|-----|--------------------------------|-------------------|--|------------|
| 814 | 瓦器椀 | — | (6.6) | — | 角閃石・長石・砂粒、 灰白色、灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壌25 |
| 815 | 瓦器椀 | (15.4) | (7.2) | 5.9 | 砂粒・角閃石・長石・石英、 暗灰白色、灰白色、黒灰色 | 口縁部外面重ね焼痕 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壌25 |
| 816 | 瓦器椀 | (14.8) | — | — | 砂粒・長石・白色粒子・茶色粒 子、 灰色、灰白色 | 口縁部外面重ね焼き | 内外面 回転ヨコナデ | B区 土壌25 |
| 817 | 須恵器壺 | (38.0) | — | — | 砂粒・長石・白色粒子・石英、 明灰色 | 口縁端部は平坦で、口縁帯を形成 | 内面 斜めのハケ目、斜めのヘラ ナデ 外面 横方向のヘラナデ、横ハケ 目、平行タキ | B区 土壌25 |

第550図 土壌183

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|----|------------------------------|-------|-------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 818 | 瓦器椀 | — | (7.4) | — | 長石・角閃石、 (内)灰白色 (外)暗橙褐色 | 底部平底 | 内面 ナデ、不定方向ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壌26 |

第552図 土壌184

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|-----|------------------------------|------------------|-------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 819 | 土師質土器杯 | — | (8.2) | — | 長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりは比較的シャープ | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壌27 |
| 820 | 土師質土器 小皿 | (8.4) | (6.5) | 1.4 | 金雲母・長石、 褐色、(外面底部)暗橙褐色 | 体部は丸みを持ち立ち上がる | 内面 ヨコナデ、底部ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壌27 |
| 821 | 瓦器椀 | — | (7.2) | — | 金雲母・長石、 (内)暗灰褐色 (外)灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 土壌27 |

第554図 土壌185

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|----|-------------------------------------|---------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 822 | 土師質土器杯 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石・赤色粒子・石英、 淡橙褐色 | 体部は丸みを持ち立ち上がる | 内面 ミガキ? 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナ デ | B区 土壌29 |
| 823 | 瓦質土器 こね鉢 | — | (9.4) | — | 石英・長石・砂粒、 (内)橙色がかった淡灰色 (外)ピンク | — | 内面 回転ナデ、横方向にナデ 外面 ヘラ状工具のケズリ、底部 切り離し後ナデ | B区 土壌29 |

第557図 土壌187

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|----|----|---------------------------------|--------------------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 824 | 土鍋 | (18.8) | — | — | 角閃石・長石、 褐色～黒褐色 | 体部直立 | 内外面 回転ユビナデ | B区 土壌31 |
| 825 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 橙褐色、暗灰色、白っぽい橙 色 | — | ナデ、縦方向のナデ | B区 土壌31 |
| 826 | 瓦質土器土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・金雲母、 (内)淡灰褐色 (外)黒色 | — | 内面 ヘラ状のものでミガキ後ナ デ 外面 格子タキ? | B区 土壌31 |
| 827 | 須恵器壺 | — | — | — | 長石、 灰色 | — | 内面 ヨコナデ、回転ナデ 外面 格子目タキ、タキの上 からヨコナデ | B区 土壌31 |
| 828 | 瓦質土器壺 | (45.0) | — | — | 角閃石・長石・白色粒子、 暗灰色 | 口縁は短くくの字状に折れる 口縁部は上下にわずかに拡張 | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ、 横方向のハケ目 外面 ヨコナデ、横方向のナデ、 ハケ目 | B区 土壌31 |

第560図 土壌188

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|---------------|---------|-------|-------|--------------------------------|-----------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 830 | 土師質土器 小皿 | (7.0) | (5.2) | (1.3) | 角閃石・長石、 淡橙褐色 | 体部はやや丸みをもち立ちあがる | 内面 回転ユビナデ、底部不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、ナデ | B区 土壌32 |
| 831 | 土師質土器 小皿 | (7.0) | (4.8) | 1.4 | 長石、 橙褐色 | 体部はやや丸みをもち立ちあがる | 内面 回転ユビナデ、底部不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 土壌32 |
| 832 | 土師器 ミニチュア壺 | (4.8) | — | — | 角閃石、 橙褐色 | 手づくね | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ユビナデ | B区 土壌32 |
| 833 | 瓦器椀 | — | (7.4) | — | 角閃石・石英、 淡青灰色 | 底部平底 | 内面 回転ナデ、ユビオサエ痕 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 土壌32 |
| 834 | 白磁碗 | (15.8) | — | — | 灰色がかった白色釉、 貫入あり | 玉縁口縁 | 内外面 施釉 体部下半露胎 | B区 土壌32 |
| 835 | 青磁碗 | (15.2) | — | — | 灰色がかった薄い緑色の釉 | — | 外面 蓮弁文 | B区 土壌32 |
| 836 | 土鍋 | (22.0) | — | — | 長石・白色粒子、 (内)灰白色 (外)灰～暗灰色 | 口縁下に突帯 | 内面 横方向のユビナデ 外面 ヨコナデ(突帯上)、ナデ(突 帯以下) | B区 土壌32 |
| 837 | 土鍋 | (24.4) | — | — | 角閃石・石英、 淡橙褐色 | 口縁端部外面に突帯 | 内面 横方向のナデ 外面 ヨコナデ、横方向のユビナ デ、突帯貼付け | B区 土壌32 |

第562図 土壌189

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|----|--|-------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 838 | 瓦器椀 | — | — | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡灰色 | 低い高台が付される | 内面 ミガキ・ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、回転ナデ、 底部切り離し不明 | B区 土壌100 |
| 839 | 瓦器椀 | — | — | — | — | 底部平底 | 内外面 ナデ | B区 土壌100 |
| 840 | 瓦器椀 | — | — | — | 砂粒・長石・白色粒子、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ユビナデ、ユビナデ 外面 斜め・横方向のヘラミガ キ?、底部糸切り | B区 土壌100 |
| 841 | 土鍋 | (25.2) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 白色粒子、 淡褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 横・斜め方向のハケ目 外面 ヨコハケナデ、斜めハケ目 | B区 土壌100 |
| 842 | 土鍋 | — | (6.8) | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 (内)暗黄白色 (外)淡褐色(すず付着) | 口縁部短く折れる | 内面 ヨコハケ目 外面 ヨコハケ目、タテハケ目 | B区 土壌100 |
| 843 | 瓦質土器 こね鉢 | (10.6) | — | — | 砂粒・長石・白色粒子、 灰白色 | — | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区 土壌100 |

| | | | | | | | | |
|-----|------|---|-------|---|--------------------------------|---------|--|-------------|
| 844 | 土師質甕 | — | (7.4) | — | 角閃石・長石・砂粒、 (内)暗灰色 (外)淡褐色 | 口縁部強く外反 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 土壇100 |
|-----|------|---|-------|---|--------------------------------|---------|--|-------------|

第563図 土壇190

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-----|---------|-----|----|--------------------------------------|---------------|---------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 845 | 瓦器椀 | (14.5) | — | — | 角閃石、 (外)暗灰白色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり | 内外面 回転ユビナデ | B区 土壇101 |
| 846 | 瓦器椀 | — | 5.5 | — | 淡黄褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、高台貼付け、底 部糸切り | B区 土壇101 |
| 847 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・石英、 (内)暗褐色 (外)暗褐色(すず付着) | 口縁部緩やかに外反 | 内面 ヨコハケ、ヨコナデ、横・斜 め方向のハケ 外面 ヨコナデ | B区 土壇101 |

第565図 土壇191

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|---------|-----------------|----------------|-------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 849 | 土師質土器杯 | — | (8.6) | — | 長石、 暗褐色 | 体部は直立気味 | 内面 回転ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | B区 土壇102 |
| 850 | 土師質土器 小皿 | (7.6) | (8.6) | 1.1 | 長石・角閃石、 暗茶褐色 | 体部は直立気味 | 内外面 ヨコナデ 底部糸切り | B区 土壇102 |
| 851 | 土師質土器 小皿 | 8.3 | 6.8 | 0.9~1.0 | 長石・石英、 淡褐色 | 体部の立ちあがりはやや斜方向 | 内外面 ナデ 底部糸切り | B区 土壇102 |
| 852 | 土師質土器 小皿 | (9.2) | (8.2) | 1.1 | 角閃石、 暗黄褐色 | 体部は直立気味 | 内外面 ヨコナデ 底部糸切り | B区 土壇102 |
| 853 | 瓦器椀 | — | (6.2) | — | 角閃石・長石、 暗灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壇102 |
| 854 | 瓦器椀 | — | (6.4) | — | 角閃石・斜長石、 灰色 | 低い高台をはり付け | 内面 ナデ 外面 ユビオサエ後横方向のミ ガキ、底部糸切り | B区 土壇102 |

第567図 土壇192

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|-------------|---------|-------|---------|--------------|-----------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 858 | 土師質土器 小皿 | (9.2) | (6.3) | 1.3 | 角閃石、 暗褐色 | 体部の立ちあがりやや丸みをもつ | 内面 回転ナデ、不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後一 部ナデ | B区 土壇103 |
| 859 | 土師質土器 小皿 | (9.0) | (7.1) | 1.1 | 石英、 黄褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ナデ、底部一方向ナ デ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 土壇103 |
| 860 | 土師質土器 小皿 | 9.4 | 6.6 | 1.2~1.4 | 角閃石、 暗赤褐色 | 体部は緩やかに立ちあがり、内湾気 味 | 内面 回転ナデ、底部不定方向 ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナ デ | B区 土壇103 |
| 861 | 土師器椀 | (16.6) | (6.4) | 6.3 | 赤褐色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ナデ 外面 ミガキ | B区 土壇103 |
| 862 | 瓦器椀 | (15.8) | (7.2) | 6.0 | 灰白色 | 底部平底 | 内外面 ナデ | B区 土壇103 |

第569図 土壇193

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|-----|-----|---|------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 863 | 土師質土器杯 | (16.0) | 8.0 | 4.1 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色 (内底)灰褐色 (外底)明褐色 | 器高が高く、体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ、 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壇110 |
| 864 | 土師質土器杯 | (13.8) | 8.6 | 2.6 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡明褐色 | 体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 土壇110 |

第571図 土壇194

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|---------|---------|-------|-----|---------------------------|-----------|------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 865 | 土師器杯 | (14.2) | (7.6) | 4.5 | 長石・赤色粒子・角閃石、 褐色(底部 褐色) | — | 内外面 回転ユビナデ 底部糸切り | B区 土壇12 |
| 866 | 瓦器ニチャア椀 | (7.0) | (3.8) | 2.4 | 長石・金雲母、 暗灰色 | 低い高台をはり付け | 内面 ヨコナデ、回転ナデ、底部 不定方向ナデ | B区 土壇12 |
| 867 | 須恵器こね鉢 | — | — | — | 長石、 薄い灰色(口縁部外面青灰色) | 口縁端部上方に拡張 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | B区 土壇12 |
| 868 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 黒褐色~黒色 | 口縁下に突帯 | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | B区 土壇12 |

第574図 土壇195

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|----|---------|----|----|--------------|-----------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 869 | 土鍋 | (23.0) | — | — | 石英、 黄~橙褐色 | 口縁上面に段が付く | 内面 ハケによる横方向のナデ、 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | B区 SX-2 |

第576図 土壇196

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|---------|---------|--|--------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 870 | 土師質土器杯 | (13.0) | 3.5 | 7.4~7.8 | 赤色砂粒・長石・角閃石、 (内)薄い橙褐色 (外)橙褐色 | 体部の立ちあがり丸みをもち斜方 向にのびる | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 SX-1 |
| 871 | 土師質土器杯 | 13.0 | 3.4~3.5 | 7.0 | 角閃石・長石・赤色粒子、 (内)にぶい橙褐色 (外)にぶい橙褐色とやや明るめ の色が斑になっている | 体部内湾気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後ナデ消し?、角を上にて上げ ている | B区 SX-1 |
| 872 | 土師質土器杯 | 13.0 | (8.8) | 3.1 | 角閃石・長石・赤色粒子、 薄い橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ナデ(へろ?)、底部糸 切り | B区 SX-1 |
| 873 | 瓦器椀 | 16.2 | 6.6 | 5.9 | 角閃石・石英、 (口縁部)青灰色 (その他)灰白色 | 断面方形の低い高台をはり付け | 内面 不鮮明なミガキ 外面 ミガキ、底部糸切り | B区 SX-1 |
| 874 | 瓦器椀 | (15.0) | (6.4) | 5.3 | 角閃石・金雲母・石英、 灰褐色(一部灰白色) | 底部平底 | 内面 ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 SX-1 |
| 875 | 瓦器椀 | — | (7.0) | — | 白色粒子・長石・石英、 (内)灰色 (外)明るめの灰色 | 底部平底 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 SX-1 |

| | | | | | | | | |
|-----|--------|--------|---|---|-----------------------|-------|--|------------|
| 876 | 須恵器こね鉢 | (29.0) | — | — | 石英、 灰色(外面口縁部のみ青灰色) | 口縁玉縁状 | 内面 ヨコナデ後斜め方向のナデ 外面 回転ナデ利用のヨコナデ、 ヨコナデの上から不定方向ナデ | B区 SX-1 |
|-----|--------|--------|---|---|-----------------------|-------|--|------------|

第578図 溝1(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|--------|-------|---|-----------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 877 | 土師質土器杯 | (12.2) | 7.2 | 3.3 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、 明褐色 | 底部は厚みをもち、体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 878 | 土師質土器杯 | (11.8) | (7.6) | (3.2) | 砂粒・長石・茶色粒子・白色粒 子・石英、 明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 879 | 土師質土器杯 | (13.2) | (7.4) | 3.3 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、 淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 880 | 土師質土器杯 | (15.4) | (13.6) | 2.7 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、 淡明褐色、明褐色(彩色) | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 881 | 土師質土器杯 | (12.8) | (7.2) | 3.1 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 882 | 土師質土器杯 | (13.0) | (6.6) | 3.2 | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・砂粒、 淡茶褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 883 | 土師質土器杯 | — | 7.4 | — | 長石・茶色粒子・白色粒子、 明褐色(明るいレンガ色) | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 884 | 土師質土器杯 | (13.2) | (7.6) | 3.3 | 砂粒・長石・茶色粒子・石英・角 閃石・金雲母、 淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 885 | 土師質土器杯 | (13.4) | (7.4) | 3.2 | 砂粒・長石・茶色粒子、 淡褐色、黒灰色(一部) | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 886 | 土師質土器杯 | (13.2) | (7.0) | 3.2 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 887 | 土師質土器杯 | (13.0) | (6.8) | 3.3 | 砂粒・長石・茶色粒子、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 888 | 土師質土器杯 | (13.2) | (7.4) | 3.7 | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲 母、 淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 889 | 土師質土器杯 | (13.6) | 6.6 | 3.8 | 砂粒・角閃石・長石・赤色粒子、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 890 | 土師質土器杯 | (13.4) | (6.4) | 3.2 | 角閃石・長石・茶色粒子、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 891 | 土師質土器杯 | — | (7.6) | — | 長石・茶色粒子、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 892 | 土師質土器杯 | 13.8 | 7.4 | 3.6 | 長石・茶色粒子、 明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 893 | 土師質土器杯 | (14.0) | (8.0) | 3.6 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・ 金雲母、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 894 | 土師質土器杯 | (14.4) | (8.0) | 3.5 | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲 母、 暗褐色、淡茶褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 895 | 土師質土器杯 | 14.0 | 7.4 | 3.5 | 角閃石・長石・金雲母、 灰白色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 896 | 土師質土器杯 | (13.8) | 7.0 | 3.9 | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲 母・砂粒、 やや褐色がかかった淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 丁寧なナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ | B区溝1 |
| 897 | 土師質土器杯 | (14.4) | 7.2 | 3.2 | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲 母、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区溝1 |

第579図 溝1(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------|---------|-------|---------|---------------------------------------|-----------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 898 | 土師質土器杯 | 13.6 | 7.4 | 3.4 | 長石・白色粒子・茶色粒子、 灰白色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 899 | 土師質土器杯 | 14.1 | 7.6 | 3.9 | 長石・角閃石・茶色粒子、 明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 900 | 土師質土器杯 | (13.4) | (7.4) | 3.7 | 長石・茶色粒子・石英・金雲母、 淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 901 | 土師質土器杯 | (13.8) | (7.3) | 3.7 | 長石・茶色粒子・金雲母、 淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 902 | 土師質土器杯 | 14.0 | 8.0 | 3.8 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 903 | 土師質土器杯 | (14.8) | (8.1) | 3.3 | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、 明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 904 | 土師質土器杯 | (14.0) | 7.5 | 4.0 | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・灰色粒子・石英、 淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 905 | 土師質土器杯 | 14.0 | 7.8 | 3.5~4.0 | 長石・石英・金雲母、 橙褐色(すす付着) | 877と同様な器形 | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ 後一方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ユ ビナデ | B区溝1 |
| 906 | 土師質土器杯 | (13.8) | 7.3 | 3.6~4.4 | 長石・茶色粒子、 明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 907 | 土師質土器杯 | (15.8) | (7.6) | 3.8 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、 (内)淡明褐色 (外)淡褐色 | 底部はあまり厚くなく、体部内湾 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |

| | | | | | | | | |
|-----|---------|--------|-------|-----|------------------------------|----------------------|--|------|
| 908 | 土師質土器杯 | (14.4) | 7.8 | 3.9 | 長石・茶色粒子・石英・金雲母、明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 909 | 土師質土器杯 | 14.2 | 7.6 | 3.9 | 長石・茶色粒子、明淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 910 | 土師質土器杯 | (14.4) | (7.4) | 3.5 | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲母、淡褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り後ユビナデ | B区溝1 |
| 911 | 土師質土器杯 | (13.4) | 7.2 | 3.5 | 長石・茶色粒子・金雲母、淡明褐色 | 877と同様な器形 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 912 | 土師質土器杯 | (13.4) | 7.6 | 3.8 | 角閃石・長石 | 877と同様な器形 | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ後不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 913 | 土師質土器杯 | (15.6) | — | — | 角閃石・長石・白色粒子・茶色粒子・石英・金雲母、明淡褐色 | 器高低く、体部内湾 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 914 | 土師質土器小皿 | 9.1 | 6.6 | 1.8 | 砂粒・長石・茶色粒子・白色粒子、淡褐色、明褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 915 | 土師質土器小皿 | 6.9 | 5.4 | 1.1 | 長石・角閃石・石英、橙褐色 | 体部の立ちあがりは比較的シャープ | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ後ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 916 | 土師質土器小皿 | (8.2) | (6.2) | 1.4 | 角閃石・長石・茶色粒子・白色粒子、淡褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 917 | 土師質土器小皿 | (8.6) | (7.4) | 1.2 | 角閃石・長石・茶色粒子・黒色粒子、明褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 918 | 土師質土器小皿 | (8.0) | (6.0) | 1.2 | 砂粒・長石・茶色粒子・金雲母、淡灰褐色、内面一部暗灰色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 919 | 土師質土器小皿 | (7.6) | (5.8) | 1.2 | 角閃石・長石・茶色粒子、明褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 920 | 土師質土器小皿 | 8.8 | 6.4 | 1.5 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・金雲母、淡明褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 921 | 土師質土器小皿 | (8.0) | (6.2) | 1.2 | 長石・茶色粒子・砂粒、淡褐色(外)淡明褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 922 | 土師質土器小皿 | (8.3) | (6.4) | 1.5 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、淡明褐色 | 体部の立ちあがりは比較的シャープ | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 923 | 土師質土器小皿 | 9.4 | 6.6 | 1.2 | 角閃石・長石・茶色粒子、乳白色 | 体部は緩やかに立ちあがり、斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区溝1 |
| 924 | 土師質土器小皿 | 7.6 | 5.8 | 1.2 | 角閃石・長石、淡橙褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |

第580図 溝1(3)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|---------|---------|-------|---------|--------------------------------------|------------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 925 | 土師質土器小皿 | (8.2) | (5.8) | 1.5 | 角閃石・長石・金雲母、(内)黒灰色(外)明橙赤褐色、黒灰色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 926 | 土師質土器小皿 | 8.1 | 6.1 | 1.5 | 長石・茶色粒子、淡褐色 ほぼ全面に彩色あり | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 927 | 土師質土器小皿 | 8.2 | 6.4 | 1.0~1.2 | 角閃石・長石・石英、橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ナデ後ユビナデ、底部回転ナデ 外面 回転ナデ後ユビナデ、底部糸切り後ナデ | B区溝1 |
| 928 | 土師質土器小皿 | (7.4) | 5.6 | 1.0 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、明褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 929 | 土師質土器小皿 | (8.0) | (6.8) | 1.0 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・金雲母、淡明褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部クロ目 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 930 | 土師質土器小皿 | (7.4) | 5.4 | 1.3 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、明褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 931 | 土師質土器小皿 | (8.0) | 6.0 | 1.3 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、明橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 932 | 土師質土器小皿 | (8.0) | (5.8) | 1.1 | 長石・石英・金雲母、明褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 933 | 土師質土器小皿 | (8.0) | (6.4) | 1.2 | 長石・金雲母、灰白色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り後板状圧痕、指圧痕 | B区溝1 |
| 934 | 土師質土器小皿 | 8.8 | 7.2 | 1.2 | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲母、明褐色、黒灰色(すず) | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区溝1 |
| 935 | 土師質土器小皿 | 8.3 | 6.2 | 1.3 | 長石・茶色粒子、淡明褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 936 | 土師質土器小皿 | 8.0 | 6.4 | 1.2 | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子・石英・金雲母、淡褐色、明褐色(表面に彩色) | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 937 | 土師質土器小皿 | 7.2 | 5.9 | 1.3 | 角閃石・長石・石英、橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 938 | 土師質土器小皿 | 7.2 | 5.8 | 1.3 | 長石・金雲母、淡褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 939 | 土師質土器小皿 | 8.0 | 6.4 | 1.3 | 長石・茶色粒子、明淡褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 940 | 土師質土器小皿 | 10.0 | 7.2 | 1.3 | 角閃石・長石・白色粒子・茶色粒子・石英、灰白色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区溝1 |

| | | | | | | | | |
|-----|-------------|--------|-------|-----|---|--|---|------|
| 941 | 土師質土器 小皿 | 8.2 | 6.5 | 1.2 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・石英、 明褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 942 | 土師質土器 小皿 | (8.4) | (6.4) | 1.3 | 砂粒・長石・茶色粒子・石英・金 雲母、 淡褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 943 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | 6.2 | 1.4 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 944 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | (8.4) | 1.2 | 砂粒・長石・茶色粒子・石英、 淡茶褐色(一部明褐色) | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 945 | 土師質土器 小皿 | (6.6) | (8.8) | 1.8 | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子、 淡灰色 | やや器高が高く、体部は直立気味 | 内面 回転ヨコナデ、内底ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 946 | 土師質土器 小皿 | 8.0 | 6.7 | 1.1 | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部はシャープに立ちあがり体部外 反 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 947 | 土師質土器 小皿 | 7.8 | 6.2 | 1.3 | 角閃石・長石・石英、 橙褐色 | 体部下は丸みをもち口縁やや外反 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 948 | 土師質土器 杯 | 8.5 | 6.6 | 1.2 | 長石・茶色粒子・石英・白色粒 子、 淡褐色～明褐色 | 体部わずかに外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 949 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | 7.0 | 1.0 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・ 白色粒子、 明褐色 | 体部はシャープに立ちあがり体部は やや外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 950 | 土師質土器 小皿 | 8.9 | 1.4 | 1.6 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 茶灰褐色(一部淡桃色) | 体部外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 951 | 土師質土器 小皿 | 8.2 | 6.4 | 1.2 | 角閃石・長石・茶色粒子、 黄白色 | 体部外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区溝1 |
| 952 | 土師質土器 小皿 | (7.8) | 5.8 | 1.4 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 明茶褐色 | 体部わずかに外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 953 | 土師質土器 小皿 | 8.6 | 6.8 | 1.4 | 角閃石・長石・石英、 淡茶褐色(すず付着) | 体部わずかに外反気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 954 | 土師質土器 小皿 | (8.0) | (6.4) | 1.3 | 角閃石・長石・茶色粒子・金雲 母・石英・砂粒、 淡褐色 | 体部わずかに外反気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 955 | 土師質土器 小皿 | 8.6 | 7.0 | 1.3 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 明褐色 | 体部わずかに外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 956 | 土師器椀 | (11.4) | (4.8) | 3.5 | 長石・茶色粒子・灰色粒子・砂粒、 やや茶色がかった灰白色 | 断面三角形の高台をはり付け、体部下 に緩やかな稜をもち上半わずかに外 反気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、高台貼付け 後ユビナ、底部ユビナ | B区溝1 |
| 957 | 土師器椀 | (17.6) | (8.0) | - | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、 (内)黒灰色 (内・外の口縁部)明褐色 (外下部)淡褐色 | 断面長方形の高台をはり付ける | 内面 回転ヨコナデ、横方向のへ らミガキ 外面 回転ヨコナデ、高台部ユビ ナ | B区溝1 |
| 958 | 土師器椀 | (15.4) | - | - | 角閃石・茶色粒子、 明淡褐色 | - | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、斜め・横へらミガ キ | B区溝1 |

第581図 溝1(4)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|-----|--------------|---------|-------|-----|--|------------------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 959 | 土師器椀 | - | (6.2) | - | 砂粒・長石・茶色粒子、 淡褐色 | 断面長方形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビオ サエ、ユビナ 外面 回転ヨコナデ、底部へら記 号状 | B区溝1 |
| 960 | 土師器椀 | - | (6.4) | - | 長石・白色粒子、 淡茶褐色 | 断面長方形の高台を外開きにはり付 け | 内面 回転ヨコナデ、内底ユビナ 外面 回転ヨコナデ、ユビナ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 961 | 土師器椀 | - | (8.0) | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 明褐色、淡褐色 | 断面長方形の高台を外開きにはり付 け | 内面 ヨコへらミガキ、底部ユビナ 外面 回転ヨコナデ、ユビナ | B区溝1 |
| 962 | 土師器椀 | - | (8.2) | - | 角閃石・長石・茶色粒子、 (内)黒褐色 (外)淡褐色 | 断面長方形の高台を外開きにはり付 け | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナ | B区溝1 |
| 963 | 土師器椀 | - | (7.6) | - | 角閃石・茶色粒子、 淡褐色 (高台の一部)明褐色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 横方向のへらミガキ 外面 回転ヨコナデ、高台貼付け 後ナデ、ナデ | B区溝1 |
| 964 | 土師器椀 | - | (7.4) | - | 角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 横方向のへらミガキ 外面 回転ヨコナデ、ナデ、ユビナ デ | B区溝1 |
| 965 | 土師器椀 | - | (8.2) | - | 角閃石・長石・茶色粒子、 明褐色(二次焼成か?) | 断面方形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、内底ユビナ 外面 回転ヨコナデ、高台貼付 け、底部糸切り後ナデ? | B区溝1 |
| 966 | 土師器椀 | (15.0) | (7.4) | 6.2 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、 黒灰色 (外面一部)淡褐色 | 断面長方形の高台を外開きにはり付 け 口縁部わずかに外反 | 内面 ヨビナ、横へらミガキ 外面 ヨビナ、横へらミガキ、ユ ビオサエ | B区溝1 |
| 967 | 内黒土器椀 | - | (7.0) | - | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)淡褐色 | 断面長方形の高台を外開きにはり付 け | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 968 | 内黒土器椀 | - | (8.0) | - | 砂粒・角閃石・長石、 (内)黒灰色 (外)淡明褐色 | 断面長方形の高台を外開きにはり付 け | 内面 ミガキ、ユビナ 外面 横へらミガキ、ユビオサエ、 ユビナ | B区溝1 |
| 969 | 内黒土器椀 | - | (8.4) | - | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)淡褐色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 斜め・横のへらミガキ 外面 回転ヨコナデ、ユビナ | B区溝1 |
| 970 | 内黒土器椀 | - | (7.2) | - | 角閃石・長石、 (内)黒褐色 (外)明褐色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナ | B区溝1 |
| 971 | 内黒土器皿 | (7.6) | - | - | 角閃石・長石・石英・金雲母、 (内)黒色 (外)淡茶褐色(彩色か?) | 断面三角形の低い高台をはり付け | 内面 横方向のへらミガキ 外面 回転ヨコナデ、ナデ | B区溝1 |
| 972 | 楠葉型 黒色土器椀 | (14.6) | - | - | 角閃石・長石・砂粒、 黒褐色 | 口縁下に強いナデ | 内面 ヨビナ後横へらミガキ、 口縁部に一糸沈線あり 外面 ヨビナ後横へらミガキ 内面 回転ヨコナデ、ヨコナデ、ユ ビナ | B区溝1 |
| 973 | 瓦器椀 | (15.5) | (6.2) | 5.8 | 角閃石・長石、 暗灰色、灰白色 | 低い高台をはり付け | 外面 回転ヨコナデ、部分的にへ らミガキ、高台貼付け | B区溝1 |

| | | | | | | | | |
|-----|-----|--------|--------|-----|---|-----------------|--|------|
| 974 | 瓦器椀 | (15.8) | (6.6) | 6.0 | 角閃石・長石・白色粒子・茶色粒子、 (内)明橙色 (外)淡灰褐色、橙色 (二次焼成あり) | 低い高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区溝1 |
| 975 | 瓦器椀 | (14.6) | (5.6) | 5.4 | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 黒灰色、暗灰色、淡灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、横方向のヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、ユビオサエ、高台貼付け後ユビナデ | B区溝1 |
| 976 | 瓦器椀 | (5.8) | (14.9) | 6.4 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 暗灰色、灰白色 | 低い高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、横・斜めヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ、貼付け高台 | B区溝1 |
| 977 | 瓦器椀 | (16.0) | 7.0 | 6.2 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 黒灰色、灰白色、淡灰色 | 断面三角形の低い高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ | B区溝1 |
| 978 | 瓦器椀 | (6.6) | 7.0 | 6.3 | 角閃石・長石、 灰色、灰白色、暗灰白色 | 断面三角形に低い高台をはり付け | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ後ユビナデ 外面 回転ナデ、高台貼付け後ユビナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区溝1 |

第582図 溝1(5)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|-----|-----|---------|-------|---------|---|---------------------------------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 979 | 瓦器椀 | (12.2) | 6.4 | 4.1 | 角閃石・長石、 灰褐色 | やや小型品 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 不定方向ナデ、回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 980 | 瓦器椀 | 16.2 | 8.0 | 5.6 | 砂粒・長石・白色粒子、 灰色、淡灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で内湾気味の体部 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 981 | 瓦器椀 | (16.2) | (7.5) | 5.7 | 角閃石・長石、 暗灰白色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ後一方ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ | B区溝1 |
| 982 | 瓦器椀 | 15.4 | 7.4 | 5.5 | 角閃石・石英、 灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ後ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 983 | 瓦器椀 | (17.0) | (9.0) | 5.3 | 角閃石・長石・白色粒子・茶色粒子・石英・砂粒、 暗灰色、灰白色、灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 984 | 瓦器椀 | (16.0) | 7.4 | 5.5 | 長石・黒色粒子、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 985 | 瓦器椀 | (16.4) | 8.0 | 5.7 | 砂粒・長石・茶色粒子・白色粒子・石英、 明橙色、淡黄褐色 | 厚めの底部で、体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 986 | 瓦器椀 | (15.8) | 7.0 | 6.0 | 角閃石・長石・砂粒、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 987 | 瓦器椀 | (15.8) | 7.8 | 5.3~5.8 | 角閃石・長石・白色粒子・砂粒、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り後板状圧痕、ユビナデ | B区溝1 |
| 988 | 瓦器椀 | 16.3 | 8.0 | 5.8~5.9 | 長石・角閃石、 (外面・口縁部)黒色、 灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ナデ、底部不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 989 | 瓦器椀 | (15.6) | (7.8) | (6.2) | 長石・茶色粒子・石英、 淡褐色、暗灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 990 | 瓦器椀 | (16.2) | 7.6 | 6.3 | 角閃石・長石・石英、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 991 | 瓦器椀 | (15.9) | 7.2 | 6.5 | 角閃石・長石・白色粒子・石英・ 金雲母・茶色粒子、 淡褐色、暗灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 992 | 瓦器椀 | 15.6 | 7.2 | 5.9~6.0 | 砂粒・角閃石・白色粒子・茶色粒子、 灰白色、黒灰色 | 口縁部わずかに外反気味 | 内面 回転ヨコナデ後不定方向ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 993 | 瓦器椀 | (16.4) | (8.4) | 5.5 | 砂粒・角閃石・長石・石英・茶色粒子、 暗灰色、淡茶灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 994 | 瓦器椀 | (15.8) | (7.2) | 5.5 | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 暗灰色・灰白色・灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 995 | 瓦器椀 | (15.4) | 6.9 | 6.1 | 長石・角閃石、 暗灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区溝1・7 |
| 996 | 瓦器椀 | (15.0) | (7.2) | 5.8 | 砂粒・角閃石・長石、 灰白色、暗灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、荒いケズリ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り(不明瞭) | B区溝1 |

第583図 溝1(6)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-----|---------|-------|---------|---------------------------------|---------------------------------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 997 | 瓦器椀 | (15.6) | (7.6) | 5.9 | 長石、 暗灰白色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ後不定方向ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区溝1 |
| 998 | 瓦器椀 | (16.2) | 7.6 | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色、黒灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 999 | 瓦器椀 | 15.6 | 7.8 | 6.0 | 砂粒・長石・白色粒子・茶色粒子・石英、 暗灰白色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 不定方向のユビナデ 外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1000 | 瓦器椀 | (16.1) | 7.8 | 5.1~6.1 | 角閃石・長石・白色粒子・石英、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り後板状圧痕、指圧痕 | B区溝1 |

| | | | | | | | | |
|------|-----|--------|---------|-----|---|---------------------------------|---|-------|
| 1001 | 瓦器椀 | (16.4) | — | — | 砂粒・角閃石・長石、 (内)暗灰色、淡灰色 (外)淡灰褐色、黒灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1002 | 瓦器椀 | (15.6) | 7.2 | 5.5 | 長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 厚めの底部で、体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り、 圧痕 | B区溝10 |
| 1003 | 瓦器椀 | (15.0) | 7.6 | 6.8 | 角閃石・長石・白色粒子・石英、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1004 | 瓦器椀 | (15.8) | 7.4 | 6.2 | 砂粒・角閃石・長石・灰色粒子、 黒灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1005 | 瓦器椀 | (16.2) | 7.4 | 6.0 | 長石・茶色粒子・石英、 淡赤褐色 | 厚めの底部で、体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部不定方 向のユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1006 | 瓦器椀 | 16.0 | 8.0 | 6.1 | 長石、 灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ 後不定方向ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1007 | 瓦器椀 | 16.1 | 7.6 | 5.9 | 長石、 灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ナデ、底部回転ナデ 後一方ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板 状圧痕 | B区溝1 |
| 1008 | 瓦器椀 | (15.4) | 7.0 | 5.4 | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 暗灰色、淡灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1009 | 瓦器椀 | 16.0 | 5.8~6.2 | 8.1 | 角閃石・長石・石英、 (内)灰白色~黒色 (外)口縁部黒、その他灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1010 | 瓦器椀 | (15.0) | (7.8) | 6.2 | 角閃石・長石・石英、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区溝1 |
| 1011 | 瓦器椀 | (16.8) | 7.6 | 5.0 | 角閃石・長石・砂粒、 淡褐色、灰色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 ナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕、ユビナデ | B区溝1 |
| 1012 | 瓦器椀 | (16.0) | 7.4 | 6.0 | 長石・石英、 暗灰色、灰白色 | 口縁部外面に重ね焼き痕あり 厚めの底部で、体部は内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |

第584図 溝1(7)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-----|---------|----|----|---|--------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1013 | 瓦器椀 | (16.2) | — | — | 長石・茶色粒子・灰色粒子・砂 粒、 灰白色、灰色 | — | 内面 回転ヨコナデ、横へラムガ キ 外面 回転ヨコナデ後横・斜めへ ラムガキ | B区溝1 |
| 1014 | 瓦器椀 | (15.8) | — | — | 角閃石・長石・白色粒子・茶色 粒子、 (内)暗灰色、灰白色(二次焼成 有り) (外)暗灰色、明褐色 | — | 内面 丁寧なナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区溝1 |
| 1015 | 瓦器椀 | (8.0) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 黒灰色、暗灰色、灰白色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内面 丁寧なナデ 外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1016 | 瓦器椀 | (16.0) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 暗灰色、灰白色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1017 | 瓦器椀 | (16.6) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・石英・金 雲母、 淡灰褐色、黒灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1018 | 瓦器椀 | (16.0) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 暗灰色、淡灰色、灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1019 | 瓦器椀 | (15.8) | — | — | 砂粒・白色粒子・長石、 灰色、灰白色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ 外面下部にナデアゲ痕あり | B区溝1 |
| 1020 | 瓦器椀 | (15.2) | — | — | 砂粒・角閃石・長石、 暗灰色、灰白色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1021 | 瓦器椀 | (15.8) | — | — | 砂粒・角閃石・長石、 暗灰色、淡灰色、灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1022 | 瓦器椀 | (15.6) | — | — | 角閃石・長石・砂粒 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内面 丁寧なナデ 外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1023 | 瓦器椀 | (15.8) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 灰色、灰白色、淡灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1024 | 瓦器椀 | (14.6) | — | — | 長石・白色粒子、 明淡灰褐色 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1025 | 瓦器椀 | (14.8) | — | — | 砂粒・石英・白色粒子・長石、 淡灰色、灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1026 | 瓦器椀 | (16.4) | — | — | 砂粒・長石、 黒灰色、灰白色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、指圧痕 | B区溝1 |
| 1027 | 瓦器椀 | (16.2) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 暗灰色、灰白色、灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1028 | 瓦器椀 | (15.6) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 黒灰色、灰色、淡褐色、暗灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1029 | 瓦器椀 | 16.1 | — | — | 角閃石・長石・白色粒子・石英、 暗灰色、灰白色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部ナデ、 指圧痕 | B区溝1 |
| 1030 | 瓦器椀 | (16.2) | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、 黒灰色、淡灰褐色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ | B区溝1 |

第585図 溝1(8)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-----|---------|----|----|--------------------------------------|--------------------|-----------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1031 | 瓦器椀 | (14.6) | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、 (内)淡灰褐色 (外)黒灰色 | 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1032 | 瓦器椀 | (14.6) | — | — | 砂粒・角閃石・白色粒子、 暗灰色、淡灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ | B区溝1 |
| 1033 | 瓦器椀 | (15.0) | — | — | 角閃石・長石・白色粒子、 灰白色、灰色、暗灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |

| | | | | | | | | |
|------|-----|--------|-------|---|---|--------------------|---|------|
| 1034 | 瓦器椀 | (14.8) | — | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子・茶色粒子、 灰白色、暗灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1035 | 瓦器椀 | (15.0) | — | — | 砂粒・長石、 暗灰色、淡灰色 | 口縁部重ね焼き痕 体部内湾気味 | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1036 | 瓦器椀 | — | (6.2) | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 (内)灰白色、暗灰色 (外)灰白色、灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 斜め状のヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1037 | 瓦器椀 | — | (6.2) | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 灰白色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ | B区溝1 |
| 1038 | 瓦器椀 | — | (6.5) | — | 角閃石・長石・砂粒、 (内)淡灰色 (外)灰色 | 低い高台をはり付け | 内面 ユビナデ後ヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、高台貼付け 後ユビナデ、底部板状圧痕 | B区溝1 |
| 1039 | 瓦器椀 | — | 7.6 | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 明淡灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、 底部糸切り | B区溝1 |
| 1040 | 瓦器椀 | — | (7.8) | — | 角閃石・長石・白色粒子・石英・ 砂粒、 灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 丁寧なナデ、底部回転ナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1041 | 瓦器椀 | — | 6.4 | — | 角閃石・長石・白色粒子・金雲 母、 暗灰色、灰白色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1042 | 瓦器椀 | — | 7.5 | — | 角閃石・長石・石英、 灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1043 | 瓦器椀 | — | 6.5 | — | 角閃石・長石・砂粒、 灰白色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底面ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1044 | 瓦器椀 | — | 7.2 | — | 角閃石・長石・白色粒子、 黒灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 不明 外面 横方向のヘラミガキ、ユビ ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1045 | 瓦器椀 | — | (7.2) | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・ 石英 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1046 | 瓦器椀 | — | (7.2) | — | 砂粒・角閃石・長石、 明淡茶褐色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1047 | 瓦器椀 | — | 7.8 | — | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 淡灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1048 | 瓦器椀 | — | (7.0) | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1049 | 瓦器椀 | — | (7.0) | — | 角閃石・長石・白色粒子、 (内)暗灰色 (外)灰白色 (底部)暗灰色 | 断面三角形の高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1050 | 瓦器椀 | — | 7.2 | — | 長石・白色粒子、 セメント色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切 り、指圧痕 | B区溝1 |
| 1051 | 瓦器椀 | — | 7.4 | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1052 | 瓦器椀 | — | 7.4 | — | 長石、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1053 | 瓦器椀 | — | 7.4 | — | 角閃石・長石、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り、 指圧痕 | B区溝1 |
| 1054 | 瓦器椀 | — | 7.4 | — | 長石・石英、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1055 | 瓦器椀 | — | 7.2 | — | 砂粒・角閃石・長石、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、 底部糸切り | B区溝1 |
| 1056 | 瓦器椀 | — | 6.6 | — | 角閃石・長石・白色粒子・砂粒、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底面ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1057 | 瓦器椀 | — | 7.2 | — | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・ 金雲母、 (内)灰褐色 (外)白っぽい淡褐色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後圧痕またはヘラケズリ? | B区溝1 |
| 1058 | 瓦器椀 | — | (7.4) | — | 砂粒・角閃石・長石・石英、 暗灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1059 | 瓦器椀 | — | 7.2 | — | 長石・白色粒子、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り、 ユビナデ、指圧痕 | B区溝1 |
| 1060 | 瓦器椀 | — | 7.4 | — | 砂粒・角閃石・長石・石英、 (内)黒灰色 (外)明淡褐色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |

第586図 溝1(9)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-----|---------|-------|----|--------------------------------------|-------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1061 | 瓦器椀 | — | (7.6) | — | 砂粒・角閃石・長石・灰色粒子、 黒灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝1 |
| 1062 | 瓦器椀 | — | 7.4 | — | 長石・白色粒子・茶色粒子、 明灰白色、暗灰色 内底のみ灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、不定方向の ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |

| | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-----|------------------------------|------------------------|---|------|
| 1063 | 瓦器碗 | - | (7.0) | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・白色粒子、淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1064 | 瓦器碗 | - | 7.6 | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1065 | 瓦器碗 | - | 7.6 | - | 長石、淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1066 | 瓦質土器碗 | - | 7.0 | - | 角閃石・長石、明淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り、板状圧痕 | B区溝1 |
| 1067 | 瓦器碗 | - | 6.8 | - | 角閃石・長石、黒灰色、淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り、圧痕 | B区溝1 |
| 1068 | 瓦器碗 | - | 7.6 | - | 角閃石・長石、淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り、圧痕 | B区溝1 |
| 1069 | 瓦器碗 | - | 7.8 | - | 角閃石・長石・白色粒子・石英、暗灰白色、淡黄褐色、灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1070 | 瓦器碗 | - | 6.6 | - | 長石・茶色粒子、灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1071 | 瓦器碗 | - | (7.0) | - | 砂粒・角閃石・長石・灰色粒子、明淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区溝1 |
| 1072 | 瓦器碗 | - | 8.0 | - | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒、黒色、淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、内底ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り後ユビナデ | B区溝1 |
| 1073 | 瓦器碗 | - | 7.6 | - | 砂粒・角閃石・長石・灰色粒子、淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1074 | 瓦器碗 | - | (8.4) | - | 角閃石・長石・白色粒子、明淡褐色、黒灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1075 | 瓦器碗 | - | 7.0 | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、(内)暗灰色、(外)淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1076 | 瓦器小皿 | (9.2) | (6.8) | 1.7 | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、淡灰色、暗灰色 | 体部の立ちあがりはシャープ | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1077 | 瓦器小皿 | (9.2) | (6.6) | 1.7 | 砂粒・長石、黒灰色、淡灰色 | 体部下半に丸みをもつ | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1078 | 瓦器小皿 | (8.0) | (6.4) | 1.7 | 角閃石・長石、暗灰色、灰白色 | 体部の立ちあがりはシャープで内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1079 | 瓦器小皿 | (8.0) | (6.8) | 1.7 | 角閃石・長石・白色粒子・砂粒、暗灰色、灰白色 | 体部の立ちあがりはシャープで斜方向に口縁部へ | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1080 | 瓦器小皿 | (8.8) | (6.0) | 1.6 | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、暗灰色、淡灰色 | 体部の立ちあがりはシャープで内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1081 | 瓦器小皿 | (7.8) | (6.0) | 1.7 | 砂粒・長石、灰色、淡灰色 | 体部直立気味 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1082 | 瓦器小皿 | 8.8 | 6.3 | 1.7 | 砂粒・角閃石・長石、暗灰色、淡灰色 | 体部はシャープに立ちあがり斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1083 | 瓦器小皿 | 8.0 | 6.4 | 1.3 | 砂粒・角閃石・長石・金雲母、暗灰色、灰白色 | 体部の立ちあがりはシャープ | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1084 | 瓦器小皿 | 8.2 | 6.4 | 1.4 | 石英、灰白色 | 体部の立ちあがりはシャープ | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区溝1 |
| 1085 | 瓦器小皿 | - | (5.2) | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、灰白色 | 体部の立ちあがり丸みをもつ | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区溝1 |

第587図 溝1(10)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-----|---------|-------|----|--|-------|-----------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1086 | 青磁碗 | - | (7.0) | - | (釉)オリーブ黄色 (胎土)灰白色 | 底部は厚い | 内外面 施釉(外底のみ露胎) 内面に文様 | B区溝1 |
| 1087 | 青磁碗 | - | 5.4 | - | (釉)灰オリーブ色 (胎土)淡灰色、淡灰茶色 | 底部は厚い | 内外面 施釉 蓮弁文 | B区溝1 |
| 1088 | 青磁碗 | - | 5.8 | - | (釉)灰オリーブ色 (胎土)灰褐色 | 底部は厚い | 内外面 体部施釉、高台～内底露胎 蓮弁文 | B区溝1 |
| 1089 | 青磁碗 | - | 5.0 | - | (釉)明オリーブ灰色 (胎土)灰白色(黒色粒子含む) | 底部は厚い | 内外面 施釉、貫入あり 印判文 | B区溝1 |
| 1090 | 青磁碗 | - | (4.3) | - | - | - | 内外面 施釉 | B区溝1 |
| 1091 | 青磁皿 | - | (4.2) | - | (釉)淡緑灰色 (胎土)淡灰色(黒色粒子含む) (底部)淡灰褐色 | - | 内外面 施釉(底部露胎)、貫入あり 内面 櫛描文 | B区溝1 |
| 1092 | 青磁皿 | - | 5.2 | - | (釉)明オリーブ灰色 (胎土)灰白色(黒色粒子含む) | - | 内外面 施釉(底部露胎) 櫛描文 | B区溝1 |
| 1093 | 白磁碗 | (16.0) | - | - | (釉)淡黄緑色 (胎土)黄白色 | 口縁玉縁状 | 内外面 施釉、貫入あり | B区溝1 |
| 1094 | 白磁皿 | - | (6.4) | - | (釉)明オリーブ灰色 (胎土)灰白色 | - | 内外面 施釉 | B区溝1 |
| 1095 | 白磁碗 | - | (5.2) | - | (釉)灰白色 (胎土)黒粒子が混入した灰白色 | - | 内外面 施釉 内底に緑茶色のもみじ葉有り | B区溝1 |
| 1096 | 青磁碗 | (14.8) | - | - | (釉)灰オリーブ色 (胎土)灰色 | - | 内外面 全面施釉 貫入あり | B区溝1 |
| 1097 | 青磁碗 | (10.4) | - | - | (釉)淡青緑色 (胎土)淡灰色 | - | 内外面 施釉 | B区溝1 |
| 1098 | 青磁碗 | - | - | - | 暗緑茶色 | - | 内外面 施釉、貫入あり | B区溝1 |

| | | | | | | | | |
|------|--------|--------|---|---|----------------------|--------------|--------------------------------------|------|
| 1099 | 須恵器こね鉢 | - | - | - | 長石・白色粒子、 暗灰色、灰白色 | 口縁端部を上方に引き出す | 内面 回転ヨコナデ、斜め方向の ユビナデ 外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1100 | 須恵器こね鉢 | (28.2) | - | - | 灰白色 | 口縁部外面わずかに肥厚 | 内面 斜め方向にヨコナデ 外面 ヨコナデ | B区溝1 |
| 1101 | 須恵器こね鉢 | (30.8) | - | - | 灰色 (口縁の一部)緑灰色、自然釉 | 口縁部外面わずかに肥厚 | 内面 ヨコナデ 外面 ナデ | B区溝1 |

第588図 溝1(11)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|--------|---------|--------|----|---|--------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1102 | 須恵器こね鉢 | - | - | - | 灰白色 | 口縁端部を上方に引き出す | 内面 ヨコ方向のナデ 外面 ヨコナデ | B区溝1 |
| 1103 | 須恵器こね鉢 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 (内)淡褐色 (外)暗灰褐色 | 口縁部は断面三角形に肥厚 | 内面 回転ヨコナデ、斜めナデ 外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1104 | 須恵器こね鉢 | - | (10.4) | - | 砂粒・長石・白色粒子、 淡灰色 | - | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り? | B区溝1 |
| 1105 | 須恵器こね鉢 | - | (8.2) | - | 砂粒・長石・石英・白色粒子・ 灰色粒子、 淡灰色 | - | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1106 | 土鍋 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 (内)淡灰褐色 (外)暗褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 横・斜めハケ目 外面 横・斜めカキ目後ユビオサ エ | B区溝1 |
| 1107 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、 (内)茶褐色 (外)黒褐色 | 口縁部L字状に折れる | 内面 ヨコハケ目、タテハケ目 外面 ナデ、タテハケ目 | B区溝1 |
| 1108 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・石英・茶色粒子、 (内)明褐色 (外)暗褐色 | 口縁部L字状に折れる | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1109 | 土鍋 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石、 (内)淡褐色 (外)黒色 | 口縁部外方に折れる | 内面 ヨコハケ目 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区溝1 |
| 1110 | 土鍋 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・ 石英、 (内)明褐色 (外)黒色(すず付蓋) | 口縁部L字状に折れる | 内面 ヨコハケ目 外面 タテハケ目、ユビナデ | B区溝1 |
| 1111 | 土鍋 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒 子・金雲母、 暗褐色、淡茶褐色 | 口縁部は頸部で折れ、内湾気味に立 ちあがる | 内面 ハケナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | B区溝1 |
| 1112 | 土鍋 | (31.4) | - | - | 砂粒・角閃石・長石、 (内)淡暗褐色 (外)黒褐色 | 体部は半球形か | 内面 ヨコナデ、斜め・縦ハケ目、 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ヨ コハケ目 | B区溝1 |
| 1113 | 土鍋 | (23.5) | - | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子・ 石英、 (内)淡褐色 (外)暗褐色 | 外面口縁下に突帯 | 内面 横・斜めハケ目 外面 回転ナデ、ユビナデ、タテ ハケ後ヘラナデ | B区溝1 |
| 1114 | 土鍋 | (24.4) | - | - | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子、 淡褐色、黒褐色(外面すず付着) | 外面口縁下に突帯 | 内面 ナナメハケ目、ヨコハケ目 外面 ナデ | B区溝1 |
| 1115 | 土鍋 | (31.9) | - | - | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子、 淡茶褐色、黒褐色 | 外面口縁下に突帯 | 内面 ヨコハケ目 外面 ヮビナデ、ユビオサエ、タテ ハケ目 | B区溝1 |

第589図 溝1(12)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-----------------|---------|--------------|----|---|-----------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1116 | 土鍋 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・石英・白 色粒子、 明褐色、黒褐色 | 外面口縁下に突帯 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区溝1 |
| 1117 | 土鍋 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒 子・石英、 黄白色 | 口縁部外面に突帯 | 内面 回転ヨコナデ、ヨコハケ目 外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1118 | 土鍋 | - | - | - | 砂粒・長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 口縁部外面に突帯 | 内面 ヨコハケ目、ナデ消し 外面 ヮビナデ、ヨコナデ、タテ ハケ目、格子状タタキ | B区溝1 |
| 1119 | 土鍋 | - | (脚部径) 3.2 | - | 角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色 | - | ナデ、ユビオサエ | B区溝1 |
| 1120 | 器種不明 (土師質土器) | - | 10.2 | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子・ 石英、 明淡褐色 | 体部下で屈曲し、体部斜方向にのび る | 内面 ヮビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後ナデ | B区溝1 |
| 1121 | 須恵器壺 | (26.0) | - | - | 茶色粒子・石英、 灰白色 | 口縁部大きく外反 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、平行 タタキ | B区溝1 |
| 1122 | 須恵器壺 | - | - | - | 砂粒・長石・灰色粒子・白色粒 子、 灰色 | 口縁部外反 | 内面 回転ヨコナデ、ハケナデ 外面 回転ヨコナデ、格子状タ タキ | B区溝1 |
| 1123 | 須恵器壺 | - | - | - | 灰色 | 口縁部外反 | 内外面 ヨコナデ | B区溝1 |
| 1124 | 瓦質土器(?)甗 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・石英・黒 色粒子・白色粒子、 (内)茶灰白色 (外)黒灰色 | - | 内面 横ヘラナデ、丁寧なナデ 外面 回転ヨコナデ、ナメタタ キ、平行タタキ | B区溝1 |
| 1125 | 瓦質土器(?)甗 | - | - | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 (内)暗灰色、明淡褐色 (外)黒灰色 | 口縁部が上下に拡張 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、斜めタタキ | B区溝1 |
| 1126 | 土師質壺 | (22.6) | - | - | 砂粒・角閃石・黒色粒子・石 英・灰色粒子・茶色粒子、 (内)灰色 (外)明淡褐色 | - | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、ナメハケ目 | B区溝1 |
| 1127 | 土師質壺 | (28.0) | - | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子・ 金雲母、 暗灰色 | - | 内外面 回転ヨコナデ | B区溝1 |
| 1128 | 常滑焼壺 | (35.8) | - | - | 赤褐色 | 口縁部が上下に拡張 | 内外面 ヨコナデ | B区溝1 |
| 1129 | 常滑焼壺 | - | - | - | 長石、 灰褐色、内面口縁部に自然釉 | 口縁部が上下に拡張 | 内外面 横方向のナデ、ヨコナデ | B区溝1 |
| 1130 | 常滑焼壺 | - | - | - | 長石、 暗灰色、内面口縁部に自然釉 | 口縁部が上下に拡張 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ | B区溝1 |

第590図 溝1(13)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------|---------|-------|----|------------------------|---------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1131 | 常滑焼甕 | - | - | - | 灰白色 | 外面にタタキ文 | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 外面 ナデ、タタキ | B区溝1 |
| 1132 | 常滑焼甕 | - | - | - | (内)淡灰白色 (外)暗赤褐色 | 外面にタタキ文 | 内面 ヨコナデ 外面 タタキ、ナデ | B区溝1 |
| 1133 | 須恵質壺? | - | (6.8) | - | (釉)淡灰緑色 (胎土)淡灰色 | 底部高台状 | 全面施釉 内面口クロ痕が明瞭 | B区溝1 |
| 1134 | 土製品 | - | 4.3 | - | 砂粒・角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色 | - | 手づくね ユビオサエ、ユビナデ | B区溝1 |
| 1143 | 石鍋 | (24.4) | - | - | 滑石 | 口縁下に突帯 | 内面 タテ削り出し 外面 タテ・ヨコ削り出し、口縁部 一部刻み目がある | B区溝1 |

第594図 溝2

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------|---------|-------|----|---------------------------------------|--------------------------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1153 | 土師器椀 | - | (5.4) | - | 砂粒・長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 斜め・横方向のヘラミガキ 外面 ユビオサエ、ユビナデ | B区溝2 |
| 1154 | 瓦器椀 | - | (6.2) | - | 砂粒・長石・石英、 淡灰色 | 断面三角形の高台はり付け 外底面にへら記号 | 内面 縦・斜め方向のヘラミガキ 外面 丁寧なナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝2 |
| 1155 | 瓦器椀 | - | (6.4) | - | 砂粒・長石・白色粒子、 淡灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 斜めヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、高 台ヨコナデ | B区溝2 |
| 1156 | 瓦器椀 | - | (6.2) | - | 砂粒・長石・白色粒子・石英、 淡灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝2 |
| 1157 | 瓦器椀 | - | (6.7) | - | 砂粒・長石・白色粒子 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 縦・横・斜めのヘラミガキ 外面 ユビナデ | B区溝2 |
| 1158 | 瓦器椀 | - | (6.2) | - | 砂粒・長石・白色粒子・石英、 灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 斜めヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ | B区溝2 |
| 1159 | 瓦器椀 | - | (6.2) | - | 砂粒・長石・白色粒子、 淡灰褐色、暗灰色(内底) | 断面三角形の高台はり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部ユビナデ | B区溝2 |
| 1160 | 青磁碗 | - | (5.4) | - | (釉)オリーブ灰色 (胎土)淡灰色 | 厚い底部 | 体部～高台部は施釉、貫入あり 外底は無釉 | B区溝2 |
| 1161 | 土鍋 | (36.8) | - | - | 砂粒・角閃石・長石・石英、 暗褐色 (内・外面底部付近)暗褐色 | 口縁は強く外方に折れる | 内面 ヨコ・ナメハケ目 外面 ユビオサエ、斜めのハケ目 | B区溝2 |

第597図 溝3

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|----|---------|----|----|-----------------------------------|----------|--------------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1164 | 土鍋 | (19.8) | - | - | 砂粒・角閃石・長石・白色粒子、 黒褐色(外面全体にすず付着) | 外面口縁下に突帯 | 内面 ヨコ・ナメハケ目 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区溝6 |

第599図 溝4

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|---------|-------|---------|--|---------------------------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1165 | 土師質土器環 | 11.8 | 8.0 | 3.1~3.2 | 長石・角閃石・砂粒、 (内)橙褐色 (外)黄白色～橙褐色 | 体部の立ちあがりは丸みをもち、体部 直立気味 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後板状のもの(?)でナデ | B区溝7 |
| 1166 | 土師質土器環 | - | (7.8) | - | 砂粒・角閃石・長石・石英・金雲 母、 明淡茶褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り後板状圧痕 | B区溝7 |
| 1167 | 瓦器椀 | (14.8) | 7.0 | 6.1 | 長石・角閃石・石英、 灰色、灰白色 | 底部厚く、体部内湾気味 口縁部重ね焼痕 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区溝7 |
| 1168 | 瓦器椀 | (16.4) | - | - | 長石・角閃石、 (内面口縁部)暗灰色、(その他) 暗褐色 (外面)被熱 | 口縁部重ね焼痕 | 内外面 回転ユビナデ | B区溝7 |
| 1169 | 瓦器椀 | (16.4) | - | - | 長石・角閃石、 (内)灰色～黒色 (外)暗灰色 | 口縁部重ね焼痕 | 内外面 回転ナデ | B区溝7 |
| 1170 | 瓦器椀 | (7.6) | - | - | 長石・角閃石・石英、 茶色がかった灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切 り、墨書あり | B区溝7 |
| 1171 | 瓦器椀 | - | (7.6) | - | 砂粒・角閃石・長石・石英、 明淡灰色、 (内・外底)暗灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝7 |
| 1172 | 瓦器椀 | - | 7.2 | - | 砂粒・角閃石・長石、 淡灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝7 |
| 1173 | 瓦器椀 | - | 8.1 | - | 長石・角閃石、 灰褐色 | 底部平底 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区溝7 |
| 1174 | 瓦器椀 | - | 7.4 | - | 石英、 灰白色 | 底部平底 | 内面 回転ユビナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後ナデ | B区溝7 |
| 1175 | 瓦器椀 | - | 6.7 | - | 砂粒・長石・茶色粒子、 明灰褐色、黒色(外面、すず付 着) | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝7 |
| 1176 | 瓦器椀 | - | (6.6) | - | 砂粒・長石、 灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、 底部糸切り後板状圧痕 | B区溝7 |
| 1177 | 瓦器椀 | - | 7.8 | - | 砂粒・長石・角閃石、 (内底)黒灰色 (外)淡灰色、灰色 | 底部平底 | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区溝7 |
| 1178 | 瓦器椀 | - | (5.6) | - | 砂粒・長石・白色粒子、 (内)淡灰色 (外)灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 タテ・ヨコヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、高台ユビナ デ、底部糸切り(?) | B区溝7 |

| | | | | | | | | |
|------|--------|--------|-------|---|--------------------------------------|---------------|--|------|
| 1179 | 瓦器椀 | — | (8.0) | — | 砂粒・長石・石英・白色粒子、 (内)明灰褐色 (外)明淡褐色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ+圧痕 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り後高台押し出し | B区溝7 |
| 1180 | 青磁碗 | — | (5.9) | — | (釉)オリブ灰色 (胎土)淡灰オリブ色 | 厚い底部 | 内外面 施釉、高台底～底部は無 釉 蓮弁文 | B区溝7 |
| 1181 | 白磁碗 | — | (6.8) | — | (釉)明緑灰色 (胎土)灰白色 | — | 内底 施釉 外面・底部 無釉 | B区溝7 |
| 1182 | 白磁四耳壺 | — | (7.4) | — | (釉)明オリブ色 (胎土)灰白色 | 厚い底部 | 外面 底部回転ヘラケズリ 内外面 施釉、 高台部は赤釉、高台下部より外 底は無釉 | B区溝7 |
| 1183 | 青白磁合子蓋 | (7.2) | — | — | 淡明緑灰色 | — | 外内底 施釉 その他は無釉 | B区溝7 |
| 1184 | 土鍋 | — | — | — | 長石、 (内)淡褐色 (外)褐色(すず付着) | 口縁部短くくの字状に折れる | 内面 ハケ目、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、タテハケ目後横 方向のナデ | B区溝7 |
| 1185 | 瓦器鉢 | (28.6) | — | — | 緻密な胎土、 灰色 | 口縁部やや肥厚 | 内面 ハケ目、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ | B区溝7 |

第602図 溝5(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|---------|---------|--|------------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1188 | 土師質土器 小皿 | (7.6) | (6.6) | 1.4 | 角閃石・長石、 黄褐色 | 体部短く直立 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区溝10 |
| 1189 | 土師質土器 小皿 | (8.0) | (5.9) | 1.5 | 長石・金雲母・石英、 橙褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区溝10 |
| 1190 | 土師質土器 小皿 | 7.8~8.1 | 5.8~6.1 | 1.3~1.5 | 長石・赤色粒子・角閃石、 橙色 | 体部は丸みをもち立ちあがり、口縁わ ずかに外反気味 | 内面 回転ユビナデ、底部に指圧 痕 外面 回転ユビナデ、底部糸切 り、2箇所指圧痕 | A区溝10 |
| 1191 | 土師質土器 小皿 | (8.5) | (6.0) | 1.4 | 長石・石英・角閃石、 橙褐色 | 体部緩やかに立ちあがり体部外反 | 内面 回転ナデ、底部に口縁痕 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝10 |
| 1192 | 土師質土器 小皿 | (9.4) | (6.8) | 1.4 | 角閃石・長石、 淡黄褐色 | 体部外反気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部ヘラ切り | A区溝10 |
| 1193 | 土師器椀 | (16.1) | (6.3) | 5.8 | 長石・角閃石・茶色粒子・石英、 黄褐色 | 口縁部外反 断面方形の高台はり付け | 内面 ミガキ、底部一定方向のミ ガキ 外面 ナデ、ミガキ、底部糸切り後 高台貼付け、ナデ | A区溝10 |
| 1194 | 内黒土器椀 | — | (5.4) | — | 長石・角閃石、 (内)黒色 (外)黄褐色 | 低い高台をはり付け | 内面 一方方向ナデ、横方向のミガ キ 外面 回転ナデ、高台貼付け、底 部ナデ | A区溝10 |
| 1195 | 瓦器椀 | (16.1) | 7.8 | 5.3~5.6 | 長石、 (内)灰白色～暗灰色 (外)暗灰色～灰白色～灰色 | 厚い底部に内湾気味の体部 口縁外面に重ね焼痕 | 内面 ユビオサエ 外面 回転ユビナデ | A区溝10 |
| 1196 | 瓦器椀 | (16.0) | (6.8) | 5.9~6.3 | 長石、 (内)暗灰色～灰色～灰白色 (外)暗灰色～灰白色～暗灰色 | 体部内湾気味 口縁外面に重ね焼痕 | 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区溝10 |
| 1197 | 瓦器椀 | (15.2) | 6.8 | 5.5~5.9 | 角閃石・長石・石英、 (内)灰色～灰白色 (外)灰白色 | 厚め底部で、体部内湾気味 | 内面 回転ユビナデ、底部不定 方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区溝10 |
| 1198 | 瓦器椀 | (17.4) | — | — | 長石・角閃石・白色粒子、 灰白色、 (口縁部)暗赤灰色 | — | 内面 回転ナデ後部分ミガキ 外面 回転ナデ | A区溝10 |
| 1199 | 瓦器椀 | (16.8) | — | — | 角閃石、 暗灰色、灰白色 | 口縁部に重ね焼痕 | 内外面 回転ナデ | A区溝10 |
| 1200 | 瓦器椀 | (16.4) | — | — | 長石・角閃石、 灰白色 | — | 内面 回転ナデ後ヘラナデ 外面 回転ナデ | A区溝10 |
| 1201 | 瓦器椀 | (16.4) | — | — | 角閃石・長石・石英、 (内)暗灰色 (外)灰白色 | — | 内面 回転ナデ後ユビナデ 外面 回転ナデ、底部切り離し後 ナデ | A区溝10 |
| 1202 | 白磁皿 | (11.2) | — | — | 黄色っぽい釉 | — | 内面 施釉 外面 露胎 | A区溝10 |
| 1203 | 須恵器こね鉢 | — | — | — | 暗灰白色 | 口縁端部上方に拡張 | 内面 ヨコナデ、縦方向のナデ 外面 ヨコナデ | A区溝10 |
| 1204 | 須恵器鉢 | — | — | — | 長石、 灰色 | 口縁端部上方に拡張 | 内面 細かいハケ目(横方向) 外面 ヨコナデ、ユビナデ | A区溝10 |
| 1205 | 須恵器甕 | (45.4) | — | — | 長石・角閃石・白色粒子・石英、 淡青灰色 | 口縁部大きく外反 | 内面 ヨコナデ、ヘラ状工具によ るヨコナデ 外面 ヨコナデ、格子タタキ | A区溝10 |

第603図 溝5(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------|---------|----|----|---------------------------------------|--------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1206 | 土鍋 | (23.2) | — | — | 長石・角閃石・石英、 黄白色 | 屈曲部から直立する体部 口縁部は短く折れる | 内面 横方向のハケ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ハケ | A区溝10 |
| 1207 | 土鍋 | (18.1) | — | — | 長石・角閃石・白色粒子、 (内)黄茶灰色 (外)黄褐色、茶褐色 | 口縁部は緩やかに外方に折れる | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ (摩滅) 外面 縦方向のハケ、ユビオサ エ、板状工具で横方向のナデ | A区溝10 |
| 1208 | 注口(?) | — | — | — | 角閃石、 暗黄褐色 | — | ナデ | A区溝10 |
| 1209 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 黄褐色 | — | ナデ | A区溝10 |

第607図 溝6

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|-------|-----|----------------------------|-----------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1217 | 土師質土器 小皿 | (8.0) | (4.2) | 1.2 | — | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部は不明 | A区溝22 |
| 1218 | 瓦器椀 | (15.4) | — | — | 角閃石、 (内)灰色 (外)灰色～灰白色 | — | 内外面 回転ナデ | A区溝22 |
| 1219 | 須恵器こね鉢 | — | — | — | 灰～灰白色 | — | 内面 回転ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | A区溝22 |
| 1220 | 土師器鉢 | (38.8) | — | — | 角閃石・長石、 ピンク色(二次焼成) | — | 内面 ミガキ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ、 底部ナデ、高台を貼付けた痕跡 | A区溝22 |
| 1221 | 常滑焼甕 | (27.6) | — | — | 長石、 灰色 | 口縁部上下に拡張 | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ | A区溝22 |

| | | | | | | | | |
|------|-------|---|--------|---|--------------------------------|---|---|-------|
| 1222 | 備前焼播鉢 | — | (14.0) | — | 砂粒・長石、 (内)灰褐色 (外)橙褐色～灰褐色 | — | 内面 横方向のナデ、ヨコナデ、 底部ナデ、摺目単位5本 外面 横方向のナデ、ヨコナデ、 底部ナデ | A区溝22 |
|------|-------|---|--------|---|--------------------------------|---|---|-------|

第609図 溝7

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------|---------|----|----|----------------|---------|-----------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1225 | 備前焼甕 | — | — | — | 赤褐色、 外面に自然釉 | 口縁部長い玉縁 | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区溝21 |

第611図 溝9

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------------|---------|--------|----|-----------------|-------------|----------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1226 | 白磁皿 | (10.4) | — | — | (釉)乳白色 | — | 内外面 施釉 | A区溝1 |
| 1227 | 青磁碗 | (15.6) | — | — | (釉)うすい緑、釉厚0.5mm | 外面に鑄蓮弁文 | 内外面 施釉 | A区溝1 |
| 1228 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 長石、 黒褐色 | 外面に突帯とスタンプ文 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、貼付け文 | A区溝1 |
| 1229 | 土鍋 | (41.0) | — | — | 角閃石、 灰白色 | 口縁部短く外方に折れる | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、横方向のケズリ | A区溝1 |
| 1230 | 瓦質土器 播鉢 | — | (14.2) | — | 灰白色 | 内底面にも摺目あり | 内面 摺目単位6本 外面 底部ハケ状のナデ | A区溝1 |

第620図 溝14

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|---------|----|----|--|---------------|----------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1236 | 土師質土器杯 | — | — | — | 角閃石・長石・石英、 暗橙褐色 | 体部の立ちあがりはシャープ | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | A区溝5 |
| 1237 | 瓦器碗 | — | — | — | 長石、 (内)灰白色 (外・口縁部)暗灰白色 (外・その他)灰白色 | — | 内外面 ヨコナデ | A区溝5 |
| 1238 | 瓦質土器鉢 | — | — | — | 長石、 灰白色 | — | 内外面 ナデ | A区溝5 |

第621図 溝13南辺

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------------|---------|-------|---------|---------------------------------|-----------------------------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1239 | 土師質土器 小皿 | 6.4 | 3.4 | 2.5～2.7 | 角閃石、 橙褐色 | 口径に比し器高が高い 体部は斜方向に直線的に開く | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | A区溝3 |
| 1240 | 土師質土器杯 | — | (7.0) | — | 長石・石英、 淡橙褐色 | 体部の立ちあがり緩やか | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区溝3 |
| 1241 | 土師質土器杯 | — | (8.0) | — | 角閃石・石英・金雲母・斜長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがり緩やか | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り、板 状圧痕 | A区溝3 |
| 1242 | 瓦器碗 | — | (6.6) | — | 長石・角閃石、 (内)灰白色 (外)暗灰色 | 断面三角島の低い高台をはり付け | 内面 ナデ 外面 ナデ、高台貼付け後ナデ | A区溝3 |
| 1243 | 内黒土器碗 | — | (7.4) | — | 角閃石、 (内)黒色 (外)黄褐色 | 断面方形の高台をはり付け | 内面 ナデ 外面 ナデ、高台貼付け後ナデ、 底部切り離し後板状圧痕 | A区溝3 |
| 1244 | 内黒土器碗 | — | (8.2) | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)暗橙褐色 | 体部下にツバ状の突帯 断面長方形のはり付け | 内面 一方ナデ 外面 ヨコナデ、高台貼付け、底 部ナデ | A区溝3 |
| 1245 | 青磁碗 | (15.6) | — | — | うすい緑色の釉、釉厚1mm | 口縁端反り | 内外面 施釉 | A区溝3 |
| 1246 | 青磁碗 | (11.6) | — | — | 白っぽい釉 | — | 内外面 施釉、高台ケズリ出し、 蓮弁文 | A区溝3 |
| 1247 | 青磁碗 | — | (5.2) | — | やや黄色がかった緑釉、 内外に貫入あり | — | 内外面 施釉、高台ケズリ出し、 底部一部露胎 | A区溝3 |
| 1248 | 青磁碗 | — | (5.0) | — | やや黄色がかった緑釉、 内外に貫入あり | — | 内面 施釉 外面 施釉、しのぎ、底部露胎、 ケズリ出し | A区溝3 |
| 1249 | 青磁碗 | — | — | — | うすい緑白色 | — | 内面 施釉、胎土目積 外面 露胎、ケズリ出し | A区溝3 |
| 1250 | 白磁 | — | — | — | — | — | 内面 施釉、目積痕あり 外面 露胎、高台削り出し | A区溝3 |
| 1251 | 青花皿 | (9.8) | — | — | 青色っぽい釉、黒色 | — | 内外面 施釉 | A区溝3 |
| 1252 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石・長石、 暗灰色 | 外面口縁下に突帯とスタンプ文 | 内面 ナデ 外面 ナデ、ヨコナデ、スタンプ文 | A区溝3 |
| 1253 | 土鍋 | — | — | — | 斜長石、 暗黄褐色 | — | 内面 ヨコナデ、斜め方向にナデ 外面 ヨコナデ | A区溝3 |
| 1254 | 土師器播鉢 | — | — | — | 角閃石 暗黄褐色 | 口縁部内湾気味 | 内面 ナデ、摺目 外面 ナデ | A区溝3 |
| 1255 | 土師質土器鉢 | (35.6) | — | — | 角閃石、 (内)黄褐色 (外)暗黄褐色(すず付着) | 口縁部短く外反 | 内面 ヨコナデ、ヘラ状のもので 横方向のナデ 外面 ヨコナデ、縦方向にナデ、 横方向のケズリ | A区溝3 |
| 1256 | 瓦質土器甕 | — | — | — | 長石、 暗灰色 | 肩部は張り、頸部直立 | 内面 ヨコナデ、横方向のハケ目 外面 ヨコナデ、スタンプ | A区溝3 |
| 1257 | 備前焼 | — | (9.2) | — | 赤褐色 | — | 内面 ヨコナデ、底部ナデ 外面 ナデ、底部ユビ・ヘラナデ、 削り出し | A区溝3 |

第624図 溝13東辺(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|---------|---------|---------|-------------------------------|------------|--|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1263 | 土師質土器杯 | — | (6.2) | — | 角閃石・石英、 黄褐色 | 器高の高いもの | 内面 回転ユビナデ、底面ナデ 外面 回転ナデ、ロクロ痕、底部 切り離し後ナデ | A区溝17 |
| 1264 | 色絵杯 | — | — | — | 釉厚0.5mm | 口縁端反り | 内外面 施釉、文様に赤色・緑色 を用いる | A区溝3・17 |
| 1265 | 青花碗 | — | — | — | (釉)やや青みがかった半透明 (胎土)褐色砂粒を含む | 口縁直口 | 内外面 全面施釉 | A区溝3・17 |
| 1266 | 青花皿 | (12.4) | — | — | (釉)灰白色、濃青色 (胎土)黒色砂粒を含む、緻密 | 口縁端反り | — | A区溝3・17 |
| 1267 | 青花皿 | — | (7.6) | — | 暗赤色、淡緑色 | — | 内外面 施釉、高台露胎、高台削 り出し 花文 | A区溝17 |
| 1268 | 白磁碗 | (7.6) | 3.3～3.5 | 3.6 | 黄白色 | 口縁端反り、低い高台 | 高台削り出し | A区溝17 |
| 1269 | 青磁稜花皿 | 12.6 | 5.7 | 2.8～2.9 | 赤みがかった緑色の釉、 貫入あり | 体部下で屈曲 | 内面 施釉、見込み中央丸く露胎 外面 施釉、高台の一部・底部露 胎、高台削り出し | A区溝17 |

| | | | | | | | | |
|------|--------------|-------|-----|---------------------------|--|--|---|-------|
| 1270 | 唐津系?碗 | - | 5.0 | - | - | - | 内面 施釉、見込みロク口痕 外面 施釉、体部下部~底部露胎、高台削り出し | A区溝17 |
| 1271 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 灰~黒褐色 | 口縁下に突帯とスタンプ文 | 内面 斜めのナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯ヨコナデ後 貼付け、スタンプ文、ミガキ | A区溝17 |
| 1272 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 (内)灰色 (外)橙褐色 | 板状の脚をはり付け | 内面 横方向のナデ 外面 ミガキ、横方向のナデ、ヨコ ナデ、突帯貼付け | A区溝17 |
| 1273 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 (内)灰~灰白色 (外)暗灰色 内外面とも一部被熱 | 脚をはり付け | 内面 横方向のナデ、ユビナデ 外面 ミガキ、ナデ、ヨコナデ 脚部 ユビオサエ痕 | A区溝17 |
| 1274 | 土鍋 | - | - | - | 長石・角閃石、 (内)灰色 (外)灰褐色 | 直口口縁 | 内面 ヨコナデ、ナデ、横方向の 櫛目 外面 ヨコナデ、粗いナデ、ケズリ | A区溝17 |
| 1275 | 土鍋 | - | - | - | 長石、 (内)灰色 (外)灰褐色、口縁部にすず付着 | 口縁部短く外に折れる | 内面 ヨコナデ、横方向にナデ 外面 ヨコナデ、ケズリ | A区溝17 |
| 1276 | 土鍋 | - | - | - | 長石・石英、 灰白色 | - | ナデ、ヨコハケ状のものあり | A区溝17 |
| 1277 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石、 橙褐色 | - | ナデ、縦方向にナデ | A区溝17 |
| 1278 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 長石、 暗赤褐色(外面口縁部に自然 釉) | 口縁端部わずかに上下に拡張 | 内面 横方向のナデ、摺目単位8 本 外面ナデ、横方向のナデ | A区溝17 |
| 1279 | 備前焼播鉢 (16.2) | (7.6) | 7.0 | 長石・角閃石、 暗赤褐色 内面に自然釉 | 小型品 口縁端部を上方に拡張 | 内面 ヨコナデ、横方向にナデ、 摺目単位4本 外面 ヨコナデ、横方向に雑なナ デ、底部ナデ | A区溝17 | |
| 1280 | 備前焼播鉢 (24.2) | - | - | 長石、 暗赤褐色 外面口縁部に自然釉 | 厚い口縁部、口縁部上面が凹む | 内面 ヨコナデ、ロク口痕、摺目単 位8本 外面 ヨコナデ、ロク口痕 | A区溝17 | |
| 1281 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 白色粒子、 赤褐色 | - | 内面 ミガキ?、摺目単位7本 外面 ナデ | A区溝17 |

第625図 溝13東辺(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------|---------|--------|----|----------------------------------|-----------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1282 | 備前焼播鉢 | - | (13.0) | - | (内)赤褐色 (外)暗赤褐色 | - | 内面 横方向にナデ、摺目単位9 本、底面ナデ 外面 横方向にナデ、底部ナデ | A区溝17 |
| 1283 | 備前焼播鉢 | - | (18.4) | - | 赤色粒子・長石、 赤褐色 | - | 内面 横方向のナデ、ナデ、摺目 単位10本 外面 横方向のナデと所々に縦 方向のナデ、底部雑なナデ | A区溝17 |
| 1284 | 瓦器甕 | (28.2) | - | - | 長石、 暗灰色 | 口縁外反、端部肥厚 | 内面 ヨコナデ、粗いハケ目 外面 ヨコナデ、ハケ目後横方向 のナデ | A区溝17 |
| 1285 | 瓦器甕 | - | - | - | 石英・白色粒子、 暗灰色 | 口縁部玉縁状 | 内外面とも全体的に摩耗 | A区溝17 |
| 1286 | 備前焼甕 | (33.0) | - | - | 赤褐色 | 口縁部玉縁状 | 内外面 ヨコナデ、 外面に自然釉がかかる | A区溝17 |
| 1287 | 瓦器甕 | - | (26.8) | - | 角閃石・長石、 (内)暗褐色 (外)淡褐色、すず付着 | - | 内面 横方向のナデ 外面 縦方向のへらナデ後ナデ、 横方向のナデ、底部ナデ | A区溝17 |
| 1288 | 備前焼甕 | - | (30.8) | - | 長石、 暗赤褐色 | - | 内面 横方向のハケ目、ナデ 外面 へら状のもので縦方向に ナデ、ヨコナデ、底部へら状の ものでナデ | A区溝17 |

第631図 溝16

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-----|---------|----|----|-----------------------|-------|------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1308 | 瓦器碗 | - | - | - | 長石、 灰白色 | 底部平底 | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区溝4 |
| 1309 | 白磁碗 | - | - | - | 灰色の釉、貫入あり | - | 内外面 施釉 | A区溝4 |
| 1310 | 青磁碗 | - | - | - | うすい緑色の釉、釉厚1mm 貫入あり | - | 内面 施釉 外面 施釉、蓮弁文 | A区溝4 |

第632図 溝10(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|-------|-----|--|-----------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1311 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | (6.6) | 1.3 | 長石・角閃石、 暗橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝2 |
| 1312 | 土師質土器 小皿 | (8.8) | (7.0) | 1.2 | 角閃石・長石、 黄褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝2 |
| 1313 | 土師器碗 | - | (9.0) | - | 角閃石・斜長石、 暗橙褐色 | 高い高台はり付け | 内面 一方向のナデ 外面 ヨコナデ、高台貼付け、底 部切り離し後ナデ | A区溝2 |
| 1314 | 土師器碗 | - | (5.4) | - | 角閃石・斜長石、 黄褐色 | 底部押し出し 断面方形の高台はり付け | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、高台貼付け後ナ デ、底部ナデ | A区溝2 |
| 1315 | 瓦器碗 | - | (7.8) | - | 角閃石、 灰白色 | 底部平底 | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | A区溝2 |
| 1316 | 瓦器碗 | - | (6.8) | - | 長石・金雲母、 灰白色 | 底部端に低い高台 | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部切り離し後 ナデ | A区溝2 |
| 1317 | 瓦器碗 | - | (5.0) | - | 斜長石、 灰白色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 ミガキ 外面 不定方向ナデ、高台貼付 け、底部ナデ | A区溝2 |
| 1318 | 青花碗 | - | - | - | (釉)乳白色、藍色 (胎土)褐色砂粒を含む、緻密 | - | - | A区溝2 |
| 1319 | 青花皿 | - | - | - | (釉)灰白色、淡青色、貫入あり (胎土)褐色砂粒、黒色砂粒を含 む、緻密 | - | 内外面 施釉、量付露胎 | A区溝2 |
| 1320 | 青花皿 | - | - | - | (釉)灰白色、淡青緑色 (胎土)褐色砂粒を含む、緻密 | 口縁内湾 | - | A区溝2 |
| 1321 | 青花皿 | (10.8) | (6.2) | 2.1 | (釉)透明釉 (胎土)やや青みをおびる白色 | 口縁部端反り | - | A区溝2 |
| 1322 | 白磁四耳壺 | - | (6.4) | - | (釉)透明釉 (胎土)精良、褐灰色 | 厚みのある底部 | 内面 施釉、削り出し 外面 施釉、高台削り出し、面取り 調整 | A区溝2 |

| | | | | | | | | |
|------|---------------|--------|--------------|-----|---------------------------------------|---------------------|--------------------------------|------|
| 1323 | 青磁碗 | — | 5.2 | — | (釉)青磁釉 (胎土)精良、青灰色 | 厚みのある底部 | 内面 施釉 外面 施釉、高台削り出し | A区溝2 |
| 1324 | 青磁碗 | — | 6.2 | — | (釉)白っぽい緑色の釉、釉厚1cm、貫入あり (胎土)精良(褐灰色) | 厚みのある底部 | 内外面 施釉 | A区溝2 |
| 1325 | 朝鮮王朝製 白磁皿 | — | 4.2 | — | (釉)透明釉 (胎土)精良 | 見込み部に目積み痕 | 内面 施釉 外面 施釉、高台付近露胎、削り出し | A区溝2 |
| 1326 | 朝鮮王朝製 粉青沙器 | — | 4.4 | — | (釉)灰釉 (胎土)精良、灰色 | — | 内面 ヘラ彫り 外面 施釉、ヘラ彫り、高台削り出し | A区溝2 |
| 1327 | 唐津系碗 | (13.0) | 4.5 | 4.9 | (釉)霽灰釉 (胎土)石英・長石・石粒 | 体部中程で屈曲し、斜方向に開く | ワラ灰釉の発色は青色で窯変によりピンクがかった釉が流れる | A区溝2 |
| 1328 | 唐津系陶器皿 | (9.9) | 2.5 | 4.4 | (釉)灰釉 (胎土)石英・長石 | — | 内外面 施釉 底部糸切り、 高台削り出し、粉殻痕 | A区溝2 |
| 1329 | 唐津系陶器鉢 | — | (高台径) 4.6 | — | (釉)灰釉 (胎土)精製土(白色粒子含む) | — | 内面 施釉 外面 施釉、高台削り出し | A区溝2 |
| 1330 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石、 黄褐色 | 体部下に1条の突帯 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、底部ナデ | A区溝2 |
| 1331 | 瓦質土器鉢 | (20.0) | — | — | 長石・角閃石、 暗灰色 | 体部が直立に立つ 高台が付される | 内面 横方向のミガキが密に入る | A区溝2 |
| 1332 | 瓦質土器鉢 | — | (13.4) | — | 長石・角閃石、 暗褐色 | 1331と同一個体 | 内面 ミガキが密に入る 外面 横方向のミガキが密に入る | A区溝2 |
| 1333 | 土師質土器鉢 | — | (20.0) | — | 角閃石・斜長石、 橙褐色 | — | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部ナデ、板状圧痕 | A区溝2 |
| 1334 | 土師質土器鉢 | (38.9) | — | — | 角閃石・斜長石、 橙褐色 | 器壁が厚い | 内外面 ヨコナデ、ナデ | A区溝2 |

第633図 溝10(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|----------------|--------|-------------------------|-----------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1335 | 土鍋 | (29.8) | — | — | 角閃石、 暗橙褐色 | 体部直立し、口縁部外反 | 内面 ヨコナデ、一部オサエ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区溝2 |
| 1336 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、 淡黄褐色 | — | — | A区溝2 |
| 1337 | 瓦質土器甕 | (38.0) | — | — | 長石、 暗灰色 | 肩部が張り、頸部直立する | 内面 ヨコナデ、横方向のハケ 外面 ヨコナデ、横方向のミガキ、 スタンブ文 | A区溝2 |
| 1338 | 常滑焼甕 | — | — | — | (内)灰色 (外)茶褐色、自然釉がかかる | 口縁端部上下に拡張 | 内面 ヨコナデ、ヨコ横方向のナデ 外面 ナデ | A区溝2 |
| 1339 | 備前焼甕 | — | — | — | 砂粒、 赤褐色、自然釉がかかる | 口縁玉緑状 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ | A区溝2 |
| 1340 | 土師質土器 搦鉢 | — | — | — | 石英・金雲母、 赤褐色 | 口縁部内面が肥厚 | 内面 摺目 外面 ヨコナデ | A区溝2 |
| 1341 | 瓦質土器搦鉢 | — | — | — | 角閃石・斜長石、 橙褐色 | — | 内面 ナデ、摺目単位5本 外面 横方向のケズリ、底部一方 向のナデ | A区溝2 |
| 1342 | 備前焼搦鉢 | (27.8) | — | — | 長石、 淡赤褐色 | 口縁上面が内傾する | 内外面 ヨコナデ | A区溝2 |
| 1343 | 唐津系搦鉢 | (29.8) | (高台径) (9.5) | (13.0) | (釉)灰釉 (胎土)石英 | 摺目は内底面から体部に向け放射 状に | 内外面 口縁部のみ施釉 内面 摺目3~5本単位 | A区溝2 |

第644図 溝11南半

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|--------|---------|-------|-----|-----------|---------|--------------------------------------|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1351 | 青花碗 | — | (5.2) | — | 青みを帯びた白色釉 | 蓮子碗タイプ | 内外面 施釉、高台露胎 文様 淡青色で一筆描き | A区溝13 |
| 1352 | 唐津系陶器碗 | (11.8) | 4.8 | 4.2 | 灰釉 | 見込み部に鉄絵 | 内面 施釉、目積み 外面 施釉、胴部下部露胎、高台 削り出し | A区溝13 |
| 1353 | 白磁碗 | (16.0) | — | — | 灰色がかった透明釉 | 玉縁口縁 | 内外面 施釉 | A区溝13 |

第648図 溝11(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|--------|---------|--------|-----|--------------------|-----------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1358 | 土師質土器坏 | (11.0) | (9.8) | 3.0 | 角閃石、 橙褐色 | 体部直立 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝14 |
| 1359 | 瓦器碗 | (15.4) | — | — | 長石、 やや暗い灰白色 | — | 内外面 回転ナデ | A区溝14 |
| 1360 | 瓦器碗 | — | 7.4 | — | 長石・角閃石、 暗灰白色 | 平底底部 | 内面 回転ナデ後不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝14 |
| 1361 | 瓦器碗 | — | (7.8) | — | 長石、 灰白色 | 平底底部 | 内面 回転ナデ、底部不定方向 ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板 状圧痕 | A区溝14 |
| 1362 | 瓦器碗 | — | (7.2) | — | 長石・角閃石、 灰白色 | 平底底部 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝14 |
| 1363 | 瓦器碗 | — | (7.4) | — | 角閃石・長石、 灰色、灰白色 | 低い高台を付される | 内面 ナデ 外面 ナデ、高台貼付け、底部糸 切り | A区溝14 |
| 1364 | 朝鮮系陶器 | — | (19.0) | — | — | — | 内外面 ナデ | A区溝14 |
| 1365 | 青磁碗 | (17.0) | — | — | うすい緑色の釉、 貫入あり | 内面文様 | 内外面 施釉 | A区溝14 |
| 1366 | 青磁碗 | — | (6.8) | — | うすい緑色の釉、 貫入あり | — | 内面 施釉 外面 施釉、高台~底部露胎、高 台削り出し | A区溝14 |
| 1367 | 青磁碗 | — | (6.4) | — | (釉)うすい緑色 (胎土)灰色 | 内面文様 | 内面 施釉 外面 施釉、高台~底部露胎、高 台削り出し | A区溝14 |
| 1368 | 白磁皿 | 11.4 | 6.0 | 3.0 | 釉厚1mmくらい 貫入あり | 口縁端反り | 内面 施釉 外面 施釉(量付にも施釉陶)、高 台・底部に砂付着 | A区溝14 |
| 1369 | 白磁皿 | (1.8) | (6.2) | 3.0 | 釉厚0.5mm | 口縁端反り | 内面 施釉 外面 施釉、高台露胎 高台に砂付着 | A区溝14 |
| 1370 | 白磁皿 | (13.0) | (7.0) | 2.8 | 白色の釉 | 口縁端反り | 内面 施釉 外面 施釉、高台露胎、砂付着 | A区溝14 |

| | | | | | | | | |
|------|--------|--------|-----|---------|---------------------------------|--------------------------|--|-------|
| 1371 | 白磁皿 | 11.1 | 5.4 | 2.9 | やや縁がかった釉 | 口縁端反り | 内面 施釉(一部釉切れあり) 外面 施釉、高台のみ露胎 高台に砂付着 | A区溝14 |
| 1372 | 白磁皿 | 11.5 | 6.4 | 3.0~3.2 | 釉厚0.5mmくらい | 口縁端反り | 内面 施釉 外面 施釉、高台露胎 高台に砂付着 | A区溝14 |
| 1373 | 白磁皿 | 11.1 | 6.5 | 3.4 | 釉厚0.5mm | 口縁端反り | 内面 施釉 外面 施釉、高台露胎・砂付着 | A区溝14 |
| 1374 | 瓦質土器火鉢 | (16.0) | - | - | 角閃石・長石、 暗橙褐色 | 口縁内湾 | 内面 ヨコナデ 外面 横方向の緻密なミガキ、ナ デ | A区溝14 |
| 1375 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石 | 口縁内湾 外面口縁下に突帯2条とスタンプ文 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、スタ ンプ文 | A区溝14 |
| 1376 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・斜長石、 灰白色 | 外面口縁下に突帯2条とスタンプ文 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、スタ ンプ文 | A区溝14 |
| 1377 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・斜長石、 暗灰色 | 外面口縁下に突帯2条とスタンプ文 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、スタ ンプ文 | A区溝14 |
| 1378 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石 | 外面口縁下に突帯2条とスタンプ文 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ヨコミガキ、突帯 貼付け、スタンプ文 | A区溝14 |
| 1379 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | - | 口縁端部外面が肥厚 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、スタ ンプ文 | A区溝14 |
| 1380 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 (内)灰白色 (外)やや赤い灰白色 | 脚部はり付け | 内面 ヨコナデ 外面 ナデ、突帯貼付け 脚部 貼付け、ユビオサエ、ナデ | A区溝14 |
| 1381 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・斜長石、 暗灰白色 | 脚部はり付け | 内面 ヨコナデ 外面 ナデ、突帯貼付け、底部ナ デ、脚部 貼付け、ユビオサエ | A区溝14 |

第649図 溝11(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|--------|---------|--------|----|-------------------------|-------------------------|--|-----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1382 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石、 黄褐色 | 口縁端部外面に突帯 | 内面 斜め方向のハケ目 外面 ヨコナデ、縦方向のハケ目 (不鮮明) | A区溝14 |
| 1383 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・斜長石、 黄褐色 | 外面口縁下に突帯 | 内面 横方向にハケ目 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | A区溝14 |
| 1384 | 瓦質土器甕 | (33.0) | - | - | 長石、 白灰色 | 頸部が短く直立し、口縁端部が外方 に肥厚 | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、横方向のミガキ、 スタンプ文 | A区溝14 |
| 1385 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 長石、 暗灰色 | 口縁は短く字状に折れ、やや肥 厚 | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ 外面 ナデ、縦方向にナデ、ユビ オサエ | A区溝14 |
| 1386 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 角閃石・長石、 灰白色 | 口縁短く直立 | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ | A区溝14 |
| 1387 | 常滑焼壺 | - | - | - | 長石、 (内)赤褐色 (外)灰褐色 | 口縁部は上下に拡張 | 内外面 ヨコナデ | A区溝14 |
| 1388 | 備前焼壺 | (10.8) | - | - | 長石、 暗赤褐色 | 口縁はくの字状に開く | 内外面 ヨコナデ | A区溝14 |
| 1389 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 赤褐色 | 口縁端部上方にわずかに肥厚 | 内面 ヨコナデ、摺目 外面 ヨコナデ | A区溝14 |
| 1390 | 備前焼播鉢 | (32.2) | - | - | 赤褐色 | 口縁帯直立、端部丸みをもつ | 内面 ヨコナデ、摺目 外面 ヨコナデ | A区溝14 |
| 1391 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 角閃石 | - | 内面 ヨコナデ、摺目9本単位 外面 ヨコナデ、底部ナデ | A区溝14 |
| 1392 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 明赤褐色 | - | 内面 ヨコナデ、摺目 外面 ヨコナデ、底部ナデ | A区溝14 |
| 1393 | 備前焼播鉢 | - | (13.0) | - | - | - | 内面 ヨコナデ、摺目単位8本くら い 外面 ヨコナデ、底部ナデ | A区溝14・ 15・17 |
| 1394 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 赤褐色 | - | 内面 ヨコナデ、摺目 外面 ヨコナデ、不定方向のナ デ、底部ナデ | A区溝14 |
| 1395 | 唐津系播鉢 | - | (9.4) | - | 長石 | 1343と同一個体か | 内面 ナデ、摺目単位4~5本 外面 ヨコナデ、高台削り出し | A区溝14・ 15・17 |
| 1396 | 瓦質土器播鉢 | - | - | - | 暗灰白色 | 見込み部にも摺目あり | 内面 ヨコナデ、摺目単位9本、内 底不定方向ナデ、摺目単位6本 外面 ヨコナデ、底部切り離し後 ユビナデ、板状圧痕 | A区溝14 |

第660図 溝12南半(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|----------------|---------|--------|-----|---------------------|--------------------------------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1410 | 土師質土器杯 | - | 5.2 | - | 角閃石・長石、 橙褐色 | 底径に比し器高の高いものか | 内面 内底口クロ痕 外面 底部糸切り | A区溝16 |
| 1411 | 土師質土器杯 | - | - | 5.4 | 赤色粘土・角閃石・長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりシャープで体部内 湾気味 | 内面 内底口クロ痕 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝16 |
| 1412 | 瓦器椀 | - | (6.8) | - | 金雲母・長石・角閃石 | 低い高台はり付け | 内面 内底口クロ痕 外面 底部糸切り後ヨコナデ、高 台貼付け後ヨコナデ | A区溝16 |
| 1413 | 瓦質土器 | - | (9.0) | - | 金雲母・角閃石・石英 | 断面長方形の高台はり付け | 内面 ヨコナデ、不定方向のナデ 外面 ヨコミガキ、ヨコケズリ、底 部ヨコナデ | A区溝16 |
| 1414 | 青磁碗 | (17.0) | - | - | 灰緑色釉、釉厚0.5cm | - | 脚部 貼付け 外面 繕蓮弁 | A区溝16 |
| 1415 | 朝鮮王朝産 緑釉陶器碗 | - | (4.5) | - | 石英、 灰色釉 | - | 内面 施釉、ピンホール多数、砂 目痕 外面 施釉、高台内削り出し、砂 目痕 | A区溝16 |
| 1416 | 瓦質土器鉢 | - | (18.0) | - | (内)灰白色 (外)安灰色 | 断面長方形の高台付される | 内面 ミガキ? 外面 回転ナデ、底部ナデ、脚部 貼付け、ケズリ、面取り調整 | A区溝16 |
| 1417 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 石英・角閃石・長石 | 体部は内湾し、口縁端部は内側に折 れる 底部には脚部はり付け | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 粘土帯貼付け後ヨコナデ、 スタンプ文、横方向のミガキ、口 唇部面取り調整 脚部 横方向のミガキ、ユビオサ エ、ケズリ面取り調整 | A区溝16 |
| 1418 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 精製土、 青灰色 | 口縁端部内側がやや肥厚 | 内面 ヨコナデ、不定方向のナ デ、ユビナデ 外面 突帯貼付け、横方向のナ デ、口唇部ミガキ | A区溝16 |

| | | | | | | | | |
|------|--------|---|--------|---|-----------------------|--------------------|---|-------|
| 1419 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 石英・長石、 暗灰色 | 脚部はり付け | 内面 横方向にナデ、ナデ 外面 ミガキ風ナデ、ナデ 脚部 貼付け、ユビオサエ、ナデ | A区溝16 |
| 1420 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・金雲母・赤色粒子、 淡橙褐色 | 体部下に突帯1条 脚部はり付け | 内面 斜めにナデ、横方向にナデ 外面 ミガキ、ヨコナデ、ナデ、粘 土総貼付け | A区溝16 |
| 1421 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・金雲母 | 口縁部緩やかに外反 | 内面 ハケ目、ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | A区溝16 |
| 1422 | 土鍋 | - | - | - | 金雲母 | 口縁部短く折れる | 内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ツツミナデ、ナデ、ケズリ | A区溝16 |
| 1423 | 瓦質土器播鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 淡灰褐色 | 口縁内湾 | 内面 ヨコナデ、ナデ、摺目3~4 本単位 外面 ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ | A区溝16 |
| 1424 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 赤褐色 | 口縁帯直立、端部丸くおさめる | 内面 摺目単位5本単位 | A区溝16 |
| 1425 | 備前焼播鉢 | - | (14.2) | - | 長石 | - | 内面 横方向にナデ、底面口 痕、摺目7本単位 外面 横方向のナデ、縦方向の ナデ、ヨコナデ、底部ナデ | A区溝16 |

第661図 溝12南半(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------|---------|----|----|----------------------------|------------------|---|-----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1426 | 瓦質土器壺 | - | - | - | 長石、 白っぽい灰色 | 口縁部短く折れる | 内面 ヨコナデ、横方向のユビナ デ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ | A区溝16、土 塚146 |
| 1427 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 石英・角閃石、 青灰色 | 頸部短く直立し、端部が外面に肥厚 | 内面 ヨコナデ、ヘラ状のもので ナデ 外面 ヨコナデ、不定方向ナデ、 列点文 | A区溝16 |
| 1428 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 石英・角閃石、 青灰色 | 1427と同様な器形 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、列点文、口唇部ミ ガキ | A区溝16 |
| 1429 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 石英、 青灰色 | 1427と同様な器形 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、不定方向のナ デ、スタンプ文 | A区溝16 |
| 1430 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 長石・角閃石・金雲母、 淡褐色 | 肩があまり張らない | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、縦方向の工具ナ デ、口唇部面取り | A区溝16 |
| 1431 | 備前焼甕 | (35.4) | - | - | - | 口縁帯外面に凹線状のものあり | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、緑色の自然釉が かかる、口縁折り曲げ | A区溝16 |
| 1432 | 備前焼甕 | (34.2) | - | - | 暗赤褐色 | 口縁帯外面に凹線 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、縦方向のハケ目 | A区溝16 |
| 1433 | 備前焼壺 | - | - | - | 石英、 (内)橙色 (外)自然釉がかかる | - | 内面 横方向のナデ 外面 ナデ、ナデ後描波状文 | A区溝16 |

第665図 溝12北半(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|-------|-----|-----------------------------|--------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1445 | 土師質土器 小皿 | (8.0) | (8.6) | 1.2 | 角閃石・長石、 (内)橙褐色 (外)黄褐色 | 体部の立ちあがりシャープ | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り? | A区溝19 |
| 1446 | 土師質土器椀 | (14.4) | - | - | 長石、 黄褐色 | 端部緩やかに外反 | 内外面 横方向のミガキ | A区溝19 |
| 1447 | 瓦器椀 | - | (7.2) | - | 角閃石、 (内)灰白色 (外)暗灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、高台貼付け、底 部切り離し後ナデ 器面の荒れでヘラミガキ不明 | A区溝19 |
| 1448 | 白磁碗 | (17.2) | - | - | 灰色っぽい釉 | 端部が短く外方に折れる | 内面 施釉 外面 施釉、ケズリ、底部露胎 | A区溝19 |
| 1449 | 白磁碗 | - | (5.4) | - | やや黄色っぽい釉 | - | 外面 施釉、底部露胎、高台削り 出し | A区溝19 |
| 1450 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 長石・石英、 暗灰色 | 口縁部玉縁状 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、タキ | A区溝19 |

第666図 溝12北半(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|-------|-----|-------------------------|-----------------|--|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1451 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (6.0) | 1.7 | 長石・金雲母・石英・角閃石、 黄～橙褐色 | 体部の立ちあがりシャープ | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | A区溝18 |
| 1452 | 土師質土器 小皿 | (7.0) | (6.4) | 1.2 | 長石、 橙褐色 | 1451に比べ器高が低い | 内面 ナデ、底部一方向ナデ 外面 ナデ、底部糸切り | A区溝18 |
| 1453 | 土師質土器杯 | - | (8.3) | - | 角閃石・長石、 黄褐色 | 体部の立ちあがりシャープ | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝18 |
| 1454 | 土師質土器杯 | - | (7.6) | - | 長石・金雲母・角閃石・石英、 黄褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 一方向ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り | A区溝18 |
| 1455 | 瓦器椀 | - | (5.8) | - | 角閃石・長石・石英、 暗灰色 | 低い高台はり付け | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ、底部ナデ、高台 貼付け | A区溝18 |
| 1456 | 白磁碗 | (15.0) | - | - | 黄色っぽい釉薬 | 口縁玉縁 | 内外面 施釉 | A区溝18 |
| 1457 | 白磁碗 | - | (6.8) | - | 黄色っぽい釉薬 | - | 内面 施釉 外面 施釉、高台削り出し、露胎 | A区溝18 |
| 1458 | 青磁碗 | - | - | - | うすい緑色の釉、釉厚1mm | - | 外面 轆漻弁 | A区溝18 |
| 1459 | 青磁碗 | (16.4) | - | - | 緑灰色の釉、釉厚0.5cm | - | 外面 轆漻弁 | A区溝18 |
| 1460 | 青磁碗 | (15.6) | - | - | 濃緑色の釉、 細かい貫入あり | 口縁端反り | 内外面 施釉 | A区溝18 |
| 1461 | 青花碗 | (11.4) | - | - | 白色釉 | - | 内面 四方襷文 外面 線彫りの暗花文、界線 | A区溝18 |
| 1462 | 青花合子蓋 | 7.2 | - | 1.9 | 青灰色の釉薬、 細かい貫入あり | 文様は輪部を濃く描かず一筆描き | 内面 露胎 外面 施釉、界線あり | A区溝18 |
| 1463 | 瓦質土器壺 | (12.4) | - | - | 角閃石、 暗灰白色 | 口縁部は体部から短く内傾気味に | 内外面 回転ナデ | A区溝18 |
| 1464 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 長石、 黄色っぽい灰白色 | 底部近くに突帯1条 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、底部ナデ、突帯 貼付け | A区溝18 |
| 1465 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 角閃石、 赤褐色 内面に自然釉 | - | 内面 ロクロ痕、ユビオサエ痕、摺 目単位9本 外面 ロクロ痕、ナデ、底部ナデ | A区溝18 |

| | | | | | | | | |
|------|-------|--------|---|---|--------|-----------|-------------------------------------|-------|
| 1466 | 備前焼擂鉢 | (26.8) | — | — | 長石、赤褐色 | 口縁端部上面が内傾 | 内面 ヨコナデ、ロクロ痕、摺目単位8本 外面 ヨコナデ、回転ナデ | A区溝18 |
|------|-------|--------|---|---|--------|-----------|-------------------------------------|-------|

第667図 溝12北半(3)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|---------|----|----|--------------------------|----------|--------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1467 | 瓦質土器火鉢 | (36.6) | — | — | 角閃石・金雲母・斜長石、(内)黄褐色(外)橙褐色 | 口縁部外面が肥厚 | 内面 ヨコナデ 外面 横方向にミガキ | A区溝18 |
| 1468 | 備前焼甕 | — | — | — | 茶褐色 外面上部から自然釉 | 口縁部長い玉縁 | 内外面 ヨコナデ | A区溝18 |
| 1469 | 備前焼甕 | (41.8) | — | — | 砂粒、赤褐色 外面体部自然釉 | 口縁部長い玉縁 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区溝18 |

第673図 溝10(居館3東南側)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|---------|-------|-----|---------------------|-----------------|------------------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1479 | 土師質土器杯 | (5.8) | (3.0) | 2.2 | 角閃石・長石・赤色粒子、淡橙色 | 小型品で、口縁に比し器高が高い | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、横方向ナデ、底部糸切り | A区溝12 |
| 1480 | 唐津系陶器碗 | — | (4.4) | — | (釉)褐色 (胎土)赤褐色 | — | 内面 施釉 外面 施釉、体部下部露胎、高台削り出し | A区溝12 |
| 1481 | 土師器土鍋 | (21.2) | — | — | 長石・角閃石、(内)橙褐色(外)黒褐色 | やや腰に丸みをもった体部 | 内面 ヨコナデ、横方向にナデ 外面 ヨコナデ、斜め方向にケズリ | A区溝12 |
| 1482 | 備前焼壺 | — | — | — | 須恵質、長石、灰色 | 口縁端部を丸く肥厚させる | 内外面 ヨコナデ | A区溝12 |
| 1483 | 備前焼擂鉢 | (24.6) | — | — | 赤褐色 | 口縁端部を上方にやや拡張 | 内外面 ヨコナデ | A区溝12 |

第676図 溝10(居館3北東側)(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------------|---------|-------|-----|--------------------------------|--------------------|---|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1490 | 瓦器椀 | — | (7.4) | — | 角閃石・長石・白色粒子、灰色 | 断面方形の低い高台をはり付け | 内面 ミガキ? 外面 回転ナデ(ロクロ痕残る)、ヨコナデ、ナデ | A区溝11 |
| 1491 | 瓦器椀 | (7.2) | — | — | — | 体部丸みをもち立ち上がる | 内面 回転ナデ後一定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板状圧痕 | A区溝11 |
| 1492 | 青磁碗 | (14.8) | — | — | 青みを帯びた緑色の釉、表面に貫入が入る | 口縁端反り | 内面 施釉、凹線が入る 外面 施釉 | A区溝11 |
| 1493 | 青磁碗 | — | (5.2) | — | 黄色っぽい緑色の釉 | 厚い底部 | 内面 施釉 外面 施釉、底部部分的に露胎 | A区溝11 |
| 1494 | 青磁碗 | — | (5.6) | — | 深緑色の釉 | 厚い底部 | 内面 施釉、見込み部分に文様あり | A区溝11 |
| 1495 | 青磁皿 | — | (5.0) | — | くすんだ緑色の釉 | 内面櫛描文 | 内面 施釉 外面 施釉、底部露胎 | A区溝11 |
| 1496 | 青磁皿 | (10.0) | (4.1) | 2.9 | (釉)うすい緑色 (胎土)白色 表面に貫入が入る | 基筒底 | 内面 施釉 外面 施釉、底部露胎、高台削り出し | A区溝11 |
| 1497 | 白磁碗 | (18.4) | — | — | 緑がかった透明釉 | 玉縁口縁 | 内面 施釉 外面 施釉 | A区溝11 |
| 1498 | 白磁碗 | — | — | — | 黄味がかった白色、貫入あり | — | 内面 施釉、凹線が入る 外面 露胎 | A区溝11 |
| 1499 | 白磁碗 | — | (4.0) | — | 透明釉 | — | 内面 施釉 外面 高台部分施釉、底部露胎 | A区溝11 |
| 1500 | 白磁碗 | — | — | — | 緑がかった白色 | — | 内面 施釉 外面 施釉、底部露胎 | A区溝11 |
| 1501 | 白磁皿 | (11.4) | (6.0) | 2.7 | 白色釉 | 口縁端反り | 内外面 施釉、高台部分露胎 | A区溝11 |
| 1502 | 朝鮮王朝系白磁皿? | — | (6.2) | — | 黄味がかった白色の釉 | 比較的高台が高い | 内面 施釉、目積み痕 外面 施釉 | A区溝11 |
| 1503 | 朝鮮王朝系陶器雑釉陶器皿 | (10.4) | (4.0) | 3.0 | (釉)自然釉? (胎土)灰色 | 体部下で屈曲し、斜方向に口縁へいたる | 内面 施釉、目積みあり 外面 施釉、高台～底部部分的に露胎 | A区溝11 |
| 1504 | 朝鮮王朝系陶器雑釉陶器碗 | — | (5.4) | — | 白色～灰色の釉 | — | 内外面 施釉 | A区溝11 |
| 1505 | 瓦質土器土鍋 | — | — | — | 角閃石、黒褐色 | 口縁端部が上方に拡張 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、一部縦方向にナデとヨコナデ | A区溝11 |
| 1506 | 土師質土器土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石、(内)橙褐色(外)褐色 | 口縁部が短く外に折れる | 内外面 ヨコナデ | A区溝11 |
| 1507 | 土師質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石・長石、暗橙褐色 | 口縁内湾 | 内面 ヨコナデ 外面 スタンプ文、凹線 | A区溝11 |
| 1508 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石、灰白色 | — | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け | A区溝11 |
| 1509 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 角閃石・長石、暗褐色 | 脚はり付け | 内面 ユビナデ 外面 横方向のミガキ、ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、突帯貼付け | A区溝11 |
| 1510 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 石英、暗灰色 | 脚はり付け | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ナデ、脚部ユビオサエ、ナデ | A区溝11 |
| 1511 | 瓦質土器蓋 | (15.0) | — | — | 長石、暗青灰色 | — | 表面 ミガキ 裏面 ミガキ、ヨコナデ | A区溝11 |

第677図 溝10(居館3北東側)(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------|---------|--------|----|--------|-----------|--------------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1512 | 備前焼甕 | — | — | — | 長石、赤褐色 | 口縁玉縁 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、自然釉がかかる | A区溝11 |
| 1513 | 備前焼擂鉢 | — | — | — | 淡赤褐色 | 口縁端部短く外反 | 内外面 ヨコナデ | A区溝11 |
| 1514 | 備前焼擂鉢 | — | (11.4) | — | 赤褐色 | — | 内面 ヨコナデ、摺目9本単位 外面 ヨコナデ、底部ナデ | A区溝11 |
| 1515 | 須恵器甕 | — | — | — | 暗青褐色 | 口縁端部上下に拡張 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ヘラ状の工具で刻み | A区溝11 |

第678図 溝15

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|---------|---------|-----|---------|-------------|----------------|------------------------------|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1516 | 土師質土器小皿 | 3.9 | 2.9 | 0.8~0.9 | 長石・角閃石、淡黄褐色 | 小型品 体部は直立気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区溝15 |

| | | | | | | | | |
|------|--------|--------|---|---|-----------------------------------|----------------|--|-------|
| 1517 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 長石・角閃石、 暗褐色(外面一部被熱) | 体部内湾、口縁端部内側折れる | 内面 ミガキ 外面 ヨコナデ、スタンプ文、ミガキ | A区溝15 |
| 1518 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 緻密な土、 (内)灰白色(まだらな感じ) (外)暗灰色 | - | 内面 横方向のナデ 外面 ヨコナデ、スタンプ文、ミガキ | A区溝15 |
| 1519 | 土師器鉢 | (41.6) | - | - | 角閃石・長石、 ごくすい橙褐色 | 口縁部くの字状に開く | 内面 ヨコナデ、ミガキ 外面 ヨコナデ、沈線 | A区溝15 |
| 1520 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 長石・大きめの砂粒、 赤褐色(内面 自然釉) | - | 内面 ナデ、摺目単位7本 外面 ナデ、ヨコ方向の粗いナデ、底部ナデ | A区溝15 |
| 1521 | 備前焼播鉢 | - | - | - | 長石、 暗灰色 | - | 内面 ナデ、摺目単位9本 外面 横方向にナデした後タテナデ、ヨコナデ、ナデ | A区溝15 |

第680図 溝10・11

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------|---------|-------|-----|--------------------|-------------------------|--------------------------------------|----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1527 | 瓦器碗 | (15.8) | (7.8) | 5.5 | 長石 | 口縁部外面重ね焼痕 底部平底 | 内面 回転ナデ、底部ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板状圧痕 | A区溝12・14 |
| 1528 | 青磁碗 | - | - | - | うすい緑色の釉 細かい貫入あり | - | 内面 施釉、文様不明 外面 施釉 | A区溝12・14 |
| 1529 | 青花碗 | - | - | - | - | - | 内外面 施釉 内面口縁に界線2本、一筆描きタイプ | A区溝12・14 |
| 1530 | 備前焼播鉢 | (28.5) | - | - | 赤褐色 | 口縁外面に凹線状のもの 口縁端部上面内傾 | 内面 ヨコナデ、摺目単位6本 外面 ヨコナデ | A区溝12・14 |

第681図 溝12・13・15

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------------|---------|-------|-----|---|------------------------|---|-------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1531 | 土師質土器 小皿 | 7.0 | 5.8 | 1.2 | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりにはシャープで斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区溝15・16 |
| 1532 | 青花碗 | - | - | - | - | - | 内面 施釉、口縁にうすい界線2本入る。 外面 施釉、口縁上部にうすい界線2本、波濤文帯(一筆描きタイプ)、文帯の下に界線1本 | A区溝15・16・17 |
| 1533 | 青花碗 | (13.2) | - | - | (釉)青みがかった半透明 (胎土)褐色砂粒を少量含む | - | 内外面 全面施釉 | A区溝15・16・17 |
| 1534 | 青花碗 | - | - | - | 青～深緑色の呉須 | - | 内面 施釉、見込み界線2本、文様あり、一筆描きタイプ 外面 施釉、高台削り出し、底部露胎 | A区溝15・16・17 |
| 1535 | 高取窯系皿 | (10.0) | (4.1) | 3.1 | 青みがかった釉色 | 低い高台、内湾気味の体部 | 内面 施釉 外面 施釉、高台・底部露胎、高台削り出し | A区溝15・16・17 |
| 1536 | 高取窯系皿 | - | - | - | (釉)内暗青灰色 (外)青灰色 釉厚1mm以下 (胎土)白色砂粒を含む | 口縁部にむかい緩やかに外反 | - | A区溝15・16・17 |
| 1537 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石、 褐灰色 | 口縁端部外面が肥厚 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 口唇部面取り、花文スタンプ | A区溝15・16・17 |
| 1538 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 角閃石・長石・雲母、 黒褐色 | 体部内湾 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、スタンプ文、ミガキ | A区溝15・16・17 |
| 1539 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 長石、 暗灰色 | - | 内面 ヨコナデ、不定方向ナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け、雷文スタンプ、ミガキ? | A区溝15・16・17 |
| 1540 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・石英・赤色粒子、 二次焼成受ける | - | 内外面口縁部 強いヨコナデ、 その他 ヨコナデ 口唇部面取り | A区溝15・16・17 |
| 1541 | 土鍋 | - | - | - | 長石、 (内)灰色 (外)灰褐色 | 口縁部内外面でわずかに段 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ?、ケズリ? | A区溝15・16・17 |
| 1542 | 土鍋 | - | - | - | 長石、 (内)淡褐色 (外)褐色(口縁部すず付着) | 口縁部がわずかに外傾 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ケズリ | A区溝15・16・17 |
| 1543 | 土鍋 | - | - | - | 長石、 灰褐色 | 口縁部がわずかに外傾 | 内面 ヨコナデ、その他不明 外面 ヨコナデ、ケズリ後ナデ、タタキ、口唇部面取り後ヨコナデ | A区溝15・16・17 |
| 1544 | 土鍋 | - | - | - | 石英・角閃石、 灰褐色 | 口縁部がわずかに外傾 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ケズリ後ナデ 口唇部ツツミナデ | A区溝15・16・17 |
| 1545 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・石英、 外面すず付着 | 体部直立気味 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、ヘラケズリ、吹きこぼれた跡 口唇部面取り | A区溝15・16・17 |
| 1546 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・赤色粒子、 灰褐色 | 体部直立気味 | 内外面口縁部 強いヨコナデ、 その他 ヨコナデ | A区溝15・16・17 |
| 1547 | 土鍋 | - | - | - | 長石、 灰色 | 口縁外面に突帯 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、突帯貼付け | A区溝15・16・17 |
| 1548 | 瓦質土器甕 | - | - | - | 石英、 まだらな暗灰色 | 頸部短く直立し口縁部肥厚 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ミガキ、スタンプ文、ヨコナデ | A区溝15・16・17 |
| 1549 | 備前焼甕 | (25.2) | - | - | 赤褐色 | 口縁部短く直立、体部中程に突帯 | 内面 ヨコナデ、回転ナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ、突帯ヨコナデして貼付け | A区溝15・16・17 |
| 1550 | 備前焼甕 | (34.0) | - | - | 長石、 赤褐色 | 口縁外面に凹線 | 内面 ヨコナデ、横方向にナデ 外面 ヨコナデ 内面口縁部～外面肩部にかけて自然釉がかかる 窯印と文字あり | A区溝15・16・17 |

第682図 居館周辺の溝間接合土器(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------|---------|----|----|-------|-------------|-------------------------------|----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1553 | 備前焼甕 | (39.0) | - | - | 赤褐色 | 口縁部やや角張った玉縁 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、斜め方向にナデ | A区溝14～16 |

第683図 居館周辺の溝間接合土器(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------|---------|--------|-----|------------|---------|--|--------------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1554 | 備前焼甕 | (37.4) | — | — | 暗赤褐色 | 口縁部長い玉縁 | 内外面 ヨコナデ | A区 溝15・18 |
| 1555 | 備前焼甕 | (30.2) | — | — | 暗赤褐色 | 口縁部長い玉縁 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、横方向のナデ | A区 溝14・16、土 壇71 |
| 1556 | 備前焼甕 | — | — | — | 長石、 赤褐色 | 口縁部玉縁 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、自然釉 | A区 溝11・14、土 壇146 |
| 1557 | 備前焼甕 | — | — | — | 赤褐色 | 体部に突帯 | 内面 回転ナデ、ナデ 外面 回転ナデ、ヨコナデ後突帯 貼付け | A区 溝11・14、土 壇145 |
| 1558 | 備前焼鉢 | (16.4) | (7.0) | 6.4 | 暗赤褐色 | 平底で体部内湾 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、不定方向のナ デ、底部切り離し後ナデ | A区 溝14・16 |
| 1559 | 備前焼甕 | — | (28.8) | — | 暗赤褐色 | — | 内面 ヨコナデ、底部ナデ 外面 縦方向のナデ、底部ナデ | A区 溝14~16 |
| 1560 | 備前焼甕 | — | (28.8) | — | 暗赤褐色 | — | 内面 ヨコナデ、不定方向のナ デ 外面 ヨコナデ、底部不定方向の ナデ | A区 溝15・16・ 17、土壇70 |

第684図 居館周辺の溝間接合土器(3)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------|---------|--------|----|--------------------|-------------|--|---------------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1561 | 備前焼甕 | (36.4) | — | — | 赤褐色 | 口縁部やや角張った玉縁 | 内面 ヨコナデ、横方向のナデ 外面 ヨコナデ、ナデ | A区 溝11・15・18 |
| 1562 | 備前焼甕 | (34.6) | — | — | 赤褐色 | 口縁部外面凹線 | 内面 ヨコナデ、横方向にハケ目 外面 ヨコナデ、ヨコナデ後縦方 向のハケ目、窯印 | A区 溝15・16、土 壇72・146 |
| 1563 | 備前焼甕 | — | (32.2) | — | 暗赤褐色、 内面に緑色の自然釉 | — | 内面 ナデ、横方向のハケ目、ヨ コナデ、ナデ 外面 縦方向の板ナデ、ナデ、ヨ コナデ、底部ナデ | A区 溝17・18 |
| 1564 | 備前焼甕 | — | (32.4) | — | 暗赤褐色 | — | 内面 ナデ、横方向のハケ目、ヨ コナデ、自然釉がかかる 外面 縦方向にヨコナデ、底部ナ デ、一部ユビオサエあり | A区 溝14・17 |

第696図 SX5

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------------|---------|-----|---------|----------------------|------------------------------|---------------------------|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1571 | 土師質土器 小皿 | 18.4 | 5.9 | 1.7~2.1 | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部の立ちあがりやや丸みをもち斜 方向に立ちあがる | 内面 回転ナデ、見込み回転ナ デ後一方向ナデ | A区 SX4 |
| 1572 | 瓦器碗 | (15.6) | — | — | 角閃石・長石、 暗灰色、白色、灰色 | 口縁部に重ね焼痕 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ | A区 SX4 |

第700図 SX8

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|---------|-----|----|----------------|-----------|--------------------------|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1573 | 土師質土器杯 | — | 6.8 | — | 長石・石英、 淡橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 SX7 |

第706図 SX10

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|-------------|-------|-----|------------------------------|------------------|---|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1589 | 土師質土器杯 | — | 7.6 | — | 角閃石・石英、 (内)黒褐色 (外)赤褐色 | 体部は比較的シャープに立ちあがる | 内面 付着物の為不明 外面 ヨコナデ、底部糸切り後丁 寧にナデ消し | A区 SX9 |
| 1590 | 土師器小皿 | (8.4) | (6.2) | 1.3 | 金雲母・赤色粒子・角閃石・長 石、 淡橙褐色 | 体部は斜方向に立ちあがり内湾気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部切り離 し後ナデ | A区 SX9 |
| 1591 | 青磁碗 | — | — | — | くすんだ緑の透明釉、釉厚1mm | — | 内外面 施釉 | A区 SX9 |
| 1592 | フイゴ羽口 | 内径 (2.4) | — | — | 砂粒・石英、 淡褐色 | — | ナデ | A区 SX9 |

第714図 柱穴6

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-----|---------|-----|---------|---------------------------------|---------------|---|------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1620 | 瓦器碗 | 16.0 | 7.6 | 5.2~5.7 | 長石・石英、 灰色、灰白色 | 底部やや厚めで体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、不定方向ナ デ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板 状圧 | A区 柱穴10 |
| 1621 | 瓦器碗 | 16.0 | 7.1 | 5.7~6.2 | 長石・角閃石、 (内)灰色 (外)暗青灰色、灰白色 | 底部やや厚めで体部内湾気味 | 内面 回転ユビナデ、見込み不 定方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り 後軽クナデ | A区 柱穴10 |

第717図 遺跡出土弥生・古墳時代出土遺物

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|---------|-------|----|--|--------------------------|--|---------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1623 | 弥生式土器壺 | (26.0) | — | — | 角閃石・長石・石英、 赤褐色 | 頸部内傾、口縁外反、口縁下に刻目 突帯1条 | 内面 ヨコナデ、ミガキ? 外面 ヨコナデ、ミガキ、刻目突帯 | A区 土壇106 |
| 1624 | 弥生式土器甕 | (22.8) | — | — | 角閃石・長石・石英・赤色粒子、 (内)淡橙褐色 (外)明褐色 | 口縁下に突帯 | 内面 ヨコナデ? 外面 ヨコナデ、口縁外部外面に 刻目 | A区 1号竪穴 |
| 1625 | 弥生式土器甕 | — | (3.2) | — | 角閃石・石英・長石・赤色粒子・ 白色粒子、 (内)淡橙褐色 (外)橙褐色 | 厚めの平底 | 内面 ナデ 外面 ナデ(摩滅著しい)、底部ナ デ、穿孔あり | A区 M-2 P-2 |
| 1626 | 弥生式土器甕 | — | — | — | 角閃石・長石・石英・赤色粒子・ 砂粒 (内)淡赤褐色 (外)淡黄褐色、黒斑あり | 厚めの平底 | 内外面 ナデ | 土壇1 |
| 1627 | 弥生式土器 | — | 5.0 | — | 角閃石・長石・赤色粒子、 (内)暗灰色 (外)淡灰黄色 | 平底 | 内面 縦方向板ナデ 外面 粗いハケ目、底部ハケ後 ナデ? | 溝16 F-6 |
| 1628 | 弥生式土器 | — | 8.6 | — | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・石英・砂粒 淡褐色 | 上げ底の底部 | 外面 ユビナデ、ユビオサエ | B区 遺構面一括 |
| 1629 | 古墳時代壺 | — | — | — | 角閃石・長石・白色粒子・赤色 粒子、 淡橙褐色 | 口縁部の立ちあがりは緩やかで外反 気味 | 内面 ヨコナデ、斜め方向のハケ 目後ナデ、横方向の板ナデ 外面 ヨコナデ | 溝3 A-9 |
| 1630 | 古墳時代甕 | (14.8) | — | — | 角閃石・長石、 淡橙褐色 | <の字状口縁 | 内外面 ヨコナデ、ナデ | SX9 |
| 1631 | 古墳時代甕 | (15.4) | — | — | 角閃石・石英、 暗褐色 | <の字状口縁 | 内面 ナデ 外面 ヨコナデ | 土壇42 |

第718図 遺跡出土古代前半の土器

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------|---------|-------|-----|-----------------------------|-------------|-------------------------------------|-----------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1632 | 青磁碗 | (15.2) | 5.9 | 8.0 | (釉)オリブ灰色 (胎土)精製土、赤灰色～青灰色 | 厚めの底部で口縁端反り | 内面 施釉、見込みに目積み痕 外面 施釉、高台削り出し、目積み痕 | 溝2 A-8 |
| 1633 | 青磁碗 | — | — | — | (釉)オリブ灰色 (胎土)精製土、灰色 | — | 内外面 施釉 | 溝2・3 |
| 1634 | 緑釉陶器皿 | — | (7.6) | — | (胎土)白色 | 高めの高台を付す | 内面 施釉 外面 施釉(所々はげる)、底部糸切り | 土塋132 |

第722図 土塋193北西側遺物集中地点出土土器

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|---------|---------|--------|---------|---|---------------------------------|---|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1657 | 土師質土器小皿 | 7.9 | 6.3 | 1.0 | 長石・茶色粒子・金雲母・砂粒、 淡褐色 (一部明褐色→彩色?) | 体部斜方向にのびる | 内面 回転コナデ、ユビナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り | C-1 遺物集中 地点 |
| 1658 | 土師質土器小皿 | 7.8 | 5.9 | 1.1~1.2 | 長石・白色粒子・茶色粒子、 淡明褐色 | 体部斜方向にのび、わずかに外反気味 | 内面 回転コナデ、ユビナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り 後ナデ | C-1 遺物集中 地点 |
| 1659 | 土師質土器小皿 | (8.2) | 6.4 | 1.0 | 長石・茶色粒子、 淡明褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転コナデ、ユビナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り | C-1 遺物集中 地点 |
| 1660 | 土師質土器小皿 | (8.0) | (6.2) | 1.1 | 長石・茶色粒子、 淡褐色、明褐色(内底) | 体部の立ちあがりはやや丸みをもつ | 内面 回転コナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り | C-1 遺物集中 地点 |
| 1661 | 土師質土器杯 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、 明褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転コナデ、ユビナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り | C-1 遺物集中 地点 |
| 1662 | 土師質土器杯 | — | (6.6) | — | 長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転コナデ、ユビナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り | C-1 遺物集中 地点 |
| 1663 | 土師質土器杯 | — | (6.6) | — | 長石・角閃石・茶色粒子・金雲母、 淡褐色 | 体部斜方向に立ちあがる | 内面 回転コナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り | C-1 遺物集中 地点 |
| 1664 | 瓦器碗 | — | (6.8) | — | 長石・石英、 灰白色、暗灰色 | 底部平底 | 内面 回転コナデ、ナデ 外面 回転コナデ、ユビナデ、 底部糸切り | C-1 遺物集中 地点 |
| 1665 | 土鍋 | (26.8) | — | — | 長石・白色粒子・茶色粒子・石英、 淡褐色、明褐色(外面口縁部～ 体部にかけて) | 体部下で屈曲、上半は直立気味に立ち、 口縁がやや外傾する | 内面 ナナメハケ目後ナデ、ナナ メハケ目後コナデ目、ユビオサ エ、ヨコ・ナナメハケ目 外面 ナデ、タテハケ目後ユビオ サエ、タテハケ目後ナデ、格子目 タタキ | C-1 遺物集中 地点 |
| 1666 | 須恵器甕 | — | (16.4) | — | 長石・白色粒子、 灰青緑色 | — | 内面 回転コナデ、ユビナデ 外面 格子目タタキ、底部へうき ず、圧痕など | C-1 遺物集中 地点 |

第723図 建物以外の柱穴出土遺物(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|---------|---------|--------|---------|-----------------------|--------------------------|--|-----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1667 | 土師質土器杯 | (13.6) | (8.3) | 3.7 | 角閃石・長石・石英、 やや暗い暗褐色 | 体部は斜方向に直線的にのびる | 内面 回転ナデ、見込み一方 ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後 板状圧痕 | B区 F-2 P-14 |
| 1668 | 土師質土器杯 | (14.3) | 8.3 | 3.9 | 長石・角閃石・石英・金雲母、 淡褐色 | 体部は斜方向に直線的にのびる | 内面 回転ナデ、見込み回転ナ デ後不定方向のユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 G-1 P-7 |
| 1669 | 土師質土器杯 | 12.2 | 6.8 | 3.1 | 長石・赤色粒子、 淡褐色 | 体部は緩やかに立ちあがり内湾気味 | 内面 回転ナデ、見込み不定方 向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 H-14 P-2 |
| 1670 | 土師質土器杯 | 11.8 | 7.5 | 3.3~3.4 | 石英・角閃石・金雲母、 暗黄褐色 | 体部は緩やかに立ちあがり内湾気味 | 内面 回転ナデ、見込み不定方 向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 I-2 P-12 |
| 1671 | 土師質土器杯 | (12.2) | (7.8) | 3.2 | 長石、 赤褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、見込みユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 I-2 P-15 |
| 1672 | 土師質土器杯 | (12.6) | (8.2) | 3.9~4.5 | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 G-11 P-3 |
| 1673 | 土師質土器杯 | (15.2) | (10.2) | 3.3 | 角閃石・金雲母、 黄褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後 板状圧痕 | B区 G-1 P-2 |
| 1674 | 土師質土器杯 | 14.2 | 7.2 | 3.4 | 長石・角閃石・石英、 橙褐色 | 体部は緩やかに立ちあがり内湾 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 E-9 P-7 |
| 1675 | 土師質土器杯 | (17.6) | (9.8) | 3.3 | 角閃石、 淡黄褐色 | 体部の立ちあがりは丸みをもつ | 内面 コナデ、見込みナデ 外面 コナデ、底部糸切り | A区 A-7 P-1 |
| 1676 | 土師質土器杯 | (15.6) | (8.4) | 3.7 | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部は丸みに近い感じに緩やかに 立ちあがる | 内面 コナデ、見込み縦方向ナ デ 外面 回転ナデ、底部糸切り、 板状圧痕 | A区 B-1 P-20 |
| 1677 | 土師質土器杯 | (15.0) | (9.2) | 3.5 | 角閃石、 やや暗い赤褐色 | 体部の立ちあがりは丸みをもつ | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後 ナデ | B区 H-3 P-3 |
| 1678 | 土師質土器杯 | (14.2) | — | — | 角閃石、 暗赤褐色 | 体部内湾 | 内外面 回転ナデ | B区 I-7 P-10 |
| 1679 | 土師質土器杯 | (15.0) | (10.8) | 2.6 | 角閃石、 黄褐色 | 体部は尖り気味である | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 G-1 P-4 |
| 1680 | 土師質土器杯 | (15.2) | (7.2) | 4.3 | 角閃石、 淡橙褐色 | 体部の立ちあがりは丸みもちや や外反気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 I-1 P-41 |
| 1681 | 土師質土器杯 | (13.7) | 6.2 | 4.8 | 角閃石・長石・石英、 明橙褐色 | 体部は大きく外反 | 内面 回転コナデ、ユビナデ 外面 回転コナデ、底部へう切 り後ナデ | A区 C-6 P-1 |
| 1682 | 土師質土器杯 | — | 7.0 | — | 角閃石・長石、 橙褐色 | 体部は斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ(へら状工具使 用)、底部糸切り | A区 G-1 P-100 |
| 1683 | 土師質土器杯 | (14.4) | 8.5 | 4.9 | 角閃石・長石、 暗茶褐色 | 体部は外反気味に口縁へ | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部へう切り 後ナデ | A区 D-10 P-9 |
| 1684 | 土師質土器小皿 | (7.4) | (7.0) | 2.1 | 角閃石・長石・赤色粒子、 橙褐色 | 体部直立気味 | 内外面 回転ナデ | A区 H-15 P-4 |
| 1685 | 土師質土器小皿 | 7.5 | 6.1 | 1.3 | 角閃石・長石、 黒っぽい橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ、見込み回転ナ デ後ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 E-3 P-11 |

| | | | | | | | | |
|------|-------------|---------|---------|---------|-------------------------------|------------------------|---|----------------|
| 1686 | 土師質土器 小皿 | 7.7 | 5.6~5.9 | 1.2 | 長石・石英、 黄褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 A-2 P-3 |
| 1687 | 土師器小皿 | 8.5~8.9 | 1.0~1.3 | 7.5~7.7 | 角閃石・長石・赤色粒子・金雲母・石英、 うすい赤褐色 | 体部短く、やや直立気味 | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | B区 E-9 P-3 |
| 1688 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (5.8) | 1.1 | 角閃石・長石・石英、 暗赤褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ、ユビオサエ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 A-1 P-13 |
| 1689 | 土師質土器 小皿 | (8.4) | (7.4) | 1.3~1.4 | 角閃石・長石・石英、 淡橙褐色 | 体部直立気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 A-1 P-18 |
| 1690 | 土師質土器 小皿 | 8.0 | 6.2 | 1.2 | 長石・茶色粒子、 淡褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | A区 I-10 P-1 |
| 1691 | 土師質土器 小皿 | (7.6) | (6.4) | 0.9~1.4 | 長石・角閃石、 橙褐色 | 体部斜方向へのび外反気味 | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 C-7 P-1 |
| 1692 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | (7.2) | 1.9 | 角閃石・斜長石、 橙褐色 | 体部直立気味 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 H-1 P-13 |
| 1693 | 土師質土器 小皿 | 8.1~8.6 | 6.4~6.8 | 1.0~1.2 | 石英、 赤褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ナデ、ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、板状圧痕 | A区 K-6 P-76 |
| 1694 | 土師質土器 小皿 | 8.5 | 6.9 | 1.0 | 赤色粒子・長石、 橙褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ユビナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 H-1 P-48 |
| 1695 | 土師質土器 小皿 | (8.8) | (7.2) | 1.4 | 石英、 やや暗い橙褐色 | 体部斜方向へのび、尖り気味 | 内面 ヨコナデ、見込みにユビオサエ痕 外面 ヨコナデ、底部糸切り後不定方向ナデ | A区 A-7 P-1 |
| 1696 | 土師質土器 小皿 | 8.5~8.7 | 5.2 | 1.1~1.3 | 角閃石、 淡黄褐色 | 体部の立ちあがりは緩やか | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ | A区 A-7 P-1 |
| 1697 | 土師質土器 小皿 | (8.8) | 7.2 | 1.2 | 長石、 暗黄褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、板状圧痕 | A区 B-1 P-32 |
| 1698 | 土師質土器 小皿 | (9.6) | (7.8) | 1.5 | 長石、 黒褐色(二次焼成による) | 体部斜方向へのび外反 | 内面 回転ユビナデ、見込み一方方向ナデ 外面 回転ユビナデ、見込み不定方向ナデ | A区 B-1 P-32 |
| 1699 | 土師器小皿 | (9.2) | (6.2) | 1.3 | 長石・角閃石、 褐色(一部橙褐色) | 体部の立ちあがりは丸みをもち、斜方向へのびる | 内面 回転ユビナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り後板状圧痕 | A区 H-5 P-12 |
| 1700 | 土師器小皿 | 10.2 | 7.0 | 1.4~1.5 | 角閃石・長石・赤色粒子、 淡黄褐色 | 体部緩やかに立ちあがり斜方向へ | 内面 見込み不定方向ナデ 外面 底部糸切り後板状圧痕 | A区 H-5 P-27 |
| 1701 | 土師質土器 小皿 | (11.6) | (7.2) | 1.4 | ぬるぬる・とろとろの胎土 橙~黄褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 ナデ 外面 ナデ、底部糸切り後ナデ | A区 C-10 P-4 |

第724図 建物以外の柱穴出土遺物(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|---------|---------|-------------------------------------|----------------------|--|----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1702 | 土師質土器 小皿 | 8.3 | 6.4 | 0.8~0.9 | 角閃石・長石・金雲母、 暗橙褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ナデ、見込み回転ナデ、不定方向ナデ | B区 G-1 P-6 |
| 1703 | 土師質土器 小皿 | (8.0) | (6.0) | 1.2~1.3 | 長石・角閃石・石英・金雲母、 (内)暗橙褐色 (外)暗褐色 | 体部丸みをもち立ちあがる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 D-3 P-4 |
| 1704 | 土師質土器 小皿 | (8.4) | (7.0) | 1.4 | 角閃石・斜長石、 (内)淡橙褐色 (外)橙褐色 | 体部斜方向へ | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区 I-7 P-10 |
| 1705 | 土師質土器 小皿 | 8.3 | 3.8 | 1.5~1.7 | 角閃石・斜長石、 暗赤褐色 | 底部中央に穿孔あり 体部は斜方向に | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ | B区 B-1 P-30 |
| 1706 | 土師質土器 小皿 | (9.0) | (6.6) | 1.3 | 角閃石、 橙褐色 | 体部斜方向へのびる | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ | A区 C-3 P-1 |
| 1707 | 土師質土器 小皿 | (8.6) | (6.4) | 1.7 | 長石、 暗橙褐色 | 体部の立ちあがりはシャープ | 内面 回転ナデ、見込みナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 H-1 P-4 |
| 1708 | 土師質土器 小皿 | (9.7) | (8.0) | 1.4 | 角閃石、 (内)黄褐色 (外)やや橙褐色 | 体部は緩やかに立ちあがる | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区 A-2 P-25 |
| 1709 | 土師質土器 小皿 | (10.6) | (6.6) | 1.3 | 長石・角閃石、 暗灰色 | 体部の立ちあがりは緩やかで斜方向に | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 A-4 P-7 |
| 1710 | 土師質土器 小皿 | 9.6 | 7.2 | 1.7 | 角閃石、 黄褐色 | 体部の立ちあがりは丸みをもち口縁外反 | 内面 回転ナデ、見込みユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、一部回転ナデの痕 | B区 B-1 P-7 |
| 1711 | 土師質土器 小皿 | 10.4 | (6.0) | 1.5 | 長石・赤色粒子・角閃石、 淡橙褐色 | 体部の立ちあがりは緩やかで斜方向に | 内面 不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 H-5 P-22 |
| 1712 | 土師器椀 | (15.6) | — | — | 角閃石・斜長石・石英 | 椀部が浅い | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、高台貼付け、底部切り離し後板状圧痕 | A区 C-5 P-5 |
| 1713 | 土師器椀 | (14.2) | — | — | 角閃石・長石・金雲母、 暗橙褐色 | 体部は直線的に口縁へ | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、高台貼付け、底部切り離し後ナデ | A区 C-5 P-5 |
| 1714 | 土師器椀 | — | — | — | 長石・茶色粒子、 黄白色、一部明橙褐色 | 口縁部外反 | 内面 ヨコナデ、斜め方向のヘラミガキ 外面 ヨコナデ、ヨコヘラミガキ | B区 D-1 P-1 |
| 1715 | 土師器椀 | — | 7.0 | — | 石英、 黄白色 | 断面方形の高台はり付け | 内面 回転ナデ、ミガキ 外面 回転ナデ、ミガキ | A区 H-5 P-29 |
| 1716 | 土師器椀 | — | 6.8 | — | 石英・長石、 黄褐色 | 高台は外開きにはり付け | 内面 ミガキ 外面 横方向のナデ、ヨコナデ、底部一方向ナデ | A区 C-10 P-4 |
| 1717 | 内黒土器椀 | (15.6) | (6.4) | 5.6 | 角閃石・斜長石、 (内)黒色 (外)淡黄褐色 | 断面三角形の高台を外開きに付す | 内面 回転ナデ後横方向のミガキ 外面 回転ナデ後横方向のミガキ、高台貼付け後ナデ | A区 A-7 P-1 |
| 1718 | 内黒土器椀 | — | 6.6~6.9 | — | 長石・角閃石・赤色粒子、 (内)黒色 (外)赤褐色 | 断面長方形の高台を外開きに | 内面 ミガキ、見込み中央にユビオサエ 外面 ミガキ、ヨコナデ | A区 H-5 P-4 |

| | | | | | | | | |
|------|-------|--------|-------|---------|---------------------------------|-------------------|---|----------------|
| 1719 | 内黒土器椀 | — | 7.8 | — | 石英・赤色粒子・角閃石、 (内)黒色 (外)淡棕色 | 円盤状高台 | 内面 ミガキ? 外面 回転コナデ、底部糸切り | A区 A-1 P-15 |
| 1720 | 内黒土器椀 | — | 7.4 | — | 角閃石、 (内)灰褐色 (外)暗緑褐色 | 円盤状高台 | 内面 ミガキ 外面 底部糸切り、ヘラ描きの記号? | B区 C-1 P-8 |
| 1721 | 内黒土器椀 | — | (8.4) | — | — | 体部下にツバ状の突帯を付す | 内面 ミガキか? 外面 ナデ | — |
| 1722 | 瓦器椀 | (25.2) | (6.0) | 5.6 | 長石・角閃石、 灰白色、暗灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 斜めのミガキ、回転ユビナデ | A区 H-1 P-28 |
| 1723 | 瓦器椀 | (15.0) | (5.8) | 5.4 | 角閃石、 灰白色～淡灰色 | 断面方形の高台はり付け | 内面 回転ナデ後ミガキ、回転ナデ後ナメ・ヨコミガキ 外面 回転ナデ後横方向のミガキ、回転ナデ、高台貼付け | A区 A-1 P-16 |
| 1724 | 瓦器椀 | 15.5 | 5.7 | 5.9 | 角閃石・長石、 暗灰白色、灰白色、灰色 | 低い高台はり付け | 内面 回転ナデ、見込み回転ナデ後ユビオサエ 外面 回転ナデ、ユビオサエ、高台貼付け後ナデ、底部糸切り | B区 E-1 P-3 |
| 1725 | 瓦器椀 | 15.5 | 6.2 | 5.8～6.0 | 角閃石・長石、 暗灰色 | 低い高台はり付け | 内面 回転ナデ、ユビオサエ 外面 回転ナデ、ユビオサエ、底部ナデ | B区 A-2 P-15 |
| 1726 | 瓦器椀 | (15.0) | (6.4) | 5.0 | 石英、 淡黄褐色 | 底部平底 | 内外面 回転ナデ | A区 C-11 P-4 |
| 1727 | 瓦器椀 | 16.3 | 7.8 | 5.6 | 長石・灰色粒子、 暗灰色、灰白色、灰色 | 口縁外面に重ね焼痕 底部平底 | 内面 回転コナデ、見込みユビナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り後板状圧痕 | B区 D-1 P-3 |

第725図 建物以外の柱穴出土遺物(3)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------|---------|-------|---------|--|--------------------------|---|----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1728 | 瓦器椀 | (15.8) | 7.2 | 6.1 | 角閃石・長石、 (内)灰色 (外・口縁)暗灰褐色 (外・その他)灰褐色 | 口縁外面に重ね焼痕 厚め底部で体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 E-1 P-3 |
| 1729 | 瓦器椀 | 15.2 | 7.4 | 5.9 | 角閃石・石英、 暗灰白色、灰白色 | 口縁外面に重ね焼痕 厚め底部で体部内湾気味 | 内面 回転ナデ後ミガキ、見込み回転ナデ後不定方向ナデ 外面 回転ナデ、ミガキ、底部糸切り | B区 E-1 P-3 |
| 1730 | 瓦器椀 | 16.3 | 7.8 | 5.8～5.9 | 角閃石・長石、 灰白色、淡灰色 | 口縁外面に重ね焼痕 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ消し | B区 E-9 P-7 |
| 1731 | 瓦器椀 | 15.4 | 7.4 | 6.0 | 長石・白色粒子、 暗灰色、灰白色 | 口縁外面に重ね焼痕 厚め底部で体部内湾気味 | 内面 回転コナデ、見込みユビナデ 外面 回転コナデ、ユビオサエ、底部糸切り | B区 D-1 P-3 |
| 1732 | 瓦器椀 | 15.6 | 7.3 | 5.1～5.8 | 角閃石、 暗灰白色、灰白色 | 口縁外面に重ね焼痕 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ、見込み回転ナデ後ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後衣一方向のユビナデ | B区 E-1 P-3 |
| 1733 | 瓦器椀 | (15.0) | — | — | 石英・白色粒子、 暗灰色～灰色 | わずかに稜をもち外反気味で口縁部へ | 内面 ミガキ 外面 回転コナデ、ユビオサエ、一部斜めに工具があたる | B-1 P-21 |
| 1734 | 瓦器椀 | (15.8) | — | — | 角閃石・長石、 (内)灰白色 (外)灰色、灰白色、暗灰色 | 口縁外面に重ね焼痕 | 内外面 回転ナデ | B区 D-8 P-3 |
| 1735 | 瓦器椀 | (17.4) | — | — | 長石、 灰褐色、灰白色 | 口縁外面に重ね焼痕 | 内外面 回転ナデ | A区 D-11 P-4 |
| 1736 | 瓦器椀 | (15.4) | — | — | 長石・石英・角閃石、 (内)灰白色 (外)青灰色、灰白色 | 口縁外面に重ね焼痕 | 内外面 回転ナデ | B区 E-1 P-2 |
| 1737 | 瓦器椀 | — | 6.5 | — | 角閃石・石英、 (内)灰白色 (外)淡灰白色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 回転ナデ、ミガキ 外面 回転ナデ、高台貼付け後ナデ、底部切り離し後回転ナデ | B区 E-9 P-7 |
| 1738 | 瓦器椀 | — | 5.5 | — | 石英・長石、 黄色っぽい白 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 ミガキ 外面 ミガキ、底部糸切り後ナデ | B区 A-4 P-12 |
| 1739 | 瓦器椀 | — | (6.7) | — | 角閃石・長石、 暗灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 横方向のミガキ、不定方向のナデ 外面 横方向のミガキ、回転ナデ、高台貼付け後ナデ | B区 A-4 P-16 |
| 1740 | 瓦器椀 | — | (7.3) | — | 長石、 (内)黄褐色 (外)赤褐色 | 非常に細く低い高台あり | 内面 回転ナデ、見込み回転ナデ後ユビナデ 外面 回転ナデ、高台ユビナデ、底部糸切り後ユビナデ | A区 E-10 P-1 |
| 1741 | 瓦器椀 | — | (7.4) | — | 長石 | 底部平底 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | A区 D-10 P-3 |
| 1742 | 瓦器小皿 | — | — | — | 石英・金雲母、 (内)灰色 (外)灰白色～灰色 | 体部内湾 | 内面 回転コナデ 外面 回転コナデ、底部糸切り | A区 J-2 P-8 |
| 1743 | 瓦器小皿 | (8.4) | (4.4) | 2.1 | 白色粒子・石英・長石、 灰色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ユビナデ 外面 回転ユビナデ、底部糸切り | A区 H-2 P-16 |
| 1744 | 瓦器小皿 | 9.4 | 6.8 | 1.9～2.1 | 角閃石・長石、 灰白色 | 体部の立ちあがりほシャープ | 内面 回転ナデ、見込み不定方向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナデ | B区 B-4 P-15 |

第726図 建物以外の柱穴出土遺物(4)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-----|---------|-------|-----|------------------------------|---------------|---------------------------------------|----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1745 | 青花皿 | (12.0) | (6.4) | 2.4 | 文様(内面)淡藍色(外面)藍色 種切れあり | 口縁端反り | 内外面 全面施釉 文様一筆描き | A区 J-8 P-42 |
| 1746 | 青花碗 | (15.0) | — | — | (釉)黄色っぽい釉、貫入あり (胎土)陶質の黄白色 | — | 文様はくすんだ青で一筆描き | A区 G-10 P-5 |
| 1747 | 白磁碗 | (15.6) | — | — | (釉)灰色がかった白色 | 口縁端部は短く外方に折れる | 内外面 施釉 | A区 H-2 P-7 |
| 1748 | 白磁皿 | (9.0) | (3.8) | 2.3 | 白色釉、貫入あり | 浅めの器形 | 内面 施釉、重ね焼きの痕 外面 施釉、高台露胎、4ヶ所の切り込みあり | A区 G-16 P-6 |
| 1749 | 白磁碗 | — | (6.6) | — | やや緑がかった白色釉 | — | 内外面 施釉 高台削り出し、露胎 | A区 F-1 P-2 |
| 1750 | 青磁碗 | (16.2) | — | — | 緑灰色、釉厚0.6mm | — | 蓮弁文 | B区 C-3 P-14 |
| 1751 | 青磁碗 | (17.0) | — | — | うすい緑色の釉、釉厚0.5～1mm | — | 鍋蓮弁文 | B区 E-7 P-2 |

| | | | | | | | | |
|------|--------|--------|------|---|------------------------------|-----------------------|---|----------------|
| 1752 | 青磁碗 | — | — | — | (釉)灰色がかった緑色 | 見込み、内面文様あり | 外面 施釉、高台削り出し、露胎 | A区 H-8 P-4 |
| 1753 | 青磁碗 | — | 5.65 | — | 石英・赤色粒子、 (釉)灰緑色、内外に貫入あり | — | 内面 施釉、見込みに沈線? 外面 施釉、高台削り出し | A区 G-8 P-4 |
| 1754 | 青磁皿 | (13.0) | — | — | (釉)浅黄色 (胎土)灰白色 | 体部は屈曲し、口縁部へむかい斜方向にのびる | 内面 施釉、沈線あり、一部に描 描き文様か? 外面 施釉、やや細かい貫入あり | A区 B-1 P-15 |
| 1755 | 瓦質土器火鉢 | (35.2) | — | — | 黒色(内外面ともすす付着) | 外面口縁下に突帯2条とスタンブ文 | 内面 縦方向のナデ 外面 ヨコナデ、縦方向のナデ、 スタンブ文、横方向のナデ | A区 G-16 P-7 |
| 1756 | 瓦質土器火鉢 | — | — | — | 黒褐色(すす付着) | 体部下に突帯1条 | 内面 縦・横方向のナデ、横方向 のナデ 外面 斜め方向のナデ、ヨコナ デ、突帯貼付け | A区 G-15 P-3 |
| 1757 | 須恵器こね鉢 | (27.6) | — | — | 長石・白色粒子、 明灰色 | 口縁端部上下若干拡張 | 内面 ヨコナデ、下ー上のヘラナ デ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | B区 D-1 P-2 |
| 1758 | 須恵器こね鉢 | (28.6) | — | — | 石英、 (外面口縁部)灰色 (その他)灰白色 | 口縁端部を上方に拡張 | 内外面 回転ヨコナデ | A区 D-8 P-3 |

第727図 建物以外の柱穴出土遺物(5)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|--------|---------|----|----|---|--|---|----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1759 | 土鍋 | (53.8) | — | — | 角閃石、 (内)暗灰褐色、暗褐色 (外)黒褐色、(底部)被熱による 暗赤褐色 | 体部は下部で屈曲し、斜方向にのび る 口 縁端部は短く外方に折れる 底部は丸底状 | 内面 ヨコナデ、見込み不定方向 のナデ 外面 ナデ、格子目タタキ、底部 縦方向のナデ | A区 J-11 P-2 |
| 1760 | 土鍋 | (41.2) | — | — | 角閃石、 (内)暗赤褐色 (外)すす付着の為口縁部が黒 色(二次焼成) | 口縁部L字状に折れる | 内面 ヨコナデ、ユビナデ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | B区 H-1 P-9 |
| 1761 | 土鍋 | (35.7) | — | — | 石英、 赤褐色(全体に二次焼成) | 口縁端部外面に突帯 | 内面 横方向のハケ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ、斜め方向のハ ケ、ユビナデ、横方向のハケ 口縁に沈線あり | A区 E-9 P-2 |
| 1762 | 土鍋 | (20.0) | — | — | 角閃石・石英、 (内)暗赤褐色 (外)すす付着の為暗褐色 | 口縁下に突帯 | 内面 ハケ状のものでヨコナデ、 ユビオサエ 外面 ヨコナデ、ユビオサエ、突帯 貼付け後ナデ | B区 H-1 P-3 |
| 1763 | 土鍋 | — | — | — | 暗赤褐色 外面にすす付着 | 口縁部は短く外に折れる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、横方向の ケズリ | A区 G-7 P-26 |
| 1764 | 茶釜 | — | — | — | 角閃石・長石、 (内)淡茶褐色 (外)茶褐色 | 体部中程に突帯 | 内面 回転ナデ、ヨコナデ、ユビオ サエ 外面 回転ナデ、ケズリ、突帯貼 付け、ユビナデ、すす付着 | A区 K-7 P-55 |
| 1765 | 瓦質土器播鉢 | — | — | — | 長石・石英・赤色粒子・白色粒 子、 | 口縁端部内側が断面三角形に肥厚 | 内外面 全体的に摩滅著しい | A区 G-10 P-6 |
| 1766 | 備前焼播鉢 | — | — | — | 赤褐色 | — | 内外面 ヨコナデ、摺目単位10本 | A区 G-7 P-13 |
| 1767 | 須恵器甕 | — | — | — | 灰色 | — | 内面 ヨコナデ、板状圧痕 外面 横・斜め方向の細かいタタ キ | B区 D-8 P-3 |

第729図 その他の出土遺物(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|---------|---------|------------------------------|---------------------------|--|--------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1789 | 土師質土器杯 | 15.2 | 9.5 | 3.3~3.6 | 角閃石・長石、 褐褐色 | 体部緩やかに立ちあがり体部内湾気 味 | 内面 回転ナデ、見込み回転ナ デ後ユビナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 H-8 |
| 1790 | 土師質土器杯 | (13.4) | (9.0) | 2.9 | 角閃石・長石・茶色粒子、 淡黄褐色 | 体部は丸みをもち立ちあがり口縁や や外反気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | A区 表探 |
| 1791 | 土師質土器杯 | (14.0) | 8.6 | 3.5 | 角閃石・長石、 明褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | 16トレンチ |
| 1792 | 土師質土器杯 | 14.0 | 7.9 | 3.5 | 角閃石・長石、 淡赤褐色 | 体部緩やかに立ちあがり口縁わずか に外反 | 内面 回転ナデ、回転ナデ後強 いユビナデ、底部糸切り後ヘラ 状のものでナデ | 遺構名不明 |
| 1793 | 土師質土器杯 | 14.2 | 8.8 | 6.2 | 角閃石・長石・茶色粒子・砂粒 | 体部は斜方向に直線的にのびる | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 A-2 遺構面一括 |
| 1794 | 土師質土器杯 | (13.2) | (6.4) | 3.4 | — | 体部内湾気味 | — | — |
| 1795 | 土師質土器杯 | (13.2) | (6.4) | 3.5 | 長石・角閃石・茶色粒子・砂粒、 淡赤褐色 | 体部の立ちあがりは急、体部内湾気 味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 遺構検出面 一括 |
| 1796 | 土師質土器杯 | (12.4) | 7.0 | 3.0 | 角閃石・長石・茶色粒子、 明褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 表探 |
| 1797 | 土師質土器杯 | (11.6) | (8.4) | 3.4 | — | 体部直立気味 | 内外面 ヨコナデ、底部糸切り | — |
| 1798 | 土師質土器杯 | — | (7.0) | — | — | 底部厚く、体部内湾気味 | 底部糸切り | — |
| 1799 | 土師質土器杯 | — | (7.6) | — | 長石・角閃石・金雲母・茶色粒 子、 淡茶褐色 | 体部の立ちあがり緩やか | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 遺構面一括 |
| 1800 | 土師質土器杯 | — | (8.0) | — | 長石・茶色粒子・白色粒子、 明褐色、明淡褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 表探 |
| 1801 | 土師質土器 小皿 | (10.8) | (6.6) | 1.4 | 角閃石・長石・茶色粒子、 明褐色 | 体部の立ちあがり緩やかで斜方向に のびている | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | 16トレンチ |
| 1802 | 土師質土器 小皿 | 10.7 | 7.9~8.0 | 1.4 | 赤色粒子・長石、 淡赤褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後ナデ | A区 H-4 遺構面 |
| 1803 | 土師質土器 小皿 | 10.6 | 7.4 | 1.5 | 角閃石・長石・茶色粒子、 明褐色、明淡褐色(内) | 体部の立ちあがり緩やか | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り後板状圧痕 | 16トレンチ |

| | | | | | | | | |
|------|-------------|----------|---------|---------|---|--------------------------------|---|-----------------|
| 1804 | 土師質土器 小皿 | (11.0) | (7.0) | 1.5 | 角閃石・長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 体部は緩やかに立ちあがり口縁やや 外反 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 遺構面一括 |
| 1805 | 土師質土器 小皿 | 10.6 | 6.7 | 1.7 | 長石・角閃石・白色粒子、 赤褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 ヨコナデ、見込み不整ナデ 外面 ヨコナデ、底部糸切り後板 状圧痕 | III 1区 試掘 |
| 1806 | 土師質土器 小皿 | 9.6 | 6.3 | 1.45 | 長石・角閃石・白色粒子 | 体部斜方向にのびる | 内面 ヨコナデ、見込み不整ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、底部糸切り | III 1区 試掘 |
| 1807 | 土師質土器 小皿 | (11.2) | (7.0) | 1.8 | 角閃石・長石・茶色粒子、 暗灰色、淡灰褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ | B区 I-2 遺構面一括 |
| 1808 | 土師質土器 小皿 | (15.2) | (7.6) | 1.5 | 長石・茶色粒子・白色粒子、 淡褐色 | 体部内湾気味 | 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 遺構検出面 |
| 1809 | 土師質土器杯 | (9.8) | 8.2 | 1.6 | 角閃石・長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 体部丸みをもち立ちあがり直立気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 遺構一括 |
| 1810 | 土師質土器 小皿 | 9.9~10.4 | 6.8~6.4 | 1.9~2.4 | 角閃石・長石、 暗黄褐色 | やや器高が高く、斜方向にのびる | 内面 回転ナデ、ユビナデ 外面 回転ナデ、底部へう切り | B区 A-4 |
| 1811 | 土師質土器 小皿 | 8.3 | 6.4 | 1.1 | 長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 体部やや内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り 後板状圧痕 | B区 遺構検出面 |
| 1812 | 土師質土器 小皿 | (7.8) | (5.8) | 1.3 | 長石・茶色粒子・石英、 淡明橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 E-2 |
| 1813 | 土師質土器 小皿 | (7.8) | (6.0) | 1.2 | — | 体部斜方向にのびる | 内外面 回転ナデ、底部糸切り | |
| 1814 | 土師質土器 小皿 | 7.7 | 5.9 | 1.2 | 角閃石・長石、 淡橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後ナ デ | 遺構名不明 |
| 1815 | 土師質土器 小皿 | (7.4) | (5.4) | 1.1 | 長石・角閃石・茶色粒子、 明橙褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 遺構検出面 |
| 1816 | 土師質土器 小皿 | (8.2) | (6.0) | 1.3 | 長石・茶色粒子、 淡褐色、明橙褐色 | 底部厚く、体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 C-6 遺構面一括 |
| 1817 | 土師質土器 小皿 | 7.4 | 5.7 | 1.5 | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・石英・金雲母、 明橙褐色 | 底部厚く、体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 G-5 遺構面一括 |
| 1818 | 土師質土器 小皿 | 6.6 | 5.4 | 1.4 | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・石英・金雲母、 明淡褐色 | 体部斜方向にのびる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 G-5 遺構面一括 |
| 1819 | 土師質土器 小皿 | (8.0) | (6.3) | 1.2 | — | 体部直立気味 | 内外面 回転ナデ、底部糸切り | |
| 1820 | 土師質土器 小皿 | 9.0 | 6.3 | 1.9 | 角閃石・長石・砂粒、 明黄褐色 | やや器高が高く、体部直立気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | A区 表採 |
| 1821 | 土師質土器 小皿 | 8.2 | 6.2 | 1.5 | 長石・石英・茶色粒子、 (内)赤褐色 (外)淡橙褐色 | 体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 遺構検出面 |
| 1822 | 土師質土器 小皿 | 8.4 | 7.2 | 1.4 | 長石・茶色粒子・石英、 淡褐色、明橙褐色 | 体部の立ちあがりはやシャープで口縁 直立気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 遺構検出面 |
| 1823 | 土師質土器 小皿 | (9.0) | (7.4) | 1.0 | 長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 器高低く、体部内湾気味 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 遺構面一括 |
| 1824 | 土師質土器 小皿 | (7.2) | (6.4) | 1.2 | 赤色粒子・長石・金雲母、 橙褐色 | 体部直立気味 | 内面 回転ナデ、見込みナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 F-6 |
| 1825 | 土師器椀 | (15.8) | (5.8) | — | 角閃石・砂粒、 淡茶褐色 | 断面三角形気味の高台はり付け 体部は腰があまり張らない | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ヘラミガキ、 ヨコナデ、底部へう切り後ナ デ | 集石10 |
| 1826 | 土師器椀 | (15.8) | — | — | 石英、 黄褐色 | 口縁端部短く外反 | 内外面 回転ナデ後横方向のミ ガキ | B区 L-1 |
| 1827 | 土師器椀 | — | (8.3) | — | 角閃石・長石・石英、 黄褐色 | 高い高台はり付け | 内面 ユビナデ 外面 ユビナデ、高台貼付け、ユ ビナデ、底部糸切り後板状圧痕 | 16トレンチ |
| 1828 | 土師器椀 | — | (5.7) | — | 角閃石・長石、 黄褐色 | 断面方形の高台はり付け | 内面 ミガキ、見込みユビオサエ 外面 ミガキ、高台貼付け、底部 切り離し後ミガキ | B区 A-5 |
| 1829 | 土師器椀 | — | (6.0) | — | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、 (内)黒褐色(すず付着?) (外)明橙褐色 | 断面三角形気味の高台はり付け | 内面 剥離の為不明 外面 ヨコヘラミガキ、高台ユビナ デ、底部糸切り | B区 A-4 |
| 1830 | 土師器椀 | — | (6.6) | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 (内)淡灰褐色 (外)淡橙褐色 | 断面三角形気味の高台はり付け | 内面 丁寧なユビナデ 外面 ユビナデ、底部糸切り | B区 遺構検出面 |
| 1831 | 土師器椀 | — | (8.0) | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 断面方形の低い高台はり付け | 内面 ヨコヘラミガキ 外面 ヨコヘラミガキ、ユビナデ | 遺構検出面 表採一括 |
| 1832 | 土師器椀 | — | (6.6) | — | 砂粒、 淡白灰色 | 断面三角形の低い高台 外底面にヘラ記号 | 内面 ヘラミガキ 外面 高台ヨコナデ、底部糸切り | 集石2 |

第730図 その他の出土遺物(2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------|---------|-------|----|----------------------------------|--------------|---|-----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1833 | 内黒土器椀 | — | (8.6) | — | 長石、 (内)黒褐色 (外)淡橙褐色 | 円盤状高台 | 内面 ユビオサエ 外面 ナデ、底部糸切り板状圧痕 or板状のものでナデ | — |
| 1834 | 内黒土器椀 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石・赤色粒子、 (内)暗灰色 (外)橙褐色 | 円盤状高台 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | — |
| 1835 | 内黒土器椀 | (16.4) | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 黒灰色、淡褐色 | 口縁部緩やかに外反 | 内外面 回転ヨコナデ | 16トレンチ |
| 1836 | 内黒土器椀 | — | (8.0) | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 断面方形の高台はり付け | 内面 丁寧なナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 G-9 遺構面一括 |
| 1837 | 内黒土器椀 | — | (8.2) | — | 角閃石・長石、 (内)黒色 (外)明橙褐色 | 断面長方形の高台はり付け | 内面 丁寧なナデ、ユビオサエ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ、 ユビナデ、底部糸切り後板状圧 痕 | 16トレンチ |

| | | | | | | | | |
|------|-------|--------|-----------|-----|--|--------------------------|--|-----------------|
| 1838 | 内黒土器碗 | — | (6.2) | — | 長石・茶色粒子、 黄白色、黒色 | 断面方形の高台はり付け | 内面ヨコ・ナメヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、高台ユビナ デ、底部糸切り後ヘラ記号 | 集石2 |
| 1839 | 内黒土器碗 | — | (7.8) | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 (内)黒灰色 (外)明褐色(底部)黒色 | 断面長方形の高台はり付け | 内面 丁寧なナデ、ヘラ記号 外面 回転ヨコナデ、高台ユビナ デ、底部ユビナデ、ヘラ記号 | 16トレンチ |
| 1840 | 内黒土器碗 | — | (6.4) | — | 石英・砂粒、 (内)黒褐色 (外)明褐色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 不定方向のヘラミガキ 外面 ヨコナデ、底部糸切り、ヘラ 記号 | 集石9 |
| 1841 | 内黒土器碗 | — | 7.2 | — | 角閃石・長石・石英・茶色粒子、 明淡褐色 | 円盤状高台 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 A-1 遺構面一括 |
| 1842 | 瓦器碗 | (14.9) | (5.8~6.0) | 5.4 | 角閃石、 灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 回転ナデ後ミガキ 外面 回転ヨコナデ後ミガキ、オ サエ、高台貼付け後ナデ、底部 糸切り後回転ナデ | B区 C-6 |
| 1843 | 瓦器碗 | (15.0) | (5.0) | 6.2 | 長石、 灰白色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 回転ナデ後ミガキ 外面 回転ナデ、横方向のミガ キ、ユビオサエ、底部ナデ | B区 C-6 |
| 1844 | 瓦器碗 | (16.8) | (7.8) | — | 長石・白色粒子、 灰色、灰褐色 | 厚めの底部から内湾気味の体部が 立ちあがる | 内面 ナメヘラケズリ、見込み ユビナデ 外面 回転ヘラケズリ、ユビナデ、 底部糸切り | A区 表探一括 |
| 1845 | 瓦器碗 | (15.6) | 7.6 | — | 長石・白色粒子、 淡灰色、暗灰色(口縁部の一 部) | 厚めの底部から内湾気味の体部が 立ちあがる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り後板状圧痕 | B区 遺構面一括 |
| 1846 | 瓦器碗 | (16.2) | 7.2 | 6.0 | 長石、 灰白色、暗灰色 | 厚めの底部から内湾気味の体部が 立ちあがる | 内面 回転ナデ、見込み不定方 向ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板 状圧痕 | B区 A-2 |
| 1847 | 瓦器碗 | (16.0) | (7.4) | 5.6 | 長石・白色粒子、 灰色、淡灰色 | 厚めの底部から内湾気味の体部が 立ちあがる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 遺構面一括 |
| 1848 | 瓦器碗 | (15.6) | (7.6) | 5.7 | 角閃石・長石・白色粒子・茶色 粒子、 黄白色 | 厚めの底部から内湾気味の体部が 立ちあがる | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 遺構面一括 |
| 1849 | 瓦器碗 | (15.4) | (7.8) | 5.8 | 長石・白色粒子・茶色粒子、 暗灰色、淡灰色 | 厚めの底部から内湾気味の体部が 立ちあがる | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | A区 表探一括 |
| 1850 | 瓦器碗 | (14.2) | — | — | 角閃石・長石・白色粒子、 暗灰色、淡褐色、 黒灰色(内底付近) | — | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区 G-9 遺構面一括 |
| 1851 | 瓦器碗 | (15.6) | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 灰色、灰白色 | — | 内外面 回転ヨコナデ | B区 遺構面一括 |

第731図 その他の出土遺物(3)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|--------|---------|-------|----|--|------------------|--|-----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1852 | 瓦器碗 | — | — | — | 角閃石・長石、 明淡褐色 | 口縁部ちかくで直立する | 内外面 ヨコヘラミガキ 口縁に墨書?あり | B区遺構面 |
| 1853 | 楠葉型瓦器碗 | — | 6.0 | — | 暗灰色 | 外開きの高台をはり付け | 内面 見込み基盤目状のヘラミ ガキ 外面 ヨビナデ | 遺構検出面 表探一括 |
| 1854 | 和泉型瓦器碗 | — | 5.8 | — | 長石、 暗灰色 | 器壁うすい | 内面 ヨコ・ナメヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、高台貼付 け、ヨコナデ、底部圧痕 | B区 遺構面一括 |
| 1855 | 瓦器碗 | — | 8.0 | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 明黄白色 | 断面方形の高台はり付け | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、高台ユビナ デ、底部糸切り | B区 A-2 遺構面一括 |
| 1856 | 瓦器碗 | — | (5.4) | — | — | 断面長方形の高台はり付け | 内外面 ナデ | |
| 1857 | 瓦器碗 | — | 6.0 | — | 長石・白色粒子、 明淡褐色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 ヨコ・ナメヘラミガキ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 遺構面 |
| 1858 | 瓦器碗 | — | (6.6) | — | 長石・角閃石・石英、 灰白色、暗灰色 | 断面方形の低い高台はり付け | 内面 丁寧なナデ 外面 回転ヨコナデ | B区 遺構検出面 |
| 1859 | 瓦器碗 | — | (5.4) | — | 角閃石・長石、 黒灰色 | 断面三角形の高台はり付け | 内面 ヨコヘラナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部ユビナ デ | B区 遺構面一括 |
| 1860 | 瓦器碗 | — | (5.8) | — | 長石・白色粒子、 明淡灰色 | 低い高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 A-4 遺構面一括 |
| 1861 | 瓦器碗 | — | (7.0) | — | 角閃石・長石、 灰色 | 低い高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 遺構検出面 |
| 1862 | 瓦器碗 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・石英、 淡灰色 | 低い高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、高台ユビナ デ、底部糸切り | B区 A-2 |
| 1863 | 瓦器碗 | — | 7.4 | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 灰色、暗灰色、淡褐色、 茶褐色(内底~外底の一部) | 低い高台をはり付け | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | A区 表探 |
| 1864 | 瓦器碗 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石、 淡灰色、暗灰色(底部) | 平底底部 外底面にヘラ記号 | 内面 回転ヨコナデナデ、見込み ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り、 圧痕 | B区 D-8 遺構面一括 |
| 1865 | 瓦器碗 | — | (7.2) | — | 角閃石・長石、 暗灰色、淡灰色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り、 板状圧痕? | B区 D-8 遺構面一括 |
| 1866 | 瓦器碗 | — | (7.6) | — | 角閃石・長石・石英、 黒灰色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り後板状圧痕 | B区 遺構検出面 |
| 1867 | 瓦器碗 | — | 6.6 | — | 長石、 淡灰色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、底部回転ナ デ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り、板状圧痕 | B区 C-6 遺構面一括 |

| | | | | | | | | |
|------|--------|--------|-------|-----|----------------------------------|------------------------|---|-----------------------|
| 1868 | 瓦器碗 | - | (7.0) | - | 長石・白色粒子、 淡灰色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 A-2 遺構面一括 |
| 1869 | 瓦器碗 | - | (7.0) | - | 角閃石、 明淡灰色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 C-6 遺構面一括 |
| 1870 | 瓦器碗 | - | (7.2) | - | 角閃石・長石・茶色粒子、 (内)淡褐色 (外)黒褐色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 D-1 遺構検出面 一括 |
| 1871 | 瓦器碗 | - | 7.0 | - | 長石・白色粒子・石英、 淡灰色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、ユビナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 表採 |
| 1872 | 瓦器碗 | - | 7.4 | - | 角閃石・長石・茶色粒子、 (内)淡褐色 (外)灰白色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | B区 B-2 遺構面一括 |
| 1873 | 瓦器碗 | - | 7.0 | - | 角閃石・長石・白色粒子、 淡灰色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部板状圧 痕 | B区 遺構検出面 |
| 1874 | 瓦器碗 | - | 7.4 | - | 長石・角閃石・茶色粒子・石英、 灰白色 | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ、底 部糸切り | A区 表採 |
| 1875 | 瓦器碗 | - | (7.6) | - | 角閃石・長石・金雲母、 暗灰色 | 平底底部 | 内面 ミガキ、ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り後板 状圧痕 | B区 F-6 |
| 1876 | 瓦器碗 | - | 8.0 | - | 角閃石・長石・茶色粒子、 明淡褐色(黄白色に近い) | 平底底部 | 内面 回転ヨコナデ、見込みユビ ナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 遺構検出面 |
| 1877 | 瓦器小皿 | (8.3) | (6.4) | 1.7 | 長石・石英、 灰色、灰白色 | 体部直立気味に立ち | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り | B区 E-4 |
| 1878 | 瓦器小皿 | (8.8) | (5.6) | 2.5 | 長石・茶色粒子、 淡灰色 | 内湾する体部からシャープに立ちあ がる | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、底部糸切り | B区 遺構検出面 |
| 1879 | 楕葉型瓦器碗 | (9.6) | (5.0) | 2.8 | 長石、 灰色 | 小型碗 体部内湾気味 | 内面 回転ナデ後横方向のミガ キ 外面 回転ナデ後横方向のミガ キ | B区 C-6 |
| 1880 | 青磁碗 | (17.4) | - | - | 緑灰色 | - | 内外面 全面施釉 連弁文 | A区 表採 |
| 1881 | 青磁碗 | (16.4) | (5.4) | - | 緑灰色(灰オリーブ)釉 | - | 内外面 全面施釉 連弁文 | B区 表採 |
| 1882 | 白磁碗 | - | - | - | 灰白色 | 口縁玉縁 | 外面下部を除き全面施釉 | A区 表採 |
| 1883 | 青磁碗 | - | (4.0) | - | 淡緑灰色、全面に貫入あり | - | 内外面 全面施釉 高台最下位のみ釉はぎ 連弁文 | B区 遺構検出面 |
| 1884 | 白磁碗 | - | (5.0) | - | 黄白色、全面に貫入あり | - | 内外面 高台を除く全面施釉 | B区 遺構検出面 |
| 1885 | 青磁碗 | - | (6.2) | - | 白っぽい緑色の釉 | - | 内面 施釉、一部露胎 外面 一部施釉、高台露胎、削り 出し | B区 E-6 |

第732図 その他の出土遺物(4)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の 遺構名 |
|------|-------------|---------|-------|----|--|-----------------------|--|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1886 | 須恵器こね鉢 | (29.2) | - | - | 長石・白色粒子・石英、 暗灰色、灰色 | 口縁端部を上方に拡張 | 内面 ナナメナデ上げ 外面 回転ヨコナデ | B区 遺構面一括 |
| 1887 | 須恵器こね鉢 | - | - | - | 長石、 青灰色 | 口縁部肥厚 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、回転ナデ | B区 E-7 |
| 1888 | 瓦質土器 こね鉢 | - | - | - | 長石、 淡灰色 | - | 内面 ナナメハケ目 外面 ヨコナデ、ユビオサエ | B区 D-1 遺構面一括 |
| 1889 | 瓦質土器鉢 | - | - | - | 長石・茶色粒子・灰色粒子、 淡灰褐色 | 口縁部肥厚気味で、わずかに内傾す る | 内外面 回転ヨコナデ | B区 遺構検出面 一括 |
| 1890 | 瓦質土器鉢 | - | (6.8) | - | 角閃石・長石、 (内)暗灰色 (外)灰白色 | 断面方形の高台 | 内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、底部糸切り、高 台貼付け後ナデ | B区 G-1 P-4 |
| 1891 | 瓦質土器火鉢 | - | - | - | 暗灰褐色 | 体部下に突帯1条 | 内面 ナデ、ユビオサエ 外面 ヘラミガキ、ヨコナデ、ナデ | 土壙3 |
| 1892 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子、 (内)淡褐色 (外)黒褐色 内外面すず付着 | 体部球形気味で、口縁L字状に折れ る | 内外面 ヨコナデ | 集石2 |
| 1893 | 土鍋 | - | - | - | 石英・金雲母 淡赤褐色 | 口縁部外方に折れる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ | P-5 |
| 1894 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・石英、 赤褐色 | 口縁部くの字状に折れる | 内面 回転ヨコナデ、ヨコハケ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区 H-3 遺構面一括 |
| 1895 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石、 淡灰褐色 | 口縁部大きく外反 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコハケ目、ナナメハケ目 | 試掘トレンチ |
| 1896 | 土鍋 | (40.4) | - | - | 角閃石・長石・白色粒子、 (内)淡褐色、茶色、二次加熱に よる赤変 (外)暗褐色、すず付着 | 口縁部強く折れる | 内面 ヨコナデ、ヨコハケ目 外面 タテハケ目、ユビオサエ | 集石2 |
| 1897 | 土鍋 | (39.2) | - | - | 石英・角閃石・砂粒、 (内)赤褐色 (外)暗茶褐色 | 口縁部大きく外反 | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ナデ、ハケ目 | No.2 |
| 1898 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・茶色粒子・白色 粒子・石英、 暗褐色、茶褐色 すず付着 | 半球形の体部 | 内面 ヨコハケ目、ナデ上げ 外面 ヨビオサエ、タテ・ナナメ ナデ上げ | 集石2 |
| 1899 | 土鍋 | - | - | - | 角閃石・長石・白色粒子・茶色 粒子・石英・金雲母、 淡黄褐色、明褐色 | - | 内外面 タテ・ヨコ・ナナメハケ目、 ユビオサエ | B区 A-2 遺構面一括 |

第733図 その他の出土遺物(5)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|------|---------|---------------|----|--|-----------------|---|-------------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1900 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子・白色粒子・石英、淡明橙褐色、暗褐色(すす付着) | 口縁部L字状に折れる | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区 G-5 遺構面一括 |
| 1901 | 土鍋 | (29.0) | 頸部径 (25.8) | — | 角閃石・長石・白色粒子・茶色粒子、 (内)淡褐色 (外)黒褐色(すす付着) | 口縁部は外方に折れる | 内面 回転ヨコナデ、ヨコハケ目 外面 回転ヨコナデ、ナナメハケ目 | 試掘トレンチ |
| 1902 | 土鍋 | (34.2) | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、暗褐色、淡褐色 | 口縁部L字状に折れる | 内面 ヨコハケナデ 外面 回転ヨコナデ、ナデ | B区 遺構検出面 |
| 1903 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子・石英、 (内)淡灰褐色 (外)淡灰色 | 口縁部短く折れ、やや上方に拡張 | 内面 回転ヨコナデ、ヨコ・ナナメハケ目 外面 回転ヨコナデ | B区 遺構面一括 |
| 1904 | 土鍋 | — | — | — | 茶色粒子、 明淡褐色 | 口縁部短く折れる | 内面 回転ヨコナデ、ヨコハケ目 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区 表探 |
| 1905 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・金雲母、 明淡褐色 | 口縁部短く折れ、上方にやや肥厚 | 内面 ヨコハケ目 外面 ヨコハケ、ヨコナデ、タテハケ | B区 遺構検出面 |
| 1906 | 土鍋 | — | — | — | 石英・砂粒、 (内)暗褐色 (外)暗茶褐色(スス付着) | 口縁部短く折れる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヘラ状工具でヨコナデ、ケズリ | P-7 |
| 1907 | 土鍋 | — | — | — | 砂粒、 明褐色 | 口縁部短く折れる | 内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、ケズリ | 土壌2 |
| 1908 | 土鍋 | — | — | — | 石英・角閃石・砂粒、 (内)淡赤褐色 (外)暗黒褐色(すす付着) | 体部斜方向にのび口縁へ | 内面 ヨコナデ、ユビオサエ 外面 ヨコナデ、ヘラケズリ | No.3 |
| 1909 | 土鍋 | — | — | — | 石英・角閃石・砂粒、 (内)淡黄褐色 (外)淡赤褐色 | やや外反気味に口縁へ | 内面 厚減のため不明 外面 ヨコナデ、ナデ | P-6 |
| 1910 | 土鍋 | — | — | — | 石英・砂粒、 白っぽい橙色 | やや外反気味に口縁へ | 内面 ヨコナデ、ハケ目 外面 ヨコナデ、ハケの上からナデ | B区 E-6 |
| 1911 | 土鍋 | (27.6) | — | — | 角閃石・長石・白色粒子、 淡橙褐色、 黒褐色(二次焼成によるすす付着) | 口縁からやや下って外面に突帯 | 内面 回転ヨコナデ、ユビオサエ、 ナメナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビオサエ | B区 遺構検出面 |
| 1912 | 土鍋 | (24.4) | — | — | 角閃石、 (内)暗赤褐色 (外)すす付着の黒褐色 | 口縁下に突帯 | 内面 横方向のハケ目 外面 ヨコナデ | B区 D-5 |
| 1913 | 土鍋 | (20.2) | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色 | 口縁下に突帯 | 内面 ヨコハケ目、ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ヨコナデ | B区 D-4・5、E-4・5 |
| 1914 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 明淡褐色 | 口縁下に突帯 | 内面 回転ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ユビナデ | B区 遺構検出面 |
| 1915 | 器種不明 | — | — | — | 角閃石・白色粒子・茶色粒子、 黒褐色、黒灰色(内面) | — | 内外面 ヨコヘラミガキ | A区 表探 |
| 1916 | 土鍋 | — | — | — | 角閃石・長石・茶色粒子、 淡褐色、明橙色 二次焼成により赤変 | — | ユビオサエ | B区 表探 |
| 1917 | 土鍋 | — | — | — | 白色粒子・長石・茶色粒子・角閃石・黒曜石、 明淡褐色、明橙色 火熱による赤変 | — | 手づくね ユビオサエ、ユビナデ | B区 遺構検出面 |

第734図 その他の出土遺物(6)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|--------|-------------|-------------|-----|---|--------------|--|-----------------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1918 | 須恵器壺 | — | — | — | 長石・白色粒子、 灰色 | 口縁外反、端部上下の拡張 | 内面 回転ヨコナデ、ヨコナデ 外面 回転ヨコナデ、ハケ目 | B区 遺構面一括 |
| 1919 | 備前焼壺 | — | — | — | 赤褐色 | — | 内外面 不定方向のヘラナデ 底部一方向のヘラナデ | P-7 |
| 1920 | 須恵器壺 | — | (19.2) | — | 石英、 (内)灰白色 (外)暗灰色 | 球形気味の体部か | 内面 ヨビオサエ・ユビナデ、ヨコナデ 外面 斜め方向の平行タタキ、底部ナデ | B区 B-5 |
| 1921 | 小壺 | 2.5 | 5.0 | 5.8 | 白色粒子・長石、 明淡褐色 | 四方にヘラ描きの絵画 | 外面 ヨビオサエ、縦方向のナデ、底部ヘラミガキ | 表探 |
| 1922 | フイゴの羽口 | 外径 (8.4) | 内径 (3.2) | — | 角閃石・長石・白色粒子・茶色粒子・石英、 淡明橙褐色、 黒灰色(すす付着) | — | 手づくね、タテナデ 内面にしじり痕あり | B区 A-2 遺構検出面 |

第741図 試掘調査出土土器

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 胎土・色調 | 形態の特徴 | 手法・調整・文様 | 調査時の遺構名 |
|------|-------|---------|-------|---------|--|-------------------------------|--|---------|
| | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1945 | 内黒土器碗 | 15.2 | 8.2 | 5.8 | 角閃石・砂粒、 (内)黒灰色 (外)淡灰褐色 | 口縁部外反、比較的高い高台をはり付け | 内面 ヨコヘラミガキ、ナナメヘラミガキ 外面 ヨコ・ナナメヘラミガキ、高台貼付け、底部糸切り後板状工具によるナデ? 底部すす付着 | 試掘 |
| 1946 | 内黒土器碗 | 15.5 | 8.0 | 5.9~6.2 | 角閃石・茶色粒子、 (内・外)口縁部黒色 (外)淡明橙褐色 | 口縁部外反、外開きの高台をはり付け | 内面 ヨコナデ、ヘラミガキ 外面 ヨコヘラミガキ、高台貼付け、ヨコナデ、底部糸切り後ナデ? | 試掘 |
| 1947 | 内黒土器碗 | (15.2) | (7.2) | 6.3 | 角閃石・砂粒、 (内)黒色 (外)明橙色 (外・口縁部)黒灰色 | 口縁部外反、外開き気味の高台をはり付け、体部下にツバの突帯 | 内面 ナナメ・ヨコヘラミガキ 外面 ヨコヘラミガキ、ヨコナデ、高台貼付け、底部板状圧痕 | 試掘 |
| 1948 | 青磁皿 | 19.9 | 8.5 | 4.4 | 淡緑色 | 浅めの体部から口縁部が外方に折れる 高台は断面方形 | 外底面を除き全面施釉 | 試掘 |
| 1949 | 備前焼徳利 | 5.6 | 11.5 | (23.8) | 赤褐色~淡褐色 | 頸部ですぼまり口縁へむかい開く | 回転ナデ | 試掘 |



八坂中遺跡全景（北から）



八坂中遺跡全景（北東から）



八坂中遺跡から八坂川下流方向（八坂本庄遺跡・八坂久保田遺跡）を見る



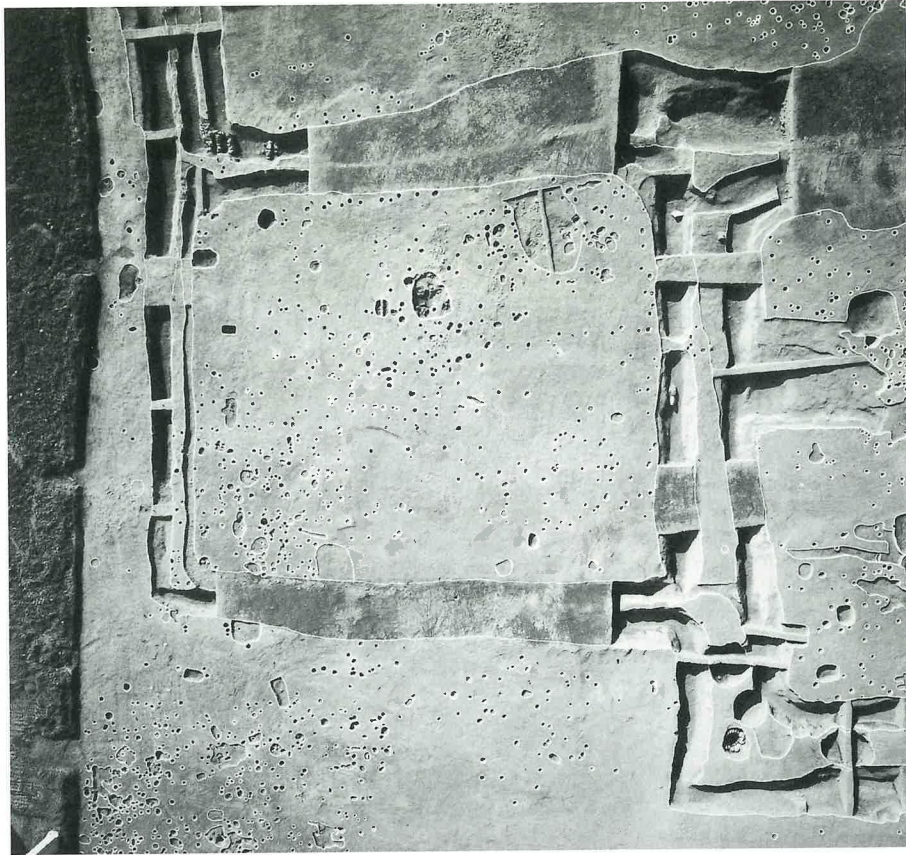
八坂中遺跡遠景（北東から）



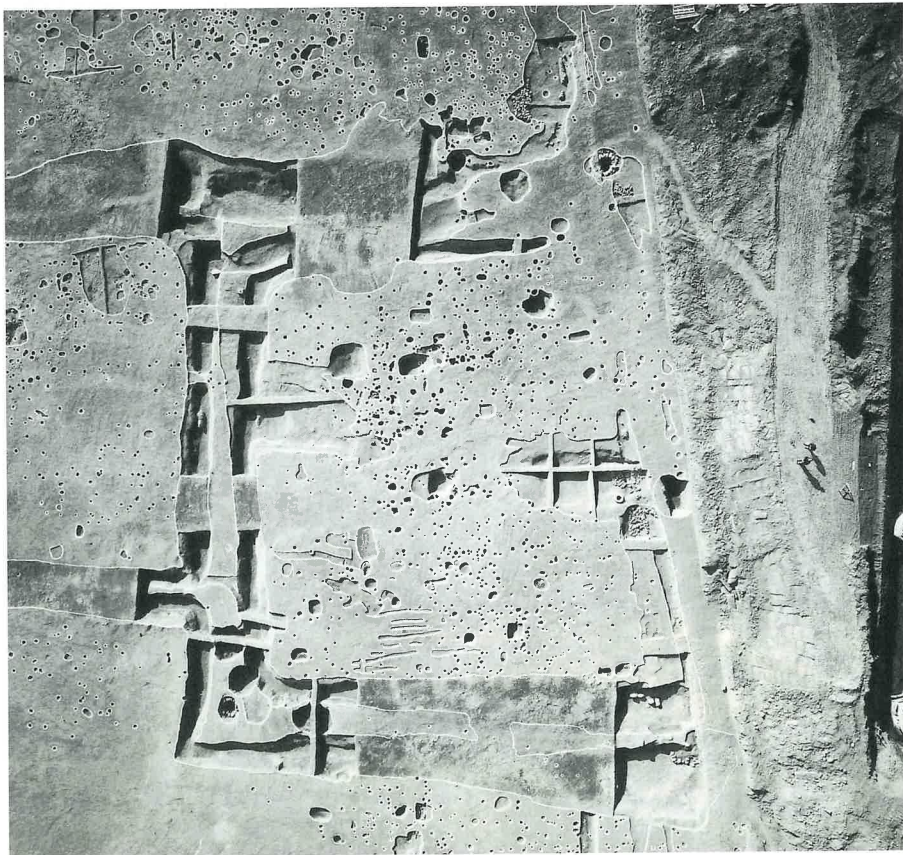
八坂中遺跡東半分



八坂中遺跡居館及び周辺の溝



八坂中遺跡居館2（上から）



八坂中遺跡居館3（上から）



八坂中遺跡井戸 1



八坂中遺跡井戸 2



八坂中遺跡地下式土壙 1 骨出土状況



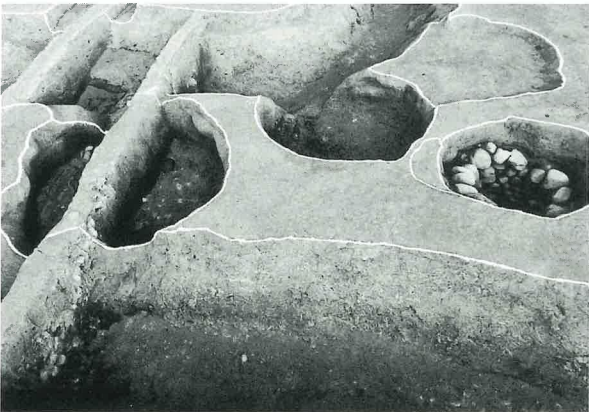
八坂中遺跡地下式土壙 1



八坂中遺跡地下式土壙 2



八坂中遺跡地下式土壙 4



八坂中遺跡地下式土壙 1・2



八坂中遺跡土壙墓 1



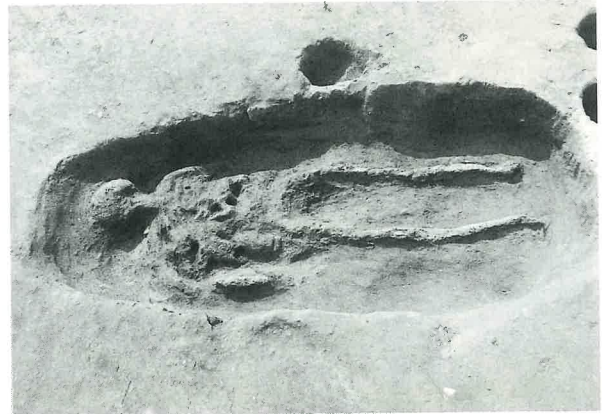
八坂中遺跡土壙墓 1 出土土器



八坂中遺跡土壙墓 2



八坂中遺跡土壙墓 3



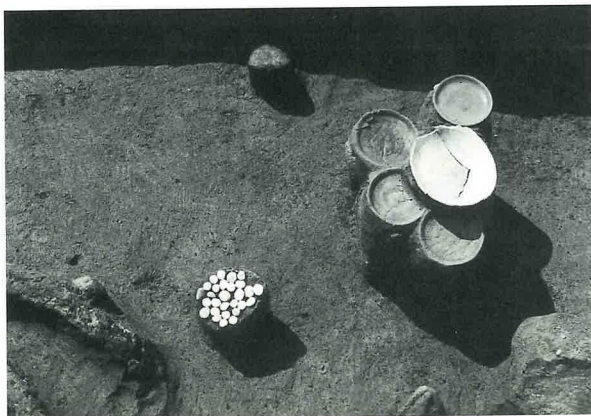
八坂中遺跡土壙墓 4



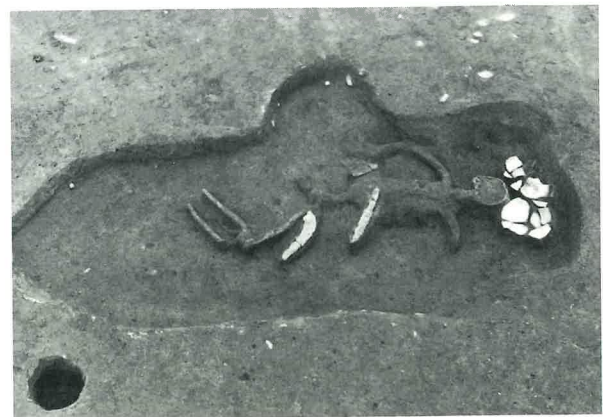
八坂中遺跡土壙墓 7



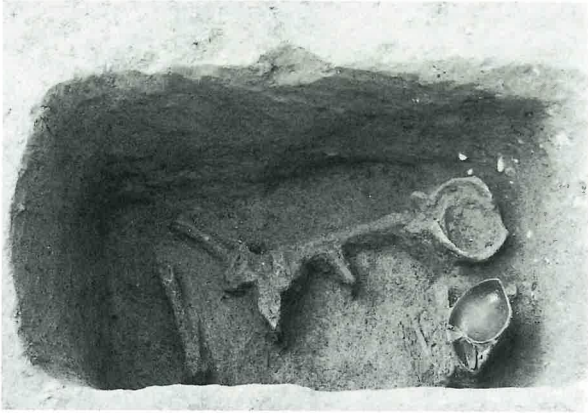
八坂中遺跡土壙墓 8



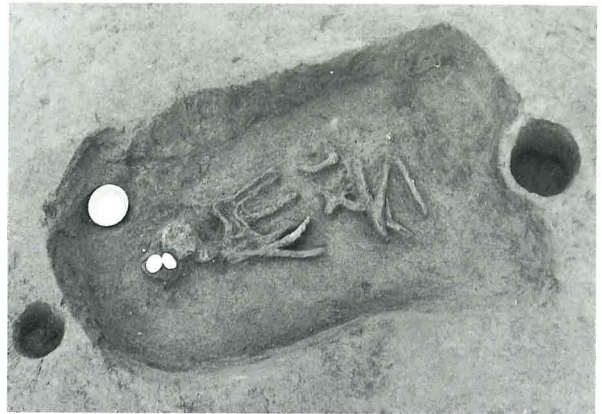
八坂中遺跡土壙墓 8 出土遺物



八坂中遺跡土壙墓 12



八坂中遺跡土壙墓13



八坂中遺跡土壙墓14



八坂中遺跡土壙墓14出土遺物



八坂中遺跡土壙墓15



八坂中遺跡土壙墓16



八坂中遺跡土壙墓17



八坂中遺跡土壙墓18



八坂中遺跡土壙墓20



八坂中遺跡土壙墓20出土数珠



八坂中遺跡土壙墓20出土齒



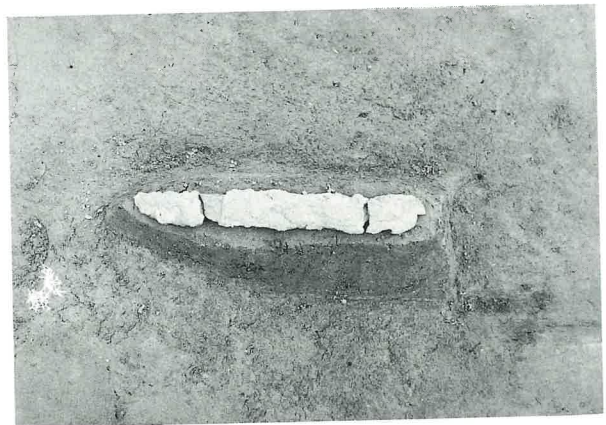
八坂中遺跡土壙墓21



八坂中遺跡土壙墓23



八坂中遺跡土壙墓24



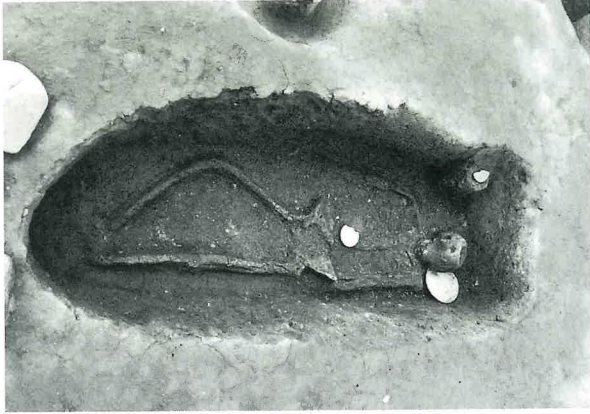
八坂中遺跡土壙墓24出土鉄器



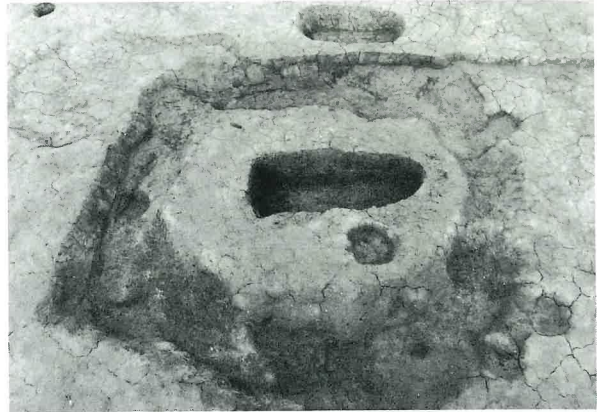
八坂中遺跡土壙墓26



八坂中遺跡周溝墓 1



八坂中遺跡周溝墓 1 主体部



八坂中遺跡周溝墓 1 完掘状態



八坂中遺跡甕棺 1・2 出土状況 (1)



八坂中遺跡甕棺 1・2 出土状況 (2)



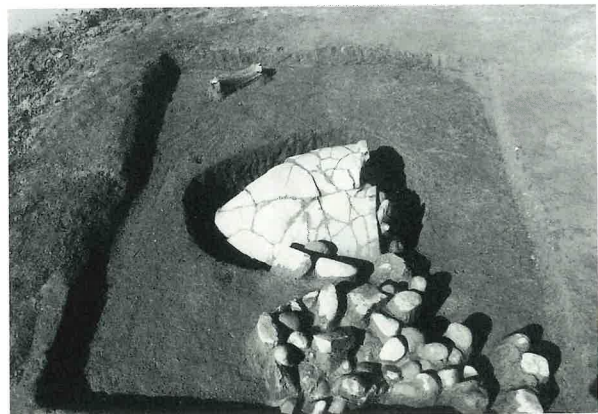
八坂中遺跡甕棺 1



八坂中遺跡甕棺 2



八坂中遺跡甕棺 1 出土歯



八坂中遺跡甕棺 3



八坂中遺跡甕棺 3人骨出土状況



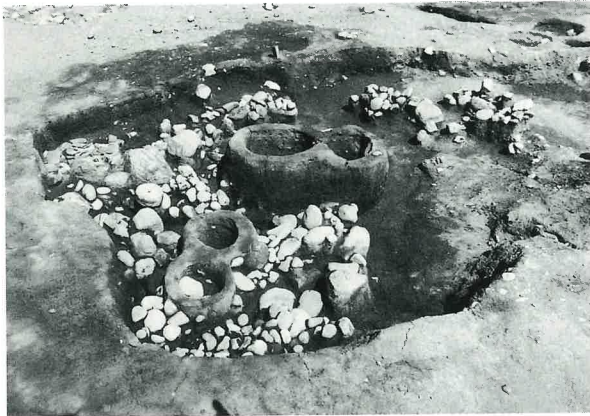
八坂中遺跡竪穴 1



八坂中遺跡竪穴 2



八坂中遺跡土壇 11



八坂中遺跡土壇 12



八坂中遺跡土壇 13



八坂中遺跡土壇 16



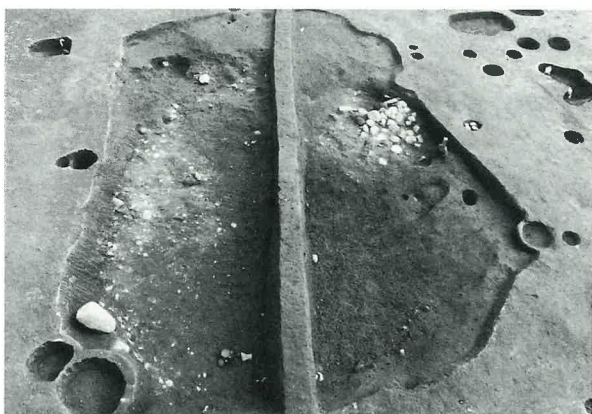
八坂中遺跡土壇 24



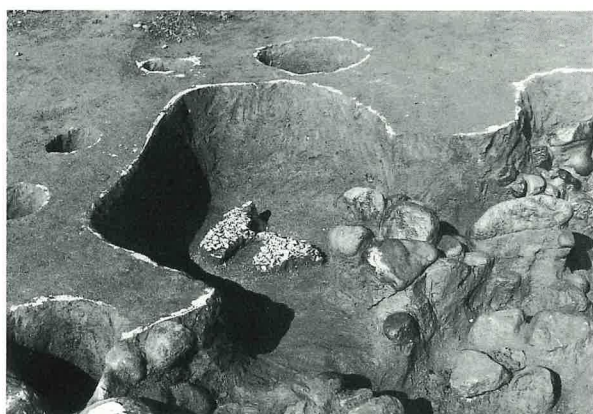
八坂中遺跡土壙26



八坂中遺跡土壙26完掘狀態



八坂中遺跡土壙49



八坂中遺跡土壙70貝殼出土狀況



八坂中遺跡土壙70出土貝殼



八坂中遺跡土壙74



八坂中遺跡土壙75



八坂中遺跡土壙76



八坂中遺跡土壙100石組み



八坂中遺跡土壙157



八坂中遺跡土壙160



八坂中遺跡土壙165



八坂中遺跡土壙187



八坂中遺跡土壙195



八坂中遺跡土壙196 (1)



八坂中遺跡土壙196 (2)



八坂中遺跡溝 1 (北から)



八坂中遺跡溝 4 (東から)



八坂中遺跡溝 5 (東から)



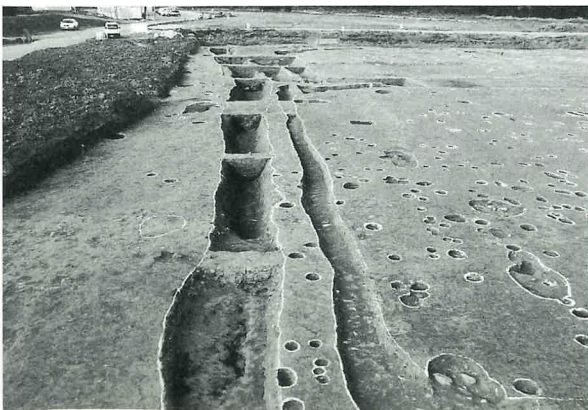
八坂中遺跡溝 5 出土五徳



八坂中遺跡溝 9 (北から)



八坂中遺跡溝 9 完掘状態 (北から)



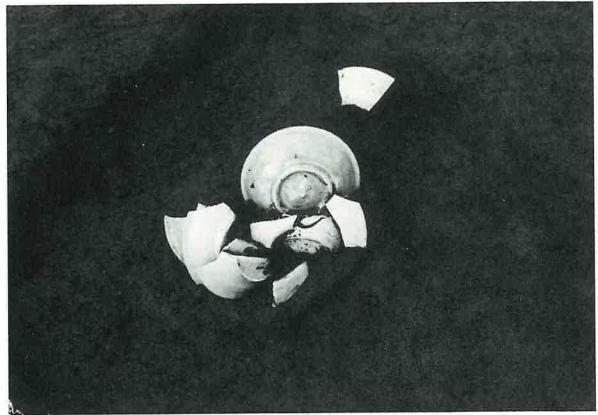
八坂中遺跡溝 10・溝 11 南辺 (東から)



八坂中遺跡溝 10・溝 13・溝 14 土層図



八坂中遺跡溝10出土貝殻



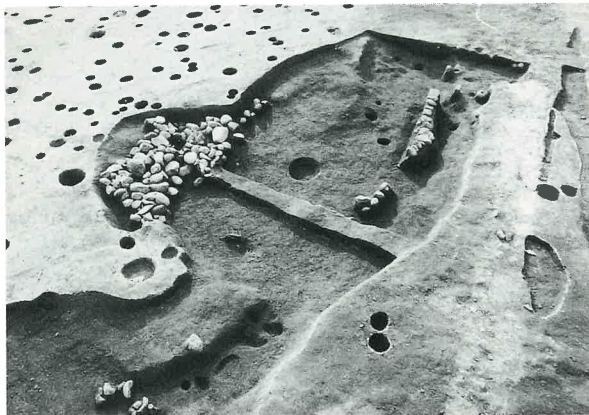
八坂中遺跡溝11出土遺物



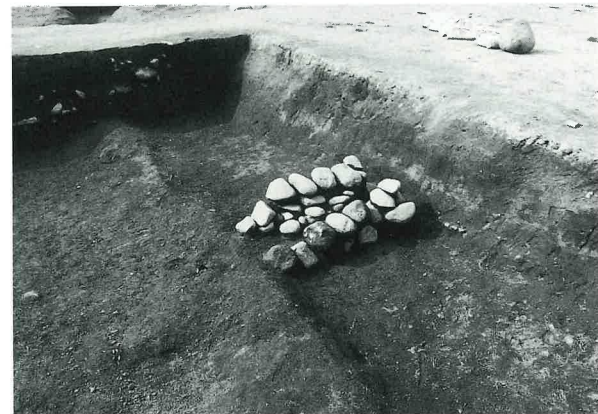
八坂中遺跡溝13西辺土層図



八坂中遺跡溝13石組み（北から）



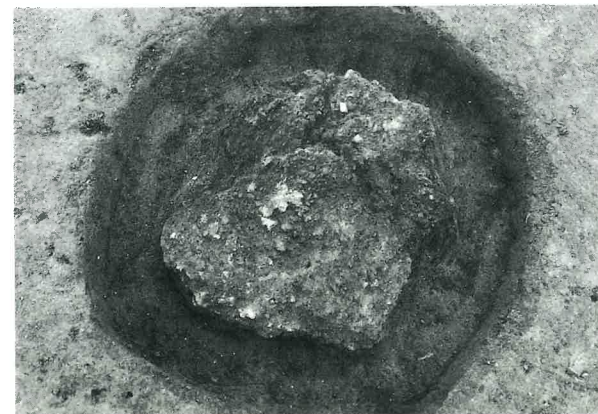
八坂中遺跡溝13北辺（東から）



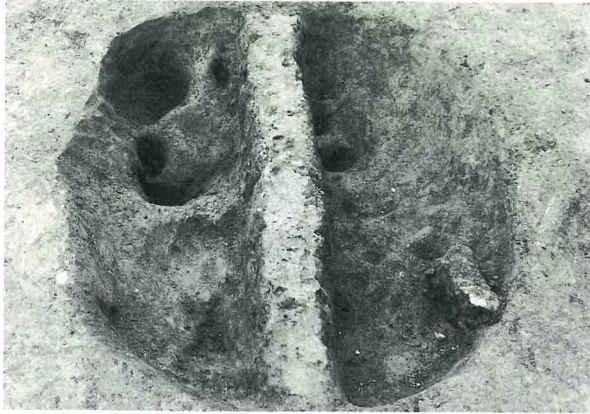
八坂中遺跡溝14石組み（東から）



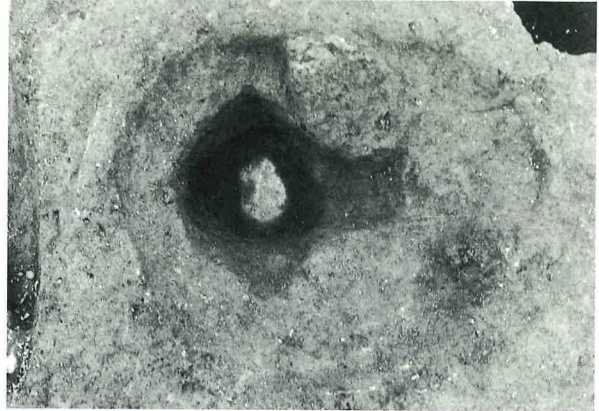
八坂中遺跡 SX1、SX2



八坂中遺跡 SX4



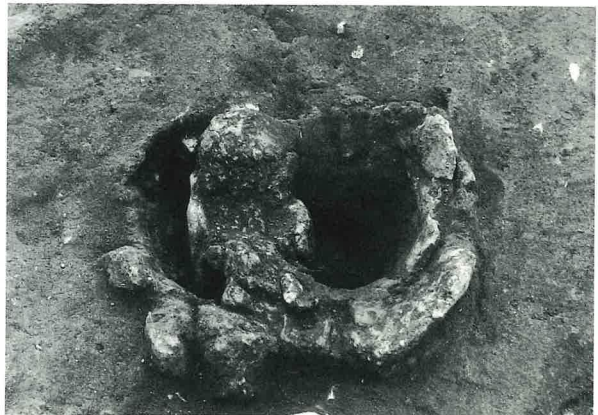
八坂中遺跡 SX5



八坂中遺跡 SX6



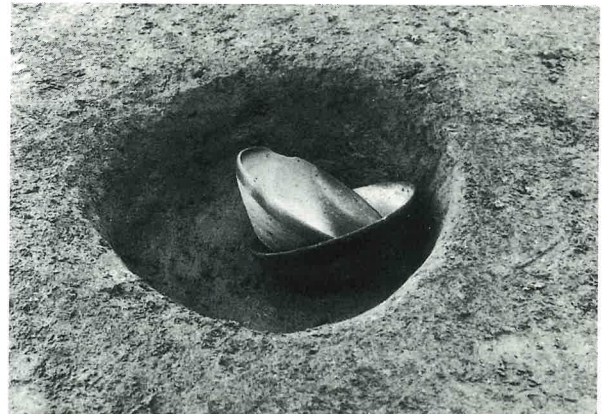
八坂中遺跡 SX8



八坂中遺跡 SX9



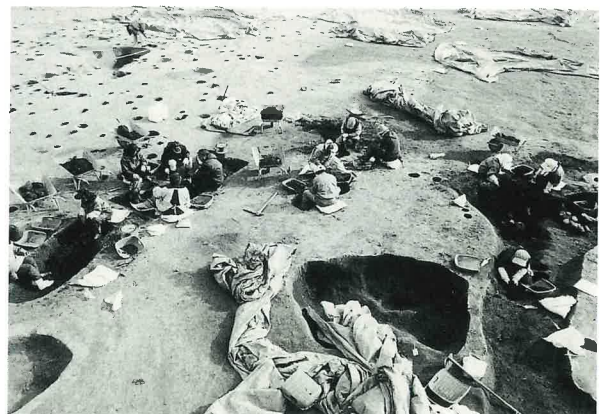
八坂中遺跡柱穴 3 錢貨出土狀況



八坂中遺跡柱穴 6 瓦器碗出土狀況



八坂中遺跡柱穴 7 鉄刀出土狀況



作業風景



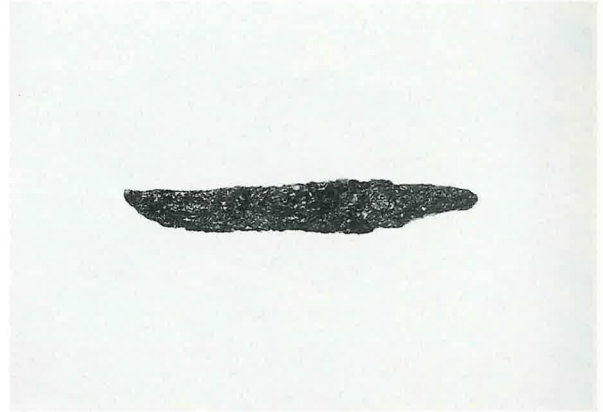
八坂中遺跡地下式土壙 2 59



八坂中遺跡地下式土壙 3 60



八坂中遺跡土壙墓 1 71



八坂中遺跡土壙墓 4 72



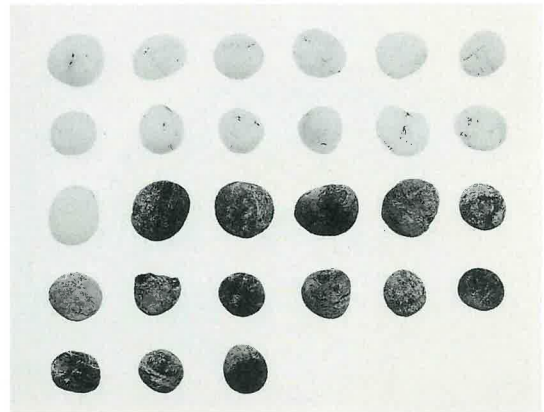
八坂中遺跡土壙墓 8 81



八坂中遺跡土壙墓 8 80



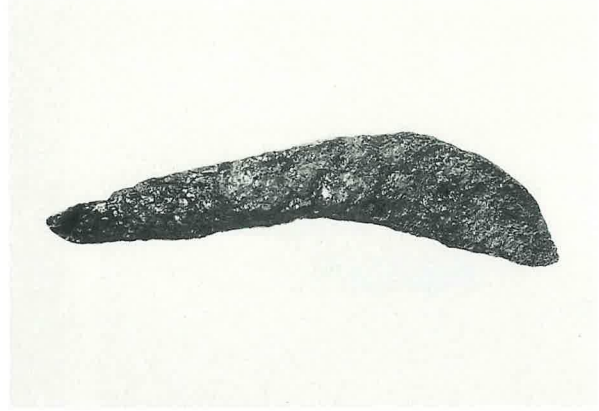
八坂中遺跡土壙墓 8 79



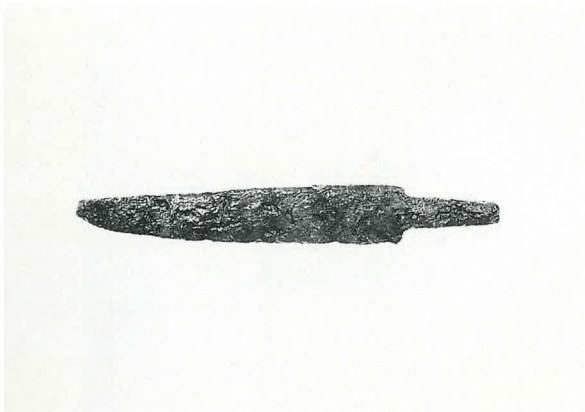
八坂中遺跡土壙墓 8 85~111



八坂中遺跡土壙墓12 122



八坂中遺跡土壙墓12 127



八坂中遺跡土壙墓12 126



八坂中遺跡土壙墓13 129



八坂中遺跡土壙墓14 131



八坂中遺跡土壙墓14 130



八坂中遺跡土壙墓14 132



八坂中遺跡土壙墓20 156



八坂中遺跡土壙墓20 152



八坂中遺跡土壙墓20 155



八坂中遺跡土壙墓20 154



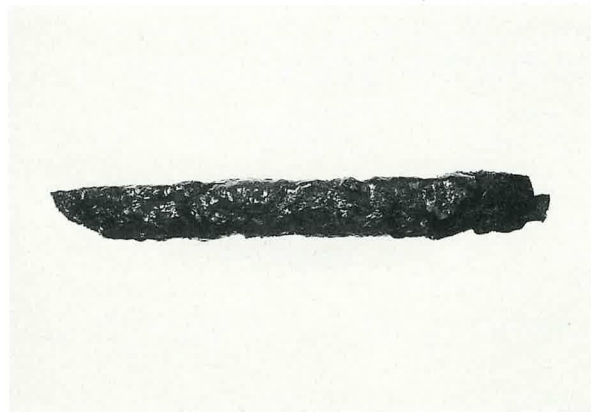
八坂中遺跡土壙墓20 153



八坂中遺跡土壙墓20 150



八坂中遺跡土壙墓20 158~182



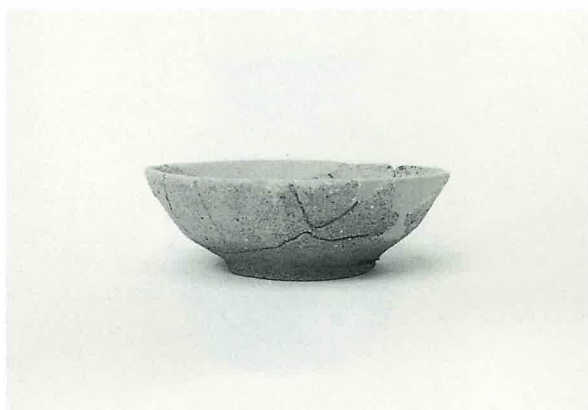
八坂中遺跡土壙墓24 207



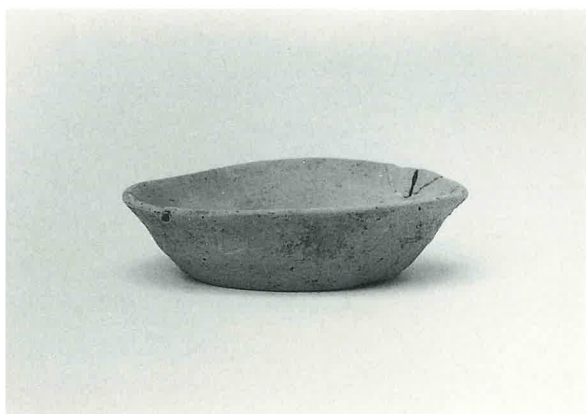
八坂中遺跡土壙墓25 212



八坂中遺跡土壙墓25 210



八坂中遺跡土壙墓25 209



八坂中遺跡土壙墓26 216



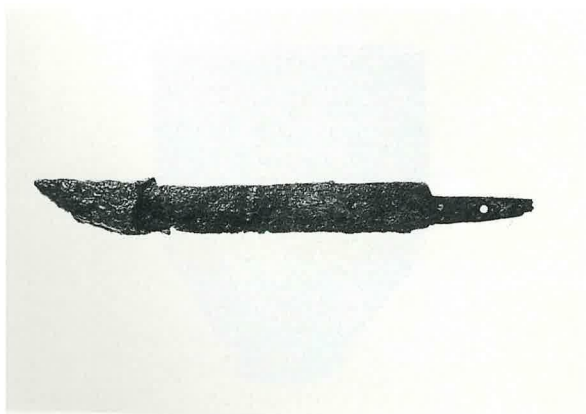
八坂中遺跡土壙墓26 218



八坂中遺跡土壙墓26 219



八坂中遺跡土壙墓26 220



八坂中遺跡土壙墓26 221



八坂中遺跡周溝墓 1 222



八坂中遺跡周溝墓 1 236



八坂中遺跡周溝墓 1 228



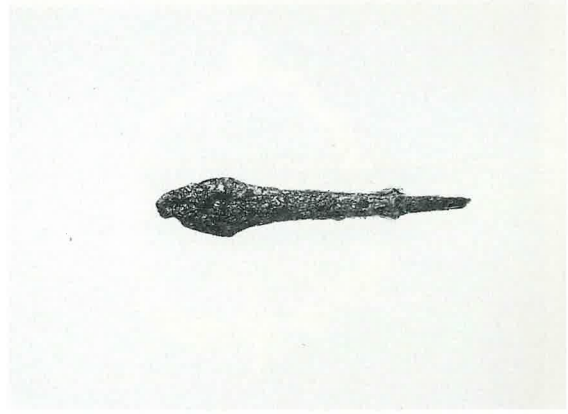
八坂中遺跡周溝墓 1 227



八坂中遺跡周溝墓 1 230



八坂中遺跡周溝墓 1 233



八坂中遺跡周溝墓 1 237



八坂中遺跡甕棺 1



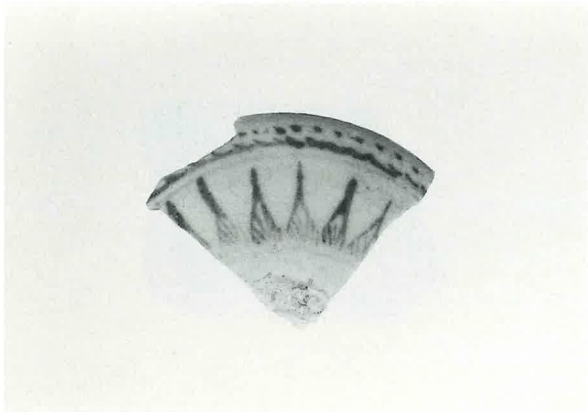
八坂中遺跡甕棺 3



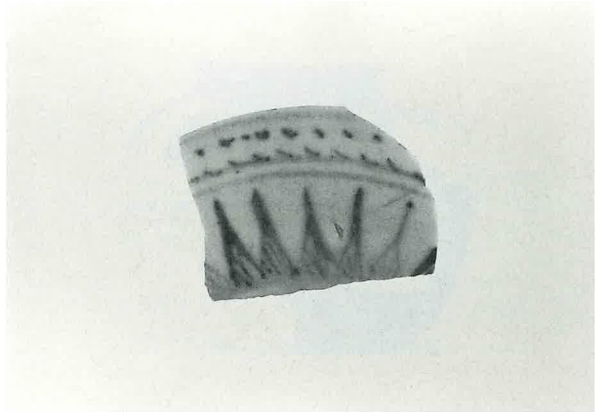
八坂中遺跡竪穴 2 256



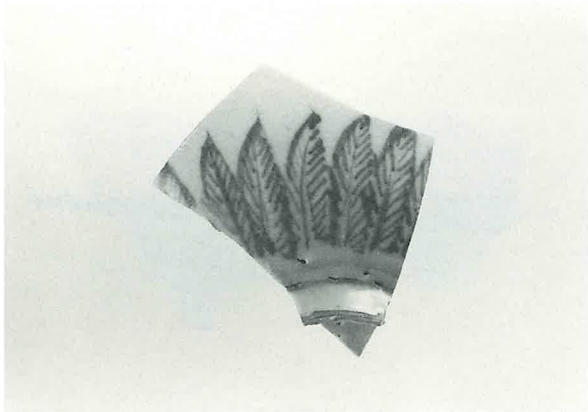
八坂中遺跡土壙 6 278



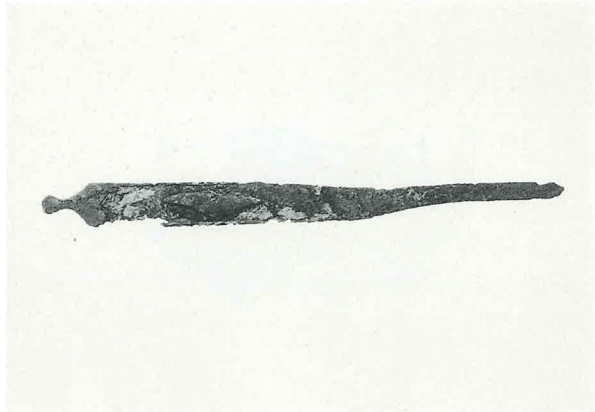
八坂中遺跡土壙 20 333



八坂中遺跡土壙 26 341



八坂中遺跡土壙 30 349



八坂中遺跡土壙 84 490



八坂中遺跡土壙 109 550



八坂中遺跡土壙 109 549



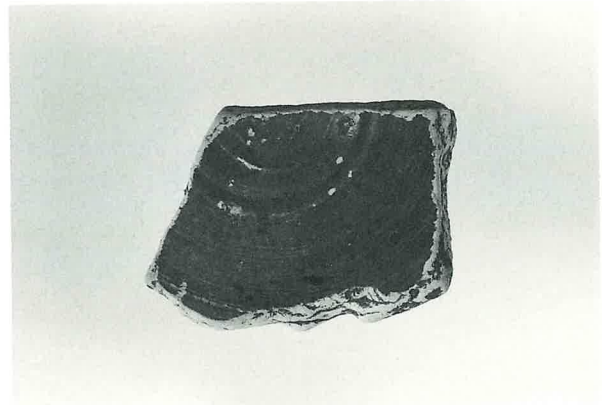
八坂中遺跡土壙116 563



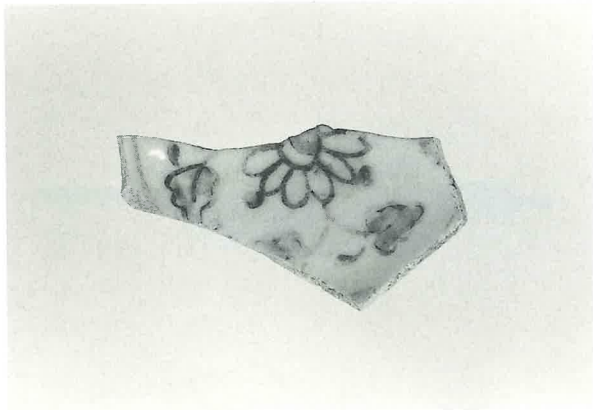
八坂中遺跡土壙116 564



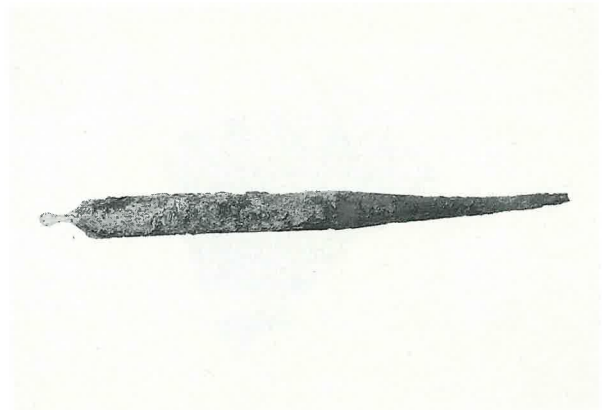
八坂中遺跡土壙121 575



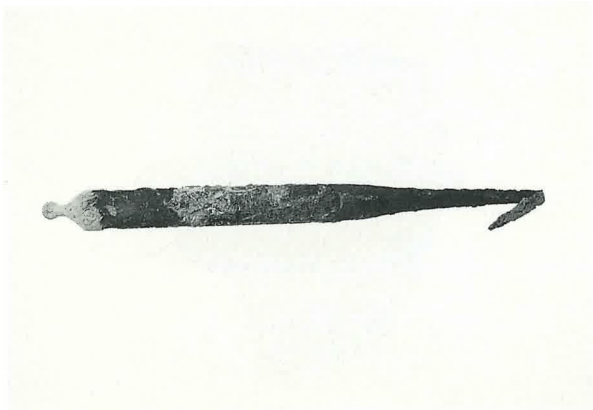
八坂中遺跡土壙132 1634



八坂中遺跡土壙157 678



八坂中遺跡土壙157 694



八坂中遺跡土壙157 695



八坂中遺跡土壙157 690



八坂中遺跡土壙 165 741



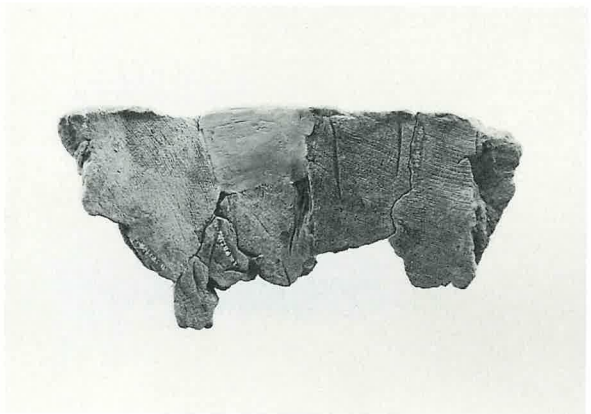
八坂中遺跡土壙 165 756



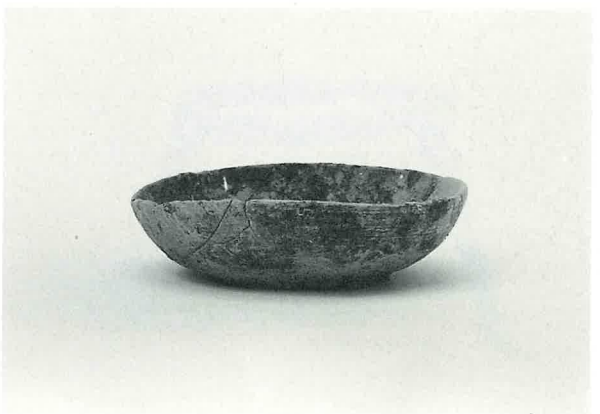
八坂中遺跡土壙 165 757



八坂中遺跡土壙 165 744



八坂中遺跡土壙 165 790



八坂中遺跡溝 1 899



八坂中遺跡溝 1 892



八坂中遺跡溝 1 936



八坂中遺跡溝 1 948



八坂中遺跡溝 1 926



八坂中遺跡溝 1 915



八坂中遺跡溝 1 927



八坂中遺跡溝 1 956



八坂中遺跡溝 1 973



八坂中遺跡溝 1 999



八坂中遺跡溝 1 992



八坂中遺跡溝 1 1006



八坂中遺跡溝 1 1007



八坂中遺跡溝 1 1009



八坂中遺跡溝 1 989



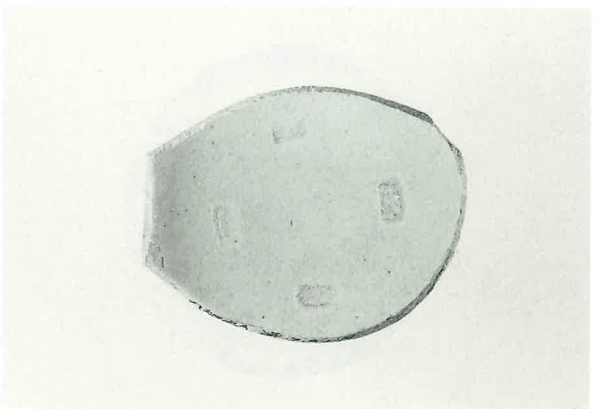
八坂中遺跡溝 1 1084



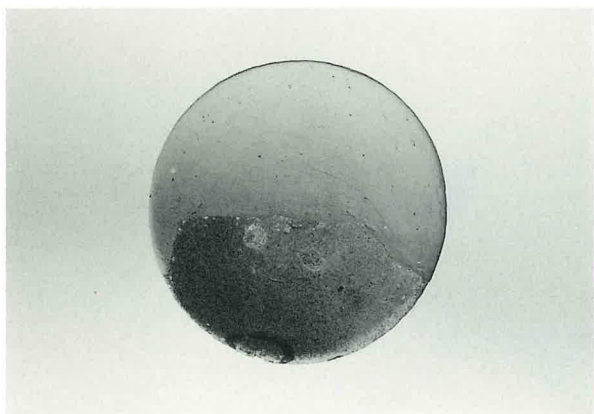
八坂中遺跡溝 5 1215



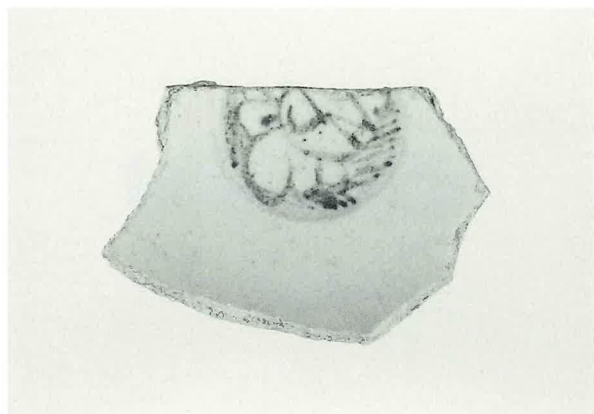
八坂中遺跡溝10 1321



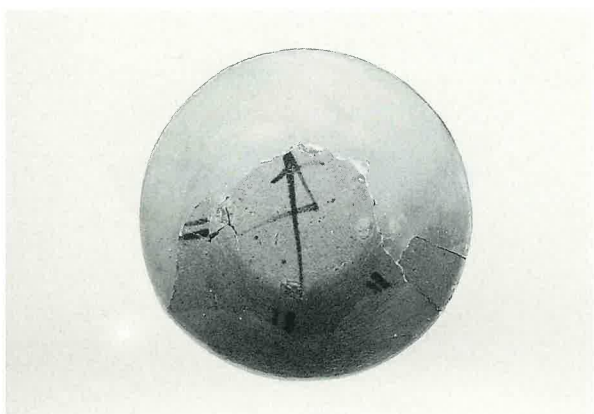
八坂中遺跡溝10 1325



八坂中遺跡溝10 1503



八坂中遺跡溝11 1351



八坂中遺跡溝11 1352



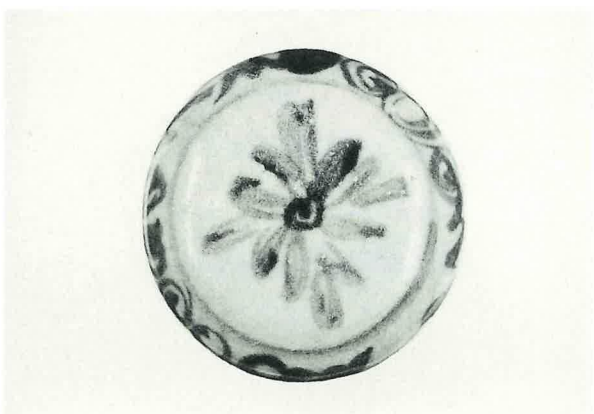
八坂中遺跡溝11 1372



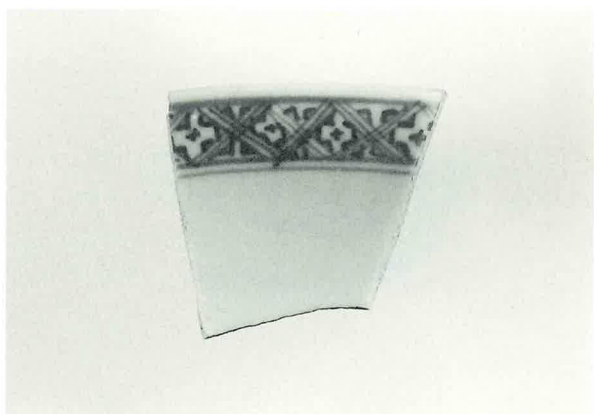
八坂中遺跡溝11 1368



八坂中遺跡溝11 1398



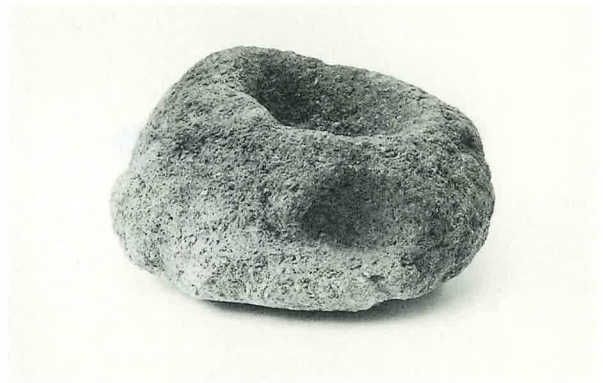
八坂中遺跡溝12 1462



八坂中遺跡溝12 1461(内面)



八坂中遺跡溝12 1461(外面)



八坂中遺跡溝12 1471



八坂中遺跡溝13 1296



八坂中遺跡溝13 1305



八坂中遺跡溝13 1302



八坂中遺跡溝13・溝15 1303



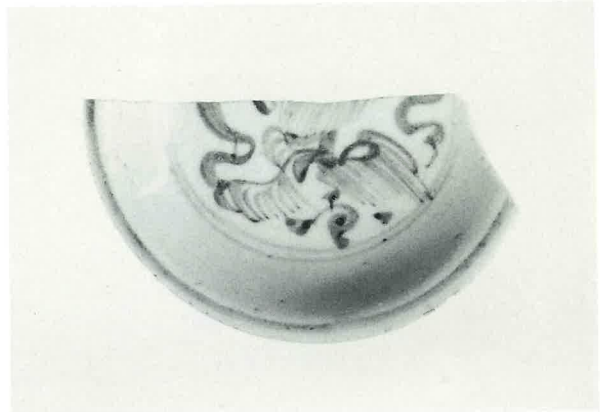
八坂中遺跡柱穴3 1595~1617



八坂中遺跡柱穴6 1621



八坂中遺跡柱穴 6 1620



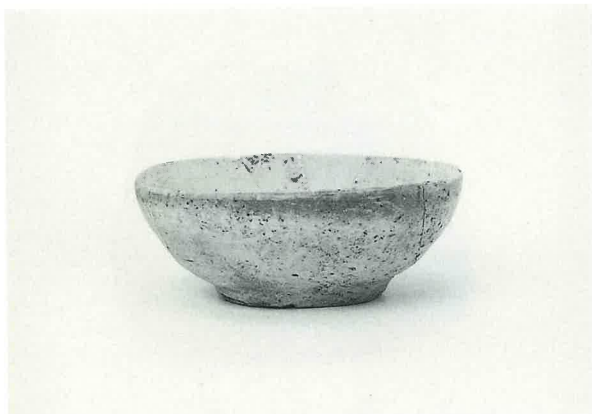
八坂中遺跡建物以外の柱穴 1745



八坂中遺跡建物以外の柱穴 1724



八坂中遺跡建物以外の柱穴 1728



八坂中遺跡建物以外の柱穴 1729



八坂中遺跡建物以外の柱穴 1727



八坂中遺跡建物以外の柱穴 1944



八坂中遺跡建物以外の柱穴 1748

大分県文化財調査報告書第150輯
八坂川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

八坂の遺跡Ⅱ
八坂中遺跡

2003（平成15）年3月31日

発行 大分県教育委員会
〒870-0021 大分県大分市府内町3-10-1

印刷 三恵印刷株式会社
〒870-0941 大分市下郡3055-8

